佐賀県文化財調査報告書第 203 集

西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（15）

中　原　遺　跡　Ⅷ

（第一分冊）

９区・10 区の調査と鍛冶関連遺物



２０１４年３月

佐賀県教育委員会



鏡山南麓に立地する中原遺跡

巻頭図版２



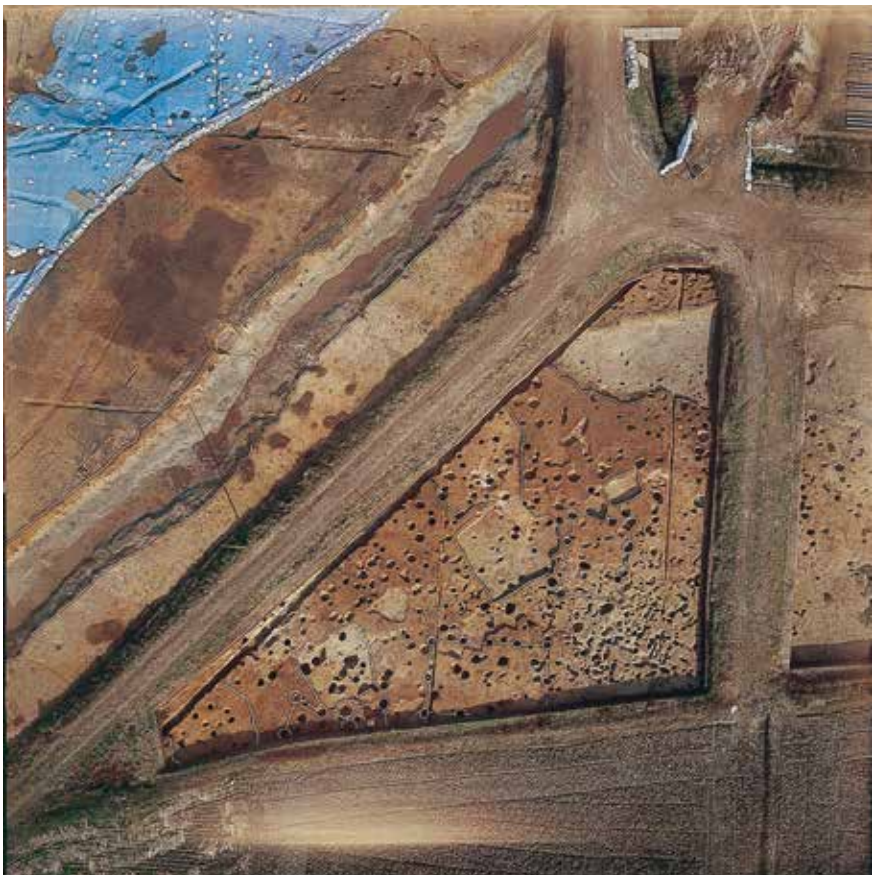
９区 全景空中写真



SD9001 溝跡遠景



10-1・10-2 区 全景空中写真



10-1 区 全景空中写真

巻頭図版 4



9-2 区 木組遺構群



粘土帯土器



花仙山産碧玉製勾玉未製品と碧玉片



81-3



81-4

破鏡と青銅製鋤先片



羽口群（古墳時代前期）



羽口群（奈良時代）

巻頭図版８



鉄鏃群



鍛冶関連石器群

佐賀県文化財調査報告書第 203 集

西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（15）

中　原　遺　跡　Ⅷ

（第一分冊）

９区・10 区の調査と鍛冶関連遺物

２０１４年３月

佐賀県教育委員会

序

この報告書は佐賀県教育委員会が国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委託をえて唐津市教育委員会の協力のもと平成13～17年度に実施した西九州自動車道唐津道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査の報告です。中原遺跡の８冊目で西九州自動車道建設に係る文化財発掘調査報告書では『古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡』につづく15冊目にあたります。

中原遺跡は弥生～平安時代前期までの複合遺跡で、各時代において重要な遺構・遺物が発見されました。弥生・古墳時代では甕棺墓群、墳丘墓、古墳、竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出され、青銅鏡をはじめ青銅製品や鉄製品、石製品、木製品などの多くの貴重な遺物が出土いたしました。

今回報告した９区では弥生時代後期の掘立柱建物や木組遺構・環状杭列群を、10区では弥生時代中、後期の竪穴住居や弥生時代中、後期と奈良時代の掘立柱建物を検出しました。また、弥生時代後期後半～古墳時代の鍛冶関連遺物は鉄製品の生産や羽口を使った高い技術の鍛冶であることがわかりました。

本書が今後の学術・文化向上に少しでも役立てば幸いに存じます。発刊にあたり多難な調査作業に従事していただいた地元の皆様、整理作業に従事していただいた調査事務所の方々並びに埋蔵文化財の保護に御理解頂きました佐賀国道事務所に対し、心より厚くお礼申しあげます。

平成26年3月20日

佐賀県教育委員会
教育長　　川　﨑　俊　広

例　言

1，本書は西九州自動車道唐津－浜玉道路建設に伴い平成 13 ～ 17 年度に実施した唐津市原所在の中原遺跡の発掘調査報告書であり、西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書の第 15 冊である。2 分冊の構成で、第一分冊は本文、挿図、表で、第二分冊は写真図版からなる。

2，発掘調査は国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の委託を受け、佐賀県教育委員会が主体となり唐津市教育委員会の協力を得て実施した。

3，本書の執筆分担は目次に記す。Ⅰ章、Ⅱ章、Ⅲ章は『中原遺跡Ⅲ』の同章をもとに加筆訂正した。

4，報告書作成にあたっての整理作業の遺物復元、遺物実測、製図、遺物写真撮影、写真現像焼付、編集は唐津中原事務所で行った。主な作業分担は次のとおりである。

遺物復元整理……桑代ゆかり・徳田まり子・松本いつ子・脇山邦子

遺物実測・製図…大薗聖子・美浦あずさ・山浦美香（唐津中原事務所）一番ヶ瀬富士子・江島美恵子・桑原廣子・山口美佐子（文化財調査研究資料室）

遺物写真撮影……小松譲・古藤真理子

写真現像焼付……古藤真理子

写真整理・事務…樋口令子・松本綾子

5，遺構実測は一部作業員の補助のもとに調査員が行い、(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。空中写真は(有)空中写真企画に委託した。遺構のデジタルトレースは(有)とっぺんに委託した。遺物実測の一部を(株)埋蔵文化財サポートシステムに委託した。

6，発掘調査、遺物整理に際して下記の方々から指導・助言を得た。

村上恭通・土屋了介・宮崎敬士・大澤正己・蒲原宏行・久住猛雄・重藤輝行・溝口孝司・丹羽崇史・森貴教(順不同)

7，本書の編集は服部瑞輝・立石和也の協力のもと小松譲が行った。

凡　例

1，遺跡の略号は下記のとおりである。

中原遺跡（ＮＡＫ）

2，遺構種別記号は次のとおりである。

ＳＨ：竪穴住居、ＳＢ：掘立柱建物、ＳＫ：土坑、ＳＤ：溝、ＳＸ：木組遺構、ＳＡ：環状杭列

ＳＪ：甕棺

3，各遺構番号は（遺構種別記号－番号）で連番とした。本書でも発掘調査時の遺構番号を原則的にそのまま用いた。遺構番号の下 4 桁、5 桁は調査区を示す。

4，本書に掲載した遺物番号は挿図ごとに連番として本文中では挿図番号－遺物番号で表記した。写真図版遺物も同じである。

5，本書に用いた方位はすべて国土座標第Ⅱ系の座標北である。

6，遺物および実測図の検索・照合のため、実測遺物全てに県遺物登録番号を付け表に付記した。

7，遺構・遺物写真、遺構・遺物実測図は佐賀県文化財調査研究資料室に保管する。

目　次（第一分冊）

Ⅰ．調査の経過 …… 1
1，調査に至る経過 …… 1
2，調査組織 …… 3
3，調査の方法と経過 …… 10
⑴　調査の方法 …… 10
⑵　調査の経過 …… 10

Ⅱ．遺跡の位置と環境 …… 17
1，地理的環境 …… 17
2，歴史的環境 …… 20

Ⅲ．調査の概要 …… 27
1，中原遺跡の調査歴 …… 27
2，遺跡の概要 …… 27
3，9-2 区・9-3 区・10 区の概要（小松） …… 34

Ⅳ．9-2 区・9-3 区の遺構と遺物 …… 39
1，遺構（吉野、小松）…… 39
⑴　掘立柱建物跡 …… 39
⑵　土坑 …… 51
⑶　木組遺構・環状杭列 …… 64
⑷　甕棺墓 …… 72
⑸　溝跡 …… 72
2，遺物 …… 78
⑴　土器 …… 78
①遺構出土土器（小松）…… 78
②甕棺（小松）…… 85
③包含層出土土器（服部）…… 89
⑵　土製品（服部）…… 124
⑶　石器・石製品（服部、小松）…… 124
⑷　青銅製品（小松）…… 128
⑸　木製品（服部）…… 131
⑹　鍛冶関連遺物（小松）…… 144
①羽口 …… 144
②鉄滓 …… 145

Ⅴ．10区の遺構と遺物 …… 177
1，遺構（伊達、小松） …… 177
⑴ 竪穴住居跡 …… 177
⑵ 掘立柱建物跡 …… 185
⑶ 土坑 …… 195
2，遺物 …… 195
⑴ 土器（伊達、小松） …… 195
⑵ 土製品（服部） …… 202
⑶ 石器（服部） …… 202
⑷ 鍛冶関連遺物（小松） …… 208
①羽口 …… 208
②鉄滓 …… 208

Ⅵ．12区の甕棺墓（小松） …… 218
1，概要 …… 218
2，遺構 …… 218
3，遺物 …… 218

Ⅶ．11区、12区、13区の出土遺物 …… 225
1，包含層出土遺物 …… 225
⑴ 土器 …… 225
① 11区出土土器（立石） …… 225
② 12区出土土器（服部） …… 256
③ 13区出土土器（服部） …… 256
2，鉄製品、鍛冶関連遺物 …… 264
⑴ 鉄製品（土屋） …… 264
⑵ 鉄片（土屋） …… 283
① 12区竪穴住居出土鉄片 …… 287
② 12区竪穴住居以外出土鉄片 …… 294
③ 11区出土鉄片 …… 300
⑶ 鉄滓（小松） …… 323
⑷ 羽口（小松） …… 332

Ⅷ．総括 …… 384
1，中原遺跡の弥生時代後期後半～古墳時代前期の集落と墳墓（小松） …… 384
2，中原遺跡出土の弥生時代終末～古墳時代前期の鍛冶関連遺物（小松） …… 400
3，中原遺跡出土鉄製品・鉄片に関するまとめ（土屋） …… 422
4，中原遺跡出土の鉄製品・鉄素材・鉄塊について（村上） …… 438

挿図目次

図－１　路線図(1/50,000)…… 2
図－２　遺跡位置図…… 17
図－３　旧海岸線・砂丘列地形分類図
(1/100,000) …… 18
図－４　周辺遺跡分布図(1/70,000)…… 21
図－５　主要遺跡分布図(1/50,000)…… 24
図－６　調査区位置図(1/6,000) …… 28
図－７　中原遺跡全調査区遺構配置図
(1/2,000) …… 29・30
図－８　中原遺跡全景…… 32
図－９　遺跡概略(1/6,000) …… 33
図－10　9区・10区遺構配置図(1/500) …… 35・36
図－11　9区遺構配置図(1/400)…… 37・38
図－12　SB9029掘立柱建物跡(1/60) …… 41
図－13　SB9049・9050掘立柱建物跡
(1/60)…… 42
図－14　SB9051・9052掘立柱建物跡
(1/60)…… 43
図－15　SB9053・9054掘立柱建物跡
(1/60)…… 44
図－16　SB9055・9057掘立柱建物跡
(1/60)…… 45
図－17　SB9058・9059掘立柱建物跡
(1/60)…… 46
図－18　SB9060・9061掘立柱建物跡
(1/60)…… 48
図－19　SB9062・9063掘立柱建物跡
(1/60)…… 49
図－20　SB9064・9065掘立柱建物跡
(1/60)…… 50
図－21　SB9066・9067掘立柱建物跡
(1/60)…… 52
図－22　SB9069・9081掘立柱建物跡
(1/60)…… 53
図－23　SK9003・9025土坑(1/40) …… 54
図－24　SK9037・9044土坑(1/30) …… 55
図－25　SK9068土坑(1/30) …… 57
図－26　SK9072土坑(1/30) …… 58
図－27　SK9077土坑(1/30) …… 59
図－28　SK9080土坑・P88柱穴
(1/30、1/20) …… 60
図－29　SK9017土坑(1/6)…… 61
図－30　木組遺構配置図1(1/150) …… 62
図－31　木組遺構配置図2(1/150) …… 63
図－32　SX9033・9034木組遺構(1/30) …… 65
図－33　SX9035・9041木組遺構(1/30) …… 66
図－34　SX9045・9046木組遺構(1/30) …… 68
図－35　SX9047・9048木組遺構(1/30) …… 69
図－36　SX9070・9071木組遺構(1/30) …… 70
図－37　SX9076木組遺構・SA9073・9074
環状杭列(1/30)…… 73
図－38　SA9075・9083環状杭列(1/30) …… 74
図－39　SA9084・9085環状杭列(1/30) …… 75
図－40　SA9086環状杭列・SJ9009甕棺墓
(1/30)…… 76
図－41　SD9001・9002溝跡土層(1/40) …… 77
図－42　SB9029・9058・SK9003・9025
出土土器(1/3) …… 80
図－43　SK9025出土土器(1/3) …… 81
図－44　SK9025・9037出土土器(1/3)…… 82
図－45　SK9044・9068・9072出土土器
(1/3) …… 83
図－46　SK9077・9080出土土器(1/3)…… 84
図－47　SD9001出土土器(1/3)…… 86
図－48　SD9002・9021出土土器(1/3)…… 87
図－49　SJ9009甕棺(1/6) …… 88
図－50　9区包含層他出土土器1(1/3) …… 90
図－51　9区包含層他出土土器2(1/3) …… 91
図－52　9区包含層他出土土器3(1/3) …… 92
図－53　9区包含層他出土土器4(1/3) …… 94
図－54　9区包含層他出土土器5(1/3) …… 95
図－55　9区包含層他出土土器6(1/3) …… 96

図－56　9区包含層他出土土器7(1/3) …… 97
図－57　9区包含層他出土土器8(1/3) …… 98
図－58　9区包含層他出土土器9(1/3) …… 100
図－59　9区包含層他出土土器10(1/3)…… 101
図－60　9区包含層他出土土器11(1/3)…… 103
図－61　9区包含層他出土土器12(1/3)…… 104
図－62　9区包含層他出土土器13(1/3)…… 105
図－63　9区包含層他出土土器14(1/4)…… 106
図－64　9区包含層他出土土器15
(1/4、1/3)…… 108
図－65　9区包含層他出土土器16(1/3)…… 109
図－66　9区包含層他出土土器17(1/3)…… 110
図－67　9区包含層他出土土器18(1/3)…… 113
図－68　9区包含層他出土土器19(1/3)…… 114
図－69　9区包含層他出土土器20(1/3)…… 115
図－70　9区包含層他出土土器21(1/3)…… 116
図－71　9区包含層他出土土器22(1/3)…… 117
図－72　9区包含層他出土土器23(1/3)…… 118
図－73　9区包含層他出土土器24(1/3)…… 120
図－74　9区包含層他出土土器25(1/3)…… 121
図－75　9区包含層他出土土器26(1/3)…… 122
図－76　9区包含層他出土土器・土製品27
(1/3)…… 123
図－77　9区包含層他出土石器1(1/3) …… 125
図－78　9区包含層他出土石器2
(1/3、1/4)…… 126
図－79　9区包含層他出土石器3
(1/3、1/4)…… 127
図－80　9区包含層他出土石器4
(1/1、1/3)…… 129
図－81　9区・12区包含層他出土石製品・
青銅製品(1/1、2/3)…… 130
図－82　9区包含層他出土木製品1(1/4) …… 133
図－83　9区包含層他出土木製品2(1/3) …… 134
図－84　9区包含層他出土木製品3
(1/3、1/4)…… 135
図－85　9区包含層他出土木製品4(1/4) …… 136
図－86　9区包含層他出土木製品5(1/3) …… 137
図－87　9区包含層他出土木製品6(1/6) …… 138
図－88　9区包含層他出土木製品7(1/6) …… 139
図－89　9区包含層他出土木製品8
(1/3、1/4)…… 140
図－90　9区包含層他出土木製品9(1/4) …… 141
図－91　9区包含層他出土木製品10
(1/3、1/4)…… 142
図－92　9区包含層他出土木製品11
(1/3、1/4、1/6) …… 143
図－93　9区包含層他出土羽口(1/3)…… 146
図－94　9区包含層他出土羽口・椀形滓
(1/3) …… 147
図－95　10-1区遺構配置図(1/250) …… 178
図－96　10-2区遺構配置図(1/250) …… 179・180
図－97　SH1004竪穴住居跡(1/60) …… 181
図－98　SH1006竪穴住居跡(1/60) …… 182
図－99　SH1009竪穴住居跡(1/60) …… 183
図－100 SH1012竪穴住居跡(1/60) …… 184
図－101 SB1002掘立柱建物跡(1/60) …… 186
図－102 SB1003掘立柱建物跡(1/60) …… 187
図－103 SB1005掘立柱建物跡(1/80) …… 188
図－104 SB1007掘立柱建物跡(1/80) …… 189
図－105 SB1008掘立柱建物跡(1/80) …… 190
図－106 SB1010掘立柱建物跡(1/40) …… 192
図－107 SB1011・1013掘立柱建物跡
(1/60)…… 193
図－108 SB1015・1017掘立柱建物跡
(1/60) …… 194
図－109 SK1001土坑(1/30) …… 196
図－110 SK1014土坑(1/40) …… 197
図－111 SK1016土坑(1/40) …… 198
図－112 SH1004・1006・1009出土土器
(1/3) …… 199
図－113 SH1012出土土器(1/3)…… 200
図－114 SH1012・SB1003・1007・1008
1011出土土器(1/3) …… 203
図－115 SK1001・1014出土土器(1/3) …… 204
図－116 SK1014・1016・10区包含層他
出土土器(1/3、1/4)…… 205
図－117 10区包含層他出土土器・土製品・

石器(1/3、1/4)…… 206
図－118 10区包含層他出土石器(1/4) …… 207
図－119 SK1014出土羽口(1/3)…… 209
図－120 SK1014出土椀形滓(1/3)…… 210
図－121 甕棺配置図(1/100)…… 219･220
図－122 SJ12058･12090甕棺墓(1/30) …… 221
図－123 12区出土甕棺1(1/6)…… 222
図－124 12区出土甕棺2(1/6)…… 223
図－125 11区包含層他出土土器1(1/3)…… 226
図－126 11区包含層他出土土器2(1/3)…… 227
図－127 11区包含層他出土土器3(1/3)…… 228
図－128 11区包含層他出土土器4(1/3)…… 229
図－129 11区包含層他出土土器5(1/3)…… 230
図－130 11区包含層他出土土器6
(1/3、1/4)…… 232
図－131 11区包含層他出土土器7(1/3)…… 233
図－132 11区包含層他出土土器8(1/3)…… 235
図－133 11区包含層他出土土器9(1/3)…… 236
図－134 11区包含層他出土土器10(1/3) …… 237
図－135 11区包含層他出土土器11(1/3) …… 238
図－136 11区包含層他出土土器12(1/3) …… 240
図－137 11区包含層他出土土器13(1/3) …… 241
図－138 11区包含層他出土土器14(1/3) …… 242
図－139 11区包含層他出土土器15(1/3) …… 244
図－140 11区包含層他出土土器16(1/3) …… 245
図－141 11区包含層他出土土器17(1/3) …… 246
図－142 11区包含層他出土土器18(1/3) …… 249
図－143 11区包含層他出土土器19(1/3) …… 250
図－144 11区包含層他出土土器20(1/3) …… 251
図－145 11区包含層他出土土器21(1/3) …… 252
図－146 11区包含層他出土土器22(1/3) …… 253
図－147 11区包含層他出土土器23(1/3) …… 255
図－148 12区包含層他出土土器1
(1/3、1/4)…… 257
図－149 12区包含層他出土土器2(1/3)…… 258
図－150 13区包含層他出土土器1(1/3)…… 259
図－151 13区包含層他出土土器2(1/3)…… 261
図－152 13区包含層他出土土器3(1/3)…… 262
図－153 13区包含層他出土土器4(1/3)…… 263
図－154 13区包含層他出土土器5(1/3)…… 265
図－155 12区出土鉄製品(2/3) …… 267
図－156 11区･12区出土鉄製品1(2/3) …… 269
図－157 11区･12区出土鉄製品2(2/3) …… 271
図－158 11区･12区出土鉄製品3(2/3) …… 273
図－159 11区出土鉄製品(2/3) …… 274
図－160 11区･12区出土鉄製品1(2/3) …… 276
図－161 11区･12区出土鉄製品2(2/3) …… 277
図－162 11区･12区出土鉄製品3(2/3) …… 278
図－163 11区･12区出土鉄製品4(2/3) …… 280
図－164 11区･12区出土鉄製品5(2/3) …… 281
図－165 11区･12区出土鉄製品6(2/3) …… 282
図－166 11区･12区出土鉄製品7(2/3) …… 284
図－167 11区･12区出土鉄製品8(2/3) …… 285
図－168 11区･12区出土鉄製品9(2/3) …… 286
図－169 12区竪穴住居跡出土鉄片1
(2/3)…… 288
図－170 12区竪穴住居跡出土鉄片2
(2/3)…… 289
図－171 12区竪穴住居跡出土鉄片3
(2/3)…… 290
図－172 12区竪穴住居跡出土鉄片4
(2/3)…… 291
図－173 12区竪穴住居跡出土鉄片5
(2/3)…… 292
図－174 12区竪穴住居跡出土鉄片6
(2/3)…… 293
図－175 12区竪穴住居跡出土鉄片7
(2/3)…… 295
図－176 12区竪穴住居跡出土鉄片8
(2/3)…… 296
図－177 12区竪穴住居跡出土鉄片9
(2/3)…… 297
図－178 12区竪穴住居跡出土鉄片10
(2/3)…… 298
図－179 12区SH以外の遺構出土鉄片1
(2/3)…… 299
図－180 12区SH以外の遺構出土鉄片2
(2/3)…… 301

図－181 12区SH以外の遺構出土鉄片3 (2/3)…… 302
図－182 12区SH以外の遺構出土鉄片4 (2/3)…… 303
図－183 12区SH以外の遺構出土鉄片5 (2/3)…… 304
図－184 12区SH以外の遺構出土鉄片6 (2/3)…… 305
図－185 12区SH以外の遺構出土鉄片7 (2/3)…… 306
図－186 12区SH以外の遺構出土鉄片8 (2/3)…… 307
図－187 12区SH以外の遺構出土鉄片9 (2/3)…… 308
図－188 12区SH以外の遺構出土鉄片10 (2/3)…… 309
図－189 12区SH以外の遺構出土鉄片11 (2/3)…… 310
図－190 12区SH以外の遺構出土鉄片12 (2/3)…… 311
図－191 12区SH以外の遺構出土鉄片13 (2/3)…… 312
図－192 12区SH以外の遺構出土鉄片14 (2/3)…… 313
図－193 12区SH以外の遺構出土鉄片15 (2/3)…… 314
図－194 11区出土鉄片1(2/3)…… 315
図－195 11区出土鉄片2(2/3)…… 316
図－196 11区出土鉄片3(2/3)…… 317
図－197 11区出土鉄片4(2/3)…… 319
図－198 11区出土鉄片5(2/3)…… 320
図－199 11区出土鉄片6(2/3)…… 321
図－200 12区出土鉄滓1(2/3)…… 325
図－201 12区出土鉄滓2(2/3)…… 326
図－202 11区出土鉄滓1(2/3)…… 327
図－203 11区出土鉄滓2(2/3)…… 328
図－204 11区出土鉄滓3(2/3)…… 329
図－205 11区出土鉄滓4(2/3)…… 330
図－206 11区出土鉄滓5(2/3)…… 331
図－207 11区出土羽口(2/3) …… 333
図－208 ９区掘立柱建物群構成(1/400)… 385･386
図－209 集落変遷図(1/1,000)…… 389･390
図－210 墳丘墓と竪穴建物…… 392
図－211 墳丘墓に付随する竪穴建物類例(1/400) …… 394
図－212 区画墓類例…… 396
図－213 中原遺跡SK13196出土古式陶質土器と共伴土器…… 396
図－214 山陰地方の影響がみられる遺物…… 398
図－215 鍛冶関連遺物出土状況(1/1,000)…… 401･402
図－216 国内出土の古墳時代初頭～前期の羽口1(1/4) …… 405
図－217 国内出土の古墳時代初頭～前期の羽口2(1/4) …… 406
図－218 羽口(1/4) …… 407
図－219 羽口分類…… 408
図－220 工房群出土鉄製品・鉄片組成…… 410
図－221 工房個別の鉄片組成…… 411
図－222 鍛冶関連遺物組成図1(1/3)…… 412
図－223 鍛冶関連遺物組成図2(1/3)…… 413
図－224 鍛冶関連遺物組成図3(1/3)…… 414
図－225 鍛冶関連遺物組成図4(1/3)…… 415
図－226 鍛冶関連遺物組成図5(1/3)…… 416
図－227 鍛冶関連遺物組成図6(1/3)…… 417
図－228 鍛冶関連遺物組成図7(1/3)…… 418
図－229 鍛冶関連遺物組成図8(1/3)…… 419
図－230 竪穴住居跡出土三角形鉄片の寸法の比較…… 432
図－231 中原遺跡出土鉄製品(1/2)…… 439

表 目 次

表－１　調査経過表…… 9
表－２　調査担当者一覧表…… 9
表－３　中原遺跡各調査区調査期間・担当者一覧…… 9
表－４　中原遺跡報告書掲載地区一覧表…… 15
表－５　西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書一覧…… 16
表－６　９区掘立柱建物跡一覧表…… 148
表－７　９区土坑一覧表…… 149
表－８　９区木組遺構・環状杭列一覧表 …… 149
表－９　９区出土甕棺墓一覧表…… 149
表－10　９区掘立柱建物跡出土土器一覧表…… 150
表－11　９区土坑出土土器一覧表(１) …… 150
表－12　９区土坑出土土器一覧表(２) …… 151
表－13　９区土坑出土土器一覧表(３) …… 152
表－14　９区土坑出土土器一覧表(４) …… 153
表－15　９区溝状遺構出土土器一覧表(１) … 153
表－16　９区溝状遺構出土土器一覧表(２) … 154
表－17　９区溝状遺構出土土器一覧表(３) … 155
表－18　９区出土甕棺一覧表…… 155
表－19　９区包含層他出土土器一覧表(１) … 155
表－20　９区包含層他出土土器一覧表(２) … 156
表－21　９区包含層他出土土器一覧表(３) … 157
表－22　９区包含層他出土土器一覧表(４) … 158
表－23　９区包含層他出土土器一覧表(５) … 159
表－24　９区包含層他出土土器一覧表(６) … 160
表－25　９区包含層他出土土器一覧表(７) … 161
表－26　９区包含層他出土土器一覧表(８) … 162
表－27　９区包含層他出土土器一覧表(９) … 163
表－28　９区包含層他出土土器一覧表(10) … 164
表－29　９区包含層他出土土器一覧表(11) … 165
表－30　９区包含層他出土土器一覧表(12) … 166
表－31　９区包含層他出土土器一覧表(13) … 167
表－32　９区包含層他出土土器一覧表(14) … 168
表－33　９区包含層他出土土器一覧表(15) … 169
表－34　９区包含層他出土土器一覧表(16) … 170
表－35　９区包含層他出土土器一覧表(17) … 171
表－36　９区包含層他出土土器一覧表(18) … 172
表－37　９区包含層他出土土製品一覧表(１) …… 172
表－38　９区包含層他出土土製品一覧表(２) …… 173
表－39　９区包含層他出土石器・石製品一覧表(１) …… 173
表－40　９区包含層他出土石器・石製品一覧表(２) …… 174
表－41　９区包含層他出土青銅製品一覧表… 174
表－42　９区包含層他出土木製品一覧表(１) …… 175
表－43　９区包含層他出土木製品一覧表(２) …… 176
表－44　９区包含層他出土鍛冶関連遺物一覧表…… 176
表－45　10区竪穴住居跡一覧表…… 211
表－46　10区掘立柱建物跡一覧表…… 211
表－47　10区土坑一覧表…… 211
表－48　10区竪穴住居跡出土土器一覧表(１) …… 212
表－49　10区竪穴住居跡出土土器一覧表(２) …… 213
表－50　10区掘立柱建物跡出土土器一覧表(１) …… 213
表－51　10区掘立柱建物跡出土土器一覧表(２) …… 214
表－52　10区土坑出土土器一覧表(１) …… 214
表－53　10区土坑出土土器一覧表(２) …… 215
表－54　10区包含層他出土土器一覧表(１) … 215
表－55　10区包含層他出土土器一覧表(２) … 216
表－56　10区包含層他出土土製品一覧表…… 216
表－57　10区包含層他出土石器一覧表…… 217
表－58　10区鍛冶関連遺物一覧表…… 217

表－59　12区出土甕棺墓一覧表…… 224
表－60　12区出土甕棺一覧表…… 224
表－61　11区包含層他出土土器一覧表(１) … 334
表－62　11区包含層他出土土器一覧表(２) … 335
表－63　11区包含層他出土土器一覧表(３) … 336
表－64　11区包含層他出土土器一覧表(４) … 337
表－65　11区包含層他出土土器一覧表(５) … 338
表－66　11区包含層他出土土器一覧表(６) … 339
表－67　11区包含層他出土土器一覧表(７) … 340
表－68　11区包含層他出土土器一覧表(８) … 341
表－69　11区包含層他出土土器一覧表(９) … 342
表－70　11区包含層他出土土器一覧表
(10) …… 343
表－71　11区包含層他出土土器一覧表
(11) …… 344
表－72　11区包含層他出土土器一覧表
(12) …… 345
表－73　11区包含層他出土土器一覧表
(13) …… 346
表－74　11区包含層他出土土器一覧表
(14) …… 347
表－75　11区包含層他出土土器一覧表
(15) …… 348
表－76　12区包含層他出土土器一覧表(１) … 349
表－77　12区包含層他出土土器一覧表(２) … 350
表－78　13区包含層他出土土器一覧表(１) … 350
表－79　13区包含層他出土土器一覧表(２) … 351
表－80　13区包含層他出土土器一覧表(３) … 352
表－81　13区包含層他出土土器一覧表(４) … 353
表－82　11区・12区出土鉄製品一覧表(１)…… 354
表－83　11区・12区出土鉄製品一覧表(２)…… 355
表－84　11区・12区出土鉄製品一覧表(３)…… 356
表－85　11区・12区出土鉄製品一覧表(４)…… 357
表－86　11区・12区出土鉄製品一覧表(５)…… 358
表－87　11区・12区出土鉄製品一覧表(６)…… 359
表－88　12区竪穴住居出土鉄片一覧表(１) … 360
表－89　12区竪穴住居出土鉄片一覧表(２) … 361
表－90　12区竪穴住居出土鉄片一覧表(３) … 362
表－91　12区竪穴住居出土鉄片一覧表(４) … 363
表－92　12区竪穴住居出土鉄片一覧表(５) … 364
表－93　12区竪穴住居出土鉄片一覧表(６) … 365
表－94　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(１) …… 365
表－95　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(２) …… 366
表－96　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(３) …… 367
表－97　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(４) …… 368
表－98　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(５) …… 369
表－99　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(６) …… 370
表－100　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(７) …… 371
表－101　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(８) …… 372
表－102　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(９) …… 373
表－103　12区竪穴住居以外出土鉄片
一覧表(10) …… 374
表－104　11区出土鉄片一覧表(１) …… 374
表－105　11区出土鉄片一覧表(２) …… 375
表－106　11区出土鉄片一覧表(３) …… 376
表－107　11区出土鉄片一覧表(４) …… 377
表－108　11・12・13区出土鍛冶関連遺物
一覧表(１) …… 377
表－109　11・12・13区出土鍛冶関連遺物
一覧表(２) …… 378
表－110　11・12・13区出土鍛冶関連遺物
一覧表(３) …… 379
表－111　12区出土未実測鉄片一覧表
(１) …… 380
表－112　12区出土未実測鉄片一覧表
(２) …… 381
表－113　12区出土未実測鉄片一覧表
(３) …… 382
表－114　12区出土未実測鉄片一覧表

(4) …… 383
表－115 工房群（竪穴住居）出土鍛冶関連遺物
組成表…… 420
表－116 鉄器一覧表…… 438

巻頭図版目次

1，鏡山南麓に立地する中原遺跡…… 巻頭図版１
2，９区全景空中写真…… 巻頭図版２
SD9001 溝跡遠景…… 巻頭図版２
3，10-1・10-２区全景空中写真…… 巻頭図版３
10-1区全景空中写真…… 巻頭図版３
4，9-２区木組遺構群…… 巻頭図版４
5，粘土帯土器…… 巻頭図版５
花仙山産碧玉製勾玉未製品と
碧玉片…… 巻頭図版５
6，破鏡と青銅製鋤先片…… 巻頭図版６
7，羽口群（古墳時代前期）…… 巻頭図版７
羽口群（奈良時代）…… 巻頭図版７
8，鉄鏃群…… 巻頭図版８
鍛冶関連石器群…… 巻頭図版８

図版目次
（第二分冊）

PL.1 1. 9-2区 全景（東上空から）…… 1
2. 9-2区 空中写真１（真上から）…… 1
PL.2 1. 9-2区 空中写真２（真上から）…… 2
2. 9-2区 空中写真３（真上から）…… 2
PL.3 1. SB9029 完掘状況（北から）…… 3
2. SB9029 P3 …… 3
3. SB9029 P6 …… 3
4. SB9029 P8 …… 3
5. SB9029 P9 …… 3
PL.4 1. SB9049（北から）…… 4
2. SB9049 P1 …… 4
3. SB9049 P2 …… 4
4. SB9049 P3 …… 4
5. SB9049 P4 …… 4
PL.5 1. SB9050（北から）…… 5
2. SB9050 P1 …… 5
3. SB9050 P2 …… 5
4. SB9050 P3 …… 5
5. SB9050 P4 …… 5
PL.6 1. SB9051（北から）…… 6
2. SB9051 P1 …… 6
3. SB9051 P2 …… 6
4. SB9051 P3 …… 6
5. SB9051 P4 …… 6
PL.7 1. SB9052（北から）…… 7
2. SB9053（北から）…… 7
3. SB9053 P4 …… 7
PL.8 1. SB9054（北から）…… 8
2. SB9054 P1 …… 8
3. SB9054 P2 …… 8
4. SB9054 P3 完掘状況 …… 8
5. SB9054 P4 …… 8
PL.9 1. SB9055（南から）…… 9
2. SB9055 P3 …… 9
3. SB9057 完掘状況 …… 9
PL.10 1. SB9058（南から）…… 10

2. SB9058 P1 …… 10
3. SB9058 P3 …… 10
4. SB9058 P4 …… 10
5. SB9060 …… 10
PL.11 1. SB9061 …… 11
2. SB9062（南から）…… 11
3. SB9062 P1 …… 11
4. SB9062 P2 …… 11
5. SB9062 P3 …… 11
6. SB9062 P4 …… 11
PL.12 1. SB9063（南から）…… 12
2. SB9063 P1 …… 12
3. SB9063 P2 …… 12
4. SB9063 P3 …… 12
5. SB9063 P4 …… 12
PL.13 1. SB9064（北西から）…… 13
2. SB9064 P1 …… 13
3. SB9064 P2 …… 13
4. SB9064 P4 …… 13
5. SB9064 P5 …… 13
PL.14 1. SB9065（東から）…… 14
2. SB9065 P1 …… 14
3. SB9065 P2 …… 14
4. SB9065 P3 …… 14
5. SB9065 P8 …… 14
6. SB9065 P9 …… 14
PL.15 1. SB9066（北西から）…… 15
2. SB9066 P1 …… 15
3. SB9066 P2 …… 15
4. SB9066 P4 …… 15
5. SB9067（南から）…… 15
6. SB9067 P2 …… 15
PL.16 1. SB9069（南から）…… 16
2. SB9081（北から）…… 16
3. SB9081 P1 …… 16
4. SB9081 P2 …… 16
5. SB9081 P3 完掘状況 ……16
6. SB9081 P4 …… 16
PL.17 1. SK9003 完掘状況（西から）…… 17
2. SK9025（南から）……17
3. SK9037 完掘状況（東から）……17
PL.18 1. SK9037 土層（西から）…… 18
2. SK9044 完掘状況（西から）…… 18
3. SK9044 土層（西から）…… 18
PL.19 1. SK9068 完掘状況（南西から）…… 19
2. SK9068 土層（西から）…… 19
3. SK9072 完掘状況（東から）…… 19
PL.20 1. SK9077 完掘状況（東から）…… 20
2. SK9077 土層（南から）…… 20
3. SK9080 完掘状況（南から）…… 20
PL.21 1. SK9080 土層（南から）…… 21
2. P88周辺（南から）…… 21
3. P88土層（北から）…… 21
PL.22 1. 9-2区 木組遺構群1（西から）…… 22
2. 9-2区 木組遺構群2（西から）…… 22
3. 9-2区 環状杭列群（真上から）…… 22
PL.23 1. SX9033（北から）……23
2. SX9034（南から）…… 23
3. SX9035（西から）…… 23
PL.24 1. SX9041（南から）…… 24
2. SX9045（南から）…… 24
3. SX9046（南から）…… 24
PL.25 1. SX9047（南から）…… 25
2. SX9048（南から）…… 25
3. SX9070（南西から）…… 25
PL.26 1. SX9071（北から）…… 26
2. SX9076（北から）…… 26
3. 木組遺構群（西から）…… 26
PL.27 1. SA9073・9074・9075（西から）… 27
2. SA9073（北東から）…… 27
3. SA9074（北東から）…… 27
PL.28 1. SA9083（西から）…… 28
2. SA9084（南から）…… 28
3. SA9085（西から）…… 28
PL.29 1. SA9085（南から）…… 29
2. SA9085 エブリ出土状況（西から）… 29
3. SA9086（北西から）…… 29
PL.30 1. SJ9009 検出状況（南東から）…… 30

2. SJ9009 完掘状況（南から） …… 30
3. SJ9009 甕口縁部（南から） …… 30
PL.31 1. SD9001 検出状況（南から） …… 31
2. SD9001 完掘状況1（北から） …… 31
3. SD9001 完掘状況2（北から） …… 31
PL.32 1. 10-1・10-2区 全景（真上から）…… 32
2. 10-1区 全景1（真上から） ……32
PL.33 1. 10-1区 全景2（北から） ……33
2. 10-1区 全景3（北東から） ……33
3. 10-1区 全景4（南西から） ……33
PL.34 1. 10-2区 西側（真上から）……34
2. 10-2区 全景（西から）……34
PL.35 1. SH1004 完掘状況（北から）…… 35
2. SH1006 完掘状況（北西から）…… 35
3. SH1009 完掘状況（南から）…… 35
PL.36 1. SH1012 完掘状況（北西から）…… 36
2. SB1008（北から） …… 36
3. SK1001 完掘状況（北から）…… 36
PL.37 1. SK1014 完掘状況（東から）…… 37
2. SK1014 土層（東から）…… 37
3. SK1016 完掘状況（北から）…… 37
PL.38 9区 掘立柱建物跡・土坑出土土器…… 38
PL.39 9区 土坑出土土器1…… 39
PL.40 9区 土坑出土土器2…… 40
PL.41 9区 溝跡出土土器 …… 41
PL.42 9区 溝跡・甕棺・包含層出土土器 …… 42
PL.43 9区 包含層出土土器1…… 43
PL.44 9区 包含層出土土器2…… 44
PL.45 9区 包含層出土土器3…… 45
PL.46 9区 包含層出土土器4…… 46
PL.47 9区 包含層出土土器5…… 47
PL.48 9区 包含層出土土器6…… 48
PL.49 9区 包含層出土土器7…… 49
PL.50 9区 包含層出土土器8…… 50
PL.51 9区 包含層出土土器9…… 51
PL.52 9区 包含層出土土器10 …… 52
PL.53 9区 包含層出土土器11 …… 53
PL.54 9区 包含層出土土器12 …… 54
PL.55 9区 包含層出土土器13 …… 55
PL.56 9区 包含層出土土器14 …… 56
PL.57 9区 包含層出土土器15 …… 57
PL.58 9区 包含層出土土器16 …… 58
PL.59 9区 包含層出土土器17 …… 59
PL.60 9区 包含層出土土器18 …… 60
PL.61 9区 包含層出土土器19 …… 61
PL.62 9区 包含層出土土器20 …… 62
PL.63 9区 包含層出土土器21 …… 63
PL.64 9区 包含層出土土器22 …… 64
PL.65 9区 包含層出土土器23 …… 65
PL.66 9区 包含層出土土器24 …… 66
PL.67 9区 包含層出土土器25 …… 67
PL.68 9区 包含層出土土器・土製品 …… 68
PL.69 10区 竪穴住居跡出土土器 …… 69
PL.70 10区 竪穴住居跡・掘立柱建物跡出土土器 …… 70
PL.71 10区 掘立柱建物跡・土坑出土土器 … 71
PL.72 10区 土坑・小穴・包含層出土土器 … 72
PL.73 10区 小穴・11区 包含層出土土器 …… 73
PL.74 11区 包含層出土土器1 …… 74
PL.75 11区 包含層出土土器2 …… 75
PL.76 11区 包含層出土土器3 …… 76
PL.77 11区 包含層出土土器4 …… 77
PL.78 11区 包含層出土土器5 …… 78
PL.79 11区 包含層出土土器6 …… 79
PL.80 11区 包含層出土土器7 …… 80
PL.81 11区 包含層出土土器8 …… 81
PL.82 11区 包含層出土土器9 …… 82
PL.83 11区 包含層出土土器10 …… 83
PL.84 11区 包含層出土土器11 …… 84
PL.85 11区 包含層出土土器12 …… 85
PL.86 11区 包含層出土土器13 …… 86
PL.87 11区 包含層出土土器14 …… 87
PL.88 11区 包含層出土土器15 …… 88
PL.89 11区 包含層出土土器16 …… 89
PL.90 11区 包含層出土土器17 …… 90
PL.91 11区 包含層出土土器18 …… 91
PL.92 11区 包含層出土土器19 …… 92
PL.93 11区 包含層出土土器20 …… 93

PL.94　11区 包含層出土土器21 …… 94
PL.95　11・12区 包含層出土土器…… 95
PL.96　12・13区 包含層出土土器…… 96
PL.97　13区 包含層出土土器1 …… 97
PL.98　13区 包含層出土土器2 …… 98
PL.99　13区 包含層出土土器3 …… 99
PL.100　13区 包含層出土土器4 …… 100
PL.101　9区 遺構・包含層出土石器1 …… 101
PL.102　9区 遺構・包含層出土石器2 …… 102
PL.103　9区 遺構・包含層出土石器3 …… 103
PL.104　9区 遺構・包含層出土石器、10区
遺構・包含層出土土製品 …… 104
PL.105　10区 遺構・包含層出土石器 …… 105
PL.106　9区・12区 包含層他出土石製品・青銅
製品 …… 106
PL.107　9区 出土木製品1 …… 107
PL.108　9区 出土木製品2 …… 108
PL.109　9区 出土木製品3 …… 109
PL.110　9区 出土木製品4 …… 110
PL.111　9区 掘立柱建物跡柱根 …… 111
PL.112　1. 12区 出土鉄製品1…… 112
2. 12区 出土鉄製品2 …… 112
PL.113　1. 12区 出土鉄製品3 …… 113
2. 11区 出土鉄製品 …… 113
PL.114　1. 11区・12区 出土鉄製品 …… 114
2. 12区 出土鉄製品 …… 114
PL.115　1. 11区 出土鉄製品 …… 115
2. 11区・12区 出土鉄製品1 …… 115
PL.116　1. 11区・12区 出土鉄製品2 …… 116
2. 11区・12区 出土鉄製品3 …… 116
PL.117　1. 11区・12区 出土鉄製品4 …… 117
2. 11区・12区 出土鉄製品5 …… 117
PL.118　1. 11区・12区 出土鉄製品6 …… 118
2. 11区 出土鉄製品…… 118
PL.119　1. 11区・12区 出土鉄製品1 …… 119
2. 11区・12区 出土鉄製品2 …… 119
PL.120　1. 11区・12区 出土鉄製品3 …… 120
2. 11区・12区 出土鉄製品4 …… 120
PL.121　1. SH12027 出土鉄片1 …… 121
2. SH12027 出土鉄片2 …… 121
PL.122　1. SH12027 出土鉄片3 …… 122
2. SH12028 出土鉄片…… 122
PL.123　1. SH12035 出土鉄片1 …… 123
2. SH12035 出土鉄片2 …… 123
PL.124　1. SH12035 出土鉄片3 …… 124
2. SH12036 出土鉄片1 …… 124
PL.125　1. SH12036 出土鉄片2 …… 125
2. SH12041 出土鉄片1 …… 125
PL.126　1. SH12041 出土鉄片2 …… 126
2. SH12043 出土鉄片1 …… 126
PL.127　1. SH12043 出土鉄片2 …… 127
2. SH12043 出土鉄片3 …… 127
PL.128　1. SH12052・SH12067 出土鉄片…… 128
PL.129　9 区・11区 出土羽口 …… 129
PL.130　11区・13区 出土羽口 …… 130

Ⅰ．調査の経過

１，調査に至る経過

西九州自動車道は福岡県福岡市から前原市、佐賀県唐津市、伊万里市、長崎県松浦市、佐世保市を経由して佐賀県武雄市に至り九州横断自動車長崎大分線と合流する総延長約 150km の路線であり、国土交通省九州地方整備局佐賀国道事務所の事業である。本埋蔵文化財発掘調査事業はこのうちの唐津道路・唐津伊万里道路・伊万里道路・伊万里松浦道路区間の約 45.2km（佐賀県分）を対象としている。

佐賀県教育委員会文化課（平成 21 年度～ 23 年度社会教育・文化財課、平成 24 年度～文化財課）は佐賀国道事務所から道路建設事業の照会を受け、平成 6 年度から路線予定地の踏査および確認調査を実施した。文化財調査体制は開発事業が広域かつ大規模であることから調査主体は佐賀県教育委員会文化課とし、調査対象地の当該教育委員会からの職員派遣をうけた。これまでの本調査は唐津市堂の前遺跡・井ゲタ遺跡・末広遺跡・梅白遺跡・中原遺跡、唐津市浜玉町赤野遺跡・岩根遺跡・袈裟丸城跡・目貫古墳群・大江前遺跡・仁田古墳群・矢作遺跡・下新田古墳群・大坂古墳群・汐井川古墳群・古園遺跡・寺ノ元遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡、伊万里市打越遺跡がある。このうち、刊行した発掘調査報告書は 2000 年 3 月に『堂の前遺跡・井ゲタ遺跡』、2003 年 3 月に『梅白遺跡』、2006 年 3 月に唐津市浜玉町『大江前遺跡・目貫古墳群・赤野遺跡・袈裟丸城跡・岩根遺跡』2007 年 3 月に『中原遺跡Ⅰ』、2008 年 3 月に『中原遺跡Ⅱ』、2009 年 3 月に『中原遺跡Ⅲ』、2010 年 3 月に『中原遺跡Ⅳ』『仁田古墳群Ⅰ』、2011 年 3 月に『中原遺跡Ⅴ』『仁田古墳群Ⅱ』、2012 年 3 月に『中原遺跡Ⅵ』『矢作遺跡』、2013 年 3 月に『中原遺跡Ⅶ』『古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡』などがある。

中原遺跡の調査は本調査事業以前に 2 回の発掘調査が実施されている。この 2 回の発掘調査地点は本事業調査区 11 区～ 13 区で確認できた。第一次調査は 1965 年 11 月 11 日～ 11 月 21 日の第一次日仏合同調査として行われた。弥生前期～中期後半の甕棺墓 6 基を調査した。また、このとき検出した石組遺構は本事業で確認した ST11158 前方後円墳の葺石であることが判った。

第二次調査は 1986 年 4 月～ 7 月にかけて分譲住宅地造成に伴い唐津市教育委員会が実施した。調査の結果、弥生時代中期の甕棺墓 3 基と古墳時代初頭の周溝墓 4 基と古墳時代中期の古墳周溝を確認した。本事業発掘調査は中原遺跡としては第 3 次調査になるが本事業の調査区の中に第一次、第二次調査の調査区が含まれる。

本調査に至る確認調査は平成９年１月～３月にかけて実施した。確認調査担当は佐賀県文化課立石泰久（企画調整主査）・家田淳一（主査）・中尾賢治（調査補助員）である。確認調査対象地は路線内の宇木川以西から県道浜玉・相知線付近までである。佐賀国道事務所路線測点番号では NO480 ～ NO540 までである。3 m× 40 mを基本とする試掘坑を 57 本設定し重機による掘削を行った。この確認調査により梅白遺跡および中原遺跡の広がりを確認した。特に 36 トレンチから弥生時代終末の土器群が多量に出土したがこれは 2 区の SX246 にあたる。前述の第一次・第二次調査により中原遺跡は埋蔵文化財包蔵地として周知化されていたが、中原遺跡周辺は路線のインターチェンジ部分に相当しその開発面積も 80000㎡を超える広大なものであった。平成９年度の確認調査により中原遺跡の範囲が拡大することが判り、小字原、西丸田も含めて遺跡の範囲を拡大した。但し、第一次・第二次調査地点は住宅地であり住宅移転も進んでおらず確認調査をすることはできなかったが遺跡があることは判っていたので調査対象地とした。また、この段階では古代の遺構・遺物が出土することはほとんど想定していなかった。



図１　路線図（1/50,000）

このような経過を得て中原遺跡の調査対象面積を約 90000㎡とし平成 11 年から本調査に着手した。

２，調査組織

調査主体　佐賀県教育委員会
調査協力　唐津市教育委員会

発掘調査（平成 13 年 4 月～平成 18 年 3 月）
平成 13 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	松尾　正廣
	佐賀県教育委員会	文化課長	佛坂　勝男
	佐賀県教育委員会	文化課参事	堤　　博文
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	山口　康郎
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課企画調整主査	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	井上　倫生
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	辻村美代子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松浦　　智
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課専門員	天本　茂春
	佐賀県教育委員会	文化課主査	相川ミエ子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	陶山　　優

平成 14 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	松尾　正廣
	佐賀県教育委員会	文化課長	佛坂　勝男
	佐賀県教育委員会	文化課参事	中園　一次
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	山口　康郎
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課企画調整主査	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松浦　　智
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松瀬　京子
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課専門員	天本　茂春
	佐賀県教育委員会	文化課主査	野口佐智子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸

	佐賀県教育委員会	文化課主事	陶山　優

平成 15 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	松尾　正廣
	佐賀県教育委員会	文化課長	香月　博子
	佐賀県教育委員会	文化課参事	中園　一次
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	川久保弘二郎
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課企画調整主査	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	松瀬　京子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	谷　洋一郎
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課専門員	天本　茂春
	佐賀県教育委員会	文化課主査	野口佐智子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	坂口　豪史

平成 16 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	吉野　健二
	佐賀県教育委員会	文化課長	初村　健二
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	天本　洋一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	福山　正廣
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課係長	立石　泰久
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	谷　洋一郎
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	大島　健司
	唐津市教育委員会	文化課職員	内田　孔明
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課係長	中原　吉朗
	佐賀県教育委員会	文化課主査	野口佐智子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	島田　一幸
	佐賀県教育委員会	文化課主事	坂口　豪史

平成 17 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	吉野　健二
	佐賀県教育委員会	文化課長	初村　健二
	佐賀県教育委員会	文化課参事	東中川忠美

	佐賀県教育委員会	文化課副課長	松本　誠一
	佐賀県教育委員会	文化課副課長	中村　　信
調査総括	佐賀県教育委員会	文化課主幹	西田　和己
調査員	佐賀県教育委員会	文化課指導主事	小松　　譲
	佐賀県教育委員会	文化課主査	川副麻理子
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	谷　洋一郎
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	大島　健司
	佐賀県教育委員会	文化課嘱託	田中健一郎
	唐津市教育委員会	文化課職員	美浦　雄二
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化課係長	中原　吉朗
	佐賀県教育委員会	文化課主査	平尾　和子
	佐賀県教育委員会	文化課主査	黒木　文好
	佐賀県教育委員会	文化課主事	山口　徹也

発掘作業員　平成 13 年度～平成 17 年度

〔H 13 年度〕

青木淳一、阿賀野千鶴、安藤剛、磯口裕子、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、岩田泰浩、岩村正、内山智子、浦津正美、大木壽明、緒方義春、小栗三行、小副川初美、小野尾千代香、片峰秋子、片峰節子、加茂春江、小石加奈子、古賀和江、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、田中フサ子、谷口やす子、堤怜子、手島茂一、戸野川一二、長嶋サツエ、中島康子、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、長谷川三男、馬場重治、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ、脇山美佐子、渡辺フサエ

〔H 14 年度〕

阿賀野千鶴、安藤剛、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、岩村正、浦津正美、緒方義春、小栗三行、小副川初美、小野尾千代香、片峰秋子、小石加奈子、古賀和江、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、田中フサ子、谷口やす子、堤怜子、手島茂一、戸野川一二、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、長谷川三男、馬場重治、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ、脇山美佐子

〔H 15 年度〕

阿賀野千鶴、安藤剛、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、内山清信、浦津正美、緒方義春、小副川初美、片峰秋子、小石加奈子、古賀和江、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、田中フサ子、谷口やす子、手島茂一、戸野川一二、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、馬場重治、原直嗣、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ

〔H 16 年度〕

阿賀野千鶴、市丸和子、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、井上義秋、岩田桂子、内山清信、浦津正美、

緒方義春、小副川初美、片峰秋子、小石加奈子、佐伯明、佐伯ヨシ子、坂本ヱキヨ、坂本直久、重カズヨ、谷口やす子、手島茂一、戸野川一二、中村静江、鍋島フミ子、野口洋一、野崎徳蔵、馬場重治、藤瀬哲代、古川善彦、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山ツタ子、脇山典子、脇山春雄、脇山マスエ

〔H１７年度〕

阿賀野千鶴、石本雅生、市丸クミエ、伊藤末司、伊藤正子、岩田桂子、上野政喜、浦津正美、大谷節子、緒方義春、小副川初美、片峰秋子、川﨑はつえ、川﨑美登香、小石加奈子、佐伯明、坂本直久、重カズヨ、進藤英司、谷口やす子、中山博司、野口洋一、野崎徳蔵、橋本静夫、馬場重治、藤瀬哲代、増井博、松下一枝、豆田紀久子、三塩タチ子、森智恵子、吉岡俊雄、吉村百合子、米倉幸一郎、脇山忠義、脇山典子

室内整理作業　平成 13 年度～平成 24 年度

報告書作成　平成 25 年度

総括	佐賀県教育委員会	教育長	川﨑　俊広
	佐賀県教育委員会	文化財課長	松本　啓嗣
	佐賀県教育委員会	文化財課参事	森田　孝志
	佐賀県教育委員会	文化財課副課長	森永　哲生
調査総括	佐賀県教育委員会	文化財課主幹	小松　　譲
調査員	佐賀県教育委員会	文化財課主査	梶山　裕史
	佐賀県教育委員会	文化財課嘱託	立石　和也
	佐賀県教育委員会	文化財課嘱託	服部　瑞輝
庶務会計	佐賀県教育委員会	文化財課係長（吉野ヶ里遺跡担当）	原﨑　弘成
	佐賀県教育委員会	文化財課副主査（吉野ヶ里遺跡担当）	黒田　康裕
	佐賀県教育委員会	文化財課主事（吉野ヶ里遺跡担当）	前田　亮太

調査補助員・整理作業員　平成 13 年度～平成 24 年度

〔H 13 年度〕

唐津中原事務所

調査補助員：美浦あずさ

整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、馬場薫、
松本いつ子、三浦美智子、渡部直美

佐賀県文化財調査研究資料室

整理作業員：奥知恵子、村里育子

〔H 14 年度〕

唐津中原事務所

整理作業員：青木淳一、池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、
徳田まり子、中島美佳、馬場薫、松本いつ子、美浦あずさ、三浦美智子、脇山邦子、
渡部直美

佐賀県文化財調査研究資料室

整理作業員：奥知恵子、村里育子
〔H 15 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、徳田まり子
中島美佳、馬場薫、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
調査補助員：百崎正子
整理作業員：奥知恵子、村里育子
〔H 16 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、辻美紀子、徳田まり子
中島美佳、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
調査補助員：百崎正子
整理作業員：江副明子、奥知恵子、村里育子
〔H 17 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、坂本直久、辻美紀子
徳田まり子、中島美佳、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：江副明子、奥知恵子、村里育子
〔H 18 年度〕
唐津中原事務所
整理作業員：池内理恵、市丸宮子、浦田照千代、菊池孝子、桑代ゆかり、坂本直久、徳田まり子
中島美佳、松本いつ子、美浦あずさ、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：江副明子、奥知恵子、村里育子
〔H 19 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：市丸宮子、浦田照千代、大薗聖子、川原里美、菊池孝子、桑代ゆかり、坂本直久
徳田まり子、中島美佳、松本いつ子、脇山邦子、渡部直美
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：江島美恵子、桑原廣子、上瀧光子、山口美佐子
〔H 20 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：市丸宮子、大薗聖子、川原里美、菊池孝子、桑代ゆかり、古藤真理子、徳田まり子、
松本綾子、松本いつ子、脇山邦子

佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：一番ヶ瀬富士子、江島美恵子、桑原廣子、山口美佐子
〔H 21 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、菊池孝子、桑代ゆかり、古藤真理子、徳田まり子、樋口令子、松本綾子、
松本いつ子、脇山邦子
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：一番ヶ瀬富士子、江島美恵子、桑原廣子
〔H 22 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、菊池孝子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本いつ子、脇山邦子
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：桑原廣子
〔H 23 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本綾子、松本いつ子、
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：桑原廣子
〔H 24 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本綾子、松本いつ子、山浦美香
佐賀県文化財調査研究資料室
整理作業員：桑原廣子
〔H 25 年度〕
唐津中原事務所
調査補助員：美浦あずさ
整理作業員：大薗聖子、桑代ゆかり、古藤真理子、樋口令子、松本綾子、松本いつ子、山浦美香
（五十音順）

表1　調査経過表

年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
A班	井上・松浦	小松・松瀬	内田・松瀬	内田・大嶋	川副・田中
B班	内田・松瀬	川副・松浦	川副・谷	川副・谷	谷
11区					
10区					
14-1区					
9-2区					
12区					
13区					
14-2区					
9-3区					
14-3区					

表2　調査担当者一覧表

年度	西暦	佐賀県（職員）	（嘱託）	唐津市職員	資料室(嘱託)
平成13	2001	立石・小松・井上	辻村・松浦	内田	吉田
平成14	2002	立石・小松・川副	松浦・松瀬	内田	百崎
平成15	2003	立石・小松・川副	松瀬・谷	内田	大嶋
平成16	2004	立石・小松・川副	大嶋・谷	内田	松瀬
平成17	2005	西田・小松・川副	大嶋・谷・田中（9月まで）	美浦（10月から）	児玉
平成18	2006	西田・小松・川副	丹羽・児玉	美浦	小森
平成19	2007	西田・小松・川副	戸塚・藤原・田中（10月から）	美浦	小森
平成20	2008	小松・梶山・井上・市川	戸塚・田中・藤原	美浦	小森
平成21	2009	小松・梶山・井上・市川	戸塚・藤原・土屋	美浦（9月まで）	—
平成22	2010	小松・井上・市川	吉野・伊達	美浦（12月まで）	—
平成23	2011	小松・井上・吉本	吉野・伊達	美浦（9月まで）	—
平成24	2012	小松・梶山・吉本	吉野・伊達	—	—
平成25	2013	小松・梶山	立石・服部	—	—

表３　中原遺跡各調査区調査期間・担当者一覧

調査区	調査期間	主 な 担 当 者
９－２区	H14. 4.10 ～ H14.11.27	小松・松瀬
９－３区	H16.12. 7 ～ H17. 3. 2	内田・大嶋
10区	H13. 9.27 ～ H13.12. 7	井上・松浦
11区	H13. 5.28 ～ H15.12.16	内田・井上・松浦. 松瀬・川副・谷
12区	H14.10. 7 ～ H16.10.28	小松・松瀬・内田・大嶋
13区	H14.12.10 ～ H17. 9.27	川副・谷・小松
14－１区	H14. 3. 8 ～ H15. 3.15	川副・松浦
14－２区	H15.10.20 ～ H16. 3.19	内田・松瀬
14－３区	H17. 4.22 ～ H17. 7. 1	川副・田中

3，調査の方法と経過

(1) 調査の方法

中原遺跡の略号はNAKとし調査区の呼称は算用数字を用い1区であれば「NAK － 1」とし、図面や写真、遺物の注記など記録類の表示に用いた。調査区内を現道路などの区画により1区から14区の調査区に分け、さらに調査年度や調査工程上、細分し14 － 1区、14 － 2区などのように表示した。11区、12区、13区の現況は水田、畑、宅地であり、それらの区画によりそれぞれの調査区を設定した。

調査区画は国土座標にあわせX＝ 46260、Y＝ -92700の交点を原点とする10 m× 10 mの方眼区画を設定した。南北方向をアルファベットとし北から南にA～G、東西方向を算用数字にし東から西に1～59とし、グリッド(区画)名をアルファベット－算用数字で表記した。各グリッドの北東杭をグリッド杭とし、杭にグリッド名を表示した。

遺構番号は3桁の一連の番号とし、4桁、5桁目は調査区を示すことにした。この遺構番号の頭に遺構の種別を示すアルファベット2文字の分類記号を付けて表示した。柱穴は調査区ごとの4桁の一連番号とし4桁目は調査区を示すことにした。

遺構の写真は白黒、カラーリバーサルとも4 × 5、ブローニー、35mmを使用し、カラーネガは35mmのみに使用した。また、必要に応じ気球や高所作業車(ハイライダー)による写真撮影を実施した。

調査にあたっては基本土層を設定し、表土は重機により掘削し、包含層は人力掘削を原則とした。ただし、出土遺物が少ない包含層は重機掘削を行った。

(2) 調査の経過

中原遺跡の調査は平成11年7月5日の1区の重機による表土掘削から始まった。終了は平成17年9月であり、調査期間は約6年間である。平成11年度～平成12年度はおもに1区から7区の古代の遺構と遺物の調査であり、『中原遺跡Ⅰ』、『中原遺跡Ⅱ』、『中原遺跡Ⅲ』で報告した。

本報告書に掲載する調査区は主に9区、10区であり、その調査期間は平成13年9月から平成17年3月である。調査は主に2班体制で行い、この調査期間中に11区～14区の調査も併行したために9区～14区の調査経過を記す。

11区の調査は平成13年5月末から始めた。調査区内の除草作業のち人力によるトレンチ掘り下げを開始した。主担当はB班であり、7月はA・B班合同で11区の調査を行った。本調査区はこれまでの唐津市教育委員会や日仏合同調査結果などでも遺構密度が高いことが予想されたが、現況が宅地であり、用地買収などの関係で充分な予備調査ができなかったため、当初は慎重に調査を計画し、トレンチを設定し人力掘削をおこない、表土や包含層の厚さなどを調べた。

7月上旬、11区の重機による表土掘削に着手した。7月下旬、ST11002古墳の葺石を検出し、唐津市教育委員会の調査区も確認できた。9月、竪穴住居などの遺構を検出し掘り下げに入った。

9月27日、10区の重機による表土掘削を開始し、10月上旬からA班は10区の人力による遺構検出に着手した。10区は10-1区、10-2区、10-3区に分かれるが、12月上旬には調査を終了した。その後、A班は11区の調査に合流した。

10月、11区の直線溝であるSD11065の掘り下げ、11月から12月にかけてST11002古墳やST11067古墳、ST11141古墳の周溝掘り下げに入った。

12月上旬、ST11141古墳の主体部を確認した。

平成14年1月、竪穴住居や土坑など集落域の調査が本格化してきた。2月、テレビ局の番組のロケ

撮影に協力した。調査員、作業員もエキストラとして出演した。11 区の東側から中央部にかけて甕棺は希薄であったが、2 月頃から甕棺の調査にも入った。

3 月 8 日、14-1 区の重機による表土掘削を開始し 4 月から人力掘削を始めた。14-1 区はさらに 3 つの調査区に分かれるが、北側 2 つの調査区の包含層掘り下げを実施した。A 班が 11 区と 14-1 区の調査を併行して行った。

4 月上旬、9-2 区の重機による表土掘削を開始し、引き続き人力掘削による遺構の掘り下げ作業に入った。9-2 区は A 班が担当した。9-2 区からは SD11065 の延長の溝である SD9001 や掘立柱建物群を検出した。11 区は B 班が担当し 4 月以降、竪穴住居や甕棺の掘り下げ作業を行った。また、B 班は 14-1 区の包含層掘り下げも併行した。

5 月、9-2 区から方格規矩鏡片が出土した。

6 月、9-2 区の調査区北側の低地部から木組遺構を検出した。

8 月、9-2 区の調査区東側の重機による表土掘削を再開した。その結果、掘立柱建物群を検出した。高島忠平先生から調査指導を受けた。

8 月下旬、14-1 区から鋳型が出土した。9 月から 10 月にかけて 9-2 区の調査区北側の低地部からは木組遺構のほか、柱材やねずみ返しなどの建築部材が出土した。

10 月上旬、12 区の重機による表土掘削を開始した。表土は薄く、重機で剥いだ遺構検出面から石製把頭飾が出土した。10 月 23 日、福富中学校 1 年生の発掘体験学習を 11 区で行った。

11 月下旬、9-2 区の調査が終了した。A 班は 12 区の調査に入った。

12 月中旬、13 区南東部の重機による表土掘削をおこなった。その結果、11 区～ 13 区にまたがる ST11158 前方後円墳を検出した。また、日仏合同調査のトレンチを確認した。日仏合同調査に確認されていた石列は ST11158 前方後円墳の葺石であることも判明した。

平成 15 年 1 月、ST11158 前方後円墳の後円部墳丘部下検出の甕棺群から硬玉製や碧玉製の玉類などが出土した。

2 月、12 区で ST12032 を検出し周溝掘り下げを開始した。また、14 区から鋳型片が出土した。小田富士雄先生から調査指導を受けた。

3 月、11 区の甕棺から銅矛や鉄斧や鉄鉇などが出土し、厚葬墓群が明確になってきた。

平成 15 年 4 月、嘱託職員の谷が着任した。松浦の後任である。A 班は内田、松瀬、B 班は川副、谷の体制で、A 班は 12 区を、B 班は 13 区と 11 区の残務を担当した。

4 月下旬、鏡ケーブル TV の取材があった。12 区は ST12032 古墳の周溝掘り下げ、13 区は ST11158 古墳の周溝掘り下げを 4 月から 5 月にかけて行った。

5 月、ST12032 周溝内にて甕棺を検出し調査した。

5 月中旬、九州大学岩永先生から銅矛、鋳型についての調査指導を受けた。

5 月下旬、高所作業車による ST12032 古墳と ST11158 古墳の全景写真撮影を実施した。

6 月、ST12032 墳丘、周溝の平板測量（1 回目）実施。13 区の近・現代墓の掘り下げを実施、ほぼ終了した。

6 月 5 日、銅矛、鋳型の記者発表を行った。

6 月 7 日、現地説明会を実施、見学者は約 150 名であった。

7 月、12 区は弥生時代後期の竪穴住居他の調査を実施、13 区は前方後円墳の後円部墳丘上の厚葬甕棺墓周囲の祭祀土坑の調査を行った。

7 月下旬、13 区甕棺墓より鉄矛出土。12 区の竪穴住居から鏡の紐片や碧玉原石片なども出土した。

8 月、SX12012 の周溝掘り下げを開始した。

9 月、14-2 区の調査に入るため、プレハブを移動し重機による盛土、表土掘削を開始した。

9 月上旬、甕棺墓より円環型銅釧 3 が出土した。下旬には福富中学校の発掘体験学習を行った。12 区は周溝墓群の掘り下げを行った。ST12002 古墳の周溝掘り下げを開始した。

10 月、SX12048 周溝掘り下げを開始した。

10 月下旬、14-2 区の人力掘削に着手した。担当は A 班である。12 区と 14-2 区の調査を併行した。

11 月中旬、13 区の甕棺墓から碧玉製管玉 108 点や円環型銅釧 12 が出土、円環型銅釧や石製玉類など装身具の副葬が際だってきた。また、13 区の南側を重機により表土掘削して拡張した。

12 月、12 区 ST12032 古墳の周溝内埋葬施設である石棺墓を検出、12 月 12 日、福岡大学武末先生から中原遺跡出土陶質土器についての調査指導を受けた。

平成 16 年 1 月 15 日、宮崎大学柳沢先生から中原遺跡検出の古墳について調査指導を受けた。

2 月、SX12038、12065、12081 周溝墓の掘り下げを実施。

2 月 22 日、鏡地区の「まつらの姫達の宴ウオーキング」で中原遺跡見学に協力した。

2 月 26 日、東京大学後藤先生から青銅器ほかの調査指導を受けた。

3 月 3 日、愛媛大学村上先生から鉄器の調査指導を受けた。その結果、遺跡内で弥生時代後期～終末期に鍛冶が行われていたことが確実になった。

2 月から 3 月にかけて、12 区は周溝墓群の調査、13 区は甕棺墓の掘り下げを継続した。また、3 月末で 14-2 区の調査が終了した。

平成 16 年、4 月から松瀬にかわって大嶋が着任した。A 班内田、大嶋、B 班川副、谷の体制で 12 区、13 区を引き続いて担当した。

4 月、ST12032 墳丘、周溝の平板測量（2 回目）実施。

5 月、唐津市北波多上平野遺跡の調査に入った。

5 月末、鏡山小学校 6 年生の遺跡見学があった。また、13 区南側の包含層掘り下げを実施した。この谷状の落ち込みから多量の農具や工具などの木製品や土器片が出土した。

6 月、SK13230、SK13231 掘り下げ、SK13231 から獣形勾玉出土。

7 月上旬、久里小学校 6 年生の遺跡見学があった。また、SK13231 から鏡片、石製玉類が出土した。SK13252 の掘り下げを行った。さらに、円環型銅釧の公表を行った。

8 月上旬、13 区南側の落ち込みから鋳型片出土。14 区出土の鋳型と接合した。また、木組遺構や杭列なども検出し、木組遺構埋土から多量の堅果が出土した。

9 月上旬、13 区の空中写真撮影を実施した。

10 月、13 区南側の落ち込みの木組遺構の調査が終了した。落ち込み内を横断する数条からなる杭列とそれに直交する木樋を検出した。11 月にかけて調査を継続し、鋳型片なども出土した。

12 区西側の一部を拡張した。SJ12090、SK12091 を掘り下げた。

11 月中旬、熊本大学甲元先生から調査指導を受けた。

11 月末で 13 区南側落ち込みの調査が終了した。調査終了後、工事用の仮設道路施工のため埋め戻された。また、12 区西側の SC12092 から鉄剣、刀などが出土した。

12 月、ST13398 周溝掘り下げを開始した。

12 月上旬、9-3 区の重機による表土掘削を開始した。調査は A 班が担当した。

平成 17 年 1 月、13 区の墳丘墓の周溝埋土からは人頭大の葺石が出土した。また ST13414 の主体部から内行花文鏡片が出土した。9-3 区では 11 区から延長して伸びる古代の直線溝を検出した。

2 月、墳丘墓間に位置する土壙墓群から小形仿製鏡、素環頭刀子、ガラス小玉などが出土した。また、ST13415 の主体部の調査に着手し、鏡片が出土した。

2 月下旬、熊本大学木下先生に石製玉類の調査指導を受けた。

3 月、ST13415 の周溝内埋葬施設の掘り下げを行った。方格規矩鏡片が出土した。また、駒沢大酒井先生や別府大下村先生の調査指導を受けた。3 月末で 9-3 区の調査が終了した。

平成 17 年 4 月、田中が着任した。14-3 区の重機による表土掘削後人力掘削を開始した。5 月、6 月と包含層の掘り下げを継続し、三又鍬やリース状木製品などが出土した。6 月末で調査を終了した。

8 月中旬、青銅鏡を公表した。

8 月下旬、13 区北西端にあたる市道部の調査に着手した。重機掘削のち、人力掘削を継続した。道路中央部に水道管が埋設されており大半が攪乱されていた。ST13415 墳丘墓の西側周溝は確認できなかった。この市道部の調査も 9 月末で終了した。これにより、中原遺跡の全ての調査が終了した。

調査日誌

平成 13 年（2001 年）

5 月 28 日　11 区トレンチ掘り下げ開始
6 月　6 日　甲元眞之先生来訪、土壌水洗機搬入
7 月 17 日　ST11002 の葺石を検出
8 月　3 日　唐津市教育委員会調査区を確認
8 月 22 日　A 班、5 区の調査に移動
9 月 10 日　石野博信先生来訪
9 月 27 日　10 区重機掘削開始
12 月　7 日　ST11141 の主体部確認

平成 14 年（2002 年）

1 月 25 日　ST11141 周溝から馬具出土
1 月 30 日　蒲原宏行氏調査指導
2 月　6 日　11 区空中写真撮影
2 月 12 日　北波多地区確認調査開始
3 月　8 日　14-1 区重機掘削開始
4 月 10 日　9-2 区重機掘削開始
4 月 17 日　9-2 区人力掘削開始
4 月 22 日　14 区人力掘削開始
5 月 23 日　9-2 区より方格規矩鏡片出土
5 月 28 日　9-2 区、11 区、ハイライダーによる写真撮影
7 月 24 日　田辺昭三先生来訪
8 月　2 日　9-2 区、11 区、ハイライダーによる写真撮影
8 月　6 日　高島忠平先生調査指導
8 月　7 日　田中正日子先生来訪
8 月 28 日　14 区から鋳型出土
10 月　7 日　12 区重機による表土掘削開始
10 月 23 日　福富中学校生徒発掘体験
10 月 24 日　甲元眞之先生来訪
11 月 13 日　9-2 区空中写真撮影
12 月　2 日　ST11158 古墳は前方後円墳と確認
12 月　5 日　14 区、ハイライダーによる写真撮影

平成 15 年（2003 年）

2 月 19 日　小田富士雄先生調査指導
2 月 21 日　11 区空中写真撮影
2 月 24 日　11 区、ハイライダーによる写真撮影
3 月 10 日　佐田先生調査指導
5 月 13 日　岩永先生調査指導
5 月 28 日　ST11158、ST12032 古墳ハイライダーによる写真撮影
6 月　5 日　銅矛、鋳型記者発表
6 月　7 日　現地説明会

7月　2日　唐木田先生、藤瀬氏来訪
7月24日　鉄矛出土、村上先生来訪
9月　3日　ハイライダーによる写真撮影
9月　4日　SJ13112から円形銅釧出土
9月17日　福富中学校発掘体験
11月　7日　村上先生来訪
11月18日　SJ13134から円形銅釧出土
12月12日　武末純一先生調査指導

平成16年（2004年）
1月15日　柳沢先生調査指導
12区ST12032全景写真撮影
2月26日　後藤直先生調査指導
3月　3日　村上先生調査指導
3月11日　気球写真撮影
3月12日　ハイライダーによる写真撮影
3月15日　柳田康雄氏来訪
4月28日　北波多村上平野遺跡重機掘削開始
5月27日　鏡山小学校児童遺跡見学
7月　1日　久里小学校児童遺跡見学
7月　2日　SP13231より鏡出土
7月　7日　円環型銅釧公表
7月　9日　中山清隆氏、韓国（財）東北支石墓研究所来訪
7月13日　田尻氏来訪
9月　3日　13区空中写真撮影
9月　6日　大阪府藤田氏、関西外語大佐古先生来訪
10月13日　13区落ち込み、材出土状況ハイライダーによる撮影
10月29日　高島忠平先生来訪
11月　9日　柳田康雄氏来訪
11月10日　福岡市吉留氏来訪
11月19日　甲元眞之先生調査指導
12月16日　佐世保文化財事務所より調査員来訪

平成17年（2005年）
1月12日　ST13414より鏡出土
1月25日　坪井清足先生来訪
2月　8日　佐賀女子短期大学学生来訪
2月15日　高島忠平先生、藤田等先生来訪
2月22日　木下尚子先生調査指導、安藤先生来訪
2月28日　佐世保教育事務所、文化財担当者来訪
3月　2日　空中写真撮影
3月　3日　酒井清治先生調査指導
3月17日　下村先生調査指導
4月17日　筑紫古代研究会来訪
7月　1日　藤丸氏来訪
8月17日　青銅鏡出土公表
9月　7日　柳田康雄氏来訪
9月22日　空中写真撮影
9月30日　13区調査終了

表４　中原遺跡報告書掲載地区一覧表

書　　名	掲載地区	主な遺構	主な遺物
中原遺跡Ⅰ	1区・2区・3区・４区・8区・9-1区	掘立柱建物、井戸、土坑、水田、溝	木簡、墨書土器、中空円面硯、木製品、子持ち勾玉
中原遺跡Ⅱ	6区・7区	掘立柱建物、木組遺構、溝、水田（畔畔、杭列）	木簡、墨書土器、施釉陶器、平瓦、丸瓦、権形石製品木製品
中原遺跡Ⅲ	5区	掘立柱建物、溝、杭列、水田（畔畔）	木簡、墨書土器、緑釉陶器、奈良三彩、平瓦、丸瓦、木製品
中原遺跡Ⅳ	11区・13区の弥生時代甕棺墓	甕棺墓	銅矛、鉄矛、円環型銅釧、鉄斧、鉄製鉇、硬玉製玉類、碧玉製管玉、瑪瑙製管玉、天河製丸玉、ガラス製管玉、ガラス製小玉
中原遺跡Ⅴ	11区・12区・13区の弥生時代・古墳時代の墳墓	土壙墓、祭祀土坑、前方後円墳、円墳	硬玉製玉類、碧玉製管玉、石剣、石戈、磨製石鏃、土製人形、水晶原石、馬具、U字形鍬鋤先、滑石製勾玉、ガラス製小玉、器財埴輪片、陶質土器
中原遺跡Ⅵ	12区・13区の古墳時代初頭前後の墳墓	墳丘墓、土壙墓、木棺墓、石棺墓、前方後円墳、周溝墓	内行花文鏡、方格規矩鏡、浮彫式獣帯鏡、仿製鏡、鉄剣、素環頭小刀、刀子、ヒスイ製勾玉、碧玉製管玉
中原遺跡Ⅶ	11区・12区・13区の集落跡	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶質土器
中原遺跡Ⅷ	9区・10区、11区～13区の出土遺物	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、木組遺構、環状杭列	弥生土器、土師器、須恵器、石器、木製品、鉄製品、鍛冶関連遺物

表５　西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書一覧

書　　名	刊行年	掲載遺跡	西九州自動車道 シ リ ー ズ 名	県文化財報告書 シ リ ー ズ 名
堂の前・井ゲタ遺跡	2000年	堂の前遺跡・井ゲタ遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（１）	佐賀県文化財調査報告書第144集
梅白遺跡	2003年	梅白遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（２）	佐賀県文化財調査報告書第154集
大江前遺跡	2006年	大江前遺跡・目貫古墳群・赤野遺跡・袈裟丸城跡・岩根遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（３）	佐賀県文化財調査報告書第167集
中原遺跡Ⅰ	2007年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（４）	佐賀県文化財調査報告書第168集
中原遺跡Ⅱ	2008年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（５）	佐賀県文化財調査報告書第175集
中原遺跡Ⅲ	2009年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（６）	佐賀県文化財調査報告書第179集
中原遺跡Ⅳ	2010年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（７）	佐賀県文化財調査報告書第182集
仁田古墳群Ⅰ	2010年	仁田古墳群１区・２区・３区・矢作遺跡４区・下新田古墳群・大坂古墳群	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（８）	佐賀県文化財調査報告書第183集
中原遺跡Ⅴ	2011年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（９）	佐賀県文化財調査報告書第187集
仁田古墳群Ⅱ	2011年	仁田古墳群4区・仁田埴輪窯跡・矢作遺跡3区	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(10)	佐賀県文化財調査報告書第188集
中原遺跡Ⅵ	2012年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(11)	佐賀県文化財調査報告書第193集
矢作遺跡	2012年	矢作遺跡1区・2区	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(12)	佐賀県文化財調査報告書第194集
中原遺跡Ⅶ	2013年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(13)	佐賀県文化財調査報告書第199集
古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡	2013年	古園遺跡・千々賀遺跡・千田島Ⅱ遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(14)	佐賀県文化財調査報告書第200集
中原遺跡Ⅷ	2014年	中原遺跡	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書(15)	佐賀県文化財調査報告書第203集

Ⅱ．遺跡の位置と環境

１，地理的環境

中原遺跡は佐賀県唐津市大字原字西丸田、西ノ畑、溜ノ内、笹原、大字中原字中原に所在する。

唐津市は九州の北端で佐賀県の北西部、現在の市役所で北緯 33 度 27 分、東経 129 度 58 分である。平成 17 年 1 月に唐津市、浜玉町、厳木町、相知町、北波多村、肥前町、鎮西町、呼子町が合併し、さらには平成 18 年 1 月に七山村も合併した。平成 20 年 10 月の統計によれば、面積 487.47㎢で人口 128,551 人､世帯数は 44,455 世帯である。唐津市は今回の合併により東は福岡県二丈町、南は佐賀市と多久市、西は伊万里市と玄海町に接する。北は唐津湾および玄界灘に面し、朝鮮半島へと連なる。呼子町から壱岐島まで約 30km であり、鏡山山頂からも壱岐島影を望むことができる。このように半島に最も近いという地理的環境のため古代より我が国のなかでもいち早く半島や大陸の文化を受容した地域である。

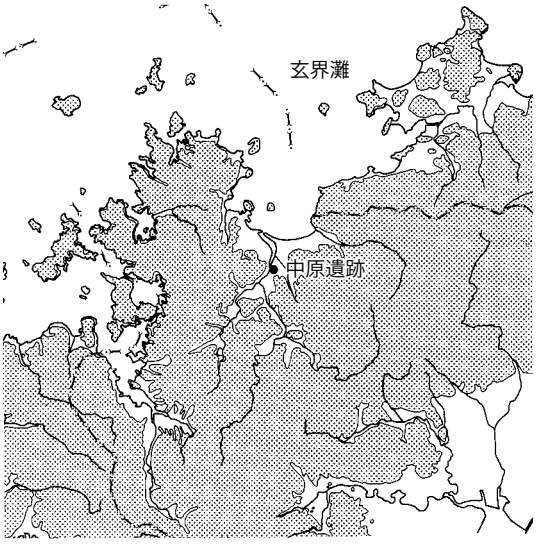


図２　遺跡位置図

唐津市およびその周辺の地形は①東松浦溶岩台地域②松浦杵島丘陵地域③脊振山地西部域④低地部（広義の唐津平野）⑤島嶼域の五つに区分できる。①東松浦溶岩台地は東松浦半島の大半を占め、第三系や花崗岩類の基盤のうえに第三紀末期～第四紀初頭にかけて噴出した松浦玄武岩が覆う溶岩台地である。通称“上場台地”と呼ばれ、標高 150 ～ 200 ｍである。②松浦杵島丘陵地は南北に流下する佐志川およびその延長線を境に東側の丘陵性山地であり、松浦川左岸まで続く。その地質は第三系や花崗岩類からなり、標高約 200 ｍ内外である。③脊振山地西部域は松浦川および唐津平野の東南部にあたり脊振山系の西部地域にあたる。地質は風化の進んだ花崗岩類からなる。唐津平野の基盤の大部分もこの花崗岩類であり、不整合面を介して沖積層が堆積する。④低地部（唐津平野）は東松浦溶岩台地や松浦杵島丘陵地や脊振山地に囲まれ、北は唐津湾および玄界灘に接する低地を総称している。松浦川とその支流、玉島川、佐志川流域にあたる。五つの地形区分のうち①東松浦溶岩台地では主に旧石器～縄文時代の遺跡が、④低地部では主に弥生時代以降の遺跡が、⑤島嶼域ではおもに弥生～古墳時代の遺跡が立地する。また②の地域は急峻な地形を利用し中世には山城が築かれ、近代以降石炭の採掘が盛んに行なわれるようになる。

唐津平野を形成した河川には、最大規模の松浦川やその支流の徳須恵川、半田川、宇木川がある。松浦川とその支流は、脊振山系と松浦杵島丘陵地の間を縫うように流れる。玉島川は唐津平野の東端を流れる松浦川に次ぐ規模の河川であり、脊振山系に水源をもち唐津湾に注ぐ。この他、唐津市街地を流れる町田川や唐津平野の北西端を流れる佐志川がある。これらの大河川や中小河川流域により、唐津平野内の遺跡立地はさらに地域区分ができる。

唐津平野の地形発達は海岸線の変化と密接に関わり、井関氏（1982）や下山氏（1994）の先行研究がある。井関氏の研究は唐津平野の地形発達史の嚆矢である。縄文海進の海域の拡大による奥唐津湾の範囲を想定し、唐津平野の地形発達史の原型を示した。下山氏は海成層に含まれる海棲生物化石のうち貝殻に注目し、ボーリング資料により北部九州の海岸線を復元した。考古学的な検討は、コモ層の分布

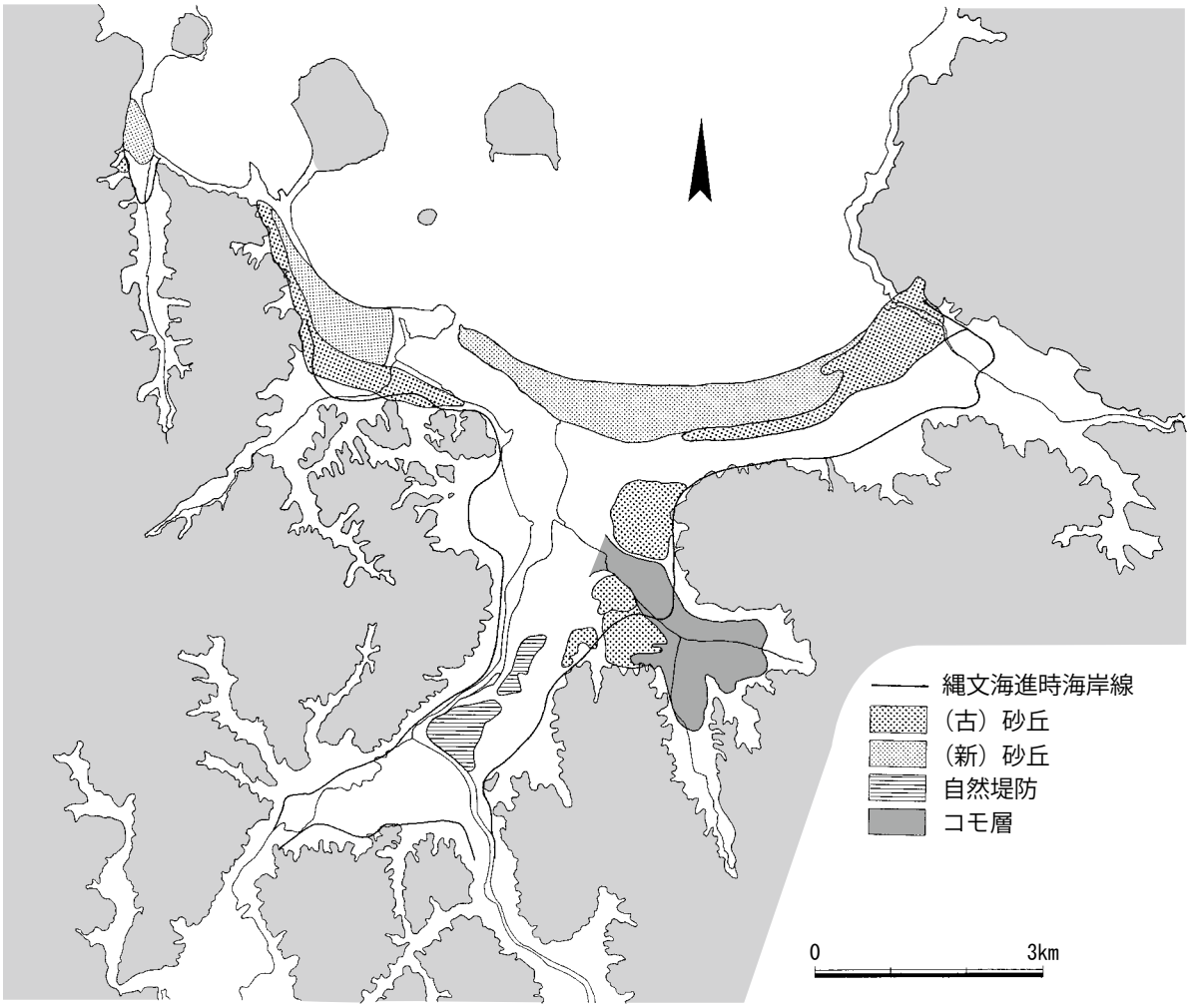


図３　旧海岸線・砂丘列地形分類図（1/100,000）

域を明らかにした木下氏（1981,1993）に始まる。近年田崎氏（2007）が唐津平野をモデルに、発掘調査データを用いて沖積低地の環境変遷を追っている。また小松・美浦（2008）は自然科学的な分析に加え、発掘調査成果を盛り込んで、現在までの唐津平野の地形発達と遺跡立地の関係についてまとめを行なっている。図３の縄文海進時海岸線は、これまでの研究をもとにしたものである。

縄文海進期の海面上昇の終焉後､幾度か訪れた海退現象により河川の堆積（沖積上部砂層）が拡大し、奥唐津湾は埋め立てられ現在の平野の概形が形成された。また同時に松浦川東岸地域と唐津市街地南部地域に砂丘列（古砂丘列）も形成され、初期稲作に適した後背湿地を生み出した。松浦川東岸の砂丘列は鏡山西麓の鏡集落から原集落、中原集落、徳武集落まで連続している。中原遺跡や後述する梅白遺跡は砂丘微高地上に立地するが、この砂丘の砂は極めて細く礫などを含まない風成砂である。井関氏は原集落と中原集落を古砂丘列としたが、西九州自動車道に係る文化財確認調査により梅白遺跡から中原遺跡間も砂丘があることが判り、夕日山北麓に広い砂丘が形成されていることが判明した。この古砂丘列の形成は発掘調査成果により縄文中期の前半代には始まっていることが分かった。

鏡山南麓の宇木川・半田川流域は砂丘列によって後背湿地になるが、この低地部に植物遺体層・通称コモ層が広く堆積する。木下氏（1981）は、昭和 40 年代末～ 50 年代にかけての農業基盤整備事業に係る文化財確認調査により、コモ層の分布範囲を明らかにした。宇木汲田貝塚遺跡や柏崎貝塚遺跡は、

縄文時代晩期～弥生時代前期の貝塚であり、後背湿地に面する丘陵裾部に立地する。発見された貝殻にヤマトシジミが多く見られた。そのため当該期、後背湿地は汽水性の潟であるとの考え方が支配的となり、コモ層の分布がその潟の範囲を示すものと考えられてきた。ところが、平成９年から始まった梅白遺跡の調査によって、コモ層の下から古墳時代の水田と、さらにその下層から縄文時代晩期～弥生時代中期の水田関連遺構が発見され、後背湿地の低地部においてもすでに水田開発が行われていたことが判ってきた。また､井関氏が想定した中原集落の砂丘はさらに夕日山北麓まで広がることも確認できた。

松浦川西岸の砂丘列は唐津市街地の南部地域に広がる砂丘であり、その背後に流れる町田川流域が後背湿地になる。菜畑遺跡の水田はこの後背湿地に、桜馬場遺跡は砂丘上に立地する。前述したコモ層は町田川流域にも広がっている。菜畑内田遺跡ではコモ層直下から梅白遺跡と同時期の古墳時代の水田が見つかっていることから、コモ層の堆積時期が宇木・半田川流域と同じであることが分かった。現在町田川の流路は砂丘列を横断し唐津城下が河口域になっているが、これは近世の河川改修の結果であり、それ以前の流路がどこを流れていたのかが問題である。小松・美浦（2008）では、和多田方面に東流し松浦川に注いでいたと想定している。

これに対し松浦川本流域ではコモ層は見つかるものの、その堆積時期は中原遺跡の調査成果により弥生後期中頃～後半と分かり、上述の流域とは違いがあることが分かった。堆積時期の違いは今後の検討課題である。

佐志川流域ではコモ層が発達しないことが発掘調査により確かめられている。河口部には砂丘列が形成されるものの規模が小さく、河口部を閉塞するまでには至らなかったためであろうか。中流域の汐入遺跡では縄文海進時の貝層が見つかっており、海岸線の推定ができるようになった。

唐津平野の旧地形のうち注目されるものの一つに玉島川の流路がある。現在の玉島川は北流して唐津湾に注ぐが、これは近世の河川改修によるものであり、旧玉島川は虹の松原砂丘と鏡山の間を西流していたと考えられる。新砂丘列は弥生～古墳時代に形成されたと考えられ、虹の松原砂丘の発達は玉島川河口を天然の良港に仕上げたと思われる。近世の河川改修は松浦川、町田川においても実施されており旧流路、旧地形の復元は遺跡の理解に不可欠である。このように小地域毎の地形発達の違いは、遺跡の形成時期や規模、性格が異なる要因となっている。

参考文献

木下巧 1981『古代末盧文化資料集成』肥前文化史研究会

井関弘太郎 1982「末盧の地形と地質」『末盧国』 六興出版

下山正一 1994「北部九州における縄文海進以降の海岸線と地盤変動傾向」『第四紀研究』33-5

田崎博之 2007「発掘調査データからみた砂堆と沖積低地の形成過程」『砂丘形成と寒冷化現象』科研費補助研究報告書

小松譲 2008『中原遺跡Ⅱ』佐賀県教育委員会

小松譲・美浦雄二 2008「弥生成立期の地理的景観―佐賀県唐津市唐津平野にみる初期農耕集落の出現と拡大」藤尾慎一郎『弥生時代の考古学第２巻　弥生文化誕生』 同成社

2，歴史的環境

唐津地方は前項で記したとおりの地理的条件のため原始・古代から半島・大陸文化受容の地であった。東松浦溶岩台地・通称上場台地や低地部（唐津平野）さらに東松浦半島海岸に浮かぶ島嶼などにそれぞれ特徴的な遺跡が立地することも記した。以下、松浦川東岸を中心に概観する。

［旧石器時代］

最も遺跡数が多いのは上場台地上である。台地上には比較的幅の広い谷がヤツデ状に発達しており、遺跡は谷部の湧水点近くに立地する。旧石器時代の著名な遺跡としてナイフ形石器文化の唐津市肥前町磯道遺跡(1)や生石遺跡(2)、細石器文化の唐津市原遺跡(3)などがある。東松浦半島周辺の海岸部や島嶼でも旧石器時代から人類の活動の痕跡が認められる。馬渡島、加唐島、小川島、神集島からはナイフ形石器などが採集されている。最終氷期の最盛期の海面は現在より約130m低位にあったと考えられており、現在の島という地形ではないことも考慮しなければならない。松浦川東岸では、赤野遺跡(4)を代表に丘陵裾部の遺跡から極少量の遺物が見つかっているだけで、遺跡数が非常に少なく、詳しい状況は分かっていない。

［縄文時代］

上場台地上では押型文土器・石鏃が出土した牟田辻遺跡や住居跡、組織痕文土器を出土した女山遺跡(5)、晩期の貯蔵穴状土坑を検出した唐の川高峰遺跡(6)や梨川内村前遺跡(7)があり、早期と晩期前半に上場台地では遺跡数が増大することが指摘されている。低地部では、西唐津海底遺跡(8)では前期の土器が出土しており、菜畑遺跡(9)では前期～後期の遺構と遺物が、徳蔵谷遺跡(10)では中～後期の遺構と大量の遺物が確認されている。近年の調査で玉島川流域の五反田松本遺跡(11)から、縄文中期後半代～後期にかけての大量の遺物が流路状の落込みから見つかり、注目すべき成果が挙がっている。松浦川東岸では丘陵裾部や砂丘微高地上に遺跡が点在しているが、規模が小さく遺構は見つかっていない。辻裏遺跡(12)、井ゲタ遺跡(40)、梅白遺跡(13)がこれにあたる。

［弥生時代］

東松浦半島海岸部や島々には弥生時代の遺跡もみられる。これらは漁撈を生業とした海人集団の活動の痕跡であろう。とくに拠点的な地域として加部島、呼子周辺と神集島、湊、相賀周辺がある。唐津市呼子町大友遺跡(14)では、弥生時代前期～後期前半の約 150 基の墳墓が確認されている。甕棺墓、配石墓、土壙墓、箱式石棺墓、石囲墓、敷石墓、支石墓など埋葬施設の種類が多く、埋葬方法なども五島列島など西北九州の埋葬との共通性がみられる。また、南海産の貝輪を副葬していることも特筆され、海人の共同墓地と考えられる。呼子港の対岸に浮かぶ加部島には古墳時代後期の瓢塚前方後円墳が所在する。さらに加部島には式内社である田島神社が鎮座しており、古墳時代～古代において海上交通の要所であったことが伺える。呼子町から約 5km 南東に位置する唐津市湊周辺にも弥生～古墳時代の遺跡がみられる。湊中野遺跡(15)では弥生中期～後期の焼土坑が確認されている。唐津平野や糸島半島が望める眺望のいい立地であり、焼土坑は「のろし」的性格が考えられている。雲透遺跡(16)では弥生時代中期の貝塚が調査され、鹿角製のヤスや釣針のほか貝輪などが出土した。これらの大友遺跡、湊中野遺跡、雲透遺跡では糸島・福岡平野系の土器が出土していることも特筆される。湊の対岸に浮かぶ神集島には短甲や鉄刀を出土した学校東古墳群や鬼塚古墳群がある。また相賀には陶質土器を出土した相賀古墳もあり、湊・神集島周辺も海上交通の要所であった。

縄文時代晩期後半になると、低地部に形成された砂丘列背後の低湿地が初期稲作の適地となり、町田川流域では菜畑遺跡が、宇木川流域では宇木汲田遺跡(17)が出現する。菜畑遺跡では我が国最古の水田跡が確認された。晩期以降、唐津平野において多くの著名な遺跡が出現するが、それは河川流域毎に遺跡の

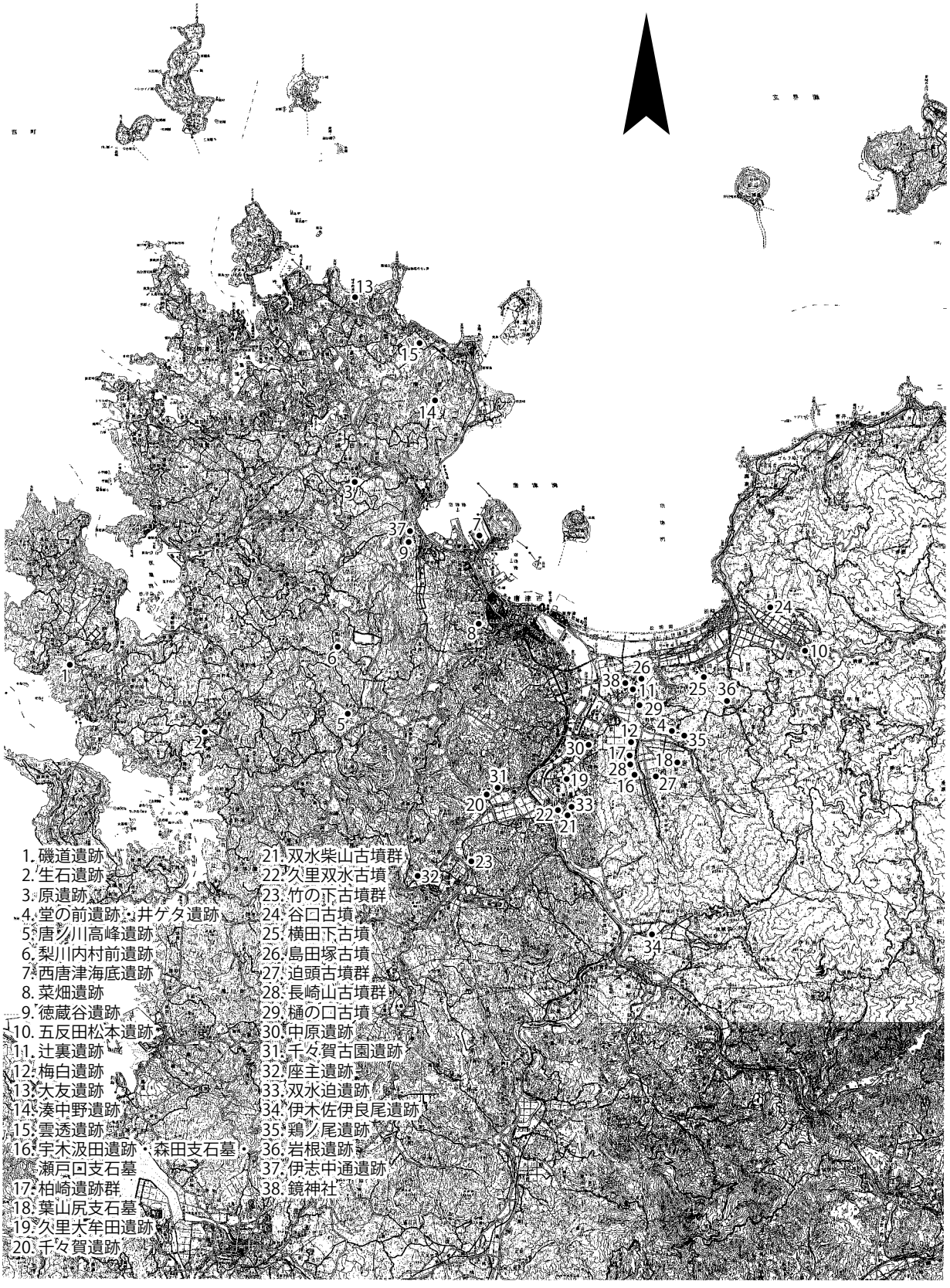


図４　周辺遺跡分布図（1/70,000）

まとまりを形成する。

唐津平野の中で調査事例も多く、研究史的にも重要な遺跡が多いのは松浦川東岸の宇木川・半田川流域である。宇木汲田貝塚遺跡では、1965 年の日仏合同調査により、縄文時代晩期の夜臼式期の土器底部に炭化米や籾圧痕が発見され、稲作の存在を提示した。貝塚から 200 ～ 300m 南方の宇木汲田遺跡では、昭和初期に銅剣、銅矛が発見されており、1957 年の東亜考古学会、1965、1966 年の日仏合同調査で、甕棺墓群から多鈕細文鏡、細形銅剣、銅矛、銅戈、銅釧、玉類など多数の副葬品が出土した。柏崎貝塚は昭和初期の耕地整理によって発見されその後、数回の学術調査が実施され弥生前期後半の短期間に形成されたものであることが判った。柏崎遺跡[18]では明治末に触角式銅剣、銅矛が発見され、柏崎田島遺跡の甕棺墓群では異体字銘帯鏡が柏崎大深田遺跡からは広形銅矛の鋳型が出土している。

また、唐津平野には西北九州に特徴的に分布する支石墓がみられる。葉山尻支石墓[19]では 1952、1953 年の調査で支石墓と甕棺墓を検出しており、この他瀬戸口支石墓、森田支石墓などが調査された。梅白遺跡は本事業により 1997 年～ 1999 年に調査が実施され、弥生、古墳時代の集落と水田を確認した。このように、鏡山南麓の宇木川・半田川流域は、砂丘形成による後背湿地の出現という初期稲作に適した地理的条件をもとに、農耕集落が出現、発展する。その発展の様子は、墳墓出土の鏡や青銅器、玉類、銅釧などの副葬品からも伺える。

本報告の中原遺跡は松浦川右岸で後背湿地を形成した砂丘微高地上に立地する。弥生時代中期の甕棺墓や終末期～古墳時代初頭の墳墓から青銅鏡、鉄剣、玉類が出土している。また、中期の鋳型片 4 点も出土しており、宇木汲田遺跡と並び弥生時代中期の拠点集落である。

弥生時代中期後半以降、松浦川本流域の遺跡群が発展していく。久里大牟田遺跡[20]では鉛製の矛や銅矛、銅戈などが甕棺、土壙墓から出土している。松浦川の左岸に注ぐ徳須恵川の下流に立地する千々賀遺跡群は中期から後期にかけて発展していく。千々賀庚申山遺跡からは細形双耳銅矛や銅戈が、千々賀遺跡からはイモ貝縦切銅釧が、千々賀遺跡[21]からは赤色漆で同心円文や鋸歯文を描いた容器蓋 3 点とともに、中期から後期の多量の土器や建築部材が出土している。

菜畑遺跡や桜馬場遺跡は町田川流域にあたる。菜畑遺跡では、初期に水田が開かれた後も継続的に水田が営まれており、流域の拠点的な遺跡である。桜馬場遺跡では、後期の甕棺墓から方格規矩鏡、有鉤銅釧、巴形銅器が見つかっており、このほか広形矛先や内行花文鏡片も採集されている。近年調査が行なわれ、不時の発見であった甕棺や副葬品が再確認され、大きな話題となった。

このように唐津地域では多くの厚葬墓が発見されており、稲作が開始されて首長層が出現、展開していく過程を看取することができる。東松浦半島や島々にも弥生時代の遺跡は分布するが青銅器を副葬するような首長墓は松浦川流域やその支流である宇木川・半田川流域や町田川流域に限られる。

宇木汲田遺跡では多くの青銅製武器が出土しているが、複数の青銅製武器や青銅製品を副葬した墳墓は少なく、その分布からみても有力集団墓であることは明瞭である。また、宇木川・半田川流域の厚葬墓の分布をみると鏡山山麓部には厚葬墓がないことが判る。同時期の墳墓群は立地するにも関わらず、厚葬墓がないことは同流域において集団格差が生じていることを物語る。

また、中原遺跡は宇木汲田遺跡や柏崎遺跡群と至近距離であるが生産基盤となる水田などの立地が両遺跡とは異なることは集団系譜を考える上で重要であろう。唐津平野での特定個人墓の出現は後期前半の桜馬場遺跡である。ただし、その周辺には伝平野町出土の銅矛以外青銅器の出土はみられず、市街地化が進み周辺の遺跡の分布状況が判らないため、遺跡の形成過程が追えない。

終末期以降、松浦川右岸地域で首長墓が出現する。中原遺跡で墳丘墓3基や土壙墓・木棺墓・石棺墓

群が出現する。破砕鏡や鉄剣、玉類を副葬した厚葬墓である。墳丘墓3基は溝で区画された個人墓である。土壙墓・木棺墓・石棺墓群は墳丘墓のあとに造営された数基からなる集団墓であり 4 つの群からなる。古墳時代初頭には前方後円墳と周溝墓がつくられるなど、古墳時代初頭前後の首長墓が確認できた。

［古墳時代］

古墳時代前期の首長墓には松浦川流域の双水柴山 2 号墳[22]、中原遺跡 ST12032、久里双水前方後円墳[23]がある。古墳時代初頭の双水柴山 2 号墳は全長 34.7m で丘陵の尾根上に造られる。主体部は木棺である。久里双水前方後円墳は全長 108.5m で、竪穴式石室から盤龍鏡、碧玉製管玉、棺外から刀子が出土した。近年徳須恵川流域の唐津市北波多の竹の下古墳群[24]で、前期に属すると思われる全長 32 mと 52 mの 2 基の前方後円墳がみつかり首長墓系譜に加えられることになった。前期後半から中期、後期にかけて首長墓は玉島川流域に移る。谷口古墳[25]は組合わせ式の長持形石棺を主体部にもち、仿製三角縁神獣鏡、碧玉製石釧など畿内的要素をもつ。その後、初期横穴式石室をもつ横田下古墳[26]や、金銅製冠や銅椀などの渡来系文物を副葬した島田塚前方後円墳[27]が造られる。

中小古墳では宇木川・半田川流域に垂飾付耳飾り、三累環頭を出土した半田宮の上古墳[28]や竪穴系横口式石室のほか土壙墓、箱式石棺などが確認された迫頭古墳群[28]、同じく竪穴系横口式石室をもつ長崎山古墳群[29]、石障系石室をもつ樋の口古墳[30]などがある。中原遺跡[31]では複数の陶質土器や鉄鐸、初期の馬具、梅白遺跡の古墳水田流路中から軟質土器など渡来系文物の出土が目立つのも特筆される。他の地域では同事業で浜玉町渕上の仁田古墳群から遺存状態の良い埴輪窯が確認され、埴輪資料の少ない佐賀県で貴重な発見となった。

後期は他地域では群集墳が発達する時期であるが、唐津地域では数基単位の古墳群が形成されるに留まる。しかし加部島には多数の古墳が築かれていたと伝えられており、地域内では特異な存在である。半島への航路上重要な位置を占めていたことが要因であろう。

［奈良・平安時代］

古代の唐津地域は肥前国松浦郡にあたる。松浦郡は現唐津市、西松浦郡、長崎県平戸や五島列島、佐世保市などを範囲とする極めて広い面積をもつ。松浦郡の古代行政組織は肥前国風土記によれば郷 11 所、里 26 所、駅 5 所、烽 8 所である。この中の具体的な地名や駅名は肥前国風土記、延喜式、和名抄などの史料によってわかる。郷名は肥前国風土記に値嘉郷、和名抄に庇羅、大沼、値嘉、生佐、久利の郷名が記される。里名は肥前国風土記に賀周里がみえるだけである。駅名は肥前国風土記に逢鹿駅、登望駅、延喜式に磐氷、大村、賀周、逢鹿、登望の 5 駅名が記されている。烽は肥前国風土記に褶振烽、値嘉郷 3 所となっている。その他の地名の由来で鏡渡や大家島がみえる。

唐津地域の古代の主要な遺跡ではまず千々賀古園遺跡[32]が挙げられる。松浦川の支流である徳須恵川下流の西岸に位置する。唐津市教育委員会の 2 回の調査により掘立柱建物 8 棟を検出した。そのうちの 3 棟は大規模で L 字形の配置をもつ。特筆される出土遺物に銅製の天秤受け皿や蛇紋岩製の権（分銅）や平瓦片がある。平瓦には特徴的な幅広のカキ目が巡らされており、壱岐嶋分寺や法隆寺等で類例が見られる。また、墨書土器が 95 点出土している。墨書土器には「嶋守」「川上」「田造」等があり、最も多いのが「六」である。また「川部」は中原遺跡出土 1 号木簡にもみられる人名である。8 世紀前～中頃を盛期とし後半までの遺物がみられ、官衙的配置をした大型建物の存在などから松浦郡衙とも推定されてきた。

座主遺跡[33]は徳須恵川中流域の左岸に立地する。谷状低湿地の遺物包含層から石帯・巡方や墨書土器 15 点が出土した。墨書土器には「坂本」「廣」「大」「六」などがある。8 世紀代を中心とし、盆地状の



図５　主要遺跡分布図（1/50,000）

地形であることなどからも里あるいは郷のひとつとも考えられよう。双水迫遺跡(34)は松浦川右岸の久里に所在する。古代においても「久利郷」に含まれていたと思われる。詳細不明ながら 8 世紀代の集落が確認されている。伊岐佐伊良尾遺跡(35)は「生佐郷」内に所在する。掘立柱建物や鍛冶炉など 8 世紀代の集落が確認されている。鶏ノ尾遺跡(36)は鏡山南麓に立地する。平安時代の鍛冶炉と奈良～平安時代の炭窯等の遺構の他、谷部の整地層から大量の土師器供膳具と共に緑釉陶器、越州窯系青磁、播磨系須恵器が出土している。岩根遺跡(37)は鏡山南東麓の丘陵上に立地する。9 世紀代の製鉄関連遺構を確認した。製錬炉本体は確認できなかったが、遺物の検討から箱形炉であることが判った。製鉄を主体とし精錬鍛冶から鍛錬鍛冶までの作業が行われていた。

延喜式に記載された大村駅は唐津市浜玉町東北部にある大村神社周辺が比定地である。大村神社の境内から布目瓦が出土し、社殿背後に基壇状の盛り土もみられ、奈良時代の寺院跡と考えられる。三代格や東大寺要録にみられる弥勒知識寺と推定されている。中世以降も交通の要所であったと思われ、草野氏が山城や居館を築いている。

肥前国風土記にみえる賀周里や賀周駅は地名などからも唐津市見借がその推定地と考えられてきた。見借は佐志川の上流にあたるが、その河口に立地するのが佐志中通遺跡(38)や徳蔵谷遺跡である。両遺跡からは遺構こそ確認されていないが 8 世紀代の土器が出土している。佐志中通遺跡からは腰帯金具も出土している。賀周里や賀周駅を比定する上で参考になる遺跡であろう。

この他、逢鹿駅や登望駅に比定できる遺跡や調査事例はみあたらないが、地名や弥生、古墳時代以降の遺跡群の分布などを考えても、逢鹿駅は唐津市相賀周辺に登望駅は唐津市呼子周辺に比定できるであろう。

[中世以降]

古代後半以降近世に至るまで中原遺跡では遺構や遺物が激減する。これと入れ替わるように遺構や遺物の確認が急増するのが、現鏡集落が所在する鏡山西麓の砂丘である。11 世紀には鏡神社(39)が建造物として成立していると考えられ、それ以降の時期の遺跡が砂丘のほぼ全体に広がっている。近世になり松浦川本流域の本格的な開発が行なわれる。それまでは谷部の扇状地を利用した谷水田であったものが、積極的な新田開発により平野のほぼ全域が水田域となっている。

遺跡文献

1，堀川義英 1981『田尾遺跡群磯道遺跡』肥前町教育委員会
2，堀川義英 1978『生石・森の下遺跡』佐賀県教育委員会
3，松岡史・富桝憲次 1960「佐賀県東松浦郡鎮西町字原出土の細石器」『九州考古学』10
　杉原荘介・戸沢充則 1971「佐賀県原遺跡における細石器文化の様相」『考古学集刊』4-4
4，小松譲編 2006「赤野遺跡」『大江前遺跡』佐賀県教育委員会
5，日本考古学協会西北九州総合調査特別委員会編 1960「島原半島（原山、山ノ寺、礫石原）および唐津市（女山）の考古学的調査」『九州考古学』10
6，田島龍太 1996『唐ノ川高峰遺跡』（3）唐津市教育委員会
7，内田孔明 1996『梨川内村前遺跡』（2）唐津市教育委員会
8，松岡史・森醇一朗 1982「西唐津海底遺跡」『末盧國』六興出版
9，中島直幸・田島龍太 1982『菜畑遺跡』唐津市教育委員会
10，田島龍太 1995『徳蔵谷遺跡』（2）唐津市教育委員会

田島龍太 1996『徳蔵谷遺跡』(3) 唐津市教育委員会
11, 田島龍太 2008『五反田松本遺跡』唐津市教育委員会
12, 田島龍太 1989『唐津市内遺跡確認調査（４）』唐津市教育委員会
13, 小松譲 2003『梅白遺跡』佐賀県教育委員会
14, 東中川忠美 1981『大友遺跡』呼子町教育委員会
15, 中島直幸 1985『湊中野遺跡』唐津市教育委員会
16, 仁田坂聡 1998『雲透遺跡Ⅱ』唐津市教育委員会
17, 岡崎敬ほか 1982「宇木汲田遺跡」『末盧國』六興出版
18, 堀川義英 1980『柏崎遺跡群』佐賀県教育委員会
中島直幸 1980『柏崎松本遺跡』唐津市教育委員会
中島直幸 1982「柏崎遺跡群」『末盧國』六興出版
19, 渡辺正気 1982「葉山尻支石墓」『末盧國』六興出版
20, 中島直幸 1980『久里大牟田遺跡』唐津市教育委員会
21, 仁田坂聡 2001『千々賀遺跡』唐津市文化財調査報告書第 102 集
22, 中島直幸 1987『双水柴山遺跡』唐津市教育委員会
23, 唐津市教育委員会 1992『久里双水古墳確認調査概要報告』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 1993『久里双水古墳確認調査概要報告（２）』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 1994『久里双水古墳確認調査概要報告（３）』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 2009『久里双水古墳』唐津市教育委員会
24, 陣内康光 2008『竹の下古墳群』唐津市教育委員会
25, 亀井明徳 1982「谷口古墳」『末盧國』六興出版
26, 小田富士雄 1982「横田下古墳」『末盧國』六興出版
27, 岡崎敬・本村豪章 1982「島田塚古墳」『末盧國』六興出版
28, 松岡史 1962「第二編　古代」『唐津市史』唐津市
29, 中島直幸 1983『柏﨑小長﨑遺跡』唐津市教育委員会
30, 高倉洋彰 1982「樋の口古墳」『末盧國』六興出版
31, 田島龍太 1987『中原遺跡』唐津市教育委員会
小松譲 2002『中原遺跡』佐賀県教育委員会
32, 伴耕一朗 1991『千々賀古園遺跡』唐津市教育委員会
仁田坂聡 1997『千々賀古園遺跡』(2) 唐津市教育委員会
33, 森田孝志 1981「座主遺跡」『押川遺跡』佐賀県教育委員会
34, 田島龍太 1982「双水迫遺跡」『末盧國』六興出版
35, 蒲原宏行 1986『伊岐佐遺跡群』相知町教育委員会
36, 草場誠司 2003『鶏ノ尾遺跡』(2) 唐津市文化財調査報告書第 109 集
37, 小松譲 2006「岩根遺跡」『大江前遺跡』佐賀県教育委員会
38, 岩尾峯希 2002『佐志中通遺跡』(2) 唐津市教育委員会
39, 中島直幸 1986『鏡神社経塚』唐津市教育委員会
唐津市教育委員会 1986『鏡神社』鏡神社一の宮建設委員会
40, 小松譲 2000『堂の前・井ゲタ遺跡』佐賀県教育委員会

Ⅲ．調査の概要

１，中原遺跡の調査歴

中原遺跡は本事業による発掘調査以前に過去２回の発掘調査が実施されており、また、本発掘調査期間中に同遺跡内を唐津市教育委員会が発掘調査を行っており、現在までに４回の発掘調査が実施された。以下が中原遺跡の調査歴である。

	期　　間	調査主体	文　　献
1	1965年11月11日～11月21日	日仏合同調査団	『末盧国』六興出版 1982 年
2	1986年4月9日～7月17日	唐津市教育委員会	唐津市教育委員会 1987『中原遺跡』 唐津市報 18 集
3	1999年7月5日～2005年7月1日	佐賀県教育委員会 （本事業）	『中原遺跡Ⅰ～中原遺跡Ⅷ』（本書） 以下刊行中
4	2005年10月5日～2006年3月31日	唐津市教育委員会	唐津市教育委員会 2006『中原遺跡 (2)』 唐津市報 129 集

このうち、1965 年の日仏合同調査と 1986 年の唐津市教育委員会の発掘調査区は本事業の 11 ～ 13 区の中に含まれる。

日仏合同調査は第１トレンチと砂丘形成状況確認のための第２トレンチが設定された。第１トレンチでは５基の甕棺と古墳時代後期の石組遺構を検出しているが、石組遺構は本事業で検出した ST11158 前方後円墳の葺石であることが判った。５基の甕棺墓は中期に属し、５号甕棺から硬玉製勾玉１、碧玉製管玉７が、７号甕棺の棺内から鉄戈が、棺外から鉄矛が出土している。この他、包含層から鋳造鉄斧側片が出土している。

1986 年の唐津市教育委員会による調査は宅地造成に伴うもので、本事業の 11 区、12 区、13 区にまたがる。検出した主な遺構は弥生時代中期の甕棺墓３基と古墳時代前期の周溝墓４基、中期の円墳の周溝と近世の井戸跡１基である。周溝墓のうち、１号、３号、４号周溝墓は本調査でも確認できたが、２号周溝墓は確認できなかった。１号周溝墓の埋葬主体部は２基からなり土壙墓（木棺墓？）であった。

円墳の周溝は本事業で検出した ST11141 古墳の周溝である。周溝内から須恵器有蓋高杯、壺、𤭯が、鉄製品には鉄鐸６のほか鉄鎌、摘鎌、刀子、鉇が、玉類として滑石製有孔円盤、滑石製臼玉、ガラス小玉、琥珀小玉、管玉、土製勾玉などがある。

2005 年の唐津市教育委員会による調査は道路新設に伴うもので、本事業調査区の西方に位置する。調査対象地は低湿地帯にあたり、包含層から弥生時代後期、古墳時代前期、中期の土師器のほか木製品などが出土している。特筆される遺物として朝鮮半島系の軟質土器である棒状の把手付き甑の破片が出土している。

２，遺跡の概要

中原遺跡は弥生・古墳時代の集落と墳墓および古代の官衙的な遺跡である。主に調査区の南半部に弥生・古墳時代の集落と墳墓が北半部で古代の官衙的的遺構や遺物が出土した。

遺跡の立地は第Ⅱ章で述べたとおり標高約４ｍの砂丘微高地上に立地する。調査面積は約 90,000㎡。遺跡の現況はやや起伏がみられ、水田と宅地、畑地、墓地であった。現況の宅地は 1980 年代に開発さ



図６　調査区位置図（1/6,000）

れた。聞き取りによると、それ以前は古墳の墳丘らしき盛土があったと言う。

図６に調査区位置図を掲載する。遺跡の南方は標高 272 mの夕日山からのびる丘陵の裾部にあたる。この裾部から砂丘微高地が北方にのびる。夕日山の北麓裾部にある池ノ浦溜池は深い谷地形を利用している。旧地形は夕日山に源をもつ流路がこの谷地形を経由して旧松浦川に注いでいたと思われる。本調査区の南端に幅20～30ｍの落ち部がみられるが、夕日山から注ぎ出た自然流路であったかもしれない。このように概ね南北に形成された砂丘微高地は所々東西方向に走る谷状の地形によって分断される。本調査区内においても 13 区南端と２区、５区、７区にわたる谷地形がみられる。この谷地形は弥生時代には存在しており、古墳、奈良・平安時代にかけて序々に埋没していく。本遺跡の評価をする上で以上

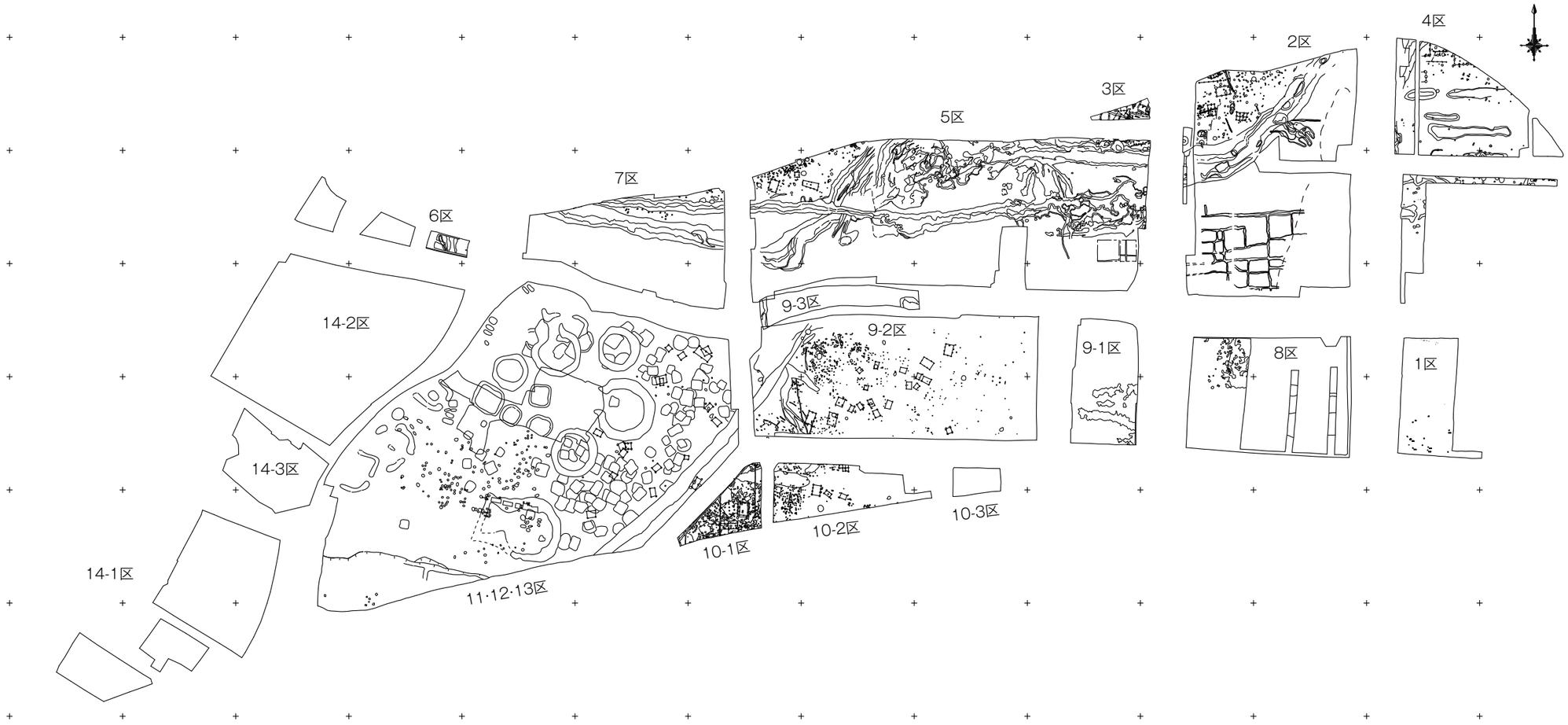


図７　中原遺跡全調査区遺構配置図（1/2,000）

のような旧地形の復元は欠かせない。

図 7 は本遺跡全調査区の遺構配置図である。図 8 は調査区毎に撮影した空中写真を合成したものである。図 8 の空中写真では黄褐色と黒褐色の部分が見て取れる。黄褐色の部分が砂丘微高地であり、黒褐色部分が低地部になる。砂丘微高地は 11 ～ 13 区にかけて広がる。砂丘微高地の南北両側は幅約 20 ～ 30 mの谷状地形になり、東側は緩やかに、西側はやや急に傾斜して低地部になる。従って、本調査区は独立した砂丘微高地をほぼ全掘したことになる。この砂丘微高地上に分布するのが弥生・古墳時代の集落と墳墓である。弥生時代の墳墓は甕棺墓約 281 基、土壙墓 14 基、終末期の墳丘墓 3 基を検出した。甕棺、土壙墓、木棺墓は前期後半に出現し、中期前半から中期中頃にかけてピークをむかえ、中期後半から後期前半にかけて衰退していく。副葬品を所有する墓群が数群みられ特定有力集団墓を形成する。甕棺埋葬法や副葬品種別において唐津地域の弥生墳墓の地域性がみられる。甕棺埋葬法では埋置角度が他地域に比べて急傾斜であり、直立棺や倒置棺も多く見られる。口縁部の打ち欠きも多く、さらには打ち欠いた口縁部を墓壙に埋置するものもある。副葬品では円環型銅釧 15 点､硬玉製勾玉 22 点、碧玉製管玉約 700 点等装身具の卓越があげられる。

調査区南側の谷状地形から南西部の低地部にかけて非常に多くの土器（コンテナ 1,000 箱以上）が出土した。土器群の時期は中期中頃～後半を主体とし後期前半までである。これらの土器群に混じって青銅器の鋳型が 4 点出土した。4 点とも両面鋳型であり、このうち 2 点が接合した。石材は石英―長石斑岩で中細形銅矛・銅剣の鋳型と思われる。鋳型片 4 点は調査区南西隅の比較的狭い範囲から多量の土器と共に出土している。調査区南側の谷状地形を挟んだ南側は調査区外になり、夕日山北麓裾部から北方にのびる砂丘微高地になる。ここに青銅器生産を行なった弥生集落中心部があると推定される。

また、上記の調査区南側の幅約 20 ～ 30 mの谷状地形は多量の杭を打ち込み、自然木を芯材として置いた堤防状の施設が造られる。堤防状の遺構には芯を中空に刳りぬいた木製の水管や、長さ約 4 m の木樋が埋置される。その周辺には木組遺構もあることから、堤防状施設は灌漑用か木の実などの水さらしの水量調節のための機能が考えられる。さらに、砂丘微高地西側縁辺の低地部からは、多量のヤスや石錘などの漁撈具が出土しており、中原遺跡は旧松浦川岸に立地していたことを伺わせる。

弥生時代終末期には特定個人墓である墳丘墓 3 基が出現する。平面形態は方形と長方形であり、いずれも西側に陸橋部をもち周溝が巡る。主体部は刳り貫き式の木棺で、棺内から硬玉製異形勾玉や碧玉製管玉、棺外から破砕された内行花文鏡や鉄剣が出土している。さらに周溝内埋葬施設もあり棺外から破砕された方格規矩鏡や鉄鏃、鉄剣が出土した。また、土壙墓・木棺墓群が 4 群あり破砕された獣帯鏡や折れ曲がった鉄剣、硬玉製勾玉、碧玉製管玉などが出土した。

古墳時代初頭には墳丘長 26 mの前方後円墳が造られる。主体部は削平されていたが、周溝内から石棺を確認した。さらに周溝を共有して周溝墓 4 基と平面方形、円形の周溝墓 4 基も造られる。

古墳時代中期の帆立貝式前方後円墳 1 基、円墳 3 基と後期の前方後円墳 1 基も確認した。後期の前方後円墳は墳丘長 33 mで内部主体は削平されていた。時期は 6 世紀後半である。

砂丘微高地は調査区の北側にも見られる。2 区、3 区、5 区、7 区の調査区北半部にみられ、この砂丘微高地上から古代の掘立柱建物群や井戸跡などを検出した。この砂丘微高地と前述した弥生・古墳時代の墳墓と集落が立地する砂丘微高地の間は谷状の地形になり、その中に流路が東西方向に横切る。検出した流路の総延長は約 360 mであり、流路からは木簡、墨書土器、緑釉陶器、奈良三彩の他、曲物、挽物皿等の木製品が多量に出土した。古代の官衙的遺構や遺物は全調査区の北半部の谷状地形にある流路や溝跡さらに砂丘微高地上にて検出した。



図８　中原遺跡全景

図９は本調査区の全遺構配置図を地形測量図に組み込み、遺跡の概略を示したものである。アミ部分は低地になる。11 ～ 13 区の砂丘微高地に弥生・古墳時代の墳墓と集落が立地し、南側の谷状地形をはさんで未調査ではあるものの、弥生時代の集落の中心部があることが予測される。古代の官衙関連施設や集落は弥生・古墳時代の遺跡が立地する砂丘のさらに北側の砂丘微高地に立地する。この砂丘微高地の東西幅は不明であるが、おおよそ 370 m、南北は約 150 mである。この範囲に古代の官衙関連施設や集落が立地すると予想される。

本報告書は南側の砂丘微高地上に立地する弥生時代～古墳時代の集落跡、古代の溝跡の報告である。



図９　遺跡概略（1/6,000）

3，9-2 区・9-3 区・10 区の概要

南側の砂丘微高地上に立地する弥生時代～古墳時代の集落跡の調査結果はこれまでに、『中原遺跡Ⅳ』2010 年刊で弥生時代の甕棺墓を、『中原遺跡Ⅴ』2011 年刊で弥生時代の土壙墓、木棺墓、祭祀土坑と古墳時代中期～後期の前方後円墳や円墳を報告した。さらに『中原遺跡Ⅵ』2012 年刊で、古墳時代初頭前後の墳墓群として墳丘墓、土壙墓、木棺墓群、前方後円墳と周溝墓群の調査を報告した。これら 3 冊は 11 区～ 13 区に分布する弥生時代～古墳時代の墳墓群の報告にあたる。『中原遺跡Ⅶ』2013 年刊は 11 区、12 区、13 区で検出した弥生時代～古墳時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑について報告しており、遺構数は竪穴住居 112 軒、掘立柱建物 22 棟、土坑 49 基、溝状遺構 1 条である。

本書は 9-2 区、9-3 区、10 区の弥生時代～古墳時代、奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝の報告である。これらの遺構一覧表を表 6 ～ 9、45 ～ 47 に、遺構配置図を図 10、11、95、96 にそれぞれ掲載する。以下は、主な遺構の概略である。

9-2 区では弥生時代後期後半から古墳時代前期の掘立柱建物 21 棟を検出した。建物群の柱根の遺存状態は比較的良好である。9-2 区北側から 9-3 区は砂丘微高地間の谷状地形には木組遺構 11 基、環状杭列 7 基が立地する。時期は弥生時代後期か。また、弥生時代中期後半の甕棺墓 1 基も検出した。このほか、奈良時代の直線溝 1 条がある。

10 区では弥生時代中期から古墳時代前期の竪穴住居 4 軒と、掘立柱建物 7 棟がある。また、奈良時代の掘立柱建物 3 棟は L 字形配置をしており、立て替えもみられる。また、奈良時代の鍛冶関連遺物を出土した土坑 1 基がある。

集落の各遺構の時期を示す編年として以下を用いた。

集落時期編年

田崎(1985)武末(1987)		蒲原(1992,2003)		小松(2002)	田辺(1966)
城ノ越式					
須玖Ⅰ式	古段階				
	新段階				
須玖Ⅱ式	古段階				
	新段階	村徳永式	1式		
			2式		
			3式		
		千住式	1式		
			2式		
			3式		
		惣座式	0式		
			1式		
			2式		
		夕ヶ里式			
		土師本村式	1式		
			2式	2A期	
			3式	2B期	TK73
				3期	TK216
				4A期	TK208
					TK23
				4B期	TK47
				5A期	MT15
					TK10
				5B期	TK43
					TK209
				6期	7世紀前半*
				7期	7世紀中～後*

参考文献

田崎博之 1985「須玖式土器の再検討」『史淵』122

武末純一 1987「須玖式土器」『弥生文化の研究』第 4 巻　雄山閣

蒲原宏之 1992「古墳時代初頭前後の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書』16

蒲原宏之 2003「佐賀平野における弥生後期の土器編年」『佐賀県立博物館・美術館調査研究書』27

小松　譲 2002「肥前地域における古墳時代中・後期土師器編年」『古墳時代中・後期の土師器』第 5 回九州前方後円墳研究会資料集

田辺昭三 1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古学クラブ

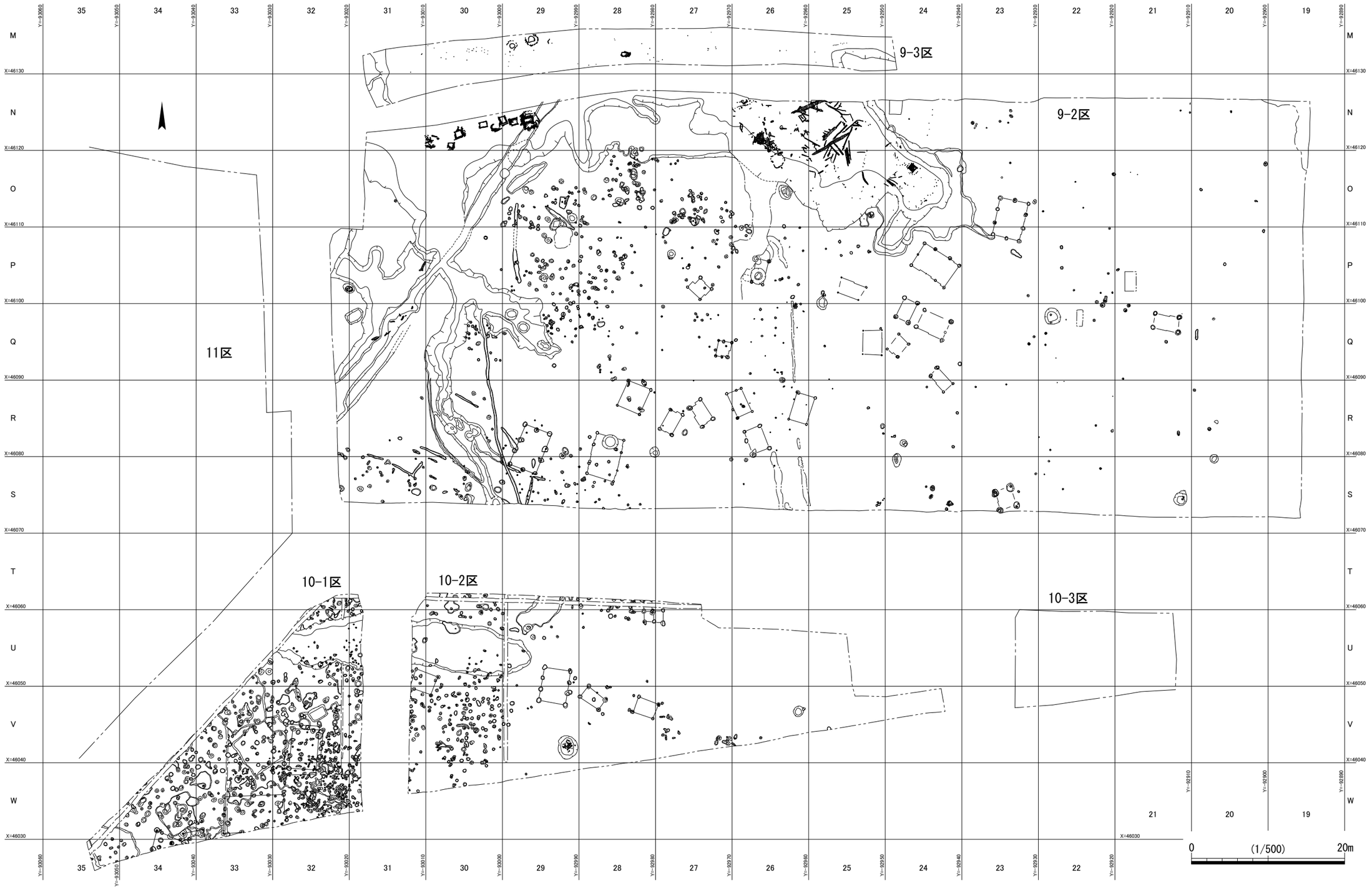


図10　9区・10区遺構配置図（1/500）

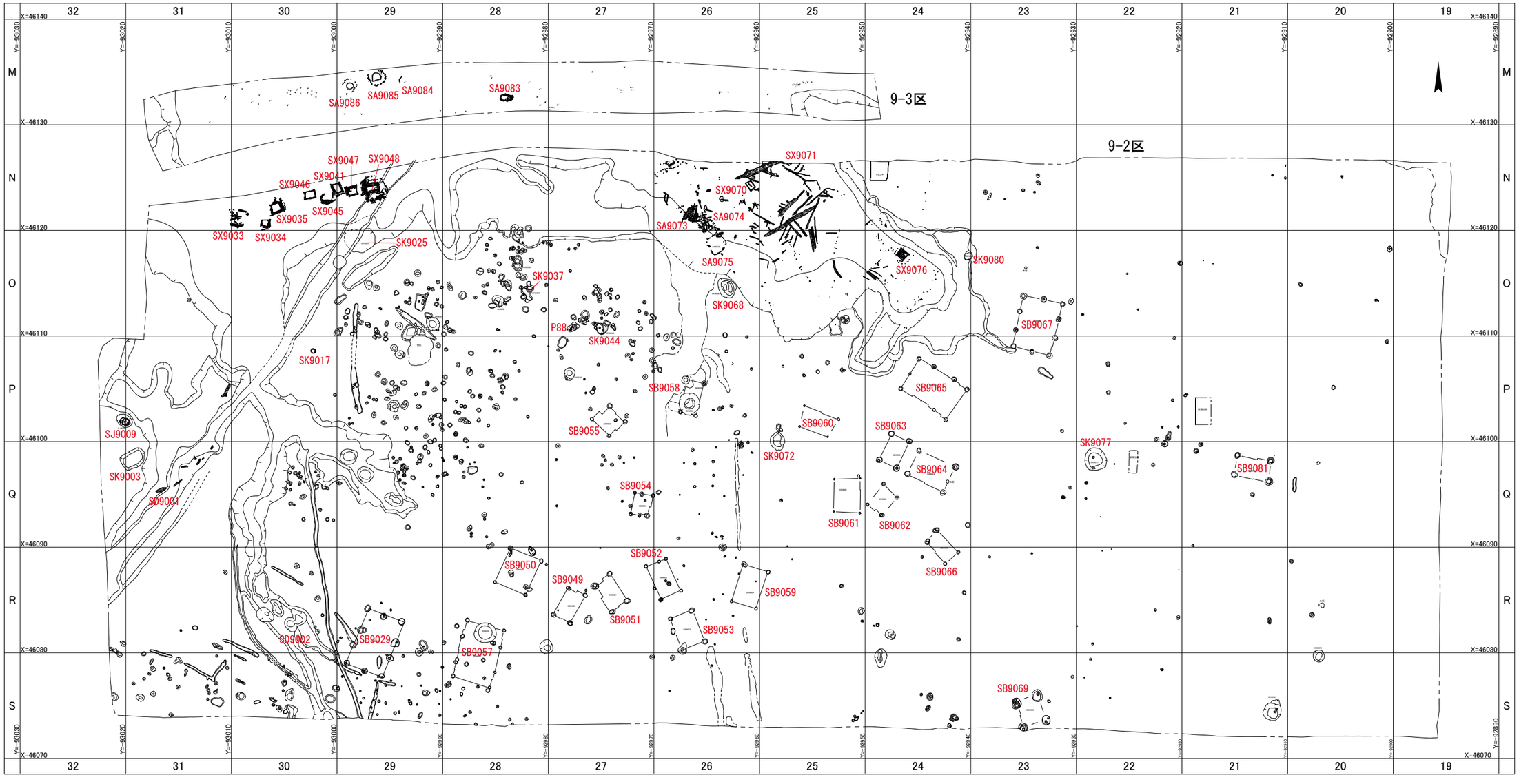


図11　９区遺構配置図（1/400）

Ⅳ．９-２区・９-３区の遺構と遺物

1，遺構

（1）掘立柱建物跡

ＳＢ９０２９

R･S-29区画に位置する。9-2区の掘立柱建物ではもっとも西側に位置する。約10mほど離れた東側に、同規模で主軸がほぼ同じSB9057がある。

桁間､梁間は３間×２間。桁行全長は5.50m。柱間は1.80～1.90m。梁行全長は3.60m。柱間は1.70～1.90m。床面積は19.8㎡。柱穴の平面形は円形で、径0.50～0.60m、深さ0.20～0.40m。桁主軸は北から東へ21°ふれている。

出土遺物は、P1、P2から弥生土器、土師器、P3、P4、弥生後期の土器。P7、P8からは須玖Ⅰ新から弥生後期の土器。P9、P10からは弥生土器が、柱材がP2～P4、P6から出土する。

ＳＢ９０４９

R-27区画に位置する。東側にはSB9051、北西側にはほぼ同じ主軸のSB9050がある。

桁間、梁間は1間×1間。桁行全長は3.00m。梁行全長は1.90m。床面積は5.7㎡。柱穴の平面形は楕円形で、径0.40～0.50m、深さ0.20～0.30m。桁主軸は北から東へ30°ふれている。全ての柱穴で径約20㎝の柱根が遺存していた。柱穴埋土については、P1～P3は地山状の黄灰色中砂を主体とした単層で、P4は柱根の周辺のみ黒褐色粗砂でその周りは地山状の砂であった。

出土遺物は、P3から弥生土器が出土した。

ＳＢ９０５０

R-28区画に位置する。南側と南東側にはほぼ同じ主軸のSB9049、SB9057がある。

桁間、梁間は1間×1間。桁行全長は3.60m。梁行全長は3.20m。床面積は11.52㎡。柱穴の平面形は円形で、径0.30～0.50m、深さ0.20～0.50m。桁主軸は北から東へ25°ふれている。P1、P2、P3で柱根遺存、柱根の径は約15㎝～20㎝である。P3は柱痕跡がみられた。柱穴埋土は地山状の灰黄色中砂で単層である。

出土遺物は、P2から弥生土器が出土した。

ＳＢ９０５１

R-27区画に位置する。西側にはSB9049、東側にはほぼ同じ主軸のSB9052がある

桁間、梁間は1間×1間。桁行全長は2.90～3.10m。梁行全長は2.00m。床面積は6.2㎡。柱穴の平面形は楕円形で、径0.40～0.70m、深さ0.10～0.30m。桁主軸は北から西へ33°ふれている。P1、P3、P4で柱根遺存、柱穴埋土は地山の灰黄色中砂で黒褐色中砂が少量混入する。P2は柱痕跡がみられる。

出土遺物は、P2から弥生土器が出土した。

ＳＢ９０５２

R-26・27区画に位置する。北側にはSB9054、東側にはSB9059、西側と南側にはほぼ同じ主軸のSB9051、SB9053がある。

桁間、梁間は1間×1間。桁行全長は3.50m。梁行全長は2.00m。床面積は7.0㎡。柱穴の平面形は円形で、径0.30～0.40m、深さ0.10～0.20m。桁主軸を北から西へ24°ふれている。P2は径約5㎝の柱根遺存、他の柱穴は柱痕も検出できなかった。柱穴埋土は地山状の灰黄色中砂に黒褐色細砂がブ

ロック状に混入する。

ＳＢ９０５３

R-26 区画に位置する。北側に主軸がほぼ同じ、SB9052 がある。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 3.20m。梁行全長は 2.30m。床面積は 7.36㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.30 ～ 0.90m、深さ 0.10 ～ 0.20m。桁主軸は北から西へ 21°ふれている。P4 は柱根が遺存し、P1 には柱痕が見られる。柱穴埋土は地山状の灰黄色中砂である。

ＳＢ９０５４

Q-27 区画に位置する。7m ほど離れた南側に SB9052、8m ほど離れた北西側に SB9055 がある。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 2.10m。梁行全長は 1.80m。床面積は 3.78㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.30 ～ 0.50m、深さ 0.20 ～ 0.30m。桁主軸は北から東へ 10°ふれている。P1 ～ P4 には径約 10㎝の柱根が遺存し、うち P1、P2、P4 は柱痕も遺存する。また、梁行の中央に柱穴があるが、浅く、柱根は検出できなかった。

ＳＢ９０５５

P-27 区画に位置する。北側には SK9042、SK9044 の土坑、東側には SB9058、SK9056 がある。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 2.30m。梁行全長は 2.10 ～ 2.30m。床面積は 4.53㎡。柱間は 2.10 ～ 2.30m。柱穴の平面形は楕円形で、径 0.30 ～ 0.50m、深さ 0.10 ～ 0.15m。桁主軸は北から西へ 47°ふれている。P3 は柱根が遺存する。P1、P2、P4 は柱痕が見られる。柱穴埋土は地山状の灰黄色中砂である。

ＳＢ９０５７

R・S-28 区画に位置する。西側には主軸をほぼ同じで同規模の SB9029、北東側には主軸がほぼ同じの SB9049、SB9050 がある。

桁間、梁間は 3 間× 1 間。桁行全長は 5.50m。柱間は 1.60 ～ 2.50m。梁行全長は 3.60 ～ 3.80m。床面積は 19.8㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.20 ～ 0.40m、深さ 0.10 ～ 0.30m。桁主軸を北から東へ 15°ふれている。P1 ～ P8 には柱痕が見られる。柱穴埋土は地山状の灰黄色中砂で、柱痕は黒褐色粗砂である。

出土遺物は、P2、P7 から弥生土器片が出土した。

ＳＢ９０５８

P-26 区画に位置する。7m 離れた西側には SB9055、北西側には土坑群が見られ、本遺構は SK9056 と重なる。

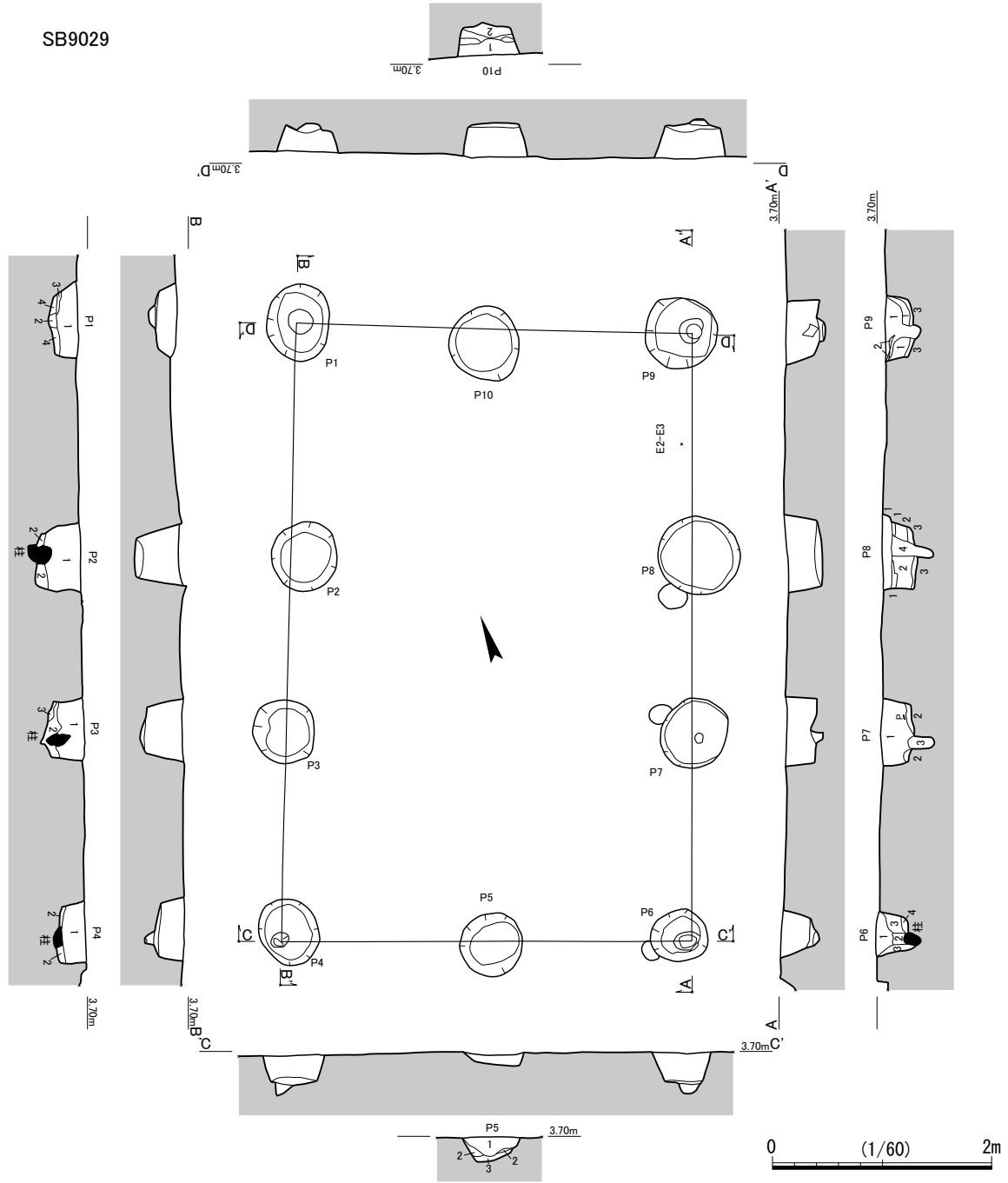
桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 3.10m。梁行全長は 1.50 ～ 1.80m。床面積は 5.58㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.30 ～ 0.70m、深さ 0.20 ～ 0.30m。桁主軸は北から東へ 10°ふれている。P1、P3、P4 は径 10㎝～ 13㎝の柱根が遺存する。

出土遺物は、P1 から弥生土器、土師器、P2、P4 からは布留式甕が出土した。

ＳＢ９０５９

R-25・26 区画に位置する。西側には SB9052、SB9053 がある

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 3.70m。梁行全長は 2.50m。床面積は 9.25㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.25 ～ 0.60m、深さ 0.10 ～ 0.15m。床面積は 9.25㎡。桁主軸は北から東へ 16°ふれている。P2、P3 には柱根が遺存し、P1 は柱痕が見られる。



P1
1. 黒褐色粘性砂質土(2.5Y 3/1) φ2～3㎜の白色砂を含む
2. 黒色粘質土(7.5YR 2/1) 柱が腐食してできた土とおもわれる
3. オリーヴ黒色粘性砂質土(5Y 3/2)
4. 地山起源の砂(オリーヴ褐色砂質土 2.5YR 4/4)

P2
1. P1の2に同じ
2. P1の4(地山起源の土)と暗褐色砂質土(10YR 3/3)
がマーブル状にまざりあう[1:2]

P3
1. P1の1に同じ
2. 暗オリーヴ褐色砂質土(2.5Y 3/3)
と地山起源の砂が層状に混じる
3. P1の4に同じ

P4
1. P1の1に同じ
2. 1と地山起源の砂の混じり[1:3]

P5
1. P1の1に同じ
下部に地山起源の砂を層状に含む
2. 1と3の混じり[2:1]
3. 地山起源の砂に1が若干混じる[4:1]

P6
1. P1の1に同じ両端に地山起源の砂を含む
2. P1の1に同じ柱付近のため空隙が多い
3. 1と地山起源の砂(オリーヴ褐色砂質土 2.5Y 4/4)の混じり
[1:2]
4. 灰黄色砂(2.5Y 7/2)とオリーヴ褐色砂質土(2.5 4/4)の混じり
[1:2]

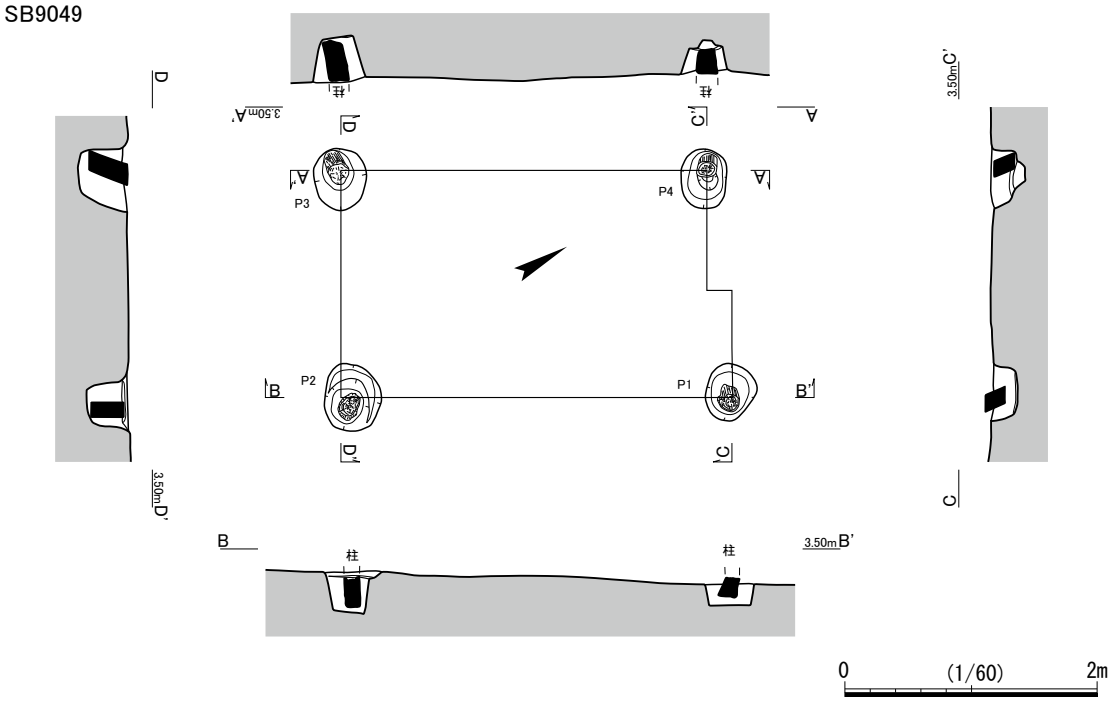
P7
1. P6の1に同じ
2. P1と地山起源の砂(2.5Y 4/4)
[1:2]
3. 黒褐色粘性砂質土(2.5Y 3/1)
柱が腐ってできたものとおもわれる

P8
1. P1の1と地山起源の砂の混[1:1]
2. P1の1に同じ
3. P6の4に同じ
4. 上部は2
下部は黒褐色粘性砂質土(2.5Y 3/1)
柱がくちたものとおもわれる

P9
1. P1の1に同じ
下部に暗オリーヴ褐色砂質土(2.5Y 3/3)
をブロック状に含む
2. 暗オリーヴ褐色砂質土(2.5Y 3/3)
3. 地山[灰オリーヴ色砂質土 5Y 5/2]
と黒褐色粘性砂質土(2.5Y 3/1)の混[3:1]

P10
1. P1の1と2の混[4:1]
2. P9の2に同じ

図12　SB9029掘立柱建物跡（1/60）



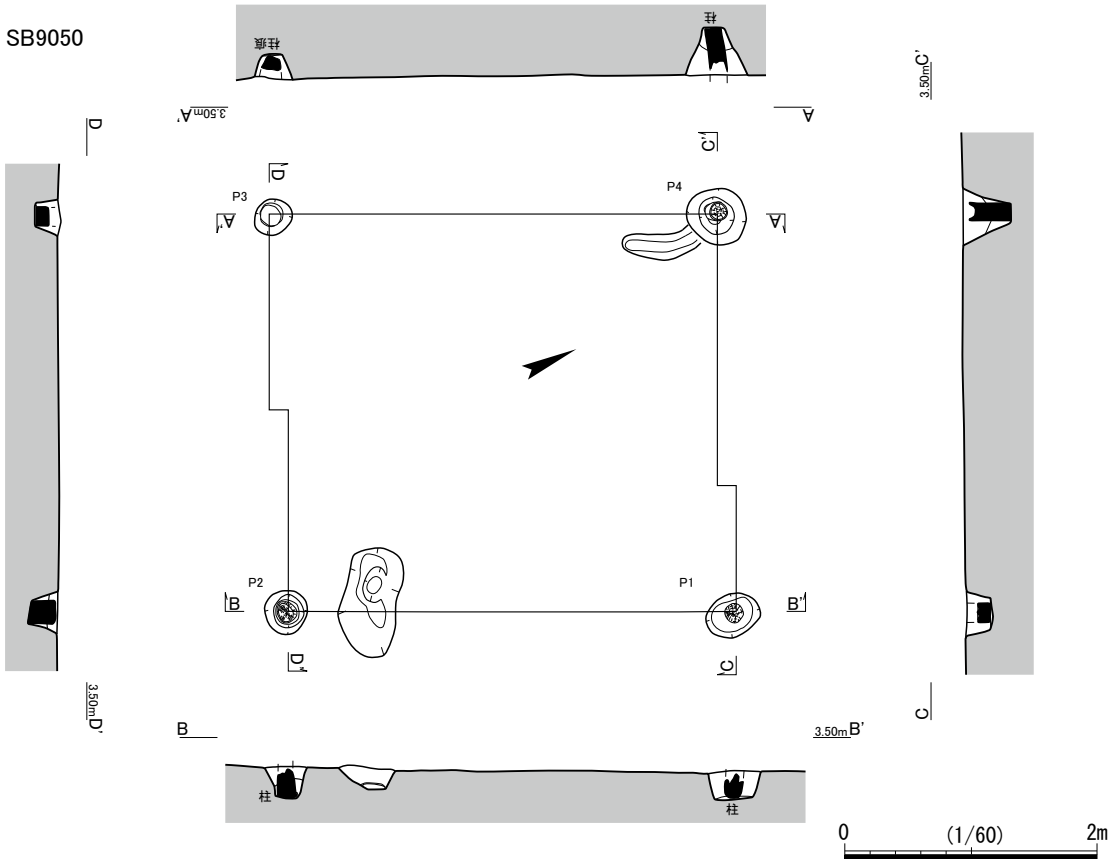
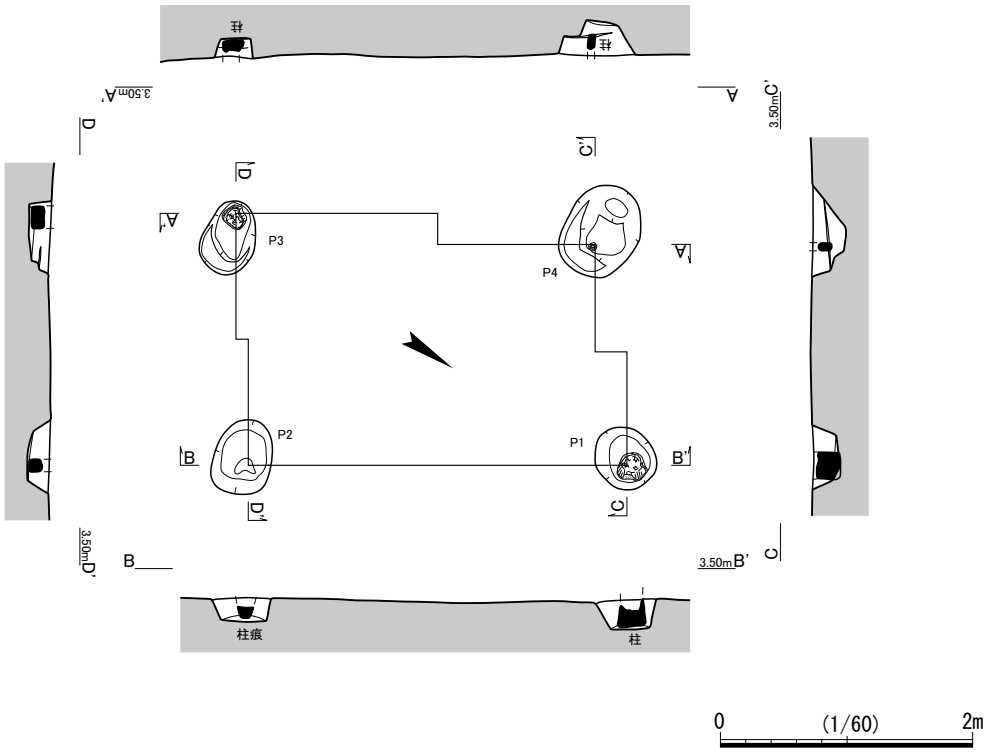


図13 SB9049・9050掘立柱建物跡（1/60）

SB9051



SB9052

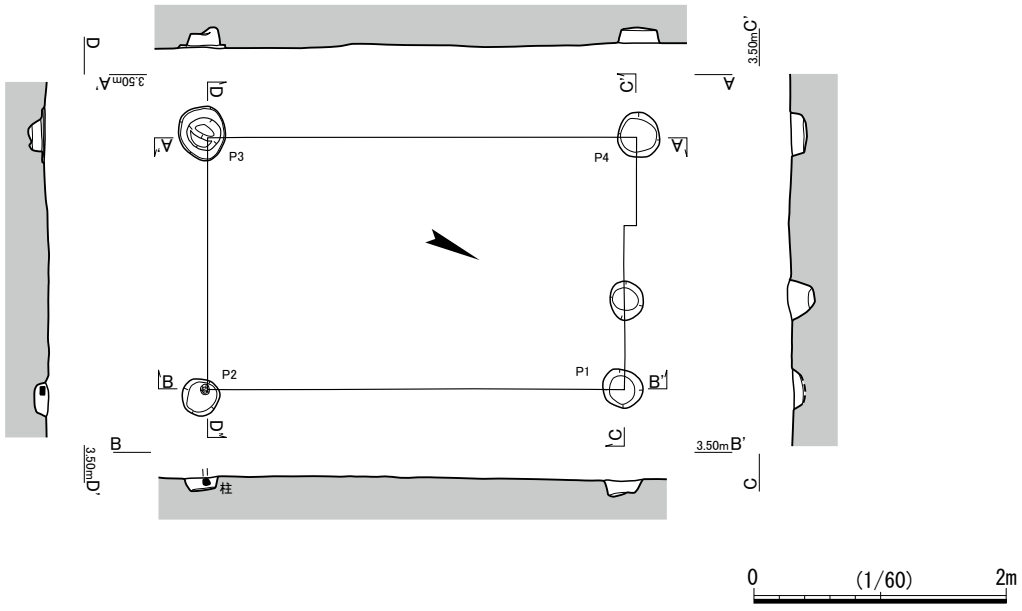
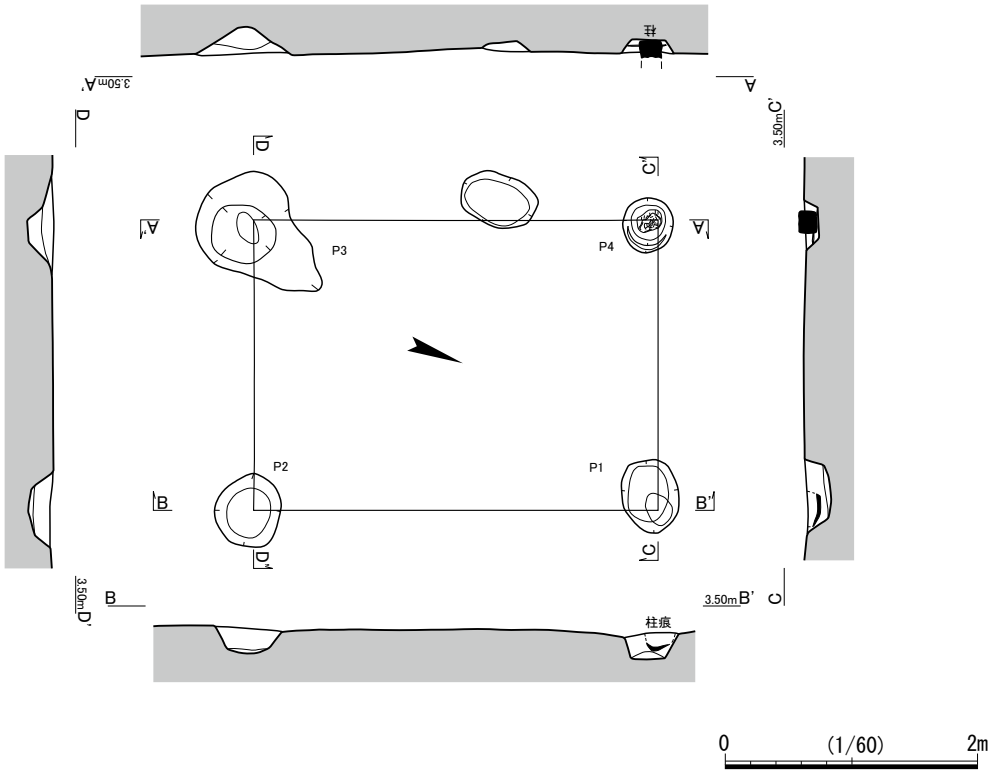


図14　SB9051・9052掘立柱建物跡（1/60）

SB9053



SB9054

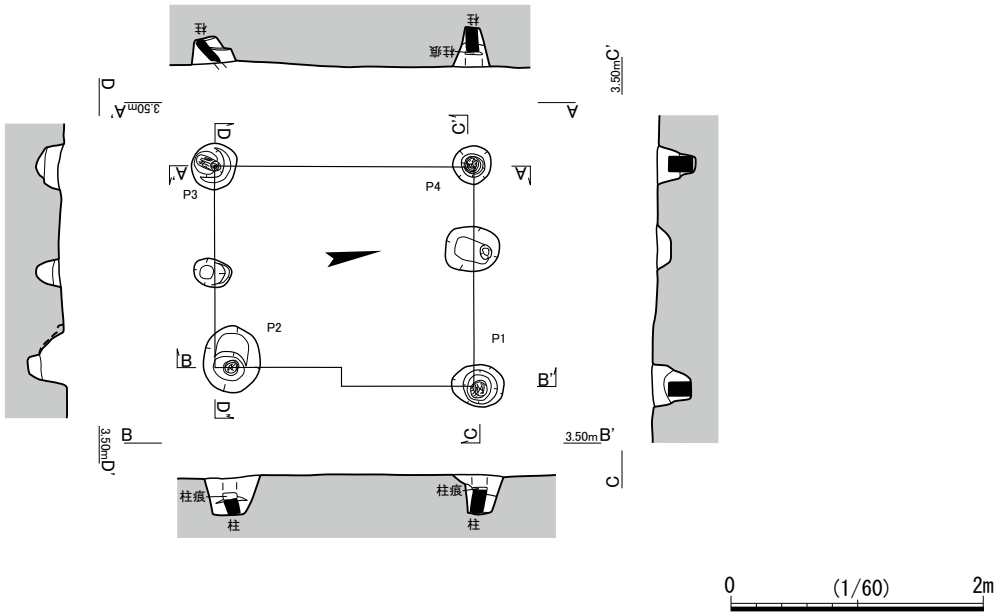
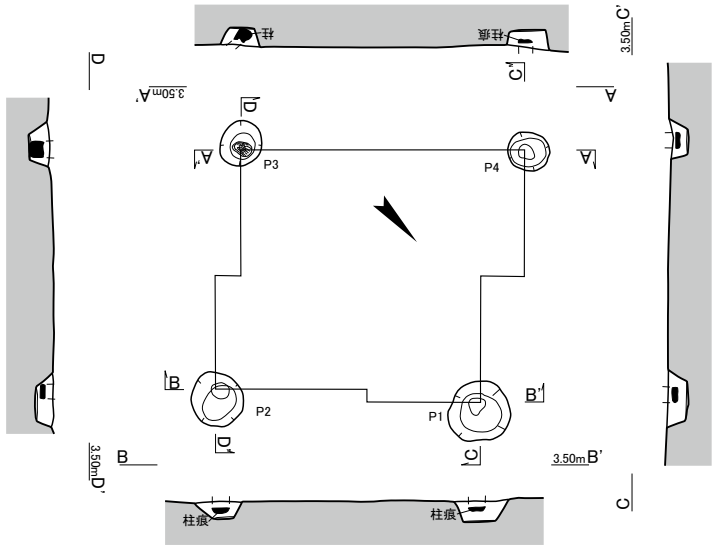


図15　SB9053・9054掘立柱建物跡（1/60）

SB9055





SB9057

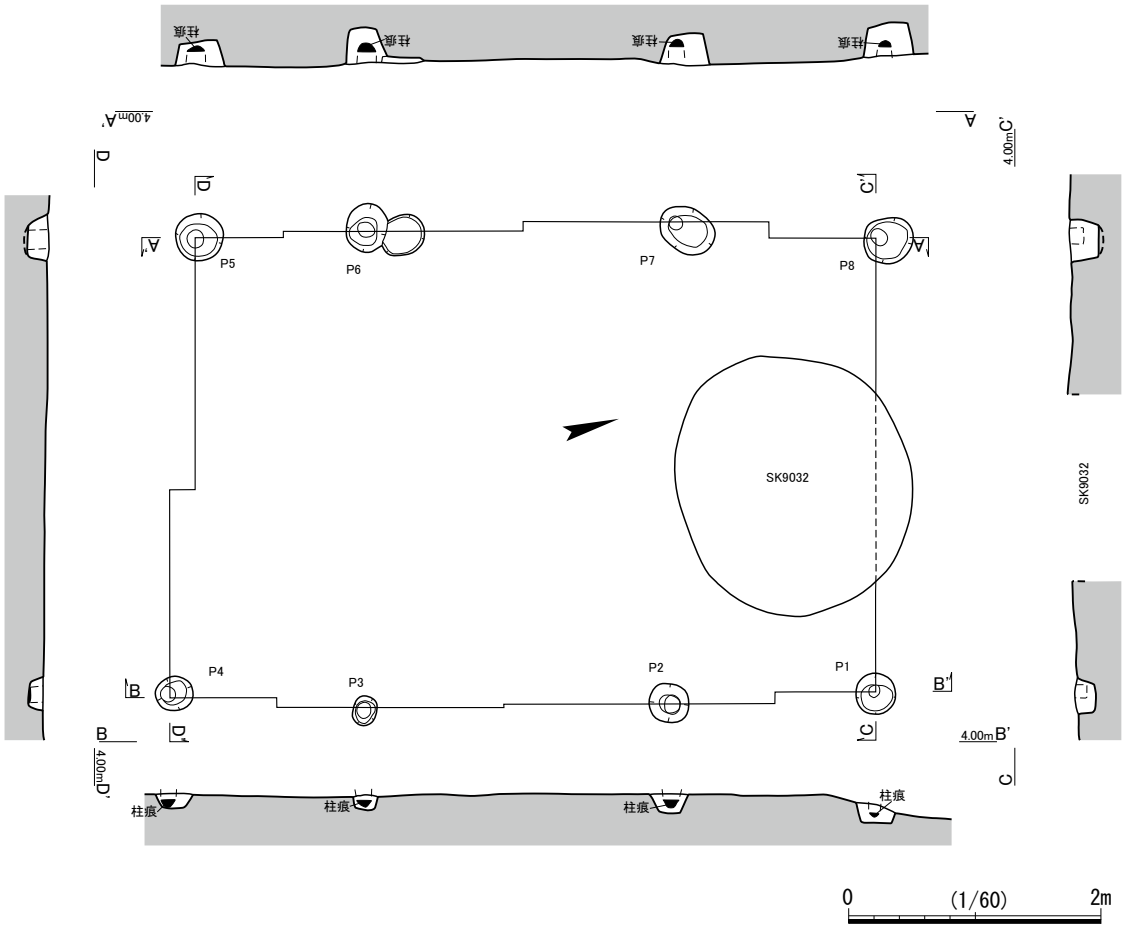
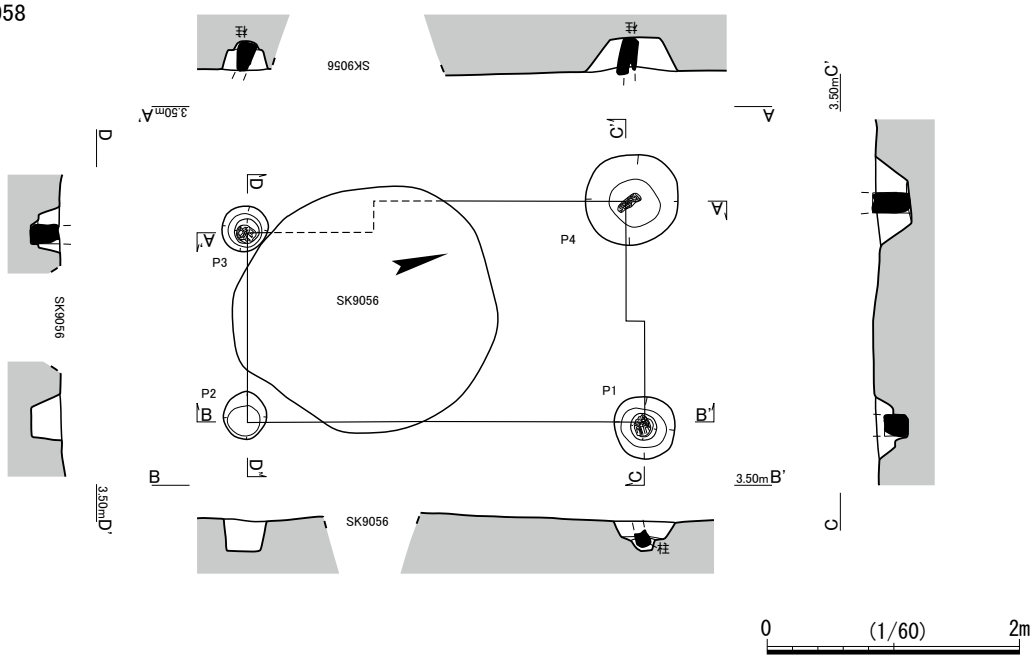


図16　SB9055・9057掘立柱建物跡（1/60）

SB9058



SB9059

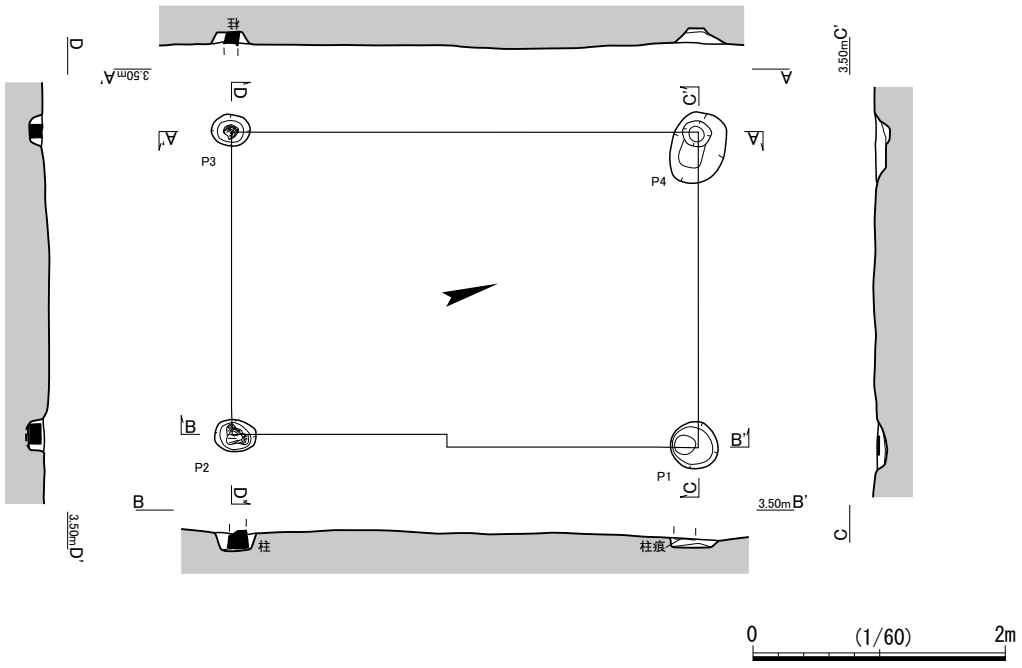


図17　SB9058・9059掘立柱建物跡（1/60）

ＳＢ９０６０

P-25 区画に位置する。西側には SK9072、東側には SB9063 等の掘立柱建物跡が見られる。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 2.80 ～ 3.50m。梁行全長が 2.00m。床面積は 7.00㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.15 ～ 0.30m、深さ 0.04 ～ 0.06m。桁主軸は北から西へ 68°ふれている。P1、P3、P4 は径 3㎝の柱根が遺存する。他の建物の柱根と比較すると小さいが、芯材のみが遺存しているという状態ではない。

ＳＢ９０６１

Q-25 区画に位置する。北側には SB9060、東側には SB9062 等の掘立柱建物跡が見られる。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 3.10 ～ 3.30m。梁行全長は 2.50m。床面積は 7.75㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.10 ～ 0.20m、深さ 0.05 ～ 0.20m。桁主軸は北から東へ 2°ふれている。P1 ～ P4 は径 6 ～ 9㎝の柱根が遺存する。柱穴埋土は地山状の灰黄色中砂である。

ＳＢ９０６２

Q-24 区画に位置する。東側には SB9061、北側には SB9063、北東側には SB9064、南東側には SB9066 がある。

桁間､梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 2.20 ～ 2.40m。梁行全長は 1.70 ～ 2.00m。床面積は 4.56㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.20 ～ 0.40m、深さ 0.20 ～ 0.40m。桁主軸は北から東へ 44°ふれている。P1 ～ P4 は径 11 ～ 13㎝の柱根が遺存する。柱穴埋土は黒褐色中砂で地山土がブロック状に混入する。

ＳＢ９０６３

P・Q-24 区画に位置する。北東側には大型の SB9065、西側には SB9060、SB9061、南側には SB9062 がある。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 2.80m。梁行全長は 1.90m。床面積は 5.32㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.50 ～ 0.60m、深さ 0.20 ～ 0.30m。桁主軸は北から東へ 26°ふれている。P1 ～ P4 は径約 15㎝の柱根が遺存する。他の建物群と比較して柱穴の径が大きい。柱穴埋土は黒褐色中砂で地山状の褐色中砂ブロックを少量混入する。

出土遺物は、P2、P4 から弥生土器片が出土した。

ＳＢ９０６４

Q-24 区画に位置する。北側には SB9065、西側には SB9063、南西側には SB9062、南側には SB9066 がある。

桁間､梁間は 1 間× 2 間。桁行全長は 3.80m。梁行全長は 2.50m。東側梁には柱穴が残存し 2 間となる。柱間の距離は 1.00 ～ 1.50m。床面積は 9.5㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.50 ～ 0.60m、深さ 0.20 ～ 0.30m。桁主軸は北から西へ 69°ふれている。P1 ～ P5 は柱根が遺存する。柱根径は P3 が約 7㎝で、他は 15 ～ 20㎝である。柱穴埋土は黒褐色中砂で地山状の褐色中砂ブロックを少量混入する。

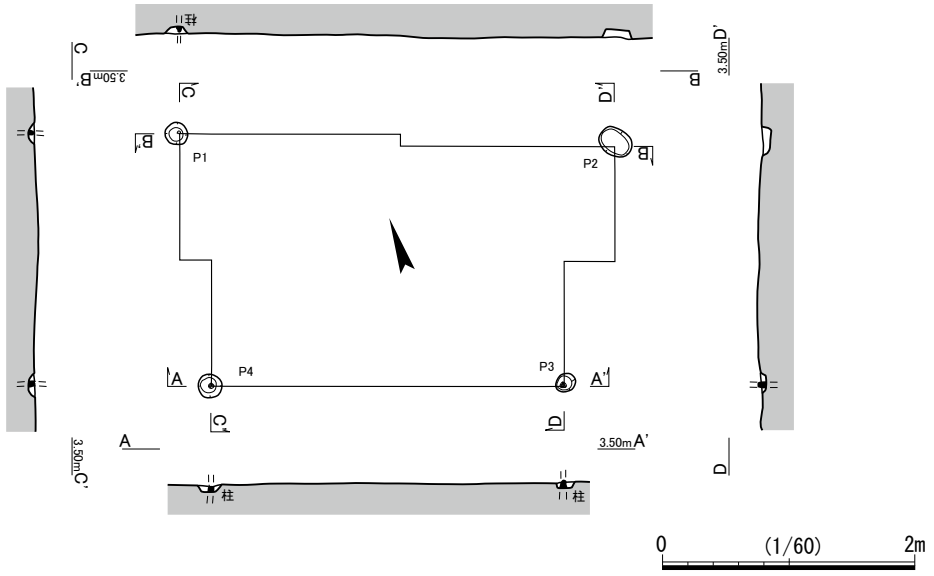
ＳＢ９０６５

P-24 区画に位置する。南側に SB9063 等の掘立柱建物が、北東側には同規模の SB9067 が見られる。

桁間、梁間は 3 間× 2 間。桁行全長は 5.20 ～ 5.40m。柱間は 1.50m ～ 2.30m。梁行全長は 3.40m。柱間は 1.70m。床面積は 17.68㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.20 ～ 0.40m、深さ 0.15 ～ 0.30m。桁主軸は北から西へ 59°ふれている。P1 ～ P3、P8、P9 は径 8 ～ 15㎝の柱根が遺存する P7 は柱穴としていいのか疑問である。柱穴埋土は黒褐色中砂で地山状の褐色中砂ブロックを少量混入する。

出土遺物は、P1、P2、P5 から弥生土器片、P5 からは布留式甕片が出土した。

SB9060



SB9061

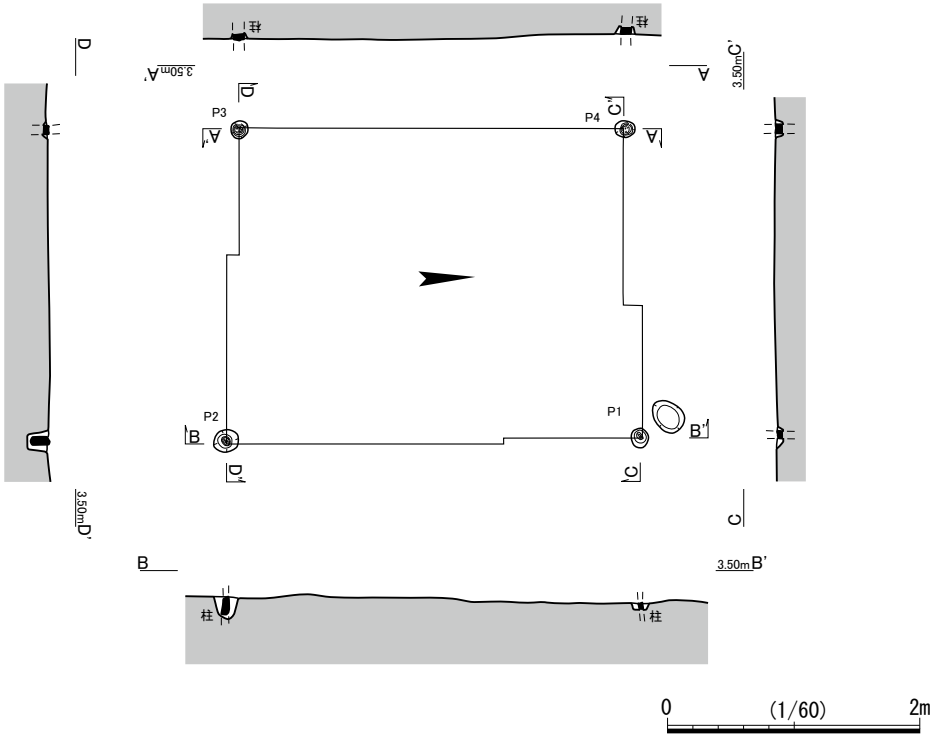
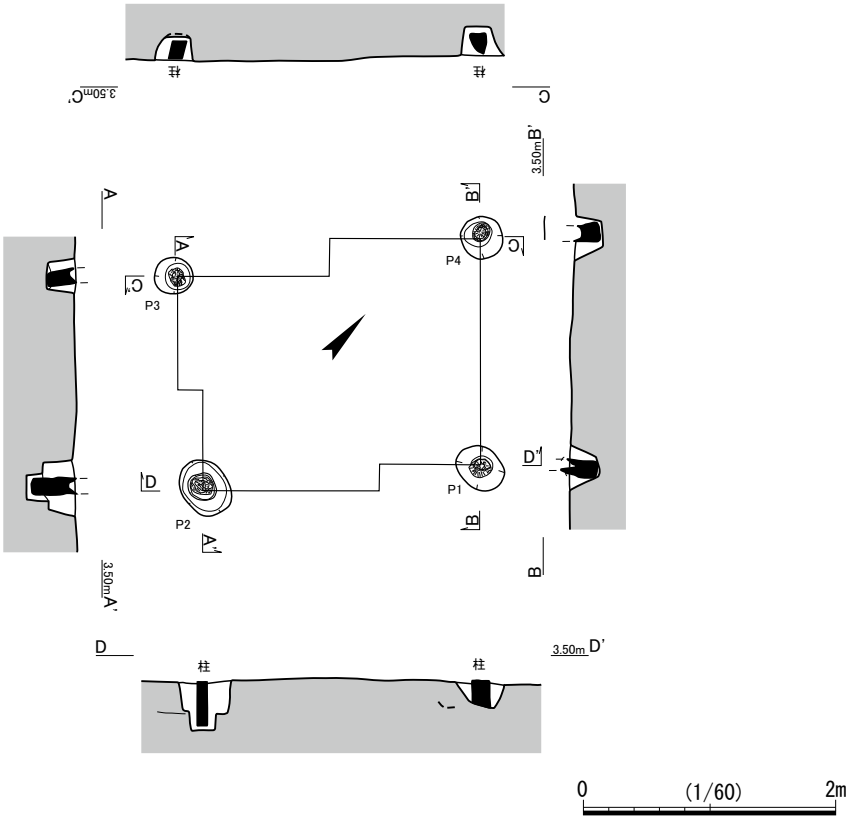


図18　SB9060・9061掘立柱建物跡（1/60）

SB9062



SB9063

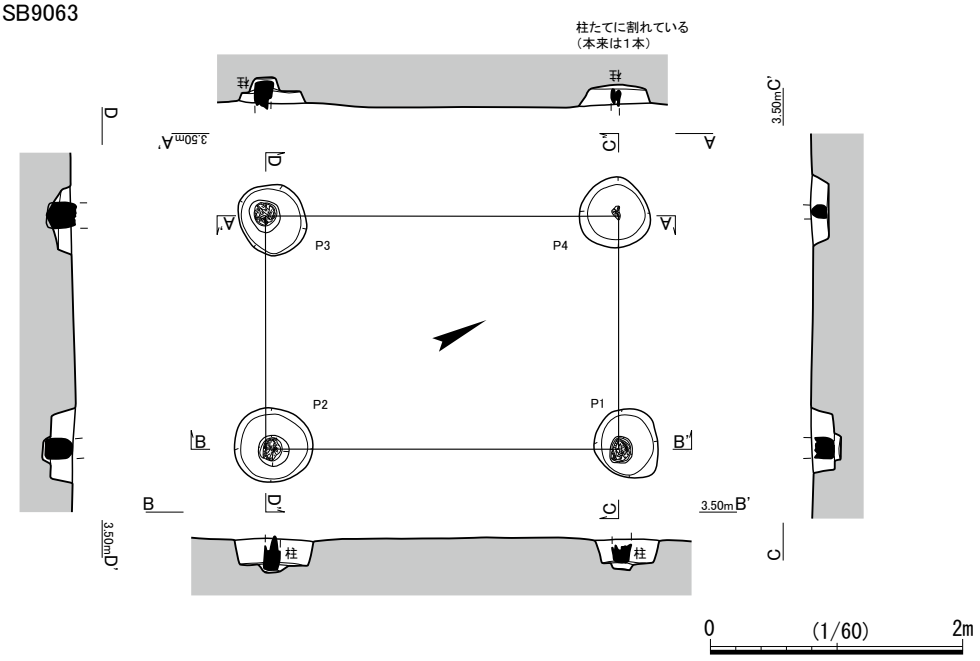
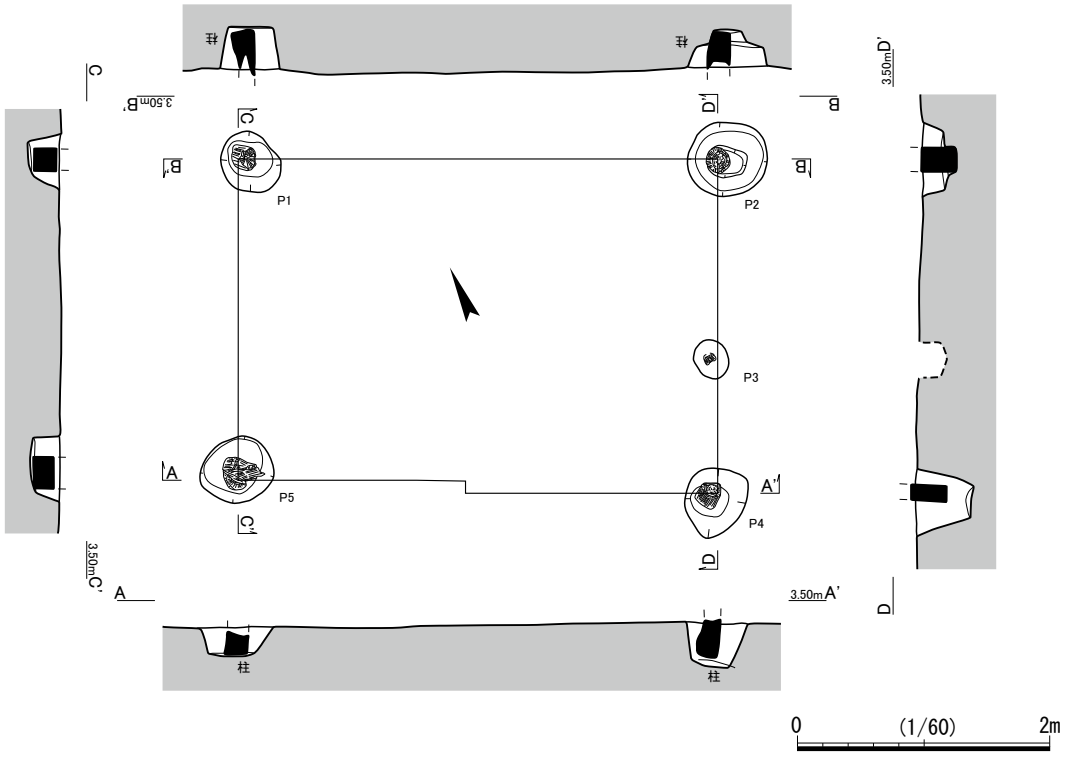


図19　SB9062・9063掘立柱建物跡（1/60）

SB9064



SB9065

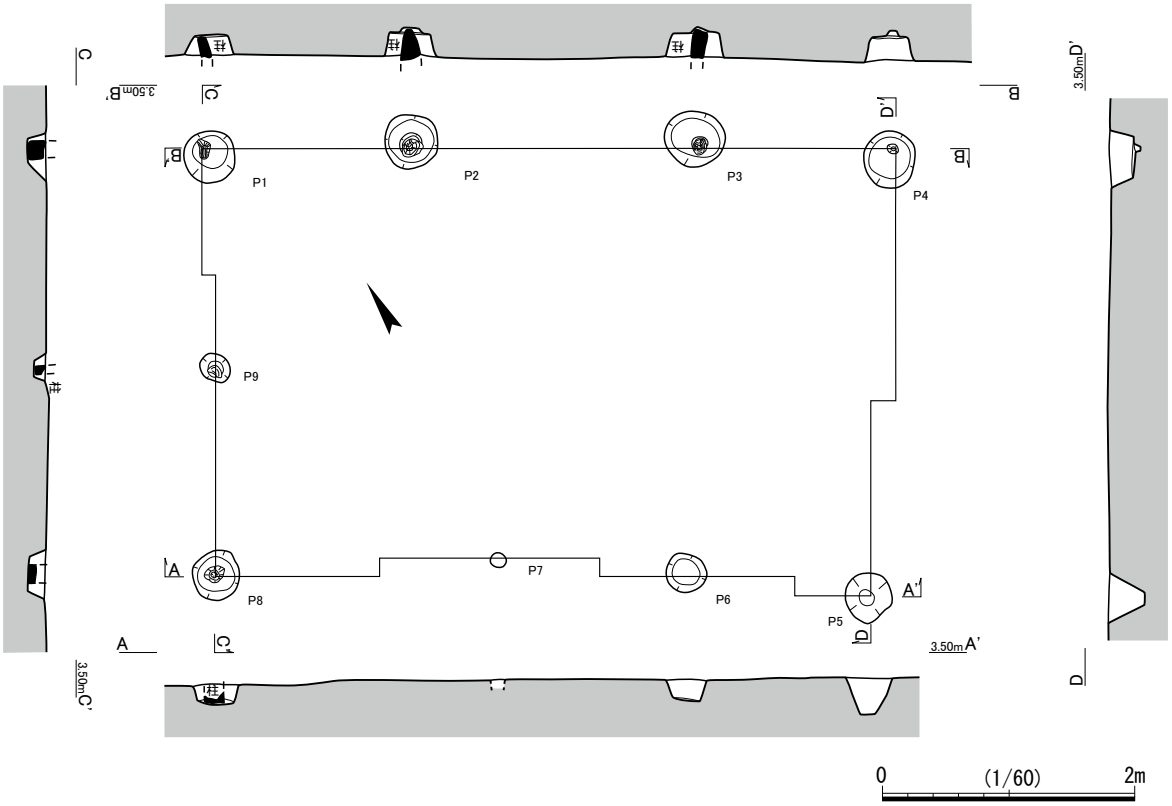


図20　SB9064・9065掘立柱建物跡（1/60）

ＳＢ９０６６

Q・R-24 区画に位置する。北側に SB9064 等の掘立柱建物が見られる。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 2.70 ～ 2.90m。梁行全長は 1.50 ～ 1.60m。床面積は 4.64㎡。柱穴の平面形は楕円形で、径 0.30 ～ 0.60m、深さ 0.10 ～ 0.30m。桁主は北から西へ 42°ふれている。P1、P2、P4 は径約 15㎝の柱根が遺存する。P1 の柱根の側面は 7 ～ 8 面体に面取りする。柱穴埋土は黒褐色中砂である。

ＳＢ９０６７

O・P-23 区画に位置する。南西側に同規模の SB9065 が見られる。

桁間、梁間は３間× ２間。桁行全長は 4.80 ～ 5.00m。柱間は 1.50 ～ 1.80m。梁行全長は 3.50 ～ 3.80m。柱間は 1.70m ～ 1.90m。床面積は 19.0㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.40 ～ 0.60m、深さ 0.25 ～ 0.60m。桁主軸は北から東へ 11°ふれている。P1 ～ P4、P7 ～ P9 に柱痕がみられる。この柱痕は褐灰色細砂で包含層上層と類似しているため、柱を抜き取った跡と考えられる。

出土遺物は、P2、P3 から弥生土器片が出土する。

ＳＢ９０６９

S-23 区画に位置する。9 区で最も南側に位置し、周辺には建物はみられない。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長が 2.60 ～ 2.70m。梁行全長は 2.10 ～ 2.20m。床面積は 5.46㎡。柱穴の平面形は楕円形で、径 0.90 ～ 1.10m、深さ 0.20 ～ 0.30m。桁主軸は北から西へ 18°ふれている。柱根、柱痕はない。柱穴埋土は黒褐色粗砂で地山状の黒色粘土ブロックを少量混入する。

ＳＢ９０８１

Q-21 区画に位置する。9 区で最も東側に位置し、周辺には建物はみられない。

桁間、梁間は 1 間× 1 間。桁行全長は 3.20 ～ 3.40m。梁行全長は 1.90 ～ 2.20m。床面積は 6.46㎡。柱穴の平面形は円形で、径 0.60 ～ 0.70m、深さ 0.40 ～ 0.50m。桁主軸は北から西へ 75°ふれている。P1 ～ P4 は柱根が遺存する。柱根は径 21 ～ 23㎝で、外周は 65 ～ 75㎝に収まり、規格性がある。

出土遺物は P1 から土師器片が出土した。

（2）土坑

ＳＫ９００３

Q-31・32 区画に位置し、9 区では最も西側にあたる。北側は SJ9009、東側には SD9001 がある。

平面形態は不整長方形。規模は長軸 2.40m、短軸 1.64m、深さ 0.36m を測る。坑底はほぼ平らになる。

出土遺物は須玖式の土器が出土する。

ＳＫ９０２５

N・O-29 区画に位置する。北側には SX9047 等の木組遺構、南側から南東側にかけて土坑が多く見られ、西側は SD9001 により 一部切られる。

平面形態は不整楕円形。規模は長軸 2.90 m、短軸 2.10 m、深さ 0.74 mを測る。坑底は東西では東側がやや深く、南北では椀状になる。

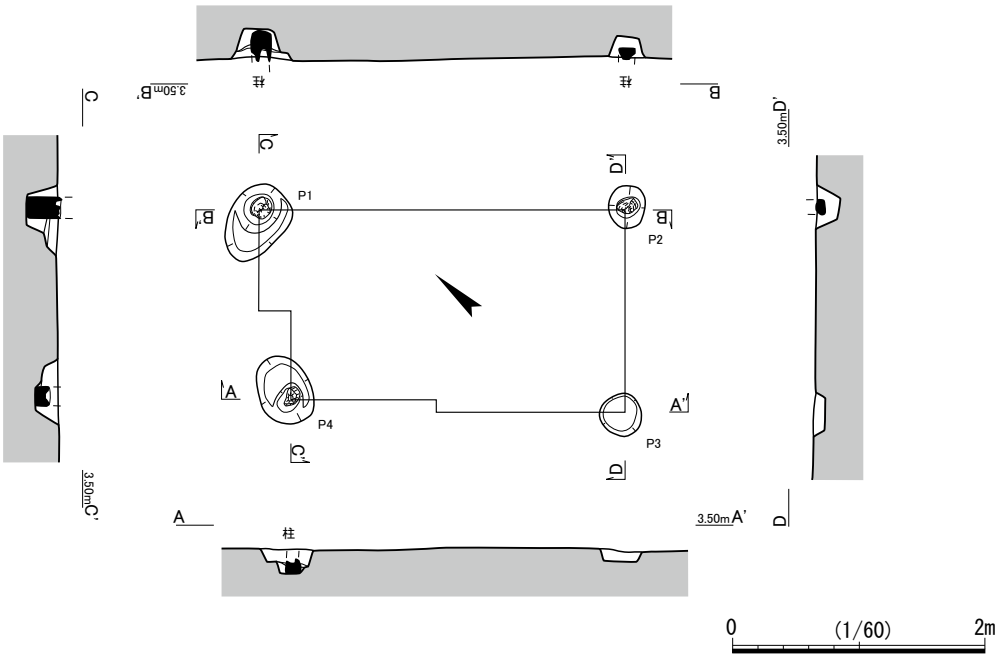
出土遺物は弥生土器、土師器が出土する。

ＳＫ９０３７

O-28 区画に位置する。周囲に土坑が多く見られる。

平面形態は不定形。複数の土坑が切り合う。規模は長軸 1.48 m、短軸 1.04 m、深さ 0.24 mを測る。

SB9066



SB9067

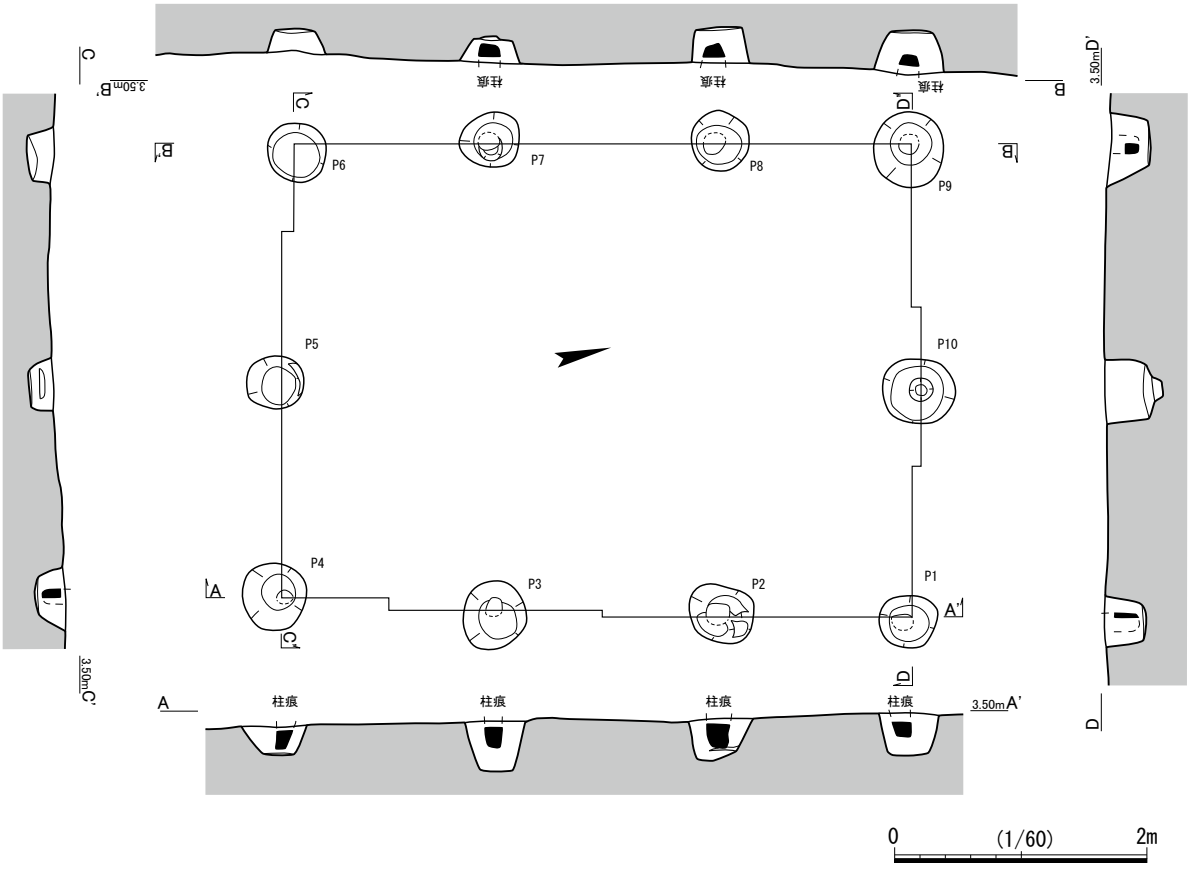


図21　SB9066・9067掘立柱建物跡（1/60）

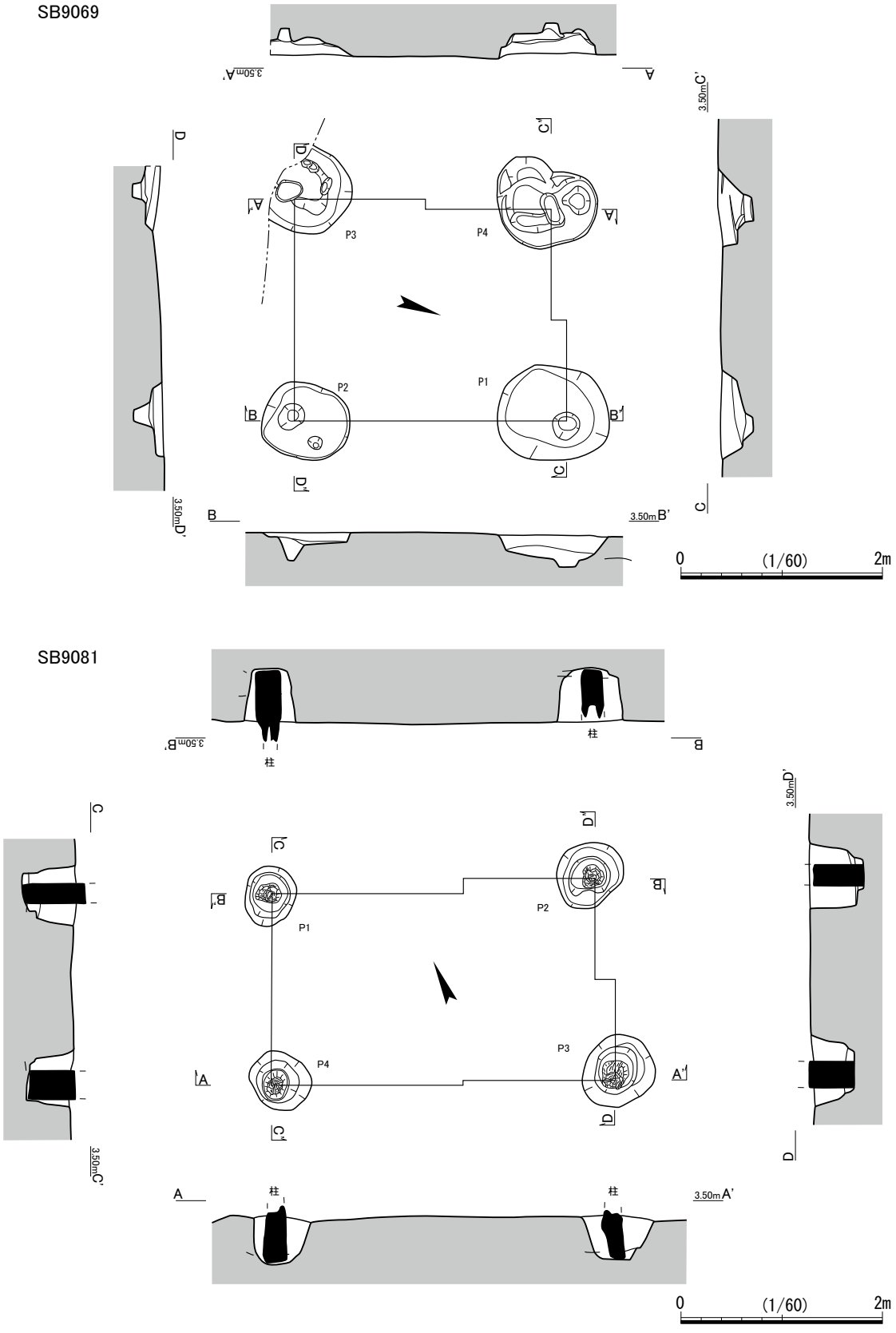
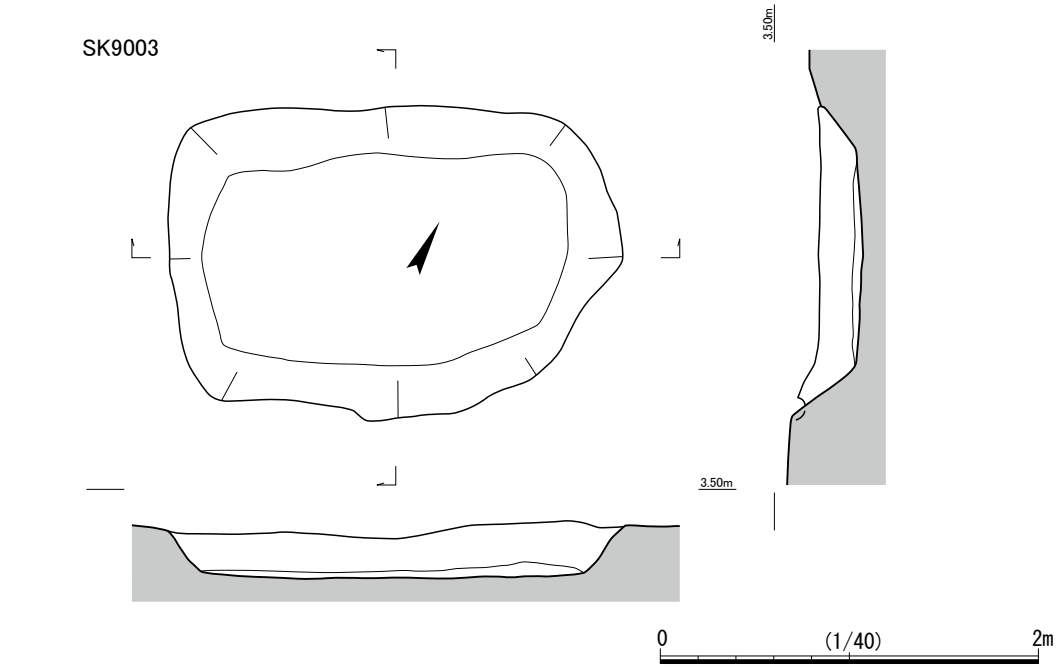


図22　SB9069・9081掘立柱建物跡（1/60）



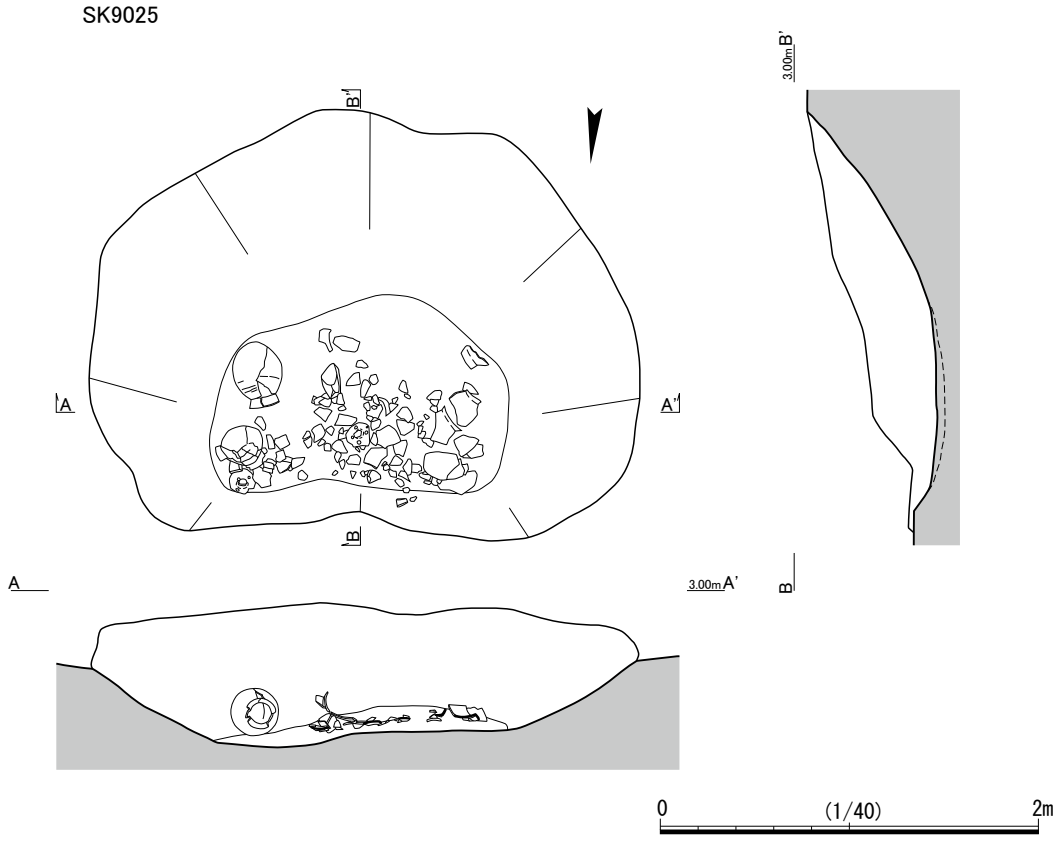
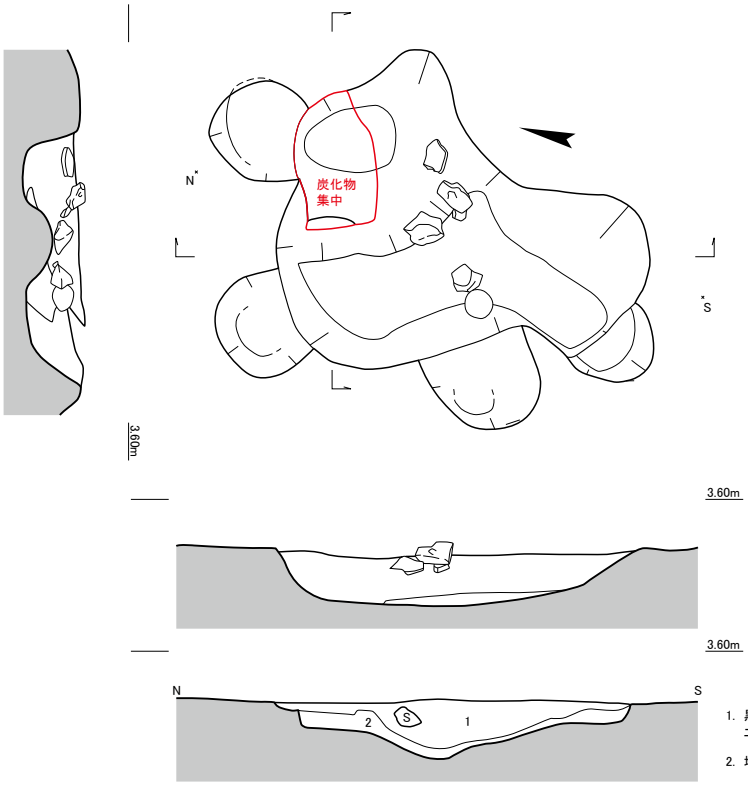


図23　SK9003・9025土坑（1/40）

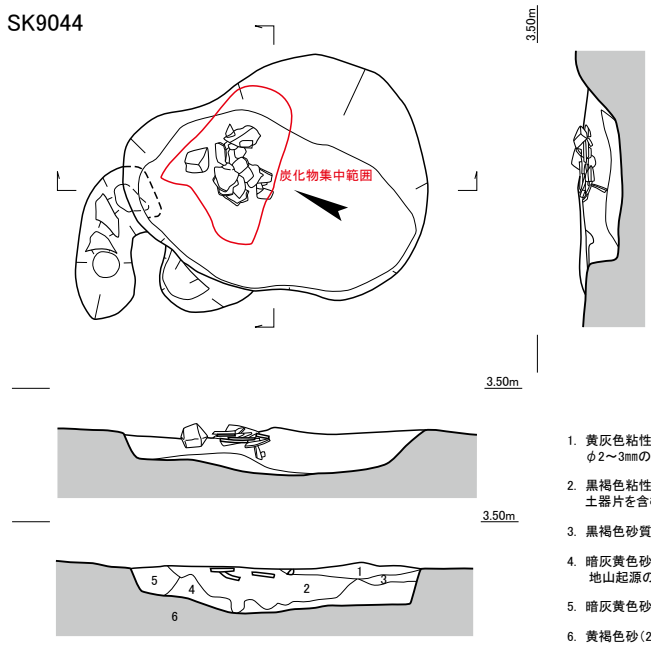
SK9037



0 (1/30) 1m

1. 黒褐色(粘性)砂質土(10YR 3/1) 下部には若干2が混じる
   土器片を含む 約φ5mmの炭化物含む
2. 地山起源の砂(2.5Y 5/4)

SK9044



1. 黄灰色粘性砂質土(10YR 4/1) 微細な白色砂を含む
   φ2～3mmの炭化物を含む 土器片を含む
2. 黒褐色粘性砂質土(10YR 3/1) φ5mmの炭化物含む
   土器片を含む 特に炭化物は上端から1cmのところに集中 土器のまわりは特に多い
3. 黒褐色砂質土(2.5Y 3/2) φ5mmの炭化物含む
4. 暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)
   地山起源の砂とおもわれる
5. 暗灰黄色砂質土(2.5Y 4/2)と6の混り[3:1] ―SK9044とは別の遺構とおもわれる
6. 黄褐色砂(2.5Y 5/2)

0 (1/30) 1m

図24 SK9037・9044土坑（1/30）

北西側土坑からは炭化物が集中する。坑底は椀状になる。

出土遺物は弥生土器が出土する。

ＳＫ９０４４

O-27 区画に位置する。周囲には土坑が多く見られる。

平面形態は不整楕円形。規模は長軸 1.40 m、短軸 0.96 m、深さ 0.20 mを測る。北側から土器が集中して出土し、土器が出土する付近の層から炭化物が出土する。坑底はほぼ平らになる。

出土遺物は弥生土器が出土する。

ＳＫ９０６８

O-26 区画に位置する。北側には SA9075 等の環状杭列が見られる。

平面形態は不整楕円形。規模は長軸 2.08 m、短軸 1.64 m、深さ 0.65 mを測る。坑底は、南北では椀状、東西では西側が一段掘り下がる。

出土遺物は弥生土器が出土する。

ＳＫ９０７２

P・Q-25 区画に位置する。東側には SB9060 等の掘立柱建物が見られる。

平面形態は不定形。規模は長軸 2.50 m、短軸 1.38 m、深さ 0.28 mを測る。坑底は椀状になる。

出土遺物は弥生土器が出土する。

ＳＫ９０７７

Q-22 区画に位置し、９区で最も東側にある。15 mほど離れた西側に SB9064 等が見られる。

平面形態は円形。規模は長軸 2.12 m。短軸 2.08 m。深さ 0.46 mを測る。土器は上層と下層のそれぞれ最上層から出土。坑底は椀状になる。

出土遺物は弥生土器が出土する。

ＳＫ９０８０

O-24 区画に位置する。西側に SX9076 の木組遺構、南東側に SB9067 が見られる。

平面形態は円形。坑底はほぼ平らになる。規模は長軸 0.90 m、短軸 0.80 m、深さ 0.26 mを測る。土器は遺構のほぼ中央、坑底に接して出土する。

出土遺物は土師器が出土する。

Ｐ８８

O-27 区画に位置する。東側に SK9044、南側に SK9042、北西側に SK9037 等の土坑が集中する場所に位置する。複数の柱穴、小穴が切り合った遺構であり、柱穴内から柱痕２を確認した。柱穴であることから遺構種別は P を用いた。遺構検出時には各柱穴のプランを確認できず、これら柱穴、小穴群を P88 とした。周辺には柱穴は確認できず、掘立柱建物を構成する柱穴ではない。

柱穴、小穴は計５基からなると考えられ、P88 の全体の規模は、長軸 1.16 m、短軸 0.62 mで北東側の土坑が一番浅く、深さ 0.72 mである。埋土中から直口壺（図 65-6）が出土した。

また、遺構検出時に破鏡（図 81-3）が出土した。柱穴埋土出土の可能性もある。

ＳＫ９０１７

P-30 区画に位置する。西側には南西から北東にかけて SD9001 溝が一直線にはしる。

平面形態は円形。規模は長軸 0.50 m、短軸 0.45 m、深さ 0.14 mを測る。土坑内からは径 0.39 mの曲物が出土した。直線溝である SD9001 と同時期であり、関連する遺構であろう。

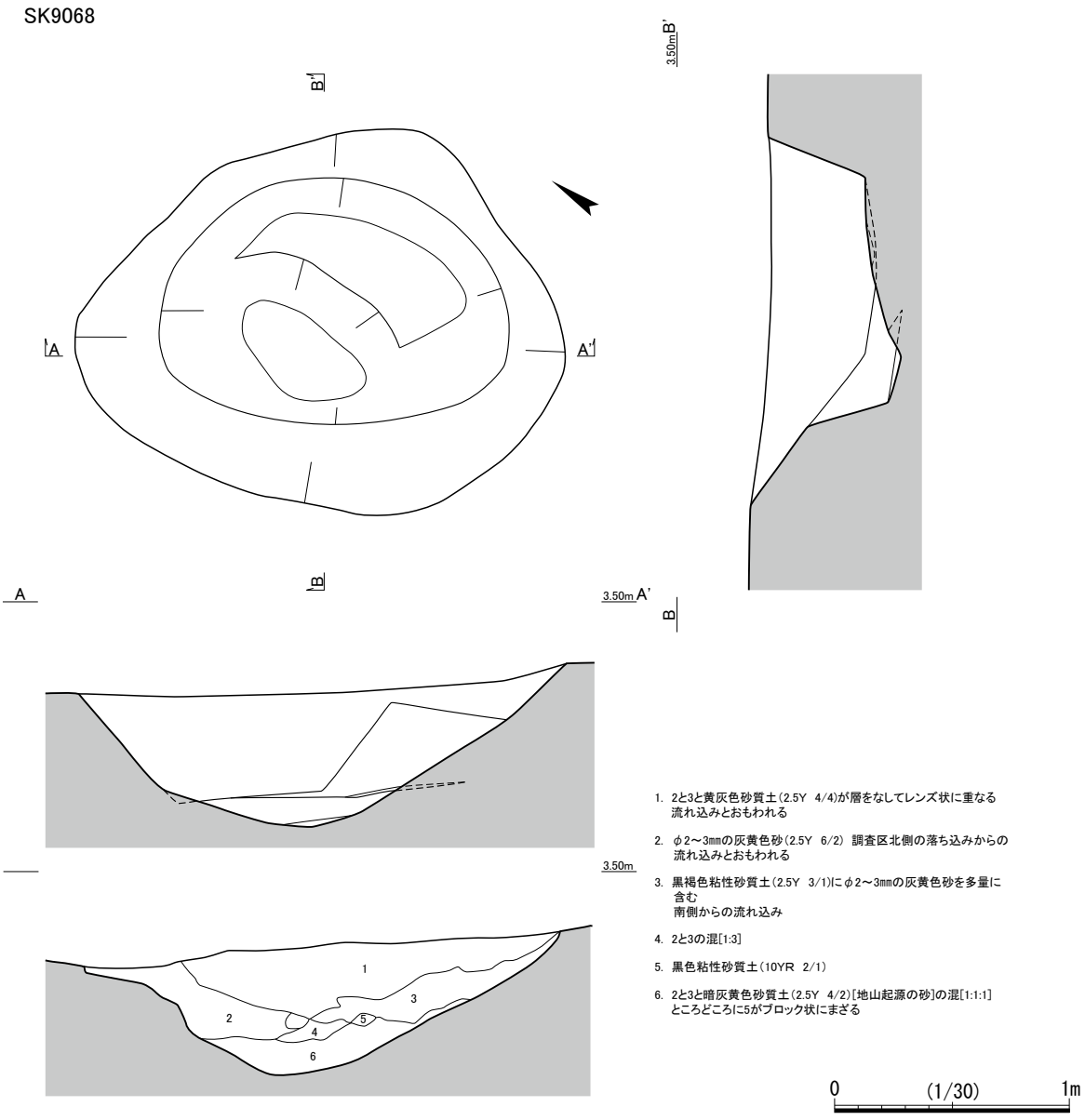


図25　SK9068土坑（1/30）

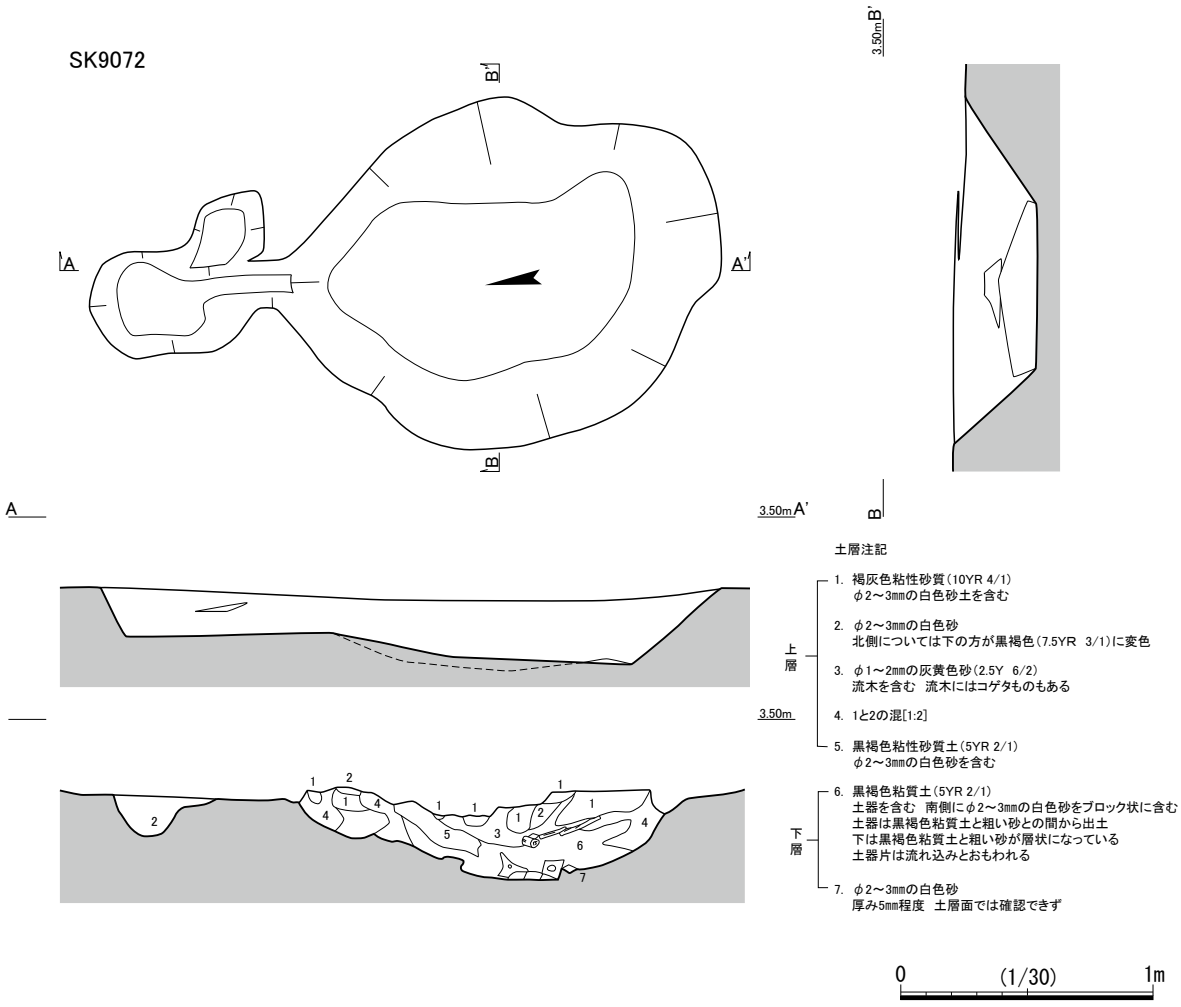
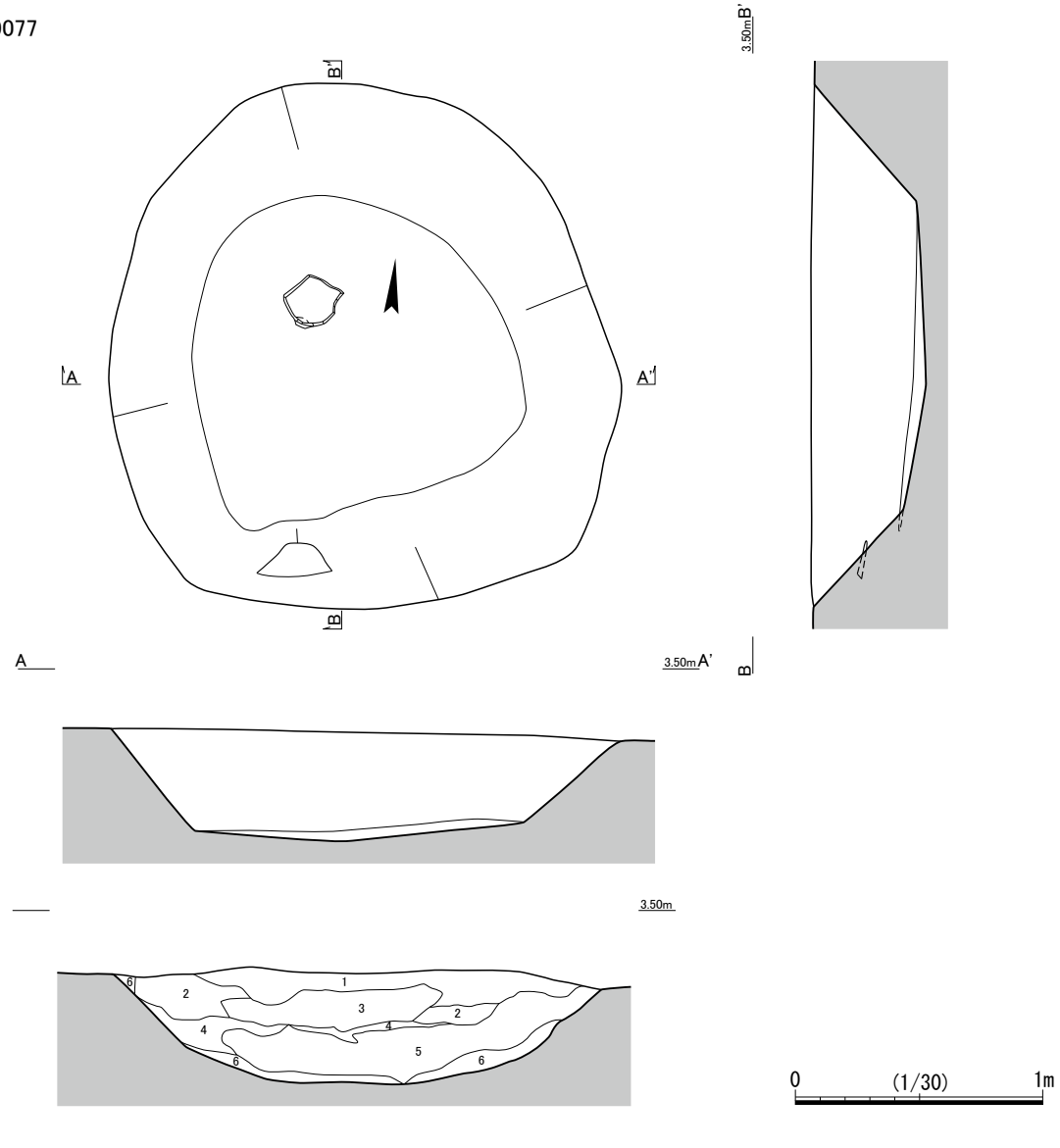


図26　SK9072土坑（1/30）

SK9077



上層
1. 褐灰色粘性砂質土（10Y 4/1） 西端と東端には黄褐色砂質土（2.5Y 5/3)がレンズ状に層をなして堆積
φ2～3mmの白色砂とφ5mm程度の炭化物、土器片を含む
2. 黄灰色粘質土（2.5Y 4/1)と黄褐色砂質土（2.5Y 5/3)の混
西側は2:1、東側は5:1　φ5cm程度の黒色粘土（N 2/1)が上の方にブロック状に入る
φ2～3mmの白色砂を含む
3. 黄灰色粘土（2.5YR 4/1)
西側に少し黒色粘土が混じる

下層
4. 黄灰色粘質土（2.5YR 4/1)と黄褐色砂質土（2.5Y 5/3)の混[1:1]
土器片を含む
5. 中央は暗オリーブ灰色粘土（5GY 4/1） φ2～3mmの白色砂、微小な炭化物を含む
両端は黒色粘土
6. 地山

図27　SK9077土坑（1/30）

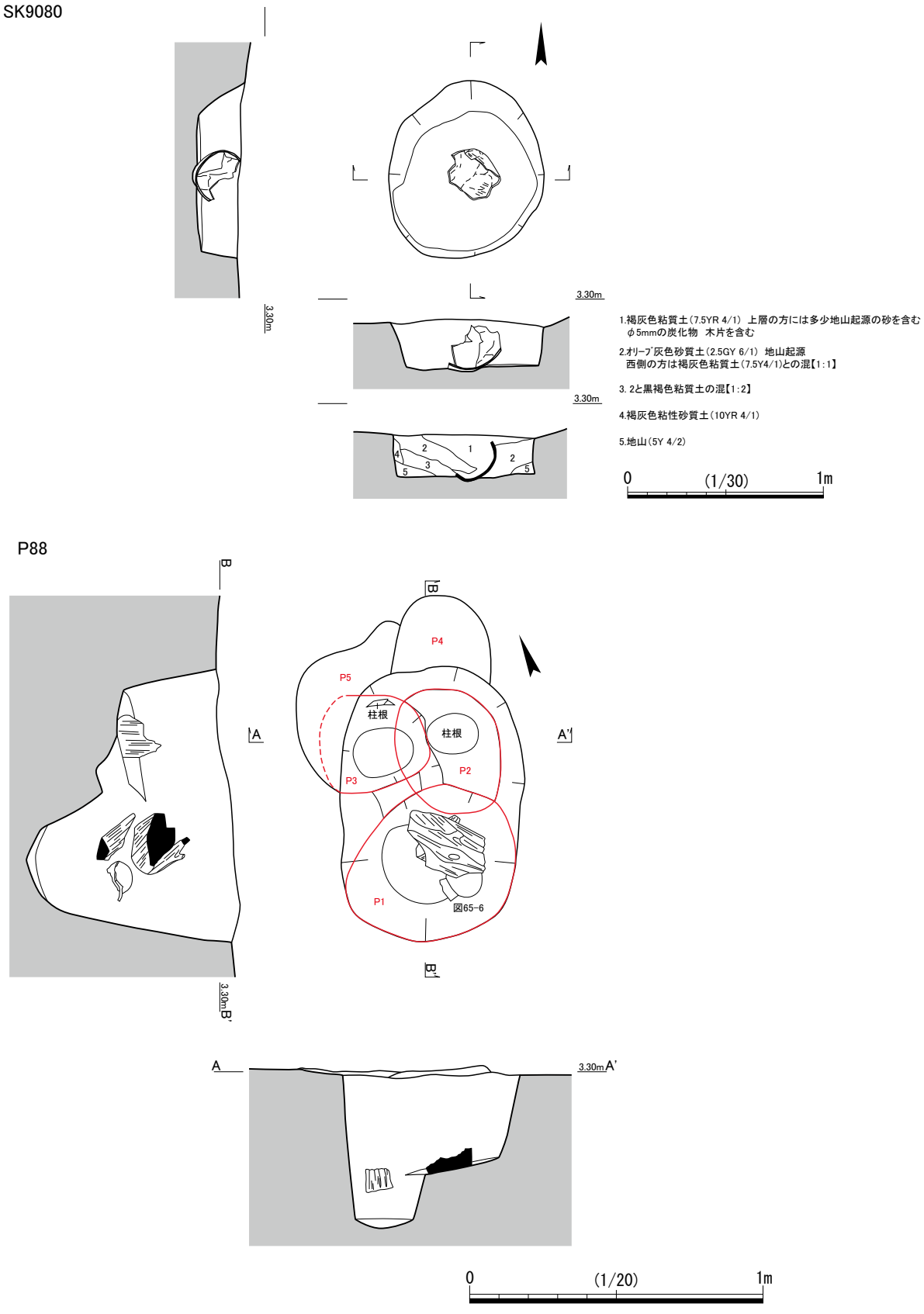


図28　SK9080土坑・P88柱穴（1/30、1/20）

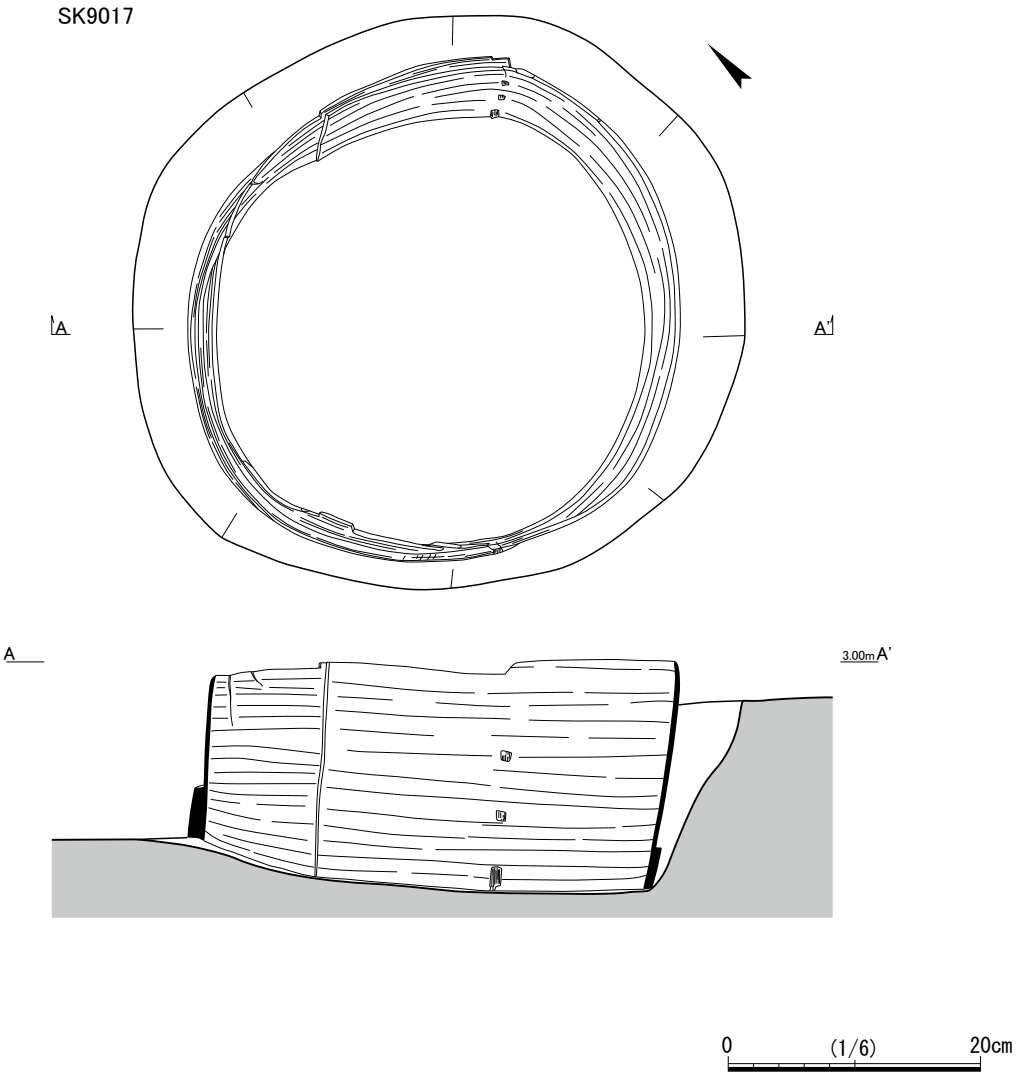


図29　SK9017土坑（1/6）

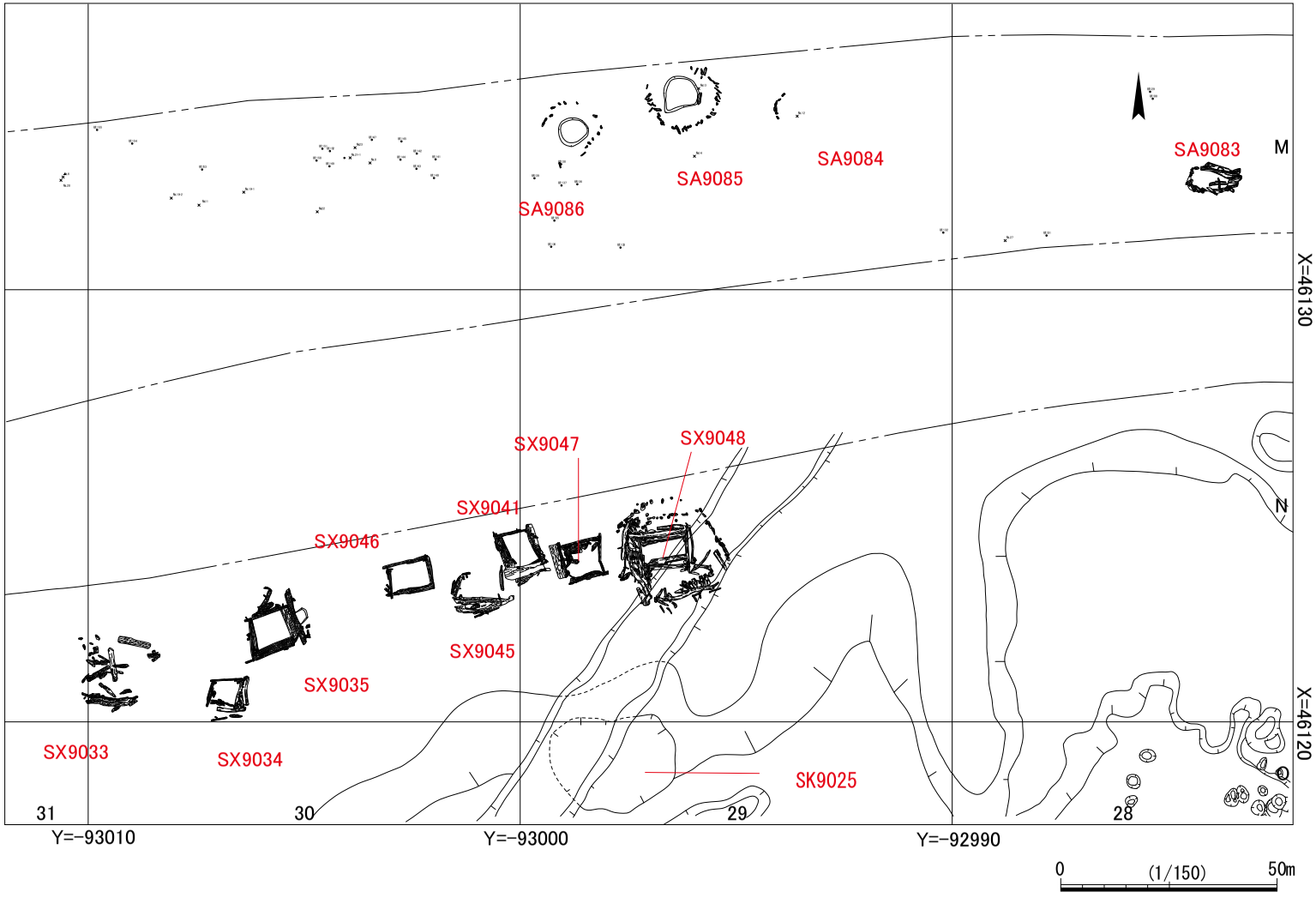


図30　木組遺構配置図１ (1/150)

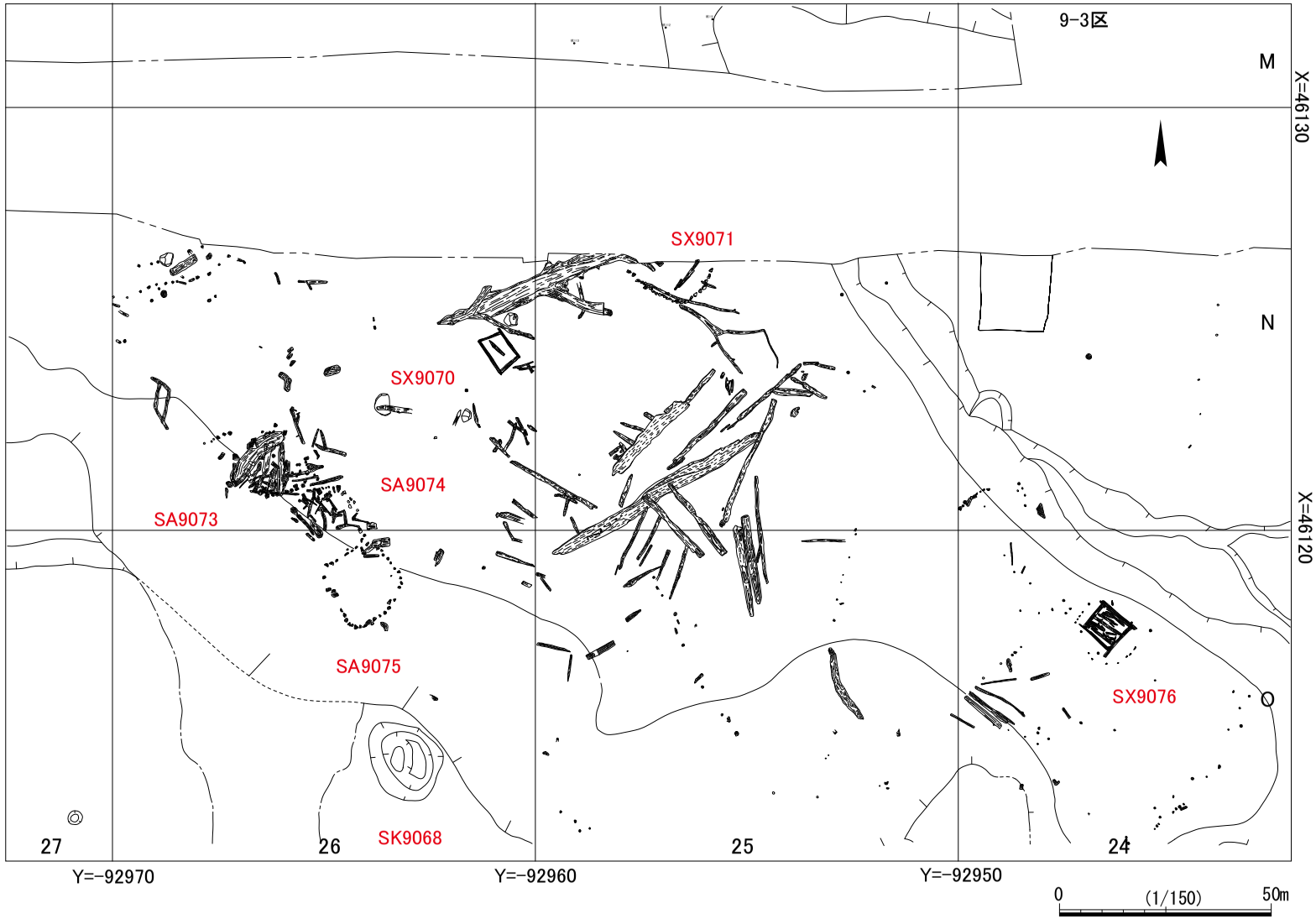


図31　木組遺構配置図２（1/150）

（3）木組遺構・環状杭列

木組遺構及び環状杭列は砂丘微高地を東西方向に分断する谷状地形内に立地する。標高は約1.5m～2.5mの低地部で、調査区では9-2区の北西部と9-3区にあたる。遺構配置図を図30および図31に掲載する。9-2区、9-3区に立地する木組遺構と環状杭列は大きく3つの群からなり、A群、B群、C群と仮称する。西方からA群はSX9033、SX9034、SX9035、SX9046、SX9045、SX9041、SX9047、SX9048の木組遺構8基、B群はSA9086、SA9085、SA9084、SA9083の環状杭列4基、C群はSA9073、SA9074、SA9075、SX9070、SX9076の木組遺構2基、環状杭列3基である。さらに、A群の西方約30mの7区にも木組遺構10基が分布する。この7区の木組遺構群は『中原遺跡Ⅱ』2008年刊で報告済である。

木組遺構・環状杭列の時期を直接決定できる遺物は少ない。SX9045から建築部材であるねずみ返し（図87-3）が、SA9085からエブリ（図83-1）が出土している。木組遺構・環状杭列の立地する谷状地形から多量の土器が出土しており、木組遺構・環状杭列の時期が推定できる。最も古い時期は弥生時代中期で図50-1、2、5、7、8などがあり、弥生時代後期の土器の出土量が最も多い。最も新しい時期は古墳時代前期で図62-1、3、5などがある。

以下、9-2区、9-3区の木組遺構・環状杭列について記す。

①　木組遺構

ＳＸ９０３３

N-30 区画にあり、9 区の最北西部に位置する。東側には SX9034 等の木組遺構が見られる。

南側以外の壁板は遺存しておらず、平面形態は不明。規模は確認できる範囲で長軸 1.25 m、短軸 1.10 m、高さ 0.32 mを測る。

ＳＸ９０３４

N-30 区画に位置する。西側に SX9033、北東側に SX9035 の木組遺構が見られる。

平面形態は東西に伸びる長方形。規模は長軸 0.55 m、短軸 0.48 m、高さ 0.48 mを測る。

壁は北側と西側は板材を用いる。板材はどちらも粗雑である。内側四隅は径 3 ～ 4㎝の杭を打ち込み固定する。東側は長さ 0.7 m程の自然木を 3 本使い、杭で固定する。南側は矢板杭 7 本、丸杭を 1 本打ちこみ、杭列と平行に長さ 0.7 m程の自然木 1 本を横たえる。

ＳＸ９０３５

N-30 区画に位置する。南西側に SX9034、東側に SX9046 の木組遺構が見られる。

平面形態は東西に伸びる長方形。規模は長軸 0.75 m、短軸 0.68 m、高さ 0.48 mを測る。

北側の壁は一番内側を長さ 1 mの板材 1 枚を置き、その外側に板材と自然木で固定する。東側は長さ 1 mの板材を内側に置き、外側を 1.4 mの自然木と石で固定する。内側の板材には加工痕が見られることから転用材か。南側は内側に 0.9 mの板材を置き、外側に自然木を３本横たえて固定する。西側は 0.9 m程の板材を 2 枚使い、杭を使って固定する。

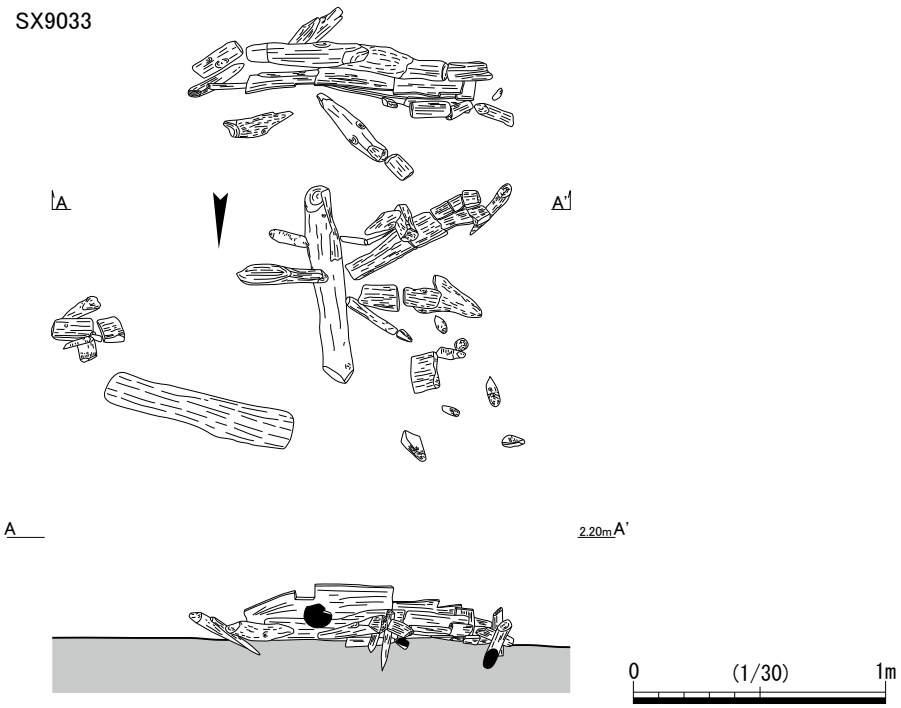
本遺構の板材はすべて丁寧に加工される。特に東側内側の板材は端部に抉り状の加工を施し、北側外側の板材は楕円形の孔を穿つ。

ＳＸ９０４１

N-29・30 区画に位置する。南西側には SX9045、東側には SX9047 の木組遺構が見られる。

平面形態は南北に伸びる長方形。規模は長軸 0.79 m、短軸 0.55 m、高さ 0.50 mを測る。

北側の壁は長さ 0.7 m程の板材を 2 枚使い、内側に杭を打って固定する。東側は 1 m程の板材を 1 枚用いる。南側は長さ 0.9 m程の板材を垂直気味にたて、その上に天井状に板材で覆う。西側は板材を



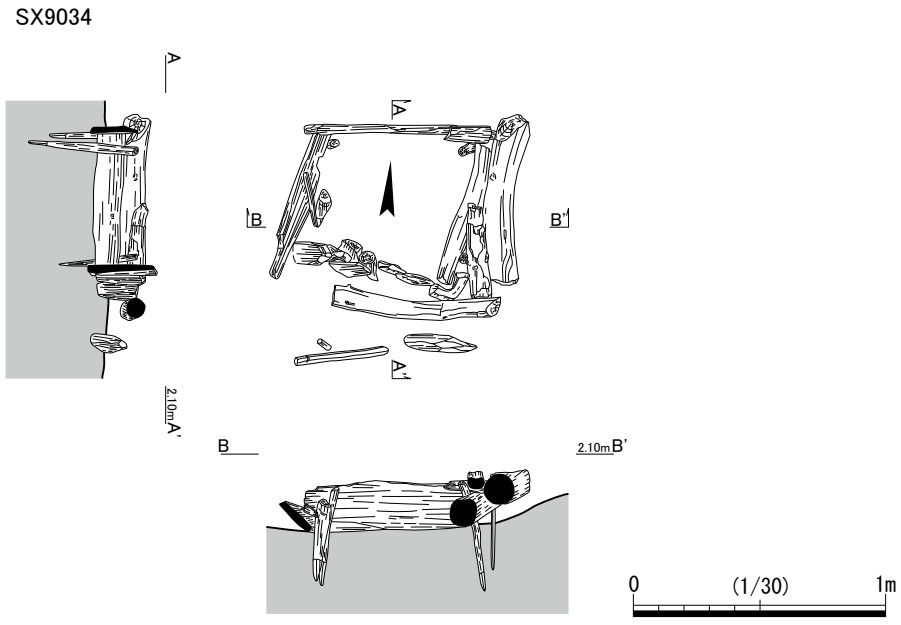


図32　SX9033・9034木組遺構（1/30）

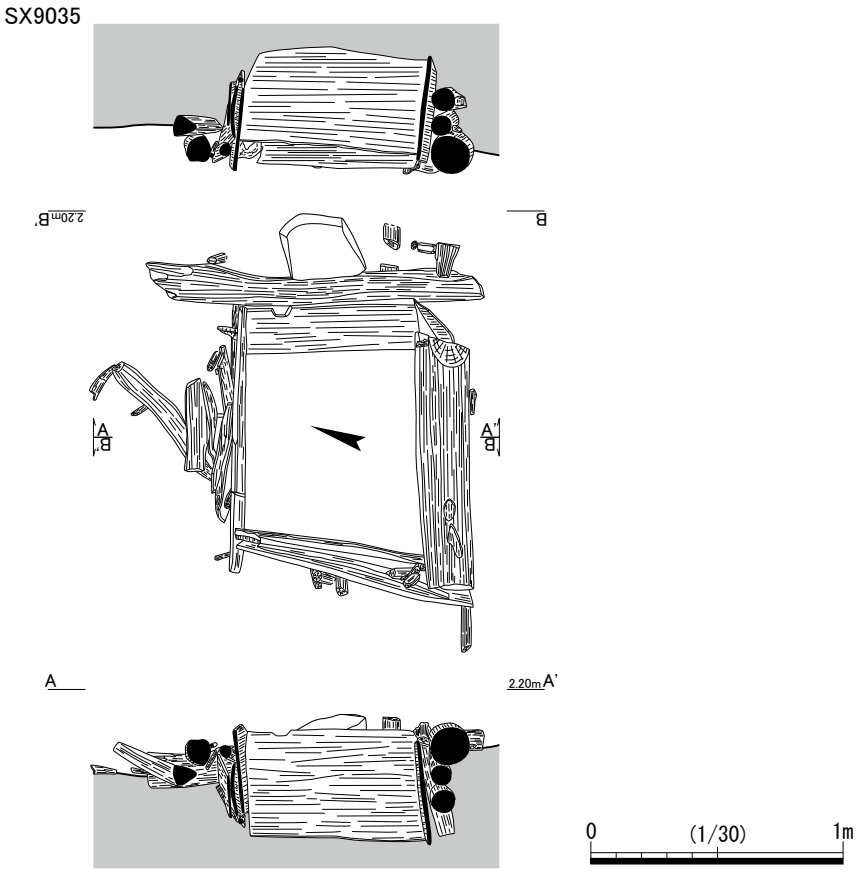


図33　SX9035・9041木組遺構(1/30)

3 枚使い、内側に杭を打って固定する。板材はいずれも丁寧に加工される。

ＳＸ９０４５

N-30 区画に位置する。西側には SX9046、東側には SX9041 の木組遺構が見られる。

平面形態は北側と東側が喪失しているが、長方形と考えられる。規模は確認できる範囲で、長軸 0.95 m、短軸 0.55 m、高さ 0.38 mを測る。

北側の壁は 2 枚の板材を用いて、内側に杭を打って固定する。西側は板材を 4 枚用いて、内側に杭を打って固定する。建築部材であるねずみ返し（図 87-3）が出土している。

ＳＸ９０４６

N-30 区画に位置する。西側には SX9035、東側には SX9045 の木組遺構が見られる。

平面形態は東西に伸びる長方形。規模は長軸 0.87 m、短軸 0.56 m、高さ 0.32 mを測る。

北側の壁は板材を 2 枚用いて、内側に杭を打って固定する。東側は板材を 1 枚用いて、内側に杭を打ち固定する。西側と南側は 1 枚の板材を用いて、外側に杭を打って固定する。

ＳＸ９０４７

N-29 区画に位置する。西側には SX9041、東側には SX9048 の木組遺構が見られる。

平面形態は長方形。規模は長軸 0.82 m。短軸 0.71 m。高さ 0.66 mを測る。

南側の壁材は横木と見られる部材が見つかるが壁材は残っていない。北、東、西側はいずれも 0.8 m 程の 1 枚の板材を用いて壁を作り、内側に割杭を打ち固定する。また、木組遺構内部の北西側には加工した板状の木材が集中して出土している。

ＳＸ９０４８

N-29 区画に位置する。西側には SX9047 等の木組遺構が見られる。

平面形態は東西に伸びる長方形で、周囲を円形状に杭や自然木が横木になって囲んでいる。規模は長軸 1.02 m、短軸 0.37 m、高さ 0.58 m。杭列まで含むと長軸、短軸共に 2.4 mを測る。

北側の壁材は 0.9 m程の板材を 3 枚用いて、外側に 1.2 mの自然木を横木している。一番内側の板材には、加工痕が見られ、廃材からの転用か。東側は 0.9 m程の板材を 3 枚用いて、内側に杭を打ち固定し、外側に 0.9 mの自然木を横木している。南側は壁が崩れている。板材は 0.9 m程の板材を 2 枚用いており、上の板は内側に崩れ落ちるように出土する。西側は板材を 1 m程の板材を 1 枚用いる。外側には杭が多く見られ、他には石材も見られる。さらに外側には自然木が取り囲むように横木される。木組みを取り囲む杭列は、北側、東側は杭が多く、西側、南側は自然木と杭列によって囲まれる。南東側に切れ目らしき空白が見られる。

ＳＸ９０７０

N-26 区画に位置する。木組遺構では、最も東側に位置する。北東側には SX9071 の木組遺構が見られる。

平面形態は北西から南東に伸びる長方形。規模は長軸 0.70 m、短軸 0.48 m、高さ 0.18 mを測る。

壁はいずれも板材を 1 枚用いて作る。そのうち、長軸の壁は内側に内傾し、短軸の壁は外反する。側板は丁寧に加工された板材で、側板上端はそろう。木組遺構内から板材が、東側の外側に杭が出土する。

ＳＸ９０７１

N-26 区画に位置する。南西側に SX9070 の木組遺構が見られる。

平面形態は、北側が調査区外の為不明。規模は確認できる範囲で、長軸 0.90 m、短軸 0.60 m、高さ 0.74 mを測る。

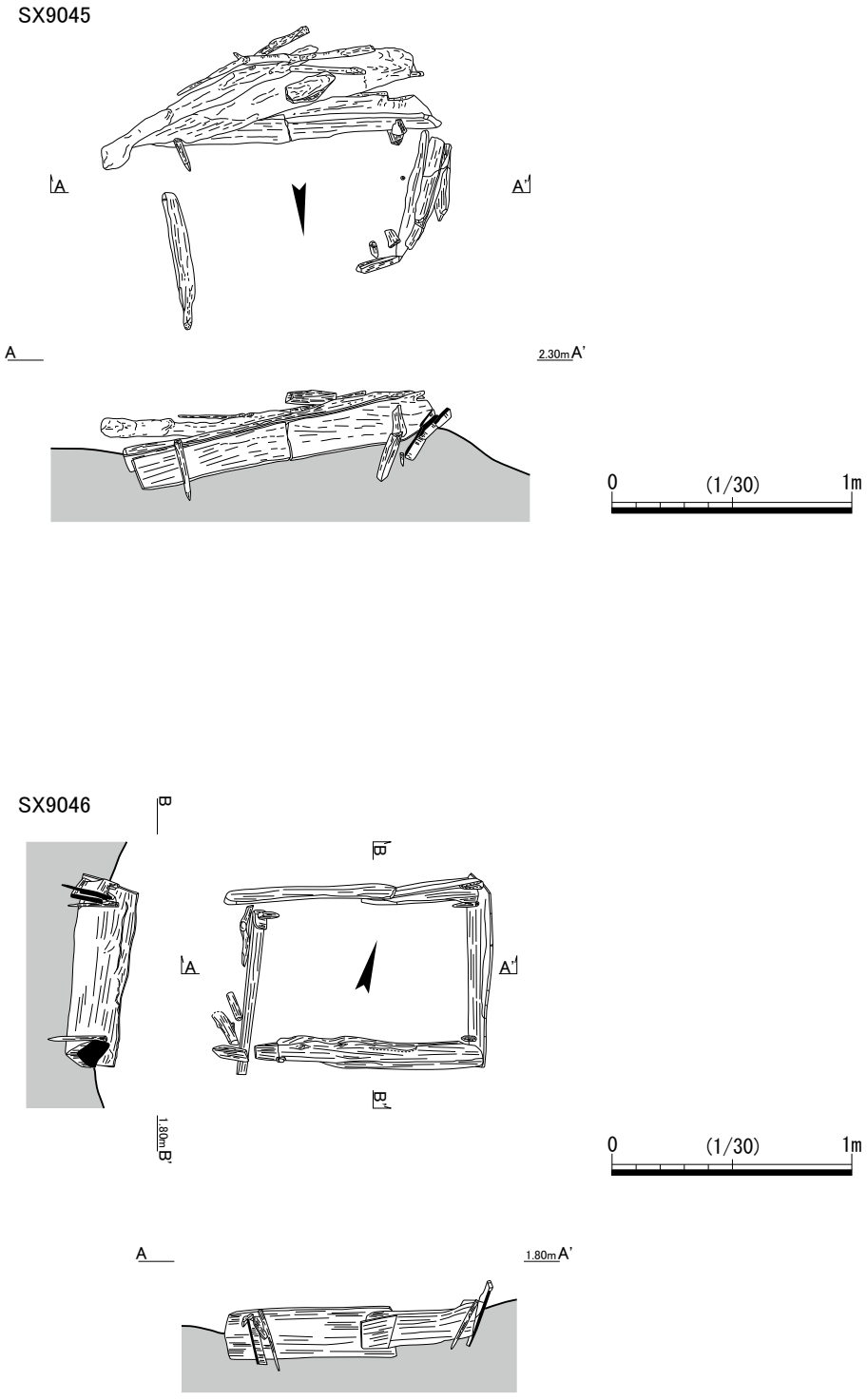


図34　SX9045・9046木組遺構（1/30）

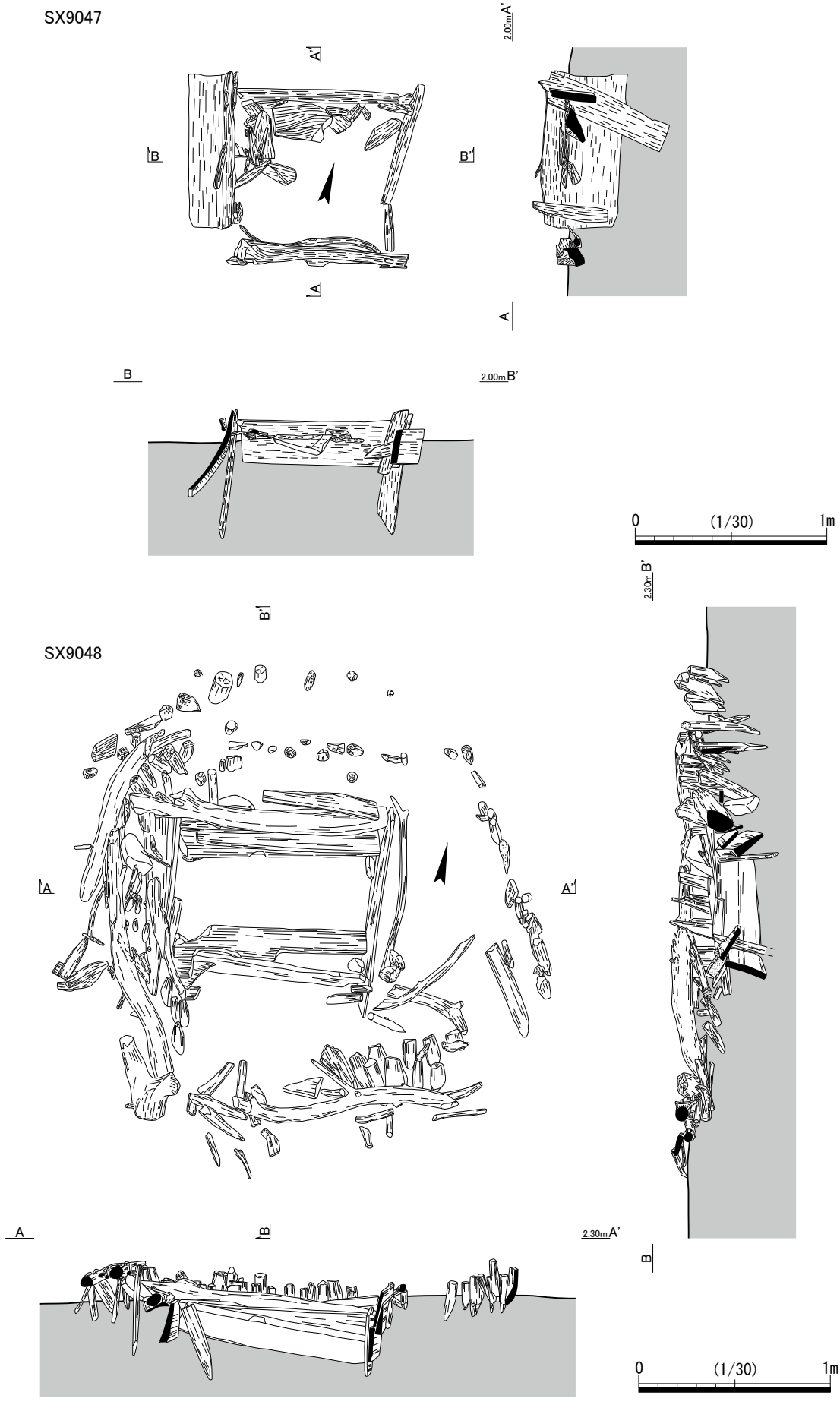


図35　SX9047・9048木組遺構（1/30）

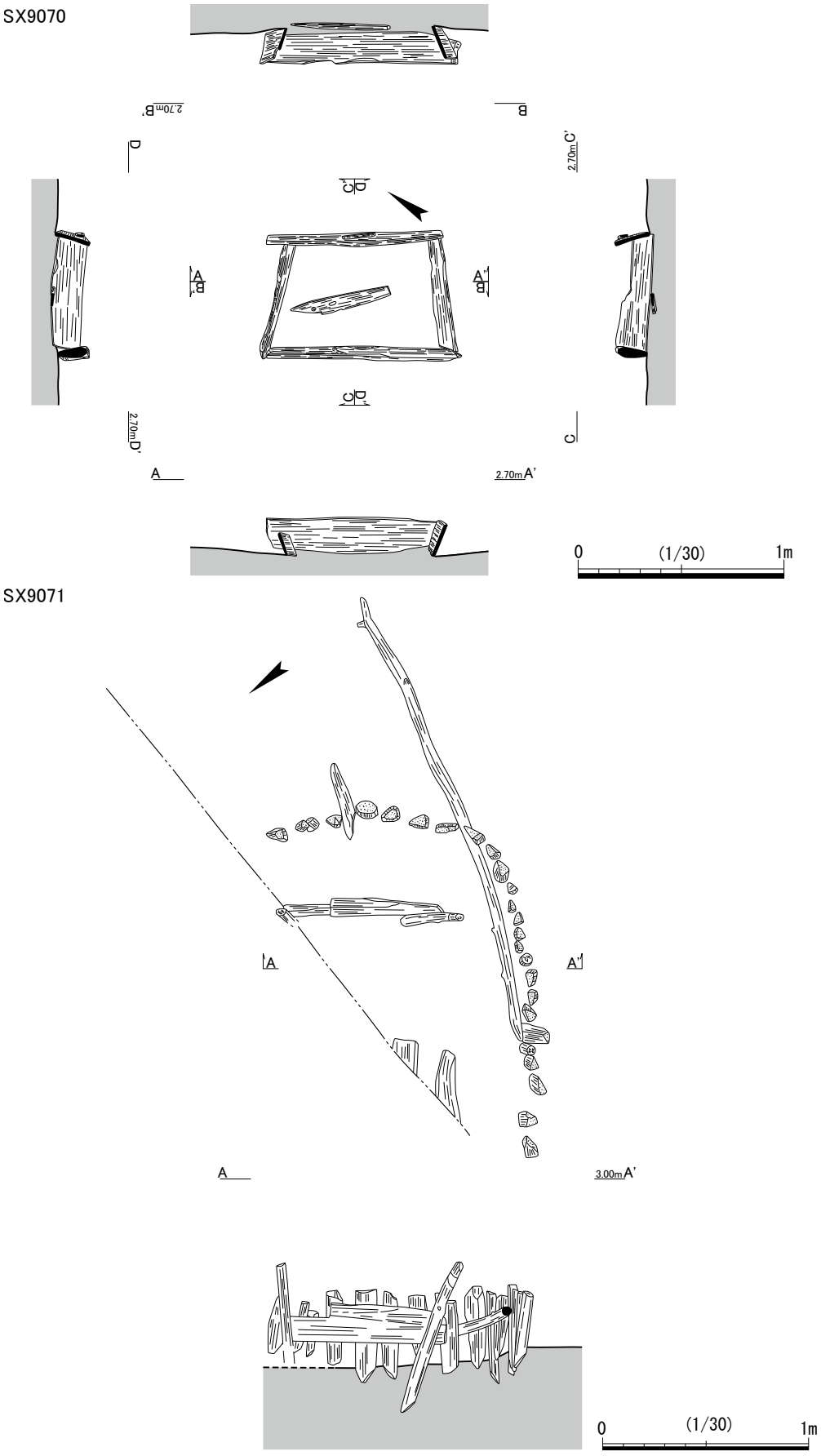


図36　SX9070・9071木組遺構（1/30）

壁は東側のみ確認でき、1 枚の板材を立てる。また、木組遺構の周囲を杭列がめぐり、自然木が杭列に接する。

ＳＸ９０７６

O-24 区画に位置する。南側に 10 mほど離れたところに SB9065 等の掘立柱建物がみられる。

平面形態は方形。規模は長軸 0.76 m、短軸 0.67 m、高さ 0.50 mを測る。

壁はいずれも 1 枚の板材を用い、内側四隅を杭で固定する。木組遺構内部から材が出土した。細長い材で、自然木の外皮がついたものではなく、加工された板材でもない。しかし、整然と配置されたかのような出土状況である。また、本木組遺構の周囲に杭列が見られる。

② 環状杭列

ＳＡ９０７３

N-26 区画に位置する。すぐ東側に SA9074 の杭列が見られる。

平面形態は、西側が切れているが、不整円形になると思われる。規模は確認できる範囲で、長軸 1.50 m、短軸 1.30 m、高さは不明。

杭列の内側を中心に木材が集中して出土する。

ＳＡ９０７４

N-26 区画に位置する。すぐ西側に SA9073 が、南東側に 3 m離れて SA9075 が見られる。

平面形態は、南側が切れているが、不整円形になると思われる。規模は確認できる範囲で、長軸 1.40 m、短軸 1.30 m、高さは不明。

杭列の内側を中心に木材が集中して出土する。

ＳＡ９０７５

O-26 区画に位置する。北西側に SA9074 の環状杭列、北東側に SX9070 の木組遺構が見られる。

平面形態は隅丸方形。規模は長軸 1.60 m、短軸 1.40 m、高さは不明。

ＳＡ９０８３

M-28 区画に位置する。西側には SA9084、SA9085 の環状杭列が見られる。

土坑が掘られ、杭で壁を支えるように並べる。平面形態は東西に伸びる楕円形。規模は長軸 0.90 m、短軸 0.40 m、高さ 0.55 mを測る。断面形は台形で、坑底はほぼ平坦であるが、西側で坑底の面積が広がる部分はやや深くなる。土坑のみの深さは 0.40 mを測る。

ＳＡ９０８４

M-29 区画に位置する。東側には SA9083、西側には SA9085 の環状杭列が見られる。

平面形態は一部しか残っていないため不明。高さ 0.39 mを測る。

ＳＡ９０８５

M-29 区画に位置する。東側には SA9084、西側には SA9086 の環状杭列が見られる。

平面形態は不整円形で、中心部は浅い土坑が見られる。柵列の北側は柵が途切れる。規模は確認できる範囲で、長軸 1.50 m、短軸 1.30 m、高さ 0.33 m。土坑の規模は長軸 0.84 m、短軸 0.78 m、深さ 0.10 mを測る。断面形は台形で坑底はほぼ平坦になる。

土坑の南東部側の肩からはエブリが出土する。

ＳＡ９０８６

M-29 区画に位置する。東側には SA9085、SA9084 等の環状杭列が見られる。

平面形態は不整円形で、中心部に土坑が見られる。柵列は東側と西側が切れる。柵列の規模は確認できる範囲で、長軸 1.40 m、短軸は 1.10 m、高さ 0.30 m。土坑の平面形態は円形で、長軸、短軸共に 0.70 m。深さ 0.22 mを測る。断面形は台形で、坑底はほぼ平坦になる。

（４）甕棺墓

ＳＪ９００９

P-31・32 区画に位置する。南方約 3m には SK9003 がある。9 区では甕棺墓 1 基のみの検出で単独で立地する。最も近い甕棺墓は西方約 20 mの SJ11213 である。

墓壙上部が削平され、甕棺の上甕、下甕も削平される。

上下とも甕の複式棺で覆口式である。上下棺とも口縁部を打ち欠く。打ち欠いた下甕の口縁部片を上甕の覆口付近に埋置する。（PL30-3 参照）墓壙は楕円形で埋置角度は 28°である。

（５）溝跡

ＳＤ９００１

9 区の西側を北東から南西へ一直線にはしる溝である。溝幅は最大で 4.5 m、深さ約 0.6 mを測る。断面形は皿状～逆台形である。

この溝は 11 区から 9-2 区、9-3 区、5 区にかけて直線的に掘削された溝である。11 区では SD11065 として既報告である（『中原遺跡Ⅶ』2013 年刊）。5 区の発掘調査時には平面で遺構が検出できなく、SD552 自然流路内にて検出した水路の堤防と考えられる SF526、SF527 杭列として確認した。これらにより、本溝は確認できただけでも約 250m を直線的に掘削された溝であることが判った。

図 41 に SD9001 の土層図を掲載する。3 層からなるレンズ状堆積である。埋土中から弥生土器、古墳時代後期の須恵器、奈良時代の須恵器、土師器が出土している。溝の掘削時期は遺跡全体の遺構の状況や SD11065 の出土土器から考えて奈良時代である。

本直線溝は砂丘微高地を斜めに縦断する溝である。砂丘微高地の南側は低地部になることが調査によって確認されており、この低地は旧松浦川の支流に注ぐことが予想される。これらから、溝の機能は物資輸送の運河的役割や集落拡大に伴う用排水路などが考えられる（『中原遺跡Ⅶ』2013 年刊）。

ＳＤ９００２

SD9001 の東側にある、自然流の溝痕である。P・Q-30 で T 字状に東西と南に別れ、西側では SD9001 と交差し、東側は Q-29 まで検出した。南側は 9 区南端まで達するが、9 区の南側にある 10-2 区では確認できなかった。

上部からは土師器が出土し、下部からは弥生土器が出土する。

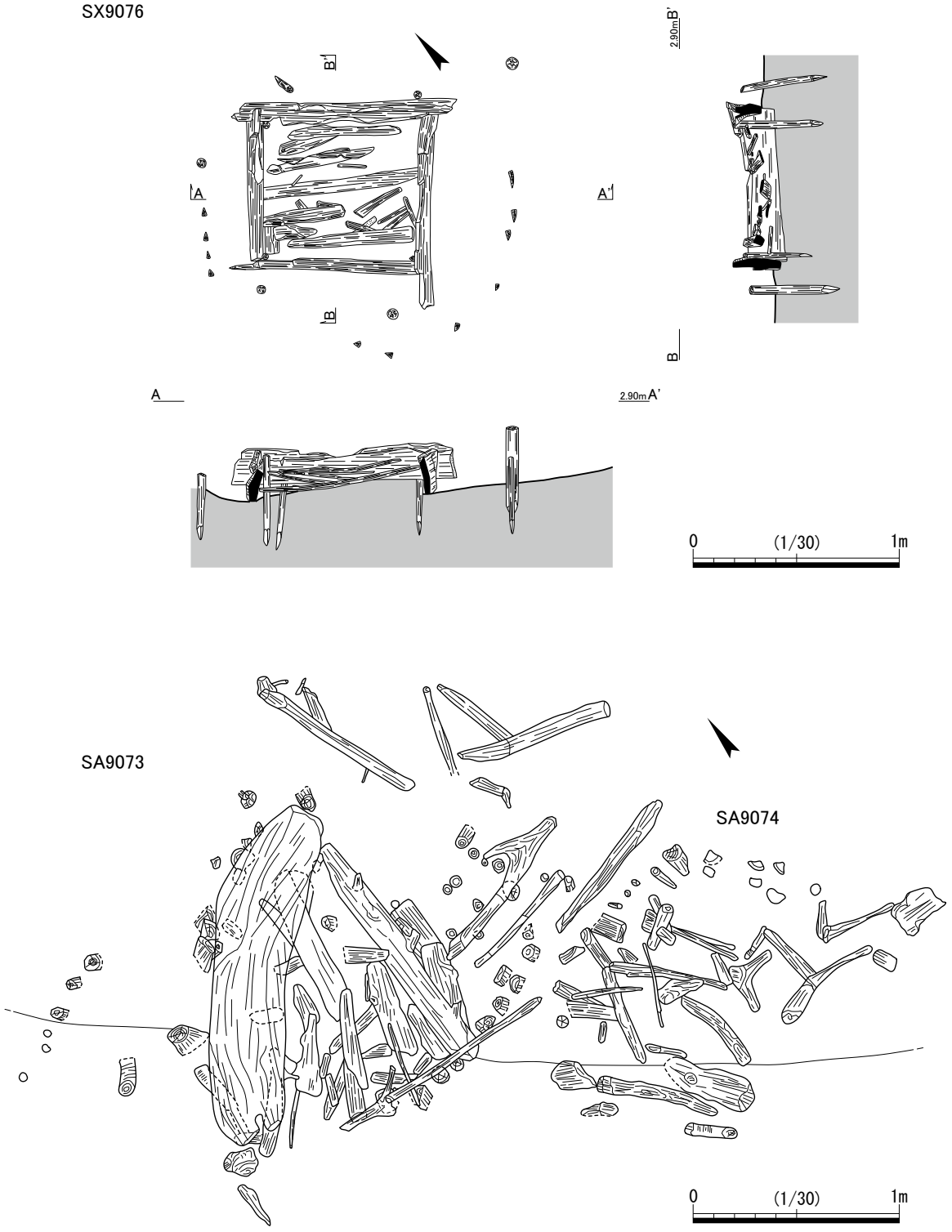


図37　SX9076木組遺構・SA9073・9074環状杭列（1/30）

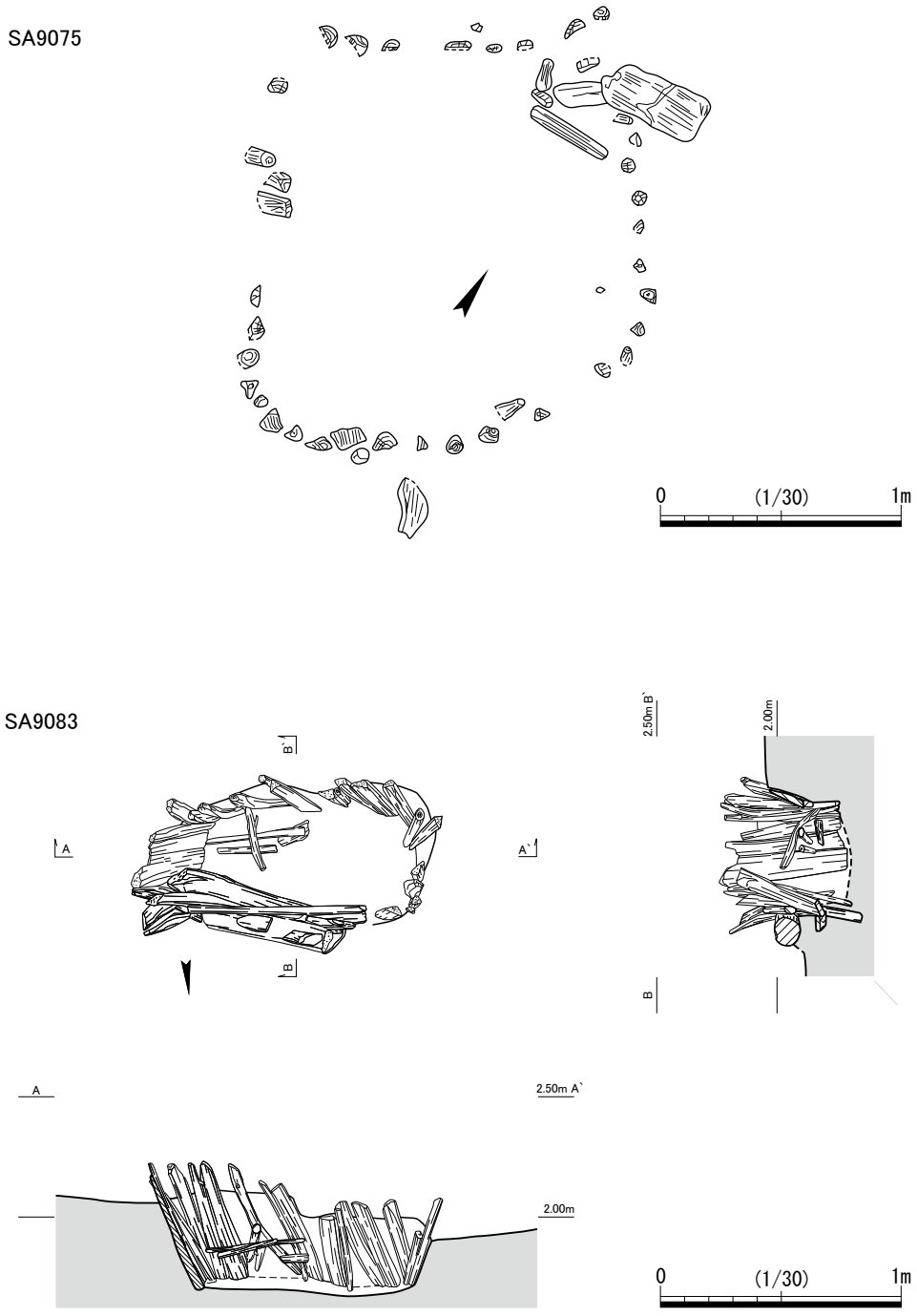


図38　SA9075・9083環状杭列（1/30）

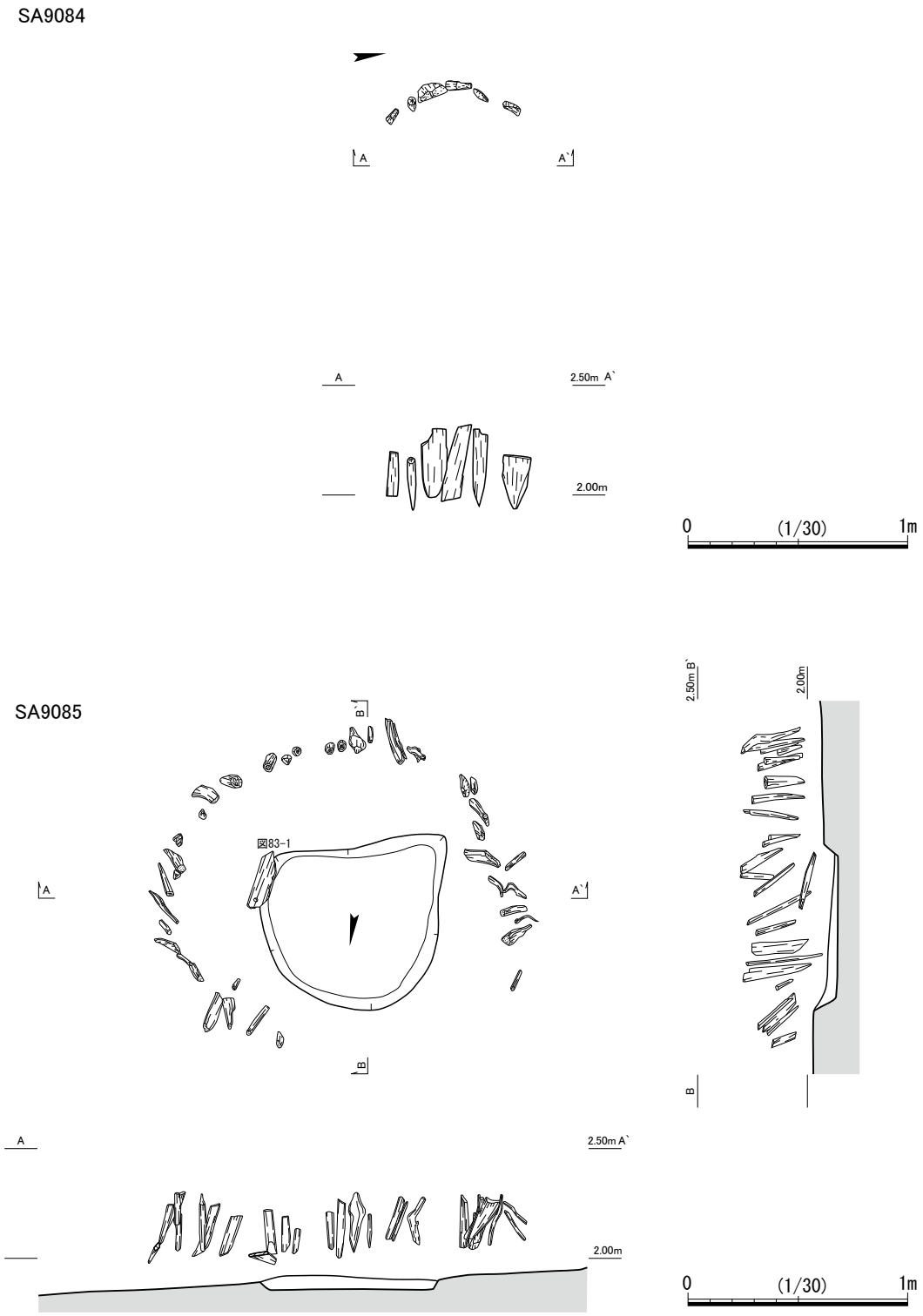
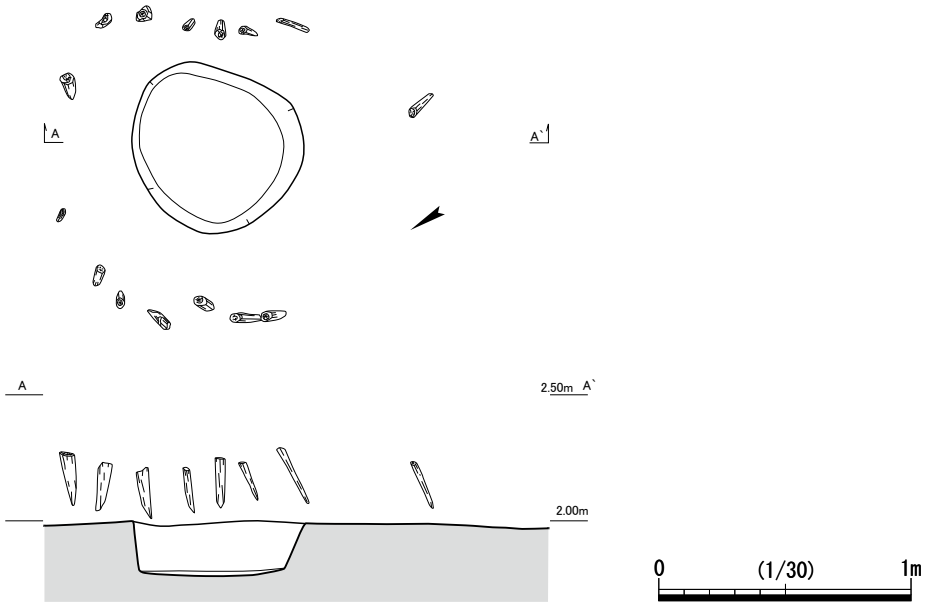


図39　SA9084・9085環状杭列（1/30）

SA9086



SJ9009

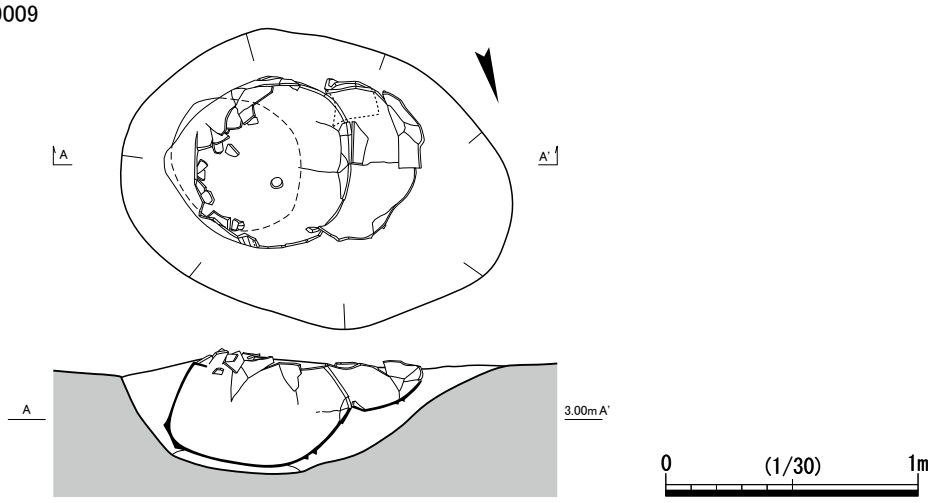
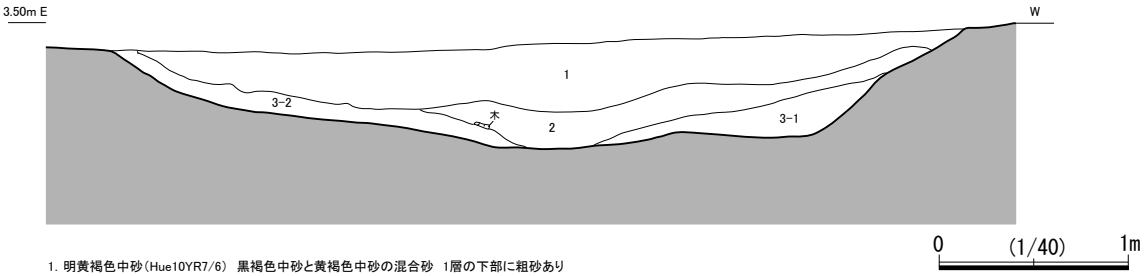


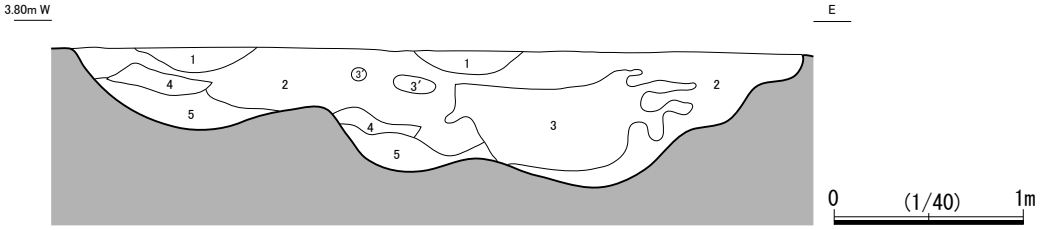
図40　SA9086環状杭列・SJ9009甕棺墓（1/30）

SD9001



1. 明黄褐色中砂(Hue10YR7/6) 黒褐色中砂と黄褐色中砂の混合砂 1層の下部に粗砂あり
2. 黒褐色粘質シルト(Hue10YR3/1) やや粘性あり 自然木を購入
3. 褐灰色細砂(Hue10YR4/1) 3-1は粒度が均密 3-2は黄褐色中砂が混入

SD9002



1. 浅黄橙色粗砂(Hue7.5YR8/3) 荒砂からなる層 SD9002の最上層で幅約50cmで蛇行する流路 1層中より古墳後期定形の杯 壷胴部片出土
2. 黒褐色細砂(Hue7.5YR2/2) SD9002の主な埋土 均密な細砂の中に部分的に地山ﾌﾞﾛｯｸを混入 弥生土器少片を混入
3. 灰白色粗砂(Hue7.5YR8/2) 荒砂よりなる層 泥水砂か 砂の粒子は大粒
3'.橙色中砂(Hue7.5YR7/6) 中砂よりなるﾌﾞﾛｯｸ 3層堆積時のﾌﾞﾛｯｸ
4. 橙色粗砂(Hue7.5YR6/4) 荒砂よりなる層
5. 黄橙色細砂(Hue10YR7/6) 地山の黄色細砂をﾍﾞｰｽとして2層の褐色細砂がﾌﾞﾛｯｸ状に混入する

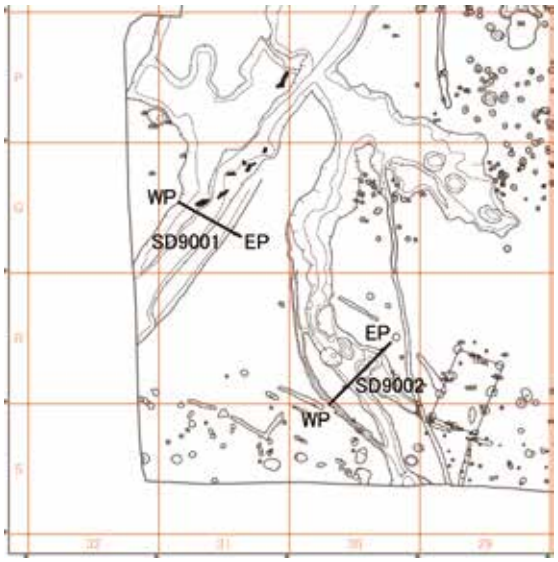


図41　SD9001・9002溝跡土層（1/40）

2，遺物

（1）土器

①　遺構出土土器

弥生土器、土師器、須恵器がある。本文中では須恵器と古代の土師器以外は器種のみ記述している。弥生土器、土師器、須恵器の区別は一覧表に記す。挿図は遺構ごとに掲載した。遺構出土の土器群には混入と考えられる土器も多く見られる。

A　掘立柱建物跡出土土器

図 42 に SB9029、SB9058 柱穴出土土器片を掲載する。これら以外にも掘立柱建物柱穴から土器片が出土しているが、胴部片などの小片であるため図示していない。ここでは図化していない土器片を含めて、遺構番号順に出土土器片について記す。

SB9029 は P1 から弥生土器胴部片 8 点、土師器胴部小片 1 点が出土している。P2 から弥生後期後半の高杯脚部片（図 42-4）と弥生後期の土器胴部小片 7 点と土師器胴部小片 1 点が出土している。P3 から弥生土器及び土師器小片が 10 点出土している。P4 から弥生土器及び土師器小片が 8 点出土している。土師器小片は色調が灰白色である。P7 から弥生中期の鋤先口縁広口壺口縁部片（図 42-6）と高杯脚部片（図 42-5）と弥生後期の土器胴部小片と土師器胴部小片、約 30 点が出土している。P8 から弥生土器壺底部片（図 42-2）と弥生後期の土器小片と土師器胴部小片約 30 点が出土している。P9 から弥生後期後半の甕口縁部片（図 42-1）と弥生後期の土器胴部小片と土師器胴部小片、約 20 点が出土している。土師器には布留型甕胴部小片がある。P10 から台付鉢の台部片（図 42-3）と弥生後期の土器胴部小片と土師器胴部小片、約 20 点が出土している。

SB9049 は P3 から弥生後期の土器小片と土師器胴部小片 2 点が出土している。

SB9050 は P2 から弥生土器胴部小片 1 点が出土している。

SB9051 は P2 から弥生後期の土器胴部小片 1 点が出土している。P4 から弥生後期の土器胴部小片 5 点が出土している。

SB9057 は P2 から弥生後期の土器胴部小片 7 点が出土している。P6 から弥生後期の土器胴部小片及び土師器小片 9 点が出土している。P7 から弥生後期の土器胴部小片及び土師器小片 7 点が出土している。

SB9058 は P1 から弥生終末の甕口縁部片（図 42-7）と土師器甕肩部片（図 42-8）と弥生後期の土器胴部小片及び土師器片、約 20 点が出土した。P2 から弥生後期の土器小片と土師器胴部小片 4 点が出土している。P4 から弥生後期の土器小片と土師器胴部小片 5 点が出土している。

SB9062 は P1 から弥生後期の土器小片 2 点が出土している。

SB9063 は P2 から弥生後期の土器片 1 点が出土している。P4 から弥生後期の大形甕口縁部片 1 点と胴部小片 1 点が出土している。

SB9065 は P1 から土器細片 1 点が出土している。P2 から弥生後期の土器小片 3 点が出土している。P5 から土師器甕胴部片 1 点が出土している。P8 から土師器甕胴部片 1 点が出土している。

SB9067 は P2 から弥生後期の土器片 1 点が出土している。P3 から土器片 1 点が出土している。

SB9081 は P1 から土師器甕胴部片 1 点が出土している。

B　土坑出土土器

ＳＫ９００３出土土器

図 42-9 ～ 11 は甕口縁部片である。9､10 は逆Ｌ字形で､11 は口縁部長の短い､「く」の字形である。

図 42-12 は甕底部片、平底、外面縦ハケである。

ＳＫ９０２５出土土器

図 42-13、14 は甕口縁部片である。「く」の字形で内外ハケ調整を施す。

図 43-1 ～ 5 は甕、1 は底部を欠損するもののほぼ完形、口縁部は若干、外反する。胴部外面上半は右上がりのタタキのちハケ、胴部内面はヘラケズリ。2 は完形、平底で胴部下半は右上がりの細いタタキのち細いハケ。胴部上半は細いハケ、内面上半ヘラケズリ、下半ナデ。3 は完形、胴部外面のほぼ全面に水平～右上がりのタタキのちハケ。胴部内面ヘラケズリ、丸底である。4 は肩部外面に右上がりの細いタタキ、胴部内面ヘラケズリ。口縁端部外面は面とりされる。器壁はやや薄い。5 は口縁部がやや長く内湾気味、口縁上端部は面取りされる。肩部外面にハケ、内面ヘラケズリを施す。

図 44-1 ～ 3 は甕、1 は胴部片、肩部外面水平タタキのちハケ、タタキ痕跡はわずかに残る。肩部内面ハケ、胴部内面ヘラケズリ。2 は胴部で口縁部、底部を欠損する。胴部内外面はハケ後ナデ、肩部内面に指頭圧痕あり。肩部外面煤付。器壁はやや厚く、胎土は在地産である。3 は底部片、外面はカキケズリ状、内面ハケ。

図 44-4、5 は高杯。裾部は外下方にのびる。裾部に円形四方透かしあり。

図 44-6、7 は台付鉢。6 は素口縁の鉢部に円形四方透かしのある台部がつく。7 は台部のみ遺存、外下方にのびる裾部に円形四方透かしあり。

図 44-8 は器台片か。

ＳＫ９０３７出土土器

図 44-9 は高杯、胎土はやや精製、内外面ハケのちナデ。

ＳＫ９０４４出土土器

図 45-1 ～ 3 は甕、1 は約 1/2 残存、底部は丸底、口縁端部は面取り、内外面ハケ。2、3 は口縁部片、口縁端部は面取り、内外面ハケ。

ＳＫ９０６８出土土器

図 45-4 ～ 6 は甕、4 の色調は黄橙色で器壁断面は黒色帯がサンドイッチ状に入る。5 は外反口縁で端部面取りする。6 は甕棺の頸部片か。断面台形の突帯が回る。内外面ハケ。

ＳＫ９０７２出土土器

図 45-7 は甕口縁部片、外面ハケ、内面ナデ。

図 45-8 ～ 11 は高杯、8 は有段高杯の杯部片、9 ～ 11 は脚部、9 は裾部に円形四方透かしあり、10、11 は裾部に円形透かしあり。11 は裾部内面、簾状ハケを施す。

ＳＫ９０７７出土土器

図 46-1 は甕、底部欠損、胴部外面ハケ、内面ナデ。

図 46-2 は壺、二重口縁壺か？底部は厚みのある平底で、胴部外面は水平タタキが残る。胴部内面に粘土帯接合痕が二条みられる。

図 46-3 は高杯杯口縁部片か。内外面ミガキ状。

ＳＫ９０８０出土土器

図 46-4 は壺、二重口縁壺か？胴部球形で外面タテハケのち縦方向のミガキ、内面ヘラケズリ。

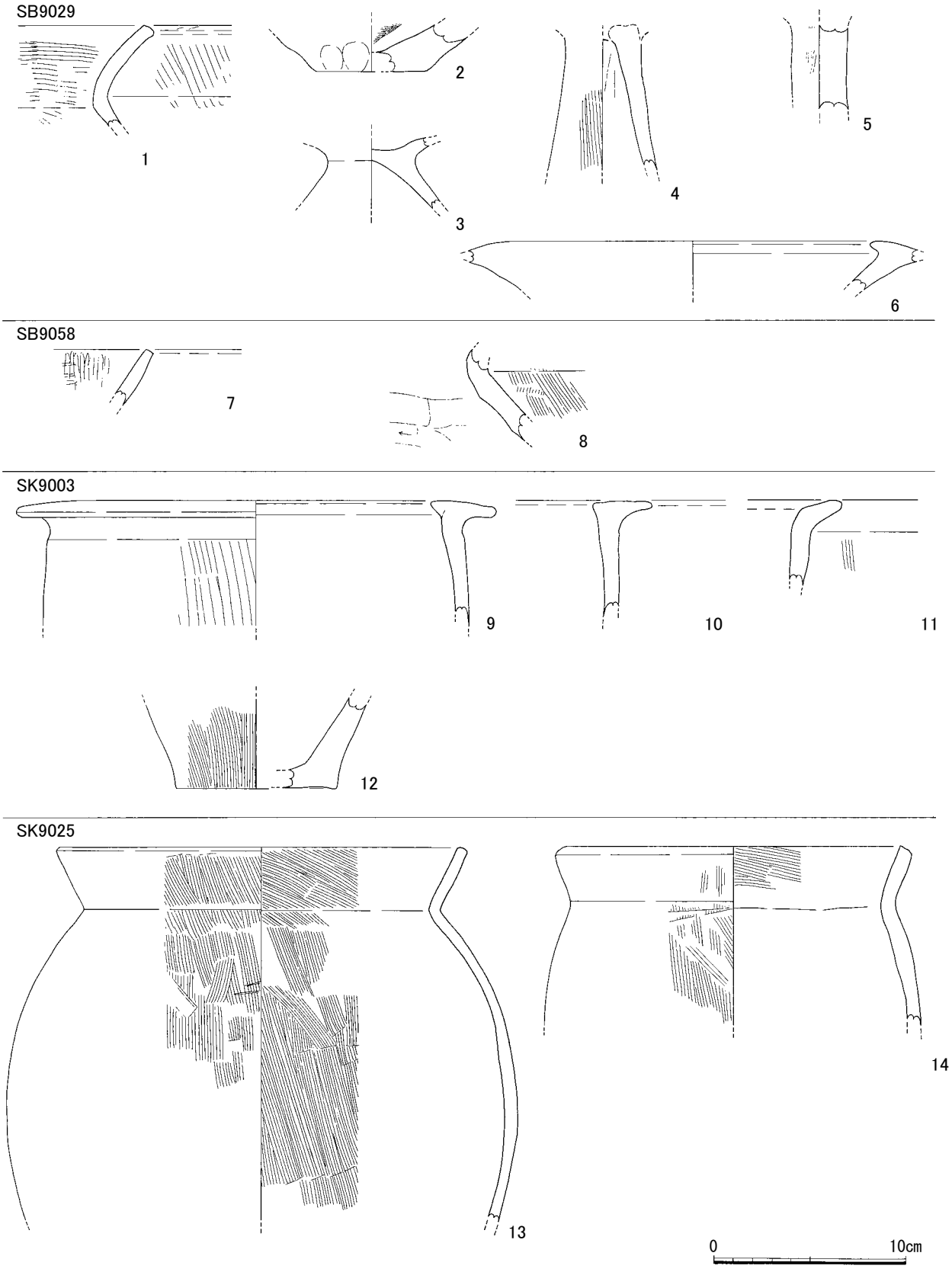


図42　SB9029・9058・SK9003・9025出土土器（1/3）

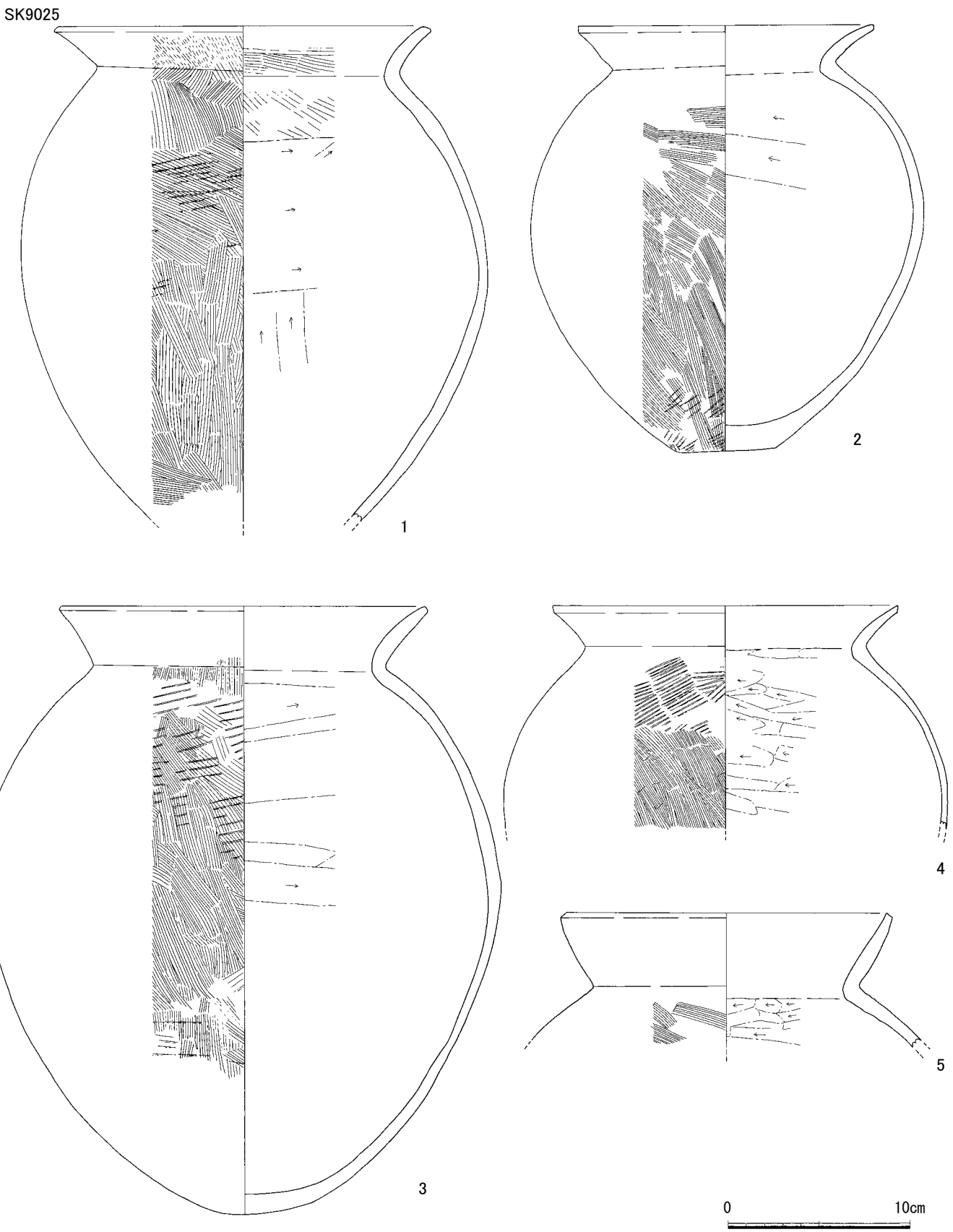


図43　SK9025出土土器（1/3）

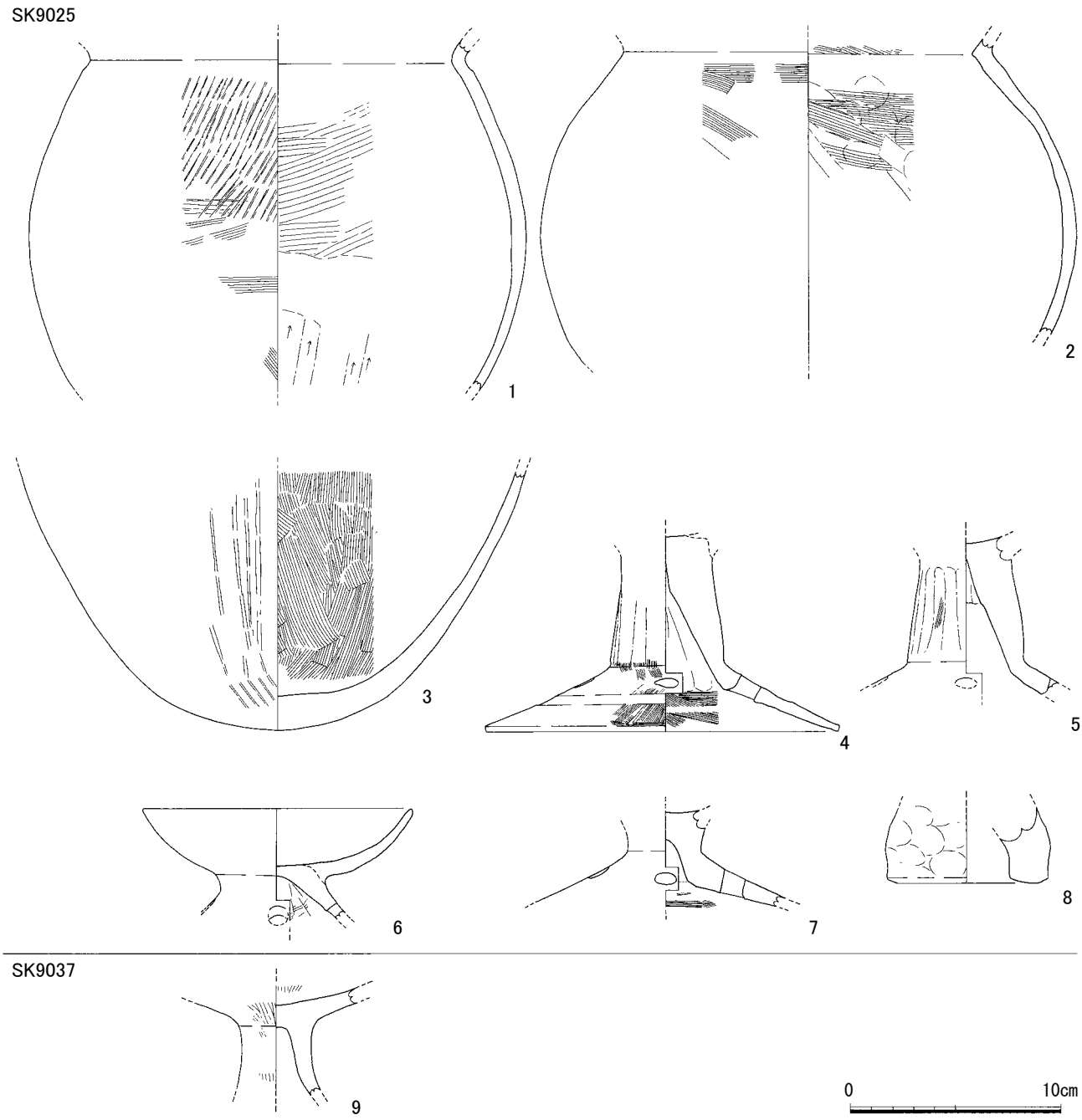


図44　SK9025・9037出土土器（1/3）

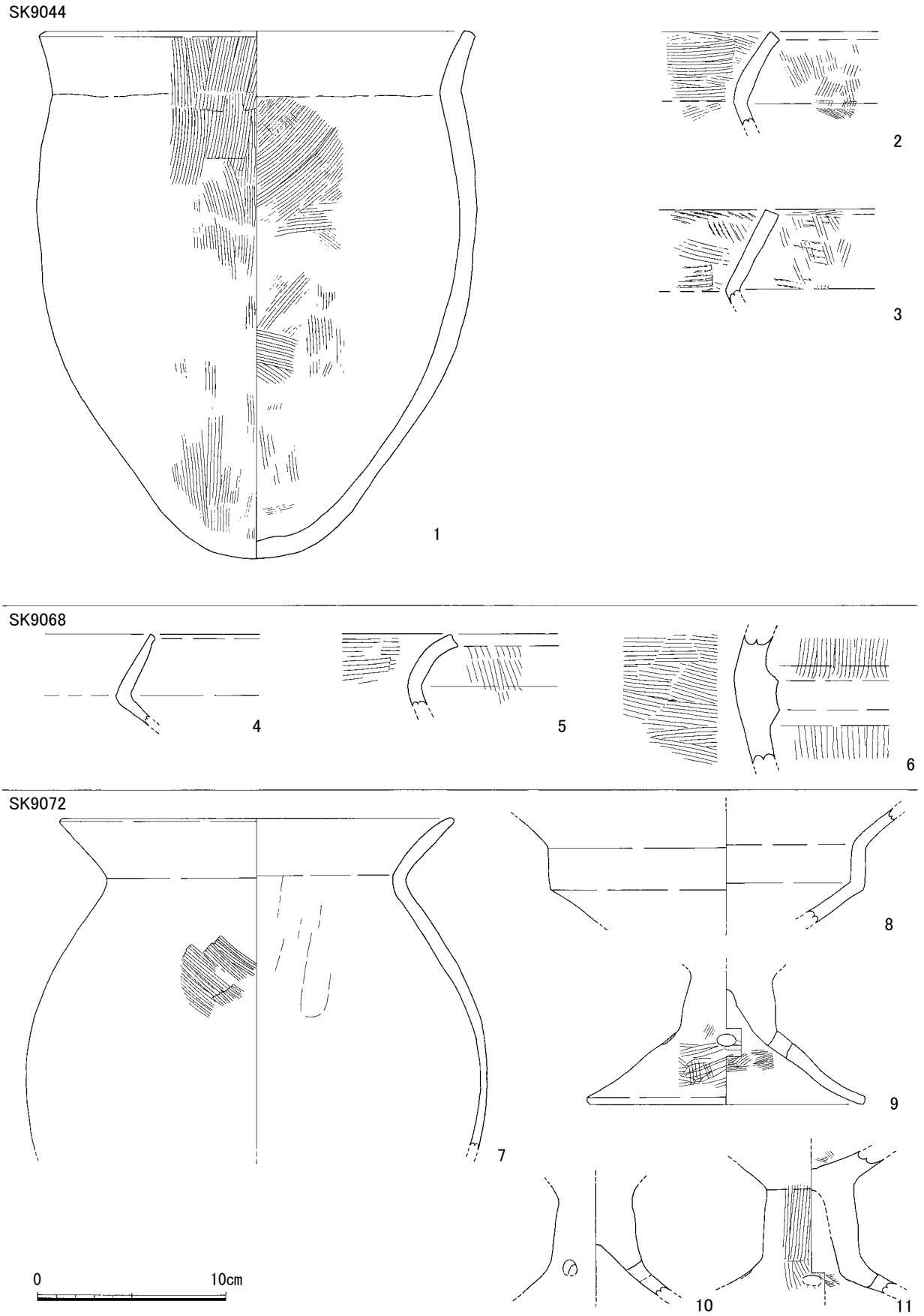


図45　SK9044・9068・9072出土土器（1/3）

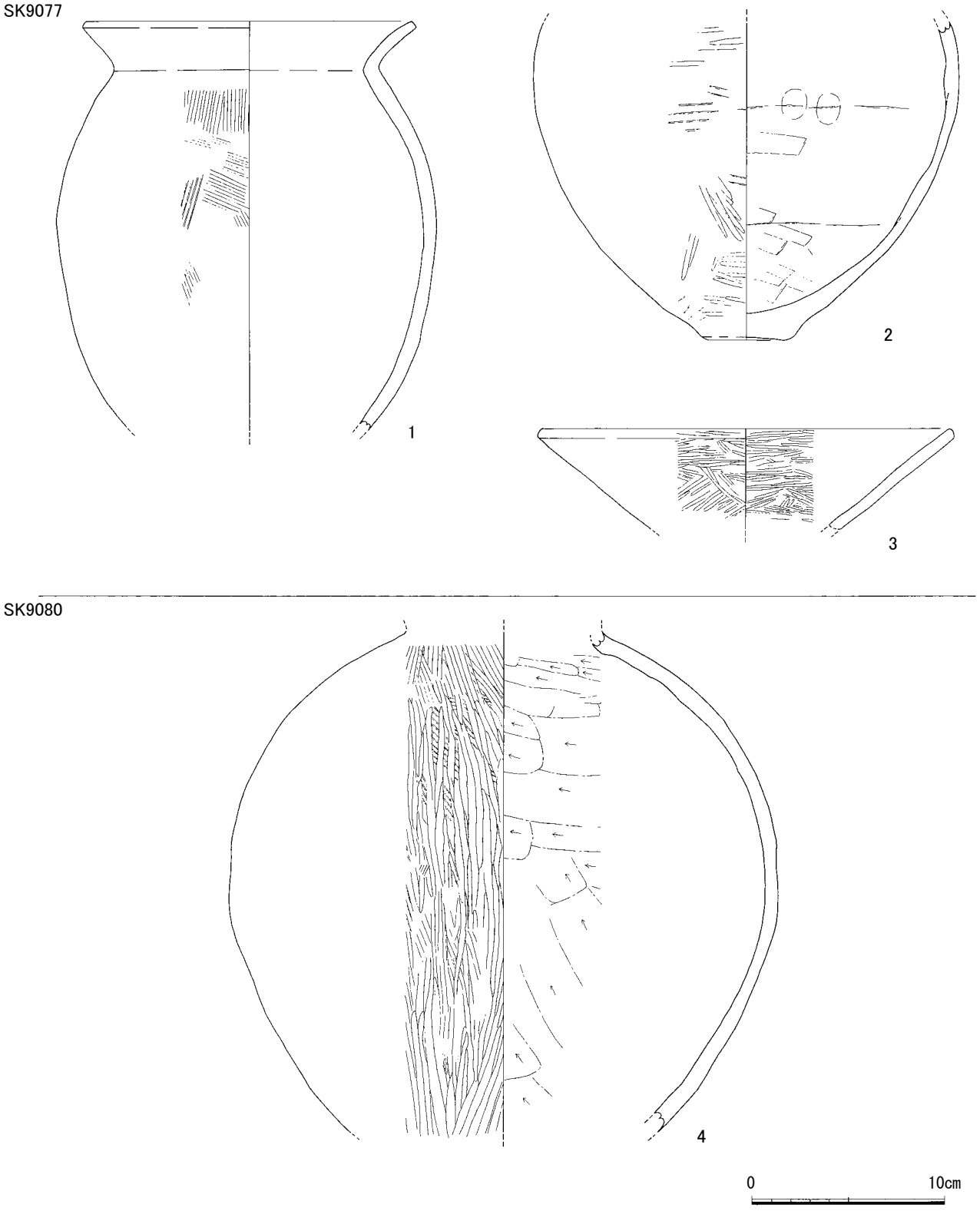


図46　SK9077・9080出土土器（1/3）

C　溝跡出土土器

ＳＤ９００１出土土器

図 47-1 ～ 3 は須恵器杯蓋口縁部片、1、2 は口縁端部を下方に曲げ、断面三角形に突出させる。3 は端部の突出が退化する。

図 47-4、5 は須恵器高台付杯、高台部は外方に短く開く。

図 47-6 は須恵器皿、平底で、体部外面はケズリのちナデ。

図 47-7 は須恵器壺、口頸部は直立気味に外方に開き、肩部外面は平行タタキ、内面は同心円文の当て具痕あり。

図 47-8 は須恵器杯蓋、天井部外面ヘラ切り未調整、体部外面ナデ。

図 47-9、10、11 は須恵器杯身、立ち上がり高は約 1㎝である。

図 47-12、13 は土師器杯、12 は底部外面に回転ヘラ切り痕と板目痕あり。13 は底部外面ナデ。

図 47-14 は甕底部、平底。

図 47-15 は小形の鉢、素口縁で平底、体部外面に指頭圧痕あり。

図 47-16 は器台、器壁が厚く、外面に指頭圧痕あり。

本遺構の時期決定遺物は 1 ～ 7、12、13 である。

ＳＤ９００２出土土器

図 48-1 ～ 3 は甕口縁部、口縁部は短く、「く」の字形である。体部外面ハケ。

図 48-4 ～ 5 は甕底部、4 は平底で、5 は底部と側面の稜がとれ丸味をもつ。

図 48-6 ～ 8 は甕口縁部、6 は口縁部が直立気味で壺とした方か適当か。7 は口縁部が直線的に外方にのび、端部は面取りされる。8 は口縁部が外反気味、肩部内面ヘラケズリ。

図 48-9 は壺あるいは甕の底部、底部側面は丸味をもち、底部内面に回転させた工具痕がみられる。

図 48-10、11 は高杯脚部、10 は裾部に円形三方透かしあり。11 は裾部に円形四方透かしあり。

図 48-12、13 は鉢、素口縁で丸底である。口縁部内外面ナデ。底部～体部外面は不定方向のヘラケズリを施す。

ＳＤ９０２１出土土器

図 48-14 は甕口縁部片、やや外反気味で端部は丸くおさめる。

図 48-15 は甕底部片、丸底気味である。

図 48-16 は鉢口縁部片、素口縁である。内面ハケ。

②　甕棺

図 49-1 は SJ9009 の上甕である。口縁部を打ち欠き、底部は欠損する。体部は卵形である。胴部最大径に断面三角形の二条突帯を回す。体部外面はハケ後ナデ、内面はナデ。

図 49-2 は SJ9009 の下甕である。口頸部を打ち欠く。打ち欠いた口縁部片は上甕の外側に埋置されていた。胎土や調整から口縁部と体部は同一個体と考えた。口縁部は「く」の字形に近い逆Ｌ字形で上端面は平坦に近い。平底で体部は卵形である。胴部最大径に断面三角形の二条突帯を回す。体部外面は縦及び斜め方向のハケ、内面は不整方向のナデを施す。胴下半部に円形の焼成後穿孔あり。

SD9001

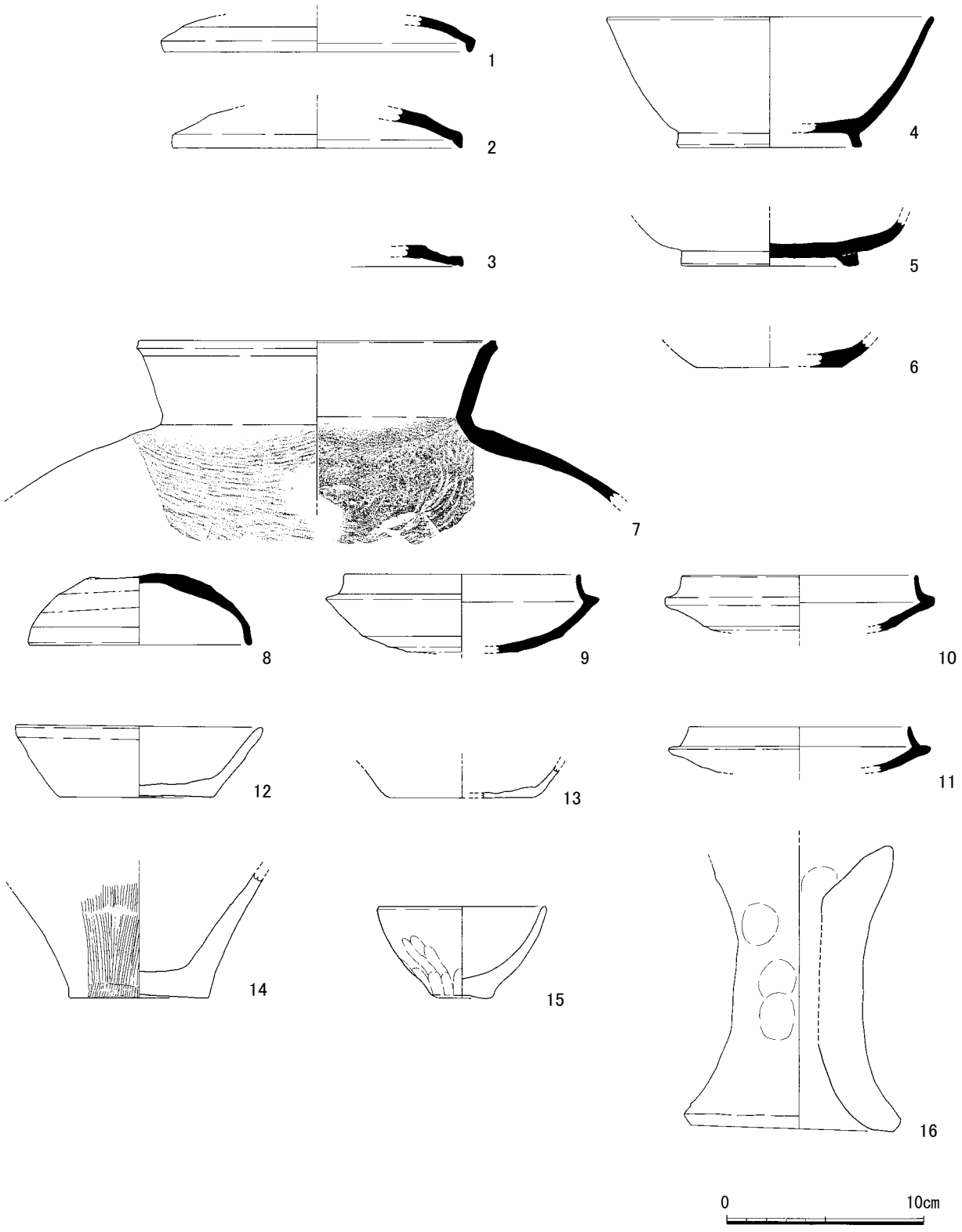


図47　SD9001出土土器（1/3）

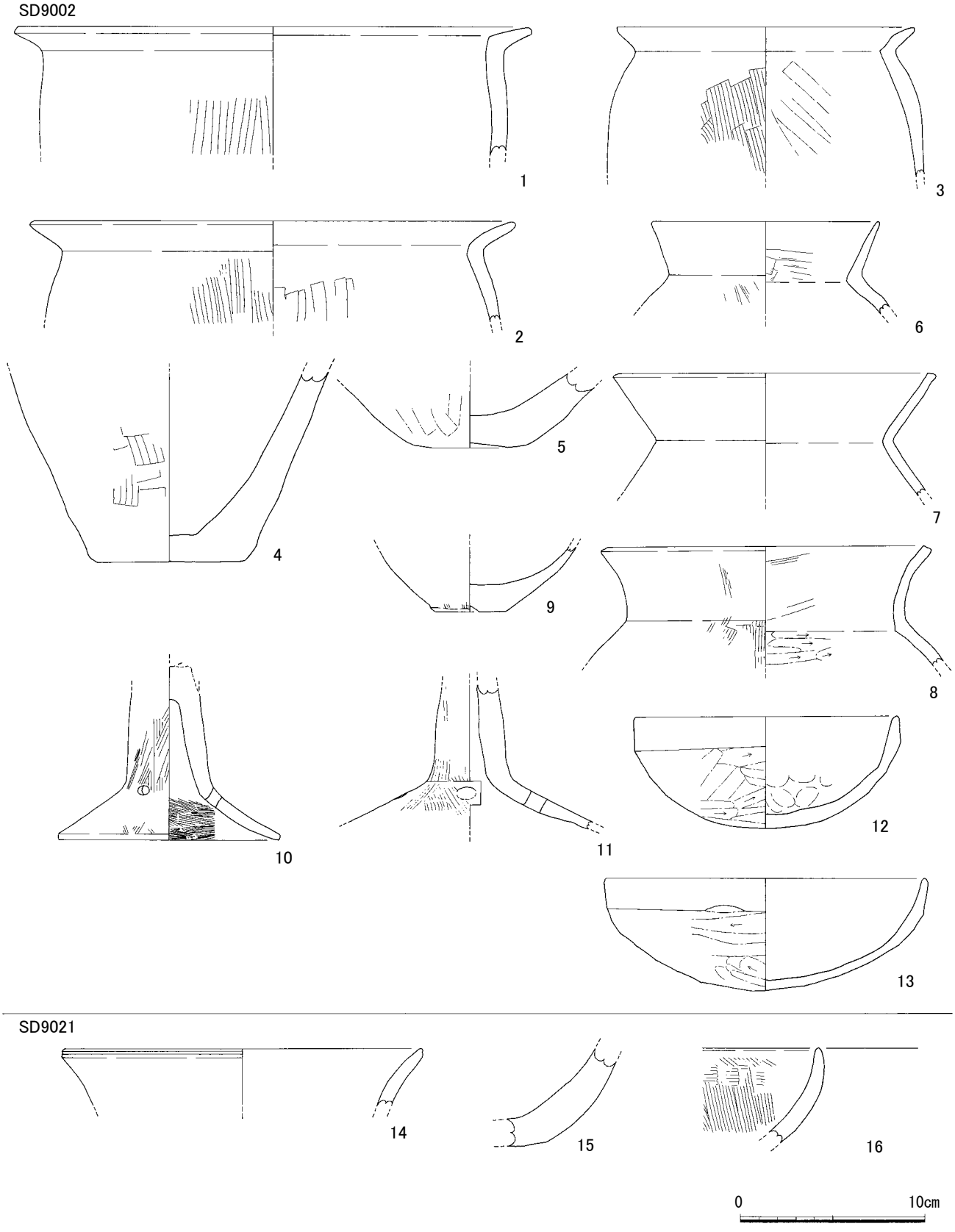


図48　SD9002・9021出土土器（1/3）

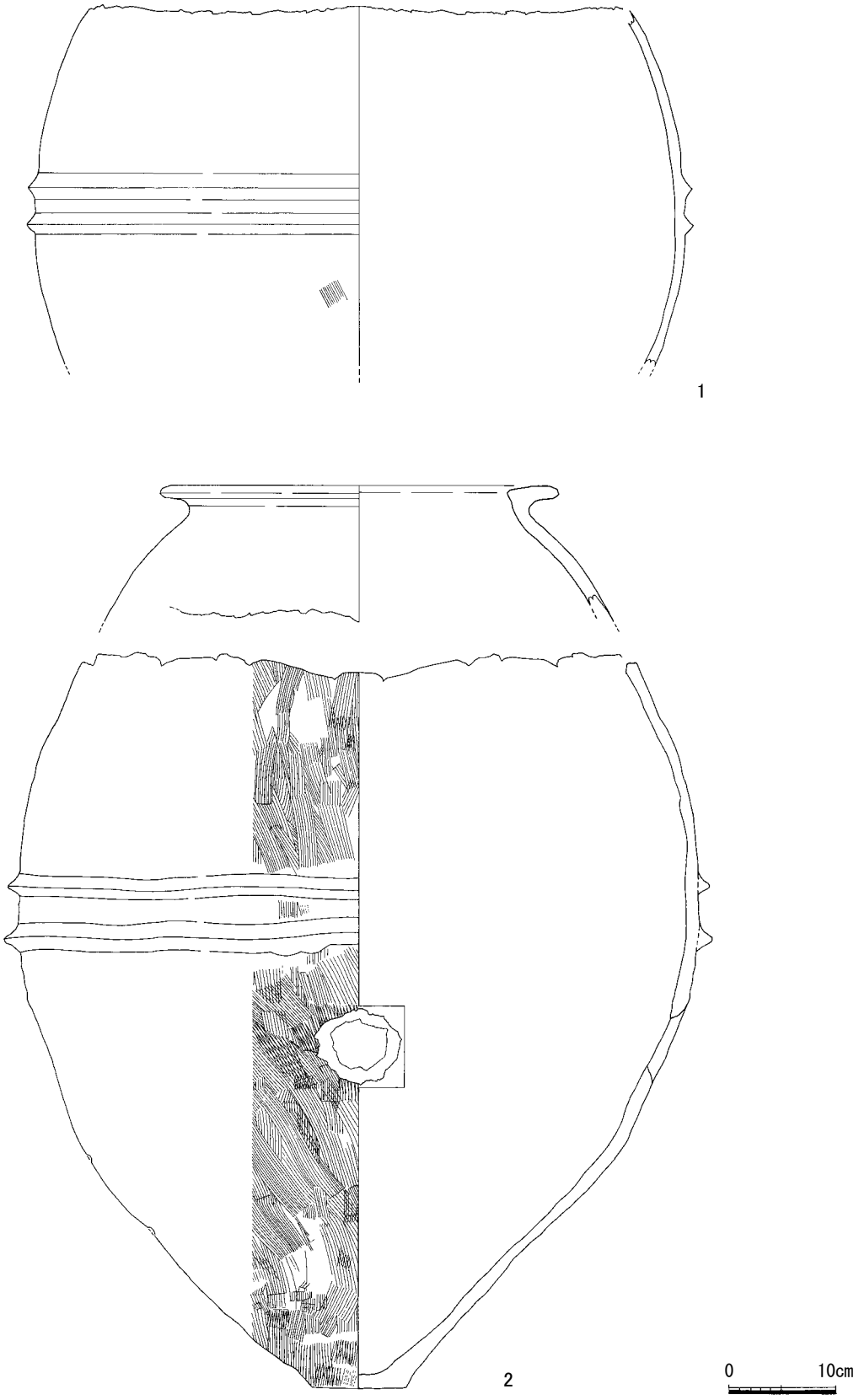


図49　SJ9009甕棺（1/6）

③　包含層出土土器

図 50-1 ～ 8 は弥生土器の甕である。1 は口縁部付近で内傾からやや外反し、口縁端部が内部上～外部下方向に向けて逆 L 字状に外反する。底部は台付状の平底である。外面はハケ、内縁にナデを施す。2 ～ 7 は口縁片である。このうち 2、3 は口縁部が逆 L 字状に外反するが、胴部～頸部にかけて少しずつ内傾していき、口縁部において逆 L 字状に外反する。このうち 3 は縦方向にハケ後、口縁部付近でヨコナデを施す。4、5 は鋤先口縁の甕であり、外面はハケ後ヨコナデ、内面はナデを施す。5 は 4 と比較して、口縁端部の内面への突出がより顕著である。6 は口縁部が逆 L 字に外反するも、口縁端部は内部下～外部上にかけてやや傾斜している。外面はやや摩耗しているが、ハケ後ナデを施しており、口縁部直下に一条の沈線が巡る。内面は板状工具によるナデを施す。7 は胴部～頸部にかけて内傾しており、口縁部は逆 L 字状に外反する。内面側に向かって口縁端部がやや突出しており、外面は縦方向にハケ後ナデ、内面は斜め方向に工具痕がみられる。8 は胴部～頸部にかけて内傾しており、口縁部は逆 L 字状に外反する。頸部～胴部の境界あたりに一条の突帯が巡る。

図 51-1、2 は弥生土器の甕である。口縁部が緩やかに外反し、外面に縦方向にハケを施す。

図 51-3 は口縁部がやや「く」の字状に外反した広口壺の口縁片である。外面の胴部にハケを施す。

図 51-4 ～ 7 は弥生土器の甕。4 は口縁部が短く外反し､外面にハケ後ナデを施す。5 は口縁部が｢く」の字状に外反した土器である。外面胴部に縦方向のハケを施す。6 は口縁部が「く」の字状に外反し、口縁端部では若干内傾化する。外面に縦方向のハケを施す。7 は口縁部が「く」の字状に強く外反し、口縁端部もまた外反している。頸部付近に一条の突帯が巡っており、外面の胴部に縦方向のハケ、頸部～口縁部および内面においてはヨコナデを施す。

図 52-1､2 は弥生土器の甕である。1 は口縁部が逆 L 字状に外反しており､頸部付近の胴部に二条ずつ、胴部の中央部付近に二条ずつの突帯が巡る。外面は全体に丹塗りを施し、胴部においてミガキ、ナデを施す。内面においては丹塗りの塗料が一部付着する。2 は甕の底部のみの残存。平底で、底部の中心部が若干浮上している。外面に縦方向のハケ、内面にナデ、指頭圧痕が確認できる。

図 52-3、4 は壺の底部のみの残存。3 の底部は平底であり、底面の縁淵部と比較して、中心部が浮上している。外面は摩耗しているが丹塗りの痕跡が確認できる。また外面の胴～底部にかけて縦方向にミガキ、内面に工具によるナデを施す。4 もまた平底で、底部の中心部が若干浮上している。器面は摩耗が著しいが、外面ではハケ、内面では底部付近において指頭圧痕が確認できる。

図 52-5、6 は甕の底部のみの残存。5 は平底で、底部の中心部が若干浮上しており、摩耗が激しいが、外面、内面共に底部付近においてナデ、指頭圧痕が確認できる。6 は平底であり、底面はほぼ扁平である。外面は縦方向にハケ、内面はナデを施す。

図 52-7、8 は壺の口縁部～頸部にかけての破片である。7 は鋤先口縁の広口壺であり、口縁部上端が水平に面を構成しており、この面にはミガキが施されている。また外面の頸部にはナデの後に暗文が施され、その直下には一条の突帯が巡る。この突帯の中央には沈線が刻まれている。また、外面には丹塗りの痕跡がある。8 もまた鋤先口縁の広口壺である。口縁部上部が水平に面を構成しており、摩耗が激しいがこの上面からミガキが確認できる。また、口縁端部には二重に刻み目が施される。外面に丹塗りの痕跡あり。

図 53-1 は弥生土器の甕。口縁部が「く」の字を呈する。底部は平底であるが、底面の縁淵と中心部の間に溝が巡る。外面は胴部にハケ、頸部付近にヨコナデが巡り、内面に工具ナデを施す。

図 53-2 ～図 57-8 は弥生土器の甕であり、口縁部～胴部にかけての破片である。いずれも口縁部が

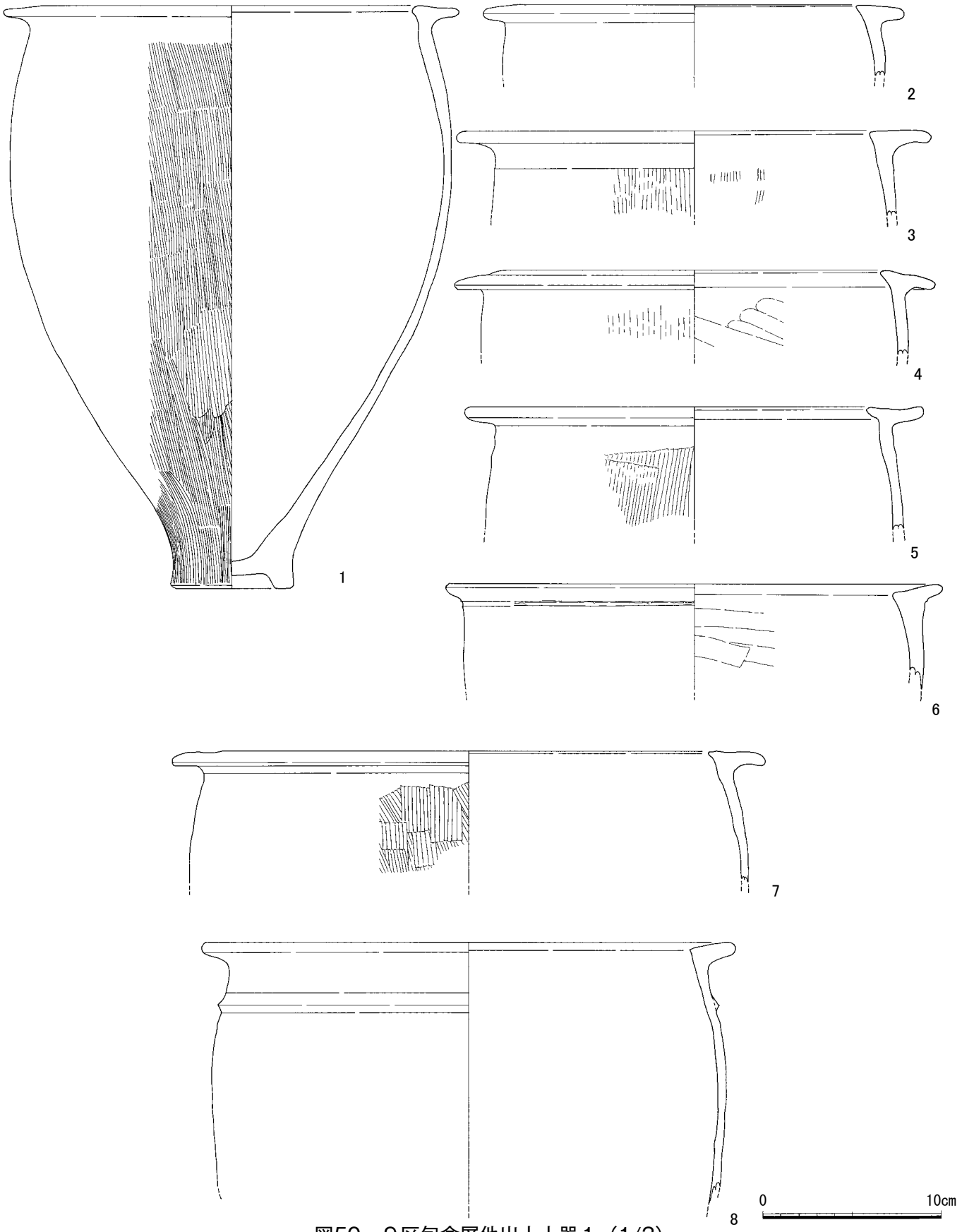


図50　９区包含層他出土土器１（1/3）

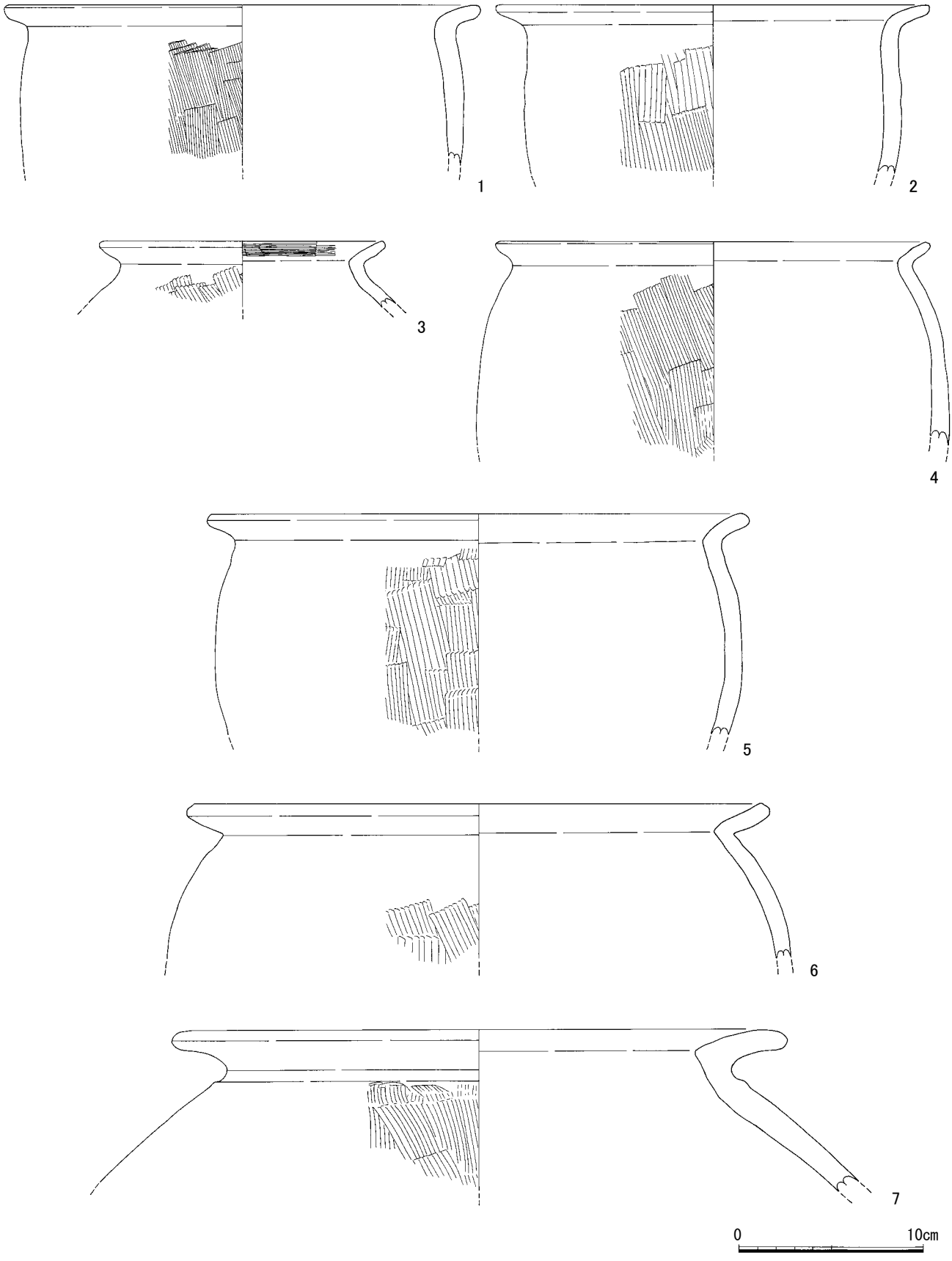


図51　９区包含層他出土土器２（1/3）

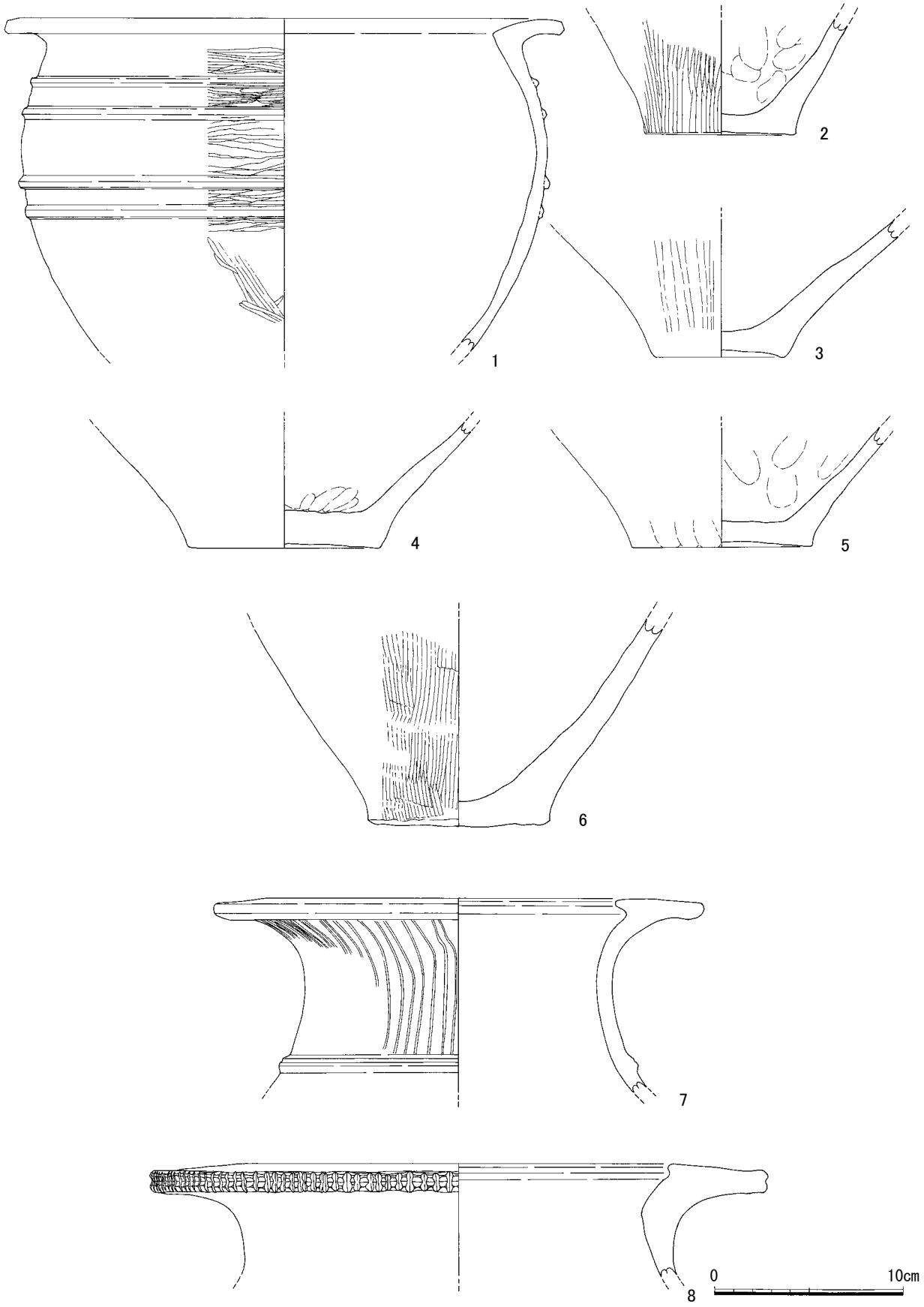


図52　９区包含層他出土土器３（1/3）

「く」の字を呈し、口縁端部を面取りしている。

図 53-2 は外面、内面共に頸部～胴部にかけてハケ、口縁部にナデを施す。3 は外面の胴部にハケ、口縁部にヨコナデ、内面にハケを施す。4 は内面の頸部付近に明稜な稜線をもつ。外面はハケ後、口縁部～頸部付近にかけてヨコナデ、内面の胴部にハケ、口縁部にヨコナデを施す。5 は外面の胴部にハケ、口縁部にナデ、内面にナデを施す。6、7 は口縁端部を面取りしておらず、6 は内外面に口縁部付近から上部はヨコナデ、下部はハケを施す。7 は内外面に口縁部～頸部にヨコナデ、胴部にハケを施す。8 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面、内面共にハケを施す。

図 54-1 は頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面に縦ハケ、内面の口縁部付近は横方向にハケ、頸部付近に斜め後縦方向にハケ、胴部に斜め方向のハケを施す。2 は頸部付近に明瞭な稜線が巡り、頸部～胴部にかけてハケ、内面の口縁部にハケ、胴部にナデを施す。3 は内外面にハケを施す。4 は内外面共に口縁部～胴部上半にかけて縦方向にハケ、胴部下半に縦後斜め方向のハケを施す。5 ～ 7 は外面、内面共にハケを施す。8 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、内外面共に胴部に斜め方向のハケ、口縁部～頸部にかけては横方向のナデを施す。

図 55-1 は口縁部～底部にかけての破片であり、内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、底部はややレンズ状を呈する。外面上半にハケ、下半にカキケズリ後ナデ、内面にハケを施す。2 は外面、内面共にハケを施す。3 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面、内面共に頸部～胴部にかけて縦方向にハケを施す。4 は外面にハケの後カキケズリ、内面は斜め方向にハケを施す。5 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面、内面共にハケ後、口縁端部においてはヨコナデを施す。6 は外面に縦方向のハケ、内面に斜め方向のハケを、それぞれ呈する。

図 56-1 ～ 3 はいずれも弥生土器の甕である。1 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面、内面共にハケを施す。2 は外面に斜め方向のハケを施し、内面は口縁部～頸部にかけて横方向のハケを施し、頸部～胴部にかけては現状では摩耗しているが、ナデが施されたと考えられる。3 は現状では外面がやや摩耗している。外面の胴部～頸部にかけて斜め方向にハケ後、口縁部～頸部付近にかけて縦方向にハケ。内面は胴部～頸部にかけて斜め方向にハケ後、口縁部～頸部付近にかけてさらに斜め方向にハケが施される。

図 57-1 は外面に縦方向のハケ、内面に斜め方向にハケをそれぞれ施す。2 は外面にタタキ後にハケ、内面に斜め方向のハケを施す。3、4 は共に内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、頸部～胴部にかけて外面にハケ、内面にハケ後ナデをそれぞれ施す。5 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面にハケ、内面に縦、横方向のハケを施す。6 は内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡り、外面にハケ、内面に横方向のハケを施す。7 は外面に横の後縦方向にハケを施す。8 は外面に縦方向のハケ、内面に斜め方向のハケをそれぞれ施す。

図 58-1 ～ 4 は弥生土器。いずれも口縁部が直口であり、胴部が球状に膨らむ。このうち 1、2 は甕、3、4 は壺の破片である。1 は外面に縦方向のハケ、内面に横方向のハケをそれぞれ施す。2 は外面に縦方向のハケ、内面の口縁部に横、胴部に斜め方向のハケをそれぞれ施す。また内面の頸部付近には指押さえによる指頭圧痕が確認できる。3 は外面に縦方向のハケ、内面に縦方向のハケの後、頸部付近～口縁部にかけて横方向のハケを施す。4 は 3 に比べ復元口縁径が約 11㎝程度と小型である。外面に縦方向にハケ、内面の頸部～口縁部にかけて斜め方向にハケを、それぞれ施す。

図 58-5 ～ 7 は甕である。うち 5、6 は口縁部の小片であり、5 は口縁端部のラインがややいびつに歪曲している。外面は頸部～胴部にかけて格子状にタタキを施しており、外面口縁部および内面はナデ

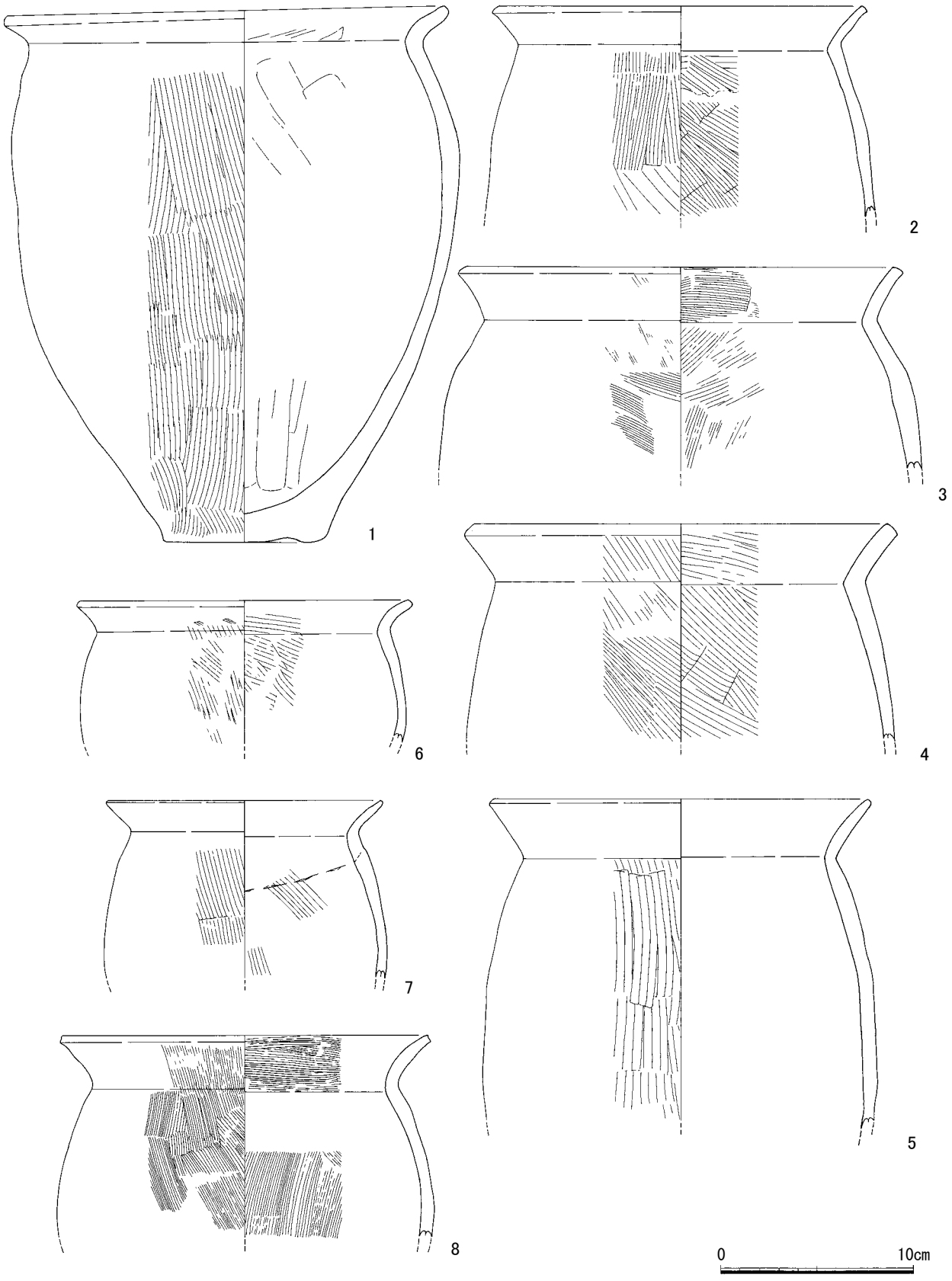


図53　９区包含層他出土土器４（1/3）

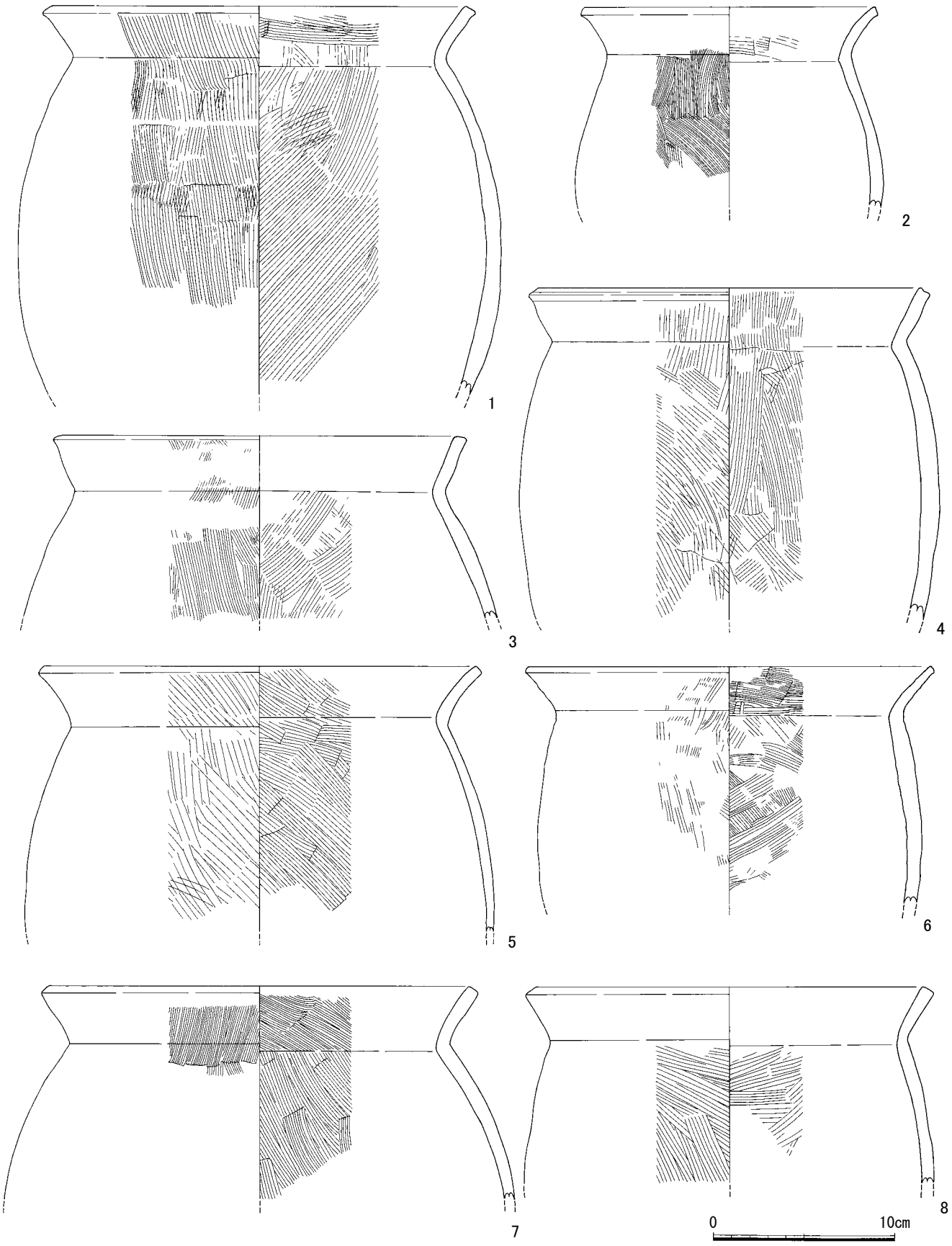


図54　９区包含層他出土土器５（1/3）

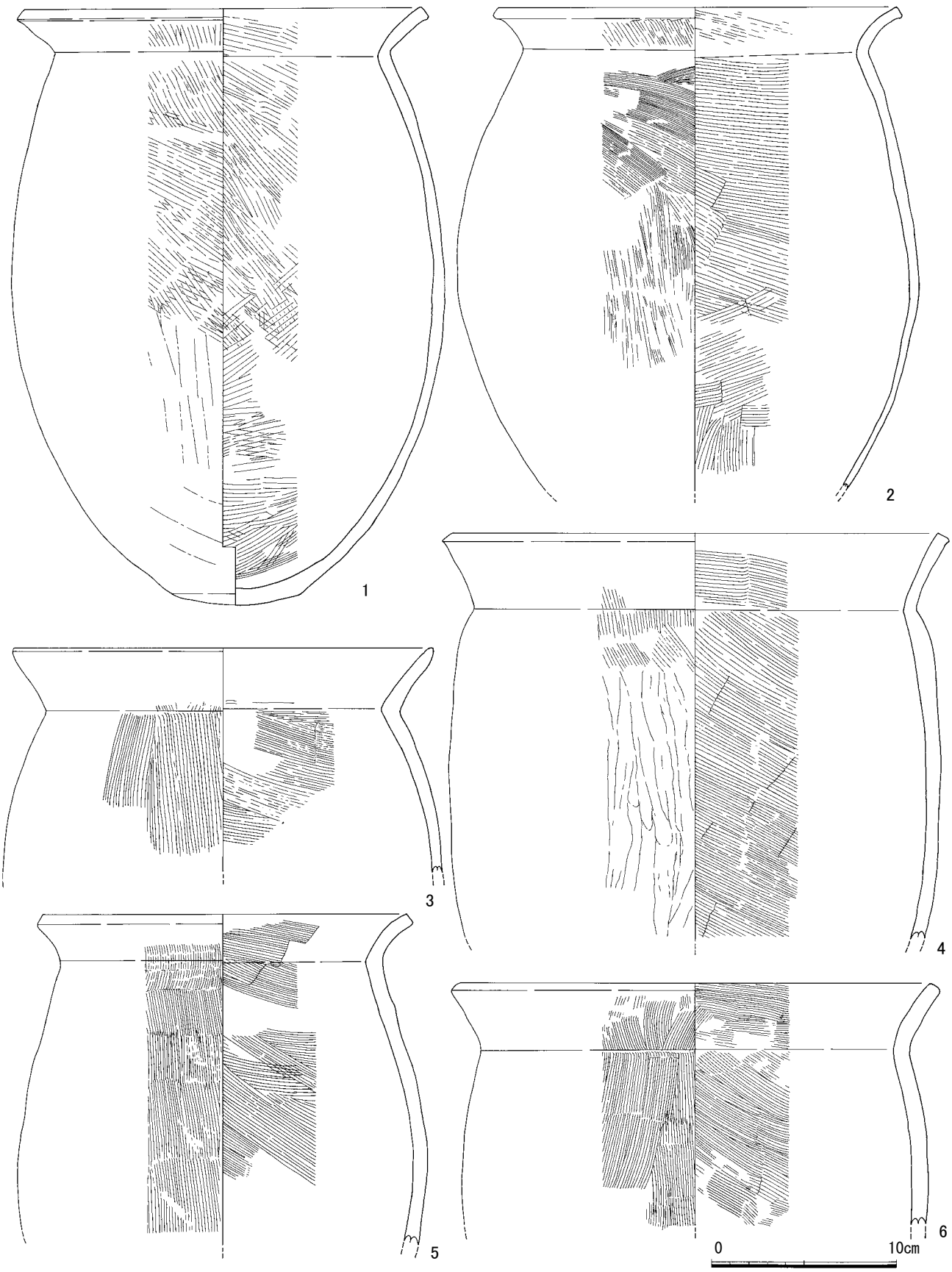


図55　９区包含層他出土土器６（1/3）

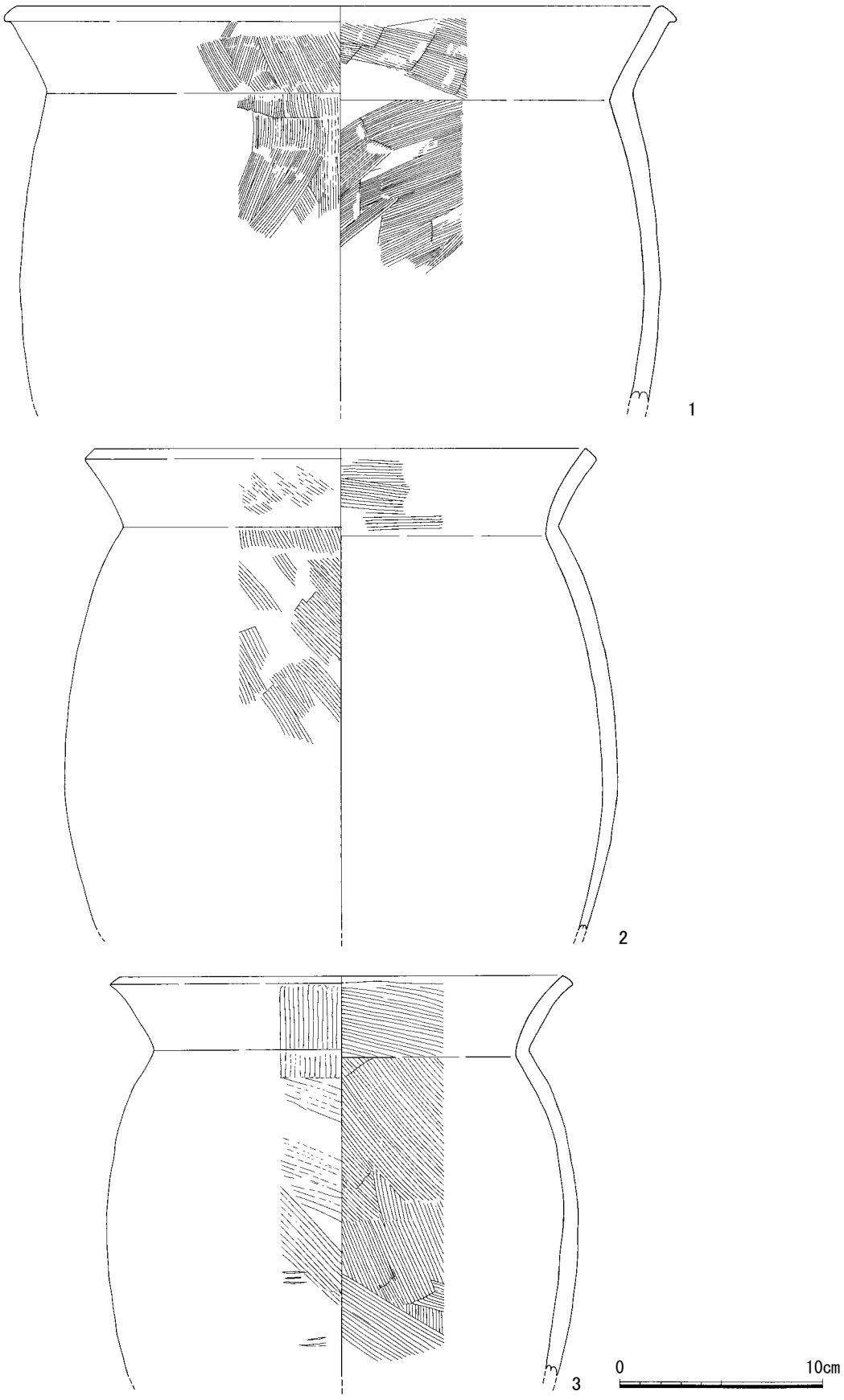


図56　９区包含層他出土土器７（1/3）

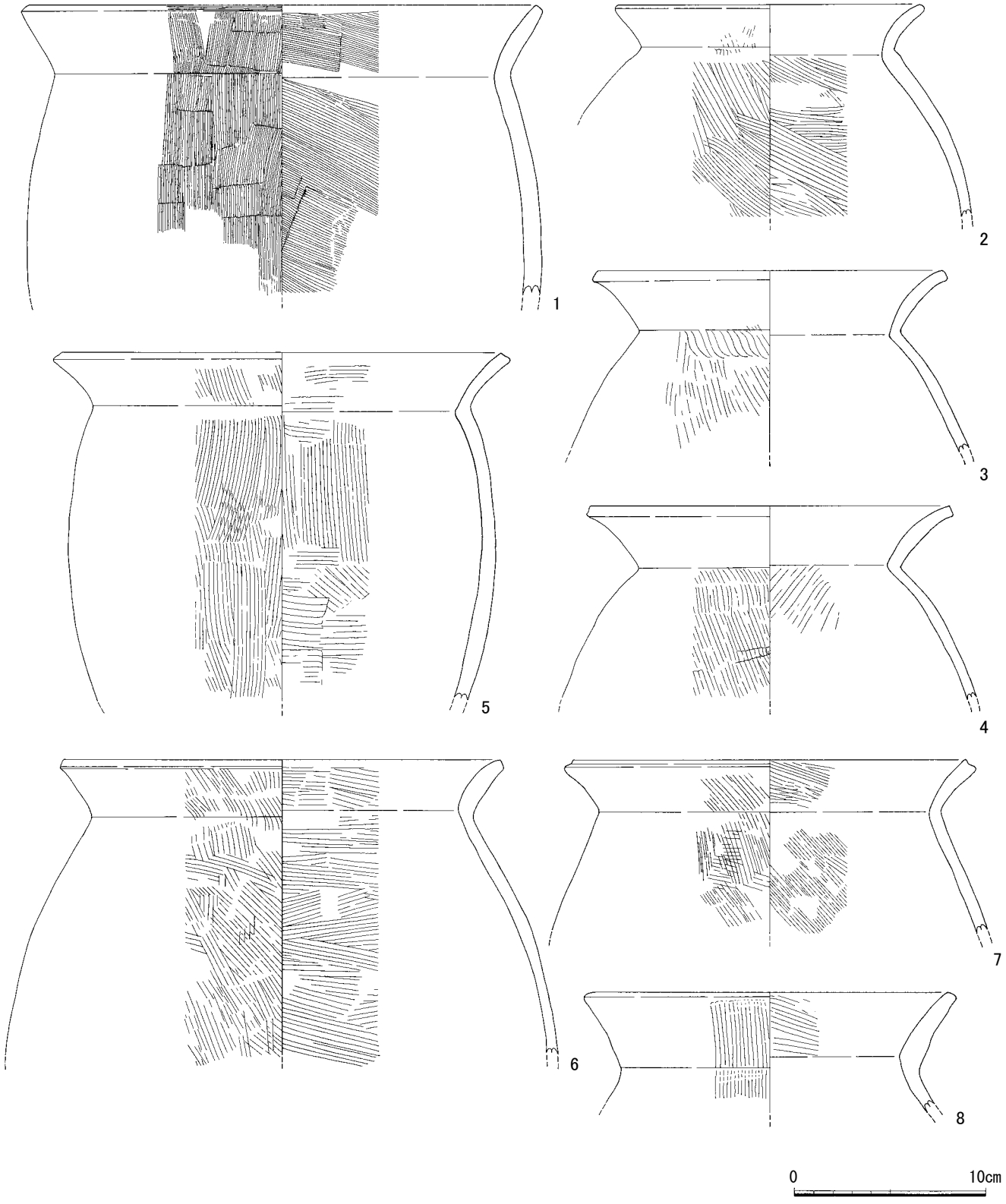


図57　９区包含層他出土土器８（1/3）

を施す。6 は外面が縦方向のハケ、内面が横の後縦方向のハケを施す。また口縁端部にハケの後、鋸歯状の工具によって、「ハ」の字が連続するように刻み目を施す。器の厚みが口縁部付近において、平均して約 1.5㎝程度の厚手であり、口縁部～頸部の長さも 10㎝前後と大型である事から、甕棺等の大型土器の可能性がある。7 は器形が胴部～頸部にかけて若干緩やかに内傾した後、口縁部が外反する。外面の頸部には断面が三角形を呈する一条の突帯が巡り、胴部には縦方向のハケを施す。また、内面の頸部付近に明瞭な稜線が巡る。

図 58-8 は弥生土器の壺で、底部付近のみの残存である。底部が若干ながらレンズ状を呈しており、外面にナデ、内面に工具によるナデ、また底面には指頭圧痕が確認できる。また、外面底部付近に黒斑がみられる。

図 58-9、10 は弥生土器の甕であり、底部付近のみの残存である。9 は稜線が不明確ながら、平底の底部を呈する。外面、内面共に指頭圧痕が多く確認できる。10 は底部がレンズ状を呈する。外面は摩滅が著しいが、外面、内面共にハケを施す。また、胎土に白色で 2㎜以上の粗い砂粒を多く含む。

図 59 はいずれも胴部～底部にかけて残存する弥生土器であり、1 ～ 4、6 ～ 10 は甕、5 は壺である。1 ～ 3 は底部がレンズ状を呈する。1 は外面が摩耗しているが、ハケが確認できる。内面はナデを施す。2 の外面はハケの後、板状工具によるナデを施したと考えられる。内面にはハケ後ナデを施す。3 は外面、内面共にハケの後ナデを施す。4 は底面の稜線が不明瞭であるが、レンズ状の平底である。外面に工具ナデ、内面にナデを施す。5 は外面に板状工具によるハケ、内面にナデを施す。6 は底部がレンズ状を呈する。外面にハケを施し、内面は摩耗により不明である。7 は丸底。外面は摩耗しているが、所々にハケが確認できる。内面は胴部付近でハケ、底部付近はナデを施す。8 ～ 10 は尖底である。8 は外面にカキケズリ、胴部上半にはハケが確認できる。内面は胴部上半にハケ、底部近くはナデを施す。9 は内外面ともにハケを施し、胴部付近に黒斑がみられる。10 は外面にカキケズリ、内面にハケを施す。

図 60-1 ～ 6 は弥生土器の台付甕の底部である。1 は外面の高台端部までハケ、内面は底部、高台部共にナデを施す。2 は高台部の外反が著しい。外面の底部～高台上半にハケが確認でき、内面の底部はナデ、高台は上半分にハケ、端部にかけてはナデを施す。3 は高台部が欠損して底部のみ残存しており、外面はハケ、内面はナデが施される。4、5 は底部～高台部にかけて残存している。4 は高台部の外反が著しく、外面の底部付近、内部の高台部にそれぞれハケを施す。5 は器面がやや摩耗しているが、外面にハケが確認できる。6 は外面、内面共にナデを施し、煤が付着している。

図 60-8 は弥生土器の甕である。口縁端部が面取りされ、一本の沈線が巡る。外面の頸部～胴部にかけてハケ、口縁部にハケ後ナデ、内面にハケ後ナデを施す。

図 60-7、9、10 ～ 14 は土師器の甕であり、口縁部～頸部にかけての破片である。いずれも口縁部が「く」の字状に外反しており、頸部付近に明瞭な稜線が巡る。7 は口縁端部が面取りされており、胴部が球状に膨らみ、外面の口縁部にナデ、頸部～胴部にかけてハケ、内面の口縁部にナデ、頸部～胴部にかけてヘラケズリを施す。9 は器面が摩耗しているが、外面にハケ、内面の胴部上半でヘラケズリ、頸部付近で指頭圧痕をそれぞれ施す。10 は外面の頸部～口縁部にかけてナデ、胴部にハケ、内面の頸部～口縁部にかけてナデ、胴部にヘラケズリをそれぞれ施す。11 は外面の口縁部に回転ナデ、頸部～胴部にかけてハケ、内面の口縁部に回転ナデ、頸部～胴部にかけてヘラケズリをそれぞれ施す。12 は外面に縦方向のハケ後ヨコナデ、内面の口縁部にナデ、頸部～胴部にかけて縦方向にヘラケズリを施す。13 は外面にハケ、ナデを施す。内面は口縁部にナデ、頸部付近に横方向のヘラケズリ、胴部に縦方向のヘラケズリ、底部付近ではナデを施す。14 は外面にハケ後胴部にタタキ、口縁部にナデを施す。内

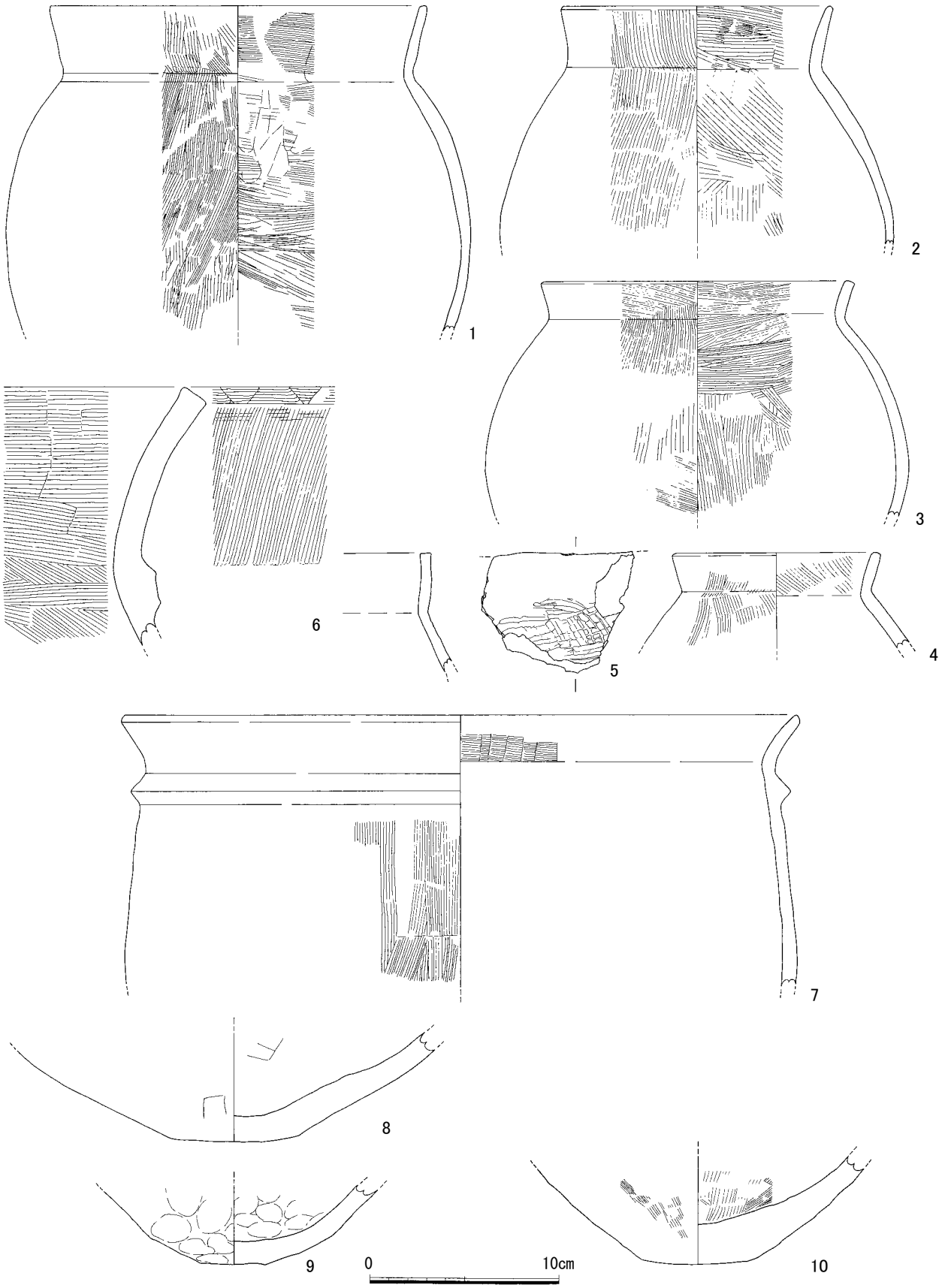


図58　９区包含層他出土土器９（1/3）

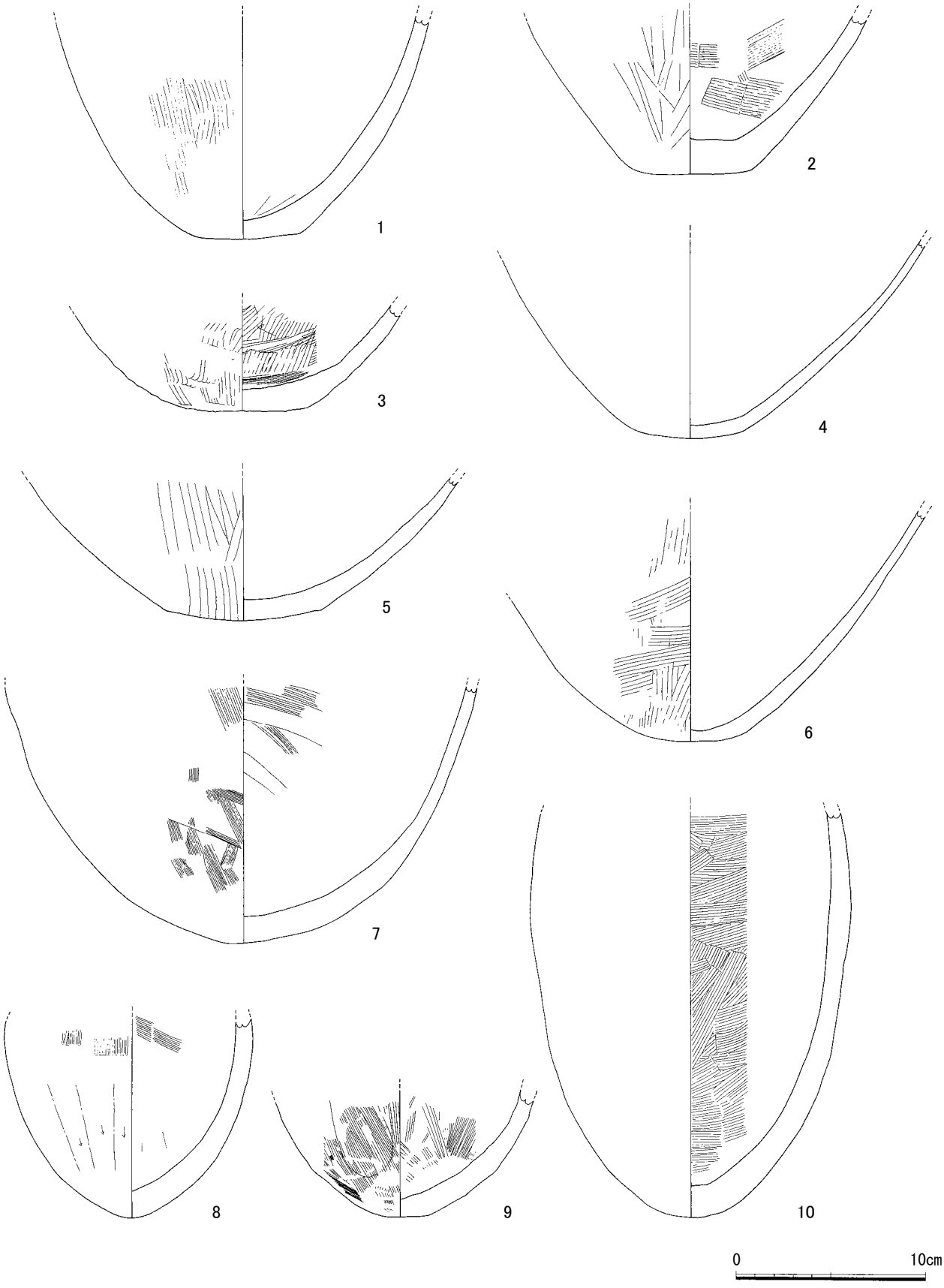


図59　９区包含層他出土土器10（1/3）

面の口縁部はハケ後ナデ、頸部～胴部にかけてヘラケズリを施す。

図 61-1 ～ 12 は口縁部～頸部にかけての甕の破片である。1 ～ 6 は頸部付近に明瞭な稜線が巡り、「く」の字状に屈曲しつつ、口縁部がより顕著に外反している。1 は、外面の胴部にタタキ、内面の頸部～胴部にかけて不定方向のヘラケズリを施す。2 は外面の口縁部にナデ、頸部～胴部にかけてタタキ、内面の頸部付近でヘラケズリ、胴部でナデをそれぞれ施す。3 は口縁端部が面取りされており、外面に口縁部～頸部にかけてナデ、胴部にタタキ、内面の口縁部でナデ、頸部～胴部にかけてヘラケズリを施す。4 は外面の頸部～胴部にかけてタタキ、内面は口縁部にナデ、頸部付近にタタキ、胴部はナデを施す。5 は外面の頸部～胴部にかけてタタキ、内面は口縁部でナデ、内面でヘラケズリを施す。8 は外面の胴部 にタタキ、内面にナデを施す。9 は胴部上面の破片である。外面にタタキ、内面にハケ、ヘラケズリを施す。10 は外面の胴部にタタキ、内面の口縁部～頸部にかけてタタキ、胴部にナデ後ミガキを施す。11 は外面の口縁部～頸部にかけて回転ナデ、胴部にハケ、内面の胴部にヘラケズリを施す。12 は外面の胴部にハケ、内面は器面が摩耗しており、不明である。

図 62-1 ～ 5 は土師器の甕。口縁部～頸部にかけての破片であり、口縁部が「く」の字状に屈曲しつつ、口縁端部にかけて若干内湾する。1 は外面の胴部にハケ、内面は胴部でヘラケズリ、口縁部～頸部にかけてナデを施す。2 は外面の胴部にハケ、内面の胴部はハケ、頸部側ではヘラケズリを施す。3 は外面の口縁部～頸部にかけてナデ、胴部にハケを施し、全体に煤が付着する。内面は胴部にヘラケズリを施す。4 は口縁部の内外面に回転ナデ、内面の胴部でヘラケズリを施す。また胎土がやや硬質である。5 は外面にハケを施し、胴部上半において並状の沈線文が巡る。内面の胴部では下半部でヘラケズリ、上半部では工具ナデをそれぞれ施す。

図 62-6 は山陰系甕の口縁片であり、外面は胴部上端で横方向のハケ、内面は胴部上端でヘラケズリを施す。

図 62-7 は弥生土器の甕。口縁部が「く」の字状に外反し、口縁端部は面取りしている。底部は尖底である。器面はやや摩耗しているが、外面、内面共に胴部～底部にかけてハケが確認できる。

図 63-1、2、4 は弥生土器の壺である。1 は頸部付近に明瞭な稜線を挟んで屈曲し、口縁部が頸部から湾曲しつつ外反しており、口縁端部が面取りしている。また、底部は平底である。外面、外面共にハケ、口縁端部付近ではハケ後横方向のナデが巡る。2 は口縁部が緩やかに外反しており、頸部付近に一条の突帯が巡る。外面、内面共に胴部にハケが施される。4 は丸底で胴部が球状に膨らんでいる。頸部付近で屈曲して直立し、間もなく頸部～口縁部にかけて湾曲しつつ外反する。口縁端部は面取りしている。外面はハケ後ナデ、内面はハケを施す。

図 63-3、5 は土師器の広口壺である。3 は胴部が球状に膨らみ、頸部付近で明瞭な稜線を挟んで屈曲、外反していく。口縁端部は面取りしている。外面にハケ、内面にヘラケズリを施す。5 は底部がレンズ状を呈しており、外面の口縁部～頸部にかけてヨコナデ、胴部にハケ、内面の口縁部～頸部にかけて横方向のハケ後ナデ、胴部にヘラケズリを施す。

図 64-1 ～ 3 は弥生土器の壺の破片である。頸部～口縁部にかけて湾曲しつつ外反しており、口縁端部は面取りしている。1 は胴部が球状に膨らみ、最大径よりやや上面において一条の突帯が巡る。また胴部上面に間隔を隔てて 3 本ずつの爪痕が刻まれている。2 は口縁部～頸部のみの残存。3 は外面の頸部でハケ、口縁端部付近で横方向のナデ、内面に横方向のハケ後ナデを施す。

図 64-4 ～ 8 は土師器の広口壺である。4 は口縁端部が面取りされており、外面に縦方向のハケ後、頸部付近に横方向のナデ、内面に横方向のハケを施す。5 は頸部と胴部の境界に明瞭な稜線を挟む。外

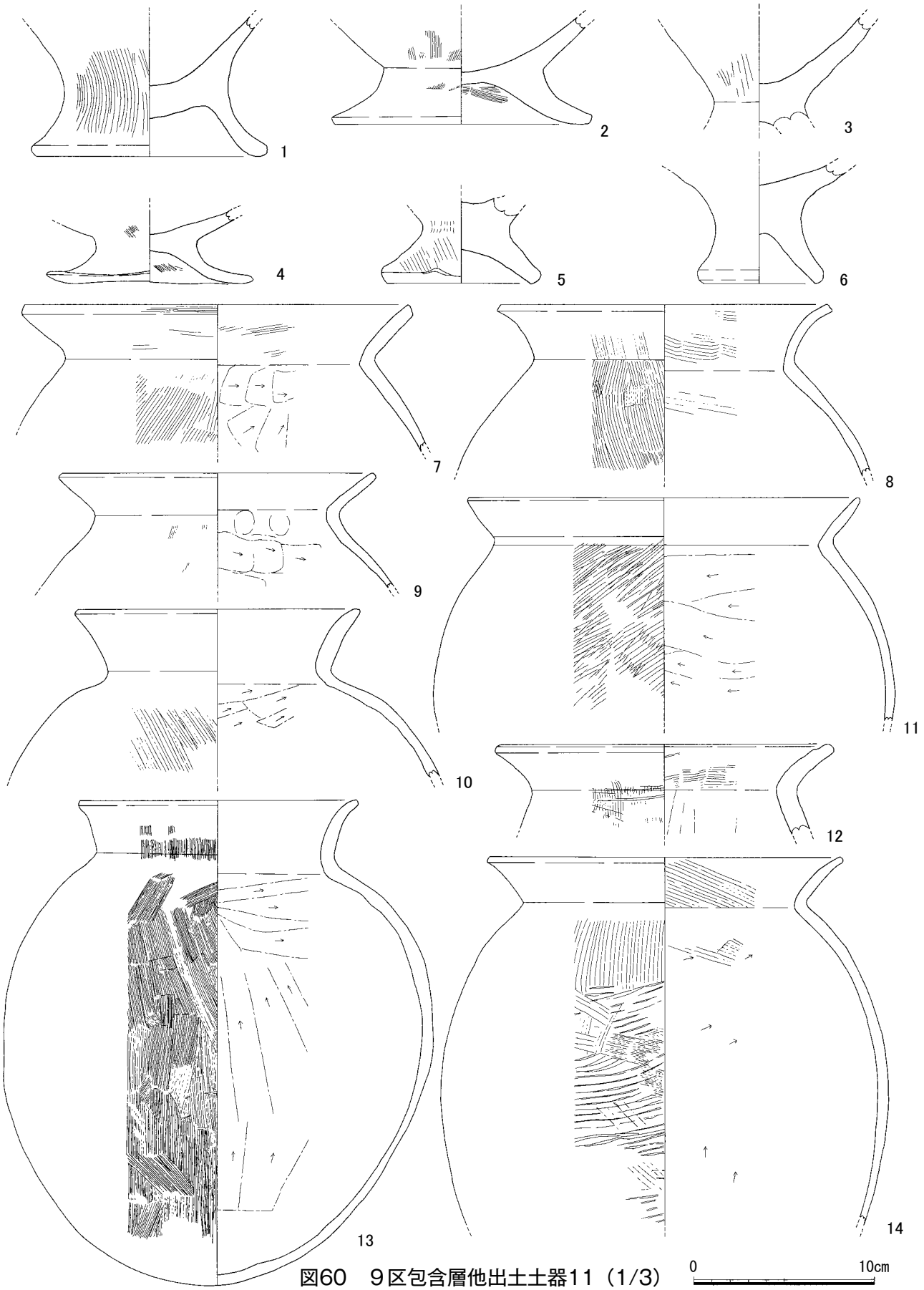


図60　９区包含層他出土土器11（1/3）

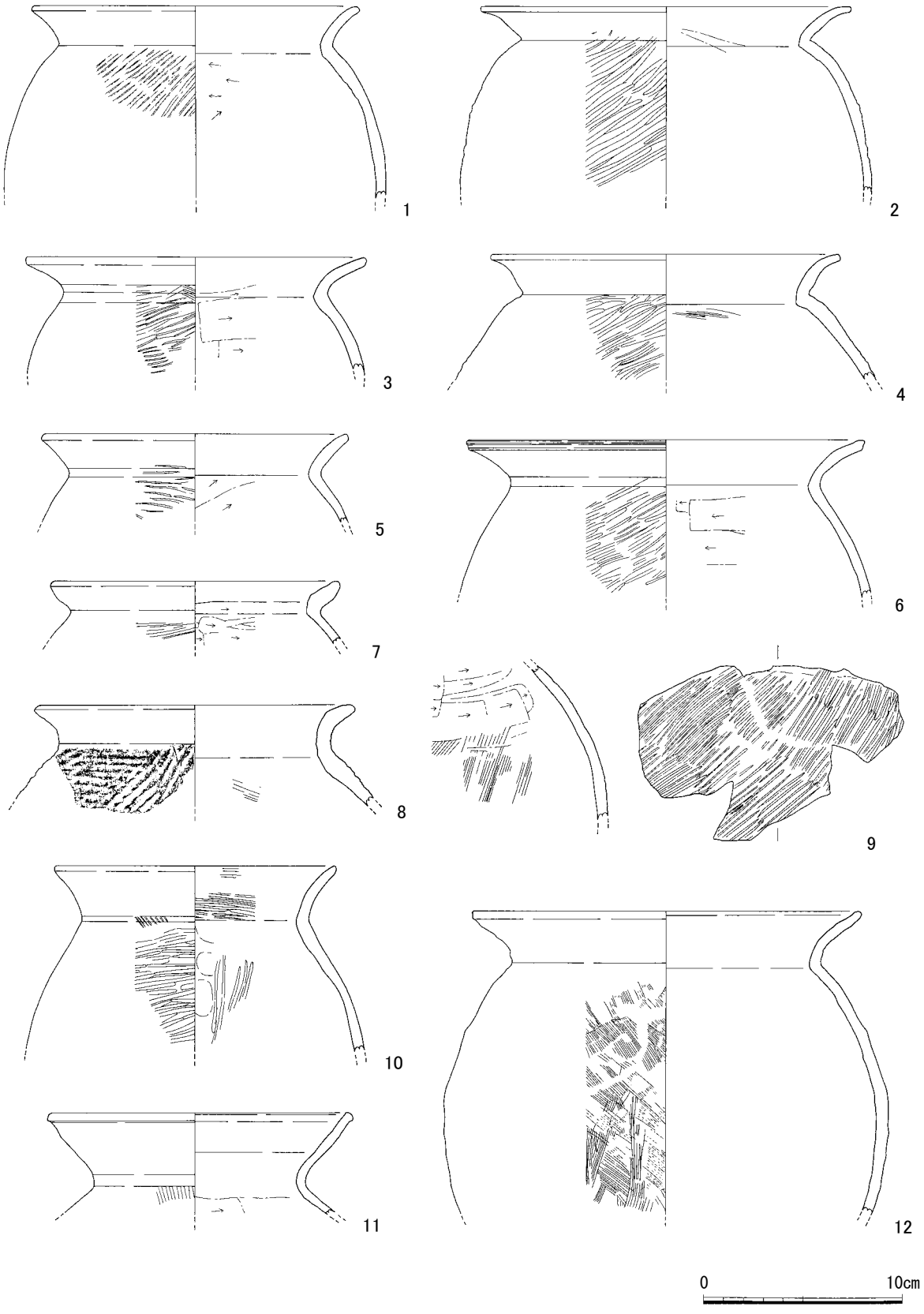


図61　９区包含層他出土土器12（1/3）

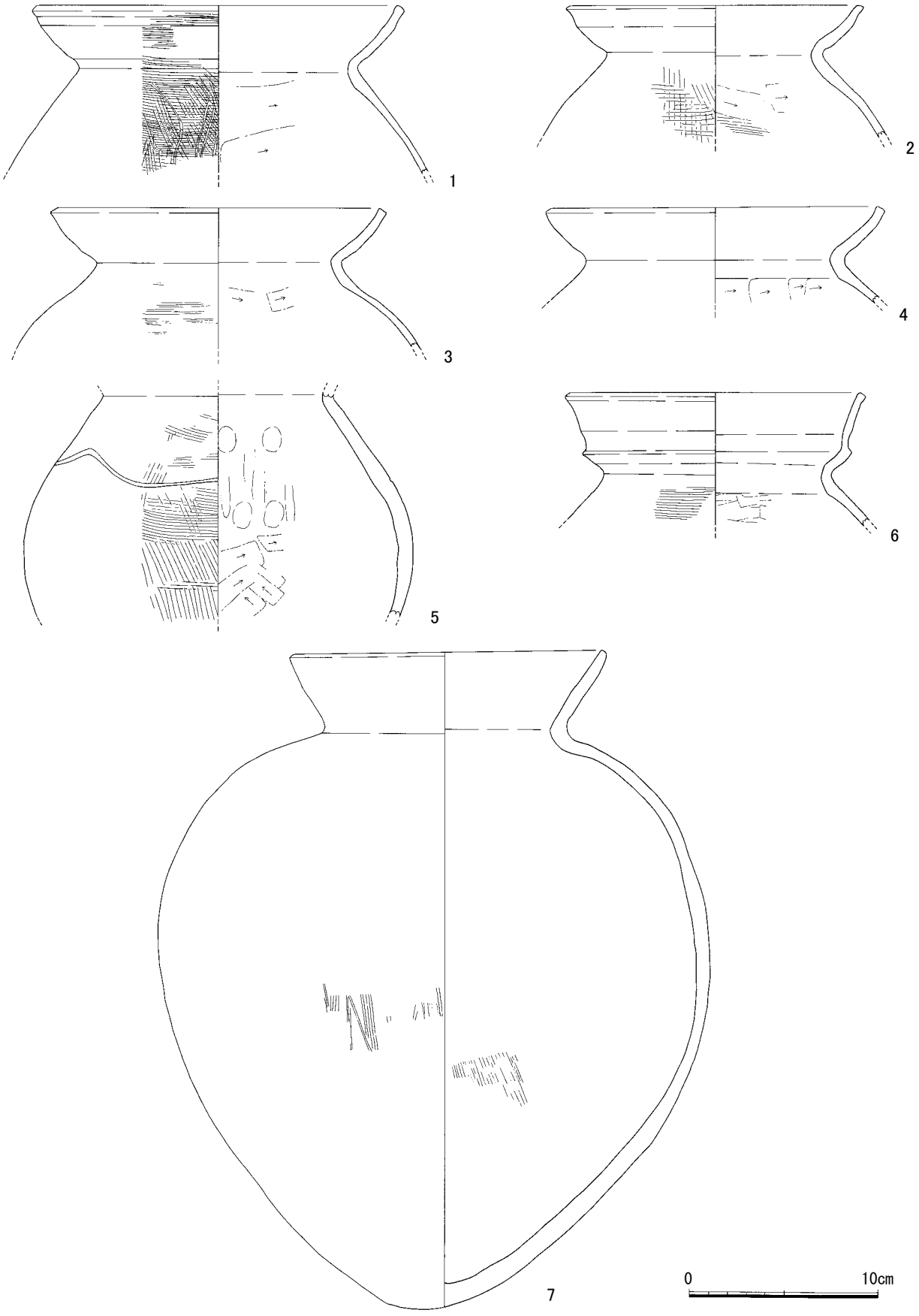


図62　９区包含層他出土土器13（1/3）

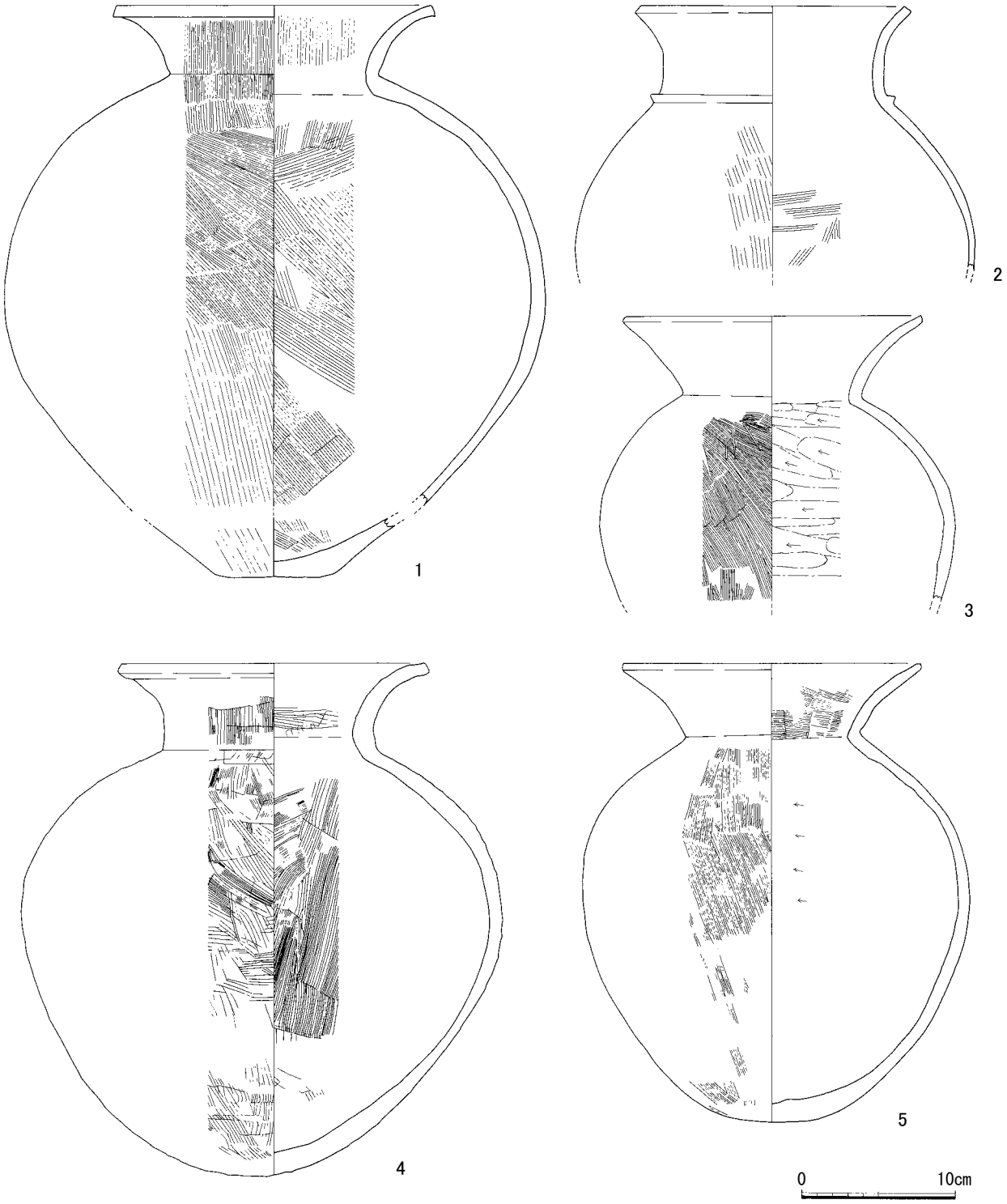


図63　９区包含層他出土土器14（1/4）

面、内面共にハケを施す。6 は外面の胴部にハケ、口縁部～頸部にかけてナデ後ヘラミガキ、内面の胴部にヘラケズリ、口縁部～頸部にかけてヘラミガキを施す。7 は外面にハケ、内面の胴部にヘラケズリ、口縁部～頸部にかけてハケを施す。8 は頸部と胴部の境界に明瞭な稜線を挟み、外面の胴部はハケ、頸部～口縁部はヘラミガキ、内面の胴部にヘラケズリ後ナデを施す。

図 64-9 は土師器の甕であり、丸底で外面はハケ、口縁部付近でハケ後ナデを施す。10 は弥生土器の甕。頸部～胴部にかけての小片である。頸部付近に一条の突帯が巡り、突帯の直下に櫛描列点文が巡る。外面、内面共に胴部にハケを施す。

図 65-1 は弥生土器。形状から蓋と推測したが、詳細は不明である。天井部付近の側面に穿孔が施され、内側に貫通している。外面にハケ、内面にナデを施す。

図65-2～9は直口壺である。2は丸底で、頸部付近に間隔を隔てて5㎜程度の穿孔を施す。外面、内面共にハケを施す。また、底部付近に煤が付着する。3、4は2と比較して口縁部は外反している。3は外面にハケ内面の口縁部付近でハケ、頸部～胴部にかけてナデを施す。4は口縁部～胴部にかけての破片であり、外面の口縁部～胴部にかけてハケ、内面の口縁部にハケ、頸部～胴部にかけてはナデを施す。5は外面の口縁部に縦方向のハケ、頸部～胴部にかけてハケ後ミガキ、内面にハケを施す。6は口縁部～胴部下半にかけての破片である。外面、内面共にハケを施し、外面の口縁部付近はハケ後横方向のナデである。7は器面が摩耗しているが、外面の胴部～頸部にかけてハケ、口縁部付近では横方向のナデが確認できる。8は外面の胴部～頸部にかけてハケ、口縁部付近では横方向のナデ、内面の口縁部はヨコナデ、胴部に横方向のハケおよび指頭圧痕を施す。9は口縁部～胴部にかけての小片である。外面にハケを施す。

図 66-1 は口縁部～頸部にかけて残存する弥生土器の袋状口縁壺である。口縁部は頸部から一度外反し、やや逆「く」の字状に内湾する。また頸部において、間隔をおいて四条の突帯が巡る。外面はハケ後横方向のナデ、内面の袋状口縁部に指頭圧痕の後ヨコナデ、頸部には絞り痕が確認できる。

図 66-2 ～ 3 は弥生土器の二重口縁壺の口縁部である。2 の外面、内面共に縦方向のハケ後、横方向のナデを施す。内面は横方向のハケ、ナデを施す。また、口縁端部は面取りしている。3 は外面、内面共に横方向のナデを施し、器面には煤が付着している。

図 66-4 は土師器の二重口縁壺であり、口縁～胴部にかけての破片である。外面にハケ後ナデ、内面にナデを施す。

図 66-5 ～ 8 は総じて弥生時代における外来系の土器である。5 は SK9025 からの出土。小片のため詳細は不明だが、頸部片とみられる。頸部に一条の突帯が巡り、網状に二重の刻目を施す。外面は縦方向のハケ、内面は横方向のハケを施す。6 は二重口縁壺の口縁片であり、外面に間隔をおいて、円形浮文および波状文を施す。7 ～ 8 は二重口縁壺の口縁～頸部にかけての破片である。7 は九州東部の安国寺式か。頸部付近に幅 2㎝程度の突帯を巡らせ、指頭による大型の刻目を施す。口縁端部は面取りしており、外面の口縁部付近に櫛描波状文、口縁部～頸部にかけて縦方向のハケ、内面にミガキを施す。8 は山陰系か。SD9002 からの出土であり、外面に竹管文を施文している。

図 66-9 は高杯脚部の破片である。脚部から底部にかけて明瞭な段状の稜線を形成しており、稜線を挟んで上下にそれぞれ間隔をおいて 5㎜程度の透かしの円孔を施す。外面にミガキ後刺突による葉状列点文を施す。

図 66-10 は高杯の口縁片である。口縁端部は鋤先状を呈しつつ外反し、面取りしている。また外面にミガキ、内面にハケ後刺突による葉状列点文を施す。

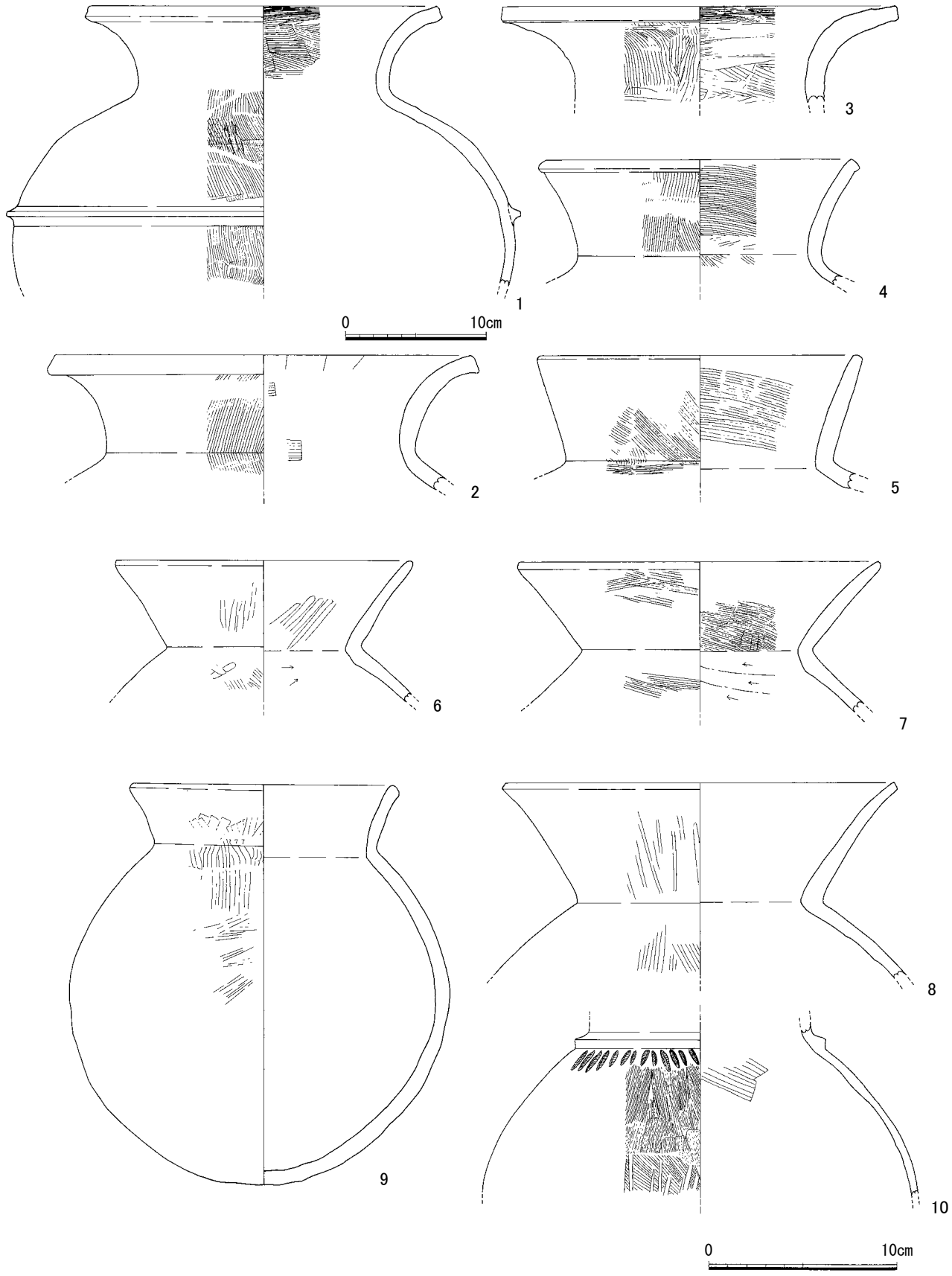


図64　９区包含層他出土土器15（1/4、1/3）　1は1/4、他は1/3

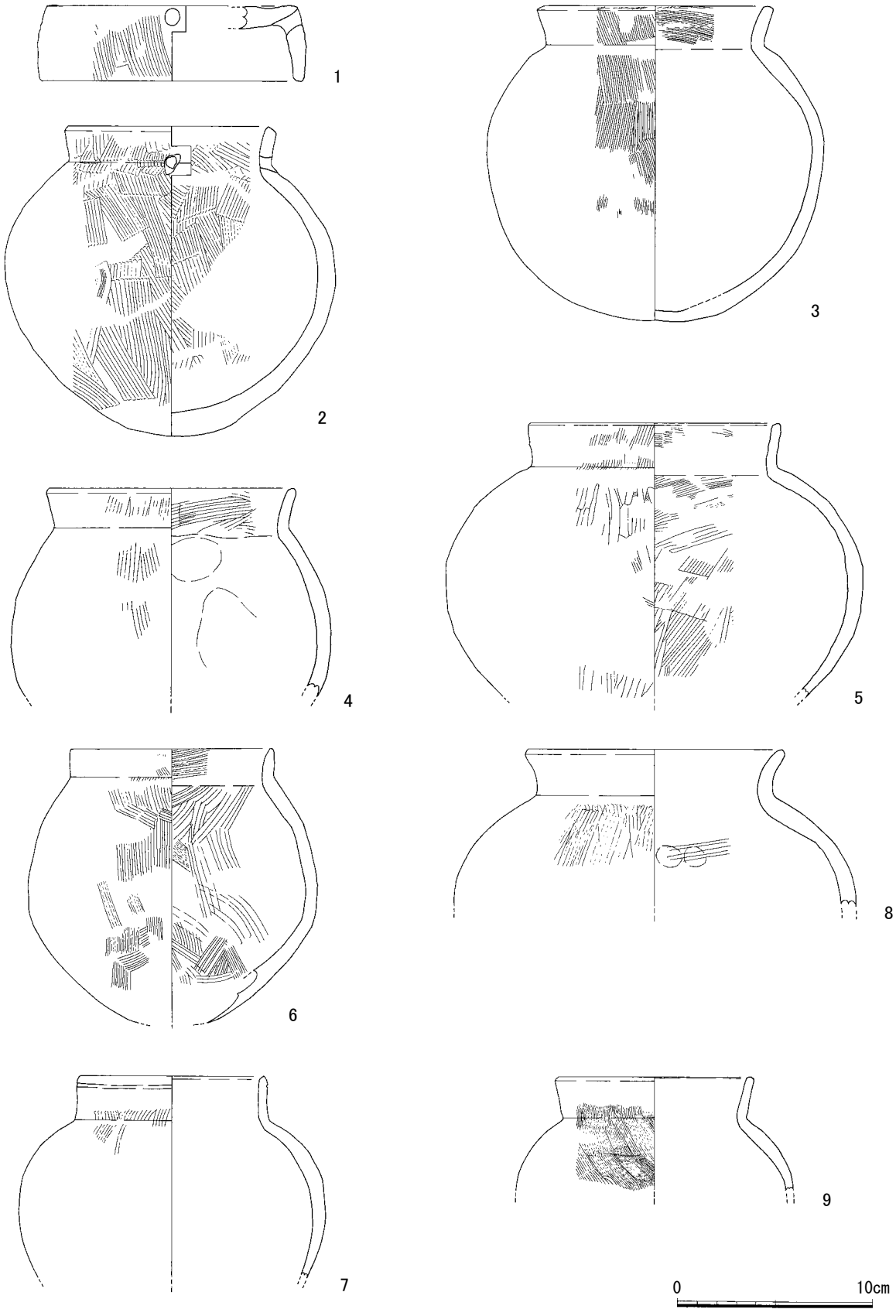


図65　９区包含層他出土土器16（1/3）

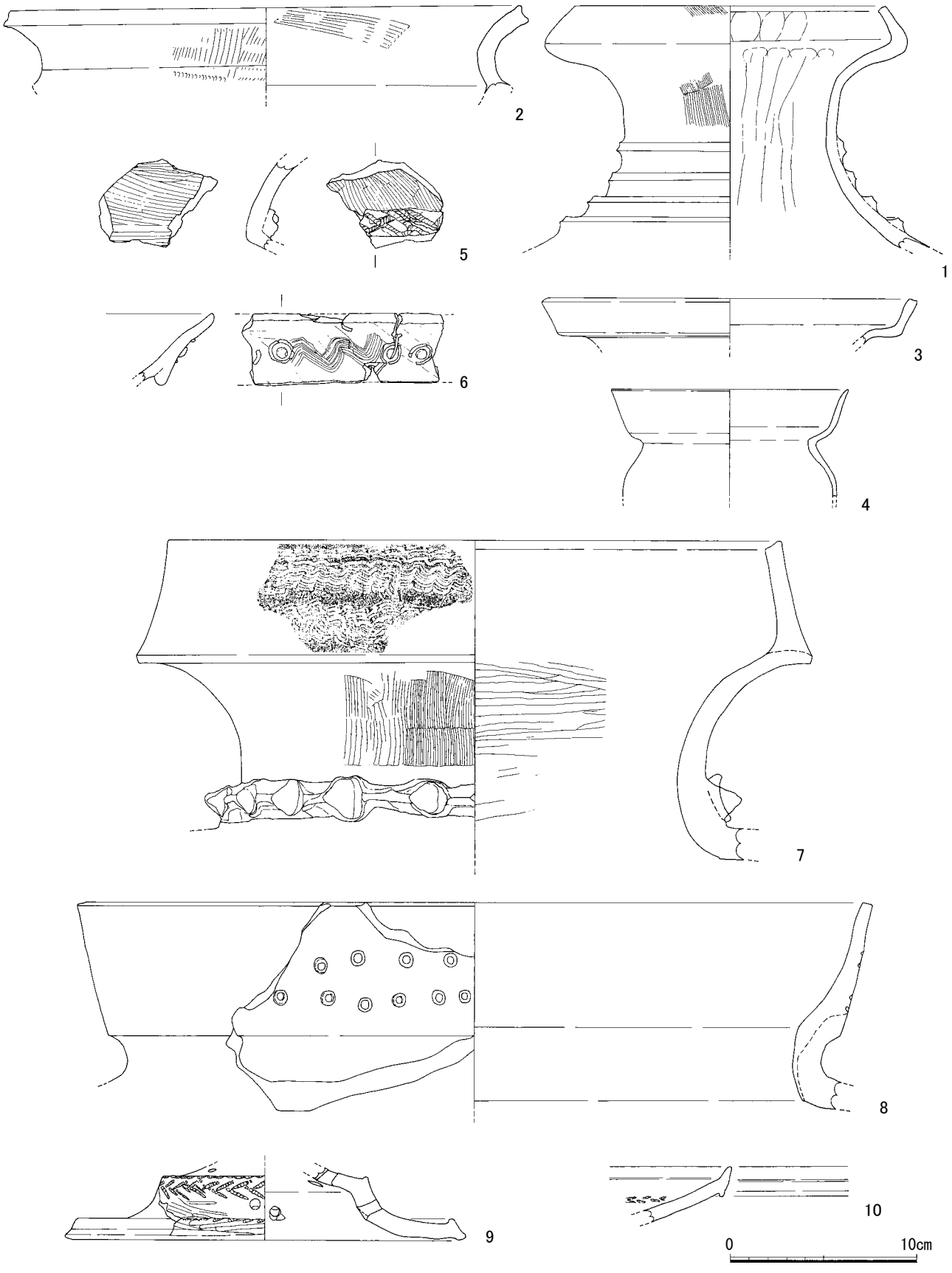


図66　９区包含層他出土土器17（1/3）

図 67-1 は土師器の二重口縁壺であり、口縁～底部にかけての破片である。底部は底面の縁淵が不明瞭であるが平底と判断できる。外面にハケ後ミガキ、内面にヘラケズリを施す。

図 67-2、3 は弥生土器。2 は広口壺である。外面、内面共にハケを施す。3 は鉢で口縁が「く」の字状 に屈曲する。外面にハケ、内面に工具ナデをそれぞれ施す。

図 68-1 ～ 4 は弥生土器の鉢である。1 は口縁が稜線を挟んで緩やかに外反する。2 は底部が平底で、器面は摩耗が著しいが、外面にハケ、内面にカキケズリを施す。3 は内面頸部の明瞭な稜線を挟んで口縁部が若干外傾化する。外面にハケ後カキケズリ、内面にナデを施す。4 は口縁部～底部にかけての破片で丸底である。内面頸部の明瞭な稜線を挟んで口縁部が外反する。

図 68-5 は土師器、6 ～ 12 は弥生土器の鉢である。6 ～ 8 はいずれも口縁部が「く」の字状に外反している。6 は外面、内面共にハケ後胴部にヨコナデを施す。7 は外面にハケ後、胴部にヨコナデ、内面は胴部にナデ､口縁部～頸部にかけてハケを施す。8 は外面にハケ､内面の口縁部～頸部にかけてハケ、胴部にケズリを施す。9 は口縁が直口であり、丸底である。外面にハケ後ミガキ、内面にミガキを施す。10 は内面頸部の明瞭な稜線を挟んで口縁部が外反し､外面､内面共にハケを施す。11､12 は深鉢である。11 は平底で外面にハケ、内面に工具ナデを施す。12 は平底で、円縁から中央にかけて底面が浮上している。外面にケズリ、内面にハケ後ケズリを施す。

図 69-1 ～ 4 は弥生土器の鉢である。1 は口縁部～胴部にかけての破片である。口縁部は面取りしており、外面、内面共に横方向にハケを施す。2 は口縁部～底部における破片であり、外面の口縁部直下には沈線らしきものが巡る。外面にハケ、内面に指頭圧痕を施す。3 は外面、内面共にミガキが確認できる。4 は口縁部～底部付近にかけての小片であり、丸底と考えられる。外面、内面共にハケを施す。

図 69-5 ～ 12 は土師器の鉢。5 は不明瞭ながら底面の縁淵が確認できるため、平底である。外面はヘラケズリ後ミガキ、内面はハケ後ミガキをそれぞれ施す。6 は口縁部～底部にかけて台付鉢の破片である。摩耗が著しいが、外面、内面共にハケが確認できる。7 ～ 10 は丸底の浅鉢である。7 は外面にヘラケズリ、内面に工具によるナデを施す。8 は外面、内面共にハケを施す。9 は外面にハケ、内面にケズリを施す。10 は内外面共にナデ、口縁部付近では横方向のナデを施す。11 は平底で底部付近の一部が欠損するも、ほぼ完形の状態で出土。外面にハケ後、口縁部付近にヨコナデを施す。12 は丸底で底部付近の一部が欠損している。内面に工具によるナデを施す。

図 69-13、14 は手ずくねのミニチュア土器であり、共にほぼ完形の状態で出土。13 は丸底で外面に指頭圧痕が確認できる。14 は平底で底面は縁淵部と比較して中心が浮上する。

図 69-15 ～ 17 は鉢である。15 は手ずくね。丸底で外面、内面共に指頭圧痕が多く確認できる。16 は平底であり、底部付近～底部のみの残存。外面はミガキを施す。17 は平底で、外面、内面共にハケを施す。

図 70-1 ～ 5 は土師器の台付鉢である。1、2 は外面、内面共にハケを施す。3 は外面にハケ、内面にミガキを施し、4 は外面にハケ、内面にナデを施し指頭圧痕が確認される。5 は外面にハケ、内面にミガキを施す。

図 70-6 ～ 9 は弥生土器である。6 は胴部～底部にかけて残存する甕である。器面は摩耗しているが、外面にハケが確認できる。7 は壺であり、胴部～底部にかけて残存している。器面は摩耗しているが、外面にハケを施す。8、9 は小壺である。8 は頸部～底部まで残存しており、器面調整は内外面ともにナデであり、底部の端部が剥離している。9 は頸部～底部まで残存しており、外面の胴部下半にケズリ、内面の胴部下半～頸部にかけて指ナデ、頸部～口縁部にかけての屈曲部には指頭圧痕が確認される。

図 70-10、11 は土師器の器台である。10 は脚部の三方に透かしの円孔が施されており、外面、内面共にヨコナデを施す。11 は脚部のみ残存しており、透かしの円孔が施されている。外面にハケを施す。

図 71-1 ～ 4 は弥生土器の高杯。口縁部～体杯部にかけての残存であり、口縁部～体杯部にかけての境界あたりに稜線が巡らされている。1 は口縁部～体杯部にかけての小片である。外面の口縁部～稜線にかけてハケ、内面は口縁部～稜線にかけてハケ、稜線～体杯部にかけてミガキを施す。2 は外面の口縁部～稜線にかけてハケ、稜線～体杯部にかけてミガキ、内面の外面の口縁部～稜線にかけてハケのちミガキ、稜線～体杯部にかけてミガキを施す。3 は外面の口縁部～稜線にかけてハケの後、鋸歯状にミガキが巡らされている。内面はミガキを施す。4 は外面、内面共にミガキを施す。

図 71-5 ～ 9、11、12 は弥生土器、10 は土師器の高杯であり、いずれも脚部のみ残存している。5 は脚部の三方に透かしの円孔を施し、外面は摩滅しているが、ハケが確認される。6 は脚部の三方に 5 ㎜程度の小円孔を施し、外面はハケを施す。7 は脚部の三または四方に透かしの円孔を施し、外面は脚部上半部でミガキ、脚部付近でハケ、杯体部は外面、内面でハケを施す。8 は脚部の四方に透かしの円孔を施し、外面は脚部上半部でハケ、内面は工具によるナデが確認される。9 は脚部の四方に透かしの円孔を施し、外面、内面はハケを施す。10 は脚部の三方に透かしの円孔を施し、外面はミガキ、内面はハケを施す。11 は脚部の三方に 3㎜程度の小円孔を施し、外面、内面共にハケを施す。12 は脚部の三方に円孔を施し、外面はハケ、内面は脚部の底部付近でハケが確認される。

図 72-1 ～ 8 は土師器の高杯である。1 は三～四方に透かしの円孔を施し、外面、内面共に口縁部～体杯部でハケ後ナデ、脚部でハケを施す。2 は体杯部～脚部にかけて残存する。脚部に円孔を施し、内面、外面共に円孔を施す。3 ～ 5 は口縁部～体杯部にかけての破片である。3 は口縁部～体杯部にかけての破片である。外面は口縁部～体杯部にかけてハケ後ミガキ、体杯部～脚部との境界付近ではハケ後ナデ、内面は口縁部～体杯部にかけての稜線から上はハケの後ミガキ、下はミガキを施す。4 は口縁片である。外面はハケ後ミガキ、内面はミガキを施す。5 は口縁部～体杯部にかけての破片である。外面はハケ、内面はハケ後ナデを施す。6 ～ 8 は脚部のみ残存している。このうち 6、7 は脚部の下部付近において外反するくびれ部の稜線が顕著である。6 は脚部の四方に円孔を施し、外面はハケ後ナデ、内面は稜線から下はハケ、稜線から上はナデを施す。7 は外面が摩耗しているが、稜線付近にハケが確認できる。内面はしぼり痕が確認される。8 もまた、外面が摩耗している。体杯部と脚部の接合面には刻み目がみられ、1 ㎜程度の穿孔が貫通している。

図 72-9、10 は土師器の台付鉢であり、脚部が残存している。9 は体杯部の下部および脚部が残存している。外面は脚部のくびれ部をはさんで上部は工具ナデ、下部はミガキ、内面はハケを施す。10 は体杯部との接合面には刻み目が確認される。外面は上下方向に工具ナデ、内面はハケを施す。

図 73-1 ～ 13 は弥生土器の器台であり、8 を除いて全ての内部は筒状に貫通している。

図 73-1 は脚部の一部が欠損しているが、ほぼ完形である。外面はハケを施し、上下端部は面取りしている。内面にはハケと指ナデが確認される。2 は外面にハケ、内面の上部にハケを施す。3 は脚部上半が残存しており、外面はハケ、上端部は面取りしている。内面の受部にハケを施す。4 ～ 5 は脚部の下半が残存しており、外面の摩滅、剥落が著しい。4 は外面、内面共にハケが確認できる。5 は外面、内面共にナデを施し、指頭圧痕が確認できる。6 ～ 7 は上半部のみ残存している。上端部は短く屈曲、外反し、上下端部は面取りしている。外面はハケの後工具によるナデが施されている。内面はナデ、工具による押さえの痕跡が確認できる。7 は上下端部を面取りしており、外面は指頭圧痕が顕著であり、ハケ後指押さえを施す。内面はナデ、指押さえが施される。8 は上端部が一部欠損しているが、ほぼ完

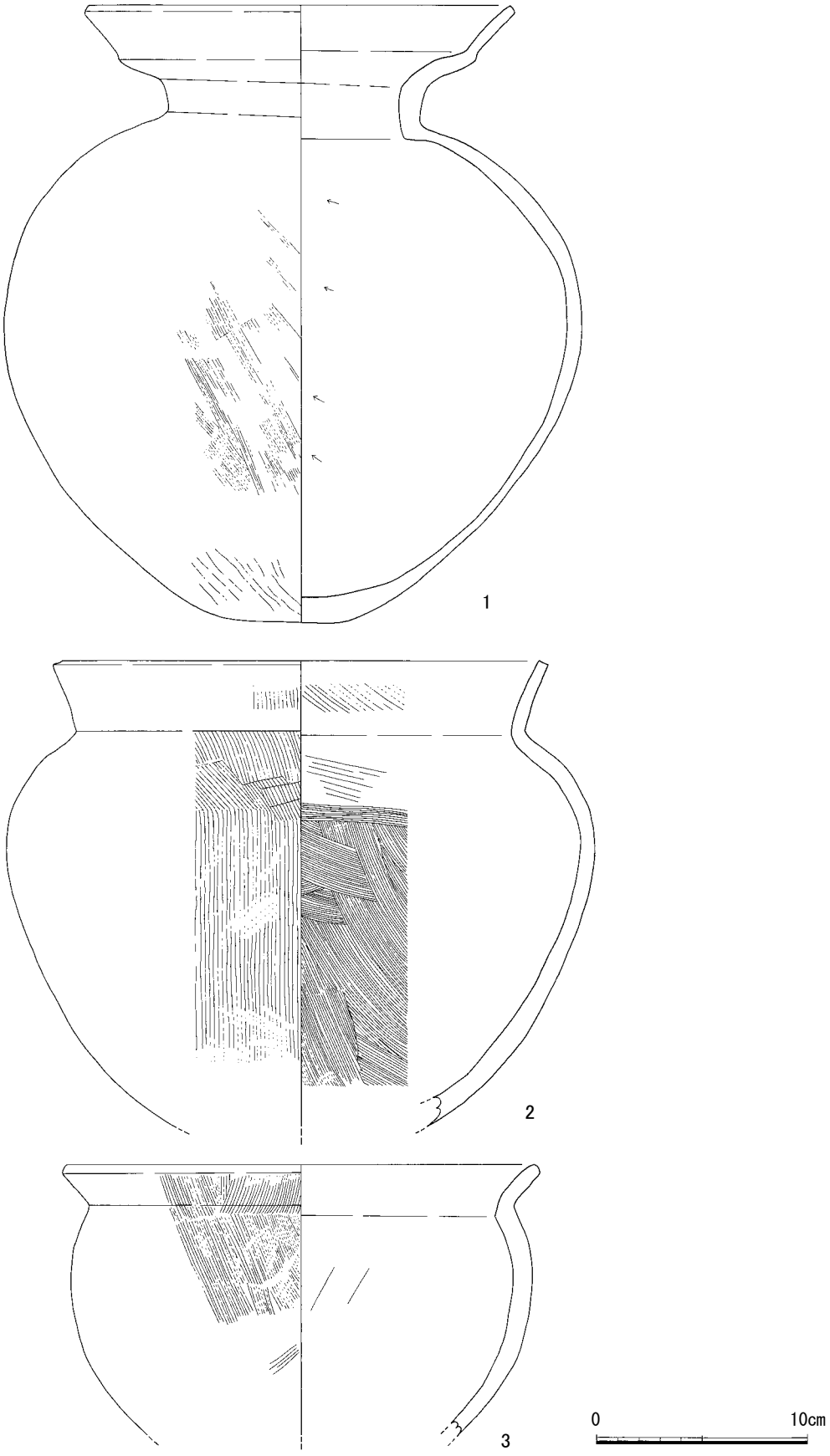


図67　９区包含層他出土土器18（1/3）

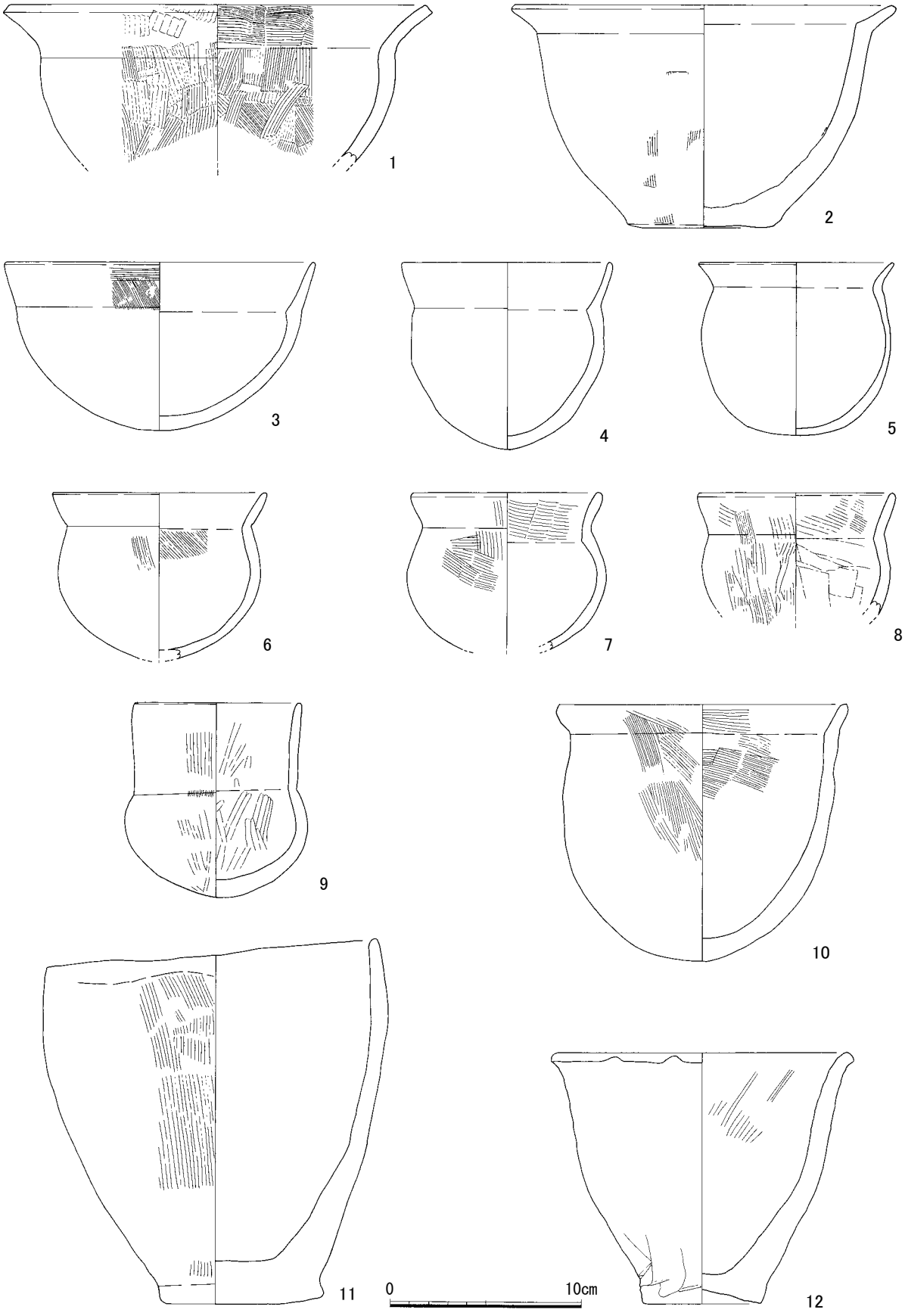


図68　9区包含層他出土土器19（1/3）

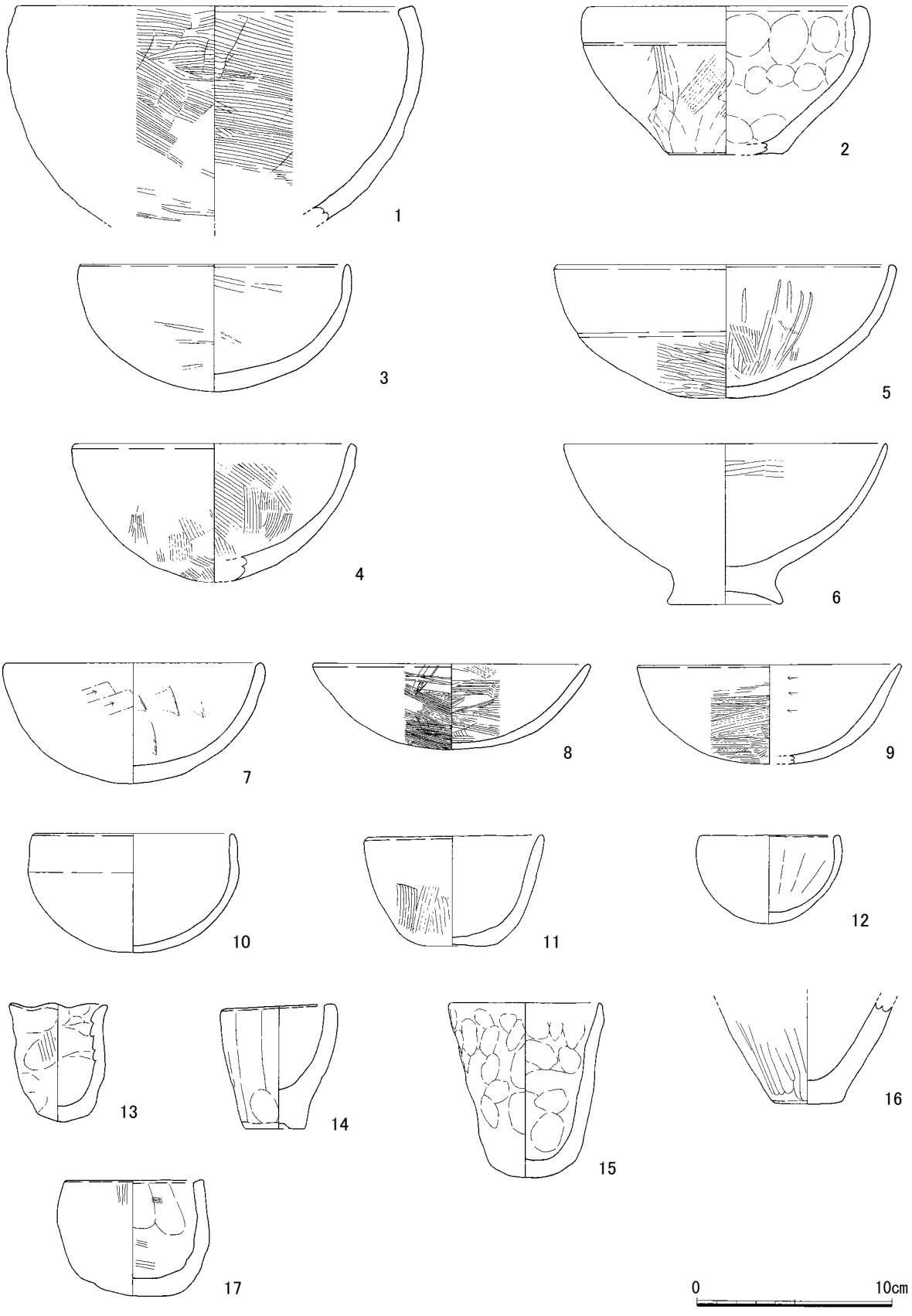


図69　９区包含層他出土土器20（1/3）

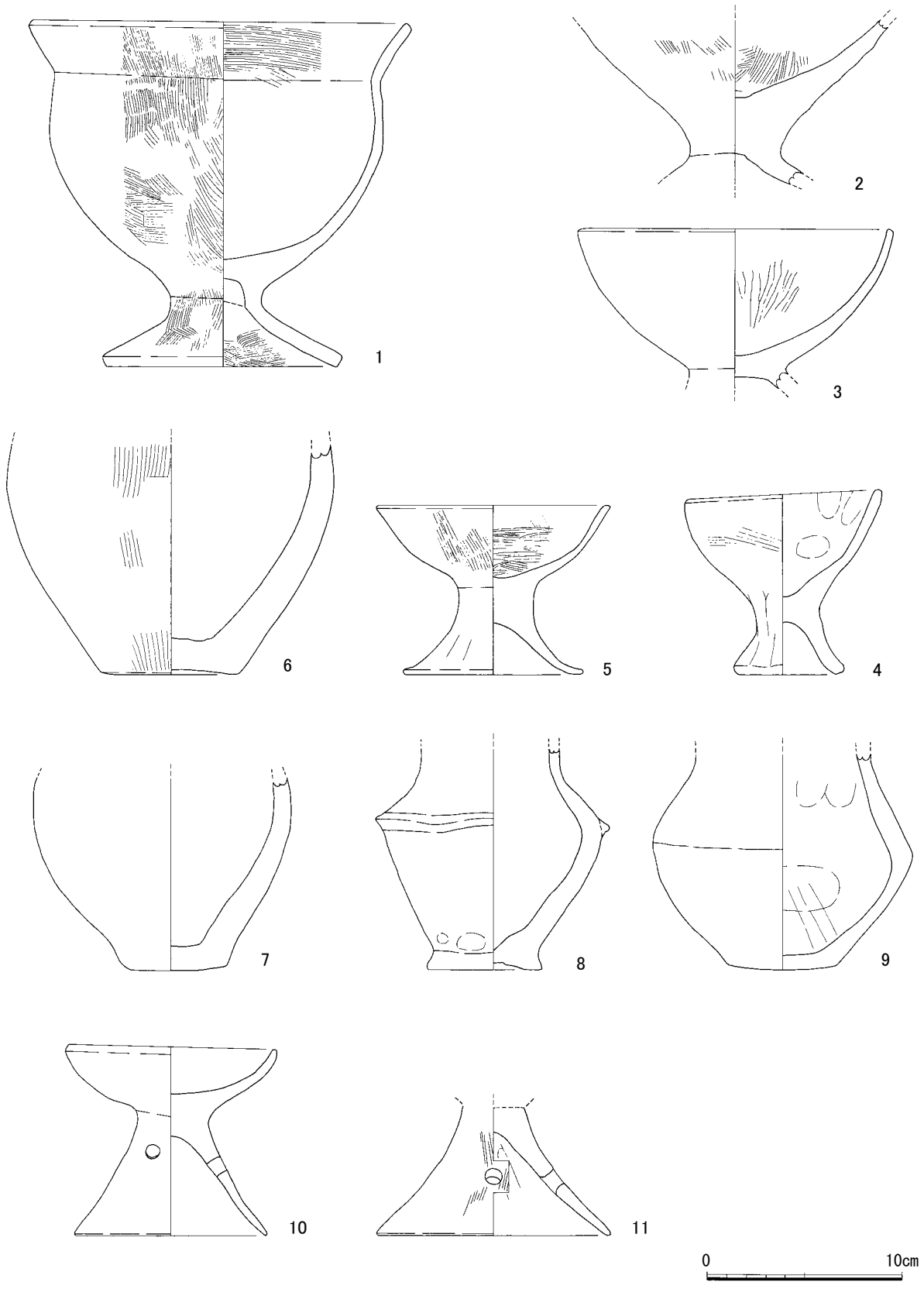


図70　９区包含層他出土土器21（1/3）

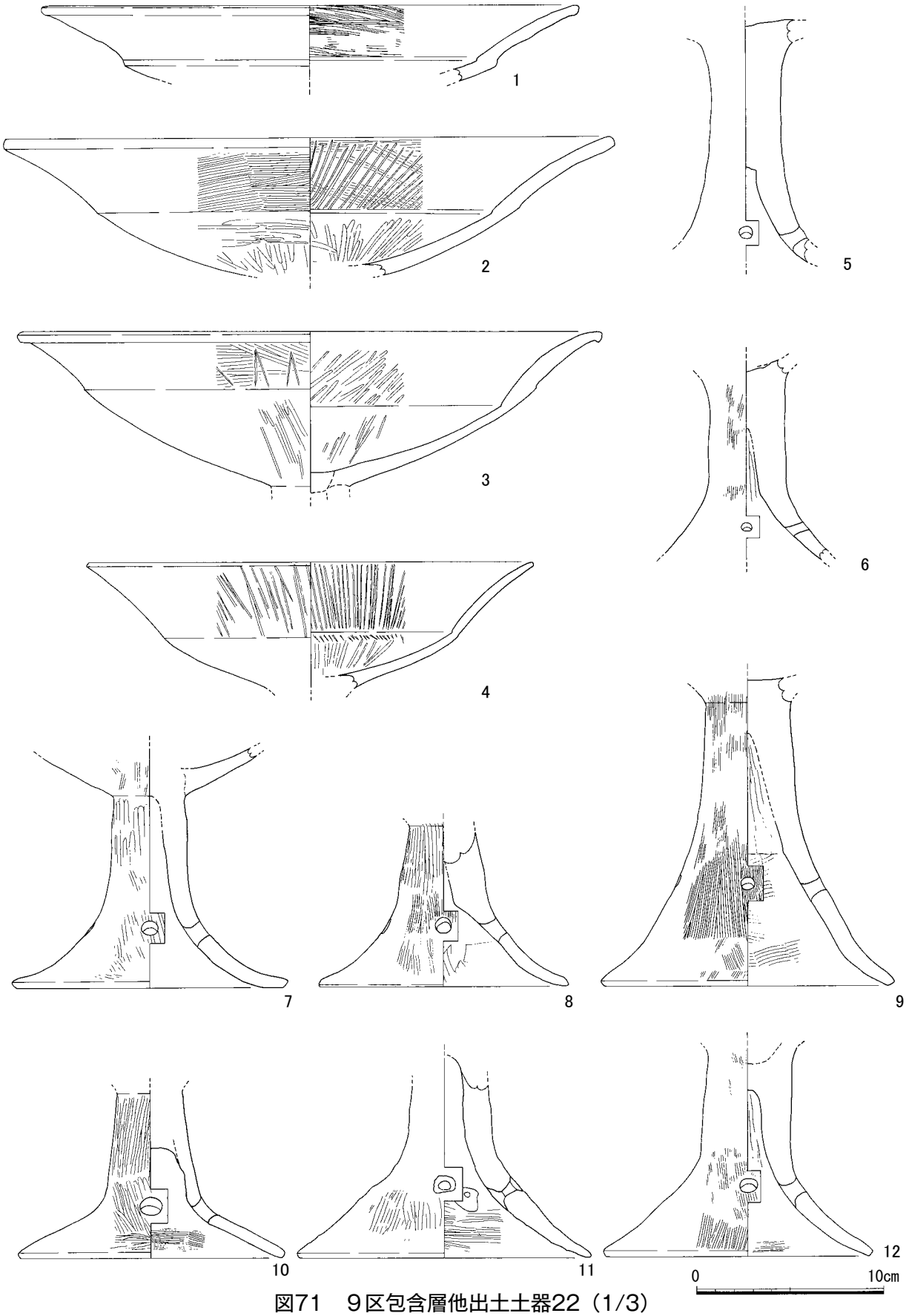


図71　９区包含層他出土土器22（1/3）

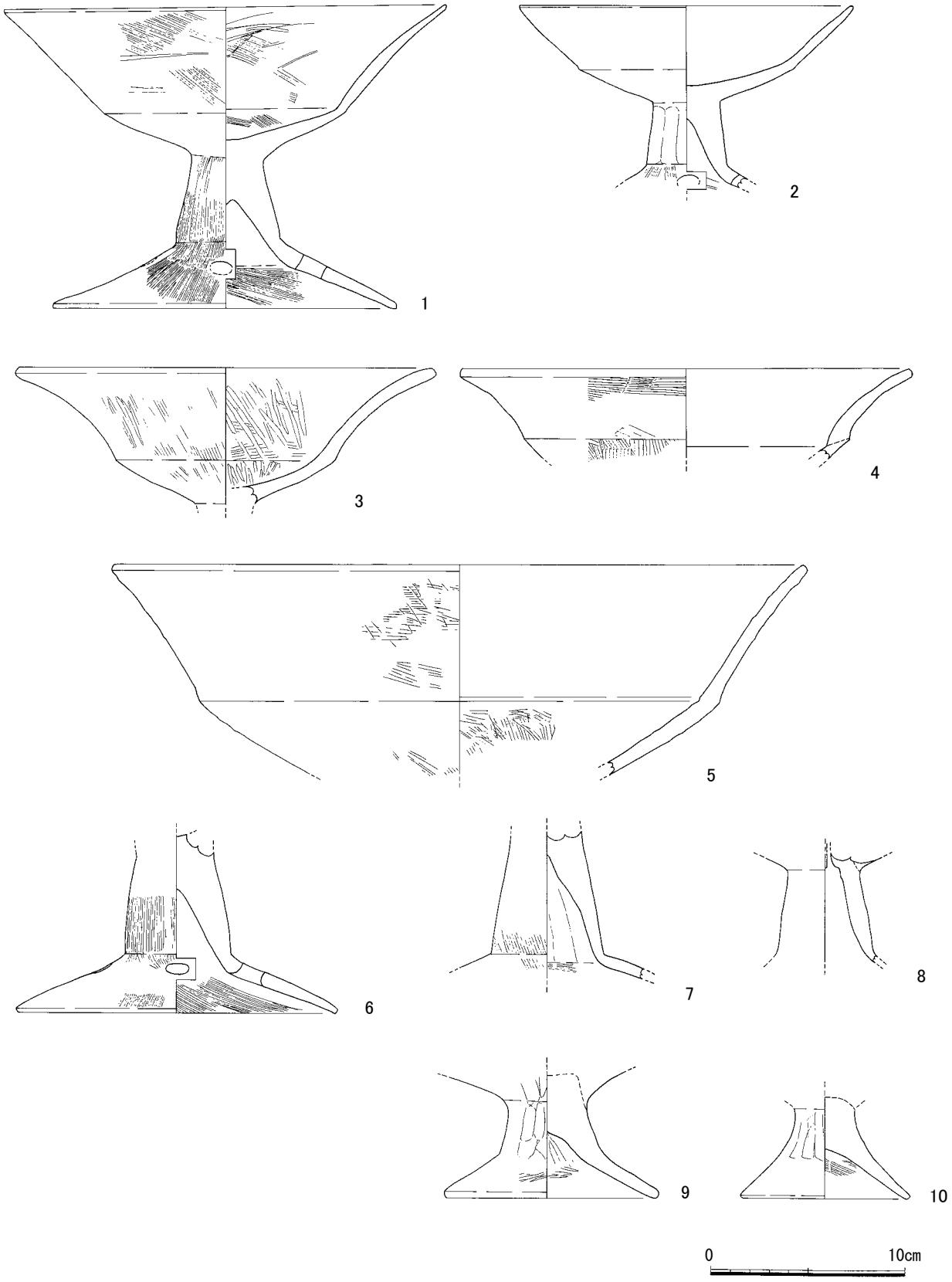


図72　９区包含層他出土土器23（1/3）

形の出土である。内部は貫通しておらず、外面、内面共にナデが施され、外面では指頭圧痕が確認できる。9 は下半部のみ残存しており、外面は指頭圧痕が顕著である。10 は外面にハケ後ナデを施しており、指頭圧痕が顕著である。11 は上端部が一部欠損しているが、ほぼ完形の出土である。外面、内面共にナデを施すが、調整は精良ではない。12 は外面にナデ後指押さえを施し、内面は受部にハケを施す。13 は外面にナデを施し、指頭圧痕が確認できる。下端部の縁淵は面取りしている。

図74-1 ～3は弥生土器の器台である。1は表面が摩耗しているが、外面にナデ、指押さえが確認できる。また 2㎜以上の砂粒を多く含み、胎土は粗い。2 は外面にナデ、指頭圧痕が確認できる。また内部は貫通しているが狭まっている。3 は外面にハケ後ナデ、また上端部は面取りを施す。

図 74-4、5 は土製の支脚である。4 は把手がやや欠損しているが、ほぼ完形の状態である。内部は貫通しており、外部の側面において指頭圧痕が顕著である。外部の上面および内面はナデが施される。5 は上面が一部欠損している。側面において指頭圧痕が顕著である。

図 74-6、7 は須恵器の壺である。6 は外面の口縁部から頸部にかけて小突帯の間に波状文が巡り、これが二重に施されている。胴部上面においても波状文が走り、その直下に小突帯が巡る。その他外面に回転ナデ、内面の口縁部～頸部に自然釉を呈しており、頸部～胴部に回転ナデ、底部付近に工具によるナデを施す。7 は外反する口縁部が中位おいて若干ながら内側に屈曲している。口縁部外面に回転ナデを施すことで稜線を施し、その稜線の間に波状文が巡る。胴部上面には櫛描文が巡る。

図 74-8 は須恵器の高杯であり、体杯部の破片である。外面は体杯部に上部から沈線と小突帯が巡る。その下部には小突帯が二条巡り、その間に波状文が巡る。体杯部～脚部にかけては回転ヘラケズリが施される。内面はナデが施され、自然釉を呈する。

図 74-9 ～ 11 は須恵器の杯蓋である。9 は完形の出土である。外面は天井部がヘラ切り離し後ナデ、体杯部中部に沈線が巡り、それを挟んで口縁部側にかけて回転ヘラケズリを施す。また口縁端部付近～内面にかけて回転ナデを施す。10 は口縁端部が一部欠落しているが、ほぼ完形の状態である。9 と比較すると、口縁部がやや内傾している。天井部はヘラ切り離しで、天井面にはヘラ切り記号を施す。天井部～体杯部にかけて突出した稜線が巡り、稜線から口縁部にかけては回転ヘラケズリを施す。また口縁端部付近～内面にかけて回転ナデを施す。11 は口縁～底部にかけての破片である。外面の天井部はヘラ切り以降の調整は施されておらず、体杯部～内面にかけては回転ナデを施す。

図 75-1 は須恵器の壺であり、外面の口縁部～頸部にかけて回転ナデ、胴部はタタキが施される。内面は胴部において同心円文状のタタキを施す。

図 75-2 は須恵器の高台付き壺であり外面はヘラケズリ後ナデ、内面は回転ナデを施す。

図 75-3、4、6 ～ 8 は須恵器の高台付杯であり、いずれの高台も貼り付けである。3 は杯の底部～高台にかけての小片である。底部付近においてはヘラケズリ、ナデを施す。4 は杯体部～高台部にかけて残存しており、高台内底部は静止糸切痕が確認できる。外面はナデ、内面は回転ヘラケズリを施す。6 は外面、内面共に回転ナデを施し、体杯部～底部にかけての境界において明瞭な稜線が巡る。7 の高台内底部は回転ヘラ切り離しである。また外面、内面共に回転ナデを施し、体杯部～底部にかけての境界において稜線が巡る。8 もまた、高台内底部は回転ヘラ切り離しである。外面、内面共に回転ナデを施し、体杯部～底部にかけての境界において稜線が巡る。底部全体がやや扁平化している。

図 75-5 は須恵器の杯蓋で天井部に把手がつく。外面、内面共に回転ナデを施し、内面端部には受け部をもつ。

図 75-9 ～ 12 は須恵器の皿である。いずれも器面は回転ナデを施し、底部は回転ヘラ切りの後ナデ

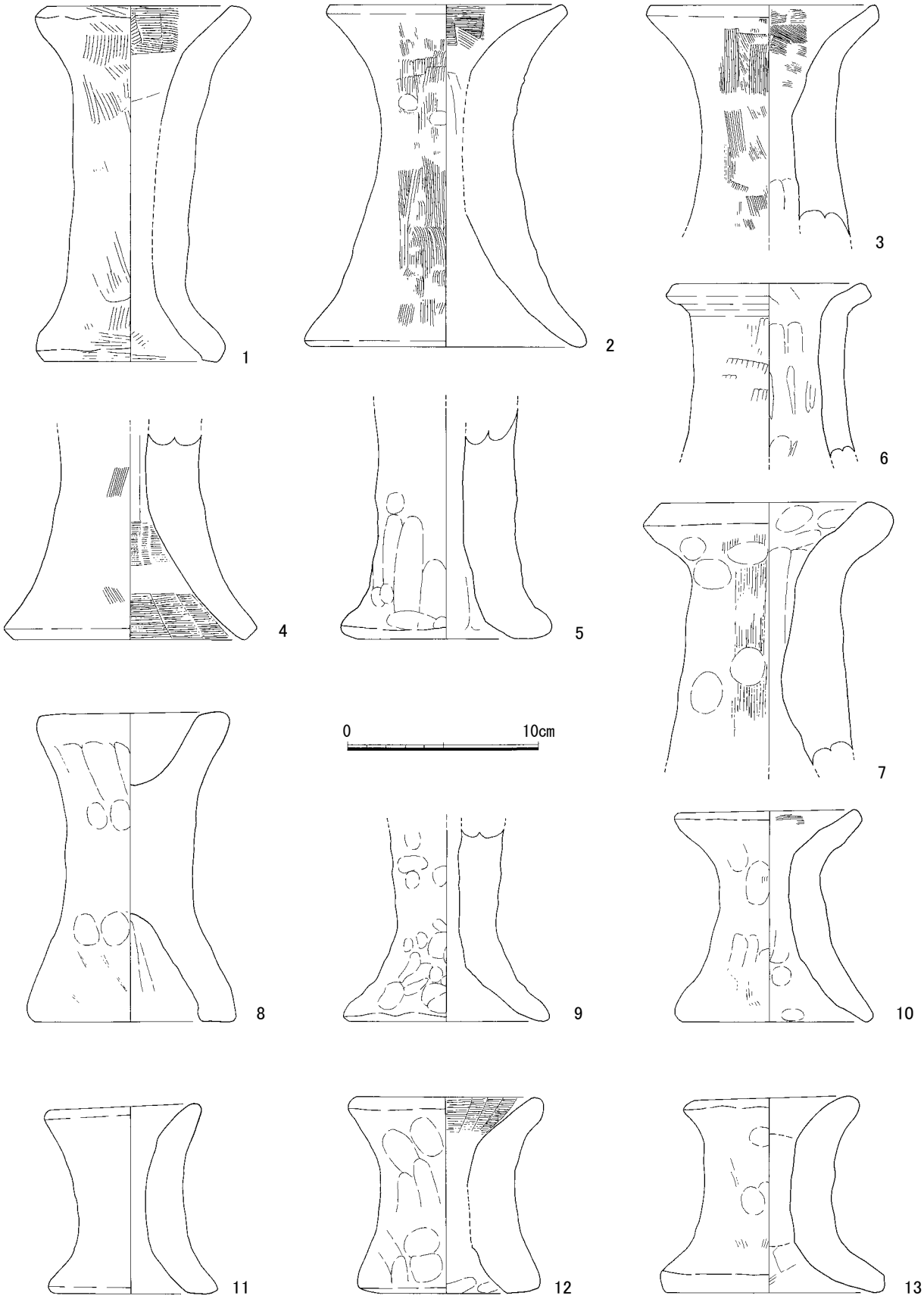


図73　９区包含層他出土土器24（1/3）

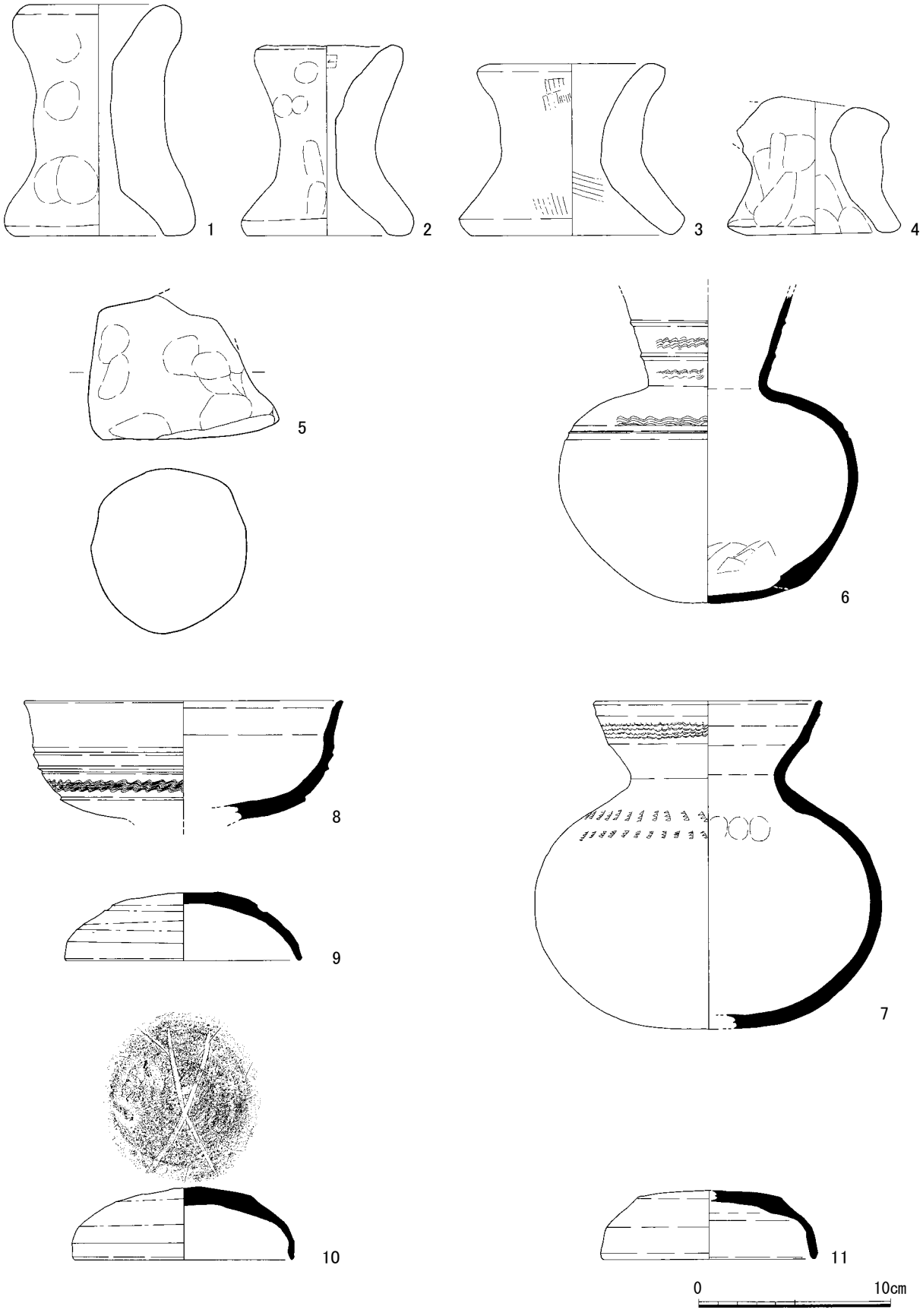


図74　９区包含層他出土土器25（1/3）

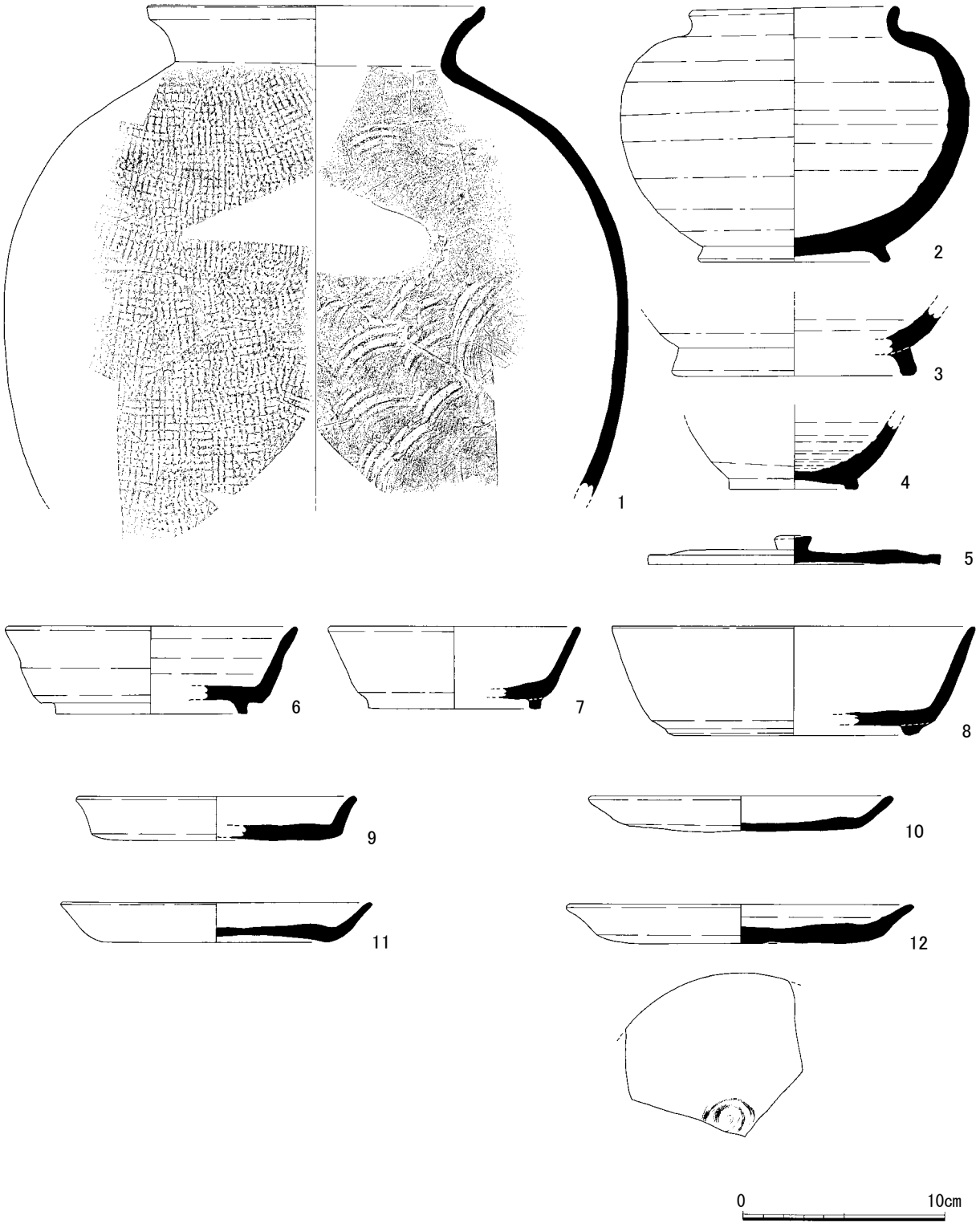


図75　９区包含層他出土土器26（1/3）

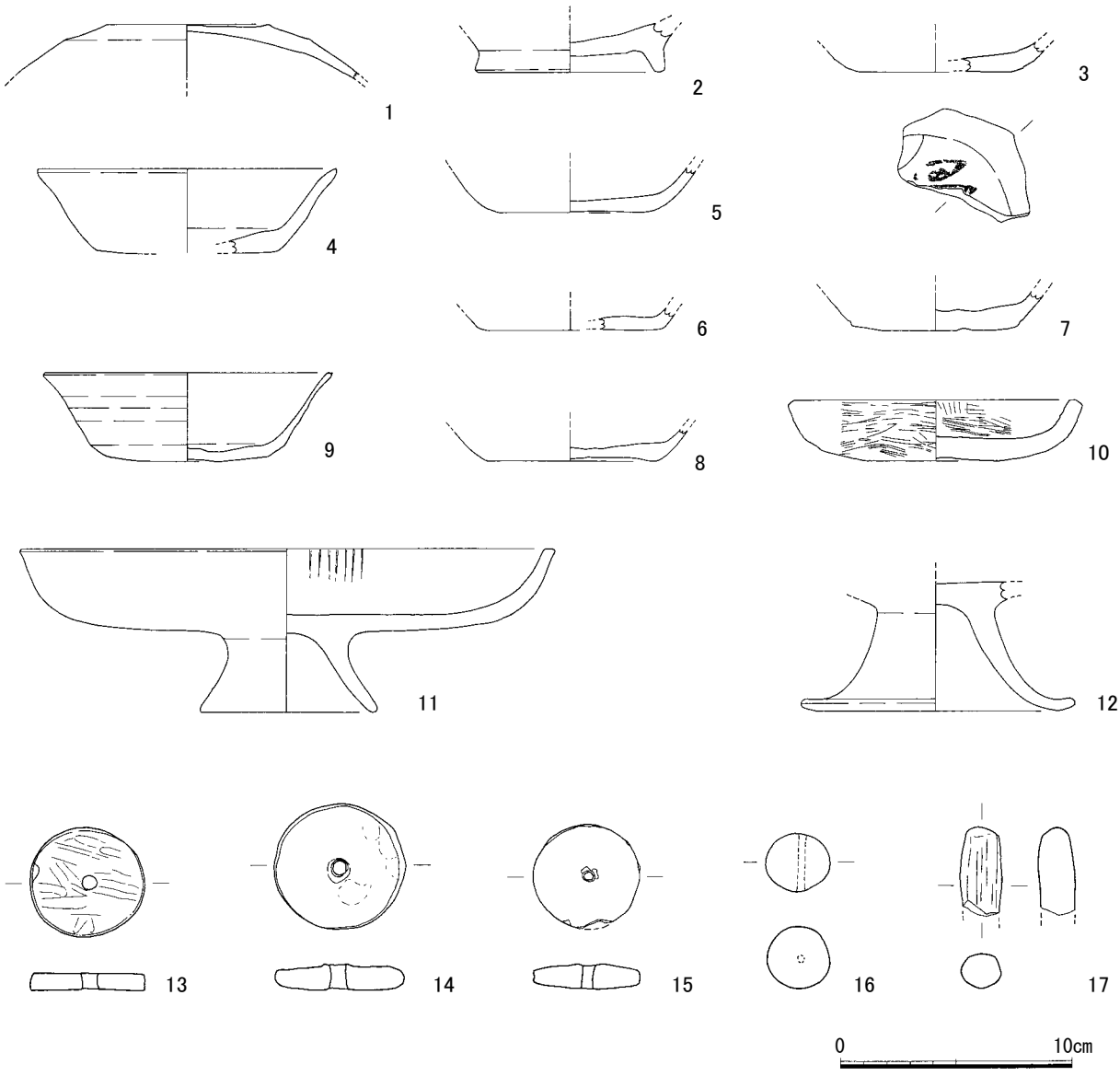


図76　９区包含層他出土土器・土製品27（1/3）

を施す。9 は口縁部の外面付近に自然釉を呈する。11 は SD9001 からの出土。12 は底面の中心に墨書が施される。

図 76-1 は土師器の坏蓋。外面は回転ヘラケズリ、内面は回転ナデを施す。

図 76-2 は土師器椀である。底部のみ残存しており、高台は貼り付けである。外面、内面共に回転ナデを施す。

図 76-3 は土師器の皿であり、底部付近の破片である。底部は回転糸切りであり、底面中心には墨書が施されている。

図 76-4 ～ 9 は土師器の杯である。いずれも底部は回転ヘラ切り離しであり、外面、内面共に回転ナデを施す。このうち 4、9 は口縁部～底部にかけての破片、5 ～ 8 は底部付近の破片である。

図 76-10 は土師器の皿であり、口縁部～底部にかけての破片である。外面、内面共にハケ、口縁端部にナデを施し、底面に煤が付着している。

図 76-11、12 は土師器の高杯である。11 は器面が摩耗しているため詳細は不明であるが、内面の口縁部～体杯部にかけて縦方向のミガキが確認できる。12 は脚部のみ残存しており、外面、内面共に回転ナデを施す。

（2）土製品

図 76-13 ～ 15 は紡錘車である。いずれも器面の中心に 5㎜程度の穿孔が施される。器面について、13 は SD9002 からの出土である。ミガキが施され、側面が面取りしている。14 は指頭圧痕が確認される。15 は側面が面取りされ、ミガキが施される。

図 76-16 は土錘である。楕円体で垂直方向に 3㎜程度の穿孔が貫通している。

図 76-17 は鍋の把手のようにも見受けられるが、不明の土製品である。

（3）石器・石製品

図 77-1 は SD9002 から出土の砂岩製の石包丁片。直背であり、紐孔は両面からの穿孔である。

図 77-2 は砂岩製の石鎌片か。両部共に直刃を呈するが刃部の角度は背部側の刃部の方が鈍い。体面は両面とも研磨を施す。

図 77-3 は砂岩製の大型直線刃石器。研磨が全体に至らず、背部および左の側部は剥離面を残す。直刃であるが若干ながら側面が湾曲する。

図 77-4 は砂岩製の石包丁片か。刃部が欠損しており、背部、両体面部に研磨を施す。

図 77-5 は砂岩製の両刃石斧。SD9002 からの出土。刃部付近のみの残存である。

図 77-6 は玄武岩製の太型蛤刃石斧。刃部が欠損している。基部～胴部にかけて研磨を施す。

図 77-7 は砂粒砂岩製の敲石であり、主面が石材の葉理に対して平行方向に沿うように整形する。主面、裏面面共に一部が欠損する。形状から石斧として使用後、敲石に転用したと考えられる。側面中央付近に打ち欠き・研磨を施し、主面には敲打痕が確認でき、裏面には打ち欠きによる整形を施す。

図 77-8 は安山岩製の敲石である。8 は裏面および底面において敲打痕が確認できる。

図 77-9 は片岩製の敲石。敲打痕は不明瞭である。

図 78-1、3 ～ 5 は安山岩製、2 は凝灰岩製の円形凹石。これらそれぞれの側面は磨石としても利用されている。このうち 1、3 ～ 5 は主面、裏面両方、2 は主面のみに敲打痕が確認できる。4 は SK9037 からの出土。

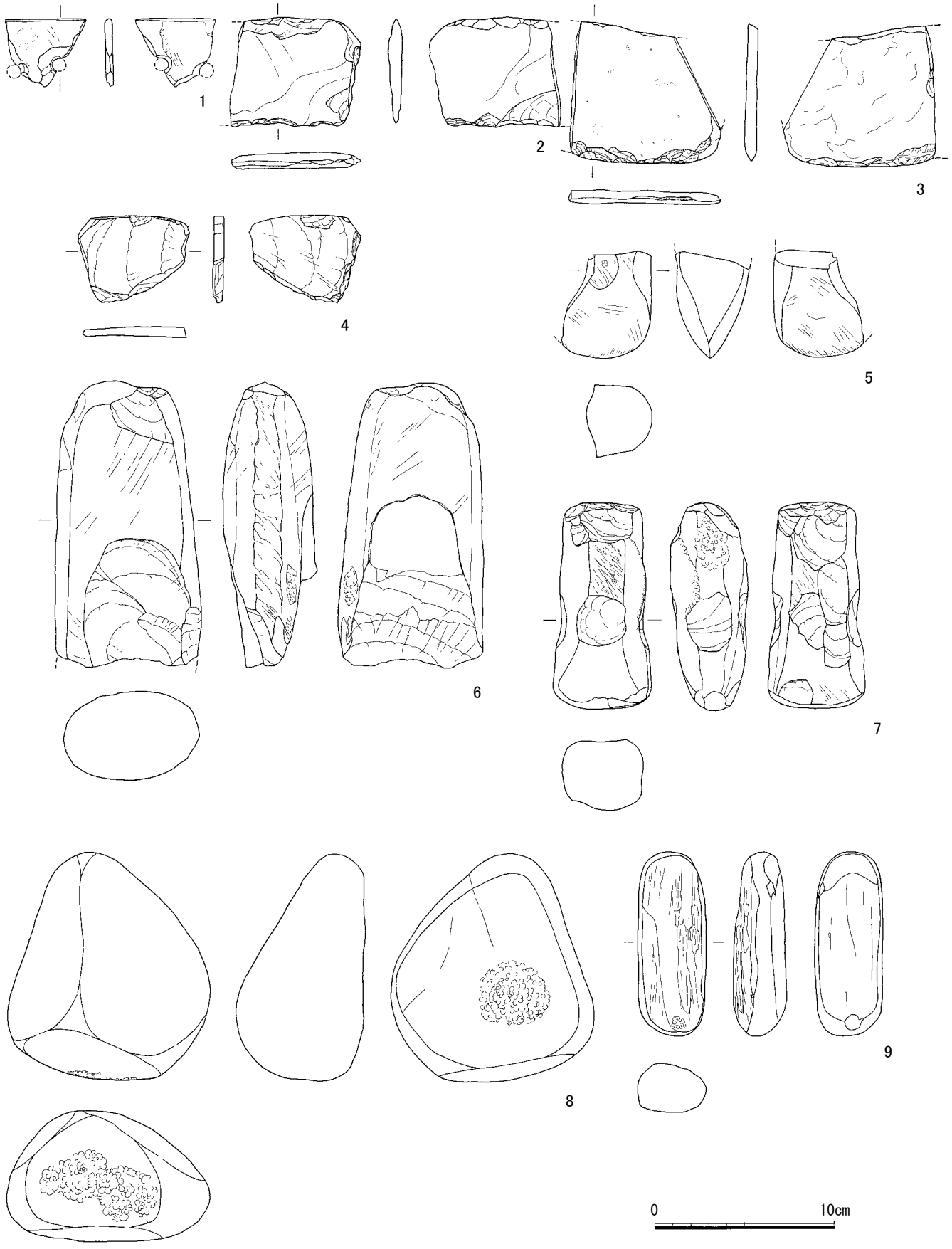


図77　９区包含層他出土石器１（1/3）

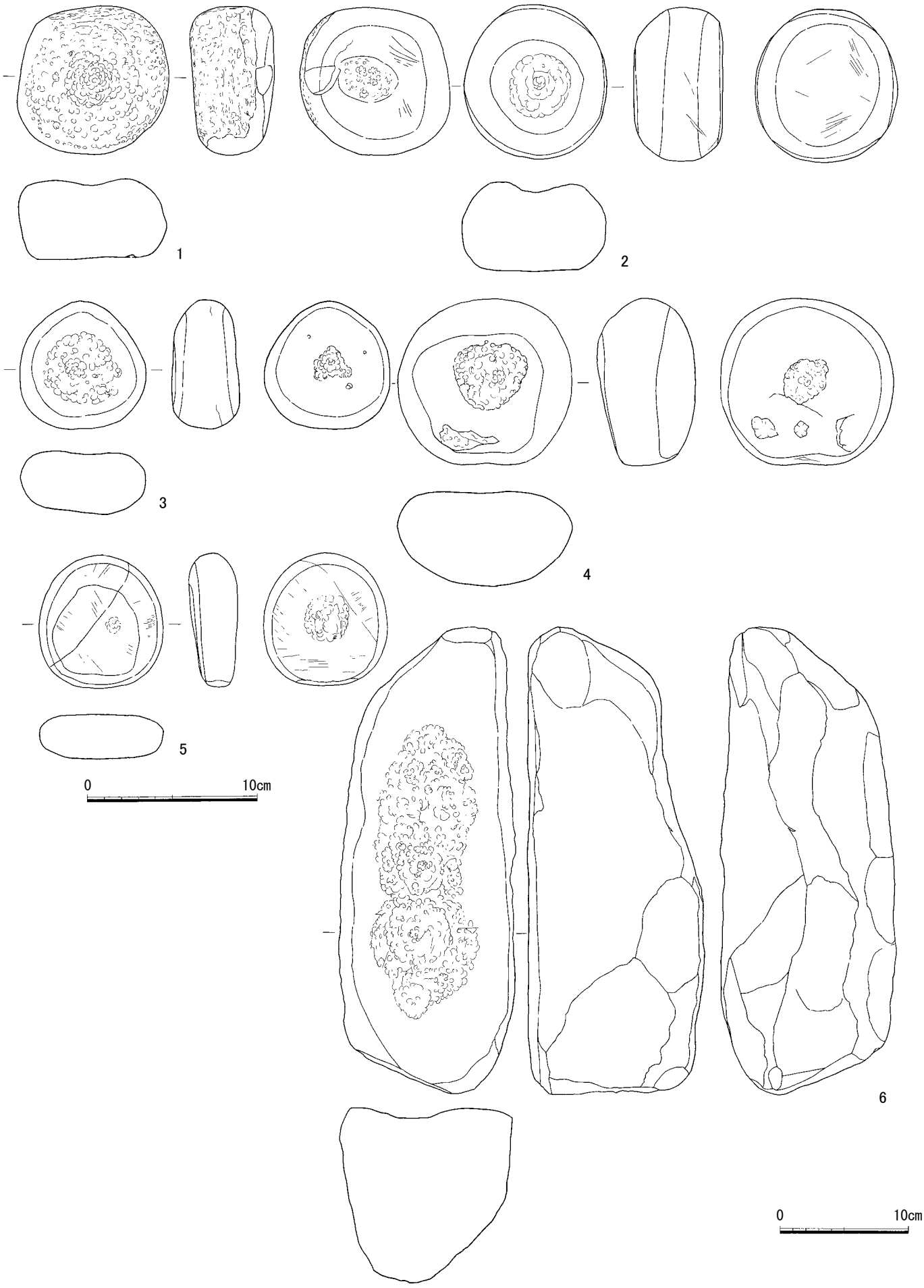


図78　９区包含層他出土石器２（1/3、1/4）　1～5は1/3、6は1/4



図79　９区包含層他出土石器３（1/3、1/4）　1～3は1/4、4～7は1/3

図 78-6 は玄武岩製の台石であり、主面に敲打痕が顕著に確認できる。側面を挟んで主面側と、裏面側で色調が異なっており、形状から裏面を地中に埋め込んで使用していたものと考えられる。

図 79-1 ～ 7 は砥石であり、それぞれの形状から 1 ～ 3 は置砥、4 ～ 7 は手持砥として使用されたと考えられる。1 は砂岩製の粗砥。主面、裏面および両側面においての利用が認められる。鉄片が付着している。2 は砂岩製。主面は石材の葉理面に対して平行方向に沿う。3 は主面中央において縦方向に集中して利用されたと考えられる研磨痕が確認できる。裏面および側面は自然面が残存する。底面には石材切り取りのため、くさび状のものを打ちつけたとみられる痕跡がある。4 は花崗岩製の粗砥。主面が石材の流理面に対して垂直方向に沿う。5 は砂岩製。主面において縦方向に幅 2 ～ 5㎜程度の溝状痕が複数確認できる。6 は砂岩製で SD9001 からの出土。最大長 6.6㎝程度であり、断面形態はほぼ正方形を呈する。主面において縦方向に幅 1 ～ 2㎜の溝状痕が複数確認できる。7 は泥岩製。器面は非常に滑らかであり、断面形態はほぼ直角の長方形を呈する。裏面下部右側において不定方向の溝状痕が複数確認できる。

図 80-1 は泥岩製の砥石で SB9029 からの出土。主面、裏面および右側面が使用されている。左側は一部欠損している。

図 80-2、3 は形状から手持砥として使用されたと考えられる。2 は安山岩製。主面および両側面が使用されており、胴部から先端にかけて著しく摩耗する。形状からノミ形石斧の可能性も考えられる。主面下部において不定方向の溝状痕が確認できる。3 は砂岩製で、基部が欠損している。断面形状は長方形を呈する。主面、裏面および両側面が使用されている。

図 80-4 ～ 10 は黒曜石製の打製石鏃である。平面形態は 4 ～ 9 は二等辺三角形状を呈しており、そのうち 4、6、7 は抉りが深い凹基、8 ～ 9 は抉りが浅いもしくは平基である。10 は平面形態が平基である。主面の左側において刃部を形成する。

図 80-11、12 は石錘である。11 は細粒花崗岩製。紡錘形を呈しており、胴部中央に 1.0㎝単位程度の穿孔が貫通している。孔の上端から上端にかけて、長軸方向に幅約 0.5㎝の溝により緊縛部を作り出しており、表裏の孔を挟んで半周している。12 は砂岩製で SD9002 からの出土。胴部中央に紐孔とみられる 0.5㎝単位程度の穿孔が確認でき、孔を挟んで下半部は欠損している。棒状を呈する。13 は滑石製の紡錘車で SD9001 からの出土。主面、裏面および側面は面取りしており、胴部中央に紐孔と考えられる 0.5 ～ 1.0㎝単位程度の穿孔が貫通する。

図 81-1 は碧玉製勾玉未製品である。9-2 区、N-28 区画の包含層から出土した。片面の頭部付近を一部剥離状に欠損するがほぼ完形である。平面三日月形で、背面及び腹面は数回の剥離のちに研磨する。また、両側面も研磨のため滑らかである。未穿孔である。石材色調は濃緑色である。全長 1.98㎝、全幅 1.0㎝、全厚 0.66㎝である。

図 81-2 は碧玉片である。12 区の出土。上記の碧玉製勾玉未製品の出土を考慮すると玉材の残核と思われる。約 10 面程度の多面体である。石材剥離の打点を残す面は少なく、大半は打点のない剥離面である。石材の色調は濃緑色が一部にみられ、それを覆うように薄緑色が広がる。

2 点とも原石産地は自然科学分析の結果、島根県の花仙山産であった。（藁科哲男 2012「中原遺跡出土石製玉類の石材産地同定分析」『中原遺跡Ⅵ』佐賀県文化財調査報告書第 193 集）

（4）青銅製品

図 81-3 は鏡片である。9-2 区 0-27 区画包含層出土である。出土した地点の直下には複数の柱穴が切り合い、それらの柱穴からは柱根も確認した。P88 として報告する。この鏡片はこれらの柱穴埋土

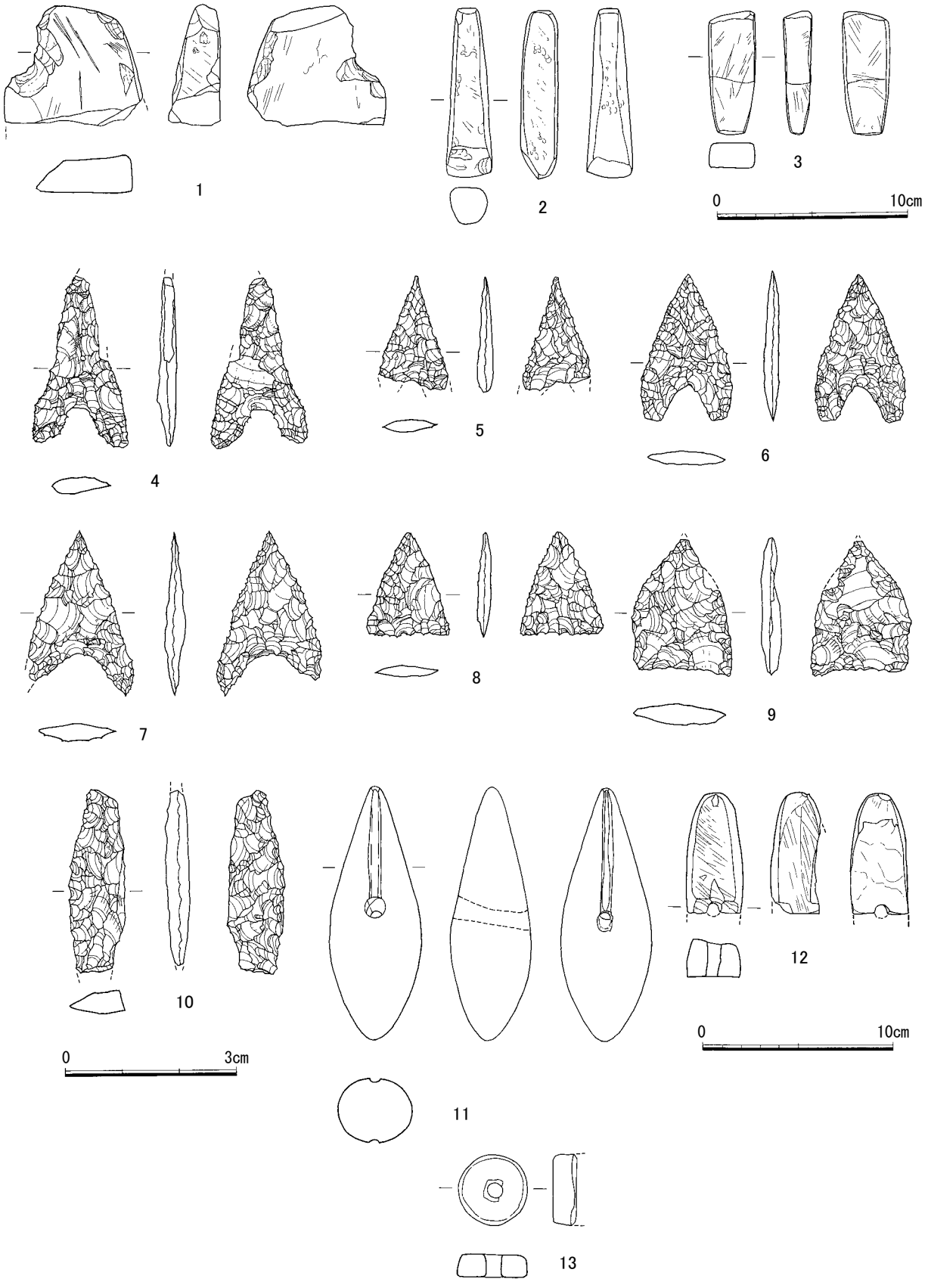


図80　９区包含層他出土石器４（1/1、1/3）　4～10は1/1、他は1/3

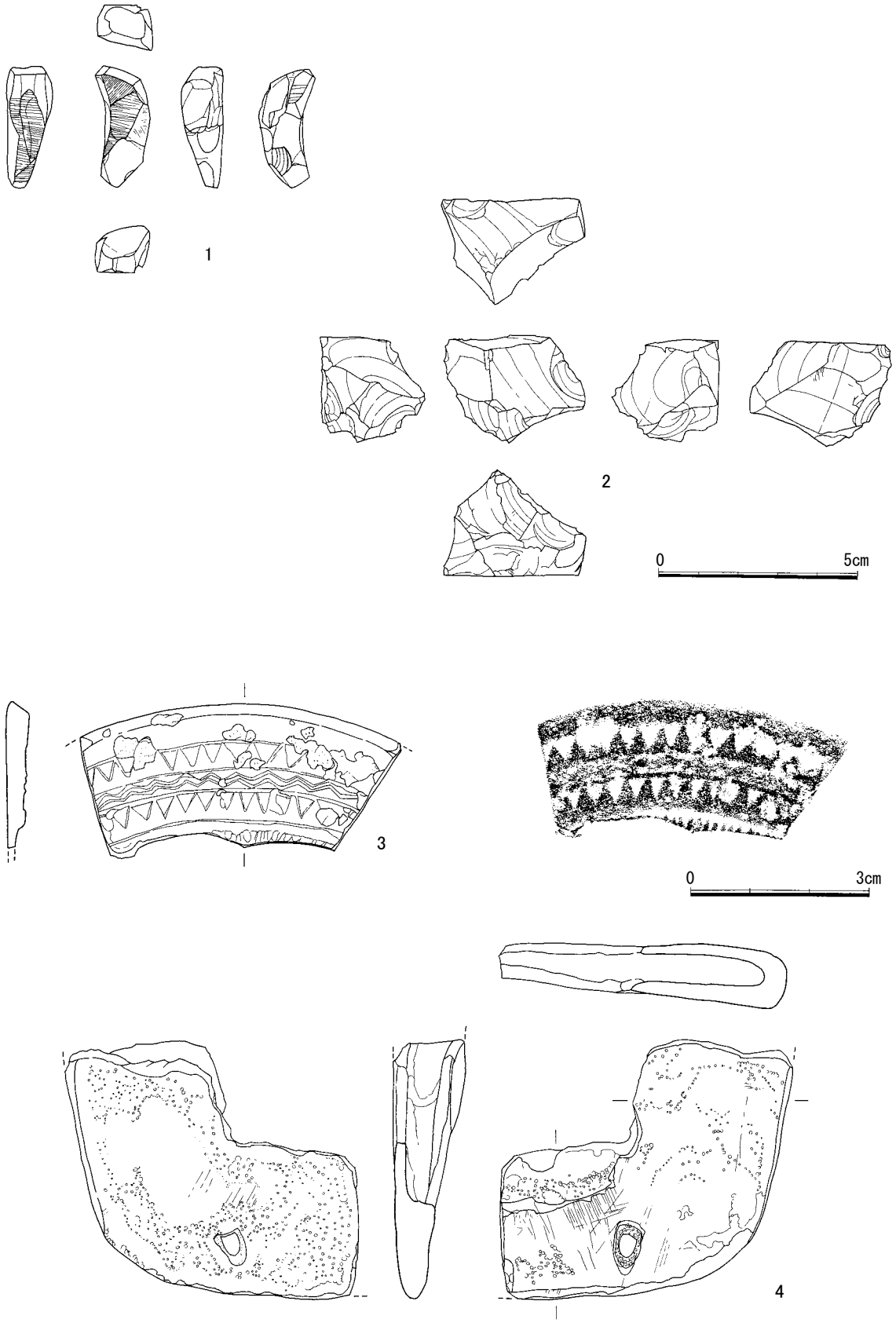


図81　9区・12区 包含層他出土石製品・青銅製品（1/1、2/3）　1・3・4は1/1、2は2/3

出土の可能性もある。鏡片の鏡式は方格規矩鏡であり、鏡縁の約 1/7 で、外区から櫛歯文帯の一部にあたる。周縁は断面が薄い平縁で、外区文様は鋸歯文＋複線波文＋鋸歯文である。櫛歯文帯の櫛歯は垂直方向と若干斜め方向である。鏡縁部と外区の破面は研磨されており、鏡縁は摩滅のためか丸味を帯び、鏡背面も摩滅することから破鏡と考える。

図81-4は青銅製鋤先片である。9-2区N-26区画包含層出土である。刃部から袋部にかけての破片である。刃部に長径5㎜の楕円形の孔があるが、鋳欠けか鋳造後の穿孔か判断に迷う。片面の刃部袋部よりに細い擦痕がみられる。刃部断面形はＶ字形であるが使用の為か鈍角である。刃部長15㎜、刃部厚5㎜。柳田康雄2002によれば、分布の中心は福岡平野であり、唐津地域をはじめとした西北九州地域での青銅製鋤先の出土例は初出であり、本例以外に本遺跡12区包含層から青銅製鋤先片が出土している。

参考文献

柳田康雄 2002「青銅製鋤先」『九州弥生文化の研究』学生社

（5）木製品

図 82-1、2 は三又鍬であり、いずれも木目は器面縦方向に走る。1 は板材の中央部に長方形の柄穴を穿つ。柄の装着角度は約 40°で、刃部が右側寄りである。2 は 1/2 程度が欠失しており、柄穴の形状は不明である。

図 82-3、4 は又鍬である。いずれも 1/2 以上が欠失しているため、詳細は不明である。木目は器面縦方向に走る。

図 82-5 は平鍬である。板材の中央部に長方形の柄穴を穿ち、装着角度は約 60°である。1/2 以上が欠失している。

図 83-1 は SX9035 出土のエブリである。板材の中央部に円形の柄穴を穿つ。木目は器面横方向に走る。1/2 近くが欠失する。2 は鋤の柄であり、握り手の断面形態は円形を呈する。

図 83-3、4 は斧の柄である。共に柄と斧の接着部は破損している。

図 84-1 は縦杓子である。体杯部において縁淵が一部欠損している。柄の断面形態は方形を呈する。

図 84-2 は槽である。底部は平底であり、口縁部は垂直からやや外傾して立ちあがる。縦方向の側面中央付近には把手が欠損したと考えられる痕跡が確認できる。

図 84-3 は盤である。底部は扁平もしくはレンズ状を呈する平底であり、側面から口縁部にかけては短辺側で垂直に、長辺側では滑らかに湾曲しながら直立する。また、短径側の側面には把手が付く。

図85-1、2は槽である。いずれも丸太状の木材を半裁し、内部を刳り抜いている。2はほぼ完形を残し、外面においては樹皮がほぼ全面的に残存する。

図 86-1、2 は椀である。いずれも丸底であり、 1 は 1/2 程度が欠失する。

図 87-1 ～ 3 はねずみ返しである。1 は隅丸方形の板状を呈しており、中心部に 5㎝程度の方形の孔を穿つ。2、3 は共に隅丸長方形の板状を呈しており、中心に 4.0㎝程度の方形の孔を穿つ。1/2 程度が欠失している。3 は SX9045 から出土。

図 88-1、2 は儀器と考えられる双孔板である。共に上部側面が隅丸状の方形を呈する。中心部に長径 5.0 ～ 6.0㎝、短径約 3.0㎝程度の半月状の孔を、中軸に対して左右対称に穿つ。これらと同様の形態の資料は近隣の千々賀遺跡、梅白遺跡からも出土している。

図 89-1 は舟形木製品である。木目は長軸にたいして平行沿いに走る。平面は紡錘形を呈しており、

一方の先端は尖っている。底部は平底である。舟形とすれば船首側は先端部が尖る。

図 89-2 は組み合わせ具と考えられる。棒状の木材を、端部を残して面状に削り、端部との境界面においてU字状の溝を施す。

図 89-3 は栓である。角材状の木材に対して先端が尖るように削り、基部は逆 L 字状を呈する。断面形態は長方形を呈する。

図 89-4 は組み合わせ具である。丸太状の木材に対して、先端を板状に削り、板の中央を穿孔して 3.0 ～ 4.0㎝程度の長方形状の孔を穿つ。

図 90-1 は背負子の部材である。背負子としての使用方法から見れば実測図は天地逆である。T 字形に枝分かれした一木を 2 本一対とし、柄穴に横桟を入れて結合し背負子にしたと思われる。枝分かれした一木を加工するが、本例は幹を荷受の爪木（腕木）にし、枝を縦の枠木としている。荷受の爪木（腕木）は両面を平坦に加工し、中央に横桟用の長方形の柄穴を 2 箇所穿つ。柄穴はともに長方形で 3.5cm × 1.5cm の柄穴は貫通し、1.6cm × 0.7cm の柄穴は未貫通である。この横桟用の柄穴と垂直方向に長方形の 3.4cm × 1.0cm の柄穴を貫通させる。柄穴内には木材が残存する。荷受の爪木（腕木）は先端部を欠損し、残存長は 35cm である。枠木の身は長径 1.0 ～ 2.5cm、短径 1.5 ～ 2.0cm 程度の断面楕円形で先端は尖らせる。先端よりに 1cm × 1cm の正方形の柄穴を貫通させる。柄穴内には木材が残存する。枠木の長さは 66.8cm である。

図 91-1 は部材である。角材を断面が逆 L 字状になるように成形している。上端右側面の延長線上に幅 1.0 ～ 2.0㎝、長さ約 5.0㎝の突起部、下端に右上から左下にかけてノッチ状の切断面が存在し、これらは接合部と考えられる。また、右側面の突起部側付近には断面形が台形状の溝が確認できる。

図 91-2 は鎌の柄と考えられる。基部は欠損しており、柄先にかけて緩やかに湾曲し、端部は幅広になる。

図 91-3、4 は部材である。共に長方形の板材であり、片面が欠損しているため大きさは不明である。3 は板材の端部付近に長径約 3.0㎝、短径約 1.5㎝程度の半月状の孔を穿つ。4 は板材の中央部付近に長辺 3.0~3.5㎝、短辺約 2.0㎝の長方形の孔を穿つ。

図 91-5 は不明木製品である。破片を接合した結果、一方の端部が欠失しており詳細は不明であるが、形状から鎌柄ではないかと考えられる。幅 3.0 ～ 5.0㎝、厚さ 1.0 ～ 1.5㎝程度の法量を呈し、残存する端部側にかけて幅広になる。

図 92-1 は組み合わせ部と考えられる部材である。片側が欠失しているため大きさは不明であるが、厚さ約 3.0㎝の長方形の板材である。接合のため主面中央部に短辺約 2.0㎝程度の長方形の孔を、側面に短辺約 1.0㎝、長辺約 3.5㎝の長方形の孔を穿つ。

図 92-2 は部材である。破片を接合した結果、平面はほぼ隅丸台形を呈しており、断面は縦方向に対してアーチ状に湾曲している。平面の上端部中央付近に縦 2.5㎝、横 14.0㎝程度の長方形状の凹部が存在する。また、上端部付近の左側に縦 1 ～ 2㎝、横 6.0 ～ 7.0㎝程度、また上面の左端付近には縦 4.0㎝、横 3.0㎝程度の隅丸長方形状の孔がそれぞれ存在し、これらは全て接合部であると考えられる。

図 92-3、4 は柄と考えられるが、共に幅が約 1 ㎝と細身であり、用途の詳細は不明である。断面形は 3 が長方形、4 は円形をそれぞれ呈する。4 は両端が欠損している。

図 92-5 は板状の部材である。木目方向に縦約 75㎝、横約 8.0㎝、厚さ 1.0 ～ 1.5㎝の板材を利用している。縦方向の両端部から約 8.5㎝間隔において、縦 1.0㎝、横 4.5㎝の長方形状の孔を穿っており、これらは接合部であると考えられる。

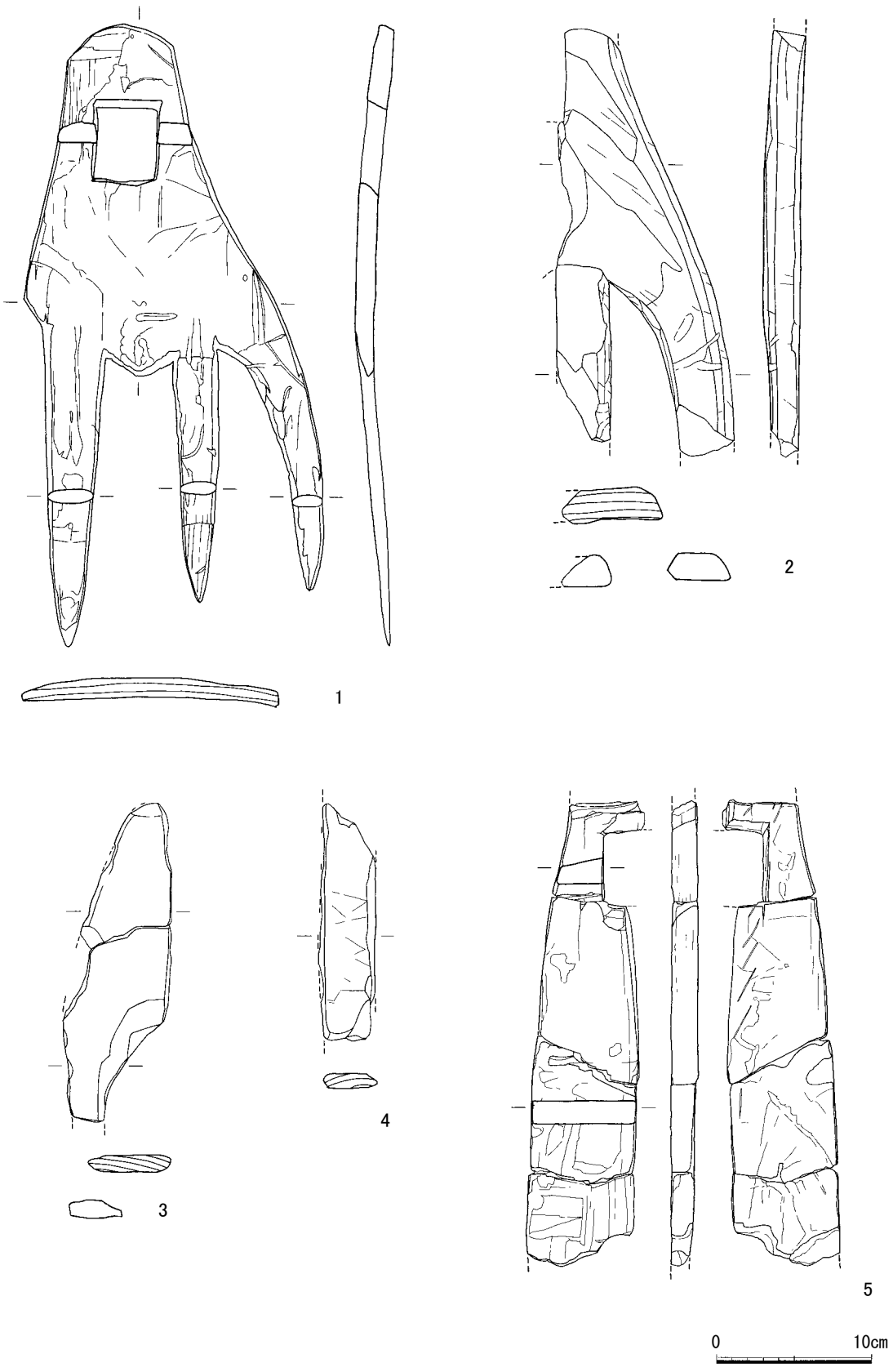


図82　９区包含層他出土木製品１（1/4）

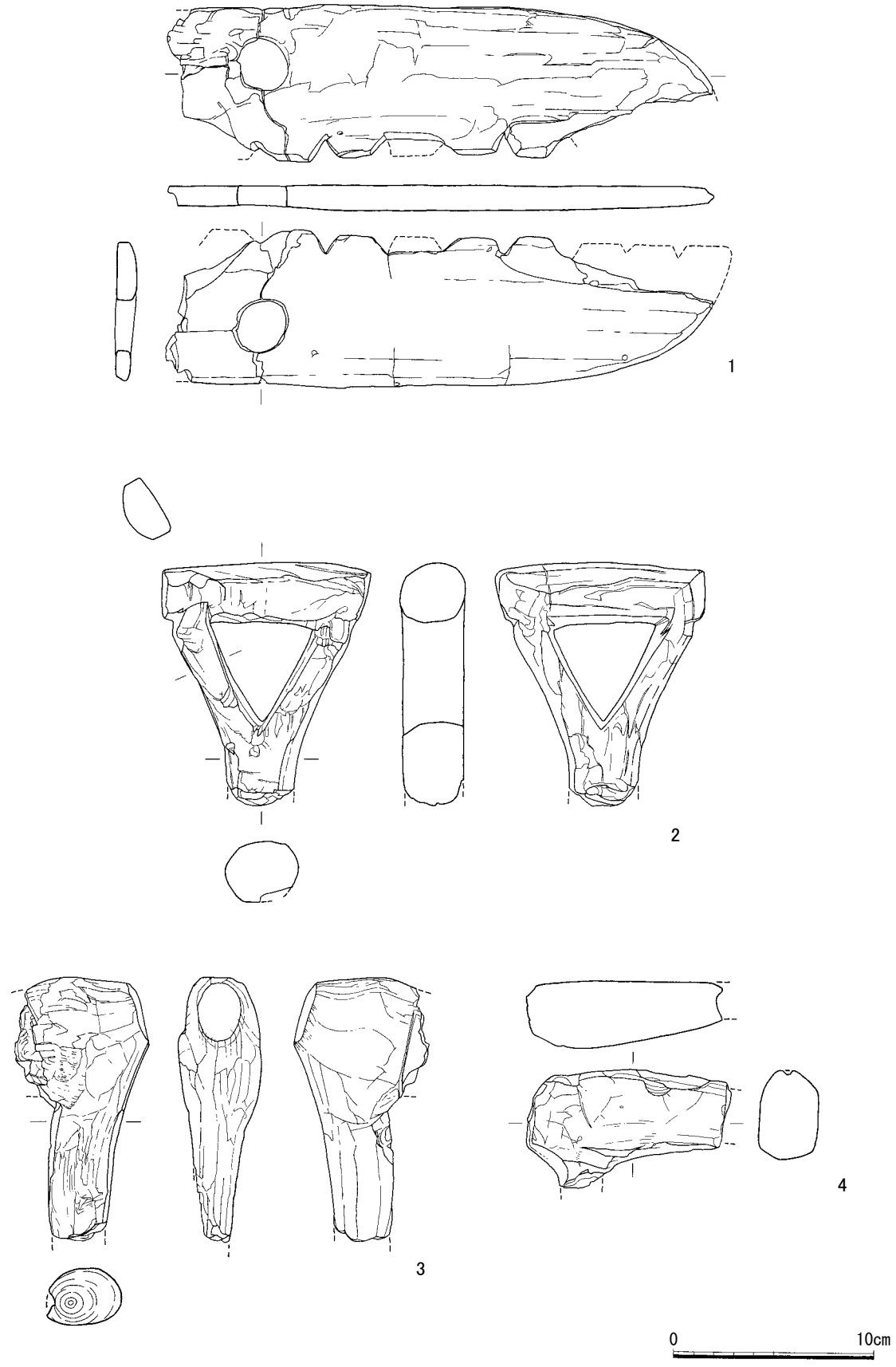


図83　９区包含層他出土木製品２（1/3）

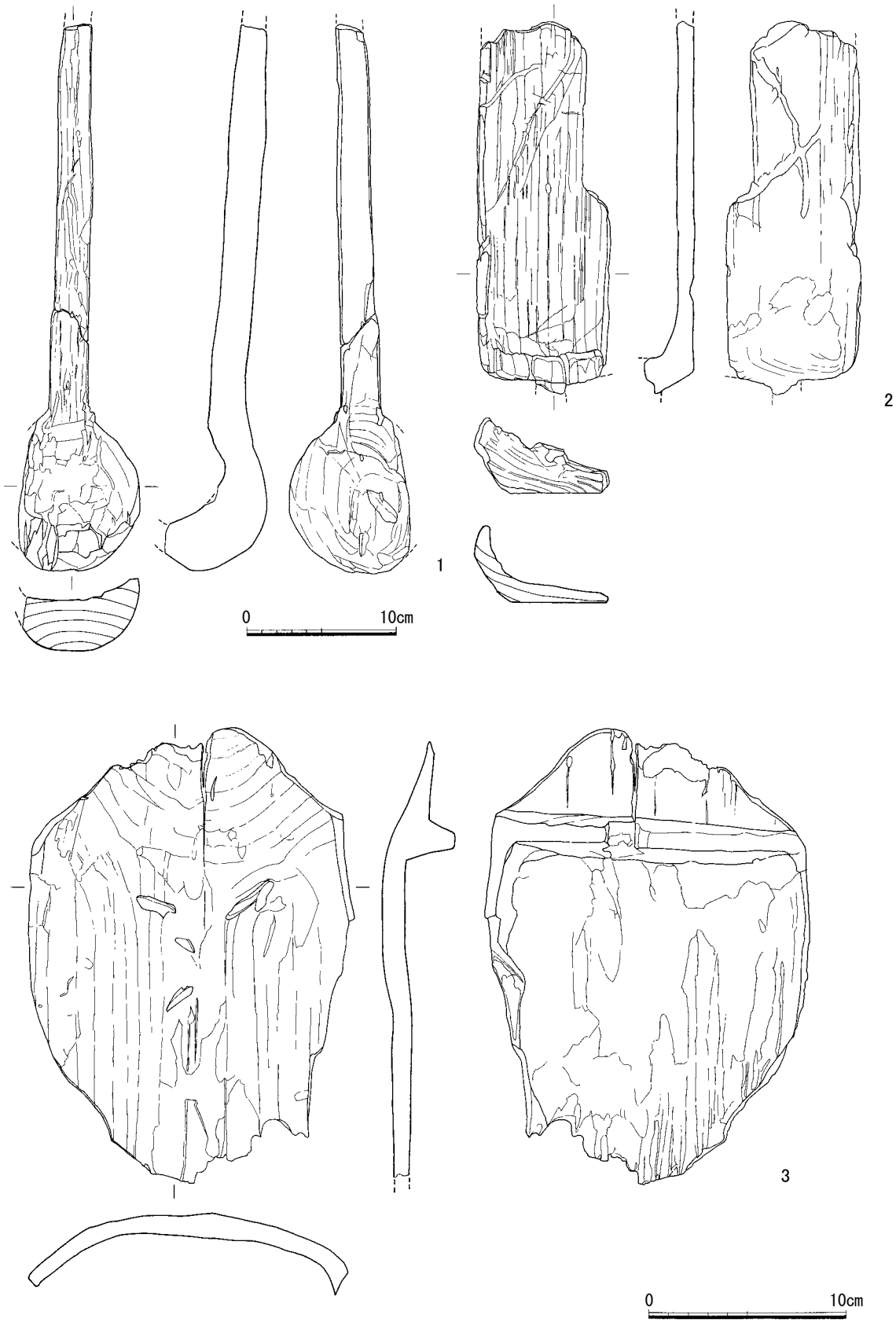


図84　９区包含層他出土木製品３（1/3、1/4）1は1/4、2・3は1/3

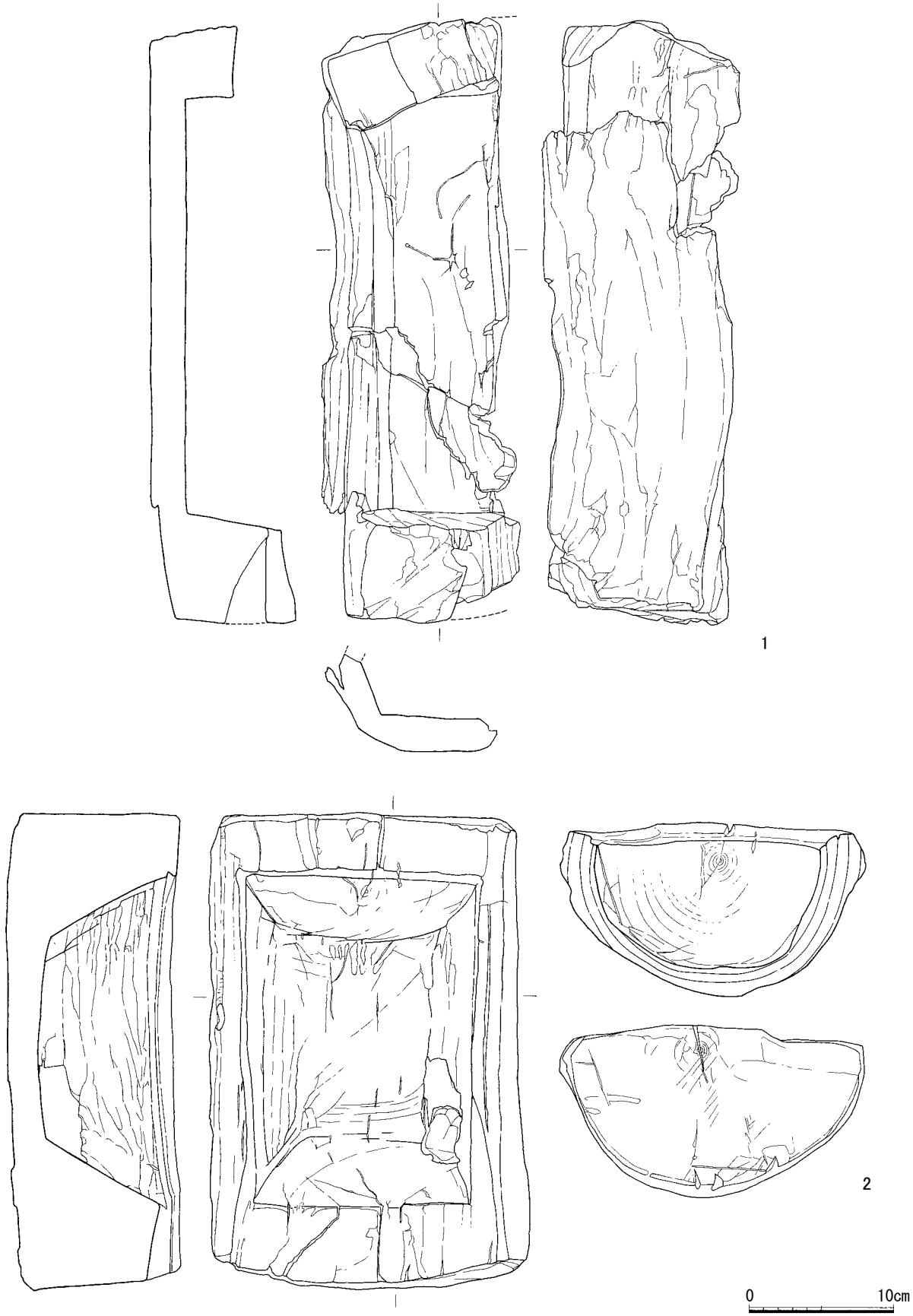


図85　９区包含層他出土木製品４（1/4）

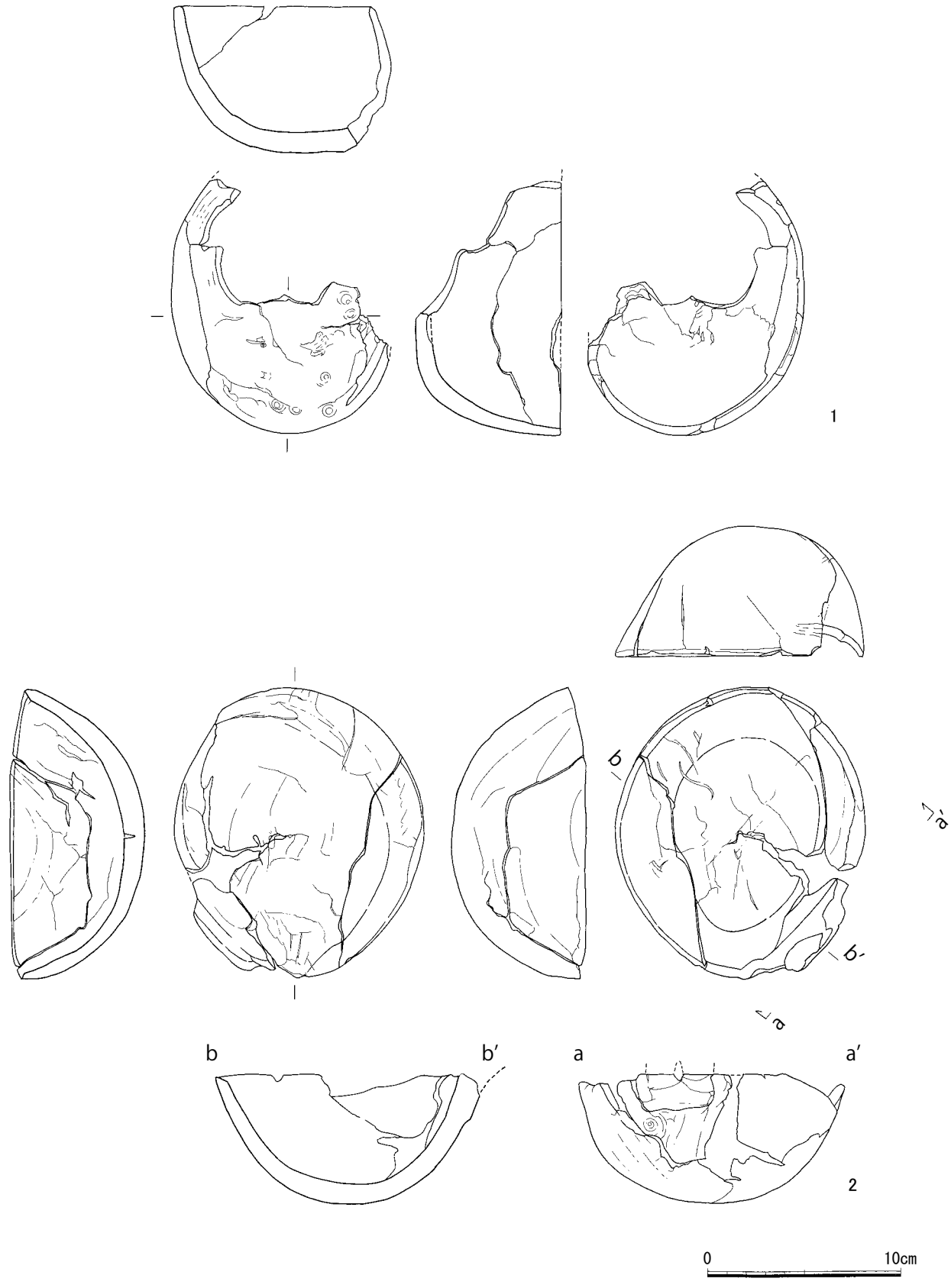


図86　９区包含層他出土木製品５（1/3）

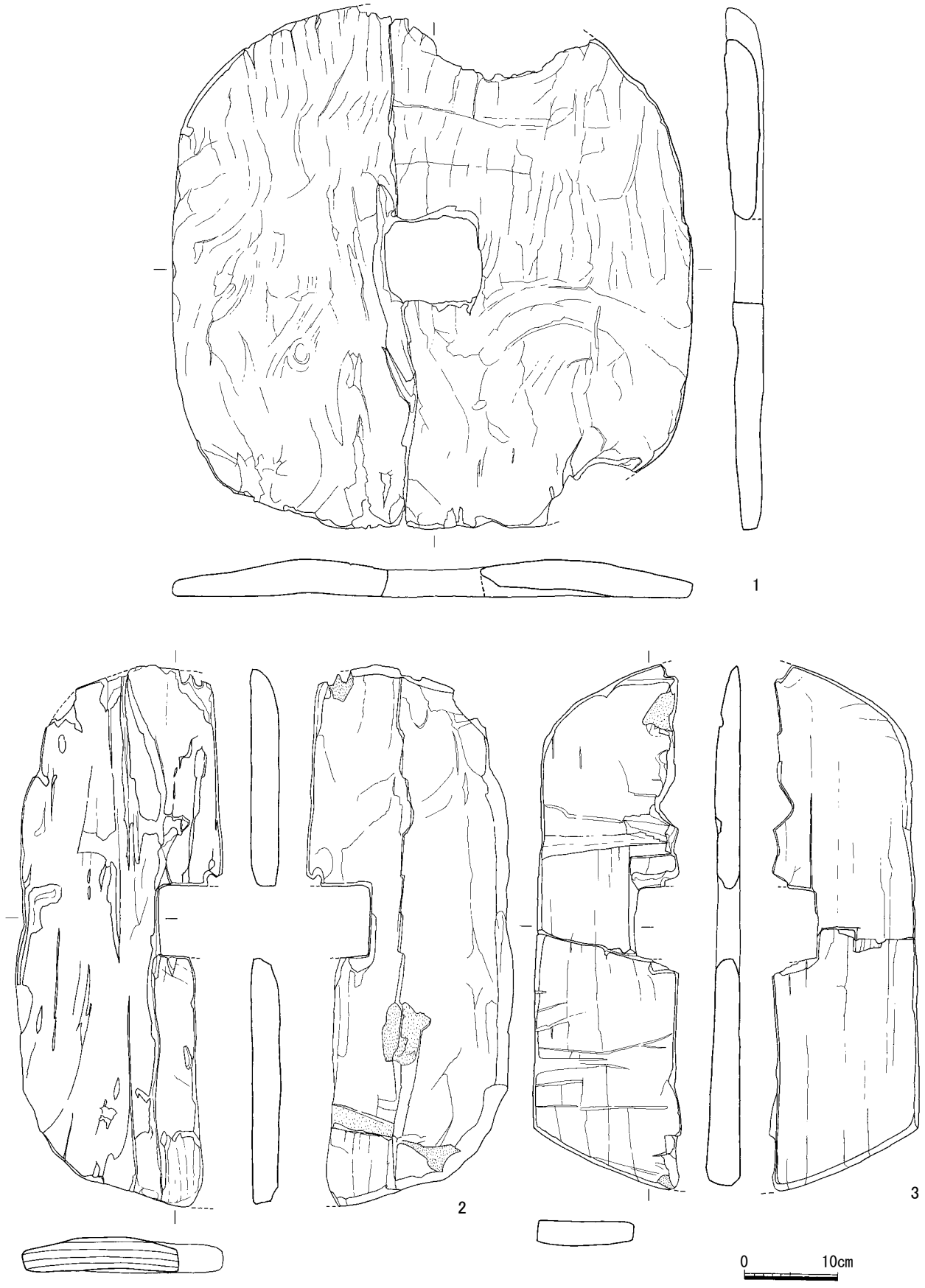


図87　９区包含層他出土木製品６（1/6）

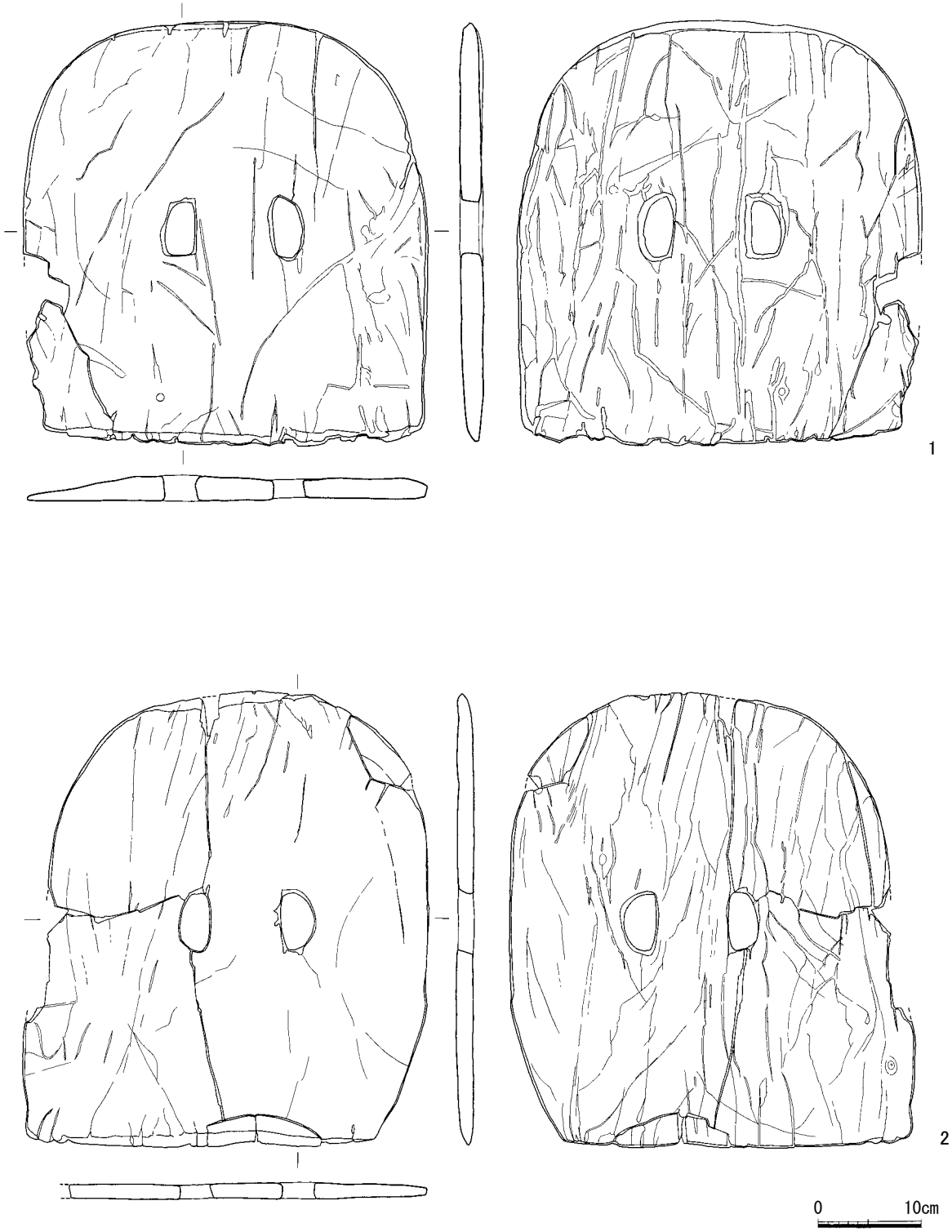


図88　９区包含層他出土木製品７（1/6）

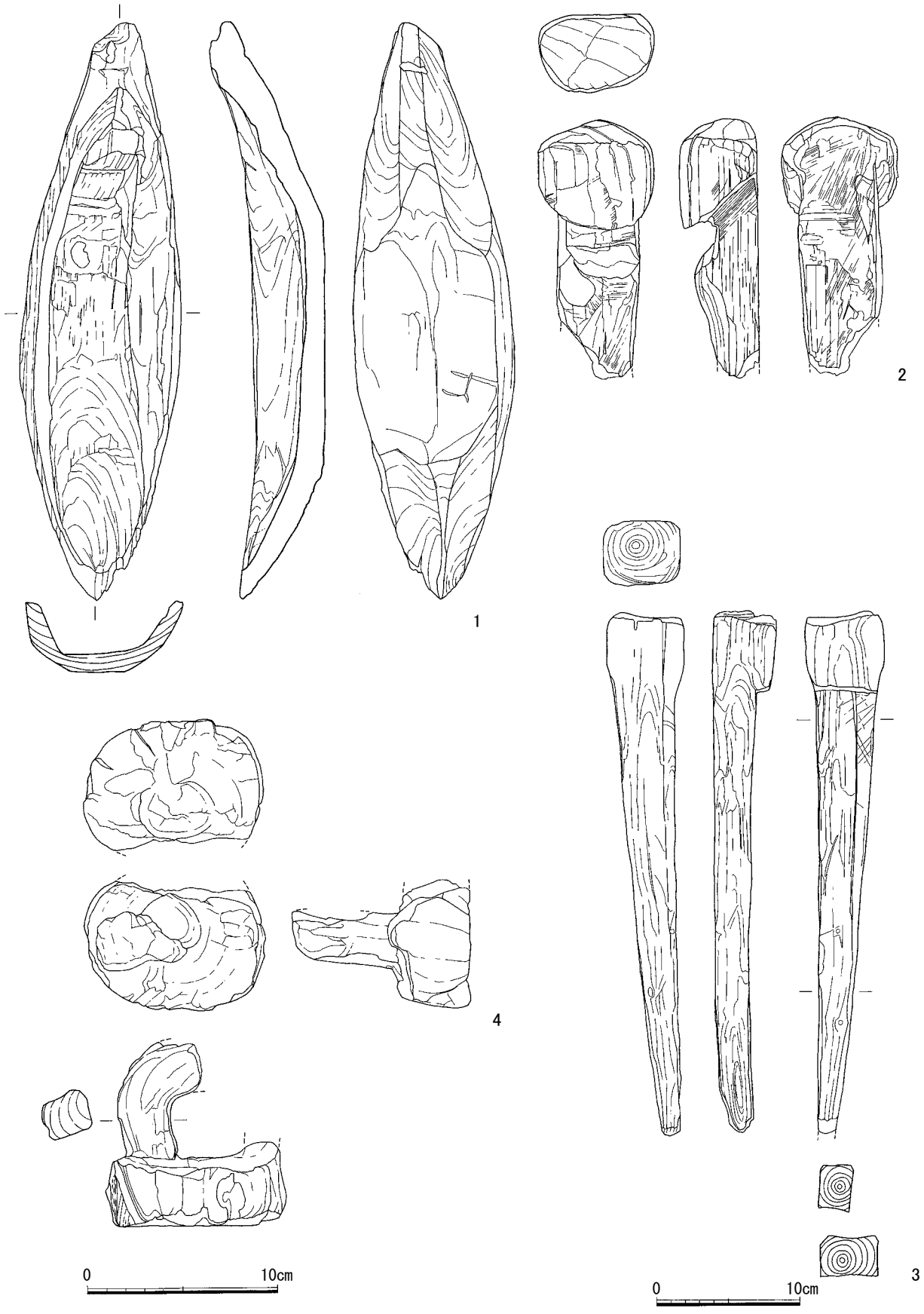


図89　９区包含層他出土木製品８（1/3、1/4）1・3は1/4、2・4は1/3

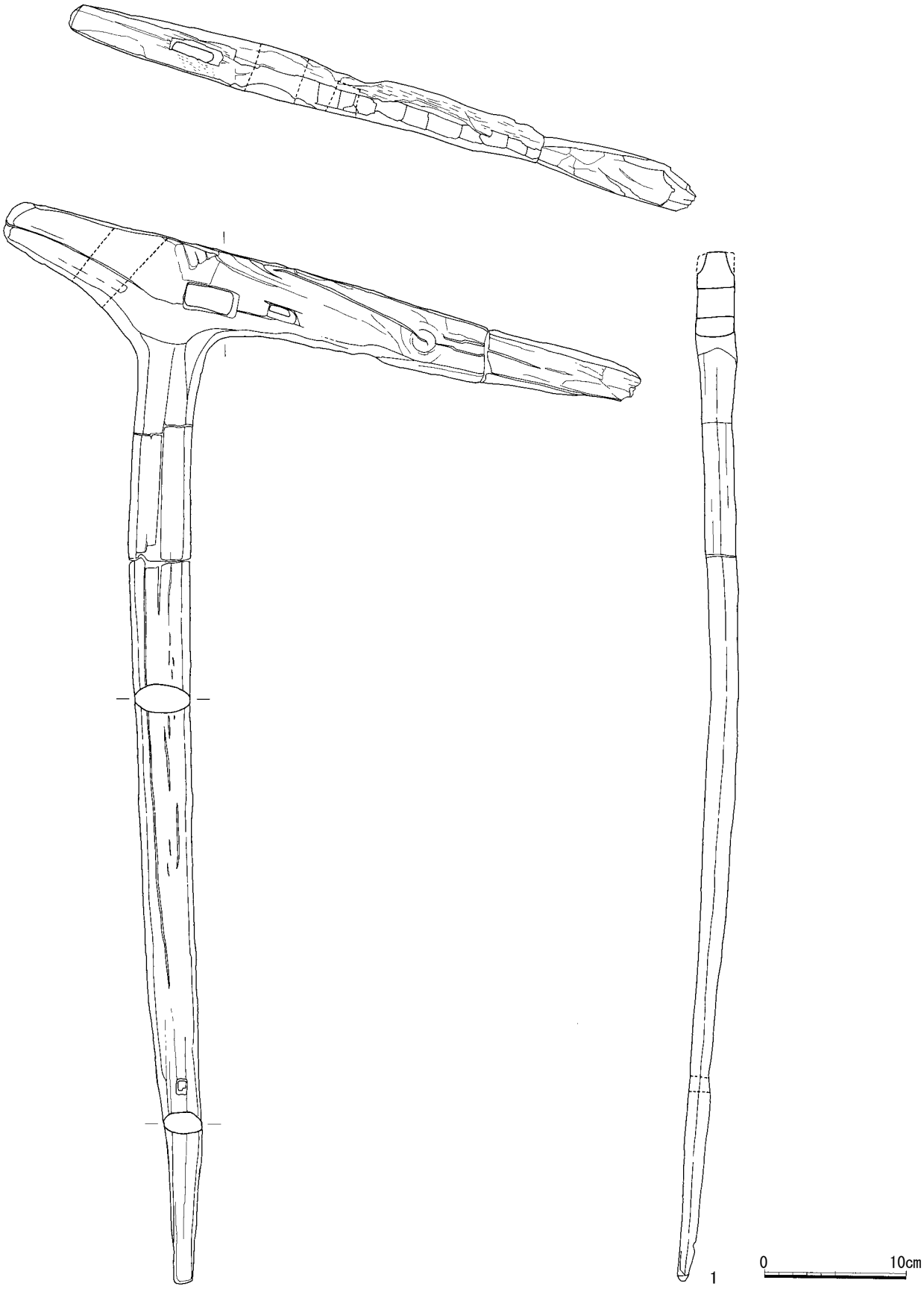


図90　９区包含層他出土木製品９（1/4）

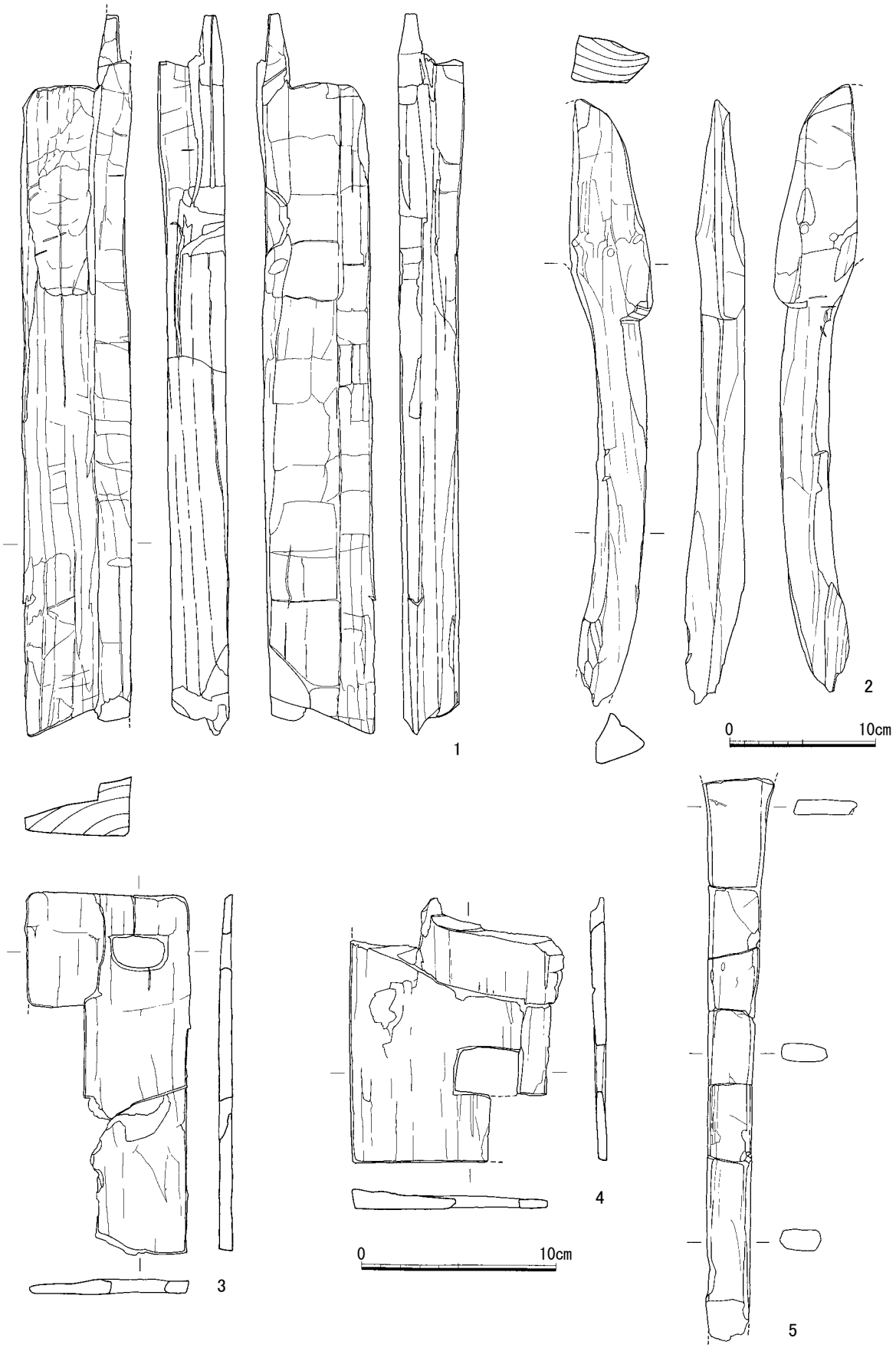


図91　９区包含層他出土木製品10（1/3、1/4）1・2・5は1/4、3・4は1/3

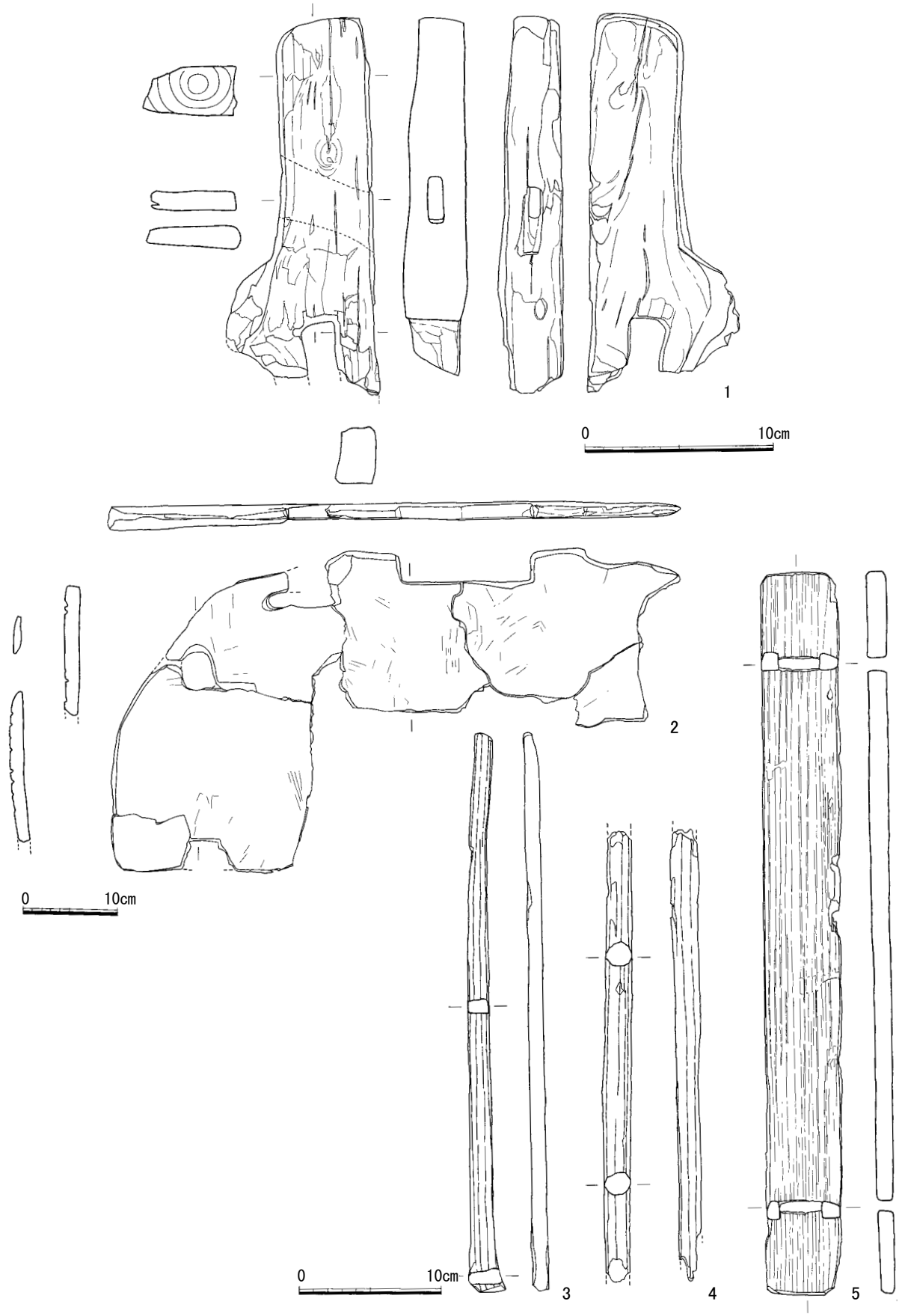


図92　９区包含層他出土木製品11（1/3、1/4、1/6）1・4は1/3、2・5は1/6、3は1/4

（6）鍛冶関連遺物

9-2 区出土の鍛冶関連遺物には羽口、鉄滓がある。掲載した遺物以外にも羽口片や椀形滓などの鉄滓がコンテナ 2 箱出土した。但し、鉄製品、鉄片の出土は皆無である。鍛冶関連遺物の出土地点は P・Q・R-30・Q-29 区画包含層や SD9002、SD9001 である。これら鍛冶関連遺物の時期決定のため同一区画の包含層出土土器をみていく。

図 52-7 は鋤先口縁の広口壺、0-30 区画包含層出土、村徳永 1 式～ 2 式。図 53-1 は平底の甕、Q-30 区画包含層出土、村徳永式。62-4 は布留甕、Q-29・30、P-30 区画包含層出土、土師本村式古段階。図 63-1 は平底の広口壺、Q-29 区画包含層出土、村徳永式～千住式。図 63-4 は丸底の広口壺、Q-29・30、P-30 区画包含層出土、惣座式。図 64-6 は広口壺、Q-30 区画包含層出土、土師本村式。図 66-1 は袋状口縁壺、O-30 区画包含層出土、村徳永式。図 66-8 は山陰系の甕か、Q-30 区画包含層、SD9002 出土、土師本村式か。図 70-10 は小形器台、P-30 区画包含層出土、土師本村式新段階。図 73-1 は器台、O-30 区画包含層出土、惣座式か。図 73-13 は器台、O-30 区画包含層出土、惣座式か。図 74-9 は須恵器杯蓋、Q-29 区画流路下層出土、TK209。図 74-10 は須恵器杯蓋、Q-29 区画流路下層出土、TK209。図 74-11 は須恵器杯蓋、P-30 区画包含層出土、TK209。これら以外に図 69-11、図 70-4、図 70-7 も鍛冶関連遺物と同一区画の包含層出土である。

以上のように土器の時期は村徳永式～土師本村式におさまる、図 74-9、図 74-10、図 74-11 の須恵器杯蓋 3 点のみ時期が離れているが、図 74-9、図 74-10 は流路下層出土であり、9-2 区北側の落ち込みに向って流れる自然流路が形成された時期を示すと考えられる。従って、鍛冶関連遺物の時期は村徳永式～土師本村式の古墳時代の初頭前後であることは確実である。

以下、鍛冶関連遺物について記す。

①　羽口

図 93-1 は羽口である。11 区 SH11230 出土、『中原遺跡Ⅶ』2013 年で既報告である。9 区、11 区出土の羽口の参考資料として掲載した。供伴土器は久住Ⅱ C 期、蒲原土師本村 1 式である。本遺跡出土の古墳時代初頭前後の羽口の中では最も遺存状態が良い。後端部を欠損する。厚さは約 3㎝～ 4㎝と肉厚である。断面は円形、孔径は約 2㎝で、芯棒に巻きつけて成形した後、後端部内面をラッパ状に削り出す。先端部は青灰色に硬化し、胴部外面には籾殻痕がみられる。胎土は白色砂粒を多く含む。

図 93-2 は羽口先端である。9-2 区 P-30 区画包含層出土。断面は円形、孔径は約 2.5㎝で、芯棒に巻きつけて成形する。先端部は青灰色である。胎土は白色砂粒を多く含み、砂質で軟質である。

図 93-3 は羽口先端である。9-2 区 P-30 区画包含層出土。断面は円形、孔径は約 2.5㎝で、芯棒に巻きつけて成形する。先端部は青灰色でｶﾞﾗｽ質部も部分的にみられる。胎土は白色砂粒を多く含み、砂質で軟質である。

図 93-4 は羽口先端部片である。9-2 区包含層出土。先端部は青灰色でガラス質部も部分的にみられる。胎土は白色砂粒を多く含み、砂質で軟質である。

図 93-5 は羽口先端である。9-2 区 SD9002 出土。断面は円形、孔径は約 2㎝で、芯棒に巻きつけて成形する。先端部は青灰色で胎土は緻密で硬質である。他の羽口に比べやや細身で胎土も異なり、10 区 SK1014 出土羽口と類似することから古代の羽口と思われる。

図 94-1 は羽口先端～胴部片である。9-2 区含層出土。断面は円形、孔径は約 2.5㎝で、芯棒に巻きつけて成形する。先端部の青灰色部が一部遺存する。胎土は砂質で軟質である。

図 94-2 は羽口胴部片である。先端部と後端部は欠失する。9-2 区 P-30 区画包含層出土。断面は円形、

孔径は長径約 2.5㎝の楕円形で、芯棒に巻きつけて成形する。胎土は白色砂粒を多く含み、砂質で軟質である。

図 94-3 は羽口先端部片である。9-2 区 SD9001 最下層出土。先端部の青灰色が部分的に残る。断面は円形に復元できる。胎土は白色砂粒を含み、砂質で軟質である。

図 94-4 は羽口先端部片である。9-2 区 SD9001 最下層出土。先端部の青灰色が部分的に残る。断面は円形に復元できる。胎土は白色砂粒を含み、砂質で軟質である。

② 鉄滓

図 94-5 ～ 9 は椀形滓である。5 は側面の一部が破面である。上面は端部に細かい気孔が散在し、中央部が若干窪む。裏面は浅い椀形で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が固着する。6 は側面の一部が破面である。上面は端周辺に粗い～細かい気孔が散在する。裏面は浅い椀形で、青白色の鍛冶炉の炉床土が固着する。7 は側面の 1/2 が破面である。上面は粗い気孔が散在する。裏面は浅い椀形で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が厚さ約 5㎜程度層状に固着する。8 は上面に粗い気孔が点在する。裏面は浅い椀形で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が厚さ約 3㎜程度層状に固着する。9 は側面の一部が破面である。上面は粗い気孔が散在し、中央部が若干窪む。裏面は浅い椀形で、青白色の鍛冶炉の炉床土が固着する。

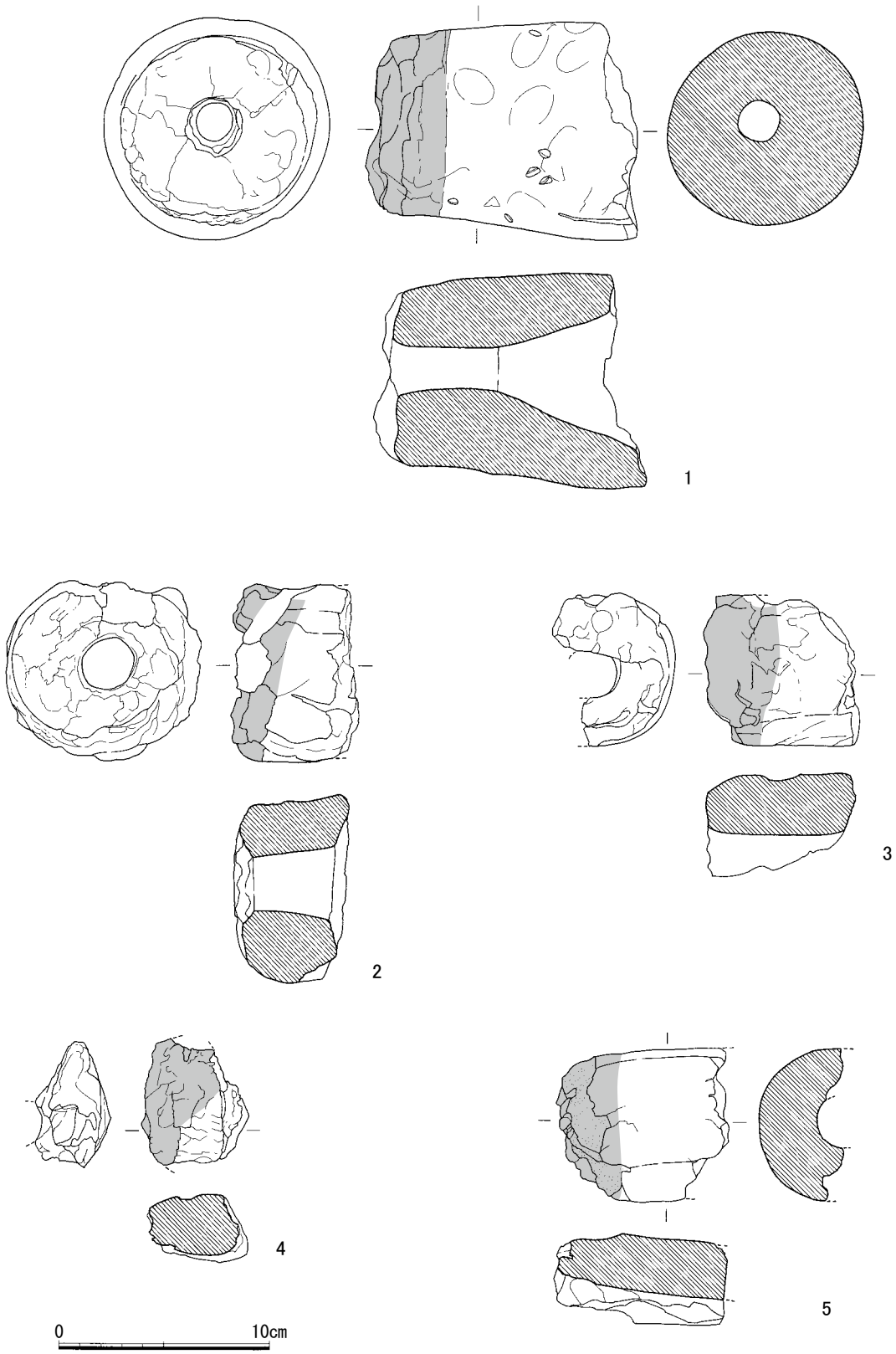


図93　９区包含層他出土羽口（1/3）

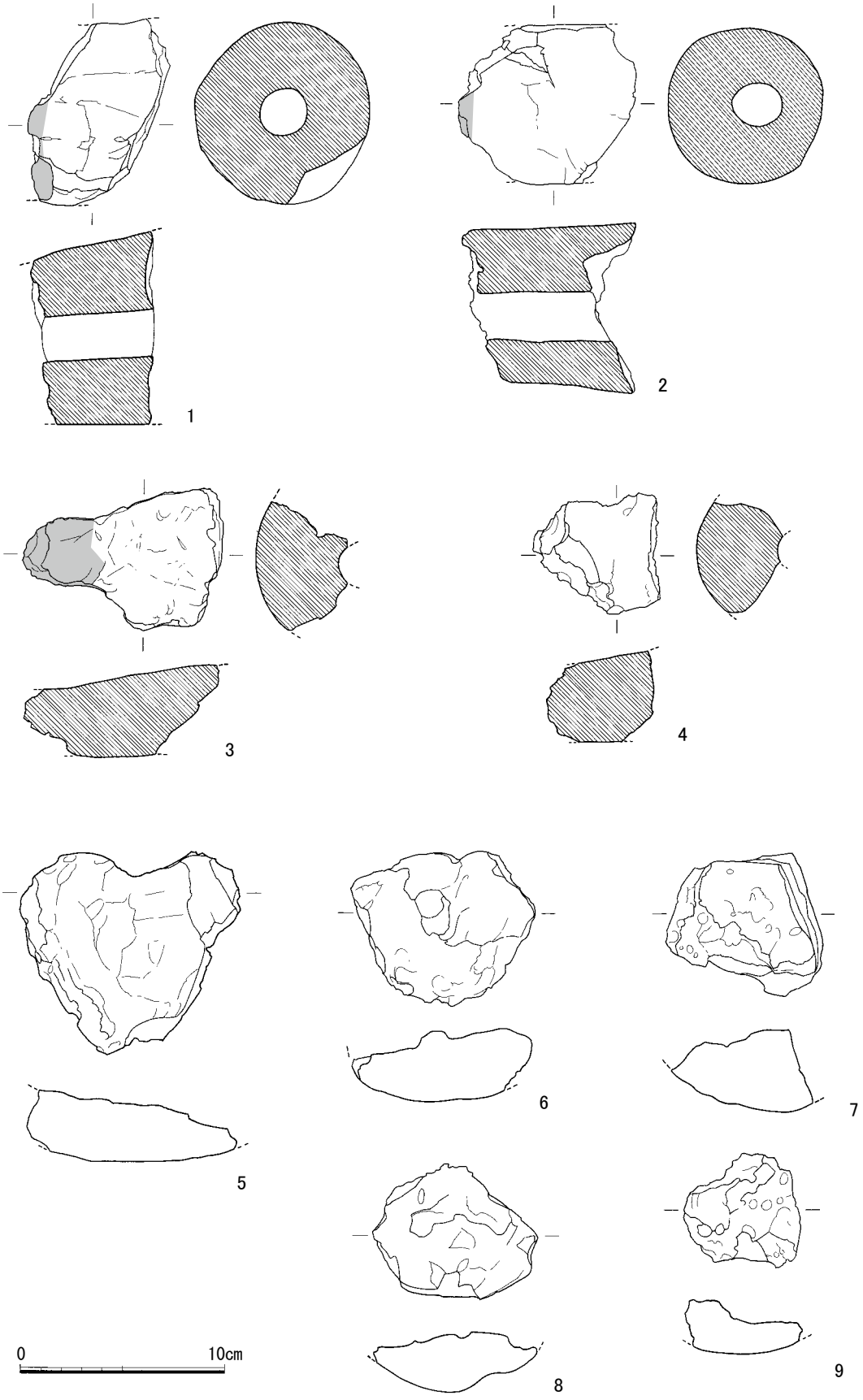


図94　９区包含層他出土羽口・椀形滓（1/3）

表６　９区掘立柱建物跡一覧表

※(　)の値は残存値

遺構番号	区画	規模(桁×梁)	桁(m)		桁主軸(°)	梁(m)		柱穴(m)		床面積(㎡)	出土遺物・備考	年代
			桁全長	柱間		梁全長	柱間	径	深さ			
SB9029	R･S-29	3×2	5.50	1.80～1.90	N21° E	3.60	1.70～1.90	0.50～0.60	0.20～0.40	19.8	柱4有り 弥生土器・土師器	古墳前期
SB9049	R-27	1×1	3.00	3.00	N30° E	1.90	1.90	0.40～0.50	0.20～0.30	5.7	柱4有り 弥生土器	古墳前期
SB9050	R-28	1×1	3.60	3.60	N25° E	3.20	3.20	0.30～0.50	0.20～0.50	11.52	柱3、柱痕1有り 弥生土器	
SB9051	R-27	1×1	2.90～3.10	2.90～3.10	N33° W	2.00	2.00	0.40～0.70	0.10～0.30	6.2	柱3、柱痕1有り 弥生土器	弥生後期
SB9052	R-26･27	1×1	3.50	3.50	N24° W	2.00	2.00	0.30～0.40	0.10～0.20	7.0	柱1有り	
SB9053	R-26	1×1	3.20	3.20	N21° W	2.30	2.30	0.30～0.90	0.10～0.20	7.36	柱1、柱痕1有り	
SB9054	Q-27	1×1	2.10	2.10	N10° E	1.80	1.80	0.30～0.50	0.20～0.30	3.78	柱4(柱痕3)有り	
SB9055	P-27	1×1	2.30	2.30	N47° W	2.10～2.30	2.10～2.30	0.30～0.50	0.10～0.15	4.53	柱1、柱痕3有り	
SB9057	R･S-28	3×1	5.50	1.60～2.50	N15° E	3.60～3.80	3.60～3.80	0.20～0.40	0.10～0.30	19.8	柱痕8有り 弥生土器	古墳前期
SB9058	P-26	1×1	3.10	3.10	N10° E	1.50～1.80	1.50～1.80	0.30～0.70	0.20～0.30	5.58	柱3有り 弥生土器・土師器	古墳前期
SB9059	R-25･26	1×1	3.70	3.70	N16° E	2.50	2.50	0.25～0.60	0.10～0.15	9.25	柱2、柱痕1有り	
SB9060	P-25	1×1	2.80～3.50	2.80～3.50	N68° W	2.00	2.00	0.15～0.30	0.04～0.06	7.0	柱3有り	
SB9061	Q-25	1×1	3.10～3.30	3.10～3.30	N2° E	2.50	2.50	0.10～0.20	0.05～0.20	7.75	柱4有り	
SB9062	Q-24	1×1	2.20～2.40	2.20～2.40	N44° W	1.70～2.00	1.70～2.00	0.20～0.40	0.20～0.40	4.56	柱4有り 弥生土器	弥生後期
SB9063	P･Q-24	1×1	2.80	2.80	N26° E	1.90	1.90	0.50～0.60	0.20～0.30	5.32	柱4有り 弥生土器	弥生後期
SB9064	Q-24	1×1･2	3.80	3.80	N69° W	2.50	1.00～1.50	0.50～0.60	0.20～0.30	9.5	柱5有り	
SB9065	P-24	3×2	5.20～5.40	1.50～2.30	N59° W	3.40	1.70	0.20～0.40	0.15～0.30	17.68	柱5有り 弥生土器・土師器	古墳前期
SB9066	Q･R-24	1×1	2.70～2.90	2.70～2.90	N42° W	1.50～1.60	1.50～1.60	0.30～0.60	0.10～0.30	4.64	柱3有り	
SB9067	O･P-23	3×2	4.80～5.00	1.50～1.80	N11° E	3.50～3.80	1.70～1.90	0.40～0.60	0.25～0.60	19.0	柱痕7有り 弥生土器	弥生後期
SB9069	S-23	1×1	2.60～2.70	2.60～2.70	N18° W	2.10～2.20	2.10～2.20	0.90～1.10	0.20～0.30	5.46	―	
SB9081	Q-21	1×1	3.20～3.40	3.20～3.40	N75° W	1.90～2.20	1.90～2.20	0.60～0.70	0.40～0.50	6.46	柱4有り 弥生土器	古墳前期

表７　９区土坑一覧表

※(　) の値は残存値

遺構番号	調査区	区　画	平面形態	規模（m）			時　　期	備　　考
				長軸	短軸	深さ		
SK9003	9-2	Q-31･32	不整長方形	2.40	1.64	0.36	須玖Ⅰ新～Ⅱ古	
SK9025	9-2	N･O-29	不整楕円形	2.90	2.10	0.74	惣座Ⅱ～夕ヶ里	
SK9037	9-2	O-28	不定形	1.48	1.04	0.24	弥生後期	
SK9044	9-2	O-27	不整楕円形	1.40	0.96	0.20	惣座	
SK9068	9-2	O-26	不整楕円形	2.08	1.64	0.65	弥生後期	
SK9072	9-2	P・Q-25	不定形	2.50	1.38	0.28	弥生後期	
SK9077	9-2	Q-22	円形	2.12	2.08	0.46	夕ヶ里	
SK9080	9-2	O-24	円形	0.90	0.80	0.26	夕ヶ里	
P88	9-2	O-27	楕円形	1.16	0.62	0.72	弥生後期	５つの柱穴、小穴群、破鏡出土
SK9017	9-2	P‐30	円形	0.50	0.45	0.14	奈良	曲物出土

表８　９区木組遺構・環状杭列一覧表

※(　) の数値は残存値

遺構番号	遺構種別	調査区	区　画	平面形態	規模（m）			備　　考
					長軸	短軸	高さ	
SX9033	木組遺構	9-2	N‐30	不明	(1.25)	(1.10)	0.32	
SX9034	木組遺構	9-2	N‐30	長方形	0.55	0.48	0.48	
SX9035	木組遺構	9-2	N‐30	長方形	0.75	0.68	0.48	
SX9041	木組遺構	9-2	N‐29・30	長方形	0.79	0.55	0.50	
SX9045	木組遺構	9-2	N‐30	長方形	0.95	(0.55)	0.38	
SX9046	木組遺構	9-2	N‐30	長方形	0.87	0.56	0.32	
SX9047	木組遺構	9-2	N‐29	長方形	0.82	0.71	0.66	
SX9048	木組遺構	9-2	N‐29	長方形	1.02	0.37	0.58	
SX9070	木組遺構	9-2	N‐26	長方形	0.70	0.48	0.18	
SX9071	木組遺構	9-2	N‐26	不明	(0.90)	(0.60)	0.74	
SX9076	木組遺構	9-2	O‐24	方形	0.76	0.67	0.50	
SA9073	環状杭列	9-2	N‐26	不整円形	(1.50)	(1.30)	-	
SA9074	環状杭列	9-2	N‐26	不整円形	(1.40)	(1.30)	-	
SA9075	環状杭列	9-2	O‐26	隅丸方形	1.60	1.40	-	
SA9083	環状杭列	9-3	M‐28	楕円形	0.90	0.40	0.55	
SA9084	環状杭列	9-3	M‐29	不明	-	-	0.39	
SA9085	環状杭列	9-3	M‐29	不整円形	1.50	(1.30)	0.33	
SA9086	環状杭列	9-3	M‐29	不整円形	(1.40)	(1.10)	0.30	

表９　９区出土甕棺墓一覧表

遺構番号	区画	甕棺形式			棺の埋地		1次墓坑				副葬品	備　考
		合わせ口	上甕	下甕	主軸方位（°）	角度（°）	平面形	規模（m）				
								長軸	短軸	深さ		
SJ9009	P-31･32	覆口	甕	甕	N-73-W	28	楕円形	1.50	1.10	0.45		二次墓壙無し

表10　９区掘立柱建物跡出土土器一覧表

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図42－1	SB9029	P9　埋土	弥生土器	甕	—	残存5.2	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：灰白色 (10YR8/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003392
図42－2	SB9029	P8　埋土	弥生土器	壺	底径 （5.7）	残存2.4	外：にぶい橙色 (7.5YR7/3) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ナデ 内面：ハケ	06003395
図42－3	SB9029	P10　埋土	土師器	台付鉢	—	残存3.7	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003394
図42－4	SB9029	P2　埋土	弥生土器	高杯	—	残存6.2	外：明褐灰色 (7.5YR7/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003391
図42－5	SB9029	P7　埋土	弥生土器	高杯	—	残存4.4	灰白色(10YR8/2)	外面：不明瞭	06003396
図42－6	SB9029	P7　埋土	弥生土器	広口壺	—	残存2.5	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003393
図42－7	SB9058	P1	弥生土器	甕	—	残存2.9	外：褐灰色 (5YR4/1) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003390
図42－8	SB9058	P1	土師器	甕	—	残存4.7	外：にぶい褐色 (7.5YR6/3) 内：褐灰色 (7.5YR4/1)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	06003389

表11　９区土坑出土土器一覧表（１）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図42－9	SK9003	埋土	弥生土器	甕	(24.7)	残存6.4	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003481
図42－10	SK9003	埋土	弥生土器	甕	—	残存6.0	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：不明瞭 内面：ナデ	06003483
図42－11	SK9003	埋土	弥生土器	甕	—	残存4.4	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003484

表12　9区土坑出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図42－12	SK9003	埋土	弥生土器	甕	底径 (8.3)	残存 4.7	外：明褐灰色 (7.5YR7/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003482
図42－13	SK9025	№13・16	弥生土器	甕	(21.1)	残存 19.3	外：褐色 (7.5YR4/3) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	04003475
図42－14	SK9025	№4	弥生土器	甕	(18.3)	残存 9.3	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003509
図43－1	SK9025	№1・12・ 16・17	土師器	甕	(20.5)	残存 27.0	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：橙色 (7.5YR7/6)	外面：胴部上半タタキ後ハケ 内面：胴部ヘラケズリ	06003473
図43－2	SK9025	№3	土師器	甕	16.1	23.2	外：黒色 (10YR2/1) 内：黄褐色 (10YR5/6)	外面：胴上半ハケ, 胴下半タタキ後ハケ 内面：ヘラケズリ	06003513
図43－3	SK9025	№2	土師器	甕	20.0	33.2	外：黒色 (10YR1.7/1) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：タタキ後ハケ 内面：ヘラケズリ	06003512
図43－4	SK9025	№15	土師器	甕	(18.8)	残存 12.2	外：黒色 (10YR2/1) 内：褐色 (10YR4/4)	外面：胴上半タタキ,下半ナデ 内面：ヘラケズリ	06003510
図43－5	SK9025	№16・17・18	土師器	甕	(18.0)	残存 7.4	外：橙色 (7.5YR6/6) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ヘラケズリ	06003511
図44－1	SK9025	№1	土師器	甕	—	残存 16.5	外：黒色 (10YR2/1) 内：褐色 (10YR4/4)	外面：タタキ後ハケ 内面：胴上半ハケ, 下半ヘラケズリ	06003476
図44－2	SK9025	№10・17・18	土師器	甕	—	残存 14.1	外：黒褐色 (2.5Y3/1) 内：黄褐色 (10YR5/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ後ナデ	06003474
図44－3	SK9025	№13・14	土師器	甕	—	残存 12.2	外：暗灰黄色 (2.5Y4/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：胴下半カキケズリ 内面：ハケ	06003477
図44－4	SK9025	№5	土師器	高杯	底径 (16.7)	残存 9.2	外：黒褐色 (10YR3/2) 内：黄灰色 (2.5YR4/1)	円形四方透かし 外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	06003506
図44－5	SK9025	№20	土師器	高杯	—	残存 7.4	黒褐色(10YR2/2)	円形透かし 外面：ナデ 内面：ナデ	06003507

表13　9区土坑出土土器一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図44－6	SK9025		土師器	台付鉢	内径 12.7	残存 5.2	にぶい黄褐色 (10YR5/4)	円形四方透かし 外面：ナデ 内面：ナデ	06003505
図44－7	SK9025	№8	土師器	台付鉢	—	残存 4.6	灰黄褐色 (10YR6/2)	円形四方透かし 外面：ミガキ状 内面：ハケ	06003508
図44－8	SK9025	№2	弥生土器	器台	—	残存 3.6	外：灰黄色 (2.5Y7/2) 内：黄灰色 (2.5Y6/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003514
図44－9	SK9037	埋土	土師器	高杯	—	残存 5.1	灰白色(10YR8/2)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ後ナデ	06003385
図45－1	SK9044		弥生土器	甕	(22.8)	27.6	外：赤褐色 (5YR4/6) 内：黒褐色 (5YR3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003371
図45－2	SK9044	1層	弥生土器	甕	—	残存 4.9	灰褐色(7.5YR6/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003372
図45－3	SK9044		弥生土器	甕	—	残存 5.0	灰褐色(7.5YR4/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003373
図45－4	SK9068	埋土	土師器	甕	—	残存 4.8	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：不明瞭 内面：ナデ	06003487
図45－5	SK9068	埋土	弥生土器	甕	—	残存 3.8	外：にぶい黄褐色 (10YR4/3) 内：暗褐色 (10YR3/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003486
図45－6	SK9068	埋土	弥生土器	甕	—	残存 6.8	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003485
図45－7	SK9072	下層	弥生土器	甕	(20.6)	残存 18.4	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：明黄褐色 (10YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003492
図45－8	SK9072	下層	土師器	高杯	—	残存 6.0	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：橙色 (5YR7/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003491
図45－9	SK9072	下層	土師器	高杯	底径 14.6	残存 7.0	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	円形四方透かし 外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ後ナデ	06003490
図45－10	SK9072	下層	土師器	高杯	—	残存 5.9	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	円形三方透かし 外面：不明瞭 内面：ナデ	06003489
図45－11	SK9072	下層	土師器	高杯	—	残存 7.5	橙色(5YR6/6)	円形四方透かし 外面：ハケ 内面：ハケ	06003488
図46－1	SK9077	下層	弥生土器	甕	17.1	残存 20.9	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003381
図46－2	SK9077	下層	弥生土器	壺	—	残存 16.3	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：タタキ後ミガキ状 内面：ナデ	06003384

表14　９区土坑出土土器一覧表（４）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図46－3	SK9077	下層	土師器	高杯	(21.35)	残存 5.1	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/4)	外面：ミガキ状 内面：ミガキ状	06003382
図46－4	SK9080	埋土	土師器	壺	—	残存 25.7	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ後ミガキ状 内面：ヘラケズリ	06003383

表15　９区溝状遺構出土土器一覧表（１）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図47－1	SD9001	上層　下層	須恵器	杯蓋	(15.4)	残存 1.8	灰色(N5/0)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003310
図47－2	SD9001	M-29 覆土	須恵器	杯蓋	(14.6)	残存 2.0	灰黄色(2.5YR7/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003985
図47－3	SD9001		須恵器	杯蓋	—	残存 1.1	灰色(N4/0)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003311
図47－4	SD9001	上層 包含層	須恵器	杯	(16.5)	6.6	黄灰色(2.5Y6/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003416
図47－5	SD9001	最下層	須恵器 赤焼き	杯	底径 9.0	残存 2.4	橙色(5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003316
図47－6	SD9001		須恵器	皿	底径 (7.4)	残存 1.4	灰色(N5/0)	外面：ケズリ後ナデ 内面：ナデ	06003312
図47－7	SD9001	下層 包含層	須恵器	壺	(17.8)	残存 8.1	灰色(N4/0)	外面：ナデ、タタキ 内面：ナデ、同心円文タタキ	06003308
図47－8	SD9001	P-31 下層 №2	須恵器	杯蓋	11.0	3.6	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：天井部ヘラ切り、体部ナデ 内面：ナデ	06003317
図47－9	SD9001	包含層	須恵器	杯身	(11.8)	残存 3.9	灰色(N4/0)	外面：ナデ、ケズリ 内面：ナデ	06003313
図47－10	SD9001		須恵器	杯身	(11.8)	残存 2.8	灰色(5Y5/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003315
図47－11	SD9001	上層	須恵器	杯身	(11.1)	残存 2.2	灰色(N5/0)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003314
図47－12	SD9001	Q-31 最下層 №1	土師器	杯	12.3	3.5	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：底部回転ヘラ切り、板目痕 内面：ナデ	06003319
図47－13	SD9001	最下層	土師器	杯	底径 7.6	残存 1.6	外：灰黄褐色 (10YR6/2) 内：黒色(N2/0)	外面：底部ナデ 内面：ナデ	06003318
図47－14	SD9001	下層	弥生土器	甕	底径 7.0	残存 6.3	灰白色(2.5Y7/1)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003321

表16　９区溝状遺構出土土器一覧表（２）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図47－15	SD9001	M-29-2 灰褐色細砂	弥生土器	小鉢	(8.6)	4.6	外：黄褐色 (2.5Y5/3) 内：にぶい黄色 (2.5Y6/3)～暗灰黄色(2.5Y5/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	07001971
図47－16	SD9001	P-31 包含層 №5	弥生土器	器台	—	14.3	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	外面：指頭圧痕 内面：ナデ	06003320
図48－1	SD9002	２層	弥生土器	甕	(27.7)	残存 6.9	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003493
図48－2	SD9002		弥生土器	甕	(26.1)	残存 5.4	外：黄橙色 (7.5YR7/8) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003498
図48－3	SD9002		土師器	甕	(16.0)	残存 8.0	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003494
図48－4	SD9002	R-30 １層と ２層の境	弥生土器	甕	底径 8.0	残存 10.1	明褐色(7.5YR5/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：不明瞭	06003462
図48－5	SD9002	２層	弥生土器	甕	—	残存 4.0	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：カキケズリ状 内面：ナデ	06003499
図48－6	SD9002	２層	土師器	甕	(12.2)	残存 5.0	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	06003495
図48－7	SD9002	２層	土師器	甕	(18.4)	残存 6.6	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003496
図48－8	SD9002	３層	土師器	甕	(17.8)	残存 6.4	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	06003497
図48－9	SD9002	３層	土師器	壺	底径 3.8	残存 3.5	橙色(5YR6/8)	外面：ナデ 内面：ナデ、工具痕	06003500
図48－10	SD9002	２層	土師器	高杯	底径 11.9	残存 9.3	外：橙色(5YR6/8) 内：橙色(5YR6/6)	円形三方透かし 外面：ハケ 内面：ハケ	06003504
図48－11	SD9002	３層	土師器	高杯	—	残存 7.7	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	円形四方透かし 外面：ハケ 内面：ナデ	06003412
図48－12	SD9002	Q-30 １層 №7	土師器	鉢	内径 14.0	6.0	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：ナデ、ヘラケズリ 内面：ナデ	06003502
図48－13	SD9002	１層 №12	土師器	鉢	内径 17.2	6.0	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ナデ、ヘラケズリ 内面：ナデ	06003503
図48－14	SD9021	埋土	弥生土器	甕	(19.4)	残存 3.1	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003388
図48－15	SD9021	埋土	弥生土器	甕	—	残存 5.2	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003387

表17　９区溝状遺構出土土器一覧表（３）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図48－16	SD9021	埋土	弥生土器	鉢	—	残存 5.1	灰白色(10YR8/2)	外面：ナデ 内面：ハケ	06003386

表18　９区出土甕棺一覧表

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図49－1	SJ9009 上甕	—	弥生土器	甕棺	—	残存 33.6	外：橙色、にぶい橙色 内：にぶい黄橙色	外面：ナデ、ハケ後ナデ 内面：ナデ（不明瞭）	04003269
図49－2	SJ9009 下甕	—	弥生土器	甕棺	(37.6)	残存 12.8	外：灰黄褐色 内：灰黄褐色	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	04003270
		—			底径 9.0	残存 68.8	外：にぶい黄橙色、一部橙色、黒褐色 内：黄灰色	外面：ハケ、焼成後穿孔、ナデ 内面：ナデ	04003271

表19　９区包含層他出土土器一覧表（１）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図50－1	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(25.4)	32.5	外：にぶい黄褐色(10YR5/3) 内：浅黄橙色(10YR8/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003478
図50－2	９－２	O-24 包含層	弥生土器	甕	(23.6)	残存 4.0	外：にぶい黄橙色(10YR6/3) 内：にぶい黄褐色(10YR5/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003469
図50－3	９－２	包含層	弥生土器	甕	(26.6)	残存 4.8	外：灰白色(10YR8/2) 内：灰白色(2.5Y8/2)	外面：ハケ後ヨコナデ 内面：ナデ	06003467
図50－4	９－２	包含層	弥生土器	甕	(26.9)	残存 4.7	橙色(5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	06003468
図50－5	９－３	N-30-1 6層	弥生土器	甕	(22.3)	残存 6.9	外：にぶい橙色(7.5YR7/4) 内：にぶい橙色(7.5YR7/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	07001995
図50－6	９－２	包含層	弥生土器	甕	(27.8)	残存 5.9	外：にぶい橙色(7.5YR6/4) 内：にぶい褐色(7.5YR6/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：工具ナデ	06003470

表20　9区包含層他出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図50－7	9－3	N-31-1 6層	弥生土器	甕	(32.2)	残存 7.4	外：黄灰色 (2.5Y6/1) 内：灰白色 (2.5Y7/1)	外面：ハケ後ナデ 内面：工具ナデ	07001999
図50－8	9－3	M-31-2 6層	弥生土器	甕	(29.8)	残存 14.8	外：黄灰色 (2.5Y4/1) 内：にぶい黄色 (2.5Y6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	07002001
図51－1	9－2	包含層	弥生土器	甕	(25.6)	残存 8.7	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003472
図51－2	9－3	M-28-1 6層	弥生土器	甕	(23.4)	残存 9.1	外：黄灰色 (2.5Y5/1) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001988
図51－3	9－3	N-31-1 6層	弥生土器	広口壺	(25.4)	残存 3.5	灰黄色(2.5Y7/2)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001997
図51－4	9－3	N-31-1 6層	弥生土器	甕	(23.4)	残存 11.2	外：黒色(5Y2/1) 内：黒褐色 (2.5Y3/1) 灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	07002000
図51－5	9－3	N-31-1 6層	弥生土器	甕	(29.2)	残存 11.9	外：黒色(2.5Y2/1) 内：灰白色 (2.5Y7/1)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001998
図51－6	9－3	M-31-2 6層	弥生土器	甕	(31.4)	残存 8.4	外：褐灰色 (10YR5/1) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	07001993
図51－7	9－2	包含層	弥生土器	甕	(33.2)	残存 8.7	外：にぶい黄褐色 (10YR5/3) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ヨコナデ	06003471
図52－1	9－3	N-21-1 6層	弥生土器	甕	(29.2)	残存 17.8	外：赤褐色 (5YR4/6) 内：暗赤褐色 (5YR3/3) 灰黄褐色 (10YR4/2)	外面：ナデ、ミガキ、丹塗り 内面：ナデ	07002002
図52－2	9－3	N-30-1 6層	弥生土器	甕	底径 8.0	残存 6.2	外：黒褐色 (10YR3/1) 内：黒褐色 (10YR3/2)	外面：ハケ 内面：ナデ、指頭圧痕	07001967
図52－3	9－2	N-26 包含層	弥生土器	壺	底径 6.8	残存 7.3	にぶい黄橙色 (10YR5/3) 一部にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外面：ミガキ状 内面：ナデ	06003297
図52－4	9－3	M-31-2 オリーブ灰色 砂質土	弥生土器	壺	底径 10.2	残存 6.6	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ハケ（不明瞭） 内面：ナデ、指頭圧痕	07001855

表21　９区包含層他出土土器一覧表（３）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図52－5	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	底径 9.5	残存 6.3	灰黄褐色 (10YR4/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003298
図52－6	９－３	N-31-1 6層	弥生土器	甕	底径 (9.6)	残存 11.3	外：褐灰色 (10YR5/1) 内：黒褐色 (10YR3/1)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001966
図52－7	９－２	O-30 包含層	弥生土器	壺	(25.8)	残存 10.2	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：黄灰色 (2.5Y6/1)	外面：ナデ後暗文 内面：ナデ	06003465
図52－8	９－２	O-31 包含層	弥生土器	壺	(32.4)	残存 5.9	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ミガキ、ナデ、刻目、丹塗り 内面：ナデ	04003466
図53－1	９－２	Q-30 包含層	弥生土器	甕	25.7	27.7	外：黒褐色 (2.5Y3/1) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：胴部ハケ、頸部ヨコナデ、丹塗り 内面：工具ナデ	06003326
図53－2	９－２	N-29 包含層	弥生土器	甕	(19.4)	残存 10.9	外：褐灰色 (10YR4/1) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ	06003452
図53－3	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(23.0)	残存 10.5	外：橙色 (7.5YR6/6) 内：橙色 (7.5YR6/6) にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ	06003340
図53－4	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(22.5)	残存 11.3	外：にぶい黄褐色 (10YR5/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ後頸部ヨコナデ 内面：胴部ハケ、口縁部ヨコナデ	06003453
図53－5	９－２	O-26 包含層	弥生土器	甕	(19.8)	残存 17.1	外：黒色 (10YR2/1) 内：黒色 (10YR1.7/1)	外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	06003455
図53－6	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	17.4	残存 7.4	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 橙色(5YR7/6) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ヨコナデ、ハケ 内面：ヨコナデ、ハケ	06003334
図53－7	９－２	O-24 包含層	弥生土器	甕	(14.3)	残存 9.2	外：にぶい赤褐色 (2.5YR5/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ヨコナデ、ハケ 内面：ヨコナデ、ハケ	06003306
図53－8	９－２	O-24 包含層	弥生土器	甕	(19.2)	残存 10.4	外：黒褐色 (10YR3/1) 内：にぶい黄褐色 (10YR4/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003429
図54－1	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(23.6)	残存 21.2	黒褐色(10YR3/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003397

表22　９区包含層他出土土器一覧表（４）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図54－2	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(16.3)	残存 11.0	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003399
図54－3	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(22.5)	残存 10.0	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003336
図54－4	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(21.9)	残存 18.1	外：黒色(N2/0) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003260
図54－5	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(24.2)	残存 14.5	外：黒褐色 (10YR2/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR4/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003450
図54－6	９－３	M-28-2 5-2 層	弥生土器	甕	(22.3)	残存 12.95	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：黒褐色 (10YR3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001978
図54－7	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(23.9)	残存 11.7	外：暗褐色 (10YR3/4) 内：明赤褐色 (5YR5/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003451
図54－8	９－２	N-27 包含層	弥生土器	甕	(22.3)	残存 10.7	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3)～にぶい橙色(7.5YR7/3) 内：にぶい橙色 (5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003454
図55－1	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(22.05)	31.95	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) にぶい褐色 (7.5YR5/4) 灰褐色(7.5YR4/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/4)	外面：上半ハケ、下半カキケズリ後ナデ 内面：ハケ	06003263
図55－2	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(21.9)	残存 25.9	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003439
図55－3	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(22.6)	残存 11.9	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003430
図55－4	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(27.2)	残存 21.7	灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ後カキケズリ 内面：ハケ	06003442
図55－5	９－２	O-31 包含層	弥生土器	甕	19.5	残存 17.7	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003323
図55－6	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(26.1)	残存 13.0	外：灰褐色 (7.5YR4/2) 内：にぶい褐色 (5YR4/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003332
図56－1	９－２	N-29 包含層	弥生土器	甕	(32.9)	残存 22.7	橙色(5YR6/5)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003266
図56－2	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(25.0)	残存 23.6	黒褐色(10YR3/2)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	06003457
図56－3	９－２	O-26 包含層	弥生土器	甕	(22.8)	残存 19.6	外：橙色 (2.5YR6/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003303

表23　９区包含層他出土土器一覧表（５）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図57－1	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(27.0)	残存 15.1	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003265
図57－2	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	16.1	残存 11.0	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：タタキ後ハケ 内面：ハケ	06003328
図57－3	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(18.4)	残存 9.4	外：黒褐色 (10YR2/1) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	06003431
図57－4	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(19.0)	残存 10.1	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	06003400
図57－5	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(23.7)	残存 18.0	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003339
図57－6	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(23.05)	残存 15.3	外：黒褐色 (10YR3/2) 内：黒褐色 (10YR3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003262
図57－7	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	(21.4)	残存 9.0	外：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 褐灰色(7.5YR4/1) 内：灰褐色 (7.5YR4/2) にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003261
図57－8	９－２	O-26 包含層	弥生土器	甕	(19.4)	残存 6.0	外：黒色 (10YR7/1) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003304
図58－1	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	(19.75)	残存 17.05	外：にぶい黄褐色 (10YR5/3) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ 内面：ハケ 頸部：指頭圧痕	06003246
図58－2	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	14.3	残存 12.5	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003443
図58－3	９－２	N-29 包含層	弥生土器	直口壺	(16.4)	残存 12.4	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい褐色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003428
図58－4	９－３	M-29-2 6 層	弥生土器	壺	(11.0)	残存 5.1	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001972
図58－5	９－２	O-26 包含層	弥生土器	甕	—	残存 6.4	外：灰黄褐色 (10YR4/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：タタキ 内面：ナデ	08003769
図58－6	９－２	O-26 包含層	弥生土器	甕	—	残存 13.6	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003307

表24　９区包含層他出土土器一覧表（６）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図58－7	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	(35.2)	残存 14.2	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：口縁部ナデ、胴部ハケ 内面：口縁部ハケ、胴部ナデ	06003268
図58－8	９－２	N-29 包含層	弥生土器	壺 (底部)	底径 6.9	残存 5.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：黄灰色 (2.5Y4/1)	外面：ナデ 内面：工具ナデ	06003295
図58－9	９－３	M-29-2 6 層	弥生土器	甕 (底部)	底径 3.5	残存 4.3	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	07001968
図58－10	９－３	M-28-2 5-2 層	弥生土器	甕 (底部)	底径 6.1	残存 6.55	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001981
図59－1	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕 (底部)	—	残存 11.8	黄橙色(7.5YR7/8)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003432
図59－2	９－２	N-29	弥生土器	甕 (底部)	底径 6.0	残存 6.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ハケ後ナデ	06003299
図59－3	９－３	M-28-2 5-2 層	弥生土器	甕	底径 6.85	残存 5.6	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ後ナデ	07001986
図59－4	９－２	O-25 包含層	弥生土器	甕	底径 5.4	残存 10.5	外：黒褐色 (10YR3/2) 内：黒褐色 (10YR2/2)	外面：工具ナデ 内面：ナデ	06003456
図59－5	９－２	N-26 包含層	弥生土器	壺 (底部)	底径 (8.2)	残存 7.5	灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：粗ハケ 内面：ナデ	06003296
図59－6	９－２	N-26 包含層	弥生土器	甕	—	残存 12.1	黒褐色(7.5YR3/2)	外面：ハケ 内面：不明瞭	06003331
図59－7	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕 (底部)	—	残存 13.5	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	06003302
図59－8	９－２	O-25	弥生土器	甕	—	残存 10.5	褐色(7.5YR4/3)	外面：カキケズリ、ハケ 内面：ハケ、ナデ	06003294
図59－9	９－３	M-30・31-1 5-2 層	弥生土器	甕	—	残存 6.7	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001942
図59－10	９－２	N-28 包含層	弥生土器	甕	—	残存 21.2	外：黒色 (10YR2/1) 内：褐色 (7.5YR4/4)	外面：カキケズリ 内面：ハケ	06003464

表25　9区包含層他出土土器一覧表（7）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図60－1	9－3	N-31-1 6層	弥生土器	台付甕	底径 12.95	残存 7.75	外：褐灰色 (7.5YR5/1) 内：灰色(7.5Y5/1)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001852
図60－2	9－2	N-26 包含層	弥生土器	台付甕	底径 13.3	残存 5.9	灰黄褐色 (10YR4/2)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	06003458
図60－3	9－3	M-29-2 5-2層	弥生土器	台付甕	—	残存 6.0	外：灰白色 (10YR8/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001938
図60－4	9－2	N-28 包含層	弥生土器	台付甕	底径 11.4	残存 4.1	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ	06003459
図60－5	9－3	M-29-1 5-2 黒色細砂層	弥生土器	台付甕	底径 8.8	残存 4.7	灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001935
図60－6	9－3	N-31-1 6層	弥生土器	台付甕	底径 6.8	残存 6.5	外：黒褐色 (5YR2/1) 内：灰褐色 (7.5YR5/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	07001851
図60－7	9－2	O-31 包含層	土師器	甕	21.4	残存 8.1	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ後ナデ	06003338
図60－8	9－2	N-28 包含層	弥生土器	甕	(18.4)	残存 9.4	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	06003398
図60－9	9－2	N-28 包含層	土師器	甕	(17.4)	残存 6.2	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	06003330
図60－10	9－2	N-27 包含層	土師器	甕	15.7	残存 9.2	橙色(5YR6/6)	外面：ハケ、ナデ 内面：ヘラケズリ、ナデ	06003433
図60－11	9－2	N-28 包含層	土師器	甕	(21.6)	残存 12.3	外：にぶい橙色 (7.5YR7/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：回転ナデ、ハケ 内面：回転ナデ、ヘラケズリ	06003248
図60－12	9－3	M-29-2 5-2層	土師器	甕	(18.6)	残存 5.0	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	07001977
図60－13	9－2	O-26 包含層	土師器	甕	15.2	26.6	橙色(7.5YR6/6)	外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06003322
図60－14	9－2	N-28 包含層	土師器	甕	(19.5)	残存 20.3	にぶい赤褐色 (5YR5/3)	外面：ハケ後タタキ、ナデ 内面：ハケ後ナデ、ヘラケズリ	06003427
図61－1	9－2	N-26 包含層	土師器	甕	—	残存 9.0	浅黄色(2.5Y7/3)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ	06003435
図61－2	9－2	N-26 包含層	土師器	甕	(18.5)	残存 9.4	外：淡橙色 (5YR8/4) にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ、タタキ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06003254

表26　9区包含層他出土土器一覧表（8）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図61－3	9－2		土師器	甕	(17.0)	残存 5.9	外：にぶい橙色 (2.5YR6/4) にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：灰褐色 (5YR6/2)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ	06003251
図61－4	9－2	N-27 包含層	土師器	甕	(17.45)	残存 6.25	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：タタキ 内面：ナデ	06003257
図61－5	9－2	N-28 包含層	土師器	甕	(15.4)	残存 4.4	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：タタキ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06003250
図61－6	9－2	N-28 包含層	土師器	甕	(19.9)	残存 7.8	外：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ 後ナデ	06003255
図61－7	9－2	N-26 包含層	土師器	甕	(14.35)	残存 3.15	灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ 後ナデ	06003258
図61－8	9－3	M-27-2 5-2 層	弥生土器	甕	(16.0)	残存 5.1	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面：タタキ 内面：ナデ	07001979
図61－9	9－2	包含層	土師器	甕	—	残存 7.7	外：灰白色 (2.5Y7/1) 内：灰白色 (10YR8/2)	外面：タタキ 内面：ハケ、ヘラケズリ	06003253
図61－10	9－2	N-28 包含層	弥生土器	甕	(14.0)	残存 9.3	外：にぶい褐色 (7.5YR6/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：タタキ 内面：ナデ後ミガキ、タタキ、指頭圧痕	06003256
図61－11	9－2	N-26 包含層	土師器	甕	(15.2)	残存 5.05	外：灰黄褐色 (10YR6/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：回転ナデ、ハケ 内面：ヘラケズリ	06003247
図61－12	9－3	M-28-2 5-2 層	土師器	甕	(19.4)	残存 15.2	外：橙色(10YR7/6) 黒褐色(2.5Y3/1) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ 内面：不明瞭	07001983
図62－1	9－2	N-26 包含層	土師器	甕	(19.5)	残存 8.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ、ナデ	06003249
図62－2	9－2	N-28 包含層	土師器	甕	(15.6)	残存 7.0	灰白色(2.5Y8/2)	外面：ハケ 内面：ハケ、ヘラケズリ	06003327
図62－3	9－2	O-25 包含層	土師器	甕	(17.6)	残存 7.4	外：黒色(2.5Y2/1) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ、ナデ 内面：ヘラケズリ	06003341
図62－4	9－2	Q-29・30 P-30 下層	土師器	甕	(17.7)	残存 5.0	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06003342

表27　９区包含層他出土土器一覧表（９）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図62－5	９－２	N-29 包含層	土師器	甕	—	残存 11.8	外：灰黄色 (2.5Y6/2) にぶい橙色 (7.5YR7/3) 内：灰黄色 (2.5Y7/2)	外面：ハケ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06003329
図62－6	９－２	O-25 包含層	土師器	甕	(15.7)	残存 7.0	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 黒色(N1.5/0) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	06003259
図62－7	９－３	M-28-2 5-2 層	弥生土器	甕	16.5	34.6	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003959
図63－1	９－２	Q-29 最下層	弥生土器	壺	(20.4)	残存 32.6	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003325
図63－2	９－２	N-28 包含層	弥生土器	広口壺	17.9	残存 17.3	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003516
図63－3	９－２	N-28 包含層	土師器	広口壺	19.4	残存 18.6	外：浅黄橙色 (7.5YR8/4)～橙色 (5YR6/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	06003515
図63－4	９－２	Q-29・30 P-30 下層 Q-29 最下層	弥生土器	壺	20.3	33.5	にぶい黄橙色 (10YR6/3) 橙色(2.5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	08000502
図63－5	９－２	N-28 包含層	土師器	広口壺	19.4	29.9	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ、ハケ 内面：ハケ後ナデ、ヘラケズリ	06003444
図64－1	９－３	N-31-1 6 層	弥生土器	壺	(25.2)	残存 20.0	外：灰黄色 (2.5Y6/2) オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 内：黄灰色 (2.5Y6/1)	外面：ナデ、ハケ 内面：ハケ、ナデ	07002003
図64－2	９－２	O-25 包含層	弥生土器	壺	22.8	残存 7.2	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：頸部ハケ 内面：頸部ナデ	06003305
図64－3	９－３	N-31-1・2 5-2 層	弥生土器	壺	(20.8)	残存 5.1	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ後ナデ	07001980
図64－4	９－２	N-27 包含層	土師器	壺	(16.9)	6.6	黒褐色(10YR3/1) 灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ	06003335
図64－5	９－２	N-28 包含層	土師器	広口壺	(17.2)	残存 7.0	灰黄色(2.5Y6/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003441
図64－6	９－２	Q-30 包含層	土師器	広口壺	(15.7)	残存 7.0	浅黄色(2.5Y7/3)	外面：ハケ、ナデ後ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ、ヘラケズリ	06003436
図64－7	９－２	N-29 包含層	土師器	広口壺	19.2	残存 8.0	褐灰色(10YR4/1) にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ、ハケ	06003434

表28　９区包含層他出土土器一覧表（10）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図64 - 8	9 - 2	O-25 包含層	土師器	広口壺	(20.8)	残存 10.4	外：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：胴部ハケ、頸部ヘラミガキ 内面：胴部ヘラケズリ後ナデ	06003517
図64 - 9	9 - 3	M-29-2 6層	土師器	甕	14.35	21.3	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	07001959
図64 - 10	9 - 2	N-28 包含層	弥生土器	甕	—	残存 9.4	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ、櫛描列点文 内面：ハケ	06003267
図65 - 1	9 - 3	M-24-2 5-2 層	弥生土器	不明 (蓋？)	(13.4)	3.85	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001943
図65 - 2	9 - 3	M-29-1 6層	弥生土器	壺	10.7	15.8	灰黄色(2.5Y7/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001960
図65 - 3	9 - 2	N-26 包含層	弥生土器	壺	(12.0)	16.0	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003333
図65 - 4	9 - 3	M-28-1 6層	弥生土器	壺	(12.8)	残存 10.6	外：橙色(5YR6/4) 灰褐色(7.5YR6/2) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	07001974
図65 - 5	9 - 3	M-30-2 5-2 層	弥生土器	壺	(12.8)	残存 14.0	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) にぶい橙色 (7.5YR7/4) 黒色(10YR2/1) 内：にぶい黄橙色	外面：ハケ、ミガキ 内面：ハケ	07001987
図65 - 6	9 - 2	P88 埋土	弥生土器	壺	(10.4)	残存 14.0	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 黒色(7.5YR1.7/1) 内：黒色 (7.5YR1.7/1)	外面：ハケ、ハケ後ナデ 内面：ハケ	06003280
図65 - 7	9 - 3	M-29-1 6層 オリーブ砂質土	弥生土器	壺	(9.7)	残存 10.4	橙色(5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001976
図65 - 8	9 - 2	N-28 包含層	弥生土器	壺	(13.2)	残存 5.8	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ、ナデ 内面：口ヨコナデ、胴部ハケ、指頭圧痕	06003440
図65 - 9	9 - 3	M-28-1 6層	弥生土器	壺	(10.1)	残存 6.0	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	07001973
図66 - 1	9 - 2	O-30 落ち込み 下層	弥生土器	袋状口縁壺	16.6	残存 13.9	外：灰白色(10YR7/2) にぶい橙色(2.5YR6/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	06003291
図66 - 2	9 - 3	M-29-1 6層	弥生土器	二重口縁壺	28.0	残存 4.7	外：灰褐色 (7.5YR6/2) 内：にぶい赤褐色 (2.5YR4/4)	外面：ハケ後ヨコナデ 内面：ナデ、ハケ	07001991
図66 - 3	9 - 2	N-29 包含層	弥生土器	二重口縁壺	(20.0)	残存 2.4	黒褐色(2.5Y3/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003437

表29　９区包含層他出土土器一覧表（11）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図66－4	９－２	N-28 包含層	土師器	二重口縁壺	(12.7)	残存 5.7	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	06003438
図66－5	９－２	SK9025 №4	弥生土器	壺	—	残存 4.5	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ、刻目 内面：ハケ	08003771
図66－6	９－２	O-24 包含層	弥生土器	二重口縁壺	—	残存 3.8	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：櫛描波状文、円形浮文 内面：ナデ	08003768
図66－7	９－２	N-29 包含層	弥生土器	二重口縁壺	32.8	12.5	外：灰オリーブ色 (5Y5/2)～灰色 (5Y6/1) 内：灰オリーブ色 (5Y5/2)～暗灰黄色 (2.5Y5/2)	外面：刻目、櫛描波状文、ハケ 内面：ミガキ	08003767
図66－8	９－２	SD9002 Q-30 1 層	弥生土器	二重口縁壺	(42.4)	残存 12.1	外：橙色(5YR7/5) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：竹管文 内面：ナデ	04000043
図66－9	９－２	O-25 包含層	弥生土器	高杯	底径 (21.4)	残存 3.85	外：にぶい黄色 (2.5Y6/3) 内：灰黄色 (2.5Y6/2)	外面：ミガキ後刺突による葉状列点文 内面：ナデ	04000039
図66－10	９－２	O-25 包含層	弥生土器	高杯	—	残存 4.9	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ミガキ 内面：ハケ後刺突による葉状列点文	08003770
図67－1	９－２	N-28 包含層	土師器	二重口縁壺	20.2	29.1	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ後ミガキ 内面：ヘラケズリ	06003445
図67－2	９－２	N-28 包含層	弥生土器	壺	(23.2)	残存 21.8	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003300
図67－3	９－２	O-26 包含層	弥生土器	鉢	(21.8)	残存 12.7	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/4)	外面：ハケ 内面：工具ナデ	06003301
図68－1	９－３	M-29-1 6 層	弥生土器	鉢	(22.4)	残存 8.2	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001990
図68－2	９－２	R-28 包含層	弥生土器	鉢	(20.0)	残存 11.5	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：カキケズリ	06003463
図68－3	９－２	O-31 包含層	弥生土器	鉢	(16.0)	8.8	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ、カキケズリ 内面：ナデ	06003293
図68－4	９－２	N-28 包含層	弥生土器	鉢	(10.8)	9.7	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003286

表30　９区包含層他出土土器一覧表（12）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図68－5	９－２	N-28 包含層	土師器	鉢	10.0	9.0	にぶい黄橙色 (10YR5/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003285
図68－6	９－２	N-27 包含層	弥生土器	鉢	(11.1)	残存 8.6	外：橙色(5YR6/6) 内：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	06003289
図68－7	９－２	N-26 包含層	弥生土器	鉢	(9.7)	残存 8.2	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ、ナデ 内面：口縁部ハケ、胴部ナデ	06003288
図68－8	９－３	M-28-1 5-2層 黒色細砂	弥生土器	鉢	(10.4)	残存 6.8	外：黒褐色(7.5YR3/1)～ 暗灰黄色(2.5Y5/2) 内：灰黄色(2.5Y7/2)	外面：ハケ 内面：ハケ、ケズリ	07001975
図68－9	９－２	N-26 包含層	弥生土器	鉢	8.5	10.1	にぶい黄橙色 (10YR6/3) 明赤褐色 (2.5YR5/6)	外面：ハケ後ミガキ 内面：ミガキ	06003282
図68－10	９－２	N-26 包含層	弥生土器	鉢	14.9	13.4	外：橙色(5YR6/6) 内：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003281
図68－11	９－２	O-31 包含層	弥生土器	深鉢	17.3	17.0	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：工具ナデ	06003324
図68－12	９－３	M-25-1 5層	弥生土器	深鉢	(15.75)	13.1	にぶい黄橙色(10YR6/3) 外面一部黒褐色 (10YR3/1)	外面：ケズリ 内面：ハケ、ケズリ	07001856
図69－1	９－３	M-28-2 5-2層	弥生土器	鉢	(20.2)	残存 10.9	外：黒褐色 (7.5YR3/1) 内：灰黄褐色 (10YR4/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001985
図69－2	９－３	M-31-2 6層	弥生土器	鉢	(14.8)	7.2	外：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 内：暗灰黄色 (2.5Y5/2) 黒褐色(2.5Y3/2)	外面：ハケ 内面：指頭圧痕	07001969
図69－3	９－２	O-26 包含層	弥生土器	鉢	(13.8)	6.5	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ミガキ 内面：ナデ、ミガキ	06003408
図69－4	９－３	M-29-2 6層	弥生土器	鉢	(14.5)	残存 7.0	外：浅黄橙色 (7.5YR8/6) 内：橙色 (7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001970
図69－5	９－２	K-28 包含層	土師器	鉢	17.4	6.8	黒褐色(2.5Y3/1) 褐灰色(10YR6/1)	外面：ヘラケズリ後ミガキ 内面：ハケ後ミガキ	06003370
図69－6	９－２	N-29 包含層	土師器	台付鉢	(16.5)	8.2	外：灰白色 (5Y7/1) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ、ナデ	06003460
図69－7	９－２	O-26 包含層	土師器	鉢	13.4	6.2	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ヘラケズリ 内面：工具ナデ	06003369
図69－8	９－２	W-28 包含層	土師器	鉢	14.0	4.4	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003283

表31　９区包含層他出土土器一覧表（13）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図69－9	9－2	N-28・29包含層	土師器	鉢	13.3	残存5.1	外：灰白色(2.5Y7/1) 内：にぶい黄橙色(10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ケズリ状	06003284
図69－10	9－2	N-28包含層	土師器	鉢	(10.1)	6.0	にぶい黄橙色(10YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003290
図69－11	9－2	Q-30流路最下層№15	土師器	鉢	9.2	5.6	黒褐色(10YR3/2)	外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	06003405
図69－12	9－2	O-26包含層	土師器	鉢	7.1	4.5	にぶい赤褐色(2.5YR5/3)	外面：ナデ 内面：工具ナデ	06003409
図69－13	9－2	O-25包含層	弥生土器	ミニチュア土器	5.0	6.1	灰黄褐色(10YR5/2)	外面：指頭圧痕	09003004
図69－14	9－2	O-31包含層	弥生土器	ミニチュア土器	5.9	6.4	暗灰黄色(2.5Y5/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003403
図69－15	9－3	M-28-1 6層	弥生土器	鉢	(8.0)	残存8.9	黒褐色(2.5YR3/1)	外面：指頭圧痕 内面：指頭圧痕	07002004
図69－16	9－3	M-30-2 5-2層	弥生土器	鉢	底径3.6	残存5.2	外：黒褐色(10YR3/1) 内：灰黄褐色(10YR5/2)	外面：ミガキ 内面：ナデ	07001937
図69－17	9－2	N-28包含層	弥生土器	鉢	7.1	9.5	にぶい黄橙色(10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003287
図70－1	9－2	N-28包含層	土師器	台付鉢	19.4	17.6	にぶい橙色(7.5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003407
図70－2	9－3	M-30-2 5-2層下部	弥生土器	台付鉢	—	残存8.35	にぶい橙色(5YR7/4) にぶい黄橙色(10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	07001939
図70－3	9－2	O-24包含層	土師器	台付鉢	(16.0)	残存8.1	にぶい黄褐色(10YR5/4)	外面：ナデ 内面：ミガキ	06003406
図70－4	9－2	O-30・31包含層	土師器	台付鉢	10.0	9.4	にぶい橙色(7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ナデ、指頭圧痕	06003404
図70－5	9－2	N-26包含層	土師器	台付鉢	(11.9)	9.6	灰黄褐色(10YR5/2)	外面：ハケ 内面：ミガキ	06003402
図70－6	9－2	N-26包含層	弥生土器	甕	底径7.1	残存11.7	外：にぶい橙色(7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙色(10YR6/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003461
図70－7	9－2	O-30包含層	弥生土器	壺	底径5.4	残存9.8	にぶい赤褐色(5YR5/4)	外面：ハケ 内面：不明瞭	06003292
図70－8	9－3	N-31-1オリーブ灰色砂質土	弥生土器	小壺	底径5.85	残存11.3	外：暗灰黄色(2.5Y5/2) 内：黄灰色(2.5Y4/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	07001853
図70－9	9－2	N-26包含層	弥生土器	小壺	底径5.5	残存11.0	暗灰黄色(2.5Y5/2)	外面：上半ナデ、下半ケズリ 内面：ナデ、指頭圧痕	06003279
図70－10	9－2	P-30包含層	土師器	小型器台	10.8	9.7	にぶい黄橙色(10YR6/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003401

表32　９区包含層他出土土器一覧表（14）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図70－11	９－２	N-27 包含層	土師器	小型器台	底径 11.8	残存 6.5	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：不明瞭 円孔 三方透かし	06003347
図71－1	９－３	N-30-1 6 層	弥生土器	高杯	(28.5)	残存 4.0	外：にぶい黄褐色 (10YR7/3) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ、ミガキ	07001996
図71－2	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	32.4	残存 7.4	灰黄褐色 (10YR5/2)	外面：ハケ、ミガキ 内面：ハケ後ミガキ	06003449
図71－3	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	(31.1)	残存 8.5	外：にぶい褐色 (7.5YR6/3) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ後ミガキ 内面：ミガキ	06003448
図71－4	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	23.7	残存 6.7	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい橙色 (7.5YR5/4)	外面：ミガキ 内面：ミガキ	06003447
図71－5	９－３	M-30-2 N-30-1 5-2 層	弥生土器	高杯	—	残存 12.9	外：橙色 (2.5YR7/6) 内：橙色 (2.5YR6/2)	外面：ハケ 内面：不明瞭 円形三方透かし	07001940
図71－6	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	—	残存 10.0	外：灰褐色 (5YR5/2) 内：にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ナデ 円形三方透かし	06003349
図71－7	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	底径 (14.6)	残存 12.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：灰褐色 (7.5YR4/2)	外面：ハケ、ミガキ 内面：ハケ 円形四方透かし	06003348
図71－8	９－２	O-25 包含層	弥生土器	高杯	底径 (13.2)	残存 8.6	外：にぶい黄褐色 (10YR5/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ナデ 円形四方透かし	06003346
図71－9	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	底径 (15.6)	残存 16.3	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ 円形四方透かし	06003345
図71－10	９－２	N-26 包含層	土師器	高杯	底径 14.1	残存 9.0	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ミガキ 内面：ハケ 円形三方透かし	06003344
図71－11	９－３	M-28-1 黒褐色細砂	弥生土器	高杯	底径 15.6	残存 10.65	橙色(5YR7/6) 灰褐色(7.5YR6/2)	外面：ハケ 内面：ハケ 円形三方透かし	07001984
図71－12	９－２	N-26 包含層	弥生土器	高杯	底径 14.3	残存 11.0	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ 円形三方透かし	06003343

表33　9区包含層他出土土器一覧表（15）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図72－1	9－2	N-28 包含層	土師器	高杯	22.5	15.5	橙色(7.5YR7/6)	外面:ハケ後ナデ、ハケ 内面:ハケ後ナデ、ハケ 円形四方透かし	06003410
図72－2	9－2	N-26 包含層	土師器	高杯	(17.0)	残存 8.9	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	外面：ナデ 内面：ナデ 円形透かしあり	06003413
図72－3	9－2	N-28 包含層	土師器	高杯	(21.4)	残存 7.0	外：にぶい褐色 (7.5YR6/3) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ後ミガキ、ハケ後ナデ 内面：ハケ後ミガキ、ミガキ	06003351
図72－4	9－3	M-29-2 6 層	土師器	高杯	(23.0)	残存 4.7	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：灰褐色 (7.5YR5/2)	外面：ハケ後ミガキ 内面：ミガキ	09001992
図72－5	9－3	M-29-2 5-2 層	土師器	高杯	(35.4)	残存 10.75	外：浅黄橙色 (7.5YR8/6) 内：橙色(5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	07001944
図72－6	9－2	N-28 包含層	土師器	高杯	—	残存 9.0	橙色(7.5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ、ナデ 円孔 四方透かし	06003411
図72－7	9－2	N-27 包含層	土師器	高杯	—	残存 7.5	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ナデ、絞り痕	06003414
図72－8	9－3	M-29-1 5-2 層	土師器	高杯	—	残存 5.5	にぶい黄橙色 (10YR7/2) オリーブ黒色 (5Y3/1)	外面：不明瞭 内面：不明瞭	07001936
図72－9	9－2	N-24 包含層	土師器	台付鉢	—	残存 6.4	外：にぶい赤褐色 (5YR5/4) 内：にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：工具ナデ、ミガキ 内面：ナデ	06003350
図72－10	9－2	N-26 包含層	土師器	台付鉢	—	残存 4.5	外：明褐灰色 (7.5YR7/2) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：工具ナデ 内面：ハケ	06003352
図73－1	9－2	O-30 包含層	弥生土器	器台	—	18.5	外：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	06003355
図73－2	9－2	O-25 包含層	弥生土器	器台	—	17.8	暗褐色(10YR3/3)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	06003359
図73－3	9－2	O-25 包含層	弥生土器	器台	—	残存 12.0	褐色(7.5YR4/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003357
図73－4	9－2	N-27 包含層	弥生土器	器台	—	残存 10.5	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003274
図73－5	9－2	N-27 包含層	弥生土器	器台	—	残存 12.0	にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：ナデ、指頭圧痕	06003275
図73－6	9－2	O-31 包含層	弥生土器	器台	—	残存 9.0	灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ナデ、工具押さえ	06003360
図73－7	9－2	P-32 包含層 №3	弥生土器	器台	—	残存 13.4	にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：ハケ後指押さえ 内面：ナデ、指押さえ	06003271
図73－8	9－2	O-31 包含層	弥生土器	器台	—	16.1	灰黄色(2.5Y6/2)	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：ナデ	06003353

表34　９区包含層他出土土器一覧表（16）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図73－9	９－３	M-31-2 5-2 層	弥生土器	器台	—	残存 10.0	外：にぶい黄褐色 (10YR6/4) 内：褐色(7.5YR4/3)	外面：指頭圧痕 内面：ナデ	07001941
図73－10	９－２	O-25 包含層	弥生土器	器台	—	11.0	褐色(7.5YR4/3)	外面：指頭圧痕、 ハケ後ナデ 内面：ナデ	06003354
図73－11	９－２	O-25 包含層	弥生土器	器台	—	9.8	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003358
図73－12	９－２	N-27 包含層	弥生土器	器台	—	10.2	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ナデ後指押さえ 内面：受部ハケ	06003272
図73－13	９－２	O-30 包含層	弥生土器	器台	—	10.2	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：灰黄褐色 (10YR6/2) にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：ナデ	06003356
図74－1	９－２	N-25 包含層	弥生土器	器台	—	12.0	にぶい黄橙色 (10YR5/4)	外面：ナデ、指押さえ	06003269
図74－2	９－２	包含層	弥生土器	器台	—	9.9	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ、指頭圧痕	06003270
図74－3	９－２	包含層	弥生土器	器台	—	8.9	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	06003276
図74－4	９－２	N-26 包含層	弥生土器	支脚	—	7.1	にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：指頭圧痕 内面：ナデ	06003273
図74－5	９－３	M-31-2 6 層	弥生土器	支脚	—	残存 7.5	灰黄褐色(10YR5/2) 褐灰色(10YR4/1) 部分的に黒褐色	外面：指頭圧痕	06004000
図74－6	９－２	P-24 O-24・25 包含層	須恵器	壺	—	残存 16.0	灰色(N6/0)	外面：回転ナデ、 波状文 内面：ナデ、回転ナデ、自然釉	06003365
図74－7	９－２	O-24 包含層	須恵器	壺	11.8	17.0	灰色(N6/0)	外面：回転ナデ、 波状文、櫛描文 内面：ナデ	06003361
図74－8	９－２	N-26 包含層	須恵器	高杯	(16.3)	残存 6.2	外：灰色(N4/0) 内：灰白色(N7/0)	外面：波状文、回転ヘラケズリ 内面：ナデ、自然釉	06003380
図74－9	９－２	Q-29 流路 下層 №16	須恵器	杯蓋	12.3	3.55	外：暗緑灰色 (7.5GY) 内：灰色(N4/0)	外面：天井部ヘラ切り離し後ナデ、 回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	06003376
図74－10	９－２	Q-29 流路 下層 №14	須恵器	杯蓋	11.5	3.8	外：灰色(N6/0) 暗灰色(N3/0) 内：灰色(N6/0)	外面：天井部ヘラ切り離し、回転ヘラケズリ、ヘラ切り記号 内面：回転ナデ	06003375
図74－11	９－２	P-30 包含層	須恵器	杯蓋	(11.2)	3.6	外：灰色(5Y6/1) 内：灰色(5Y5/1)	外面：天井部ヘラ切り未調整 内面：回転ナデ	06003363
図75－1	９－２	P-24 包含層	須恵器	壺	16.5	残存 24.0	灰色(N4/0)	外面：回転ナデ、タタキ 内面：同心円文タタキ	06003374

表35　9区包含層他出土土器一覧表（17）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図75－2	9－2	包含層	須恵器	高台付壺	(10.3)	12.5	灰黄色(2.5Y6/2)	外面：ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	06003368
図75－3	9－2	O-31 包含層	須恵器	高台付杯	—	残存3.4	灰色(5Y5/1)	外面：ヘラケズリ、ナデ 内面：ナデ 底部高台貼り付け	06003364
図75－4	9－2	包含層	須恵器	高台付杯	—	残存3.4	暗青灰色(5B4/1)	外面：高台内底部静止糸切り痕､ナデ 内面：回転ヘラケズリ 底部高台貼り付け	06003378
図75－5	9－2	包含層	須恵器	蓋	14.3	1.4	青灰色(5PB6/1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06003377
図75－6	9－2	包含層	須恵器	高台付杯	(14.4)	4.3	灰色(5Y6/1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 底部高台貼り付け	06003362
図75－7	9－3	M-25-2 5-1 層	須恵器	高台付杯	(12.4)	4.05	外：褐灰色(10YR5/1) 内：黄灰色(2.5Y6/1)	外面：回転ナデ、高台内底部回転ヘラ切り離し 内面：回転ナデ 底部高台貼り付け	06003984
図75－8	9－2	包含層	須恵器	高台付杯	(17.8)	5.4	外：暗灰色(N3/0) 内：灰黄色(2.5Y7/2)	外面：回転ナデ、高台内底部回転ヘラ切り離し 内面：回転ナデ、底部高台貼り付け	06003415
図75－9	9－2	包含層	須恵器	皿	(13.8)	2.2	灰色(5Y5/1)	外面：底部回転ヘラ切り後ナデ、自然釉 内面：回転ナデ	06003366
図75－10	9－3	M-26-2 5 層 下部	須恵器	皿	14.95	1.8	灰色(5Y5/1)	外面：底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	06003982
図75－11	9－2	包含層 SD9001 最下層	須恵器	皿	(15.8)	1.95	灰色(5Y6/1)	外面：底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	06003309
図75－12	9－2	包含層	須恵器	皿	(17.0)	1.9	灰色(5Y6/1)	外面：底部回転ヘラ切り後ナデ、墨書あり 内面：回転ナデ	06003379
図76－1	9－2	包含層	土師器	蓋	—	残存2.4	外：黒褐色(10YR3/1) 内：にぶい黄褐色(10YR5/3)	外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	06003422
図76－2	9－2	O-30 包含層	土師器	椀	—	残存2.1	橙色(2.5YR6/6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ 底部高台貼り付け	06003419

表36　９区包含層他出土土器一覧表（18）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図76－3	９－２	包含層	土師器	皿	—	残存 1.3	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：底部回転糸切り、墨書あり 内面：回転ナデ	09001290
図76－4	９－２	包含層	土師器	杯	(12.8)	残存 3.6	灰黄色(2.5Y6/2)	外面：底部回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	06003426
図76－5	９－２	包含層	土師器	杯	—	残存 1.9	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：底部回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	06003421
図76－6	９－３	N-30-1 5-1 層	土師器	杯	—	残存 0.95	灰黄色(2.5Y7/2)	外面：底部回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	06003983
図76－7	９－２	包含層	土師器	杯	—	残存 1.7	橙色(5YR6/6)	外面：底部回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	06003420
図76－8	９－２	包含層	土師器	杯	—	残存 1.3	橙色(5YR7/6)	外面：底部回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	06003418
図76－9	９－２	包含層	土師器	杯	(12.4)	3.8	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：底部回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	06003417
図76－10	９－３	M-31-2 5-2 層	土師器	皿	(12.6)	2.6	にぶい黄褐色 (10YR6/3) 黒色(10YR2/1)	外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	07001945
図76－11	９－２	P-30 包含層	土師器	高杯	(22.9)	残存 7.0	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ナデ、ミガキ 内面：ミガキ、ナデ	06003423
図76－12	９－２	P-30 包含層	土師器	高杯	—	残存 5.6	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06003425

表37　９区包含層他出土土製品一覧表（１）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					全長(径)	厚			
図76－13	９－２	SD9002 2 層 №8	土製品	紡錘車	4.8	0.7	上面、側面：にぶい橙色(7.5YR7/3) 下面：灰白色 (10YR8/2)	上下面：ミガキ	09003001
図76－14	９－３	M-28-2 黒色細砂	土製品	紡錘車	5.5	1.1	上面：にぶい褐色 (7.5YR5/3) 下面：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 側面一部：暗灰色 (N3/0)	上下面：ナデ、指頭圧痕	07001989
図76－15	９－３	M-31-2 黒色細砂	土製品	紡錘車	4.5	1.1	上面：灰黄褐色 (10YR6/2) 下面：褐灰色 (10YR4/1)	上下面：ミガキ	07001994

表38　9区包含層他出土土製品一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					全長(径)	厚			
図76－16	9－2	P-30 自然流路 最下層 No.17	土製品	土錘	2.8	2.4	褐灰色(10YR5/1)	外面：ナデ	09003002
図76－17	9－2	O-26 包含層	土製品	不明	3.2	1.7	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ状	09003003

表39　9区包含層他出土石器・石製品一覧表（1）

＊法量の（　）は残存値

挿図番号	調査区	出土地点	種　別	石　材	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図77－1	9-2	SD9002 2層 No.6	石包丁	砂岩	3.75	4.50	0.50	11.7		08003879
図77－2	9-2	O-24 包含層 No.10	石鎌か	砂岩	6.05	7.25	0.85	54.2		09000691
図77－3	9-2	P-24 包含層 No.9	大型直線刃石器	砂岩	7.8	8.4	0.75	82.8		09000690
図77－4	9-2	N-30 包含層 No.163	石包丁？	砂岩	4.8	6.2	0.65	30.2		09000843
図77－5	9-2	SD9002 2層 No.20	両刃石斧	砂岩	6.0	4.95	4.1	147.6		09000701
図77－6	9-2	Q-29 流路 最下層 No.18	太型蛤刃石斧	玄武岩	15.8	8.05	5.2	950.0		09000699
図77－7	9-3	M-28-1 6層 No.31	敲石	砂粒砂岩	11.5	5.4	4.25	436.4	石斧からの 転用？	09000712
図77－8	9-3	M-29-2 黒色細砂 No.32	敲石	安山岩	12.65	11.2	7.25	1295.0		09000713
図77－9	9-2	O-30 包含層 No.7	敲石	片岩	10.2	3.8	3.0	174.0		09000688
図78－1	9-3	M-30-2 6層 No.29	凹石・磨石	安山岩	8.65	8.8	4.95	620.0		09000710
図78－2	9-2	O-25 包含層 No.19	凹石・磨石	凝灰岩	9.0	8.35	5.2	650.0		09000700
図78－3	9-3	M-31-2 オリーブ灰色 砂質土 No.30	凹石・磨石	安山岩	7.5	7.3	3.95	316.6		09000711
図78－4	9-2	SK9037埋土 No.3	凹石・磨石	安山岩	9.75	10.15	5.7	890.0		09000684
図78－5	9-2	O-25 包含層 No.8	凹石・磨石	安山岩	7.8	7.2	2.85	242.0		09000689
図78－6	9-3	M-30-2 6層 No.34	台石	玄武岩	36.6	13.85	14.05	8900.0		09000715
図79－1	9-2	包含層 No.2	砥石	砂岩	21.35	9.05	8.2	1695.0	鉄片付着	09000683
図79－2	9-3	M-28-2 5-2層 No.33	砥石	砂岩	15.7	15.45	8.2	2895.0		09000714
図79－3	9-2	N-28 No.6	砥石	砂岩	19.3	15.6	7.2	2475.0		09000687
図79－4	9-3	N-31-1 6層 No.28	砥石	花崗岩	12.5	6.4	4.3	475.0		09000709
図79－5	9-2	O-26 包含層 No.11	砥石	砂岩	7.6	6.9	2.9	157.4	溝状痕	09000692

表40　９区包含層他出土石器・石製品一覧表（２）

＊法量の（　）は残存値

挿図番号	調査区	出土地点	種　別	石　材	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図79－6	9-2	SD9001 下層 №4	砥石	砂岩	6.6	4.4	4.8	184.0	溝状痕	09000685
図79－7	9-2	P-30 流路 最下層 №12	砥石	泥岩	19.35	4.5	3.45	279.6	溝状痕	09000693
図80－1	9-2	SB9029 P10埋土 №16	砥石	泥岩	6.3	7.2	2.7	131.6		09000697
図80－2	9-2	N-27 包含層 №15	砥石(ノミ形石斧?)	安山岩	8.85	2.4	1.9	66.4	溝状痕	09000696
図80－3	9-2	O-26 包含層 №5	砥石	砂岩	6.45	2.45	1.5	36.2		09000686
図80－4	9-1	－	石鏃	黒曜石	3.0	1.65	0.35	1.14		09000708
図80－5	9-2	P7 №26	石鏃	黒曜石	2.0	1.2	0.3	0.54		09000707
図80－6	9-2	Q-29 包含層 №25	石鏃	黒曜石	2.55	1.6	0.25	0.86		09000706
図80－7	9-2	包含層一括 №21	石鏃	黒曜石	2.85	1.85	0.4	1.14		09000702
図80－8	9-2	包含層 №22	石鏃	黒曜石	1.8	1.45	0.25	0.52		09000703
図80－9	9-2	P-30 包含層 №24	石鏃	黒曜石	2.4	1.75	0.4	1.46		09000705
図80－10	9-2	包含層 №23	石鏃	黒曜石	3.05	1.5	0.45	1.51		09000709
図80－11	9-2	P-31 包含層 №1	石錘	細粒花崗岩	13.2	4.8	4.25	236.0		09000682
図80－12	9-2	SD9002 2層 №13	石錘	砂岩	6.35	3.0	2.6	67.2		09000694
図80－13	9-2	SD9001 最下層 №17	紡錘車	滑石	3.7	3.6	1.2	30.0		09000698
図81－1	9-2	N-28 包含層	勾玉未製品	碧玉	1.98	1.0	0.66	1.6		03001624
図81－2	12	SH12028下層	残核	碧玉	3.83	2.50	2.58	20.5		06003909

表41　９区包含層他出土青銅製品一覧表

＊法量の（　）は残存値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	法量（cm・g）					備　考	登録番号
				残存長	残存幅	復元径	厚さ	重量		
図81－3	9-2	O-27 包含層	方格規矩鏡鏡片	2.4	5.35	12.2	0.4	20.9		03001629
図81－4	9-2	N-26 包含層	青銅製鋤先片	4.35	4.95	－	0.2	38.4		03001627

表42　９区包含層他出土木製品一覧表（１）

挿図番号	調査区	出土地点	器　種	法　　量（cm）	登録番号
図82-1	9-3	M-30-2 6層	三又鍬	残存長40.1　最大幅17.4　最大厚1.3	05001715
図82-2	9-2	N-30 包含層	三又鍬	残存長27.55　最大幅11.45　最大厚2.5	03000290
図82-3	9-2	N-30 包含層	又鍬	残存長20.6　最大幅6.55　最大厚1.5	03000291
図82-4	9-2	N-30 包含層	又鍬	残存長15.4　最大幅3.6　最大厚9.5	03000292
図82-5	9-3	M-29 5-2層　№13	平鍬	残存長30.0　最大幅6.8　最大厚1.7	04003318
図83-1	9-3	M-29-2 SX9035 №31　覆土	エブリ	残存長7.6　最大幅26.2　最大厚1.2	04003292
図83-2	9-3	N-30-1 5-2層　№6	鋤柄	残存長12.0　最大幅10.4　最大厚3.2	04003293
図83-3	9-3	M-28-2 5-2層	手斧柄	残存長13.0　最大幅6.5　最大厚4.1	05001714
図83-4	9-2	N-26　包含層	斧柄	残存長10.1　最大幅5.8　最大厚3.3	06000192
図84-1	9-3	M-29-2 5-2層 №14-2	縦杓子	残存長36.6　勺部最大幅8.0　勺部最大厚3.8 柄部最大幅2.3　柄部最大厚2.3	05000697
図84-2	9-2	N-25 包含層	槽	残存長18.6　最大幅6.6　最大厚1.0	03002322
図84-3	9-3	M-29-2 5-2層 №12	盤	残存長22.8　最大幅16.4　最大厚3.1	05000668
図85-1	9-3	M-29-2 5-2層	槽	残存長41.8　最大幅13.1　最大厚2.5	05000698
図85-2	9-3	M-29-2 5-2層 №27	槽	残存長33.0　最大幅21.2　最大厚2.1 器高11.6	05000669
図86-1	9-3	M-28-2 6層	椀	残存長7.0　最大幅10.2 器高7.5	04003316
図86-2	9-3	M-29-2 5-2層 №13	椀	残存長15.6　最大幅12.8　最大厚1.1 器高6.9	04003317
図87-1	9-2	N-26 包含層	ねずみ返し	残存長55.9　最大幅54.7　最大厚3.6	05001629
図87-2	9-2	N-26 包含層 №20	ねずみ返し	残存長57.7　最大幅21.6　最大厚3.8	05001605
図87-3	9-2	SX9045	ねずみ返し	残存長57.2　最大幅15.2　最大厚2.8	05001606
図88-1	9-2	O-25 包含層　№22	双孔板	残存長40.4　最大幅38.5　最大厚2.2	05001603
図88-2	9-2	O-25 包含層　№21	双孔板	残存長43.4　最大幅37.2　最大厚1.6	05001604
図89-1	9-3	M-30-2 5-2層	舟形木製品	残存長40.3　最大幅11.1　最大厚1.5 器高8.0	04003315
図89-2	9-2	N-26 包含層 №23	組合わせ具	残存長13.5　最大幅6.0　最大厚4.1	06000193
図89-3	9-2	N-25 包含層 №24	栓	残存長36.4　最大幅5.5　最大厚4.5	03002323
図89-4	9-2	N-25 包含層 №25	組合わせ具	残存長9.6　最大幅9.3×6.3　最大厚3.5	03002321
図90-1	9-3	M-27-2 6層 №28	背負子	残存長76　基部長46　基部厚3.4　柄部6.6　径4.0×2.0	05001717
図91-1	9-3	M-28-2 5-2層 №15	部材	残存長49.7　最大幅7.4　最大厚4.0	06000094
図91-2	9-3	N-31-1 6層	柄	残存長44.4　最大幅5.3　最大厚3.3	04003319
図91-3	9-3	M-28-2 5-2層	部材	残存長18.6　最大幅8.5　最大厚0.7	05001713
図91-4	9-3	M-28-2 5-2層	部材	残存長13.5　最大幅11.1　最大厚1.0	05001712

表43　９区包含層他出土木製品一覧表（２）

挿図番号	調査区	出土地点	器　種	法　　量（cm）	登録番号
図91-5	9-2	SD9001　№9	不明	残存長38.7　最大幅4.9　最大厚1.5	06002739
図92-1	9-3	M-27-2 6層 №30	部材	残存長19.7　最大幅7.5　最大厚3.0	05000667
図92-2	9-2	M-27-2 包含層 №31	部材	残存長6.2　最大幅34.4　最大厚2.55	03000293
図92-3	9-3	M-30-2 6層 №11	柄	残存長49.4　最大幅1.4　最大厚1.0	05001630
図92-4	9-2	N-31 包含層	柄？	残存長23.7　最大幅1.5　最大厚1.2	03002324
図92-5	9-2	部材19	部材	残存長69.8　最大幅8.0　最大厚2.0	05001633

表44　９区包含層他出土鍛冶関連遺物一覧表

挿図番号	調査区	出土地点	種　別	法量（cm・g)				備　考	登録番号
				長	幅	厚	重量		
図93-1	11	SH11230	羽口	残存12.8	10.5	4.0	1008.1		07002197
図93-2	9-2	P-30　包含層	羽口	残存8.3	9.1	3.4	308.3		12001393
図93-3	9-2	P-30　包含層	羽口	残存7.3	7.3	3.0	191.7		12001392
図93-4	9-2	包含層	羽口	5.9	5.0	2.9	57.6		06003278
図93-5	9-2	SD9002 1層	羽口	残存8.0	7.2	2.6	193.8		06003501
図94-1	9-2	包含層	羽口	5.9	8.9	3.7	314.6		06003277
図94-2	9-2	P-30　包含層	羽口	残存8.5	7.7	3.5	335.3		12001391
図94-3	9-2	SD9001 最下層	羽口	残存9.6	6.2	4.1	121.7		12001394
図94-4	9-2	SD9002 最下層	羽口	残存6.1	5.3	4.1	92.6		12001395
図94-5	9-2	包含層	椀形滓	9.8	10.5	3.0	217.7		12001398
図94-6	9-2	P-30　包含層	椀形滓	7.3	8.8	3.4	145.6		12001397
図94-7	9-2	包含層	椀形滓	7.9	6.9	4.0	162.8		12001396
図94-8	9-2	包含層	椀形滓	6.5	8.0	2.8	98.1		12001400
図94-9	9-2	Q-30　包含層	椀形滓	5.5	5.7	2.3	41.0		12001399

Ⅴ.10 区の遺構と遺物

１，遺構

（1）竪穴住居跡

ＳＨ１００４

W・X -34・35 区画に位置する。遺構の南側と北側が調査区外であるため未調査で、北側の一部は配水管が通っていた為撹乱されている。東側に SB1013 と SB1011、SH1012 がある。

規模は確認できる範囲で長軸は 5.94 m、短軸は 5.40 m、深さは 0.26 m、床面積は約 28.61㎡を測る。壁残存高は 0.09 m～ 0.17 mである。平面形態は不整形で、およそ円形の主柱穴が P1 ～ P6 まで確認されている。それぞれの距離は P1 ～ P2 が 1.5 m、P2 ～ P3 が 1.0 m、P3 ～ P4 が 1.7 m、P4 ～ P5 が 1.2 m、P5 ～ P6 が 1.7 m、P6 ～ P1 が 1.7 mとなる。

遺物は弥生土器の甕が出土している。

ＳＨ１００６

Ⅴ -33 区画に位置する。北西側が調査区外であるためと、配水管が通っている為切られている。東側では僅かに SH1012 を切っている。

規模は確認できる範囲で長軸は 6.00 m、短軸は 4.86 m、深さは 0.66 m、床面積は 19.53㎡を測る。壁の残存高は約 0.15 mになる。平面形態は不整形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴と見られる小穴を特定できなかった。

遺物は弥生土器の甕と壺が出土している。

ＳＨ１００９

W -34 区画に位置する。直ぐ南側に SB1011 と SB1013 が、東側に SB1005 といった掘立柱建物が本遺構周りに見られる。

規模は、北東側と南東側を小穴により一部切られるが、長軸は 4.40 m、短軸は 4.25 m、深さは 0.59 m、床面積は 34.4㎡を測る。壁の残存高は約 0.10 mである。

平面形態は方形で、小穴は多数見つかっているが、主柱穴と見られる小穴は特定できなかった。

本遺構中央付近では 3 層と 4 層から炭化物や焼土がみられ、炉跡と思われる。

遺物は弥生土器の甕と器台、土師器の甕が出土している。

ＳＨ１０１２

Ⅴ -32・33、W -33 区画に位置する。北側を SH1006 に切られ、東側に SB1007、SB1008 といった掘立柱建物跡がみられる。

規模は、長軸 6.15 m、短軸 5.45 m、深さ 0.50 m、床面積は約 37.23㎡を測る。壁の残存高は約 0.20 m～ 0.35 mである。

平面形態は方形で、小穴が多数見つかっている。主柱穴と見られる P1 ～ P3 が確認でき、約 2.0 m 距離を置いて方形状に並立していたものと推察される。

遺物は弥生土器の甕、壺、鉢、土師器の甕が出土している。

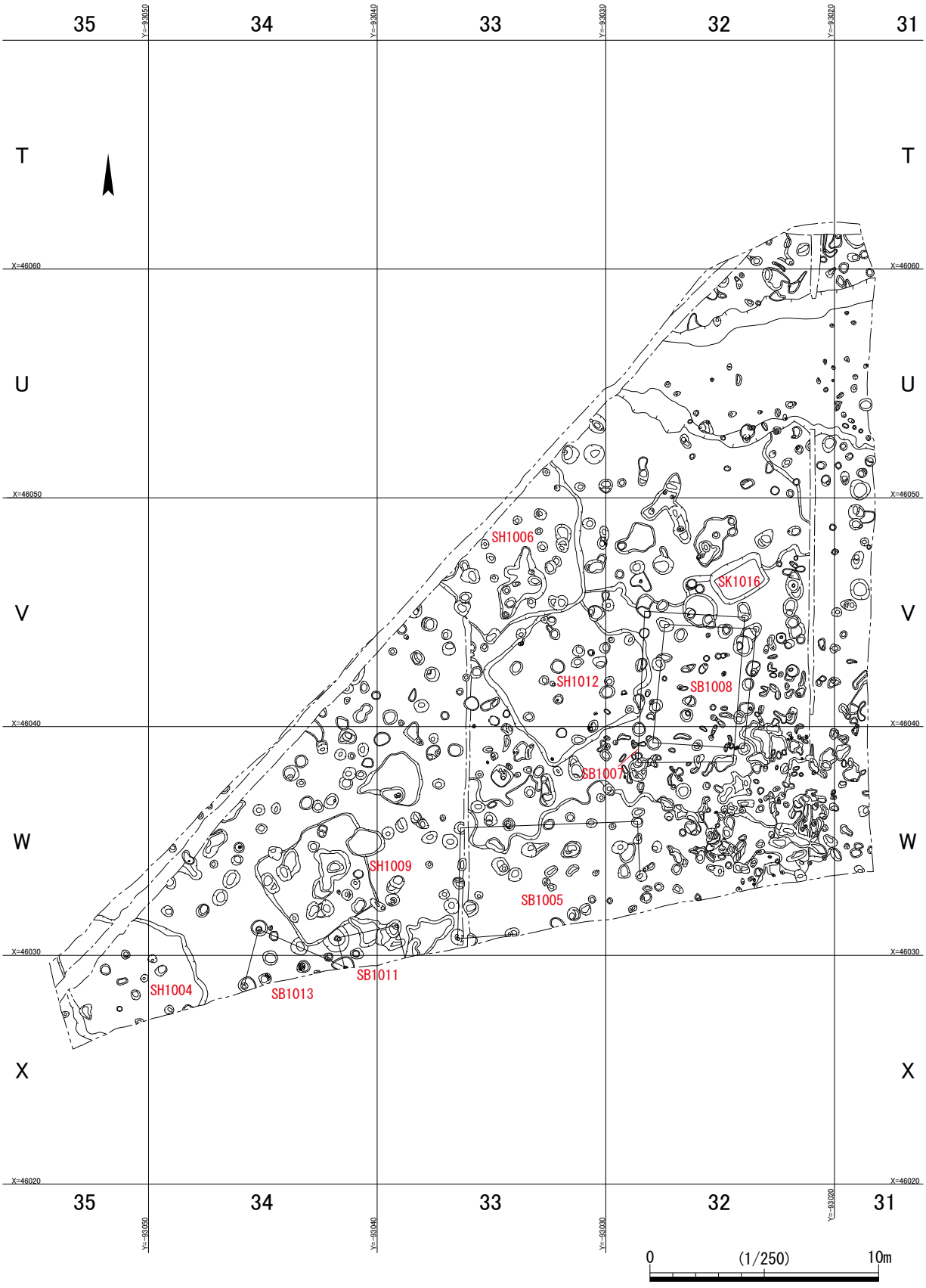


図95　10-1区遺構配置図(1/250)

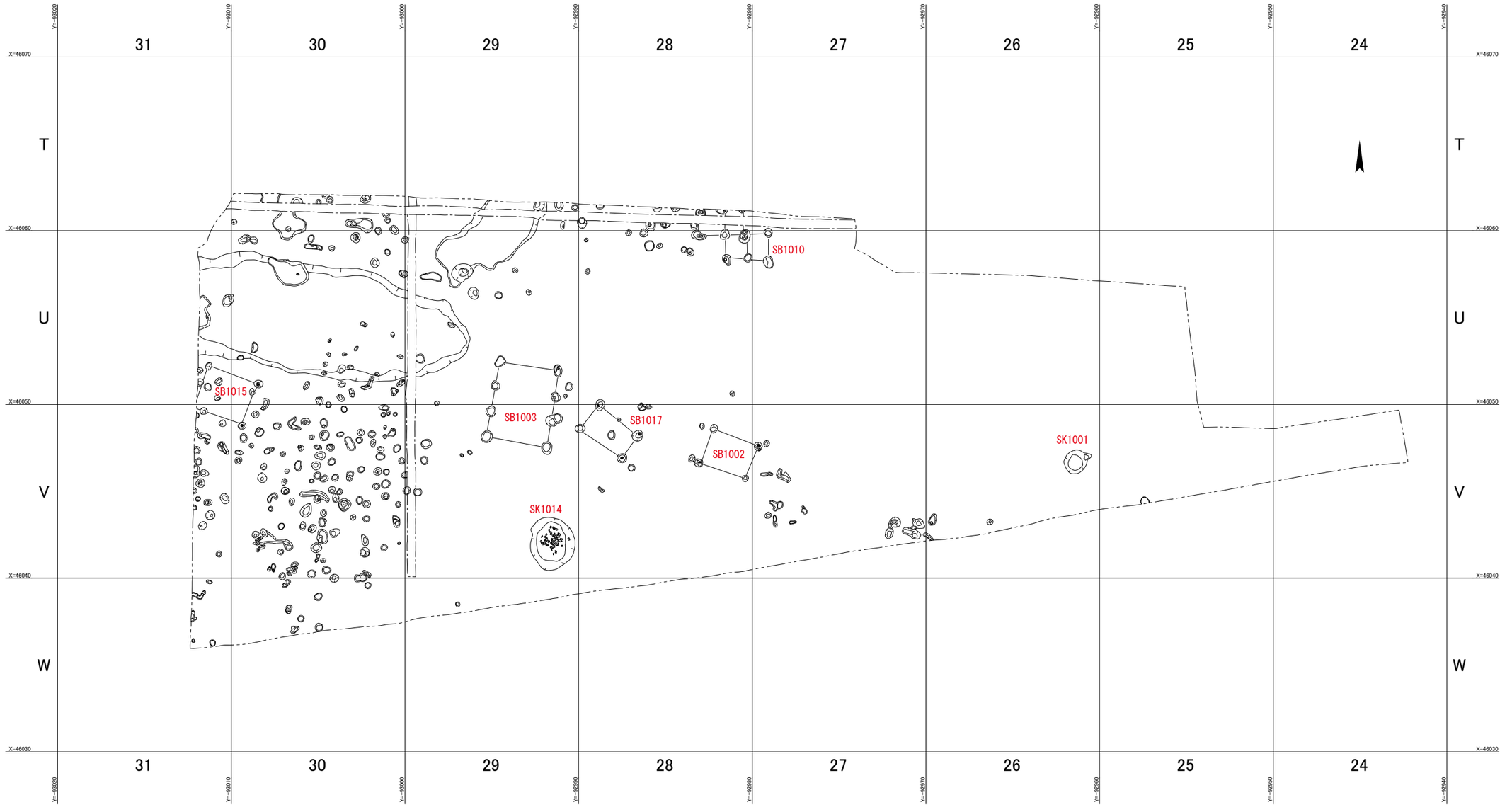


図96　10-２区遺構配置図（1/250）

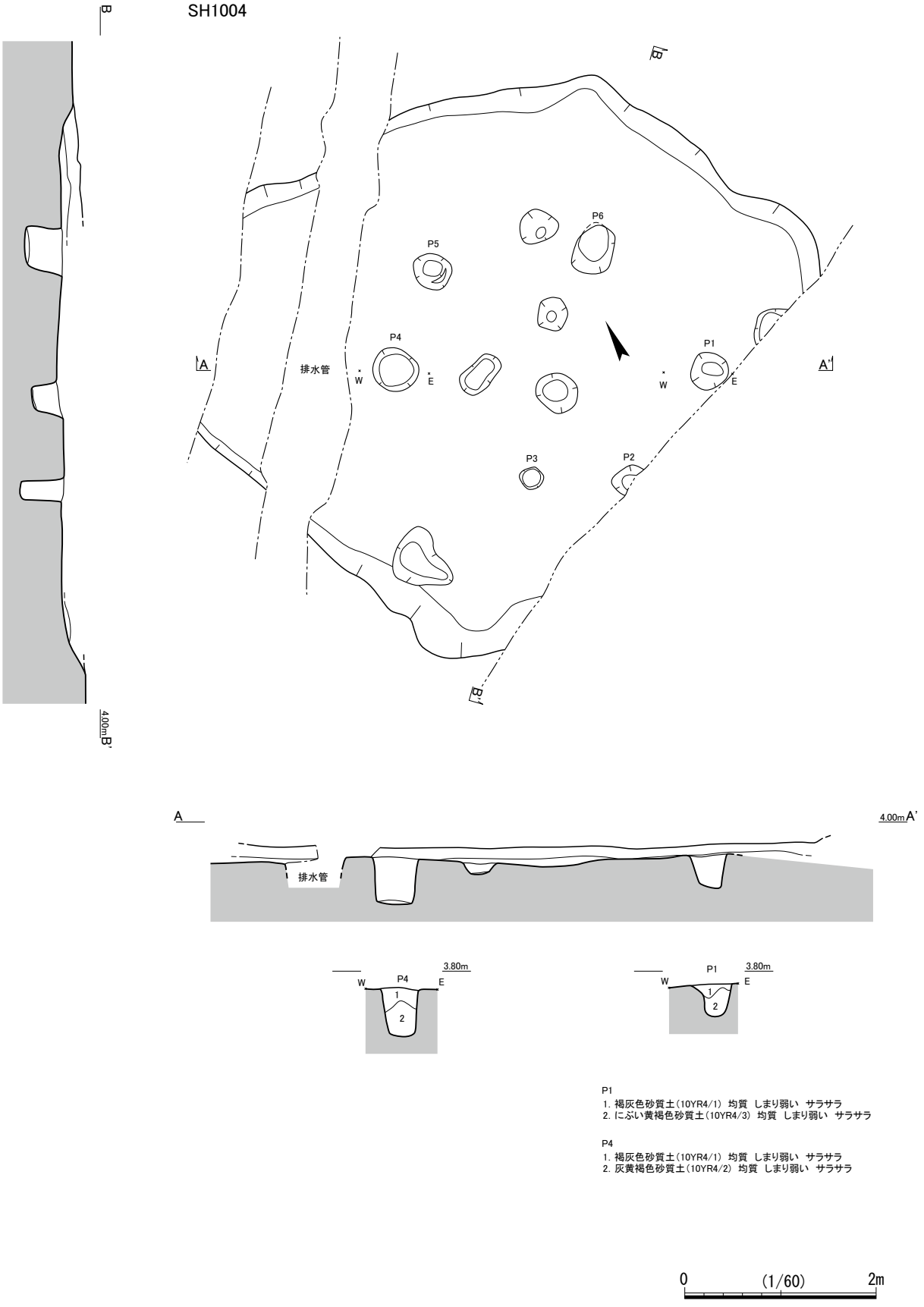
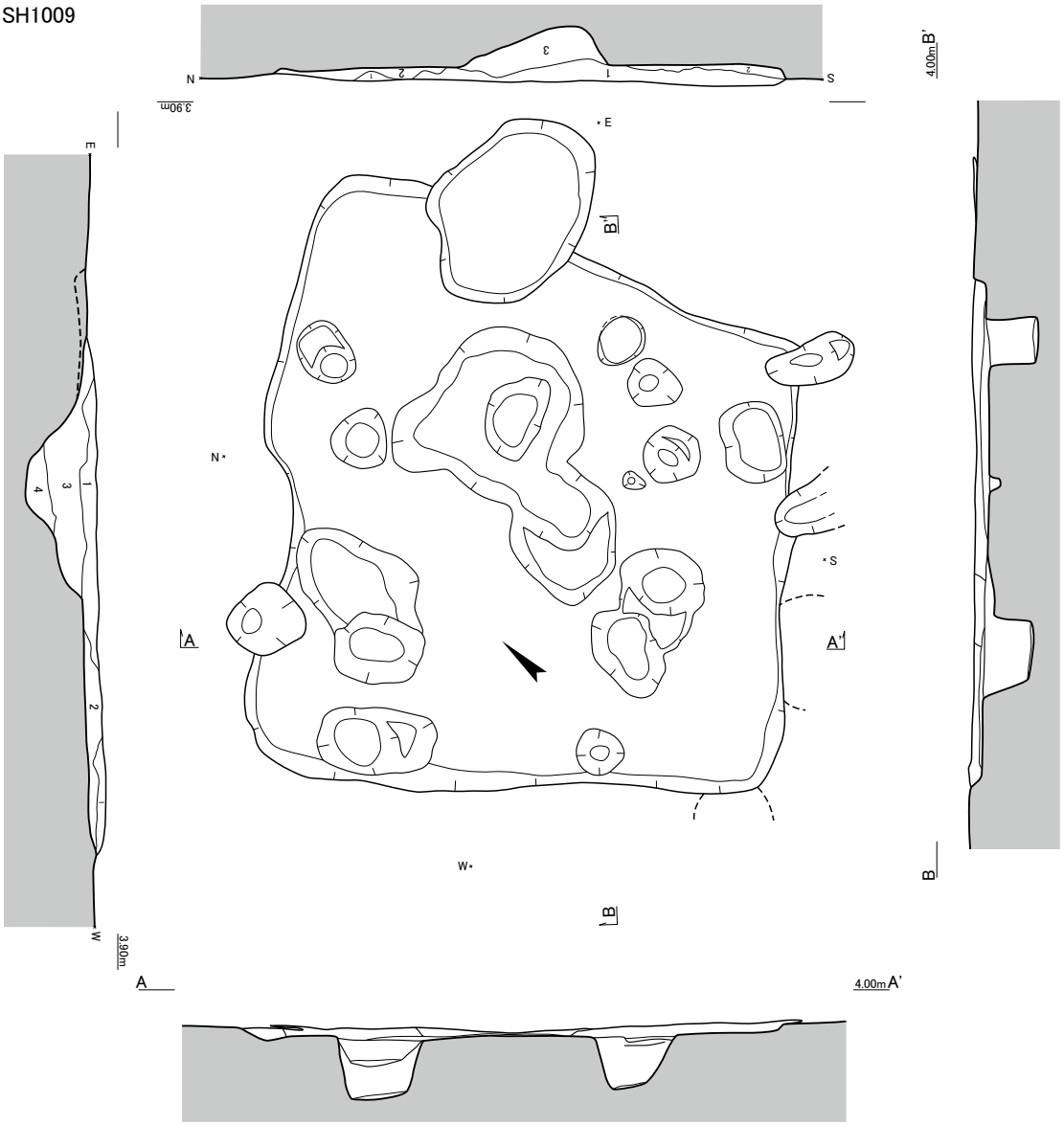


図97　SH1004竪穴住居跡（1/60）



図98　SH1006竪穴住居跡（1/60）

SH1009



1. 褐灰色砂質土(10YR4/1)よくしまる
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)と1層との混 2:1の比率
炉跡
3. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)と黒褐色砂質土(10YR3/1)の混若干 炭化物・焼土
4. にぶい黄橙色砂質土(10YR7/2) 炭化物を若干含む
※全体的によくしまる

0 (1/60) 2m

図99 SH1009竪穴住居跡（1/60）



図100　SH1012竪穴住居跡（1/60）

（2）掘立柱建物跡

10区の掘立柱建物の内訳は1間×1間が3棟、2間×2間が1棟、3間×1間が1棟、3間×2間が1棟、4間×2間が1棟、5間×2間が1棟、梁数不明の建物が2棟の計10棟を確認した。

ＳＢ１００２

10-2区およそ中央のＶ-27･28区画に位置する。P1～P4の柱穴が確認できる。周辺には、同じような主軸方位をもったSB1017が本遺構西側に確認できる。

規模は桁間、梁間が1間×1間。桁行全長は2.80m。桁主軸を北から西へ68°ふれている。梁行全長は2.00m。床面積は5.60㎡である。柱穴の平面形態は楕円形で、径0.30～0.50m、深さ0.20～0.30m。

P1とP4から柱材が遺存して出土している。

ＳＢ１００３

10-2区およそ中央のＵ・Ｖ-29区画に位置する。P1～P8の柱穴が確認できる。東側にはSB1017、南側にはSK1014が確認できる。

規模は桁間、梁間が3間×1間。桁行全長は4.40m、柱間は1.40～1.60m、桁主軸を北から西へ82°ふれている。梁行全長は3.45～3.60m、床面積は15.18㎡である。柱穴の平面形態は楕円形で、径0.50～0.80m、深さ0.20～0.40m。

出土遺物として、弥生土器の甕、壷と紡錘車が出土している。

ＳＢ１００５

10-1区のW-32・33区画に位置する。P1～P10の柱穴が確認できる。北から北東にSH1012、SB1007・1008が、西にSH1009、SB1011・1013が確認でき、SB1007・1008は本遺構とL字形の配置になっていることから、本遺構と同時期の遺構と思われる。また、南東部が調査区外で切れているが10区から確認されている掘立柱建物群の中で最大のものと思われる。

規模は桁間、梁間が4間×2間。桁行全長は7.80m、柱間は1.80～2.10m、桁主軸を北から東へ88°ふれている。梁行全長は4.90m、柱間は2.40m。床面積は37.92㎡である。しかし、本遺構南東部が調査区外の為、少し切れている。柱穴の平面形態は概ね楕円形で、径0.30～0.50m、深さ0.20～0.40m。

出土遺物として、土器片多数が出土している。P1から柱材が遺存して出土している。

ＳＢ１００７

10-1区中央のＶ・W-32区画に位置する。P1～P11の柱穴が確認できる。本遺構とほぼ同じ主軸方位を持つSB1008を切るように重なって存在しており、おそらく建て直したものと考えられる。付近北側にはSK1016、西側にはSH1012、南西にはSB1005が確認されている。

規模は桁間、梁間が5間×2間。桁行全長は6.50m、柱間は1.00～1.50m、桁主軸を北から東へ3°ふれている。梁行全長は4.30m、柱間は0.80～2.15m。床面積は27.95㎡である。柱穴の平面形態はP1、P2、P4、P5、P7、P8、P10は楕円形、P3、P6、P9、P11は円形で、径が0.40～0.90m、深さは0.30～0.60m。

出土遺物として、弥生土器の甕、土師器甕、須恵器蓋、高台付杯、砥石が出土している。

ＳＢ１００８

10-1区中央のＶ・W-32区画に位置する。P1～P10の柱穴が確認される。本遺構とほぼ同じ主軸方位を持つSB1007に切られて存在している。付近北側にはSK1016、西側にはSH1012、南西にはSB1005が確認されている。

規模は桁間、梁間が3間×2間。桁行全長は5.40m、柱間は1.80m、桁主軸を北から東へ5°ふれてい

SB1002

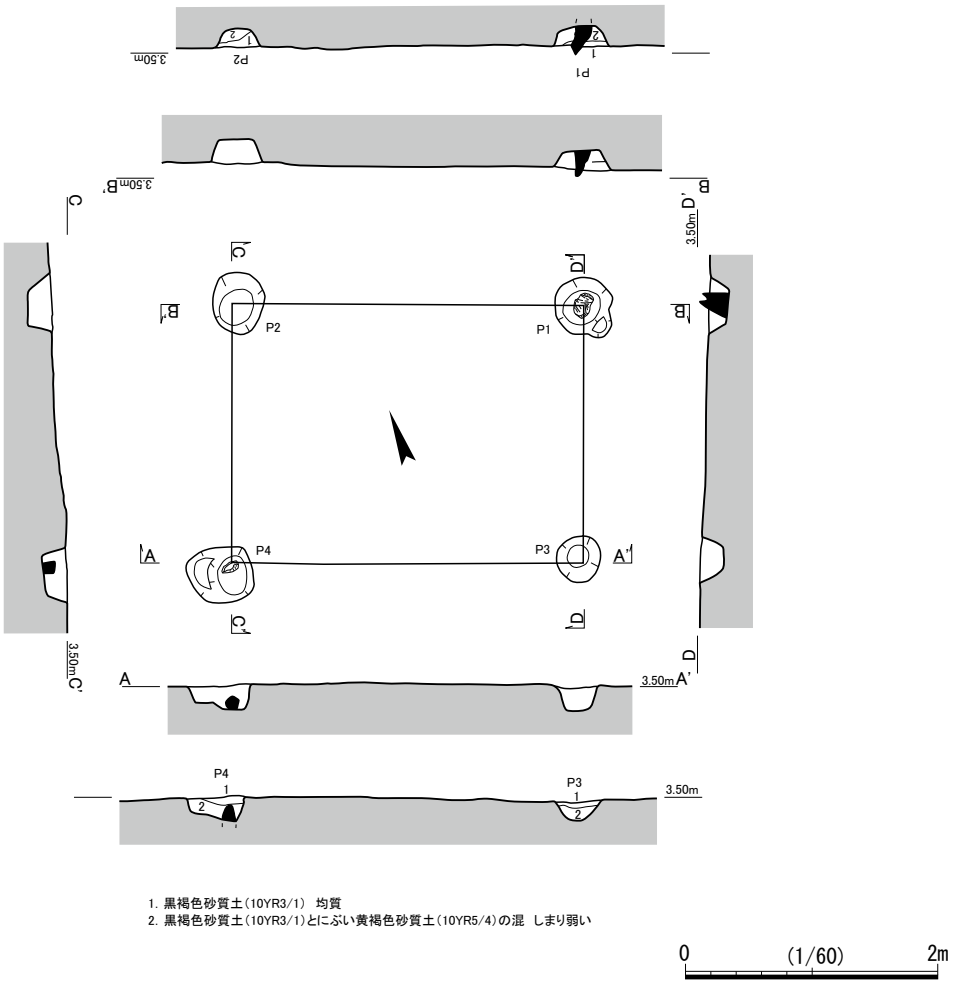
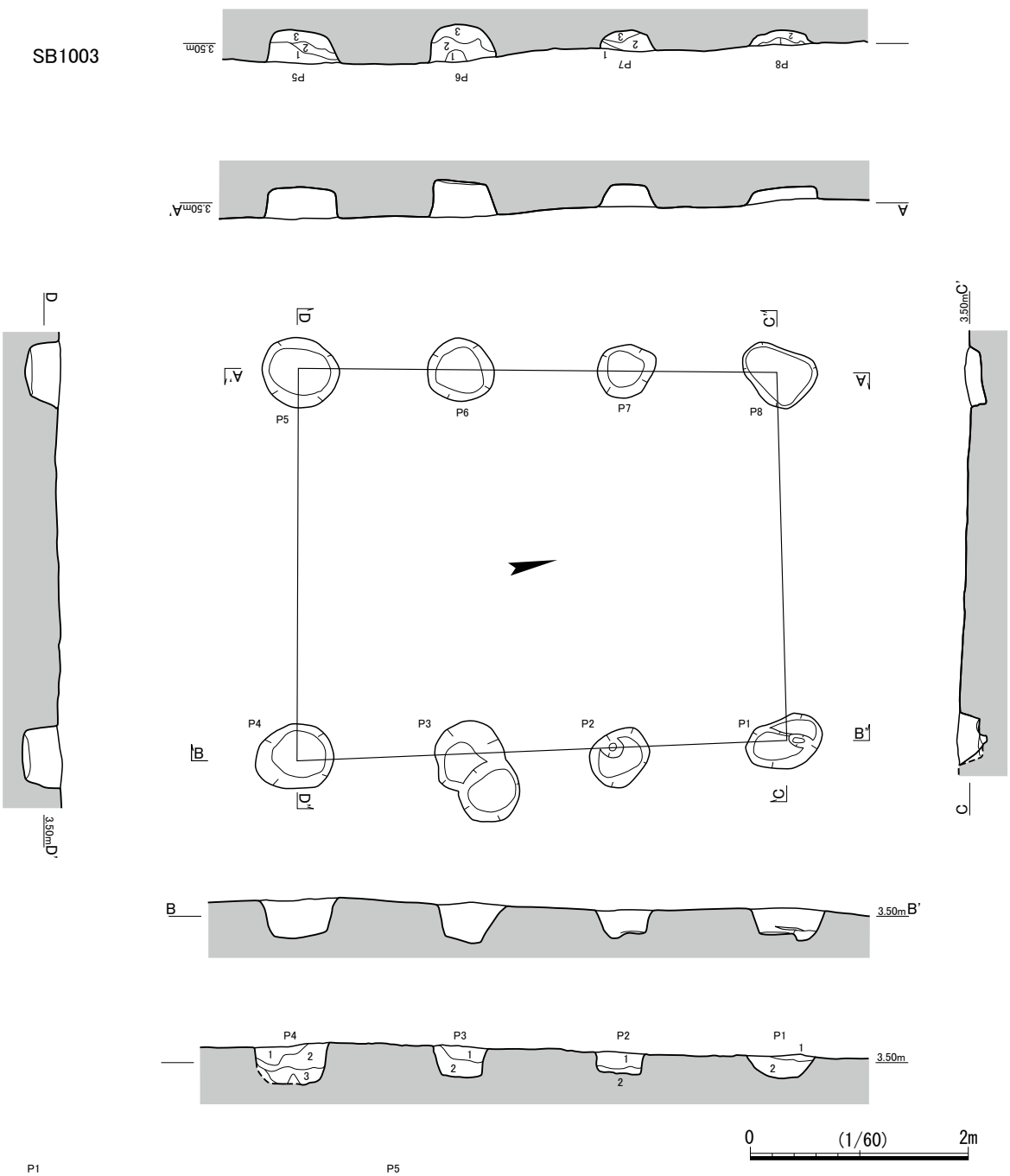


図101　SB1002掘立柱建物跡（1/60）



P1
1. 黒褐色砂質土(10YR3/1) 均質
2. 黒褐色砂質土(10YR3/1)とにぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)の混比率1:1 しまりが弱い

P2
1. P1の1層と同じ
2. P1の2層と同じ

P3
1. P1の1層と同じ
2. P1の2層と同じ

P4
1. P1の1層と同じ
2. 灰黄褐色砂質土(10YR)に若干にぶい黄褐色砂質土が混じる 4:1
3. P1の2層と同じ

P5
1. 褐灰色砂質土(10YR4/1) 均質
2. P1の1層と同じ
3. P1の2層と同じ

P6
1. にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) 均質 サラサラでキメ細かい
2. P1の1層と同じ
3. P1の2層と同じ

P7
1. P6の1層と同じ
2. P1の1層と同じ
3. P1の2層と同じ

P8
1. P1の1層と同じ
2. P1の2層と同じ

図102 SB1003掘立柱建物跡（1/60）

SB1005

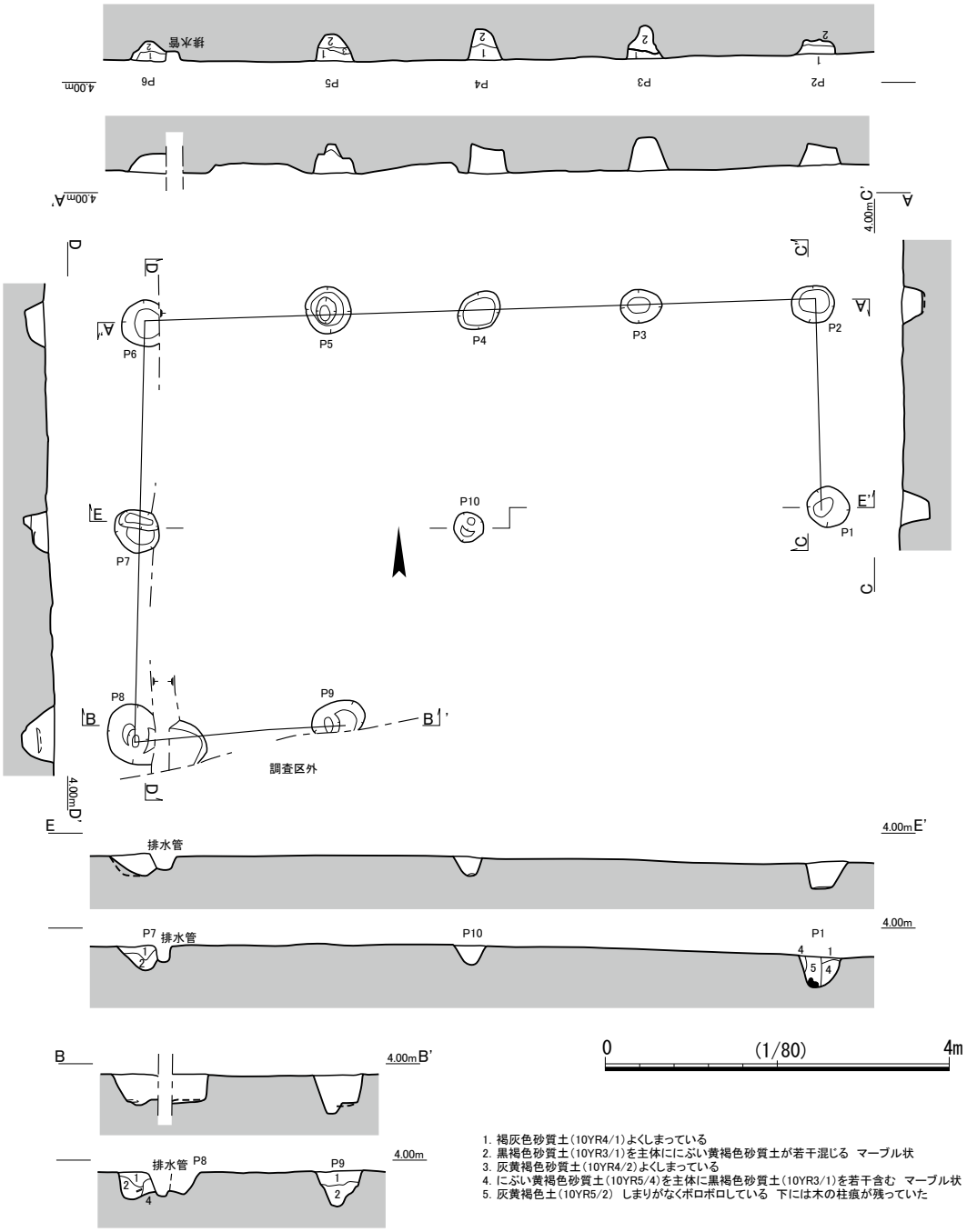


図103　SB1005掘立柱建物跡（1/80）

SB1007

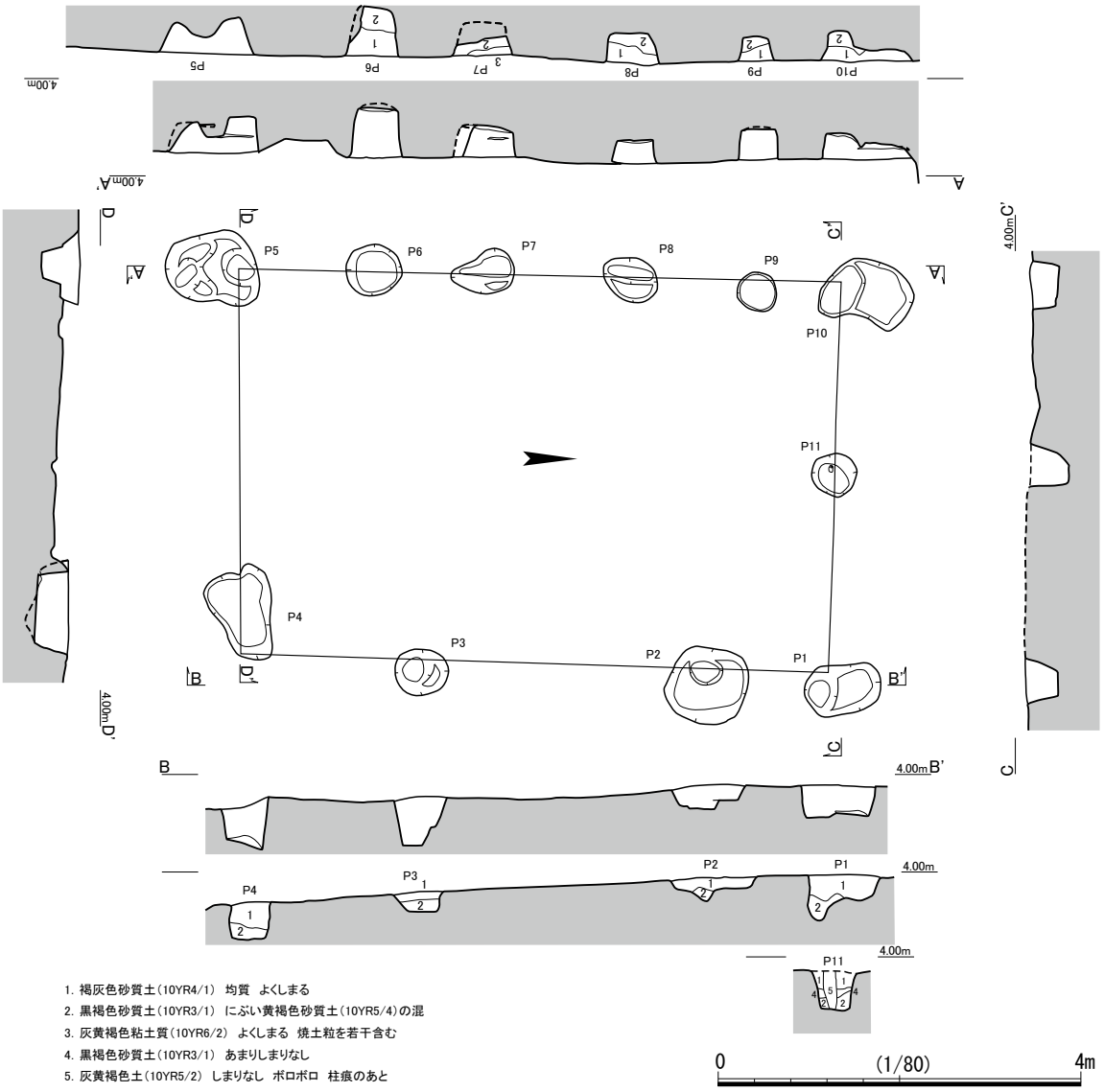
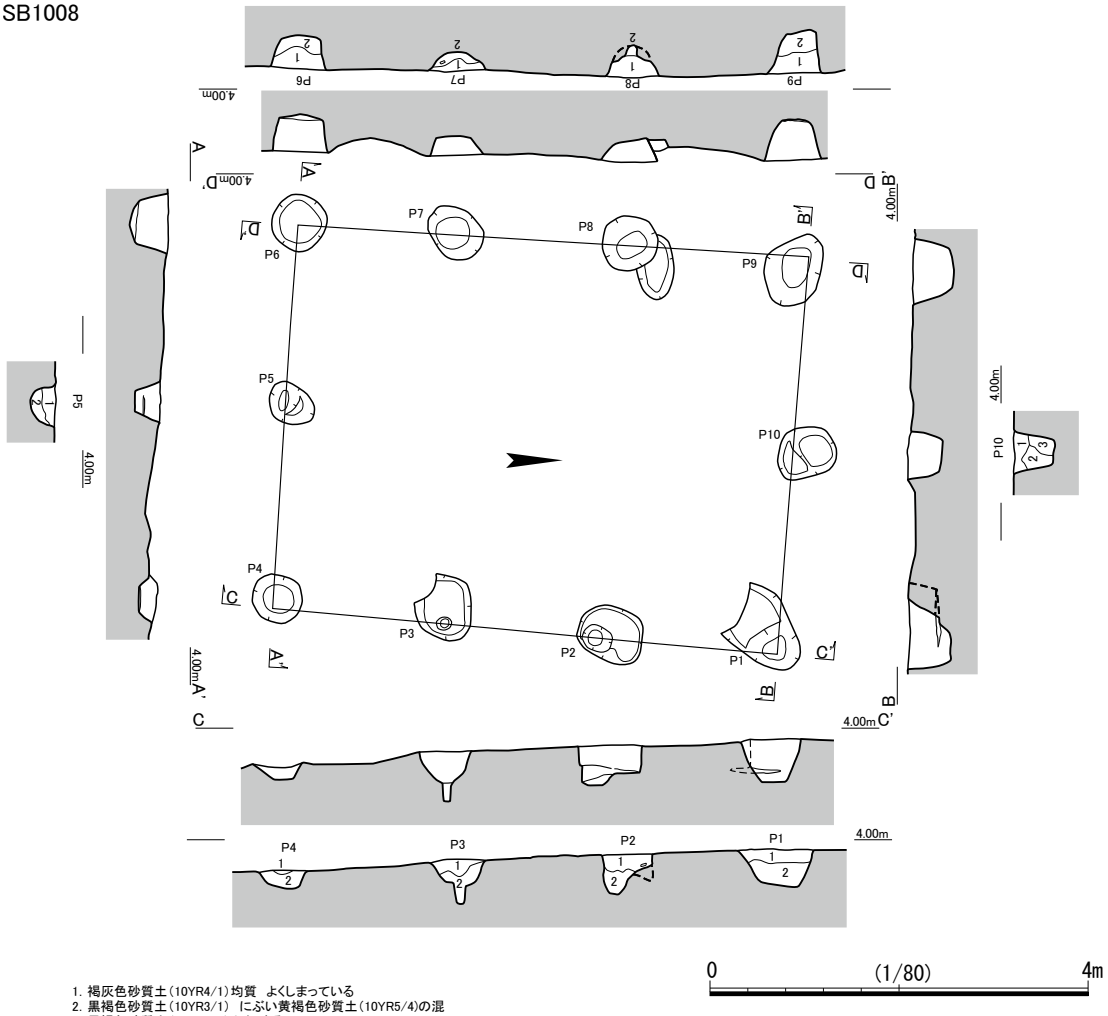


図104　SB1007掘立柱建物跡（1/80）

SB1008



1. 褐灰色砂質土(10YR4/1)均質　よくしまっている
2. 黒褐色砂質土(10YR3/1)　にぶい黄褐色砂質土(10YR5/4)の混
3. 黒褐色砂質土(10YR3/1)よくしまる

＊P3は柱穴か不明、ただし埋土は他と同じである

図105　SB1008掘立柱建物跡（1/80）

る。梁行全長は4.00m、柱間は2.00m。床面積は21.60㎡である。柱穴の平面形態はP1～P3、P5、P7、P9、P10は楕円形、P4、P6、P8は円形で、径0.40～0.70m、深さ0.20～0.50m。

出土遺物として、弥生土器の甕、土師器甕、土製紡錘車、須恵器杯蓋、高台付杯が出土した。

ＳＢ１０１０

10-2区北側のU-27・28区画に位置する。P1～P8の柱穴が確認される。本遺構から南に10m程にSB1002・1017・1003が確認できる。

本遺構北側が調査区壁にぶつかっている為、実際の遺構の広がりや規模は不明である。桁間、梁間が2間×2間。桁行は、確認できる範囲で2.80m、柱間は1.40～1.80m、桁主軸を北から西へ85°ふれている。梁行全長は2.50～2.70m、柱間は1.30m。床面積は7.80㎡である。柱穴の平面形は全体的に概ね楕円形で、径0.40～0.70m、深さ0.20～0.40m。

P3から柱材が1つ遺存して出土、P1からは柱痕が確認された。

ＳＢ１０１１

10-1区南西壁のW-33・34区画に位置する。本遺構北側P1を切ってSH1009が、西側にSB1013が、東側にSB1005が確認できる。

本遺構南側半分は調査区壁にかかるため、桁の正確な規模は不明である。梁行全長は2.60m、梁間数は１間、柱間は2.60m、桁主軸を北から西へ12°ふれている。柱穴の平面形態は、確認できる2つの柱穴が共に楕円形で、径0.70～0.90m、深さ0.30～0.60m。

出土遺物として、弥生土器の甕が出土している。

ＳＢ１０１３

10-1区南西壁のW・X-34区画に位置する。本遺構東側にSB1011が、北側にSH1009が、西側にSH1004が確認できる。

本遺構南東側は調査区壁にかかるため、桁、梁の正確な規模は不明であるが、2間×1間と思われる。桁間数が2間以上、柱間は1.95～2.20mである。

桁主軸を北から西へ66°ふれている。柱穴の平面形態は概ね楕円形となっており、径0.60～0.80m、深さ0.30～0.50m。

出土遺物として、土器片が出土している。

ＳＢ１０１５

10-2区南壁のU・V-30・31区画に位置する掘立柱建物で、P1～P4の柱穴が確認できる。

規模は桁間、梁間が1間×1間。桁行全長は3.00m、桁主軸を北から西へ69°ふれている。梁行全長は2.50m、柱穴の平面形態は概ね楕円形で、径0.40～0.50m、深さ0.20～0.30m。本遺構南西側が調査区壁にかかる為、正確な柱穴の数、規模は不明。

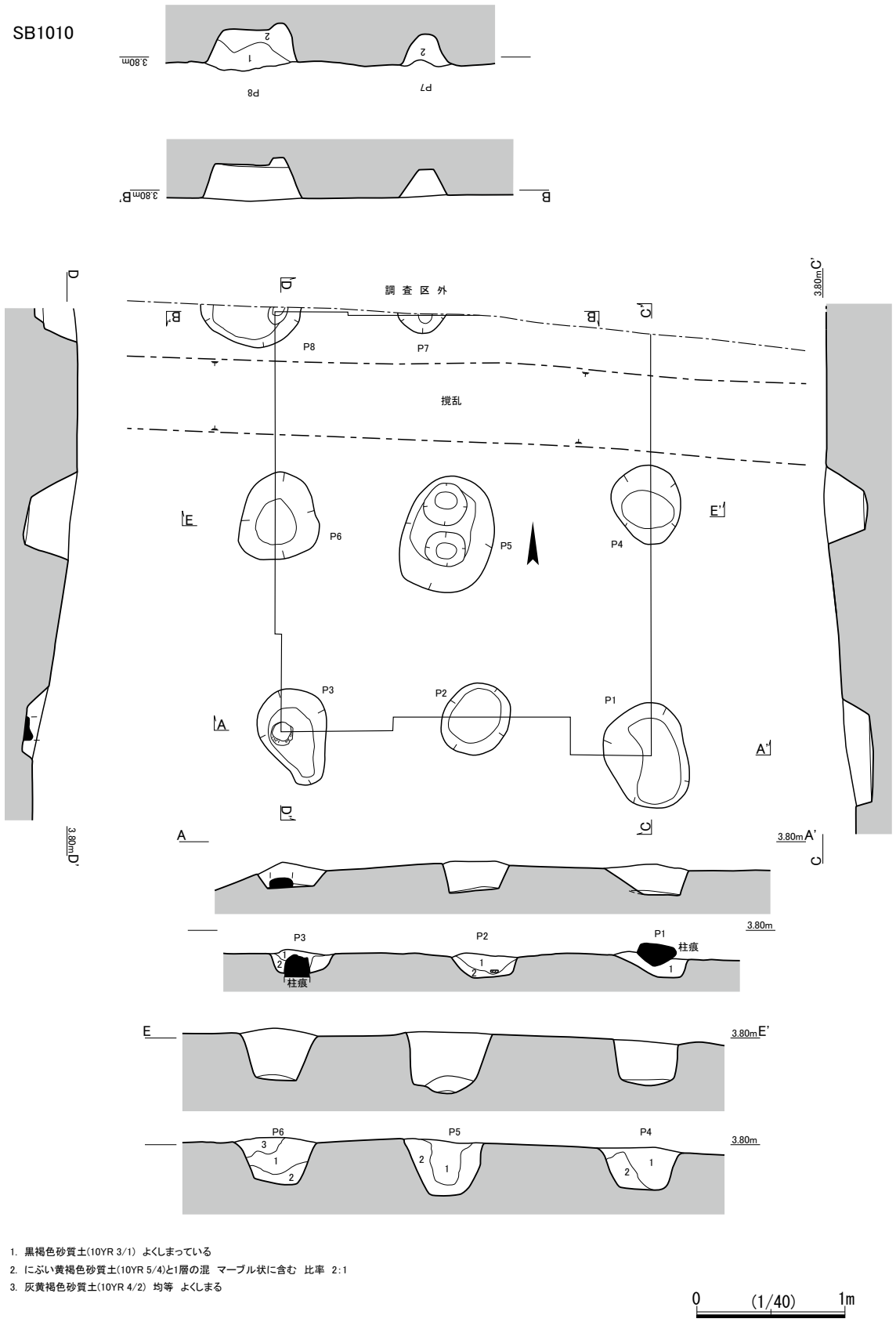
出土遺物として、土器片が出土している。P1・P2から柱材が遺存して出土している。

ＳＢ１０１７

10-2区ほぼ中央のU・V-28区画に位置する。P1～P4の柱穴が確認できる。本遺構西側にSB1003が、南西にSK1014が、東側に同じような主軸方位をしているSB1002が確認できる。

規模は桁間、梁間が1間×1間。桁行全長は2.90m、桁主軸を北から西へ55°ふれている。梁行全長は1.80m。柱穴の平面形態は全て楕円形で、径0.50～0.70m、深さ0.30～0.40m。

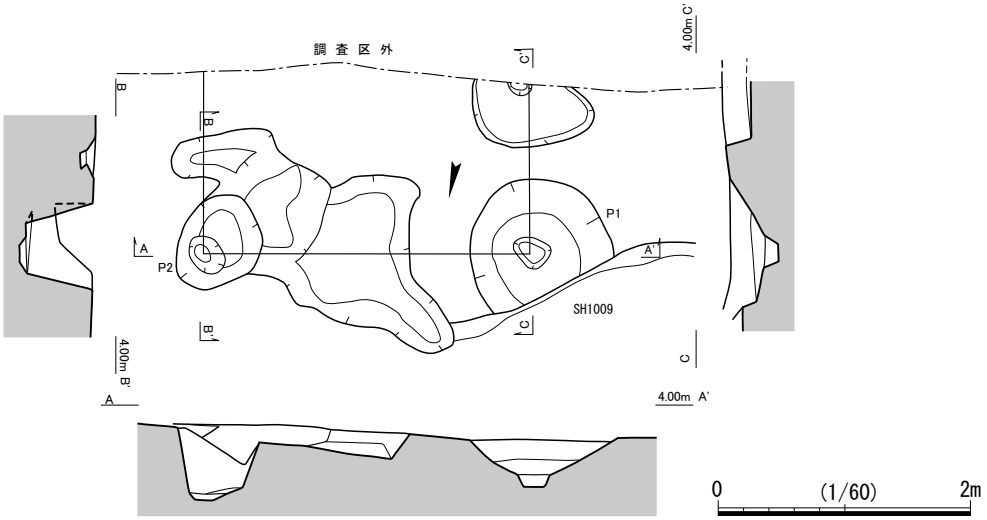
出土遺物として、土器片が出土している。P2・P3・P4から柱材が遺存して出土している。



1. 黒褐色砂質土(10YR 3/1) よくしまっている
2. にぶい黄褐色砂質土(10YR 5/4)と1層の混 マーブル状に含む 比率 2:1
3. 灰黄褐色砂質土(10YR 4/2) 均等 よくしまる

図106　SB1010掘立柱建物跡（1/40）

SB1011



SB1013

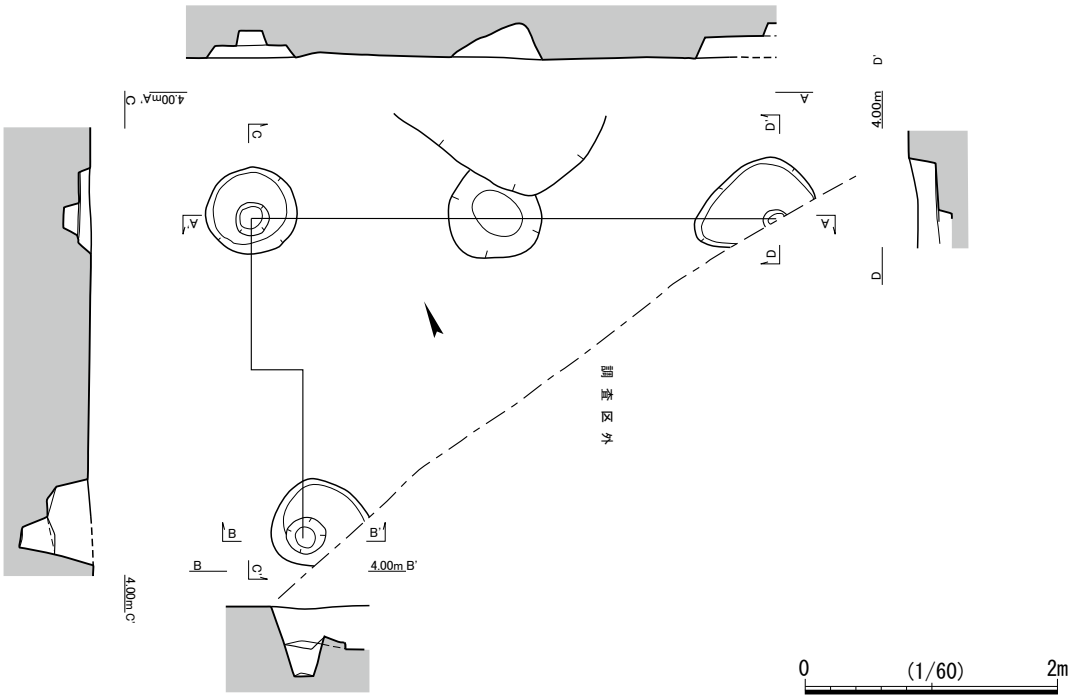
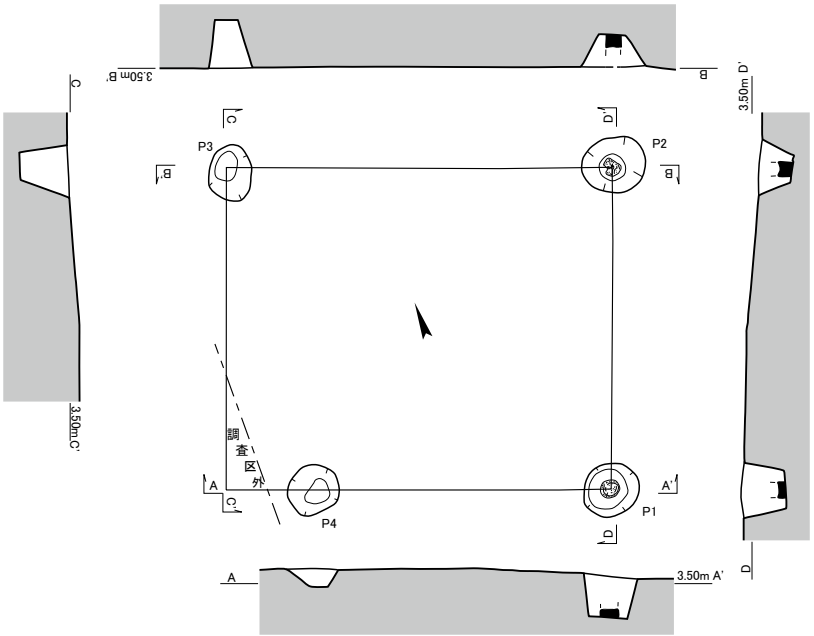


図107　SB1011・1013掘立柱建物跡（1/60）

SB1015



SB1017

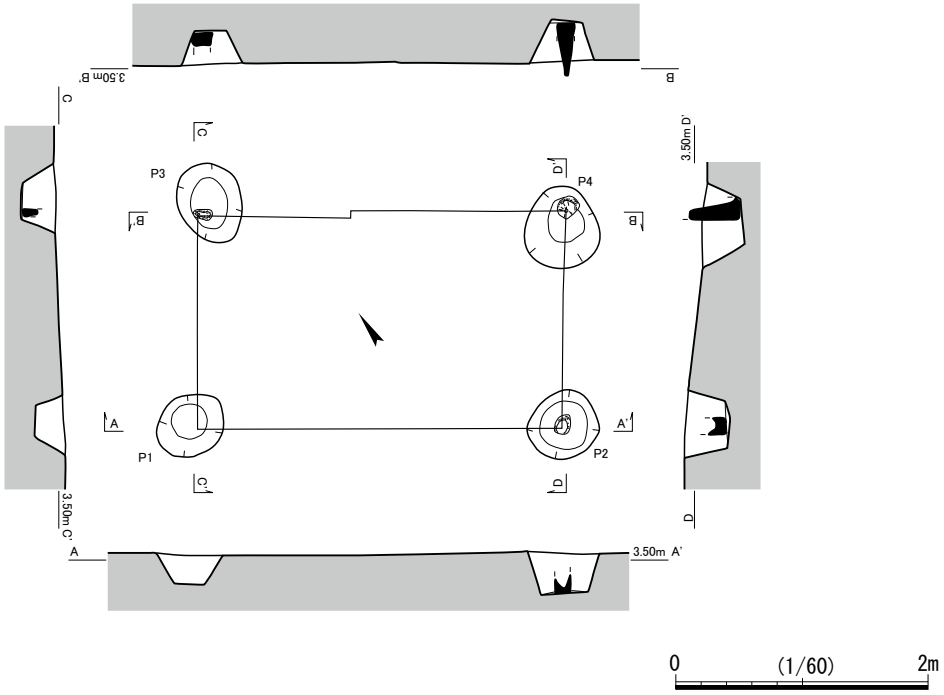


図108　SB1015・1017掘立柱建物跡（1/60）

（3）土坑

ＳＫ１００１

V-26 区画に位置する。他の 10 区内に確認される遺構の中で本遺構だけ離れて存在している。平面形態は円形で、規模は長軸 1.64 m、短軸 1.28m、深さ 0.42 mである。

出土遺物は弥生土器の甕が出土している。

ＳＫ１０１４

V-29 区画に位置する。本遺構北側に SB1003・1017、北東に SB1002 といった掘立柱建物跡がみられる。平面形態は楕円形で、規模は長軸 3.06 m、短軸 2.56 m、深さ 0.73 mである。

出土遺物は須恵器や土師器の高台付杯や甕、皿が出土している。

2 層から 4 層にかけての遺物の混入状態、また壁面に被熱の痕跡が見あたらないため廃棄土坑の可能性が考えられる。また遺物の特徴から同じ 10 区内の SB1005・1007・1008 と伴う可能性がある。

ＳＫ１０１６

V-32 区画に位置する。本遺構南から西にかけて SB1007・1008 掘立柱建物と SH1006・1012 竪穴住居が確認される。平面形態は隅丸方形で、規模は長軸 2.30 m、短軸 1.66 m、深さ 0.38 mである。

出土遺物は弥生土器の甕が出土している。

２，遺物

（1）土器

①　遺構出土土器

弥生土器、土師器、須恵器がある。本文では須恵器と古代の土師器以外は器種から記述している。弥生土器、土師器、須恵器の区別は一覧表に記す。挿図は遺構ごとに掲載した。遺構出土の土器群には混入と考えられる土器も多く見られる。

Ａ　竪穴住居跡出土土器

ＳＨ１００４出土土器

図 112-1 ～ 3 は甕。1、2 は甕口縁部片、逆 L 字形である。3 は甕底部、平底で体部外面はハケ。

ＳＨ１００６出土土器

図 112-4 ～ 6 は甕口縁部片、4 は口縁部長が短く、「く」の字形に折り曲げる。5 は「く」の字形に折り曲げ、端部は丸くおさめる。6 は「く」の字形に折り曲げ、端部は面とりする。

図 112-7 は袋状口縁壺の口縁部片である。

図 112-8 は壺の胴部片、断面蒲鉾形の突帯を回す。外面ハケである。

ＳＨ１００９出土土器

図 112-9、10 は甕口縁部片、9 はやや外反気味、肩部内面ヘラケズリ。10 は逆 L 字形に折り曲げる。

図 112-11 は器台底部片、外面に指頭圧痕あり。

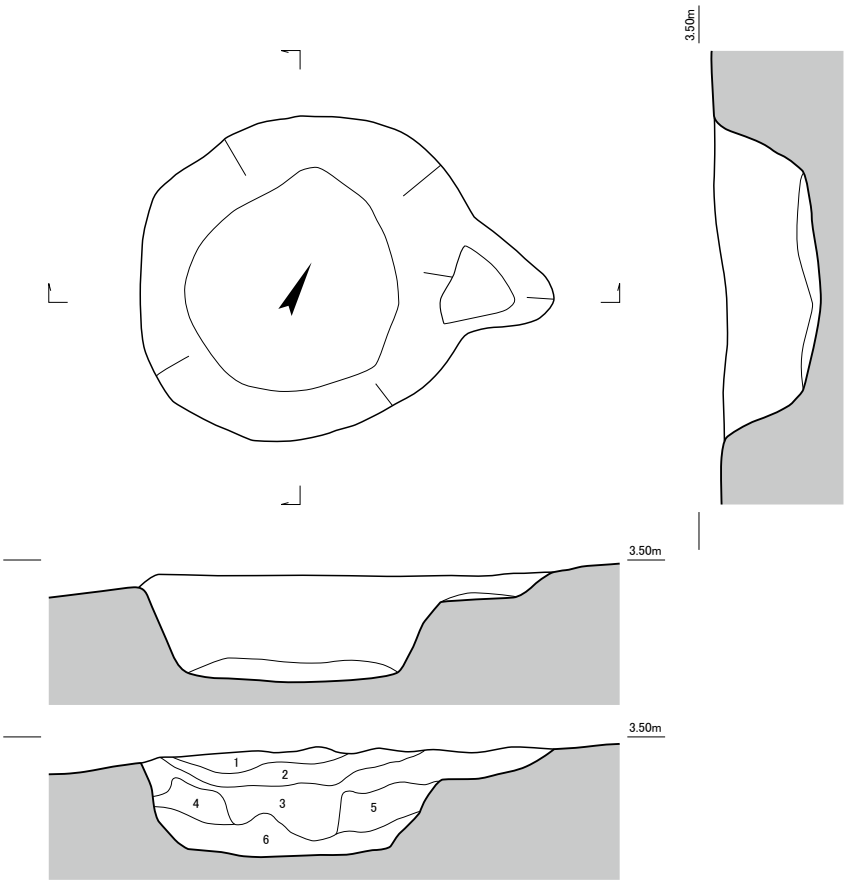
ＳＨ１０１２出土土器

図 113-1 ～ 5 は甕。1、2 は口縁部が直線的で、「く」の字形である。3 ～ 5 は口縁外反気味。1、3、4 は体部内外面ハケ。2 は内面をハケ、外面の胴上半をハケ、胴下半をカキケズリ。5 は肩部内面ヘラケズリ。

図 114-1、2 は甕底部、1 は底部の器壁が厚く、丸底である。2 は器壁が薄く、平底気味。

図 114-3 ～ 5 は鉢。3 は屈曲口縁の鉢、口縁端部外面は面取りし、断面三角形に仕上げる。体部外

SK1001



1. 黒褐色砂質土(10YR 3/2)しまり弱い
2. 黒色粘質土(10YR 2/1)しまり弱い
3. 黒褐色砂質土(10YR 3/2)を主体ににぶい黄褐色砂質土(10YR 5/3)を若干含む マーブル状
4. 黒色粘質土(10YR 2/1)を主体ににぶい黄褐色砂質土(10YR 5/3)を若干含む
5. 4層と同じ
6. にぶい黄褐色砂質土(10YR 5/3)と4層の混

0 (1/30) 1m

図109 SK1001土坑（1/30）

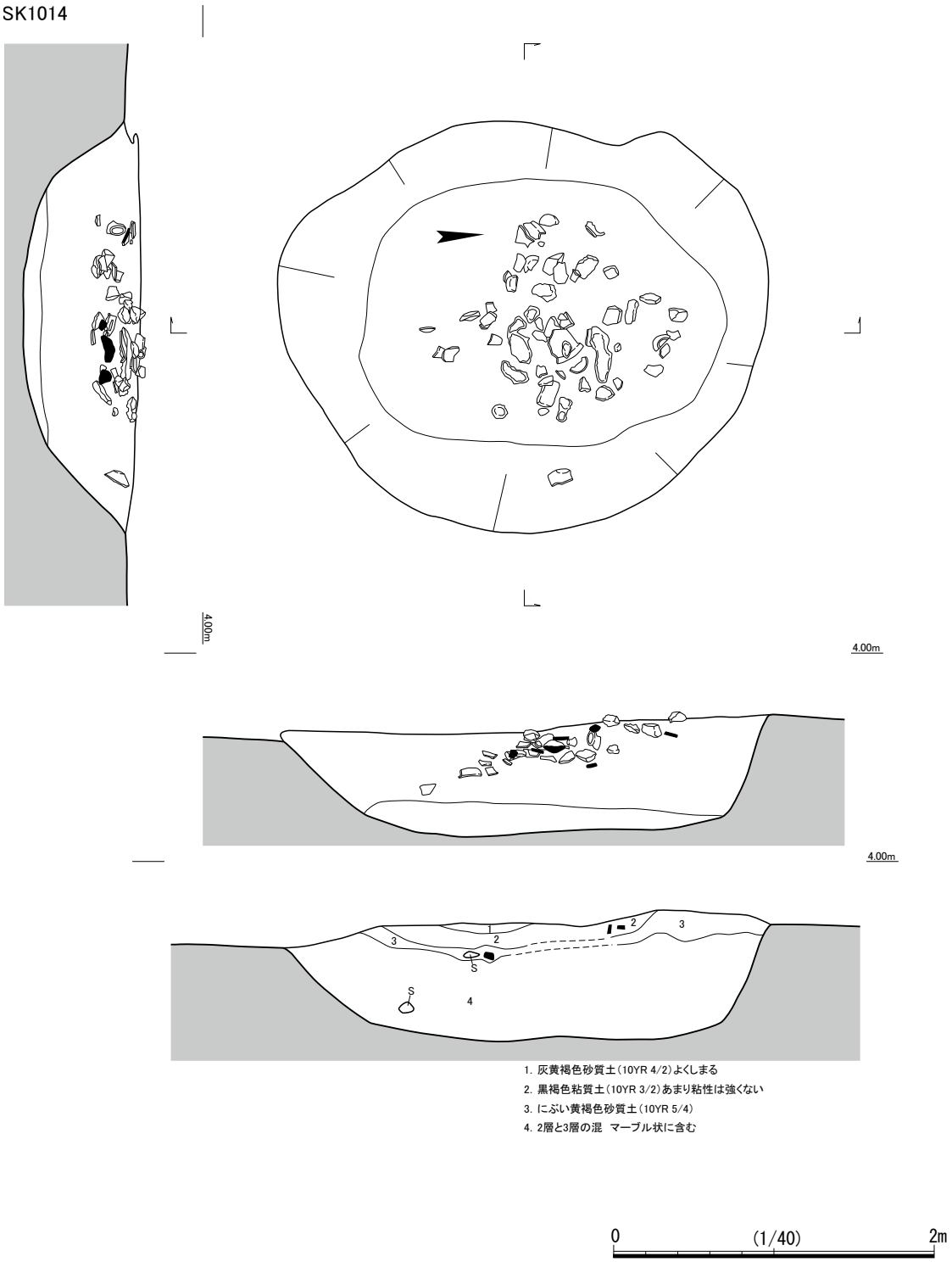


図110　SK1014土坑（1/40）

SK1016

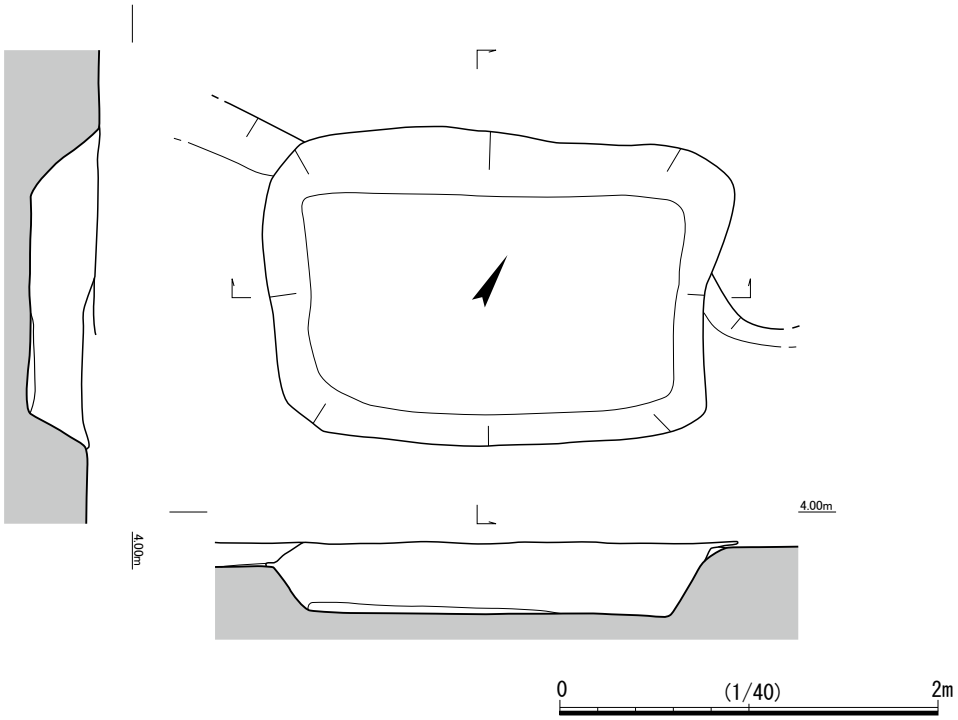


図111　SK1016土坑（1/40）

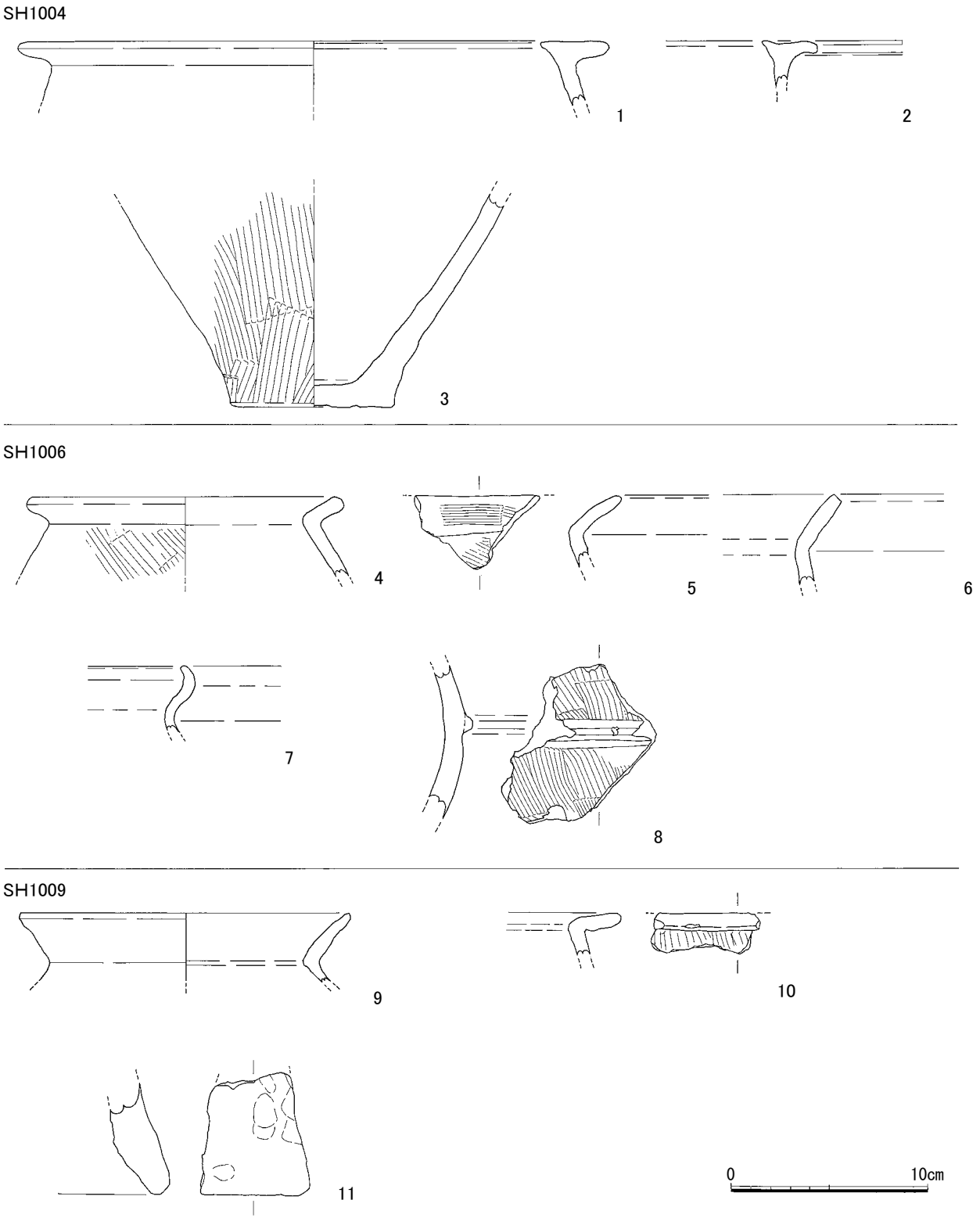


図112　SH1004・1006・1009出土土器（1/3）

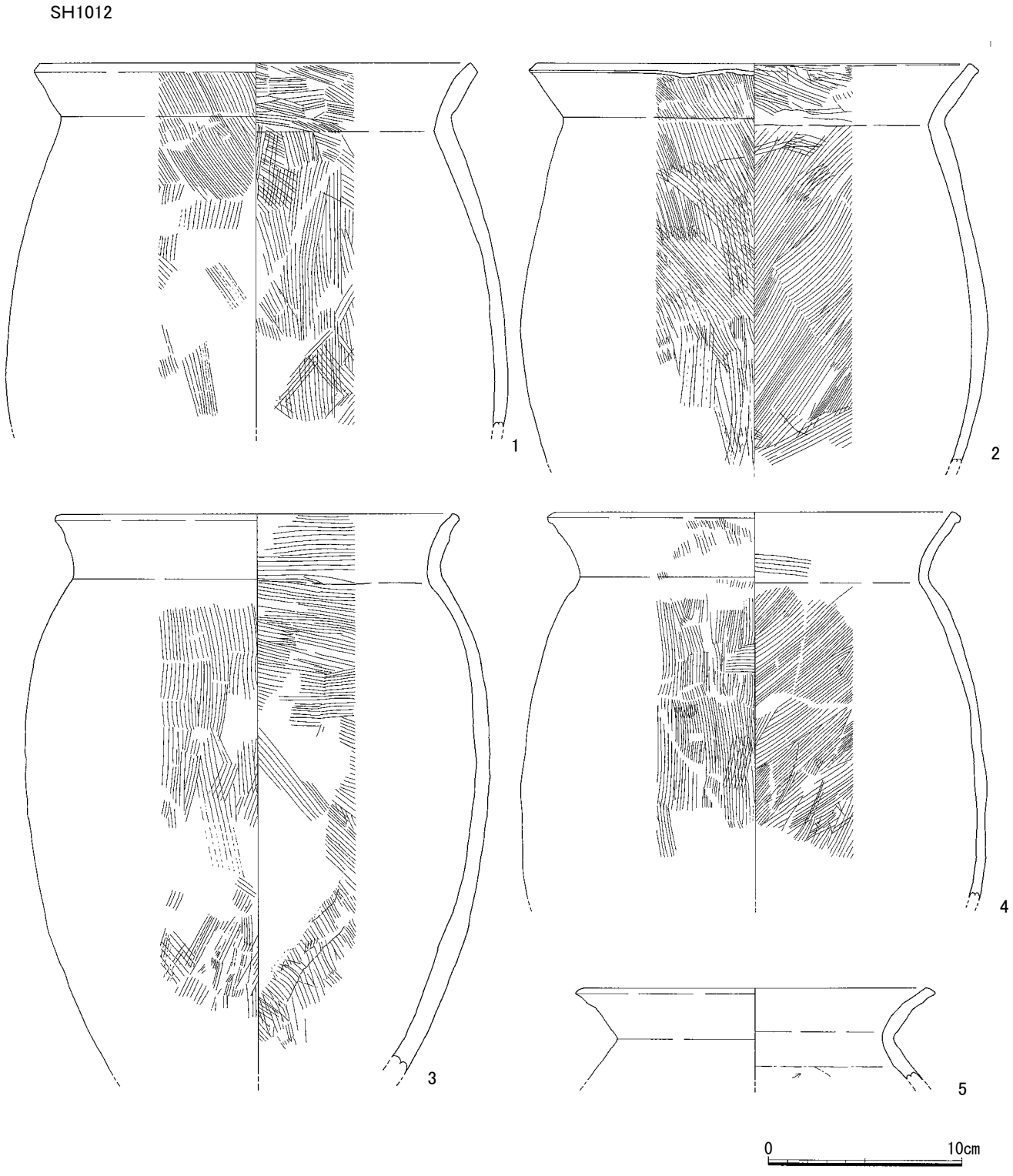


図113　SH1012出土土器（1/3）

面ハケ後ミガキ状、内面ミガキ状である。4 は素口縁の鉢、外面ハケ後カキケズリ状、内面ハケ。5 は屈曲口縁の鉢、外面ハケ後ナデ。

B　掘立柱建物跡出土土器

図 114 に SB1003、SB1007、SB1008、SB1011 柱穴出土土器片を掲載する。これら以外にも掘立柱建物柱穴から土器片が出土しているが、胴部片などの小片であるため図示していない。ここでは図化していない土器片を含めて、遺構番号順に出土土器片について記す。

SB1002 は柱穴出土土器がない。

SB1003 は P2 から弥生土器胴部片 4 点出土。P3 から弥生土器甕口縁部片 1 点（図 114-6）、胴部片が十数点出土、弥生後期の土器片がみられる。P4 は壺胴部片（図 114-7）の他、胴部片 6 点出土。P5 は胴部片 11 点出土、弥生後期の土器片がみられる。

SB1005 は柱穴出土土器がない。

SB1007 は P1 から弥生土器胴部片 8 点出土。P2 から弥生土器底部片 2 点（弥生中期、終末）と弥生土器胴部片 3 点出土。P3 から弥生中期甕口縁部小片 4 点、胴部片 9 点、土師器胴部片 1 点出土。P7 から弥生土器胴部片 1 点出土。P8 から弥生中期甕口縁部片 1 点、胴部片 3 点出土。P9 から弥生中期甕底部片 1 点、胴部片 2 点出土。P10 から弥生中期甕底部片 1 点、胴部片 1 点出土。須恵器杯蓋片 1 点（図 114-8）出土。P11 から弥生甕底部片 1 点、弥生中期甕口縁部片 1 点、胴部片 4 点出土。

柱穴出土土器は弥生土器が大半であるが、遺構配置などを加味して遺構の時期は古代と考える。

SB1008 は P1 から古代の須恵器杯蓋片 1 点（図 114-10）、古代の須恵器高台付杯 1 点（図 114-11）、土師器甕口縁部片 1 点出土。P2 から古代の須恵器杯口縁部片 1 点、弥生土器胴部片 13 点、土師器甕胴部片 1 点出土。P3 は弥生土器胴部片 2 点出土。P4 は弥生土器中期の口縁部片 1 点、胴部片 2 点出土。P5 から弥生土器胴部片 4 点出土。P6 から弥生土器中期甕口縁部片 1 点、胴部片 1 点出土。P7 から弥生土器胴部片 9 点、中期の甕口縁部片 1 点出土。P8 から弥生中期の甕口縁部片 1 点（図 114-13）、甕口縁部片 1 点が出土。P9 から古代の須恵器杯蓋片 1 点（図 114-9）、弥生土器胴部片 1 点出土。P10 から古代の土師器甕口縁部片 1 点（図 114-12）、弥生土器頸部片 1 点、胴部片 5 点出土。

SB1010 は P2 から弥生土器胴部片 3 点出土。

SB1011 は P1 から弥生土器甕口縁部片 1 点（図 114-14）出土。

SB1013 は P1 から弥生土器胴部片 2 点出土、P2 から弥生土器胴部片 1 点出土。

SB1015 は P1 から弥生土器胴部片 2 点出土、P2 から弥生土器胴部片 2 点出土、P3 から弥生土器胴部片 2 点出土。

SB1017 は柱穴出土土器がない。

C　土坑出土土器

ＳＫ１００１出土土器

図 115-1、2 は甕。1 は口縁部片、内外面ハケ。2 は底部片、平底ではあるが、側面との稜は丸味をもつ。

ＳＫ１０１４出土土器

図 115-3 は須恵器杯蓋、天井部につまみがつく。

図 115-4 ～ 6 は須恵器高台付杯、4、5 は高台部がハの字形に外方に開く。6 は高台部が短く、端部は若干肥厚し断面台形である。

図 115-7、8 は土師器高台付杯、短い高台部がハの字形に外方に開く。

図 115-9、10 は土師器杯、平底で体部の開きは大きくない。9 は底部回転ヘラ切り。10 は回転ヘラ切り後ナデ。

図 115-11 ～ 13 は土師器甕、11、12 は口縁部～胴部が遺存、口縁部は短く外反する。11 は胴部外面ハケ、内面ヘラケズリ後ナデ、12 はやや器壁が厚く、胴部外面ナデ、内面ヘラケズリ後ナデ。13 は甕底部、平底であり、胎土は 11 と類似。

図 116-1 は土師器皿、体部外面は手持ちヘラケズリ、口縁部内外面ナデ。

図 116-2 は土師器鉢の口縁部片、体部外面はヘラケズリ後ナデ、内面ヘラケズリ。

ＳＫ１０１６出土土器

図 116-3 ～ 5 は甕口縁部片、逆 L 字形である。

図 116-6 は壺の底部片、内外面の色調は橙色である。

D　包含層他出土土器

図 116-7 ～ 9 は甕、7、8 は口縁部～肩部が遺存、7 は口縁部が若干外反気味、肩部外面左上のハケ、内面ヘラケズリ後ハケ。8 は肩部外面に波状文施文しハケ、内面ヘラケズリ後ナデ。9 は甕底部、平底。

図 116-10 は二重口縁壺の口縁部片、口縁部外面に 4 段の櫛描波状文と竹管文を施す。内面ハケ。

図 116-11、12 は広口壺、11 は鋤先口縁で、肩部に胴部最大径がくる。肩部に断面三角形の二条突帯を回す。12 は頸部と肩部に断面台形の突帯を回す。

図 116-13 は鉢で完形。丸底であり、口縁部内外面ナデ。

図 117-1 ～ 4 は須恵器杯蓋。1 は口縁端部を丸くおさめる。2、3 は口縁端部を下方に曲げ、断面三角形に突出させる。2 は須恵器生焼けか土師器か迷う。3 は釦状のつまみあり。4 は口縁部とつまみ部を欠失する。

図 117-5 は須恵器高台付杯片、高台部は断面三角形に退化する。

図 117-6 は須恵器甕の口縁部片、口縁部は外反し、内外ナデ。

図 117-7 は土師器皿片、平底である。

（2）土製品

図 117-8 は土製の円盤。SB1003 から出土。ハケを施す。

図 117-9 ～ 12 は紡錘車である。9 は側面に面取りしており、ミガキを施す。10 ～ 12 は土師器の胴部片を丸く割り転用したものと考えられる。10、11 は上面にハケ、下面にナデを施す。10 は SB1008 からの出土。12 は上面にハケ後ナデ、下面にハケを施す。

（3）石器

図 117-13 は平面紡錘形を呈する泥岩製の石錘である。上部は欠損しており、破損部近くには穿孔による紐孔が貫通する。表面は研磨によって面取りされている。

図 117-14 は凝灰岩製の棒状敲石。基部、刃部共に欠損しており、胴部には敲打痕が確認できる。

図 117-15 は SH1012 から出土した砂岩製の置砥。裏面全体が被熱しており、一部表面が欠損している。

図 118-1 ～ 3 は砥石である。1 は泥岩製。SH1012 からの出土。主面は被熱しており、側面は丸みを帯びる。2 は砂岩製。主面、側面は共に平坦であり、定形砥石の一部と考えられる。主面には錆状付

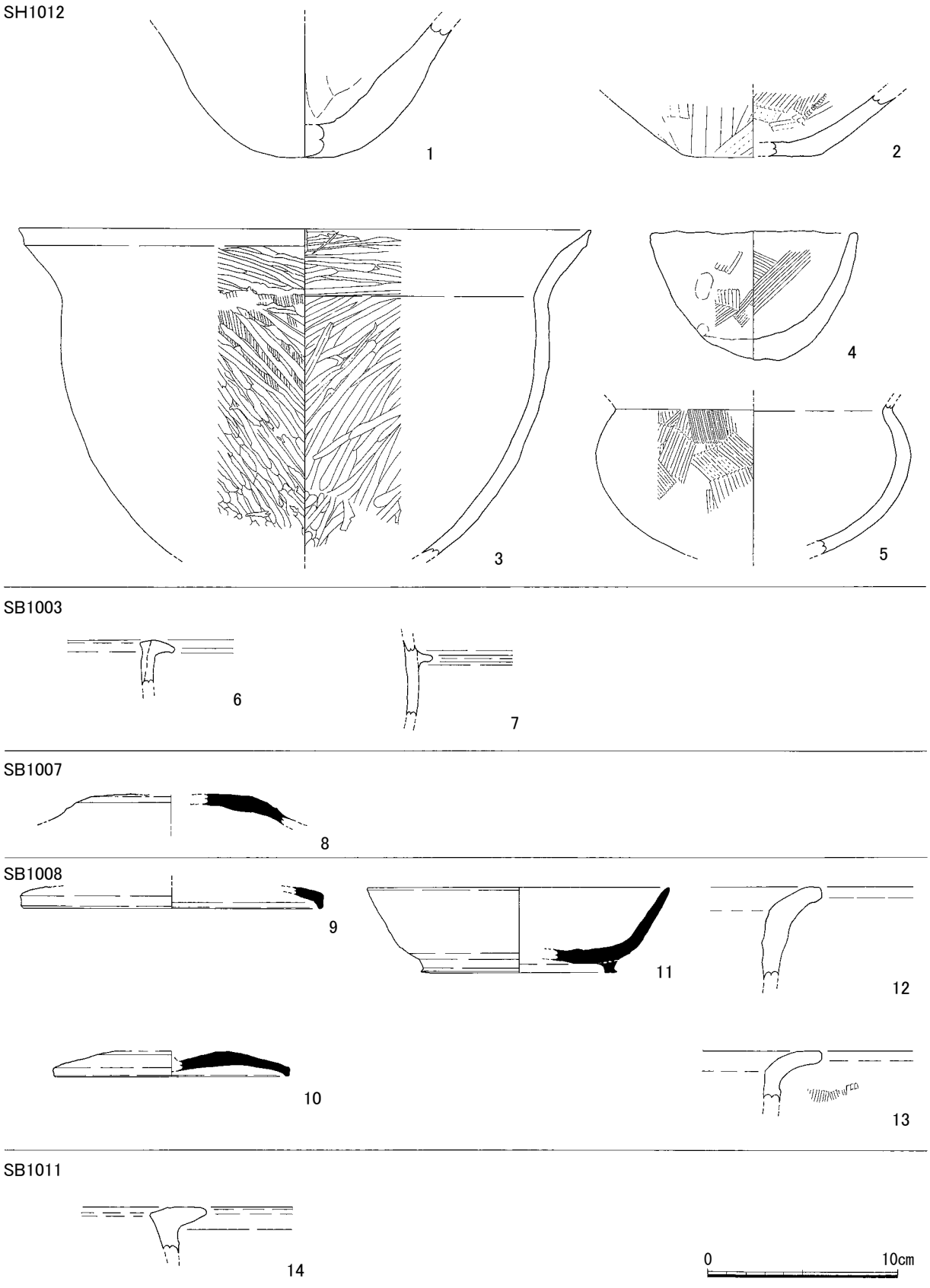


図114　SH1012・SB1003・1007・1008・1011出土土器（1/3）

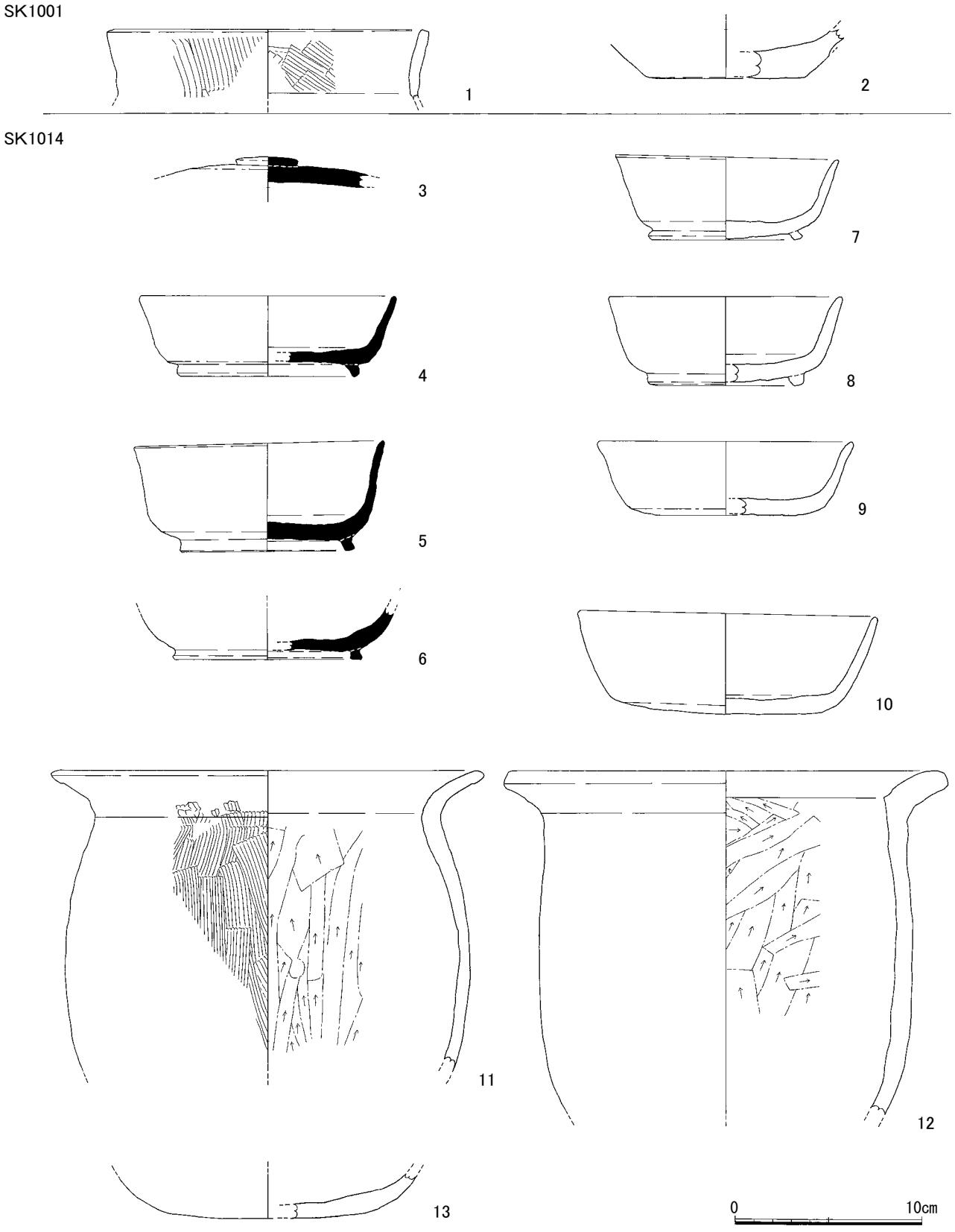


図115　SK1001・1014出土土器（1/3）

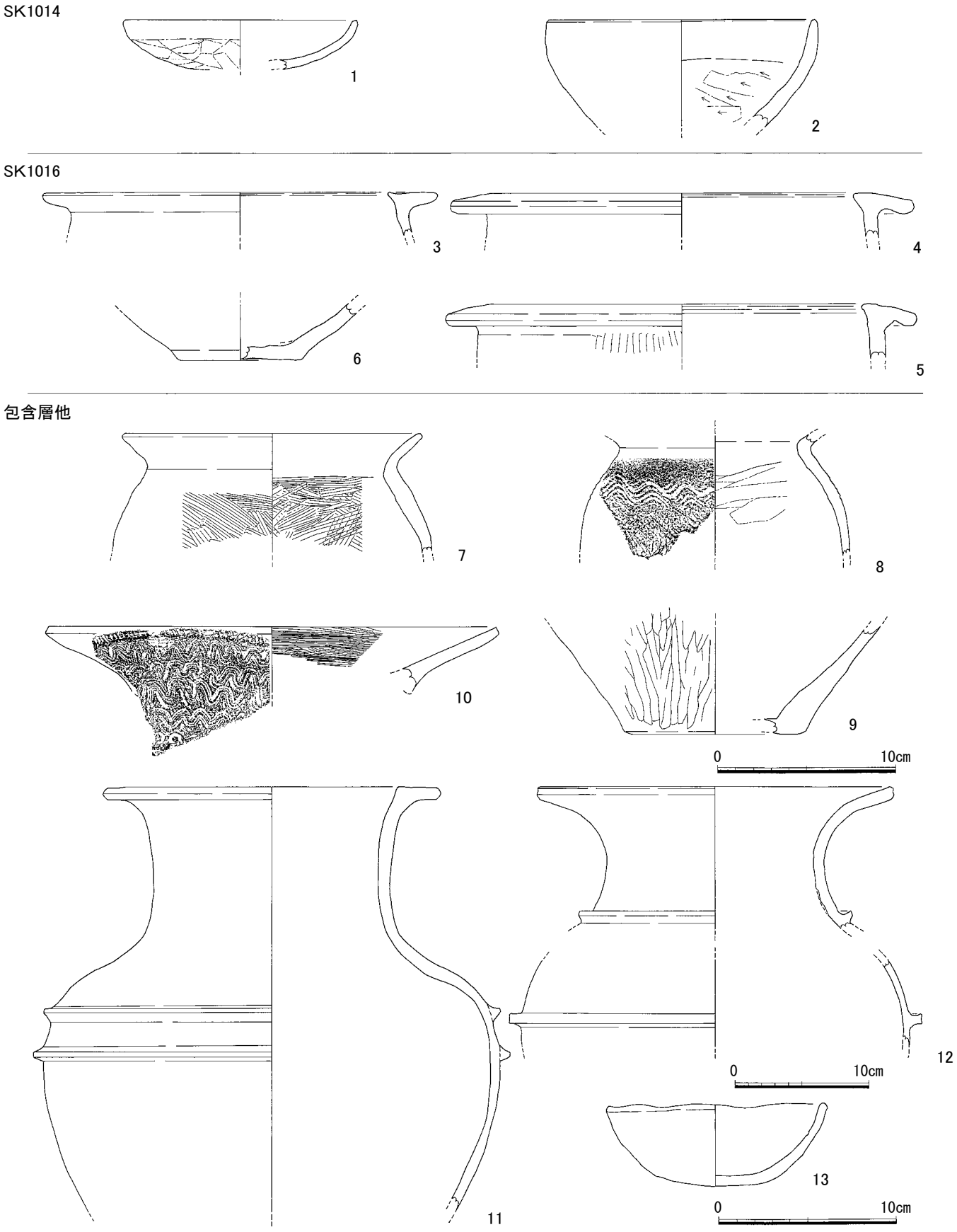


図116　SK1014・1016・10区包含層他出土土器（1/3、1/4）11・12は1/4、他は1/3

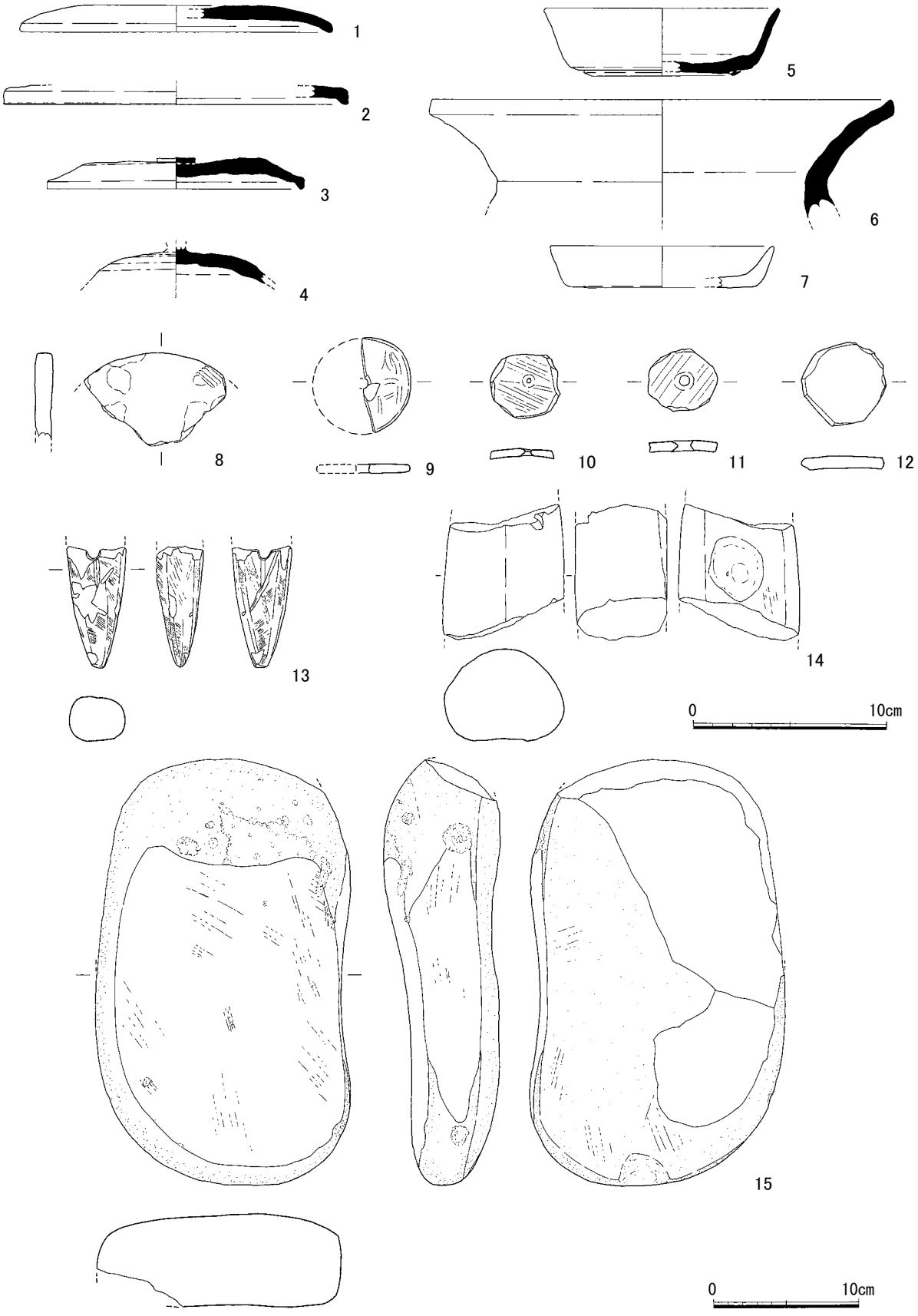


図117　10区包含層他出土土器・土製品・石器（1/3、1/4）15は1/4、他は1/3

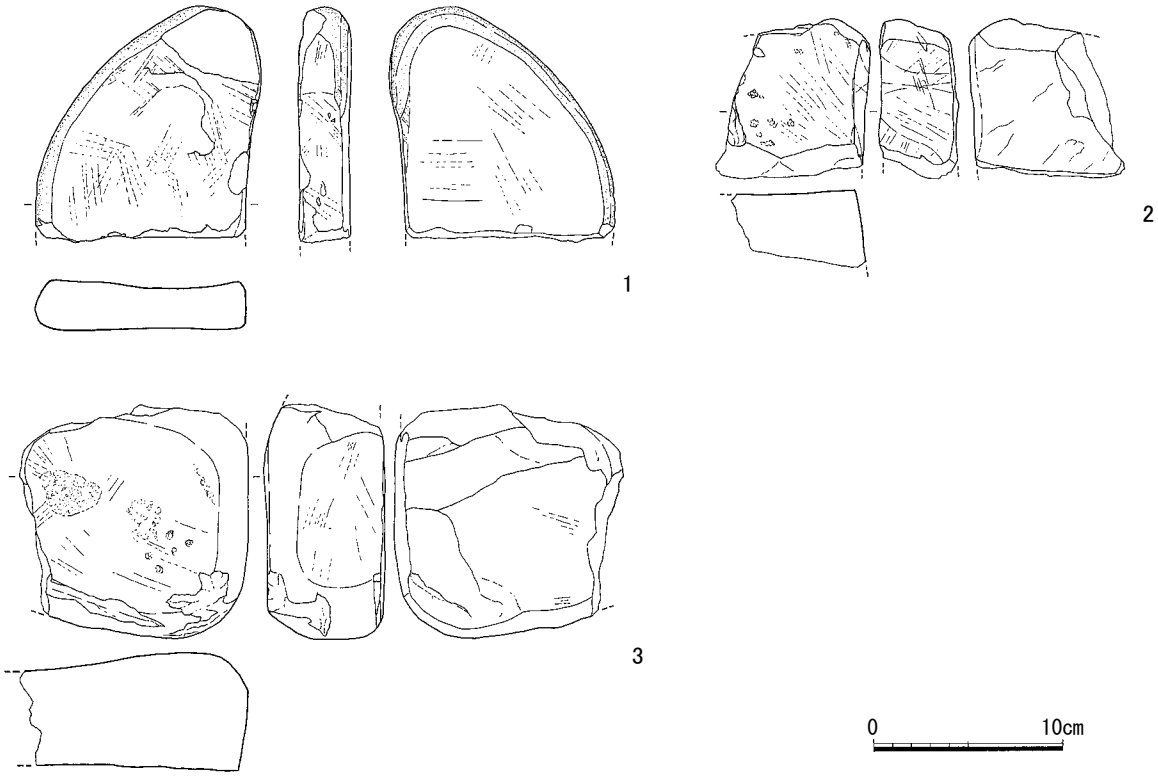


図118　10区包含層他出土石器（1/4）

着物が確認できる。3 は細粒花崗岩製。表面が被熱している。台石としての使用も考えられる。

（4）鍛冶関連遺物

① 羽口

10 区 SK1014 土坑出土の鍛冶関連遺物には羽口、鉄滓がある。掲載した遺物以外にも羽口片が数点、椀形滓、鉄滓がコンテナ 1.5 箱出土した。但し、鉄製品、鉄片は皆無である。SK1014 出土土器は図 115-3 ～図 116-2 であり、その時期は奈良時代である。以下、鍛冶関連遺物について記す。すべて SK1014 土坑出土である。

図 119-1 ～ 6 は羽口である。1 は羽口先端部である。胴部～後端部を欠損する。断面は円形、孔径は約 2cm ～ 2.5cm で、芯棒に巻きつけて成形する。外面に指頭圧痕あり。外全面は青灰色でガラス質部も部分的にみられる。厚さは 2.2cm である。胎土は緻密で硬質である。2 は羽口胴部である。外面にスマキ痕である緩やかな稜線や筋痕がみられる。断面は円形、孔径は 2.3cm で、芯棒に巻きつけて成形する。後端部内面をラッパ状に削り出す。厚さは 1.8cm で、胎土は緻密で硬質である。3 は羽口先端部片である。断面は円形に復元できる。外全面は青灰色でガラス質部も部分的にみられる。厚さは 2.2cm で胎土は緻密で硬質である。4 は羽口胴部である。先端部と後端部を欠損する。断面は円形、孔径は 2.6cm で、芯棒に巻きつけて成形する。後端部内面をラッパ状に削り出す。厚さは 1.9cm で、胎土は砂粒を含むが硬質である。5 は羽口胴部である。先端部と後端部を欠損する。外面に指頭圧痕あり。先端部付近は青灰色である。断面は円形、孔径は 2.2cm で、芯棒に巻きつけて成形する。厚さは 1.6cm で、胎土は砂粒を若干含むが硬質である。6 は羽口胴部である。先端部と後端部を欠損する。先端部付近は青灰色である。断面は円形、孔径は 2.4 ～ 2.9cm で、芯棒に巻きつけて成形する。厚さは 2.5cm で、胎土は砂粒を含むが硬質である。

② 鉄滓

図 120-1 ～ 4 は椀形滓である。1 は平面不整楕円形で側面は凹凸がみられる。上面はやや粗い気孔が散在し、中央部が若干窪む。裏面は平坦気味で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が固着する。1 は平面不整円形である。上面は端部に粗い気孔が散在し、中央部が浅く窪む。裏面は椀形である。3 は側面の一部が破面である。上面は細～粗い気孔が散在する。裏面は椀形で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が固着する。炉床土には径 1 ～ 4mm の白色砂粒が多量に混じる。4 は平面不整長方形で、長径約 19cm と大形の滓である。上面は平坦気味であり、端部に粗い気孔が散在する。裏面は船底状で、気孔が散在する。青灰色の鍛冶炉の炉床土が一部固着する。また、鉢形をした「るつぼ」の口縁部～体部片である可能性も大きい。底部には銅滓（？）が固着するというご教示を得た。

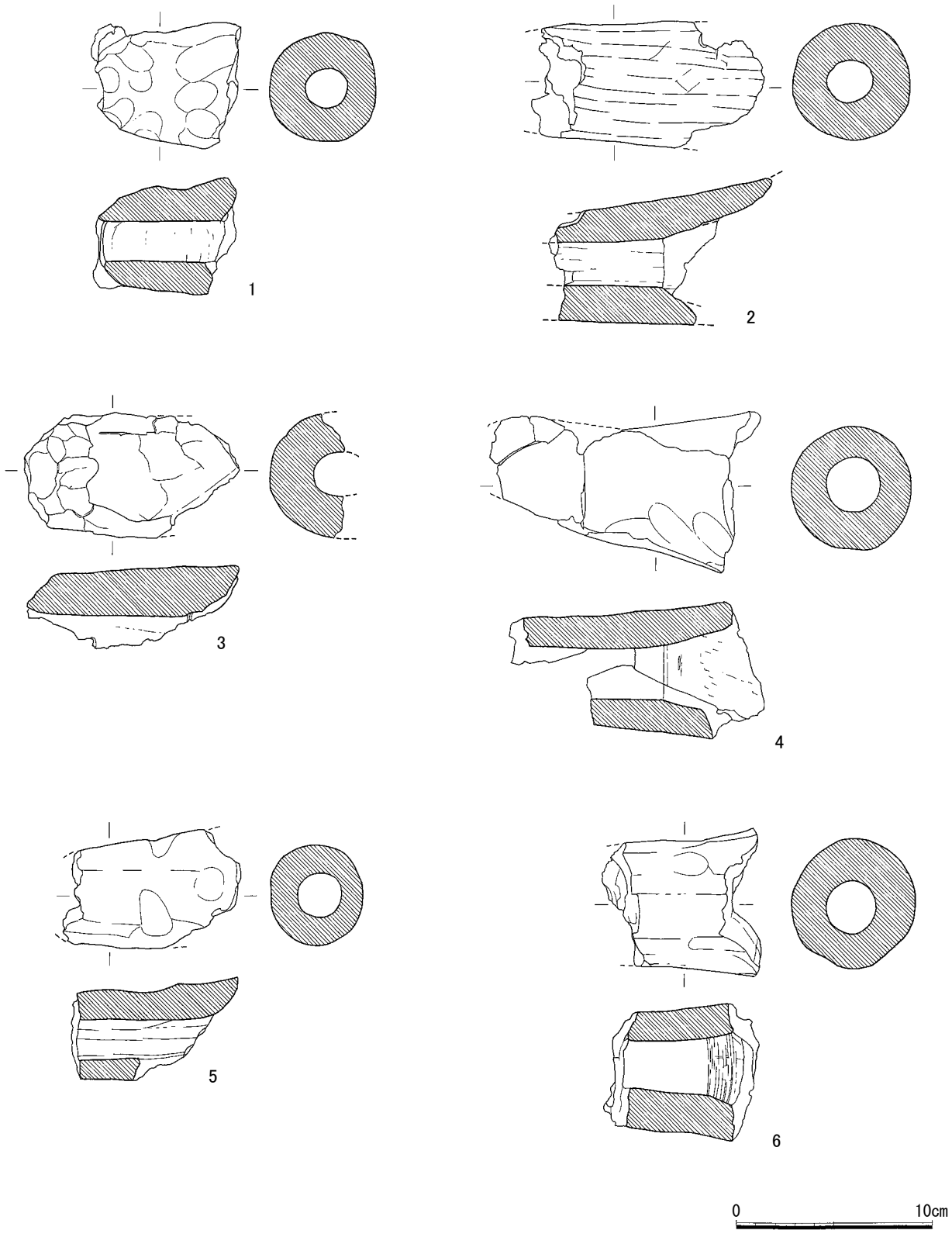


図119　SK1014出土羽口（1/3）

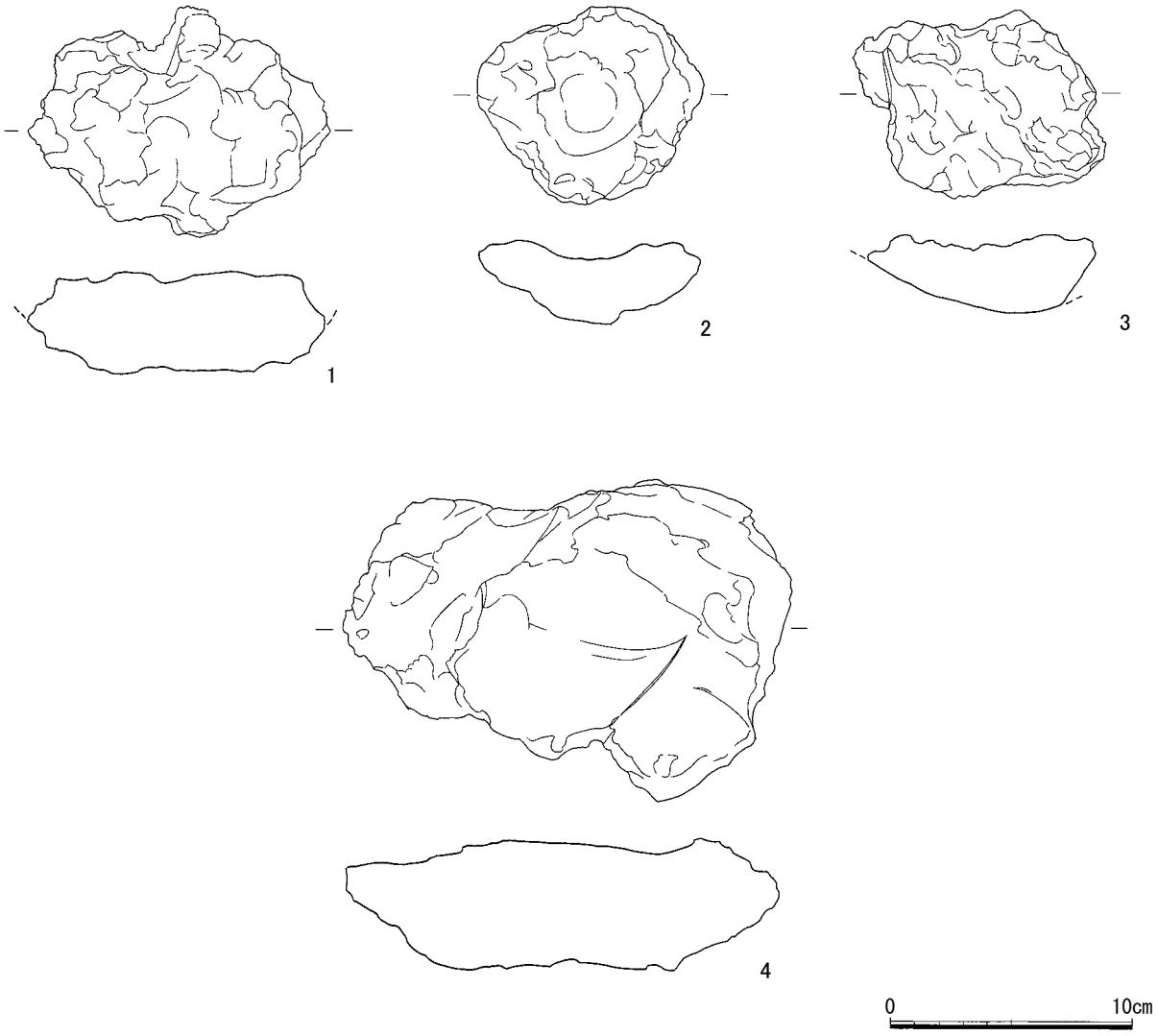


図120　SK1014出土椀形滓（1/3）

表45　10区竪穴住居跡一覧表

遺構番号	区画	平面形	主柱穴	内部施設	規模（m）			時　　期	備　　考
					長軸	短軸	深さ		
SH1004	W･X-34･35	不整形	6		5.94	5.40＋a	0.26		弥生土器出土
SH1006	V-33	不整形			6.00	4.86＋a	0.66		弥生土器出土
SH1009	W-34	方形		炉？	4.40	4.25	0.59		弥生土器出土
SH1012	V-32･33 W-33	方形	3＋1？		6.15	5.45	0.50		弥生土器・砥石出土

表46　10区掘立柱建物跡一覧表

※(　)の値は残存値

遺構番号	区画	規模（桁×梁）	桁(m)		桁主軸（°）	梁(m)		柱穴(m)		面積（㎡）	備　　考	時期
			桁全長	柱間		梁全長	柱間	径	深さ			
SB1002	V-27･28	1×1	2.80	2.80	N68° W	2.00	2.00	0.30～0.50	0.20～0.30	5.60	柱2	
SB1003	U･V-29	3×1	4.40	1.40～1.60	N82° W	3.45～3.60	3.45～3.60	0.50～0.80	0.20～0.40	15.18	弥生甕・壺 円盤状土製品	弥生後期か
SB1005	W-32･33	4×2	7.80	1.80～2.10	N88° E	4.90	2.40	0.30～0.50	0.20～0.40	37.92	弥生甕、柱1	
SB1007	V･W-32	5×2	6.50	1.00～1.50	N3° E	4.30	0.80～2.15	0.40～0.90	0.30～0.60	27.95	土師器坏蓋・甕 須恵器坏蓋・砥石 SB1008を切る	古代
SB1008	V･W-32	3×2	5.40	1.80	N5° E	4.00	2.00	0.40～0.70	0.20～0.50	21.60	土師器甕・紡錘車 須恵器坏蓋・高台坏 SB1007に切られる	古代
SB1010	U-27･28	2×2	2.80	1.40～1.80	N85° W	2.50～2.70	1.30	0.40～0.70	0.20～0.40	7.80	柱1、柱痕1	
SB1011	W-33･34	－	－	－	N12° W	2.60	2.60	0.70～0.90	0.30～0.60		弥生甕	
SB1013	W･X-34	－	(4.15)	1.95～2.20	N66° W	－	－	0.60～0.80	0.30～0.50		弥生土器片	
SB1015	U･V-30･31	1×1	3.00	3.00	N69° W	2.50	2.50	0.40～0.50	0.20～0.30		弥生土器片 柱2	
SB1017	U･V-28	1×1	2.90	2.90	N55° W	1.80	1.80	0.50～0.70	0.30～0.40	4.93	弥生土器片 柱3	

表47　10区土坑一覧表

(　)の数値は残存値

遺構番号	調査区	区画	平面形態	規模（m）			時　　期	備　　考
				長軸	短軸	深さ		
SK1001	10-2	V－26	円形	1.64	1.28	0.42		
SK1014	10-2	V－29	楕円形	3.06	2.56	0.73		
SK1016	10-1	V－32	隅丸方形	2.30	1.66	0.38		

表48　10区竪穴住居跡出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図112－1	SH1004		弥生土器	甕	(29.8)	残存 3.3	外：灰褐色 (7.5YR5/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003962
図112－2	SH1004		弥生土器	甕	—	残存 2.4	外：灰黄褐色 (10YR6/2) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003961
図112－3	SH1004		弥生土器	甕 (底部)	底径 8.25	残存 10.75	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003963
図112－4	SH1006	埋土	弥生土器	甕	—	残存 4.0	外：にぶい褐色 (7.5YR6/3) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	06003965
図112－5	SH1006	埋土	弥生土器	甕	—	残存 3.7	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ナデ、ハケ 内面：ハケ	06003966
図112－6	SH1006	埋土	弥生土器	甕	—	残存 4.6	外：灰褐色 (7.5YR4/2) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003967
図112－7	SH1006	埋土	弥生土器	袋状 口縁壺	—	残存 3.3	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003968
図112－8	SH1006	埋土	弥生土器	壺	—	残存 8.0	外：明赤褐色 (2.5YR5/6) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	06003964
図112－9	SH1009	埋土	土師器	甕	(16.6)	残存 3.5	外：褐灰色 (7.5YR4/1) にぶい橙色 (5YR6/4) 内：灰黄褐色 (10YR5/2) にぶい橙色(5YR6/4)	外面：ナデ、ハケ 内面：ハケ、ヘラケズリ	06003970
図112－10	SH1009	埋土	弥生土器	甕	—	残存 2.2	外：褐灰色 (7.5YR4/1) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	06003969
図112－11	SH1009	埋土	弥生土器	器台	—	残存 6.2	外：にぶい橙色 (7.5YR7/6) 内：灰褐色 (7.5YR6/2)	外面：指頭圧痕、ナデ 内面：ナデ	06003971
図113－1	SH1012	埋土 P120	弥生土器	甕	(22.6)	残存 18.7	橙色(10ＹＲ7/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003835
図113－2	SH1012	№3	弥生土器	甕	(23.0)	残存 20.7	外：褐灰色 (7.5YR4/1) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 褐灰色(7.5YR5/1)	外面：胴上半ハケ、胴下半カキケズリ状 内面：ハケ	06003837

表49　10区竪穴住居跡出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図113 - 3	SH1012	№3	弥生土器	甕	(20.6)	残存 28.7	外：明赤褐色 (5YR5/6) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003838
図113 - 4	SH1012	埋土	弥生土器	甕	(21.0)	残存 19.9	外：橙色(7.5YR7/6) 内：明褐灰色 (7.5YR7/2)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003834
図113 - 5	SH1012	埋土	土師器	甕	(18.4)	残存 4.7	外：黒褐色 （10YR3/1） 外内：灰黄褐色 （10YR6/2）	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06003836
図114 - 1	SH1012	埋土	弥生土器	甕 (底部)	底径 (3.0)	残存 7.0	外：にぶい赤褐色 (5YR5/3) 内：にぶい橙色 (5YR6/4) 橙色 (5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003972
図114 - 2	SH1012	埋土	弥生土器	甕 (底部)	底径 (7.4)	残存 3.2	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：カキケズリ状 内面：ハケ	06003974
図114 - 3	SH1012	№2　№5	弥生土器	鉢	(29.8)	残存 17.0	外：橙色(7.5YR7/6) 内：浅黄橙色 （7.5YR8/6）	外面：ハケ後 ミガキ状 内面：ミガキ状	06003833
図114 - 4	SH1012	№1	弥生土器	鉢	10.8	7.8	外：黄灰色 (2.5Y4/1) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ後カキケズリ 内面：ハケ	06003960
図114 - 5	SH1012	埋土	弥生土器？ 土師器？	鉢	—	残存 7.9	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：橙色 (5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：不明瞭	06003973

表50　10区掘立柱建物跡出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図114 - 6	SB1003	P3	弥生土器	甕	—	残存 2.4	橙色 (2.5YR6/8)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003980
図114 - 7	SB1003	P4	弥生土器	壺	—	残存 4.0	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003981
図114 - 8	SB1007	P10	須恵器	杯蓋	—	残存 1.55	外：灰色(N4/0) 内：灰色(5Y6/1)	外面：回転ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ	06002901
図114 - 9	SB1008	P9	須恵器	杯蓋	(15.4)	残存 1.1	灰黄褐色(10YR5/2)	外面：ナデ 内面：回転ナデ	06002904
図114 - 10	SB1008	P1	須恵器	杯蓋	(12.4)	1.3	外：灰色(N4/0) 内：灰色(5Y4/1)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06002903
図114 - 11	SB1008	P1	須恵器	高台 付杯	(15.8)	4.45	外：灰白色(5Y8/1) 内：灰色(N6/0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06002902
図114 - 12	SB1008	P10	土師器	甕	—	残存 3.8	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：灰褐色 (7.5YR5/2)	外面：ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	06002906

表51　10区掘立柱建物跡出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図114－13	SB1008	P8	弥生土器	甕	—	残存 2.7	外：灰褐色 (7.5YR4/2) 内：にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	06003830
図114－14	SB1011	P1	弥生土器	甕	—	残存 2.4	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003829

表52　10区土坑出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図115－1	SK1001		弥生土器	甕	(17.0)	残存 3.75	外：浅黄橙色 (10YR8/3) 内：暗灰色(N3/0)	外面：ハケ 内面：ハケ	06003978
図115－2	SK1001		弥生土器	甕	—	残存 2.6	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：不明瞭 内面：不明瞭	06003977
図115－3	SK1014	№43	須恵器	杯蓋	—	残存 1.6	外：灰白色 (10YR8/2) 内：灰白色(5Y8/1)	外面：回転ヘラケリ後ナデ 内面：不明瞭	06002908
図115－4	SK1014	№48	須恵器	高台 付杯	(13.6)	4.2	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色(5YR7/6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06002909
図115－5	SK1014	№29	須恵器	高台 付杯	13.25	5.9	灰色(N5/0)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06002988
図115－6	SK1014	№10	須恵器	高台 付杯	—	残存 2.7	外：灰白色 (10YR8/2) 内：灰白色 (2.5Y8/1)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	06002910
図115－7	SK1014	№6	土師器	高台 付杯	(11.75)	残存 4.2	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06002983
図115－8	SK1014	№41	土師器	高台 付杯	(12.4)	4.7	外：浅黄橙色 (7.5YR8/3) 内：浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06002905
図115－9	SK1014	№18	土師器	杯	(13.6)	3.9	外：浅黄橙色 (10YR8/3) 内：にぶい橙色 (5YR7/4)	外面：回転ナデ、回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	06002986
図115－10	SK1014	№22	土師器	杯 (大坏)	(15.8)	5.2	外：明赤褐色 (5YR5/6) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：不明瞭、回転ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	06002987
図115－11	SK1014	№20	土師器	甕	(24.8)	残存 15.95	外：浅黄橙色 (7.5YR8/3) 内：橙色(5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ後ナデ	06002989

表53　10区土坑出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図115－12	SK1014	№34	土師器	甕	(23.4)	残存 18.2	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：褐灰色 (10YR5/1)	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ 後ナデ	06002907
図115－13	SK1014	№8	土師器	甕 (底部)	底径 (11.4)	残存 2.4	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外面：不明瞭 内面：回転ナデ	06002984
図116－1	SK1014		土師器	皿	(13.0)	残存 2.7	灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ナデ､ヘラケズリ 内面：ナデ	06002913
図116－2	SK1014		土師器	鉢	(15.0)	残存 5.95	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ヘラケズリ 後ナデ 内面：ヘラケズリ	06002911
図116－3	SK1016		弥生土器	甕	(22.0)	残存 2.4	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003827
図116－4	SK1016		弥生土器	甕	(25.7)	残存 2.7	外：灰黄橙色 (10YR8/3) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003824
図116－5	SK1016		弥生土器	甕	(26.2)	残存 3.0	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	06003825
図116－6	SK1016		弥生土器	壺	—	残存 3.1	外：橙色(2.5YR6/6) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003826

表54　10区包含層他出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図116－7	10－2	P52	土師器？	甕	(16.7)	残存 6.65	外：灰黄褐色 (10YR5/2) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ 後ハケ	06003831
図116－8	10－1	調査区東壁 包含層	土師器	甕	—	残存 6.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 灰黄褐色(10YR4/2) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ 後ナデ	06003976
図116－9	10－1	P47	弥生土器	甕 (底部)	—	残存 6.05	外：黒褐色(5YR3/1) 内：灰褐色 (7.5YR6/2)	外面：ミガキ状 内面：ナデ	06003975
図116－10	10－1	P20	弥生土器	二重口 縁壺	26.0	残存 4.5	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：櫛描波状文、 竹管文 内面：ハケ	04000041
図116－11	10－1	P2	弥生土器	壺	(25.2)	残存 31.8	橙色（7.5YR6/6）	外面：ナデ 内面：ナデ	06003832
図116－12	10－1	P2	弥生土器	広口壺	(26.6)	残存 10.85	橙色（7.5YR6/6）	外面：ナデ 内面：ナデ	06003839 06003840
図116－13	10－1	P1	弥生土器	鉢	12.5	4.6	外：浅黄橙色(7.5YR8/6) 内：にぶい黄橙色(10YR7/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	06003828

表55　10区包含層他出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図117－1	10－2	東西トレンチ V-30 黒褐色土層	須恵器	杯蓋	(16.1)	残存 1.4	外：灰色(N6/0) 内：灰白色 (2.5Y8/1)	外面：ヘラケズリ 後ナデ 内面：ナデ	06002915
図117－2	10－1	P69	須恵器 (生焼き)	杯蓋	(17.1)	1.0	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 橙色(5YR7/6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	06002900
図117－3	10－2	東西トレンチ V-30 黒褐色土層	須恵器	杯蓋	13.2	1.6	灰色(N6/0)	外面：ヘラケズリ 後ナデ 内面：ナデ	06002916
図117－4	10－2	東西トレンチ V-26 灰黄褐色 土層	須恵器	杯蓋	—	残存 1.8	灰色(N6/0)	外面：ヘラケズリ 後ナデ 内面：ナデ	06002912
図117－5	10－2	南北トレンチ U-30 灰黄褐色 土層	須恵器	高台 付杯	(12.1)	3.45	灰白色(N7/0)	外面：ナデ 内面：ナデ	06002914
図117－6	10－2	東西トレンチ V-30 黒褐色土層	須恵器	甕	(23.8)	残存 6.1	灰色(N6/0)	外面：ナデ 内面：ナデ	06002917
図117－7	10－1	P116	土師器	皿	(11.5)	2.15	橙色 (7.5YR7/6)	外面：不明瞭 内面：不明瞭	06002899

表56　10区包含層他出土土製品一覧表

＊法量の（　）は復元・推定値

挿図番号	調査区	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					全長(径)	器厚			
図117－8	10－2	SB1003　P5	土製品	円盤	(11.4)	0.95	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	上面：ハケ 下面：ハケ	06003979
図117－9	10－2	P47	土製品	紡錘車	(5.0)	0.5	橙色：(2.5YR6/6)	上面：ミガキ 下面：ミガキ	09003005
図117－10	10－1	SB1008　P7	土製品	紡錘車	3.6	0.45	上面：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 下面：黒色 (10YR2/1)	上面：ハケ 下面：ナデ	09003006
図117－11	10	遺構検出時	土製品	紡錘車	3.6	0.53	上面：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 下面：にぶい橙色 (7.5YR5/4)	上面：ハケ 下面：ナデ	09003007
図117－12	10	遺構検出時	土製品	紡錘車	4.3	0.62	にぶい橙色 (5YR6/4)	上面：ハケ後ナデ 下面：ハケ	09003008

表57　10区包含層他出土石器一覧表

＊法量の（　）は残存値

挿図番号	調査区	出土地点	器種	石材	法量(cm)				備　　考	登録番号
					器長	器幅	器厚	重量(g)		
図117 - 13	10-2	南北トレンチ U-30	石錘	泥岩	(6.2)	(3.05)	(2.4)	44.6		08003874
図117 - 14	10-1	南北トレンチ V-32 W-32	敲石	凝灰岩	(6.95)	(6.2)	(4.7)	396.8		09000716
図117 - 15	10-1	SH1012 No.6	砥石	砂岩	(29.30)	17.55	(8.20)	5320		08003880
図118 - 1	10-1	SH1012	砥石	泥岩	12.50	11.88	3.80	620	被熱	08003877
図118 - 2	10-2	東西トレンチ V-25	砥石	砂岩	(8.4)	(8.15)	(4.2)	322	錆付着	09000718
図118 - 3	10-2	遺構検出時 W-30	砥石	細粒花崗岩	(12.4)	(12.05)	6.4	1535	被熱	09000719

表58　10区鍛冶関連遺物一覧表

挿図番号	調査区	出土遺構	出土地点	種別	法量（cm・g）				備　　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図119 - 1	10-2	SK1014	No.19	羽口	7.2	5.5	2.2	183		06002982
図119 - 2	10-2	SK1014	No.3	羽口	11.8	6.8	1.8	268	スマキ痕あり	06002980
図119 - 3	10-2	SK1014	No.32	羽口	10.8	6.4	2.2	174		06002990
図119 - 4	10-2	SK1014	No.23	羽口	13.8	8.1	1.9	330		06002985
図119 - 5	10-2	SK1014	No.20	羽口	8.5	6.0	1.6	170		06002979
図119 - 6	10-2	SK1014	No.4	羽口	8.1	6.5	2.5	274		06002981
図120 - 1	10-2	SK1014	No.36	椀形滓	9.4	12.4	4.1	409		12001389
図120 - 2	10-2	SK1014	No.24	椀形滓	8.0	9.8	2.7	122		12001388
図120 - 3	10-2	SK1014	No.28	椀形滓	7.2	9.4	3.7	228		12001387
図120 - 4	10-2	SK1014	No.10	椀形滓	13.0	19.4	5.1	1143	「るつぼ」の可能性有り	12001390

Ⅵ.12区の甕棺墓

1，概要

12区にて調査した2基の甕棺墓について記す。前述の甕棺墓2基は13区の甕棺墓群と隣接している。11区で39基、13区で242基の計281基の甕棺墓を調査し、既に『中原遺跡Ⅳ』佐賀県教育委員会2010年で報告している。

2，遺構

ＳＪ１２０５８甕棺墓

S･T-41区画に位置する。西方約1mにSJ12090が、南方約4mにSJ13011、SJ13110、SJ13118がある。墓坑上部は削平され、甕棺墓の南側は攪乱される。上下棺とも底部は削平、攪乱のため欠損する。

上下とも甕の複式棺で、接口式である。上下棺とも口縁部を打ち欠く。埋置角度は9°で水平に近い。下甕から管玉1点が出土した。

ＳＪ１２０９０甕棺墓

S-42区画に位置する。東方約1mにSJ12058が、西方約1.5mにSJ13101、SJ13124が、南方約4mにSJ13011がある。墓坑上部は削平され、甕棺墓の南側は大きく攪乱される。口頸部を打ち欠いた甕の単棺である。埋置角度は53°である。

3，遺物

図123-1はSJ12058上甕である。口縁部を打ち欠き、底部は欠損する。体部は卵形である。胴部最大径のやや下位に断面台形の一条突帯を回す。体部外面はハケ後ナデ、下半部に工具痕あり。内面は摩耗のため調整不明瞭。

図123-2はSJ12058下甕である。口頸部を打ち欠き、胴下部～底部は欠損する。体部は卵形である。胴部最大径に断面三角形の二条突帯を回す。体部内外面ナデ。

図124-1はSJ12090である。口頸部を打ち欠く。底部は平底で、体部は頸部がしまった砲弾形である。

肩部と胴部最大径に断面三角形と台形の一条突帯を回す。体部内外面はナデである。胴下半部に円形の焼成後穿孔あり。

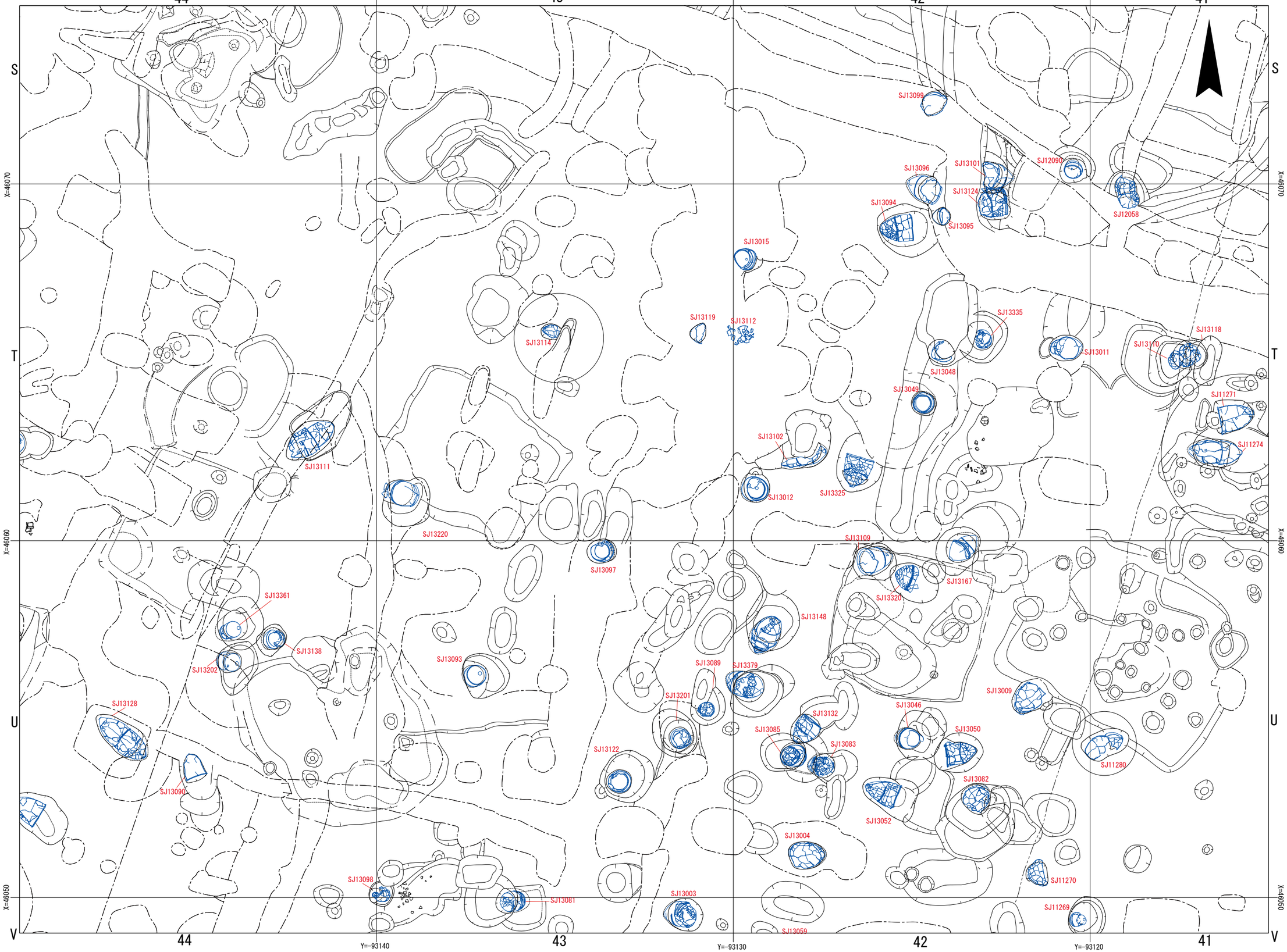
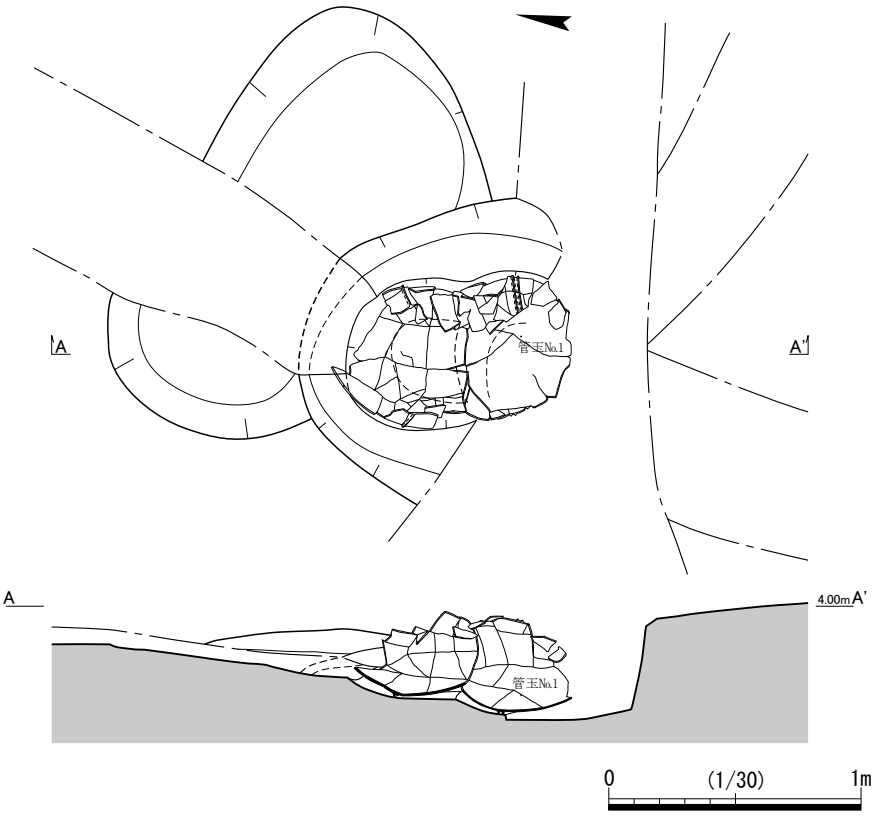


図121　甕棺配置図（1/100）

SJ12058



SJ12090

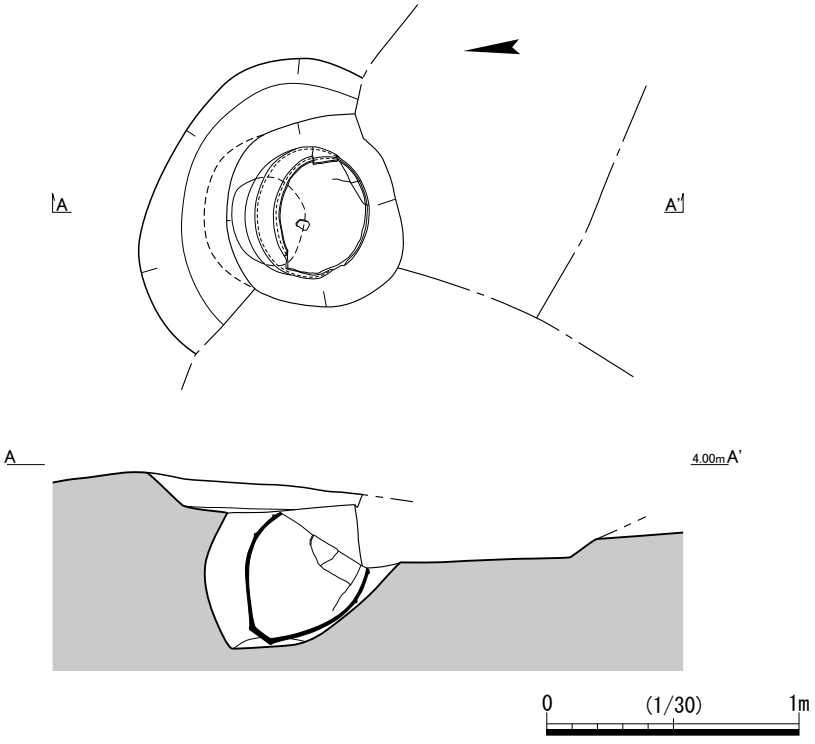
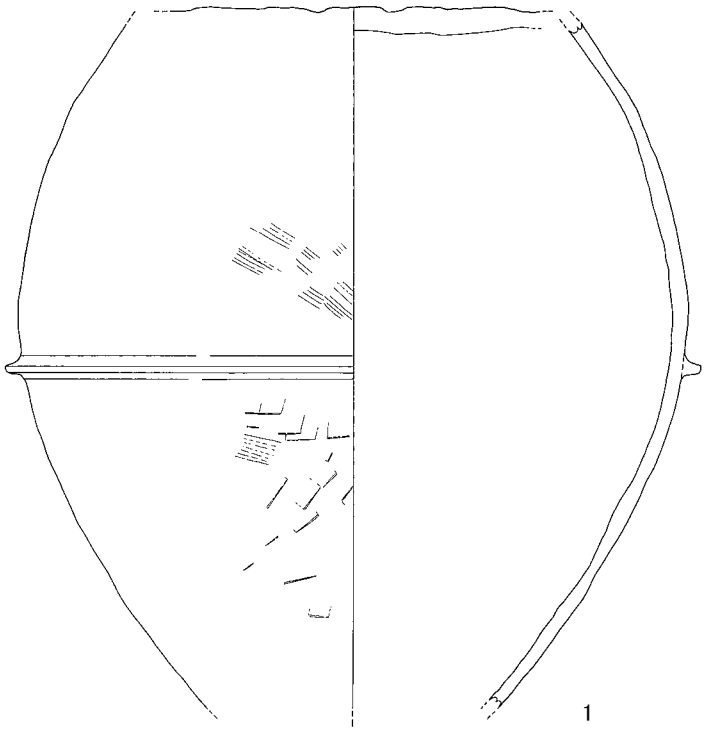


図122　SJ12058・12090甕棺墓（1/30）

SJ12058上



SJ12058下

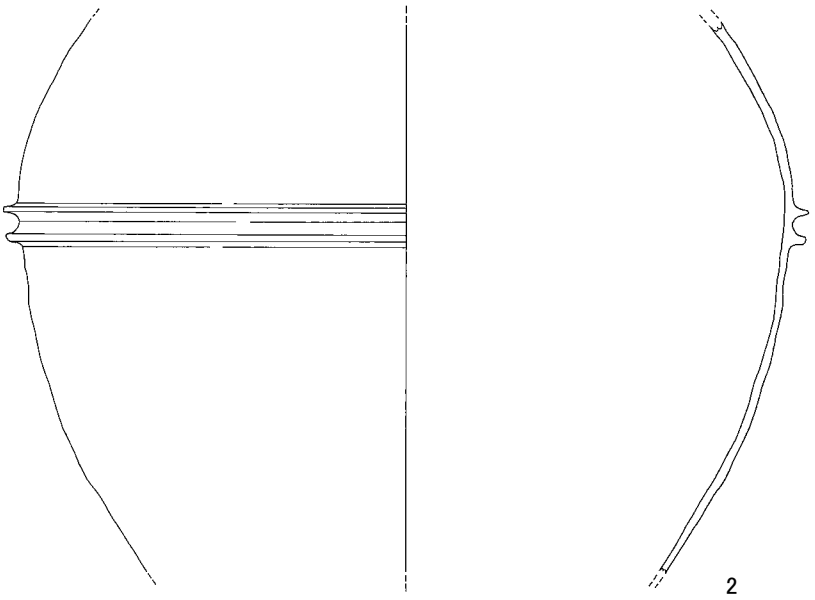




図123　12区出土甕棺１（1/6）

SJ12090

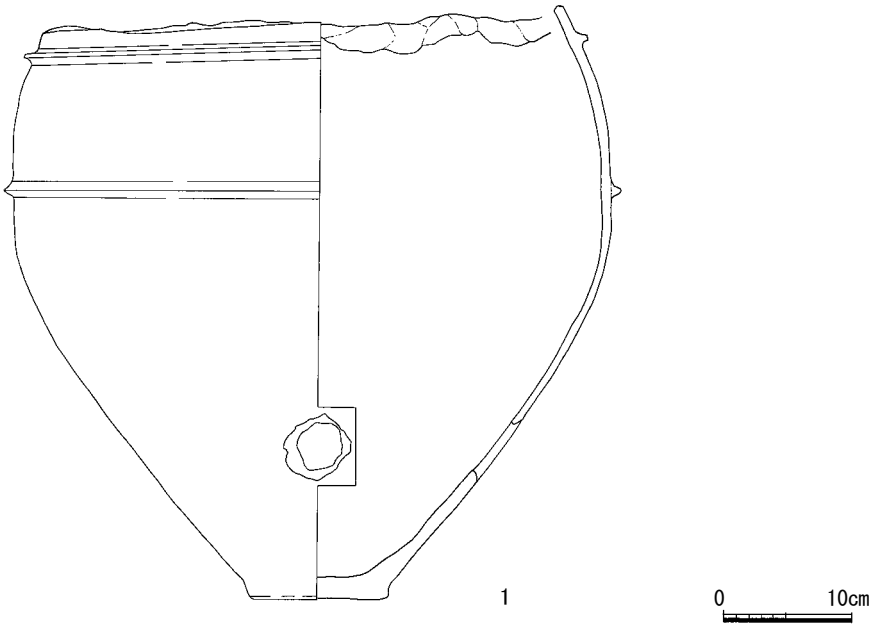


図124　12区出土甕棺２（1/6）

表59　12区出土甕棺墓一覧表

※(　)の数値は残存値

遺構番号	区画	甕棺形式			棺の埋地		1次墓坑				副葬品	備　考
		合わせ口	上甕	下甕	主軸方位（°）	角度（°）	平面形	規模（m）				
								長軸	短軸	深さ		
SJ12058	S･T-41	覆口式	甕	甕	N-10-W	9	楕円形	1.8	1.4	0.4	管玉	
SJ12090	S-42	単棺	—	甕	N-5-E	53	楕円形	1.3	—	0.7	—	

表60　12区出土甕棺一覧表

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(㎝)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図123 - 1	SJ12058 上甕	—	弥生土器	甕棺	—	残存 55.2	外：橙色(5YR6/6) にぶい橙色 (10YR6/4) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ、 ナデ 内面：調整不明瞭	06002878
図123 - 2	SJ12058 下甕	—	弥生土器	甕棺	—	残存 48.0	にぶい黄橙色 (10YR6/3) 一部黒褐色 (2.5Y3/1)	外面：ナデ 内面：ナデ	06002776
図124 - 1	SJ12090	—	弥生土器	甕棺	—	残存 47.15	外：橙色 (2.5YR6/6) (7.5YR7/6) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ 焼成後穿孔	06003820

Ⅶ．11 区、12 区、13 区の出土遺物

１，包含層出土遺物

（１）土器

①１１区出土土器

図 125-1 ～ 5 は弥生土器の甕である。

図 125-1 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。平坦な口縁が伸びる。外面に煤が付着する。2 は口縁部から胴部にかけて 1/5 残存する。平坦な口縁が下にやや下がり、内側の突出が上に傾く。内面に一部煤が付着する。3 は口縁部から胴部にかけて 1/6 残存する。平坦な口縁が伸び、内側への突出する口縁部下には突帯を施す。外面に煤が付着する。4 は口縁部から胴部にかけて 1/7 残存する。平坦な口縁がやや上に傾く。外面に煤が付着する。5 は口縁部から胴部にかけ 1/5 残存する。平坦な口縁がやや上に傾く。1 ～ 5 の内器面にナデを、外器面にはハケを施す。

図 126-1 ～ 4 は弥生土器の甕。1、2 はほぼ完形品。1 は口径 33.0㎝、器高 27.4㎝、底径 10.5㎝である。平坦な口縁がやや上に傾き、内側へ突出する。底は平底で、口縁部下に突帯を施す。内器面にナデ、指頭圧痕を、外器面にはナデを施す。2 は口径 18.7㎝、器高 17.0㎝、底径 7.5㎝である。平坦な口縁が伸び、内側へ突出する。底は平底である。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。内外面に煤が付着する。3 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。平坦な口縁である。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。4 は胴部上部 2/3 残存する。胴部に 3 つの突帯を、肩部に 2 条の突帯を施す。内器面にナデを、外器面にハケを施す。

図 127-1 ～ 7 は弥生土器の甕であり、全て平底である。 1 は底部のみ残存する。内器面にナデ、指頭圧痕を、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。2 は胴部下半部から底部にかけて 3/4 残存する。内器面に工具によるナデを、外器面には粗いハケを施す。 3 は胴部下半部から底部にかけて残存する。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。 4 は胴部中央部から底部にかけて 1/2 残存する。内器面に工具によるナデを、外器面にはハケを施す。 5 は胴部下半部から底部にかけて 3/4 残存する。内器面にナデを、外器面にハケを施す。内面に煤が付着する。 6 は胴部中央部から底部にかけて 1/2 残存する。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。 7 は胴部中央部から底部にかけて 1/3 残存する。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に黒斑がみられる。

図 128-1 ～ 4 は弥生土器の甕。1 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。口縁部は「く」の字口縁になり端部が丸い。内器面にナデを、外器面には粗いハケを施す。2 は口縁部から胴部にかけて 1/6 残存する。3 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。2、3 は口縁が「く」の字口縁で端部が斜めに面とる。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。4 は口縁部から胴部にかけて 1/6 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が斜めに面とる。内器面にハケを、外器面の上半をハケ、下半を工具によるナデを施す。内外面に煤が付着する。

図 129-1 ～ 5 は弥生土器の甕。1 は口縁部から胴部にかけて 1/6 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が斜めに面とる。内外器面にハケを施す。内外面に煤が付着する。2 は口縁部から胴部にかけて 3/4 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が丸い。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。3 は口縁部から胴部にかけて 3/4 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が斜めに面をとり、底部が平底である。内外器面にハケを施す。底部外面に煤が付着する。4 は口縁部から胴部に

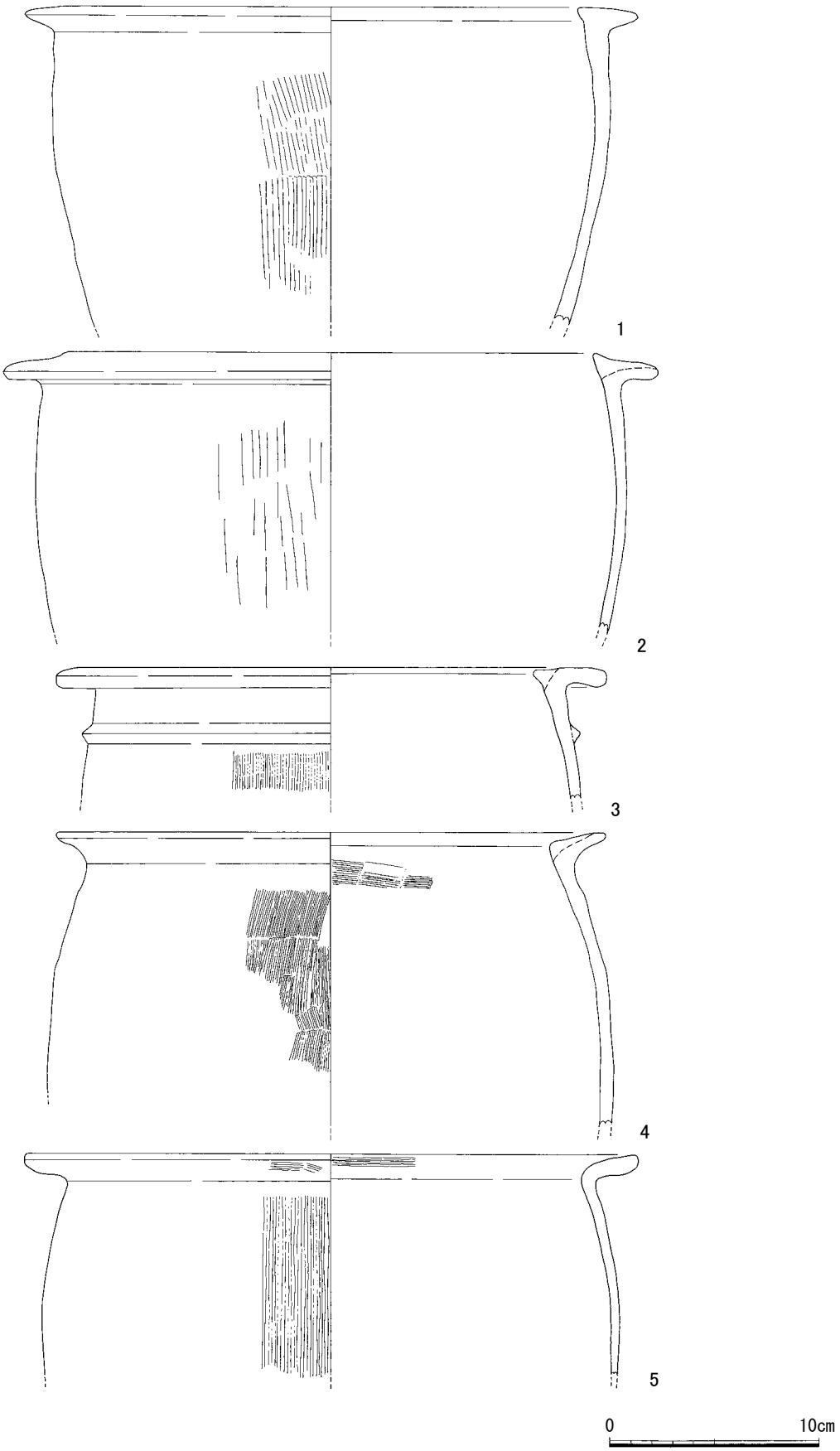


図125　11区包含層他出土土器1（1/3）

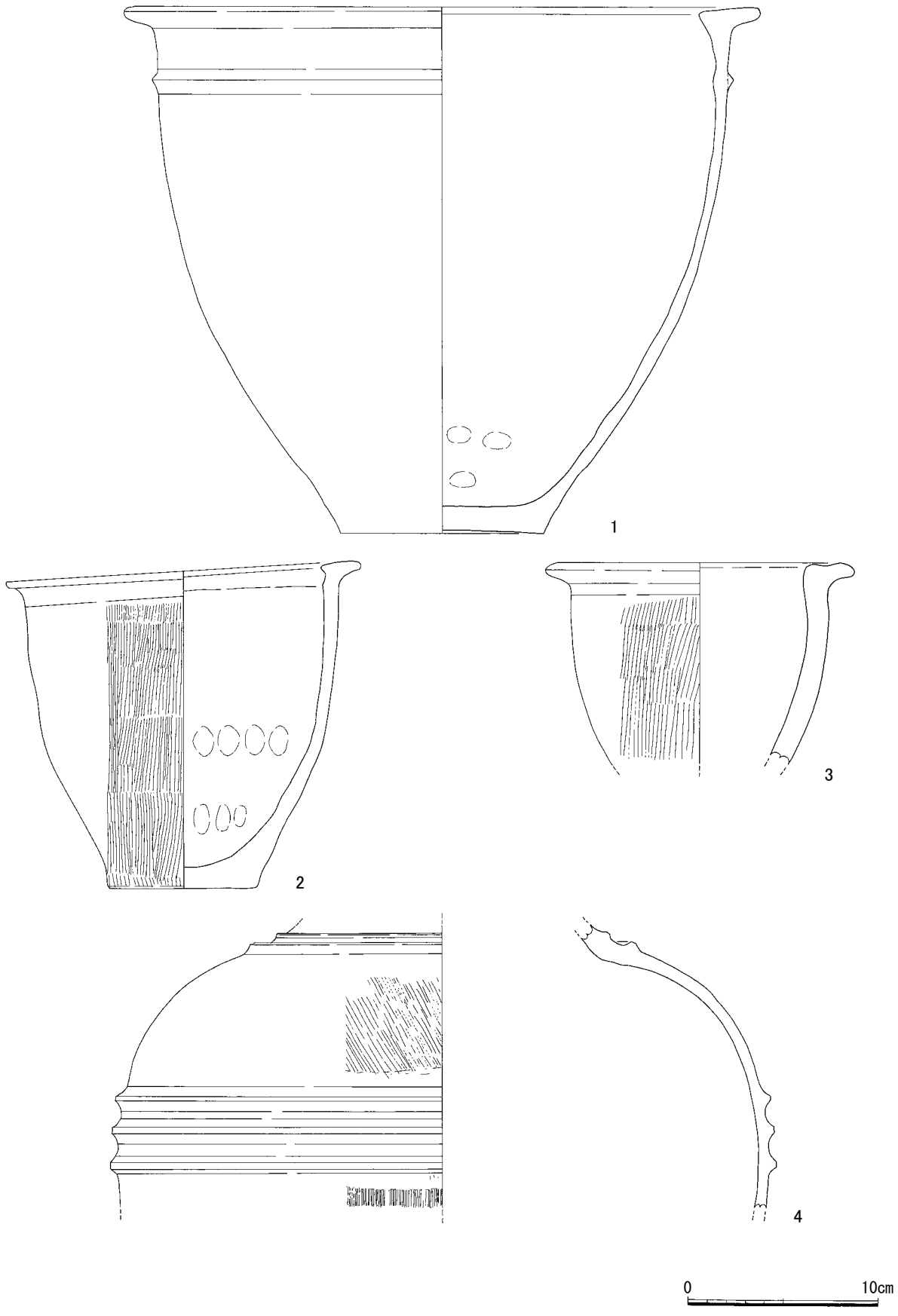


図126　11区包含層他出土土器2（1/3）

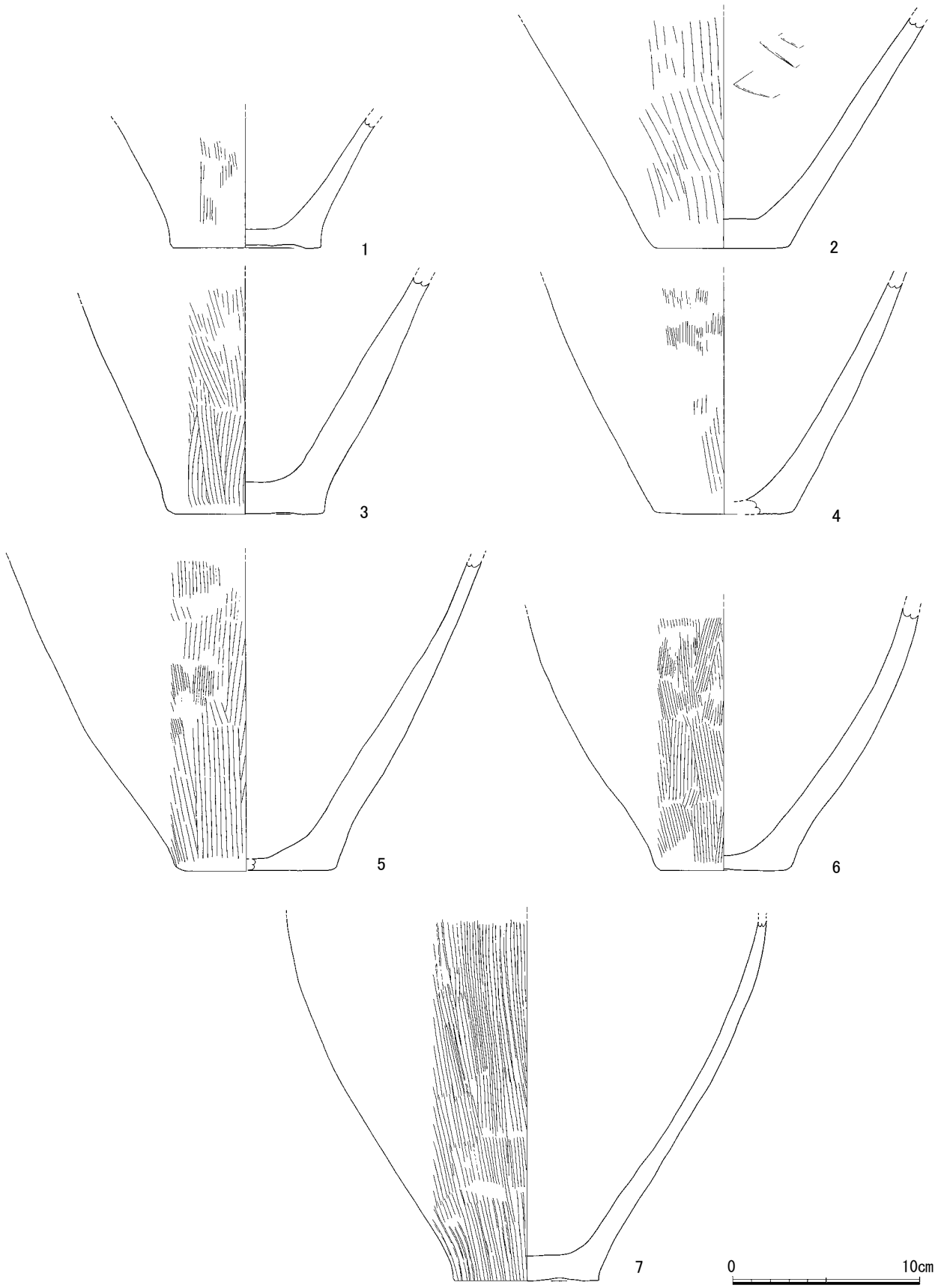


図127　11区包含層他出土土器3（1/3）

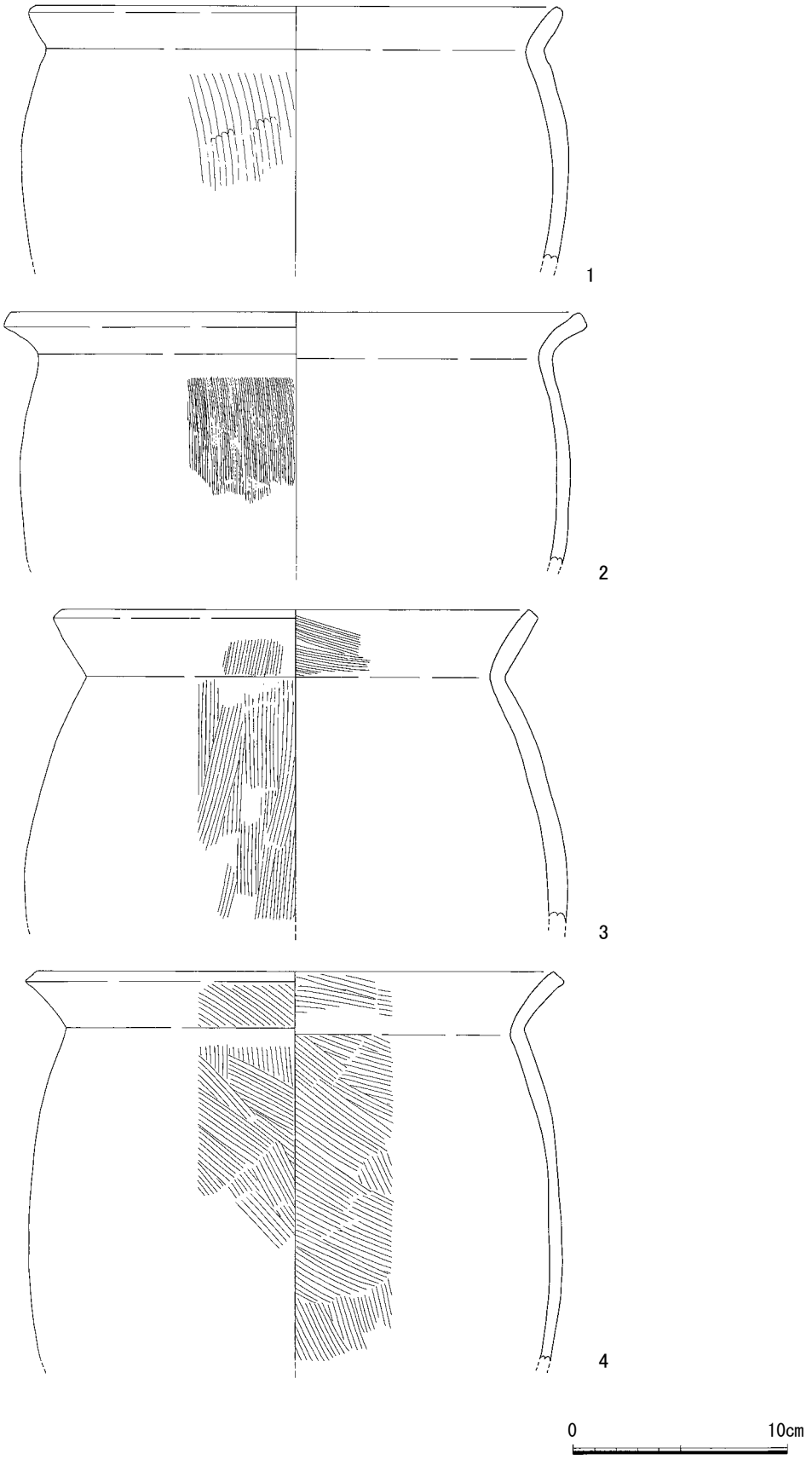


図128　11区包含層他出土土器4（1/3）



図129　11区包含層他出土土器5（1/3）

かけて 4/5 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が丸く、長胴部である。内外器面にハケを施す。5 は口縁部一部欠損、胴部から底部にかけて 2/3 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が斜めに面をとり、底部は丸底である。内器面にハケを、外器面の上半にハケ、下半にカキケズリを施す。内外面の下半に煤が付着する。

図 130-1 は、弥生土器の甕。口縁部から胴部にかけて 1/8 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が斜めに面をとる。内外器面にハケを、口縁外にはタタキ後にナデを施す。

図 130-2 は弥生時代後期の甕棺である。口縁部から底部にかけて 1/6 残存する。口縁部は「く」の字口縁で外に外湾し、底部は丸底である。内外器面にハケを施す。口縁部に刻み目を施し、肩部、胴部中央、胴部下半に 1 つの突帯を施す。

図 130-3 ～ 6 は甕である。3 は口縁部のみで 1/8 残存する。口縁は「く」の字口縁で端部が丸い。内器面にヘラケズリを、外器面にはタタキを施す。4 ～ 6 は口縁が「く」の字口縁で直線的で端部を斜めに面とる。 4 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にヘラケズリを、外器面にハケ後にナデを施す。5 は口縁部から胴部にかけて 1/2 残存する。内器面にヘラケズリ後にナデを、外器面にはハケ後にヨコナデを施す。6 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。内器面にヘラケズリを、外器面にハケを施す。

図 131-1 ～ 8 は甕。1 は口縁部から底部にかけて 3/5 残存する。口縁は「く」の字口縁でやや上に伸びる。底部は平底である。内器面にハケを、外器面にはタタキを施す。2 は口縁部から胴部下半部にかけて 1/2 残存する。口縁は「く」の字口縁で外湾に曲がり端部が丸い。内器面にハケを、外器面には粗いハケを施す。3 は底部のみ残存する。底部は平底である。内器面にナデを、外器面にはタタキを施す。4 は口縁部から胴部にかけて 4/5 残存する。口縁は「く」の字口縁で外湾に曲がり端部が丸い。内器面にハケを、外器面にはタタキ後にハケを施す。5 は胴部のみ残存する。6 は胴部のみ残存。内器面の上半にヘラケズリ、下半にナデを、外器面にはタタキを施す。7 は口縁部から胴部にかけて 1/8 残存する。口縁は「く」の字口縁で外湾に曲がり端部が丸い。内器面にヘラケズリを、外器面には粗いハケ後にハケを施す。8 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。口縁は「く」の字口縁で外湾に曲がり端部が斜めに面とる。内器面にヘラケズリを施す。外器面は不明瞭である。外面に煤が付着する。

図 132-1 ～ 8 は甕。1 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。「く」の字口縁で端部が丸い。内器面にハケを､外器面にはハケ後に工具によるナデを施す｡外面に煤が付着する｡外面に煤が付着している。2 は口縁部から胴部にかけて 2/5 残存する。「く」の字口縁で端部が丸い。内器面にヘラケズリ後に工具によるナデ､ハケを､外器面にはハケ､工具によるナデを施す。3 は口縁部 1/2､胴部の一部が残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。内器面にヘラケズリを、外器面にハケ後にナデを施す。4 は口縁部 1/2、胴部上半 1/3 残存する。「く」の字口縁で端部が丸い。内外器面にナデを施す。5 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にヘラケズリ、ハケを、外器面にはタタキを施す。外面に煤が付着する。6 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。「く」の字口縁で端部が丸い。内器面にナデを、外器面にはハケ、工具によるナデを施す。外面に煤が付着する。7 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。内器面にヘラケズリを、外器面の肩部にハケ後にナデ、胴部にハケを施す。8 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にヘラケズリ後にナデを、外器面にはハケ後にナデを施す。

図 133-1、2 は甕。1 は胴部のみ 3/5 残存する。内器面にハケを、外器面にはハケ後に工具によるナデを施す。2 は口縁部から胴部にかけて 2/5 残存する。内器面に工具によるナデ、ヘラケズリを、外器

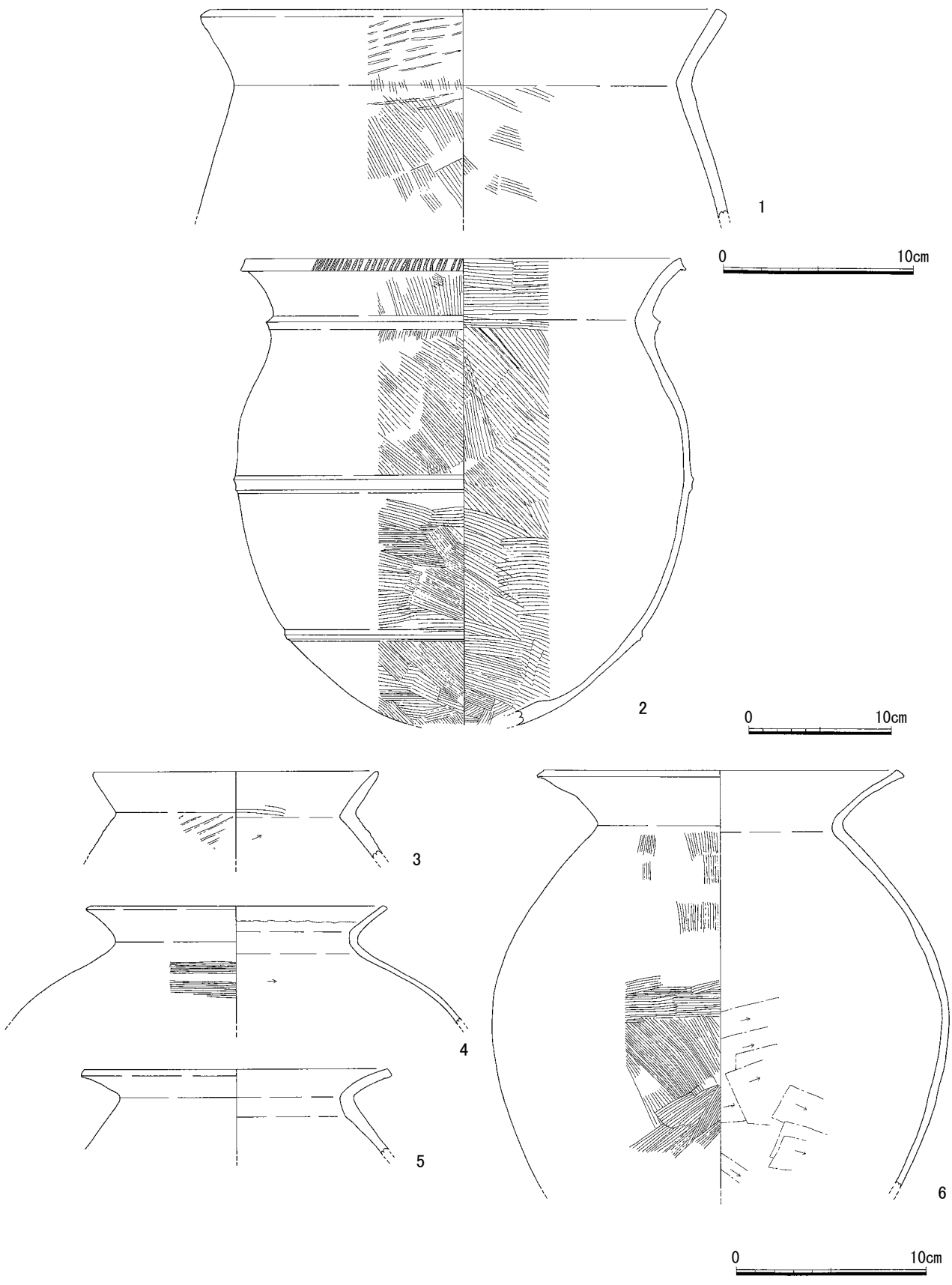


図130　11区包含層他出土土器6（1/3、1/4）2は1/4、他は1/3

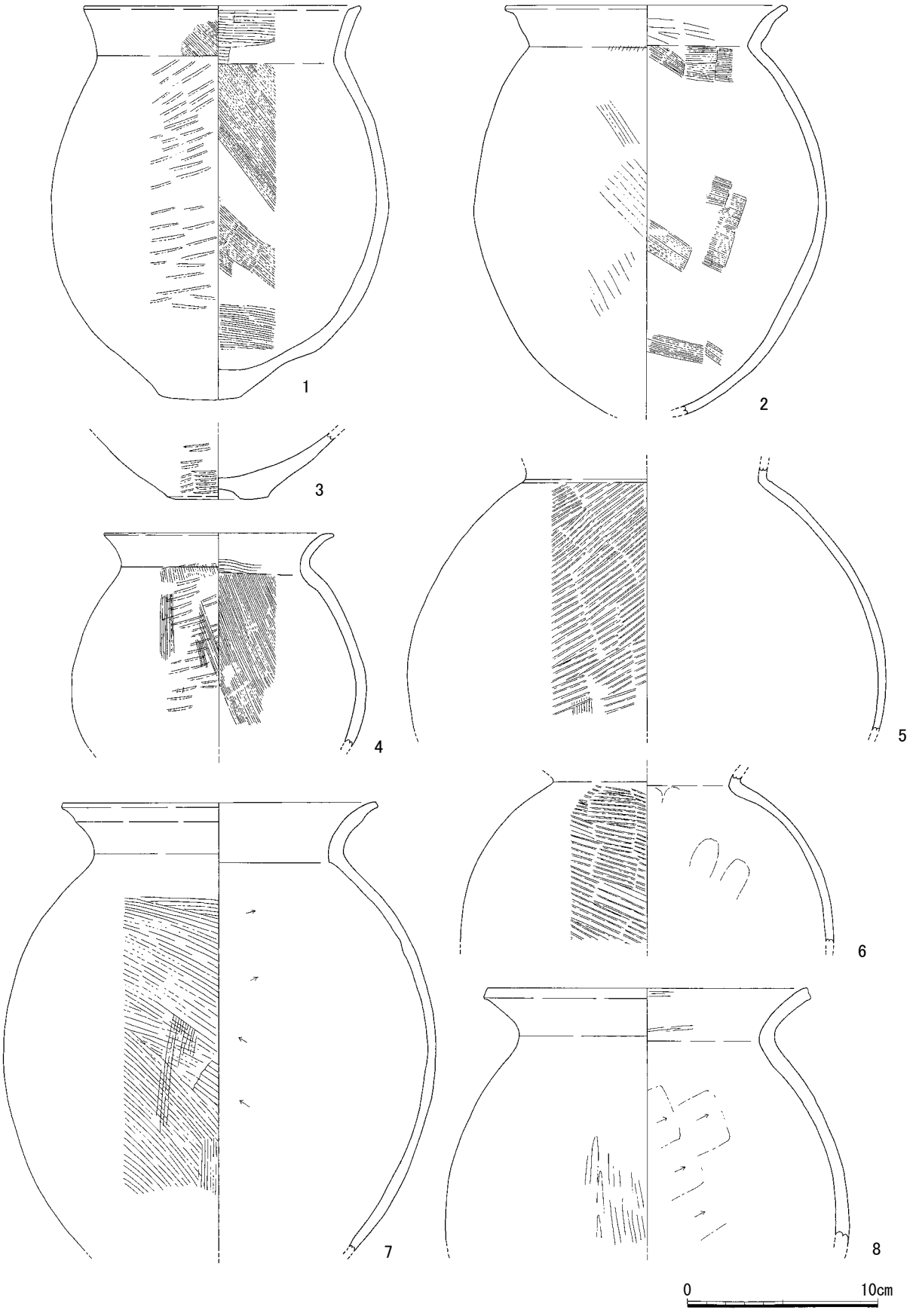


図131　11区包含層他出土土器7（1/3）

面にはタタキ、ナデを施す。外面に煤が付着する。

図133-3～８は布留式の甕。３は口縁部から胴部にかけて1/8残存する。「く」の字口縁で端部が丸い。外面に煤が付着する。４は口縁部から胴部にかけて1/3残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。外面に煤が付着する。5は口縁部から胴部にかけて1/3残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。肩部に２条から３条の沈線を施す。外面に煤が付着する。６は口縁部のみ残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。口縁部に煤が付着する。７は口縁部から胴部中央にかけて1/3残存する。肩部に波状文、外面に煤が付着する。3～5の内器面にヘラケズリを、外器面にはハケを施す。6、７の内器面にヘラケズリを、外器面にはハケ、ハケ後にナデを施す。８は口縁部と胴部の一部が残存する。「く」の字口縁でやや立ち上がりで端部が丸い。内器面にヘラケズリを、外器面にヘラミガキを施す。

図 134-1 ～ 4 は布留式の甕。1 は口縁部から胴部下半部にかけて 1/3 残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。内器面にヘラケズリ後に一部ナデを、外器面にハケ後に一部ナデを施す。外面煤が付着する。2 は口縁部から胴部にかけて 3/4 残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。内器面にヘラケズリを、外器面にハケを施す。胴部から底部外面に煤が付着する。3 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。内器面にヘラケズリ後にナデを、外器面にタタキ後にハケを施す。4 は口縁部から胴部にかけて 1/8 残存する。「く」の字口縁で端部を斜めに面とる。内器面にヘラケズリを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。

図 134-5､6 は山陰系の甕である。5 ～ 6 は口縁部から底部にかけて 1/3 残存する。底部が丸底である。5 は内器面にヘラケズリを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。6 の内器面にヘラケズリを、外器面にはハケを施す。

図 135- 1 ～ 4 は山陰系の甕。図 135-1 は口縁部から胴部にかけて 1/8 残存する。内器面にヘラケズリを、外器面にはヨコナデを施す。2 は口縁部から胴部にかけて 1/2 残存する。内器面の上半にヘラケズリ、下半にヘラケズリ後にナデを、外器面にはハケを施し胴部には波状文を施す。3 は口縁部のみ残存する。内器面にヘラケズリを、外器面にはナデを施す。4 は頸部のみ残存する。内器面にナデ、ヘラケズリを、外器面にはナデ、ハケ、羽矢状文を施す。

図 135-5 は無文土器で口縁部の外側に断面三角形の粘土帯を貼り付ける。小型壺で口縁部から胴部にかけて 1/4 欠損する。口径 8.05㎝、底径 6.8㎝、器高 12.4㎝である。内器面にナデ、ハケ、ハケ後にミガキを、外器面にナデ、ハケ後にナデを施す。

図 135-6 は弥生土器の鋤形口縁壺で口縁部から頸部にかけて 4/5 残存する。内器面にナデを、外器面にはヨコナデ後に暗文を施す。外面に丹塗りを施す。

図 135-7 ～ 10 は弥生土器の袋状口縁壺で口縁部のみ残存する。7、9 の内器面にハケを、外器面にハケ後にナデを施す。8 の内外器面にハケ後にナデを施す。10 は内器面にハケ後にナデを、外器面にハケを施す。

図 136-1、2 は弥生土器の壺で口縁部のみ残存する。内器面にナデを、外面には直線櫛描文のちに二条の棒状浮文を貼り付ける。

図 136-3 ～ 9 は二重口縁壺である。3 は口縁部が 1/2 残存する。内外器面にナデ、櫛描波状文を施す。4、5 は口縁部の一部が残存する。内器面にナデを、外器面にナデ、円形浮文を施す。6 は口縁部の一部が存在する。内器面にナデを、外器面にナデ、円形沈文を施す。3 ～ 6 は頸部に段を有する。7 は口縁部から頸部にかけて 3/5 残存する。内器面にヨコナデを、外器面にはハケ後にヨコナデを施す。

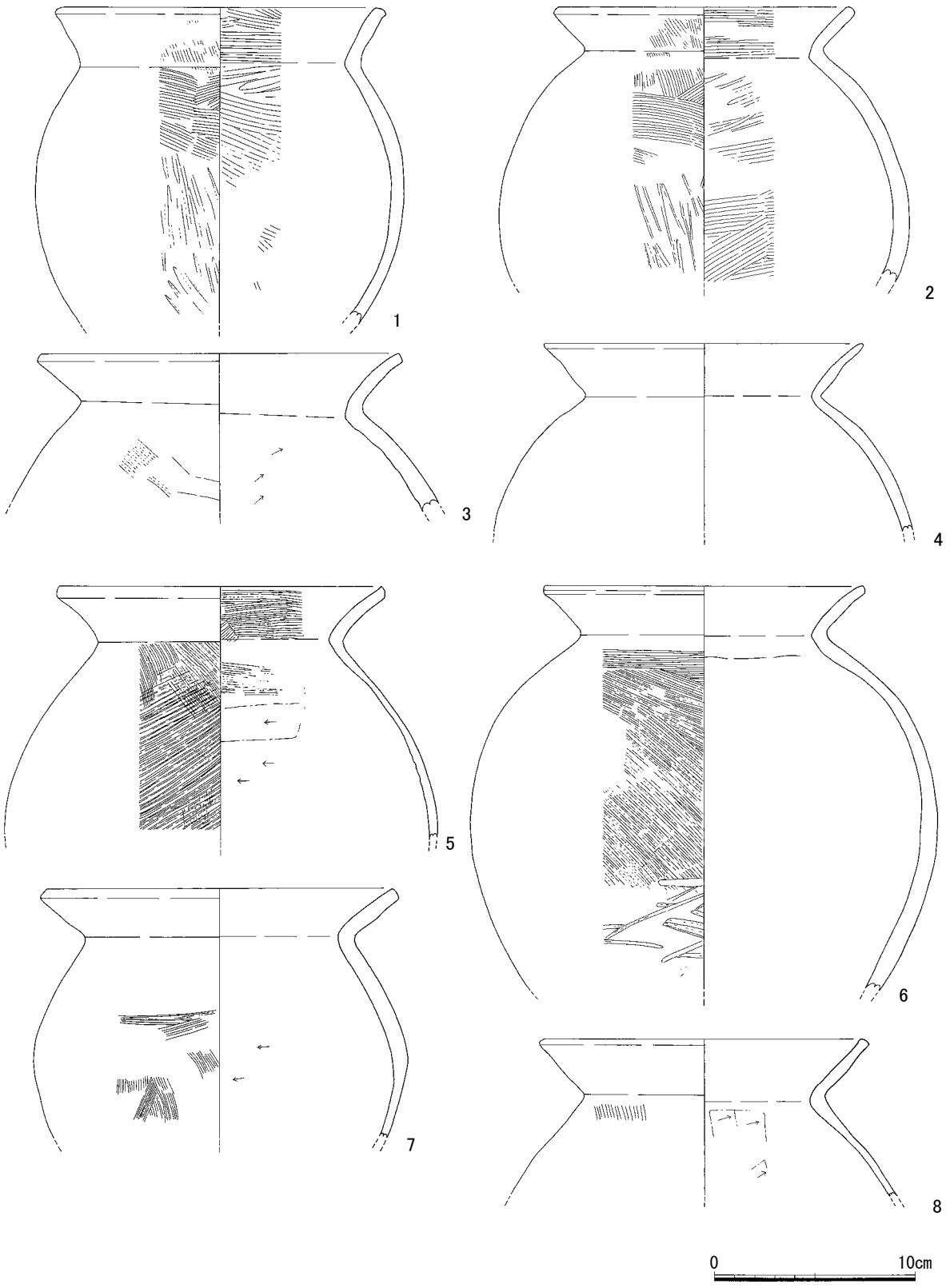


図132　11区包含層他出土土器8（1/3）

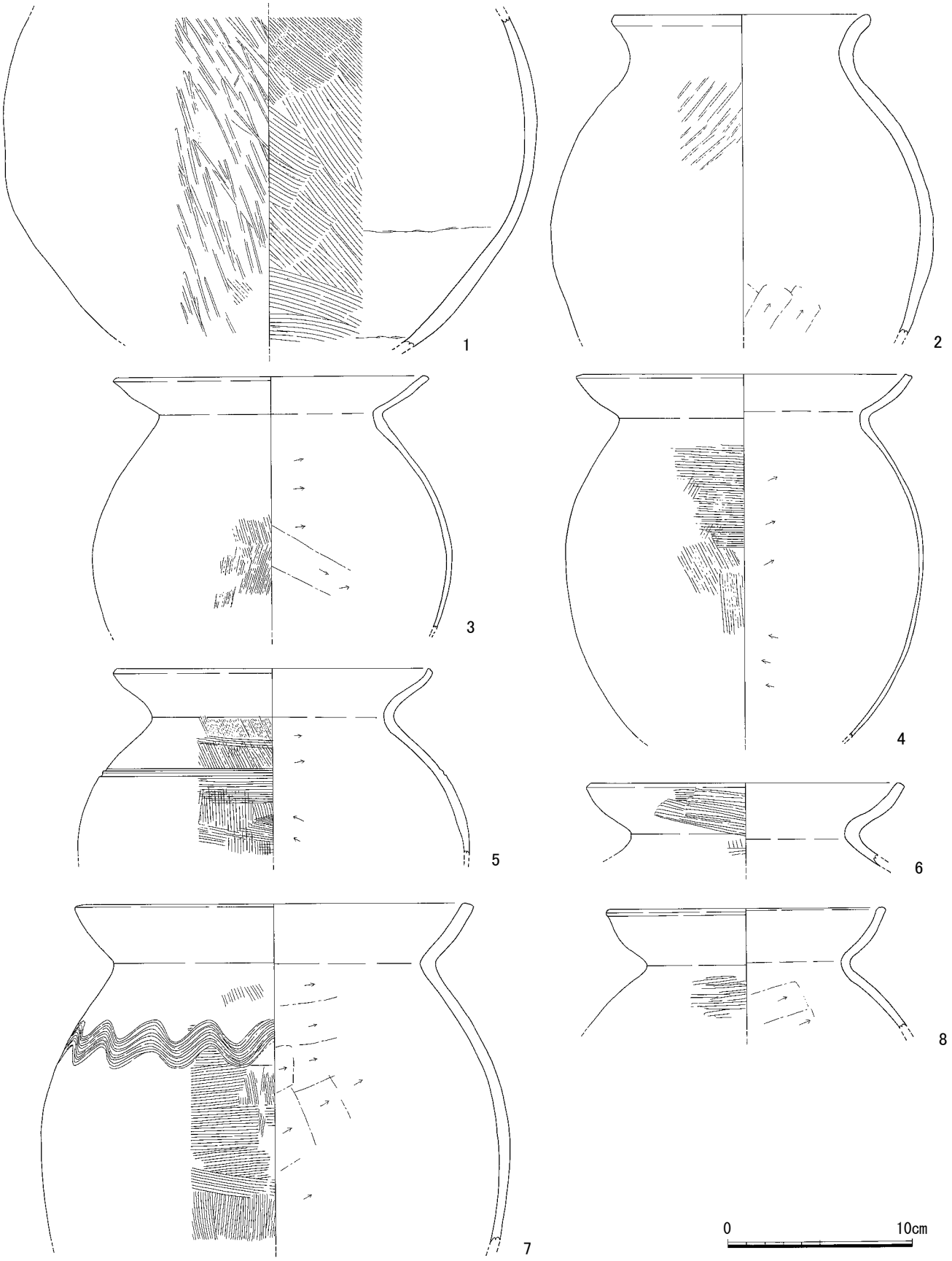


図133　11区包含層他出土土器9（1/3）

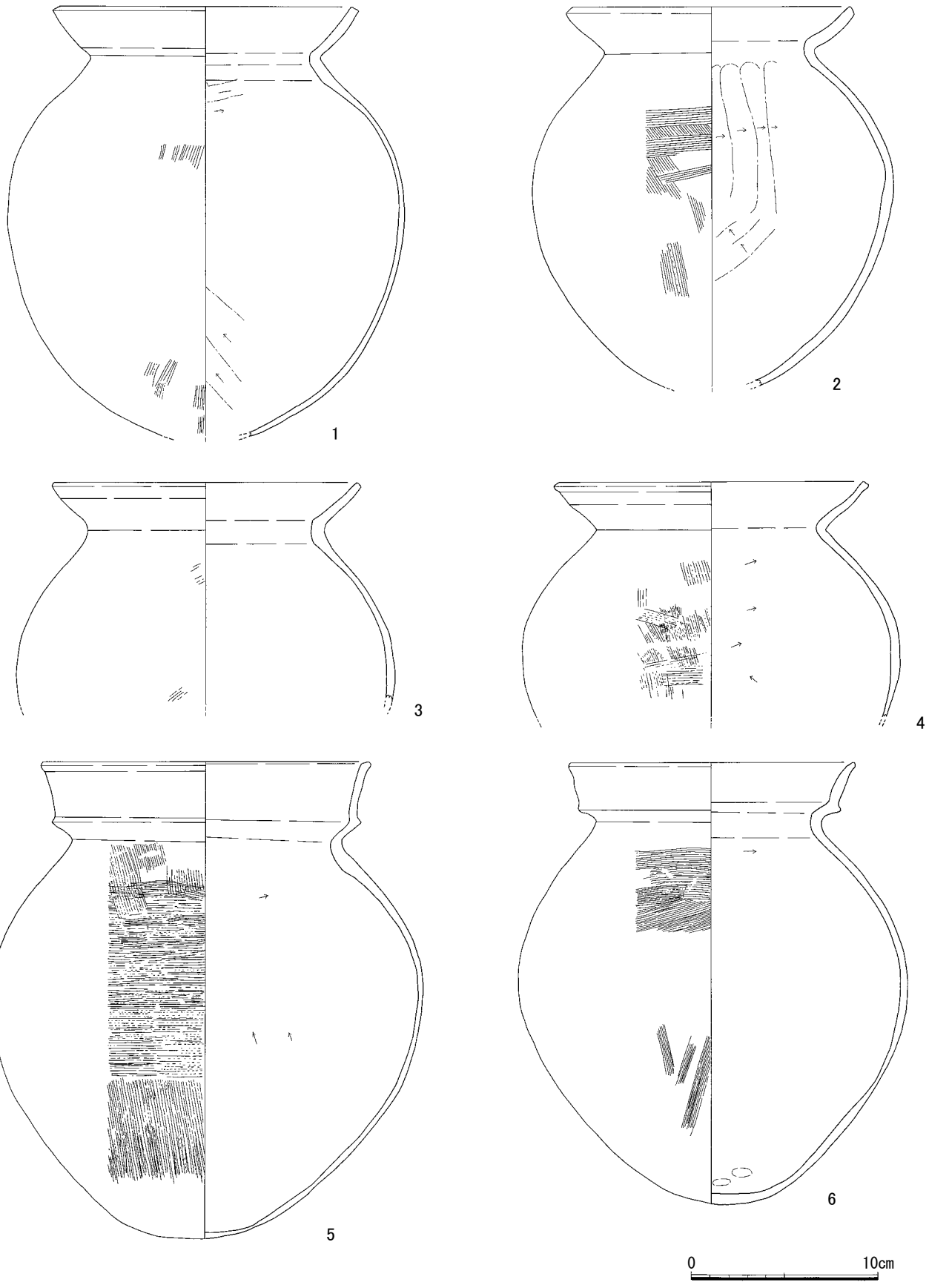


図134　11区包含層他出土土器10（1/3）

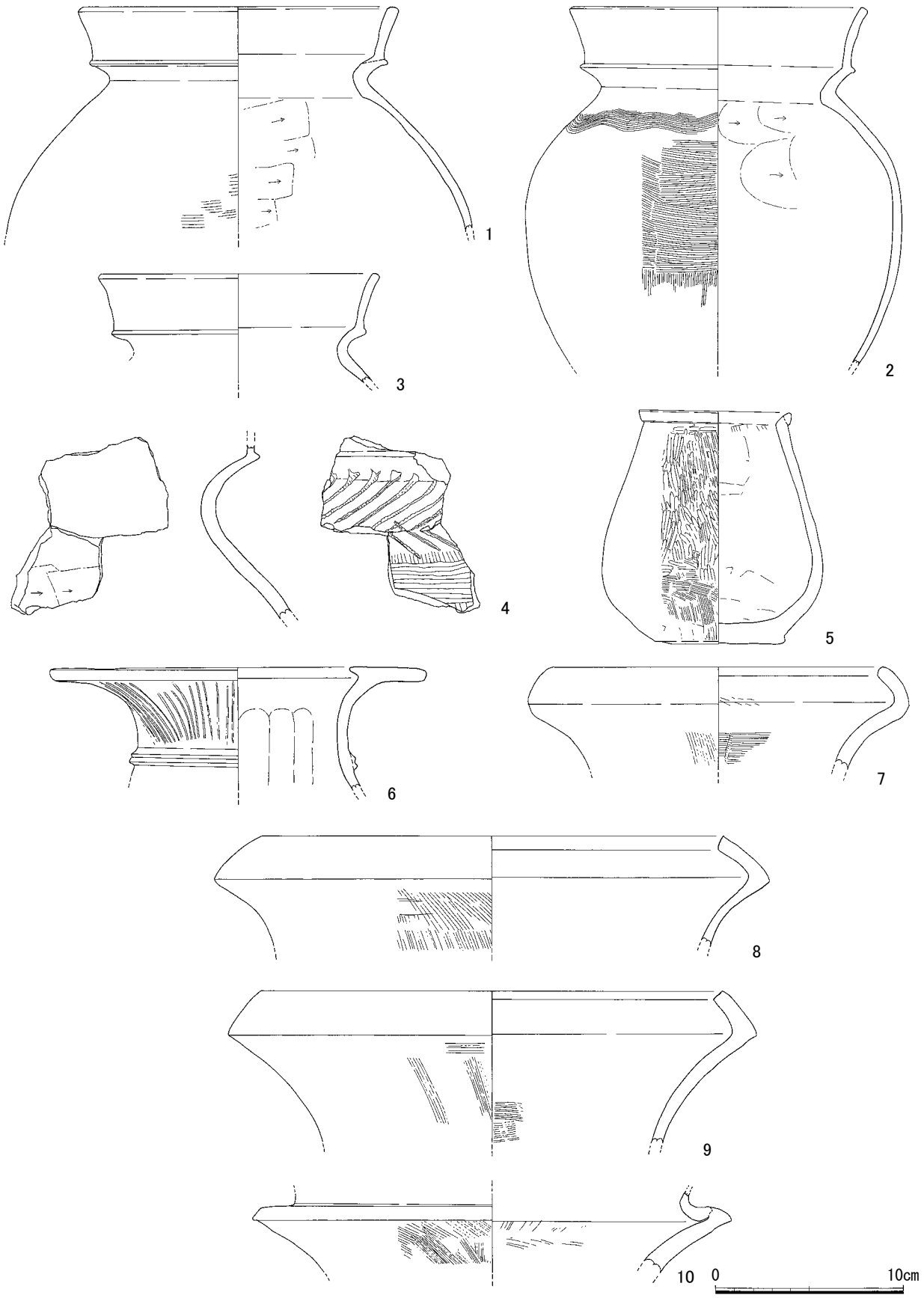


図135　11区包含層他出土土器11（1/3）

二重口縁の内側に煤が付着する。8 は口縁部から頸部にかけて一部が残存する。内外器面にヨコナデを施す。口縁部の内側に煤が付着する。9 は口縁部の一部のみ残存する。口縁の端部に刻み目を、内器面にナデを、外器面にタタキ、工具によるナデ、ハケを施す。口縁の外側に煤が付着する。

図 136-10 ～ 13 は壺である。10 は、肩部のみの残存で、内器面にナデを、外器面にナデ、櫛描波状文を施す。11 は肩部のみの残存で内器面にハケを、外器面にナデ、櫛描波状文、平行条線を施す。12 は胴部で平行条線、櫛描波状文、2 段の押し引き刺突文を施す。13 は壺で口縁部のみ残存する。内外器面にヨコナデを、口縁端部にハケ後に円形浮文を施す。

図 136-14、15 は二重口縁壺の頸部のみ残存する。14 の内器面にミガキを、外器面にミガキ、刻み目の突帯を施す。15 は内器面にヨコナデを、外器面にミガキ後に矢羽浮文を施す。

図 136-16、17 は二重口縁壺の口縁から頸部の一部が残存する。16 は内器面にナデ、波状文、刺突文を、外器面にはナデ、矢羽状文後に円形浮文を施す。17 は内器面にナデ、ヘラミガキを、外器面にナデ、矢羽状文後に円形浮文を施す。

図 136-18 は二重口縁壺の口縁部のみ残存する。内外器面にナデを、口縁部外面の下には矢羽状文を施す。

図 136-19 は内外器面にハケを施す。焼成時に先端部が曲がっているため、器種が不明だが高杯の脚部の可能性が考えられる。

図 137-1 は壺の胴部であり、1/3 残存する。内器面にナデ、ハケを、外器面にナデ、ヘラミガキ、ハケを施す。肩部に山形文の刻み突帯を施す。内器面に煤が付着する。

図 137-2 は壺で胴部から底部にかけて 4/5 残存する。底部は平底である。内器面にハケ、ハケ後にナデを、外器面には、ハケ、ヘラミガキ、櫛描波状文を施す。底部は平底である。

図 138-1 ～ 5 は広口壺で頸基部のくびれが強く、口頸部が大きく広がる。1 は口縁部から胴部にかけて 2/3 と胴部から底部にかけて残存する。底部は丸底である。内外器面にハケを施し、外器面に煤が付着する。2 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にハケを、外器面の上半にハケ、下半にカキケズリを施す。3 は胴部を 1/5 欠損する。底部は丸底である。内器面にヘラケズリを、外器面には工具によるナデを施す。4 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。内器面にヘラケズリを、外器面にはタタキ、一部ナデを施す。5 は口縁部から胴部にかけて 2/3 残存する。内器面に指ナデを、外器面にはハケ後にミガキを施す。内外面に煤が付着する。

図 139-1 ～ 4 は広口壺で頸基部のくびれが強く、口頸部が大きく広がる。1 は口縁部から底部にかけて 1/2 残存する。底部は丸底である。内器面にハケを、外器面にはハケ後にナデを施す。2 は口縁部から胴部にかけて 1/2 残存する。内器面にハケを、外器面にはタタキ後にハケを施す。内面に煤が付着する。3 は口縁部から底部にかけて残存する。「く」の字口縁で端部は内湾に曲がる。内器面にハケを、外器面にハケ後に一部ナデを施す。4 は口縁部と胴部の 1/4 残存する。内器面にヘラケズリを、外器面にはハケを施す。外器面の肩部に波状文を施す。

図 139-5 ～ 7 は直口壺で口頸部が短く直立する。5 は口縁部から胴部にかけて 2/3 残存する。内器面に工具によるナデを、外器面にはハケ後にナデを施す。6 は口縁部から胴部にかけて 3/4 残存する。内外器面の上半にハケ、下半に工具によるナデを施す。外面に煤が付着する。7 は内器面の頸部にハケ、胴部にハケ後にナデを、外器面にはハケを施す。内面に指押圧痕がみられる。

図 140-1 は短頸壺で口縁部から底部にかけて 1/4 残存する。内外器面に工具によるナデを施す。外器面に煤が付着する。

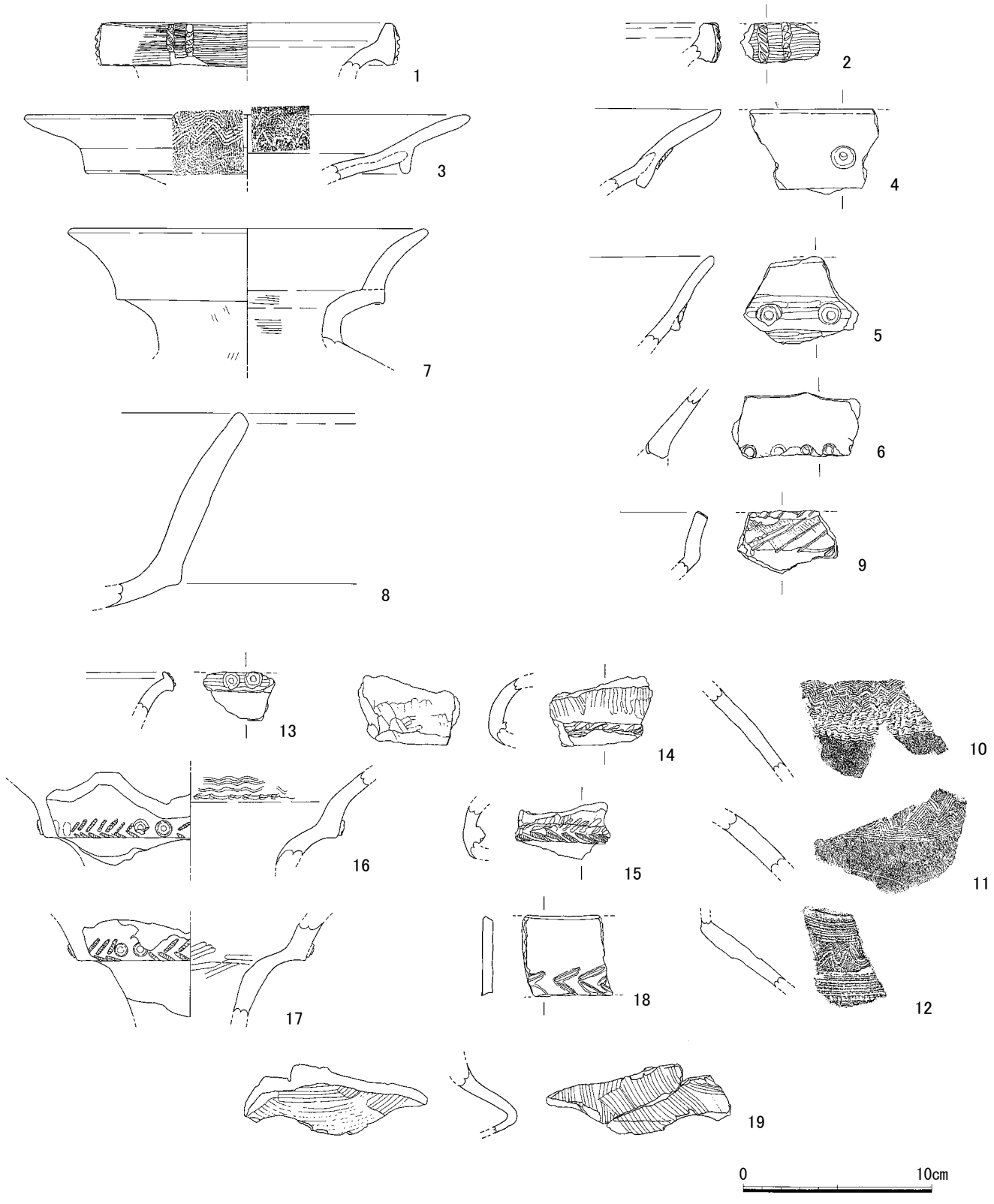


図136　11区包含層他出土土器12（1/3）



図137　11区包含層他出土土器13（1/3）

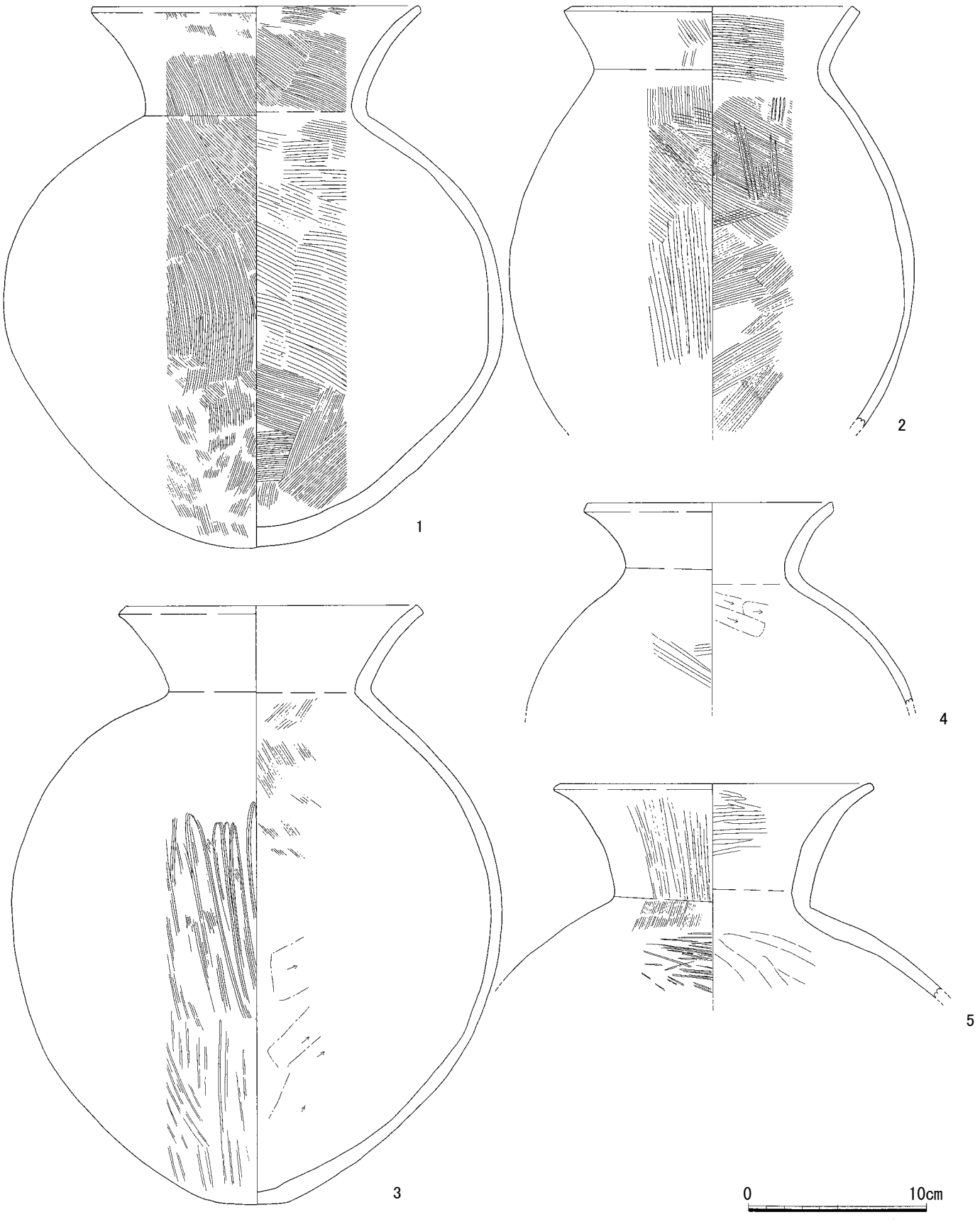


図138　11区包含層他出土土器14（1/3）

図 140-2 は小型広口壺で口縁部から胴部にかけて 5/6 欠損する。底部は丸底である。内器面にヘラケズリを、外器面にはナデを施す。外器面には煤が付着する。3 は壺で口縁から底部にかけて 1/2 残存する。底部は丸底である。内器面にナデを、外器面の上半にハケ、下半にナデを施す。4 は壺で口縁部の 1/3 と胴部が残存する。内器面にハケ、一部にナデを、外器面にハケを施す。胴部下部に煤が付着する。5 は広口壺で口縁部から胴部にかけて残存する。内器面にハケ、ナデを、外器面にハケ、工具によるナデを施す。胴部下部に煤が付着する。6 は小型広口壺で口縁部から胴部にかけて 3/4 残存する。内外器面に工具によるナデを施す。7 は小型広口壺で口縁部 1/2 と胴部から底部にかけて残存する。底部は丸底である。内器面にハケ、ナデを、外器面にハケ後に一部ナデ、ハケを施す。8 は小型広口壺で口縁部 1/5 と胴部から底部にかけて残存する。底部は丸底である。内器面にナデを、外器面に工具によるナデ、一部ハケを施す。外器面に煤が付着する。9 は小型広口壺で口縁部から底部にかけて 1/2 残存する。底部は丸底である。内器面にハケ、一部にナデを、外器面にはハケ後にヘラミガキ、工具によるナデを施す。全面に丹塗りがみられる。10 は小型広口壺で口縁部が 1/8 と胴部から底部にかけて残存する。底部は丸底である。内外器面にハケ後に工具によるナデを施す。11 は口縁部 1/8 と胴部から底部にかけて残存する。内器面にナデを、外器面にはハケ後にヘラミガキ、ヘラケズリ後にヘラミガキを施す。全面に丹塗りがみられる。12 は頸部から底部にかけて残存する。底部は丸底である。内器面にナデを、外器面にハケを施す。外器面に煤が付着する。

図 141-1 は二重口縁壺である。口縁部が内側に入り込む。底部は丸底である。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。

図 141-2 ～ 13 は小型丸底鉢で 2 ～ 9 は口径に比べ器高が高い。10 ～ 13 は口頸部高と胴部高が同等である。 2 は口縁部 1/2 欠損する。内器面にナデを、外器面にハケ後に工具によるナデを施す。 3 は口縁部の一部と胴部から底部にかけて 1/2 残存する。内器面に指押えを、外器面にはカキケズリ、指押えを施す。 4 は口縁部の一部を欠損する。内外器面に工具によるナデを施す。 5 は口縁部から底部にかけて 1/2 残存する。内器面にナデを、外器面には工具によるナデ、タタキ後にナデを施す。内面に煤が付着する。 6 は口縁から底部にかけて 1/3 残存する。内外器面にナデ、指頭圧痕あり。外面に煤が付着する。 7 は口縁部から底部にかけて 1/2 残存する。内器面にナデを、外器面にはハケ後にヘラミガキ、工具によるナデ後にヘラミガキを施す。外面に丹塗りを施す。 8 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にナデを､外器面にはミガキを施す。 9 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内外器面にナデを、底部にヘラケズリを施す。10 は口縁部から胴部にかけて 1/4 残存する。内器面にナデを、外器面にはハケを施す。外面に煤が付着する。11 は口縁部 1/3 と胴部が残存する。内器面にナデを、外器面にはミガキを施す。外面に煤が付着する。12 は口縁部から胴部にかけて 1/2 残存する。内器面にナデ、ハケを、外器面にはヘラミガキを施す。13 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にハケ、ナデを、外器面にはハケ後に工具によるナデを施す。口縁端部外面に煤が付着する。

図 141-14、15 は在地系浅鉢である。14 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にミガキを､外器面にハケ後にミガキを､底部にはヘラケズリを施す。15 は頸部から胴部にかけて 1/2 残存する。内器面にハケ後にナデを、外器面にはミガキを施す。16 は小型広口壺である。内器面にナデを、外器面にはハケ後にミガキを施す。

図 142-1 ～ 19 は、在来系の浅鉢である。1 は口縁部から底部にかけて 2/3 残存する。内器面にハケ後にナデを、外器面には工具によるナデを施す。2 は口縁部から底部にかけて 2/5 残存する。内器面に工具によるナデを、外器面にはハケ後にヘラミガキを施す。3 は口縁部から胴部中央の 2/3 と胴部

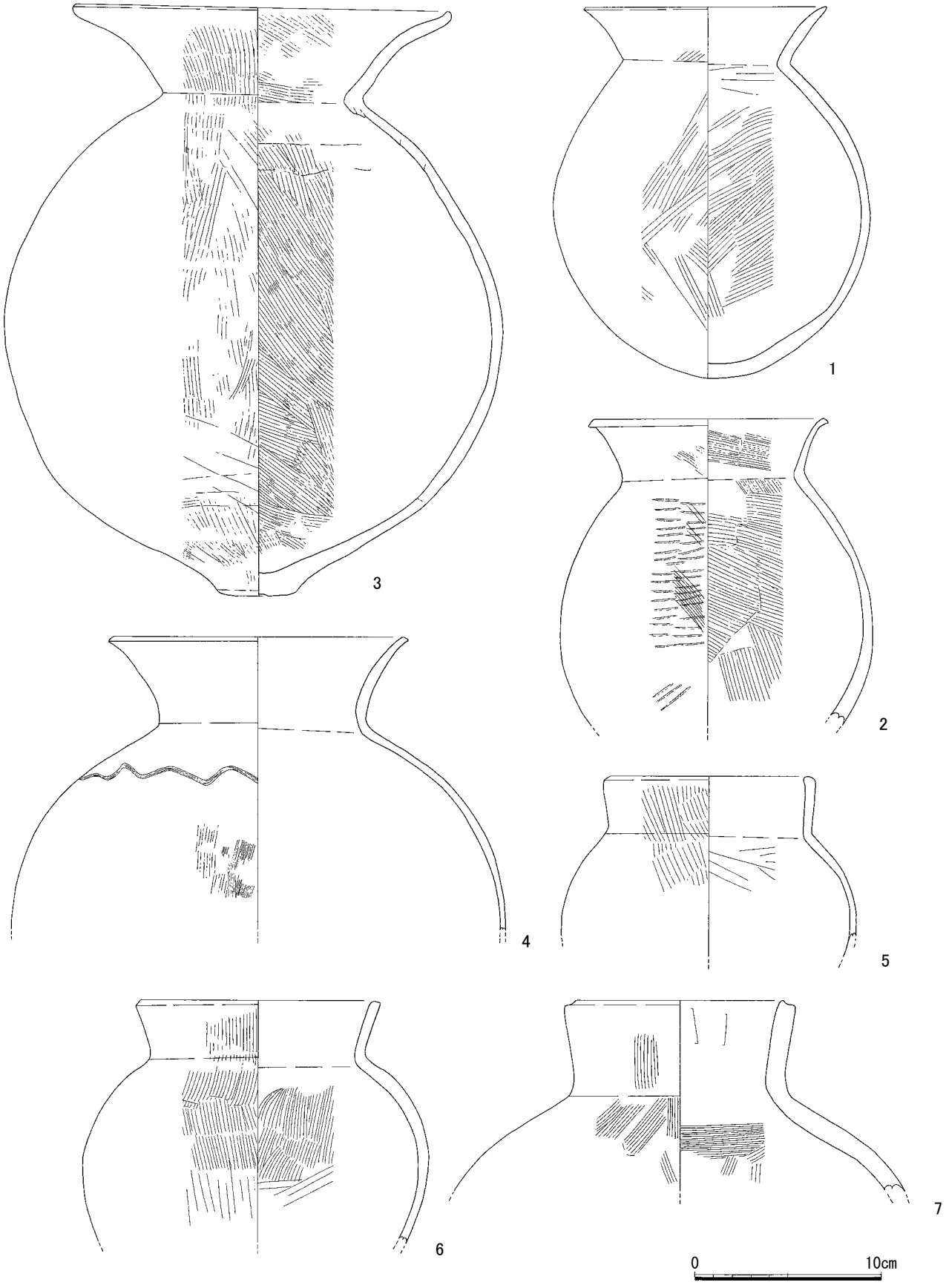


図139　11区包含層他出土土器15（1/3）

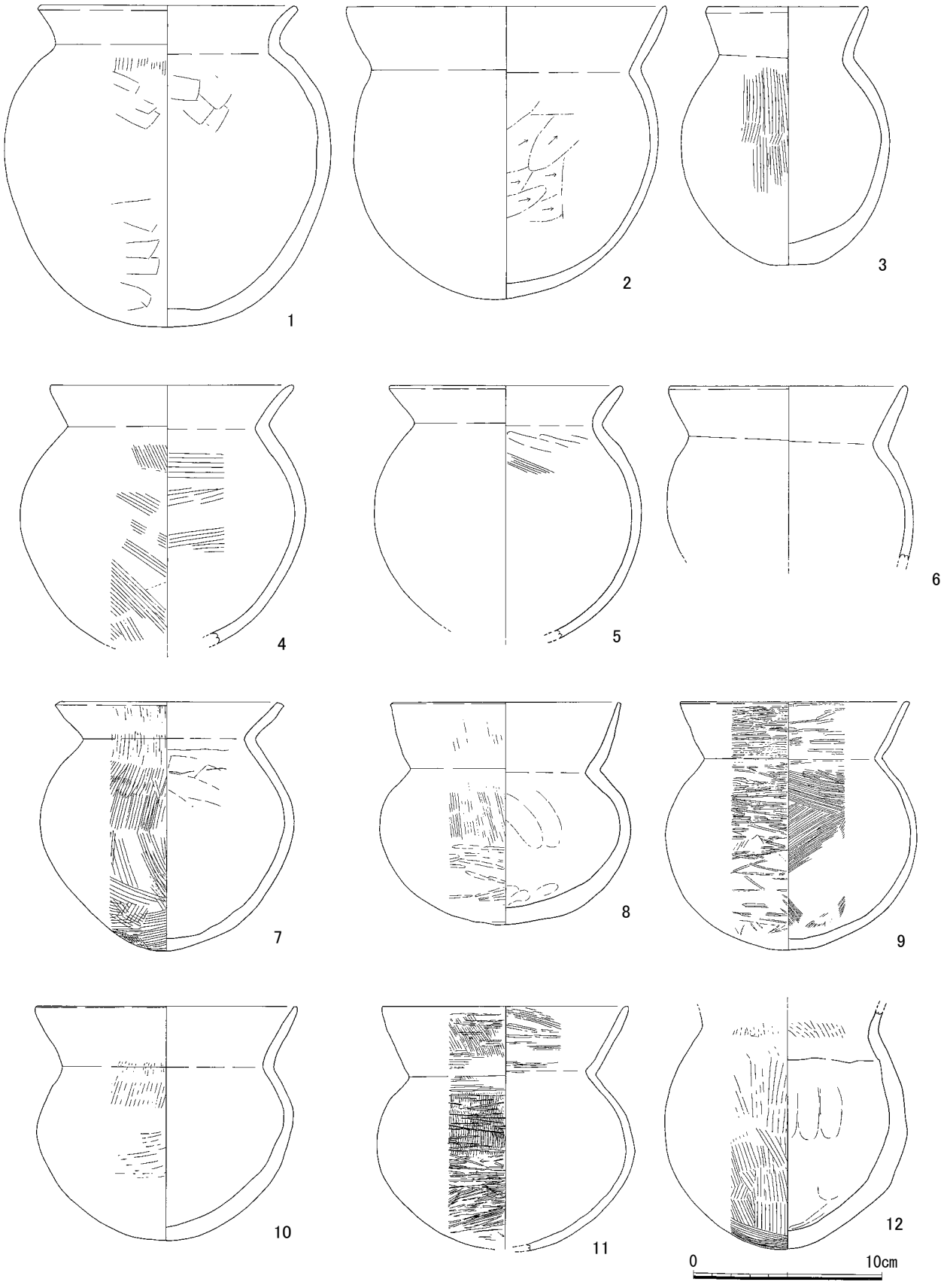


図140　11区包含層他出土土器16（1/3）

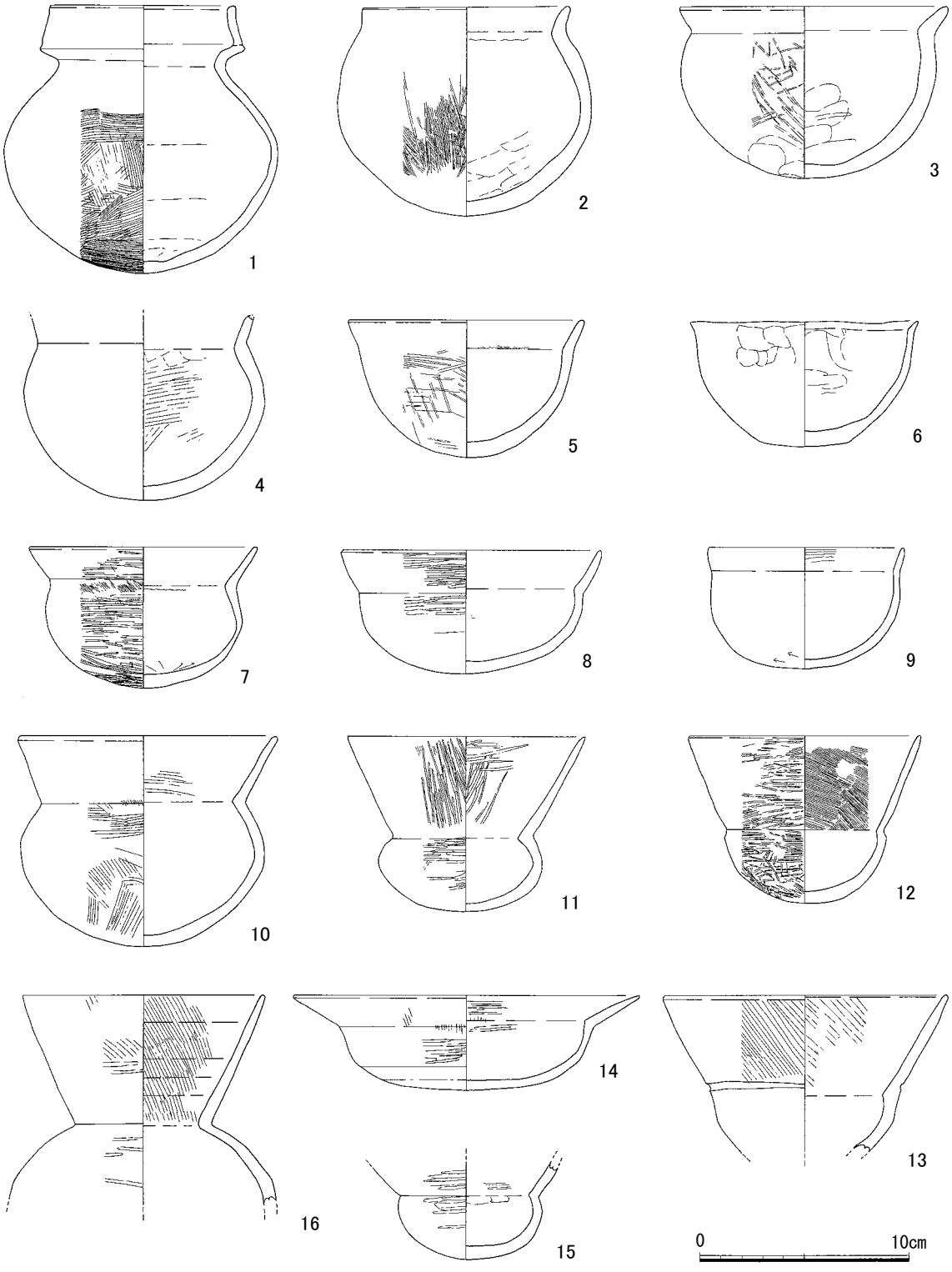


図141　11区包含層他出土土器17（1/3）

から底部が残存する。内外器面に工具によるナデを施す。4 は口縁部から底部にかけて 3/4 残存する。内器面にナデを、外器面には工具によるケズリ後にナデを施す。5 は完形品で口径 8.4㎝、器高 5.6㎝である。内器面に工具によるナデを､外器面にハケを施す。6 は口縁部から底部にかけて 3/5 残存する。内外器面にヘラミガキを施す。7 は口縁部から底部にかけて 1/3 残存する。内器面にハケを、外器面には工具によるナデを施す。8 はほぼ完形品で口径 15.4㎝、器高 5.8㎝である。内器面にハケを、外器面にケズリを施す。9 は口縁部から胴部にかけて 2/3 残存する。内器面に工具によるナデを、外器面にはハケ後にナデを施す。10 はほぼ完形品で口径 10.3㎝、器高 4.5㎝である。内器面にハケ後にナデを、外器面にケズリを施す。11 は口縁部から底部にかけて 2/5 残存する。内外器面にナデを施す。外面に煤が付着する。12 は胴部一部欠損する。内器面にナデを、外器面には工具によるナデを施す。13 は口縁部から底部にかけて 1/3 残存する。内器面には指ナデを、外器面にナデを施す。14 は口縁部から底部にかけて 3/5 残存する。内外器面に工具によるナデを施す。内外面に煤が付着する。15 は 2/3 残存する。内器面に工具によるナデを、外器面に指ナデ後に工具によるナデを施す。内面に煤が付着する。16 は口縁部のみ欠損する。内外器面にナデを施す。17 は口縁部から底部にかけて 2/3 残存する。内器面にナデを、外器面には工具によるナデを施す。18 は口縁部 3/4 欠損する。内外器面に工具によるナデを施す。19 は完形品で口径 8.8㎝、器高 5.6㎝、底径 3.4㎝である。内外器面にナデを施す。

図 142-20 ～ 21 は単純口縁の小型台付鉢である。20 は口縁部から胴部にかけて 2/3 残存する。内外器面にハケを施す。21 は口縁部から胴部にかけて 2/5 残存する。内外器面に工具によるナデを施す。

図 142-22 ～ 25 は小型鉢の浅鉢である。22 は完形品で口径 5.1㎝、器高 2.5㎝である。内外器面にナデを施す。23 は口縁部から胴部にかけて 3/4 残存する。内器面に指押えを、外器面に指押え、ナデを施す。24 は完形品で口径 5.8㎝、底径 2.8㎝、器高 3.6㎝である。内外器面にナデを施す。内外面に指頭圧痕がみられる。25 は口縁部のみ欠損する。内器面にナデを、外器面に指ナデを施す。

図 143-1 ～ 5、15 は高杯である。1 は杯部の 5/6 残存する。内器面にナデ後に暗文を、外器面にはハケ後に暗文を施す。2 は杯部のみ残存する。内器面にハケを、外器面にハケ後に工具によるナデを施す。3 は口縁部から脚部にかけて 1/2 残存する。内器面にハケ後にヘラミガキを、外器面にはヘラミガキを施す。脚部に 4 箇所穿孔があり、焼成前に内側から穿孔している。4 は杯部の 1/4 残存する。内器面にハケ後に工具によるナデ、ヘラミガキを、外器面にハケ後に工具によるナデを施す。5 は口縁部から脚部にかけて 1/2 残存する。内外器面にヘラケズリを施す。15 は脚部の上部のみ残存。杯内及び裾内にナデを、脚から裾外面にはヘラミガキを施す。脚部に 3 箇所穿孔がみられる。

図 143-6､7､10 は杯部に有段をもつ高杯である。6 は杯部 2/3 残存する。内器面にハケ後にナデを、外器面には工具によるナデを施す。7 は杯部 1/2 残存する。内器面にナデを、外器面にはハケ後にナデを施す。10 は口縁から底部にかけて 1/4 残存する。内器面にハケ後にナデを、外器面にヘラミガキを施す。

図 143-8、9 は高杯で口縁部直線的に伸び、尖り気味におわる。8 は杯部 2/3 残存する。内外器面にヘラミガキを施す。9 は杯部 5/6 残存する。内外器面にハケ後にナデを施すが不明瞭である。

図143-11～14は高杯。11、12は杯部屈曲部に突出気味な稜をなす。11は内外器面にヘラミガキを施す。12は内外器面に工具によるナデを施す。13は杯部がほぼ完形品で脚部を2/3欠損する。内器面に工具によるナデを、外器面にはヨコナデ後にヘラミガキを施す。脚部に概則側から3つ穿孔をあけている。14は杯部のみ残存する。内器面にナデを、外器面にはハケ後に工具によるナデ、工具によるナデを施す。

図143-15、16は高杯の脚部で内外器面にヨコナデを施す。16はSX13010出土。

図144-1～3は器台である。1は内器面にハケ、ナデ、ハケ後にナデを、外器面にはハケ、ハケ後にナデを施す。2は内器面にナデを、外器面にはハケ後にナデを施す。内面には煤が付着する。3は内器面にハケ、ナデを、外器面にはハケ、ハケ後にナデを施す。

図144-4～7は厚手粗製の器台である。4は内器面に工具によるナデを、外器面にハケを施す。5は内外器面にナデを施す。6は内器面に指ナデを、外器面にはハケ後に一部ナデを施す。7は内外器面にナデを施す。

図 144-8 ～ 14 は弥生土器の支脚で、うち 8、10 は完形品である。8 は筒状で内外器面にナデを施す。9 は外器面にはナデを、底部にはハケを施す。中心には棒状のもので全体の 9/10 の孔をあけている。10、11 は外器面にナデを施す。10 の外器面に煤が付着する。12 は底部に凹みがあり、外器面及び底部に指ナデを施す。13、14 は外器面にナデを施す。上部に孔をあけている。

図 145-1 は弥生土器の支脚。完形品で、内外器面にはナデを施す。

図 145-2 ～ 3 は口径と裾部径がほぼ等しく中位でくびれる透かし入り器台である。2、3 の内器面にハケ後にナデを、外器面にはハケ、沈線を施す。

図 145-4 ～ 6 は器台である。4 は約 1/3 残存し内器面の上半に工具によるナデ、下半にヘラケズリを、外器面には回転ナデを施す。5 は約 2/3 残存し内器面にヘラケズリを、外器面にはハケ後に回転ナデを施す。6 は受部から裾部にかけて 1/4 残存し外器面にヨコナデを施す。

図 145-7、8 は精製小型器台である。7 は約 1/2 残存し内器面にハケ後ナデ、外器面にはヘラミガキを施す。脚部に外側から穿孔を 3 つあけている。8 は口縁端部 1/5 欠損し内器面にハケ後ナデ、外器面にはハケ後に工具によるナデ、工具によるナデ、ナデを施す。

図 145-9 は土師器の蓋で 1/4 残存する。内器面にナデを、外器面にハケ、つまみにナデを施す。

図 146-1 は土師器甕である。口縁部から胴部にかけて 1/5 残存する。口縁部は厚手で端部が丸い。内器面にハケ後にナデを、外器面にはハケ、工具によるナデを施す。

図 146-2、3 は土師器広口壺で、2 は口縁部から頸部約 2/3 が残存する。口縁部は外湾に湾曲し端部が丸い。内器面にヘラケズリ、外器面にハケを施す。3 は口縁部から胴部にかけて約 1/3 残存する。口縁部は短く外湾に湾曲し端部が丸い。内器面にケズリを、外器面にはハケを施す。

図 146-4、5 は土師器甑で 4 は口縁から胴部にかけて 1/5 残存する。5 は口縁から胴部にかけて 1/2 残存する。ともに内器面にケズリを、外器面に粗いハケを施し、牛角状の把手が付く。

図 146-6 は中世の土師器椀で、口縁部から底部にかけて 1/4 残存する。内外器面にナデを施す。高台が撥高台である。

図 146-7 は瓦質土器の椀で口縁部から底部にかけて約 1/4 残存する。8 は瓦質土器の椀で約 1/3 残存する。内外器面にヘラミガキを施す。

図 146-9 は中世の白磁椀で XI 類である。底部のみ残存する。内器面に灰白色の釉を施す。高台は低い輪状で内側に斜行する。

図 147-1 は瓦質土器の杯で口縁部から底部にかけて 1/3 残存する。内外器面に回転ナデを施し、底部をナデで調整する。

図 147-2、3 は中世の土師器杯である。2 はほぼ完形品で口径 15.4cm、底径 9.9cm、器高 3.3cm である。内外器面に回転ナデを施す。3 はほぼ完形品で口径 10.2cm、底径 6.9cm、器高 3.1cm である。内器面にヨコナデを、外器面には回転ナデを底部は糸切り離しを施す。

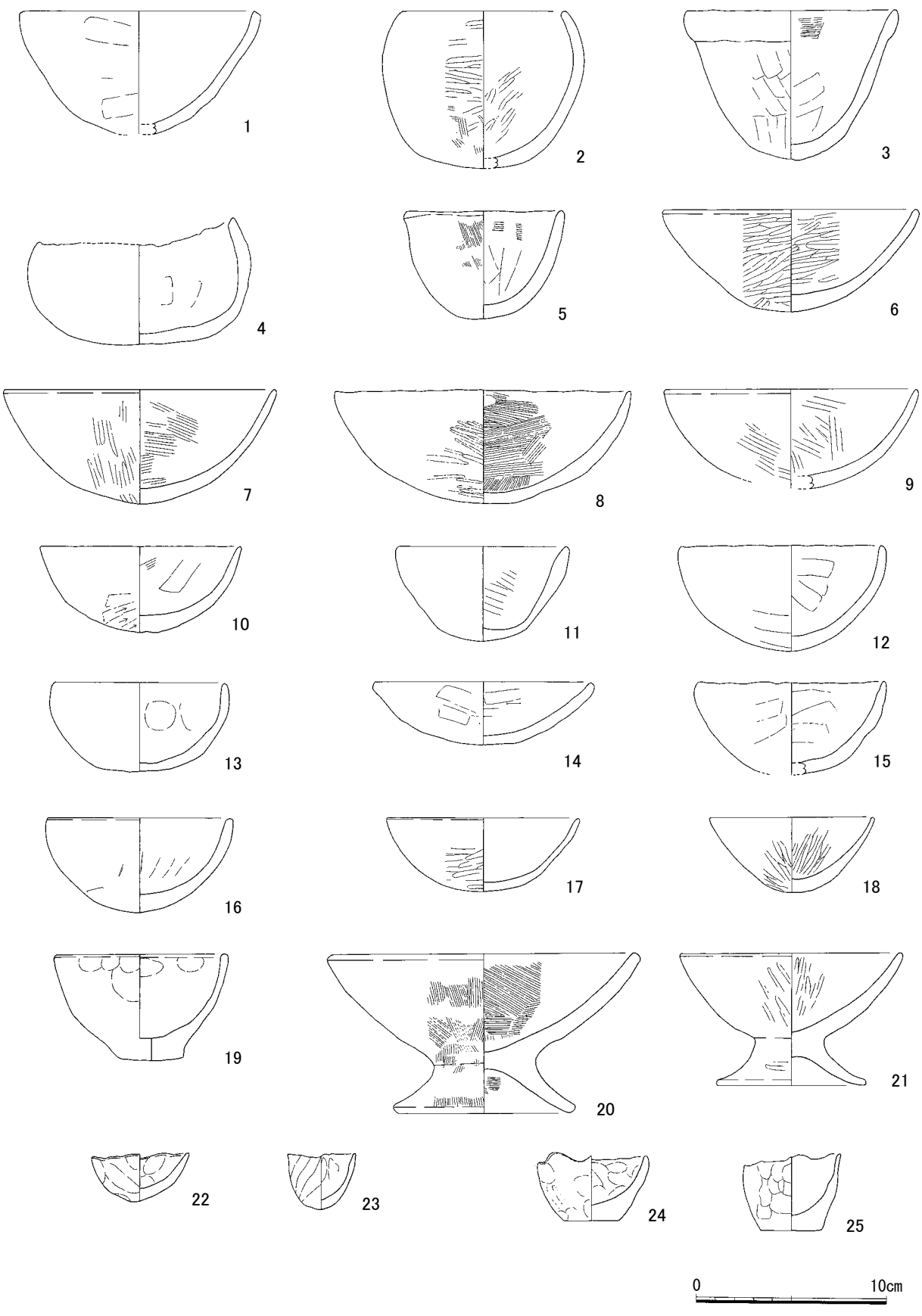


図142　11区包含層他出土土器18（1/3）

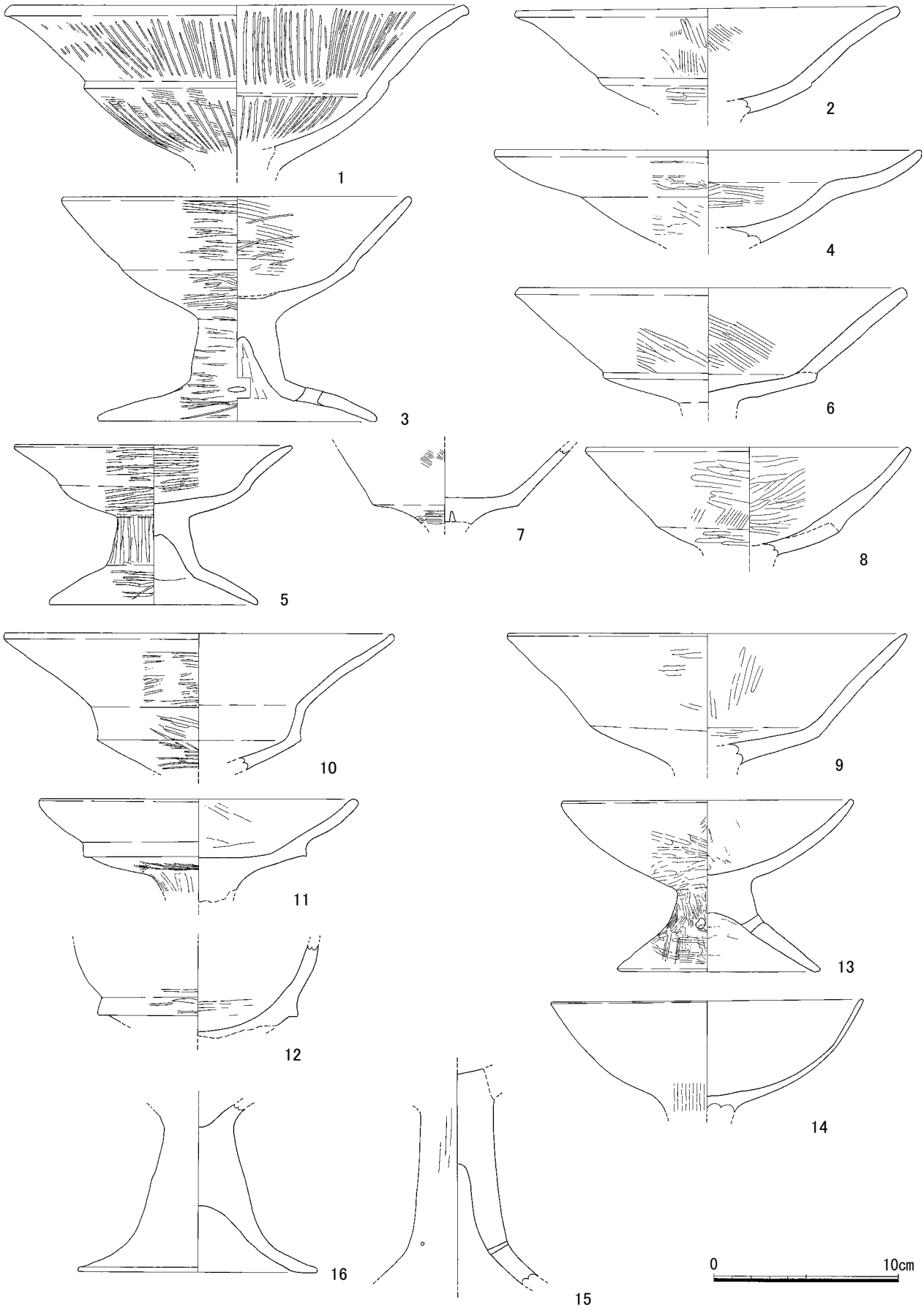


図143　11区包含層他出土土器19（1/3）

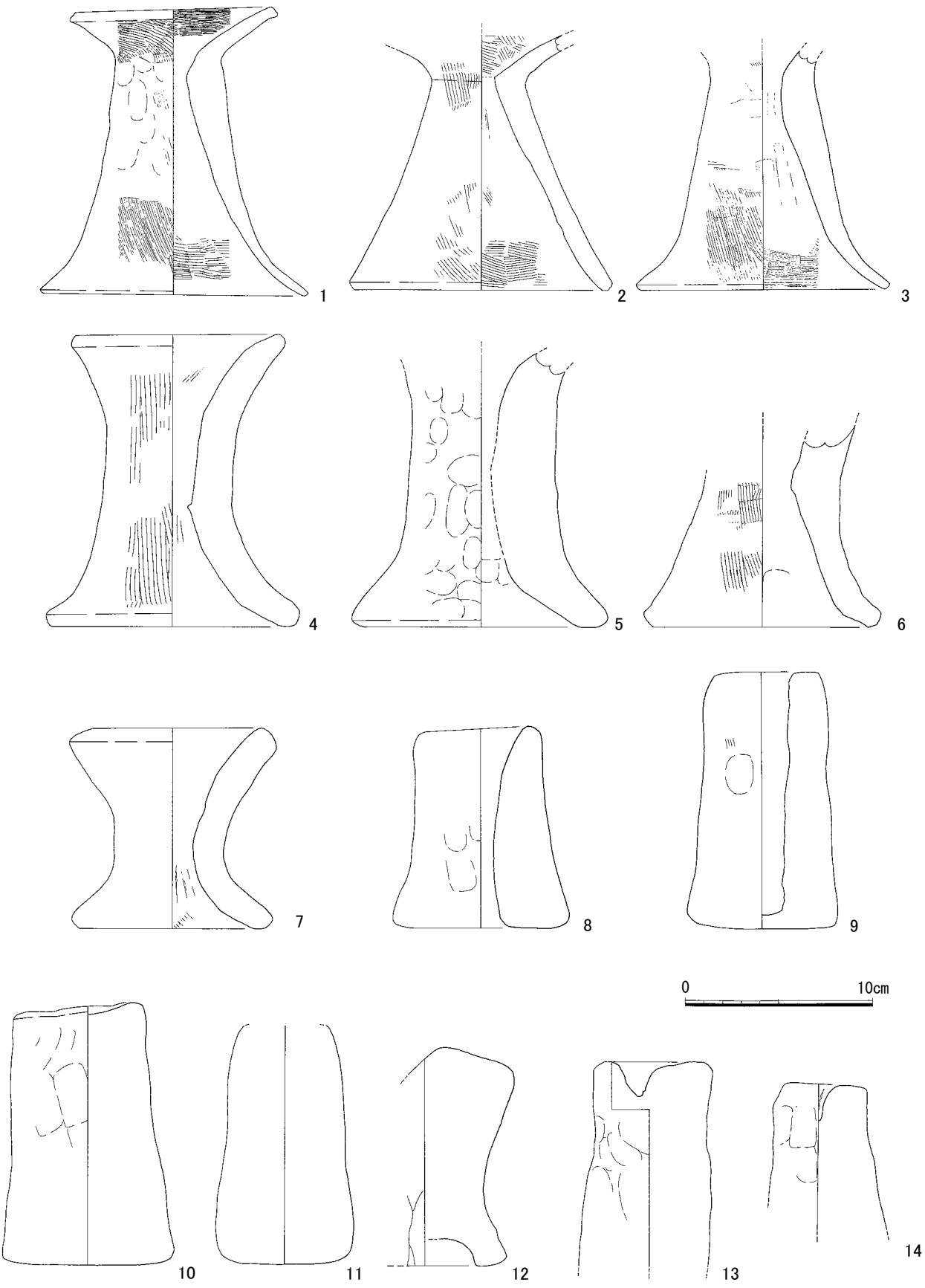


図144　11区包含層他出土土器20（1/3）

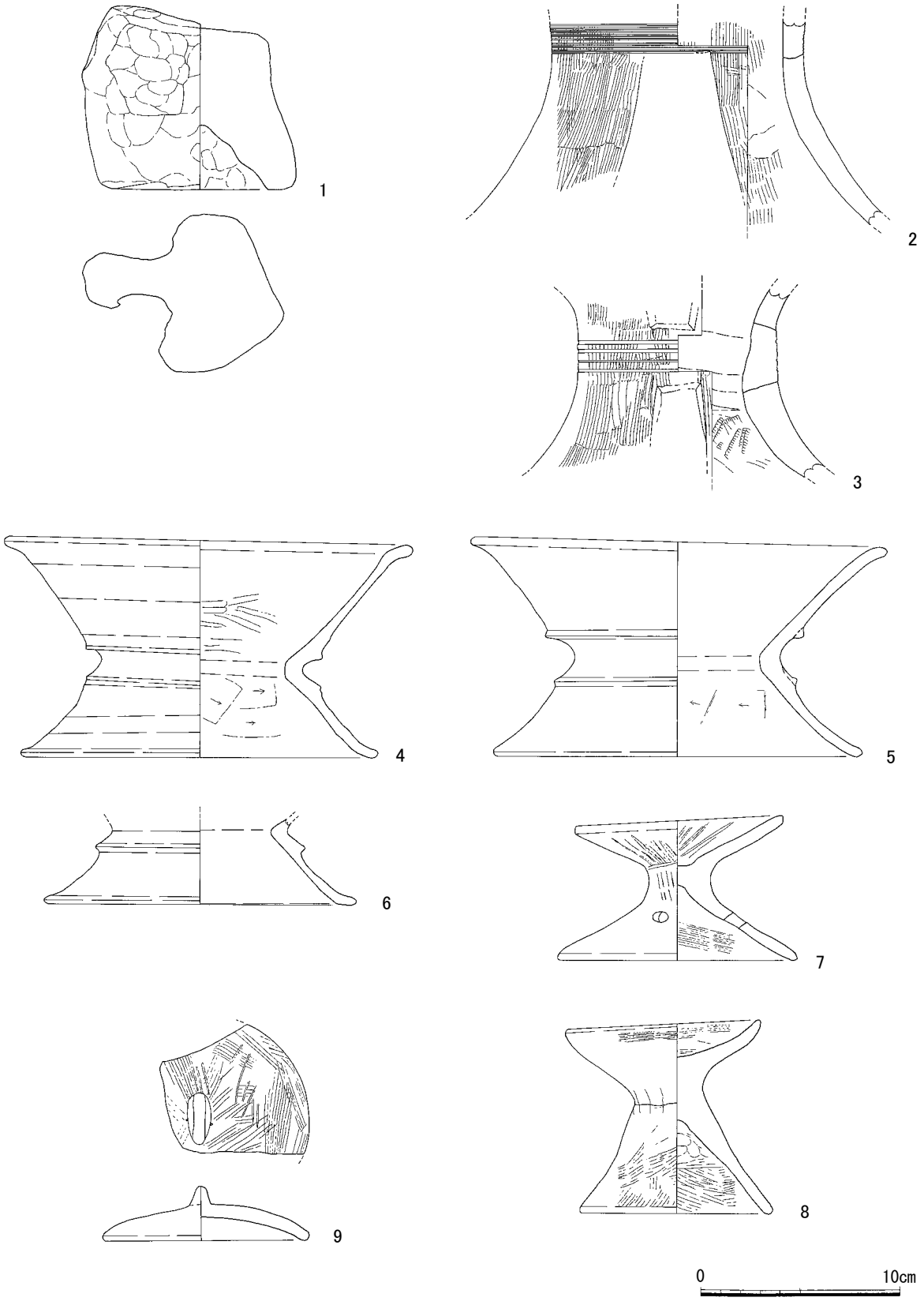


図145　11区包含層他出土土器21（1/3）

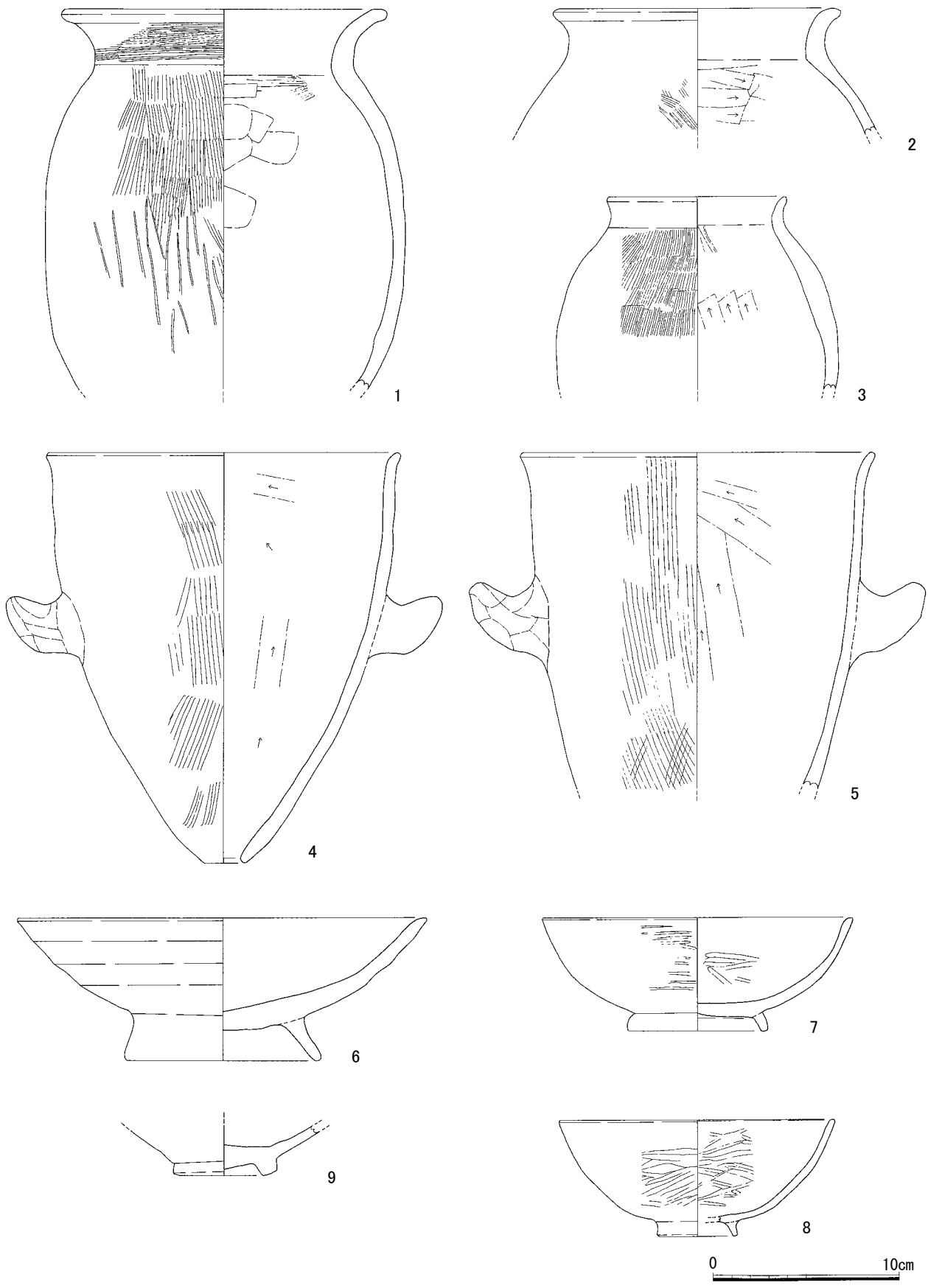


図146　11区包含層他出土土器22（1/3）

図 147-4 ～ 10 は中世の土師器の小皿。4 は約 1/3 残存し内器面にナデを、外器面に回転ナデを、底部に板状圧痕がみられる。5 は約 1/4 残存し内器面にナデを、外器面には回転ナデを、底部に糸切り離しを施す。6 は約 1/3 残存し内器面にナデを、外器面にはハケ後に回転ナデを、底部は糸切り離しを施す。7 は約 1/2 残存し内器面にナデを、外器面には回転ナデを、底部は糸切り離し後に板目条工具による調整が施されている。8 は約 3/4 残存し内器面にナデを、外器面にはハケ後に回転ナデを、底部に糸切り離しを施す。9 は約 1/2 残存し内外器面に回転ナデを、底部に糸切り離しを施す。10 は口縁部が一部欠損し内器面にナデを、外器面には回転ナデを、底部に糸切り離しを施す。

図 147-11、12 は中世の瓦質土器の鍋で 11 は口縁部から胴部にかけて約 1/6 残存する。内器面にハケを、外器面にナデを施し外器面に煤が付着する。12 は口縁部から胴部にかけて 1/3 残存する。内器面にハケを、外器面にハケ後にナデを施す。

図 147-13 は近世の肥前焼のⅣ期の染付け皿で口縁部から底部にかけて 1/2 残存する。内外器面に灰白色の釉を施す。内器面に葉文が描かれ、コンニャク印判を施す。蛇の目釉剥ぎの面に足付ハマの痕が残る。高台は内側に斜行し断面が三角形である。

図 147-14 は近世の龍泉窯系青磁の高台付き皿で底部のみ残存する。内外器面に黄褐色の釉を施す。内器面に目跡が残る。高台内部の刳りが浅く高台が厚手で、高台削りが粗い。内器面の一部に灰かぶりが残る。

図 147-15 は近世の肥前焼のⅣ期の染付け椀で口縁部から底部にかけて 1/3 残存する。内外器面に灰白色の釉を施す。外器面に葉文が描かれている。高台は輪高台である。

図 147-16 は近世の肥前焼のⅣ期の染付け椀で底部のみ残存する。内外器面に灰白色の釉を施す。外器面に葉文が描かれている。高台は輪高台である。

図 147-17 は近世のⅤ期の染付け小椀で胴部 1/5、底部 1/2 残存する。内外器面に灰白色の釉を施す。外器面に葉花の文様を施す。高台は輪高台である。

図 147-18 は近世のⅡ期の染付け椀で底部のみ残存する。内外器面に灰白色の釉を施す。内器面に蛇の目釉剥ぎがみられる。高台は三日月高台で外側に斜行する。

図 147-19 は近世の肥前焼のⅡ期の磁器で底部のみ残存する。内外器面に浅黄橙色の釉を施す。高台は輪高台で高台内部の刳りが深い。

図 147-20 は近世の肥前焼のⅡ期の磁器で底部のみ残存する。内外器面に浅黄色の釉を施す。高台は輪高台で外側に斜行する。

図 147-21 は近世の肥前焼のⅢ～Ⅳ期の染付け仏飯器で杯部 1/2 が欠損する。内外器面に灰白色の釉を施す。

図 147-22 は近世の青磁の椀で口縁部から胴部にかけて 1/6 残存する。内外器面に浅黄色の釉を施す。

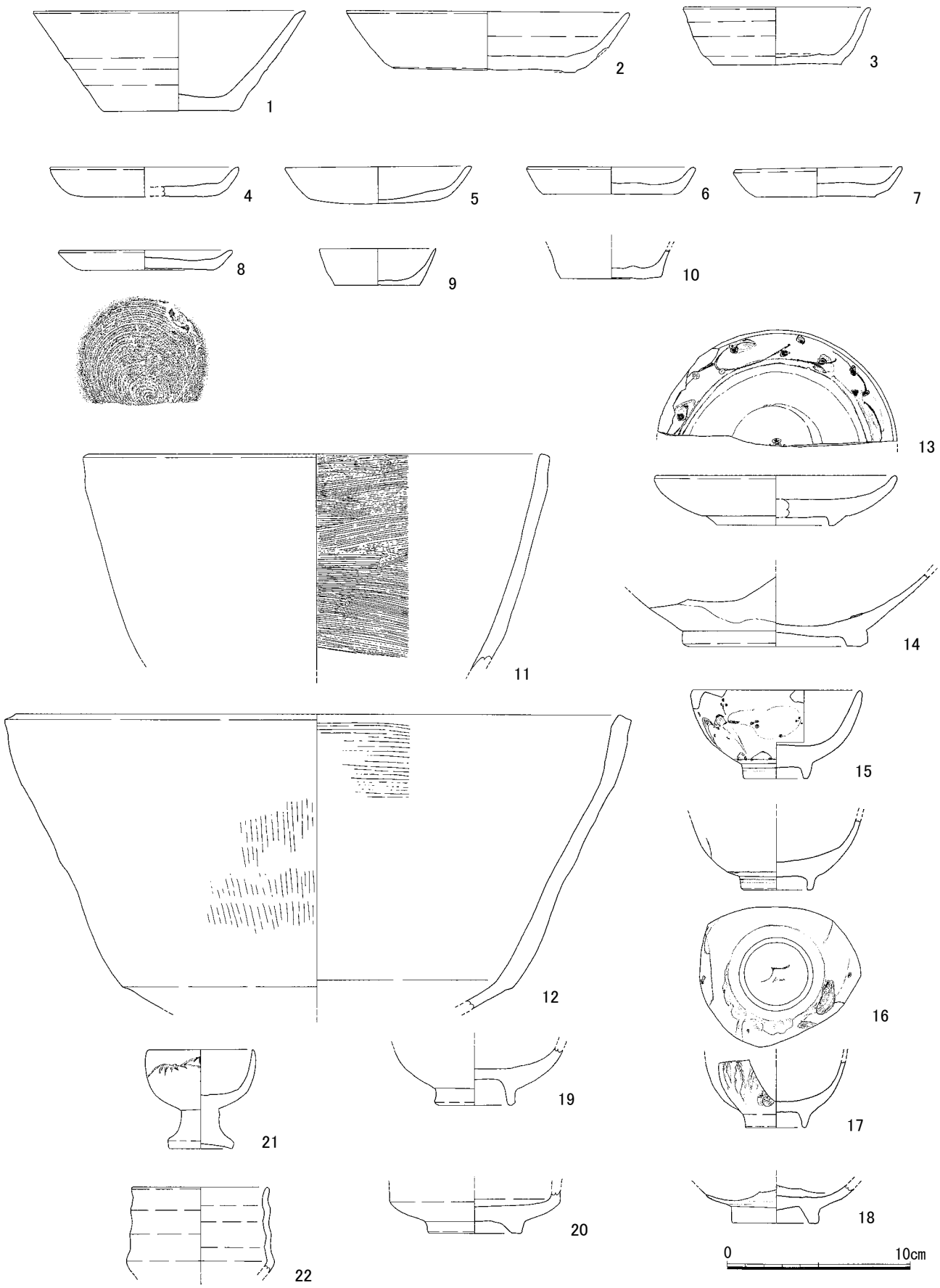


図147　11区包含層他出土土器23（1/3）

②１２区出土土器

図 148-1 ～ 7 は弥生土器の甕。1 は SD12008 から出土した。口縁部～胴部にかけての破片であり、口縁部は逆Ｌ字状を呈する。2 ～ 5 は口縁部が外反しており、うち 2、3 は内面にヘラケズリ、4、5 は外面にタタキ目、内面は工具によるナデを施す。6、7 は底部のみ残存しており、6 は内外面にハケが施され、底部の形態はレンズ状を呈する。

図 148-8 は撹乱から出土した甕棺である。口縁部が外反し、頸部に一条の突帯を巡らせている。口縁端部には刻目を施す。

図 149-1 は弥生時代における外来系の壺であり、口縁～頸部にかけて残存する。外面は口縁部に 5 本の沈線、頸部付近にハケ、内面にミガキを施す。

図 149-2 は山陰系の甕である。外面にハケ、内面にヘラケズリを施す。

図 149-3、4 は弥生土器の器台。3 は SD12008 からの出土。底部のみ残存しており、外面にハケ、内面に工具によるナデを施す。4 は SD12026 からの出土。内面の頸部付近および外面にそれぞれ工具によるナデを施す。

図 149-5 は弥生土器の支脚。ほぼ完形の状態で出土しており、内部は貫通している。外面に工具によるナデを施す。

図 149-6 は土師器の小型丸底鉢。底部を欠く破片である。外面にハケ、内面の胴部上半にケズリ、下半にハケ後ナデを施す。

図 149-7 は弥生土器の台付甕。脚部のみの残存である。脚部の外面にハケの後ヨコナデを施し、その後ミガキを施している。

図 149-8 は ST12032 から出土した、鉢形の鋸歯文土器である。小片であり、外面に三角鋸歯状の文様を呈する。内面にミガキ。

図 149-9 ～ 11 は土師器の小皿。9 は不明瞭。10、11 の外面、内面に回転ナデが施されており、底部は糸切りである。

③１３区出土土器

図 150- 1 は弥生土器の甕。口縁部～胴部にかけて残存する破片である。口縁部はゆるやかに外反し、外面および内面にはハケ、口縁端部および胴部には帯状の刻目を施す。

図 150-2 ～ 5 は弥生土器の壺。2 は口縁部が外反し、頸部に一条の突帯が巡らされている。底部は平底であるが、底面の中心がやや浮上する。外面にハケ後工具ナデ、内面の頸部にケズリが施されている。3 は胴部～底部にかけて残存。底部は平底で、底面の中心が浮上する。外面に工具ナデが施されている。4 は SJ13310 から出土した口縁部～胴部にかけての小片である。口縁はゆるやかに外反し、口縁端部はほぼ水平に面取りされている。外面の胴部にミガキ、頸部には刻目が施されており、内面の頸部にミガキが施される。5 は口縁部上端が面取りされており、胴部の上半面には上下一条ずつ突帯が巡らされている。底部は平底で、底面の中心がやや浮上する。外面の頸部および胴部上下突帯間に暗文が施されている。

図 151-1、2 は弥生土器の壺である。1 は口縁部～胴部にかけて残存している。口縁部は上端面が水平からやや内傾して面取りされており、胴部には一条の突帯が巡らされている。外面の胴部にミガキ、頸部に暗文、内面の頸部にはミガキ、ナデ、頸部から胴部にかけての屈曲部下には指押しによる指圧痕が施されている。

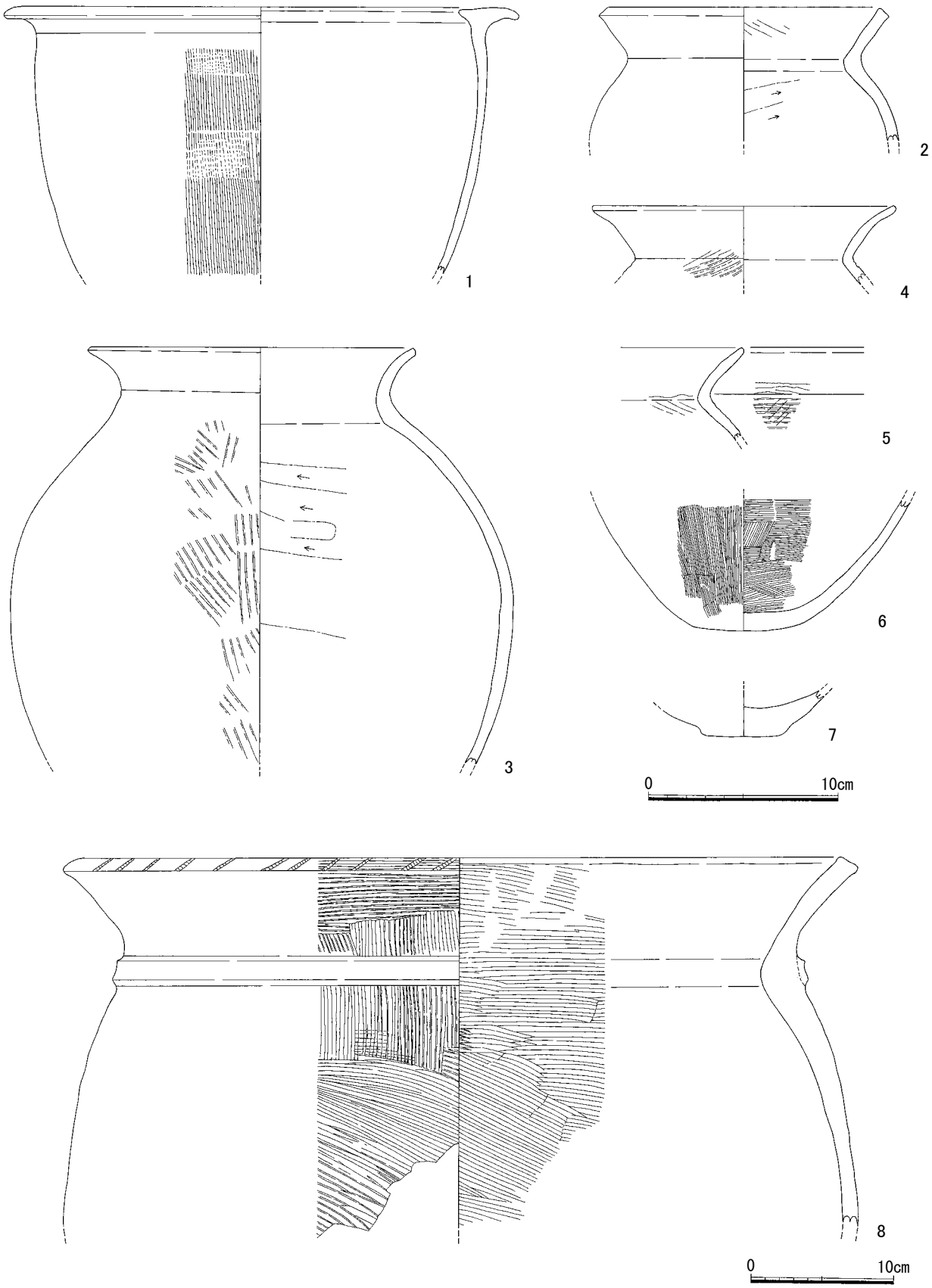


図148　12区包含層他出土土器1（1/3、1/4） 8は1/4、他は1/3

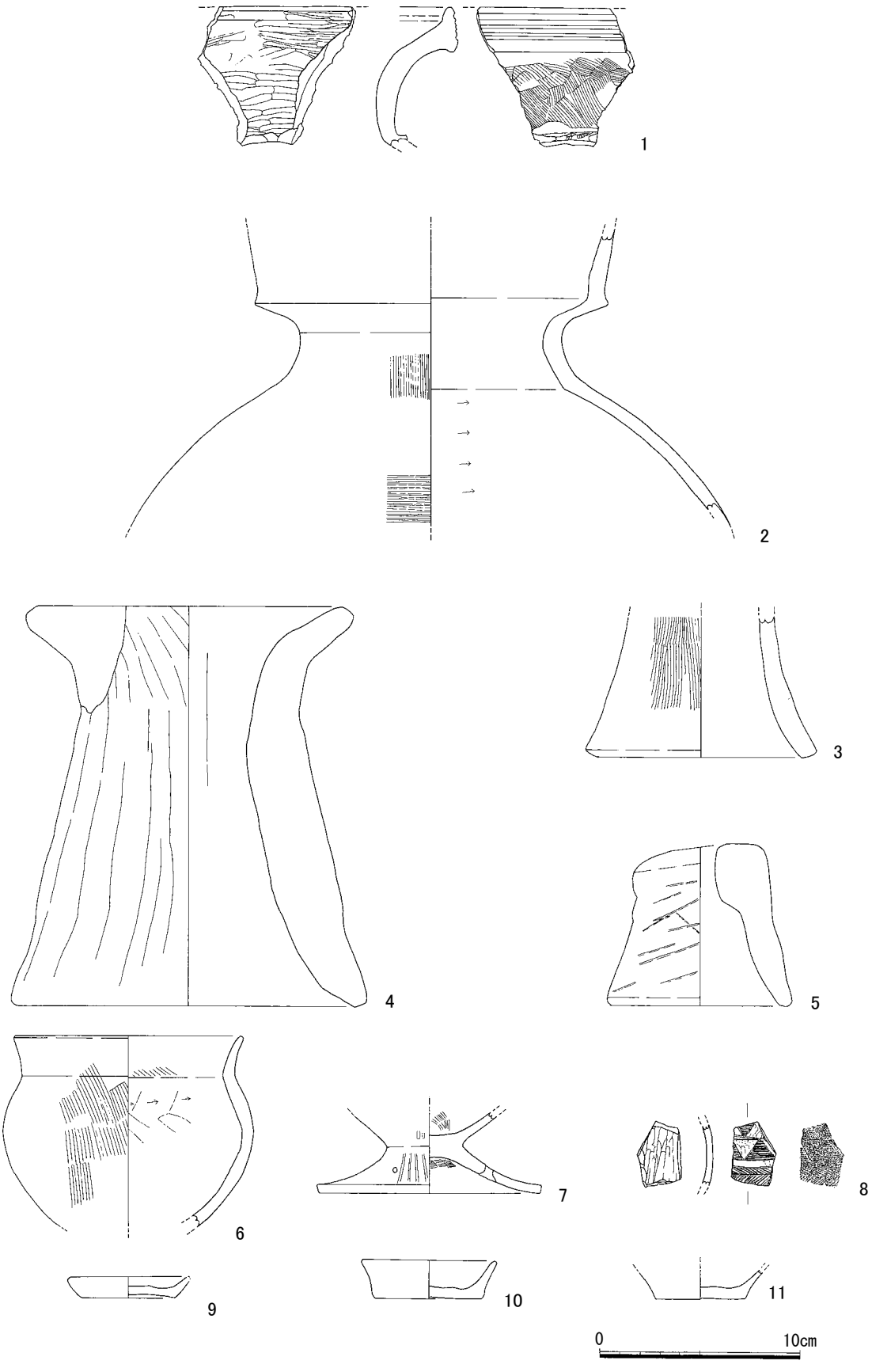


図149　12区包含層他出土土器2（1/3）

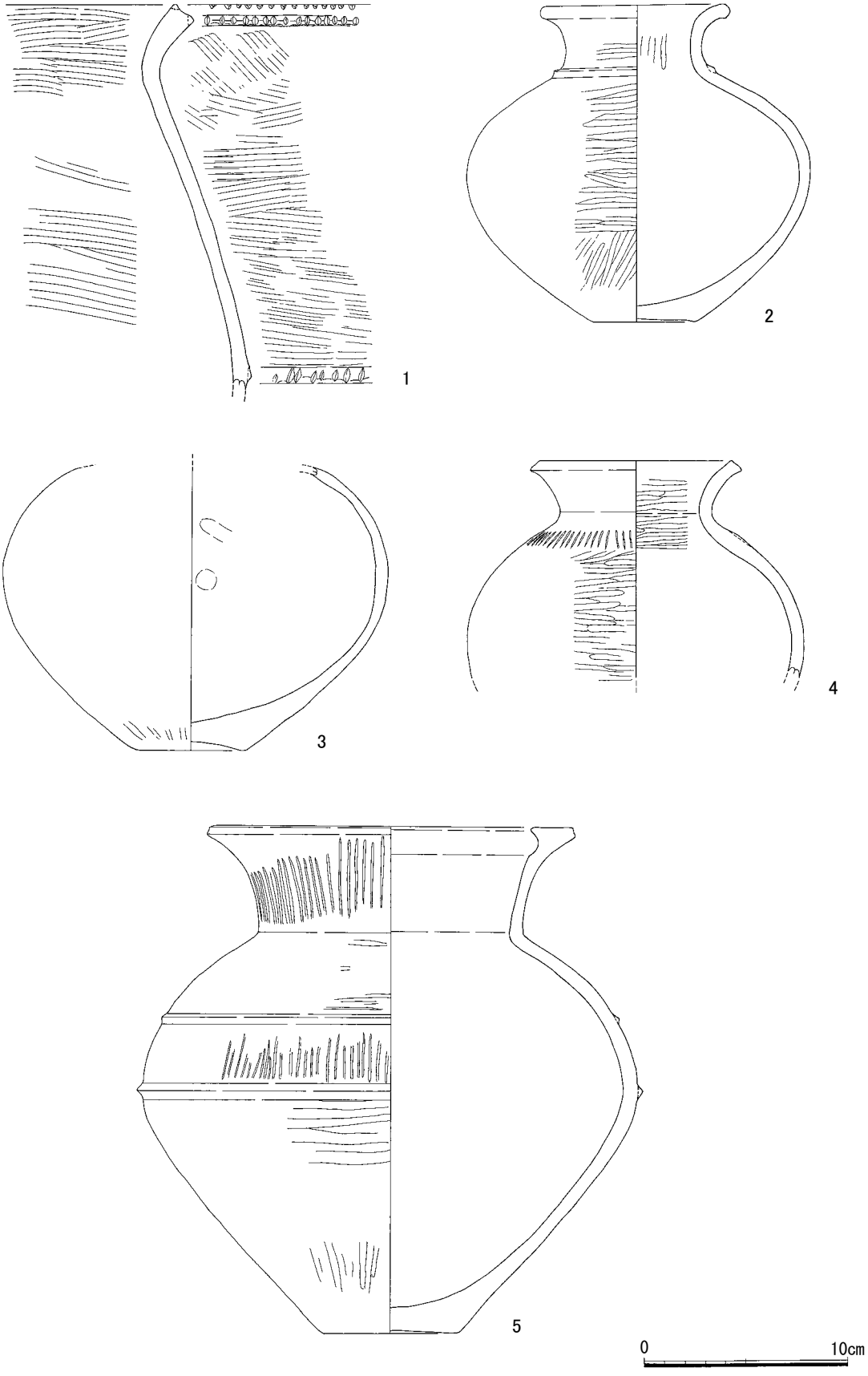


図150　13区包含層他出土土器1（1/3）

図 151-2 は口縁部が緩やかに外反し、胴部には一条の突帯が巡らされている。底部は平底で、底面の中心がやや浮上する。外面の頸部は暗文、胴部はヘラミガキ、内面の頸部はヘラミガキ、ナデを施す。

図 152-1 は弥生土器の甕の口縁部片である。口縁部がくの字状に外反し、外面の胴部にタタキ、内面にハケが施される。

図 152-2 ～ 4 は土師器の甕である。2 は口縁部が緩やかに外反し､胴部に一条の突帯を巡らせている。外面にハケ、内面にヘラケズリを施す。3 は口縁部がくの字に外反し、尖底である。外面の胴部および内面の口縁部付近にハケ、胴部にヘラケズリを施す。4 は頸部付近のみ残存する。器厚が薄手であり、外面にタタキ、内面にヘラケズリを施す。

図 152-5 は口縁部～胴部上半にかけての小片であり、深鉢と考えられる。

図 152-6 はミニチュア土器の二重口縁壺である。外面の胴部にヘラミガキを施す。

図 152-7、8 は鉢である。口縁部～胴部まで残存する。7 は鉢形の鋸歯文土器である。外面に四条の沈線と鋸歯状三角の文様を交互に組み合わせており、文様のうち最下部のものは逆三角形を呈する。内面はミガキを施す。8 は外面に四条の沈線と貝殻文を交互に組み合わせており、内面にミガキを施している。

図 152-9 は単純口縁の深鉢である。外面、内面共に胴部にハケを施す。

図 152-10 はミニチュアの深鉢である。底部に穿孔とみられる欠損が確認される。

図 152-11 は台付鉢の底部である。

図 152-12、13 は高杯である。共に口縁部～杯胴部まで残存している。12 は口縁部付近に突出した稜線を挟んで口縁が緩やかに外反する。外面の口縁部付近に暗文、杯胴部にヘラミガキ、内面はヘラミガキを施す。13 は杯胴部と口縁部の間に稜を成しており、外面にミガキ、内面に工具ナデを施す。

図 152-14 は把手の小片のようにも見受けられるが、不明の土製品である。

図 153-1 ～ 3 は土師器の蓋。外面、内面のそれぞれ天井部付近に工具ナデ、口縁部付近にヘラミガキを施す。口縁部においては口縁端部が丸みを帯びており、杯胴部との境界あたりに稜線を持つ。2、3 は口縁部と杯胴部の境界あたりの稜線から口縁端部にかけてやや外反している。

図 153-4 ～ 7 は土師器の杯である。口縁部がくの字に内傾しており、口縁部付近に受け部をもつ。底部は丸底である。外面にヘラミガキ、内面にヘラミガキおよび底部付近に工具ナデを施す。

図 153-8 は甕であり、口縁部～胴部にかけての破片である。口縁がやや外反しており、外面はナデ、内面の頸部～胴部にかけてはヘラケズリを施す。

図 153-9 は黒色土器の椀である。底部付近の小片であり、高台が欠損している。

図 153-10 ～ 12 は土師器の皿である。うち 11、12 は外面の底部が糸切り離しである。

図 153-13 は陶磁器の皿である。SK13117 の埋土中から完形の状態で出土した。高台は貼り付けであり、外面、内面共に施釉を施し、貫入が入る。高台端部は露胎している。

図 153-14、15 は染付。14 は高台付皿である。高台は貼り付けであり、外面、内面共に施釉が施されるが、内面の底部付近には円周状に釉薬がかき取られている。15 は椀であり、完形の状態で出土している。高台は貼り付けであり、外面、内面共に施釉を施すが、高台端部は露胎している。

図 153-16、17 は貼り付け高台の陶器である。16 は椀である。外面、内面共に施釉を施し、貫入が入る。高台端部は露胎している。17 は皿である。外面の一部および内面に施釉を施し、内面の底部付近には円周状に釉薬がかき取られている。

図 153-18 は染付の椀。高台は貼り付けであり、完形の状態で出土。外面、内面共に施釉を施すが、

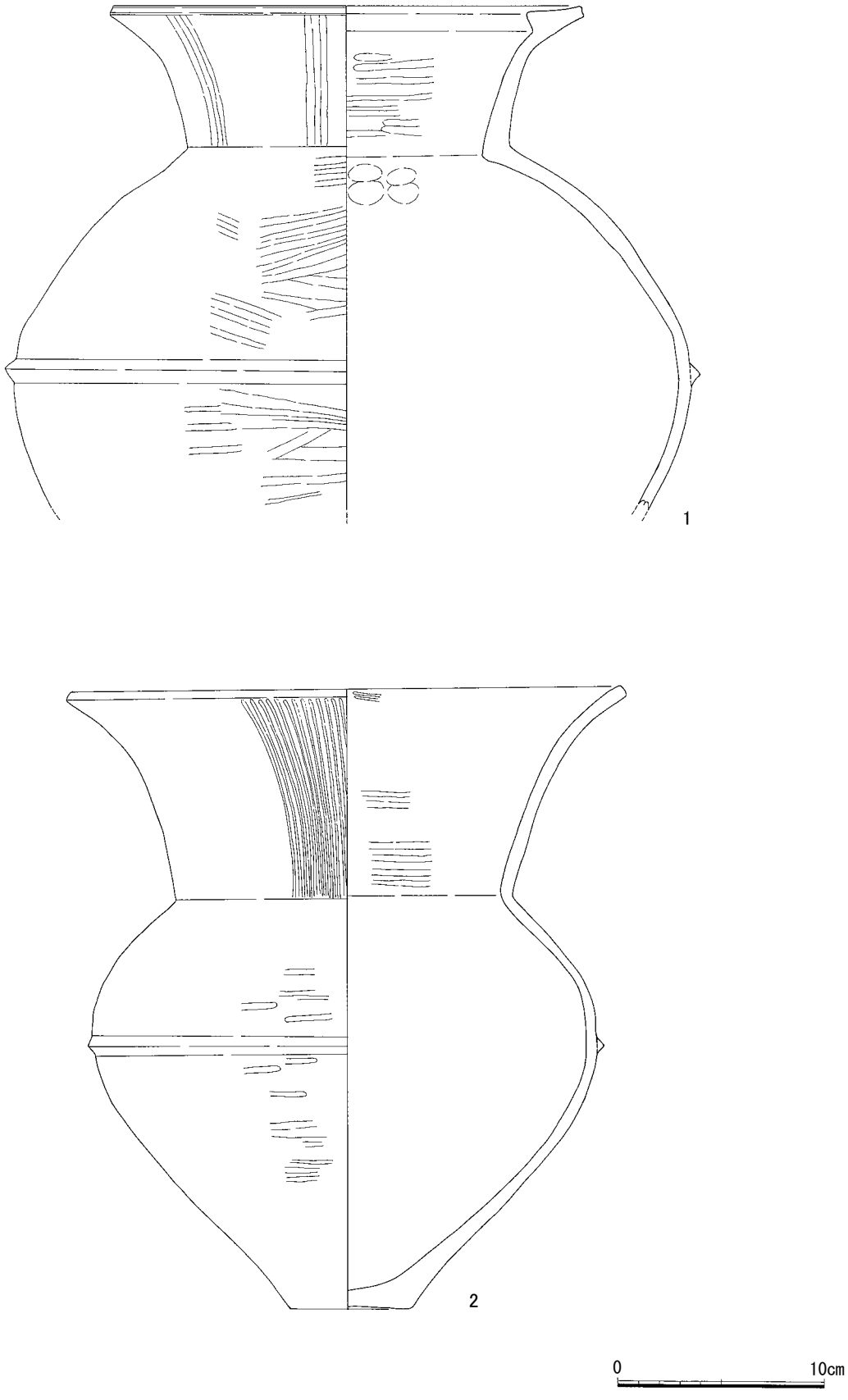


図151　13区包含層他出土土器2（1/3）

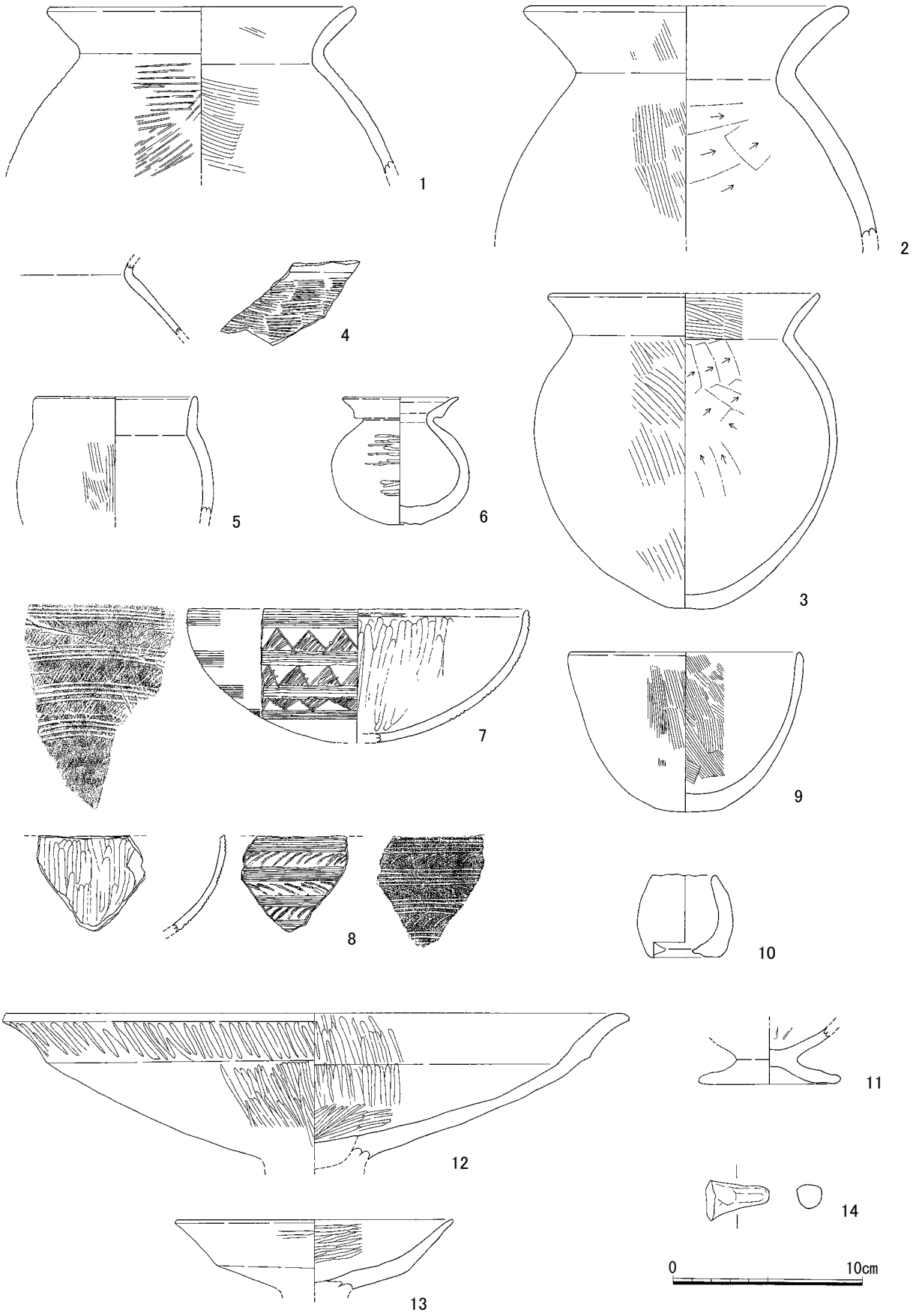


図152　13区包含層他出土土器3（1/3）

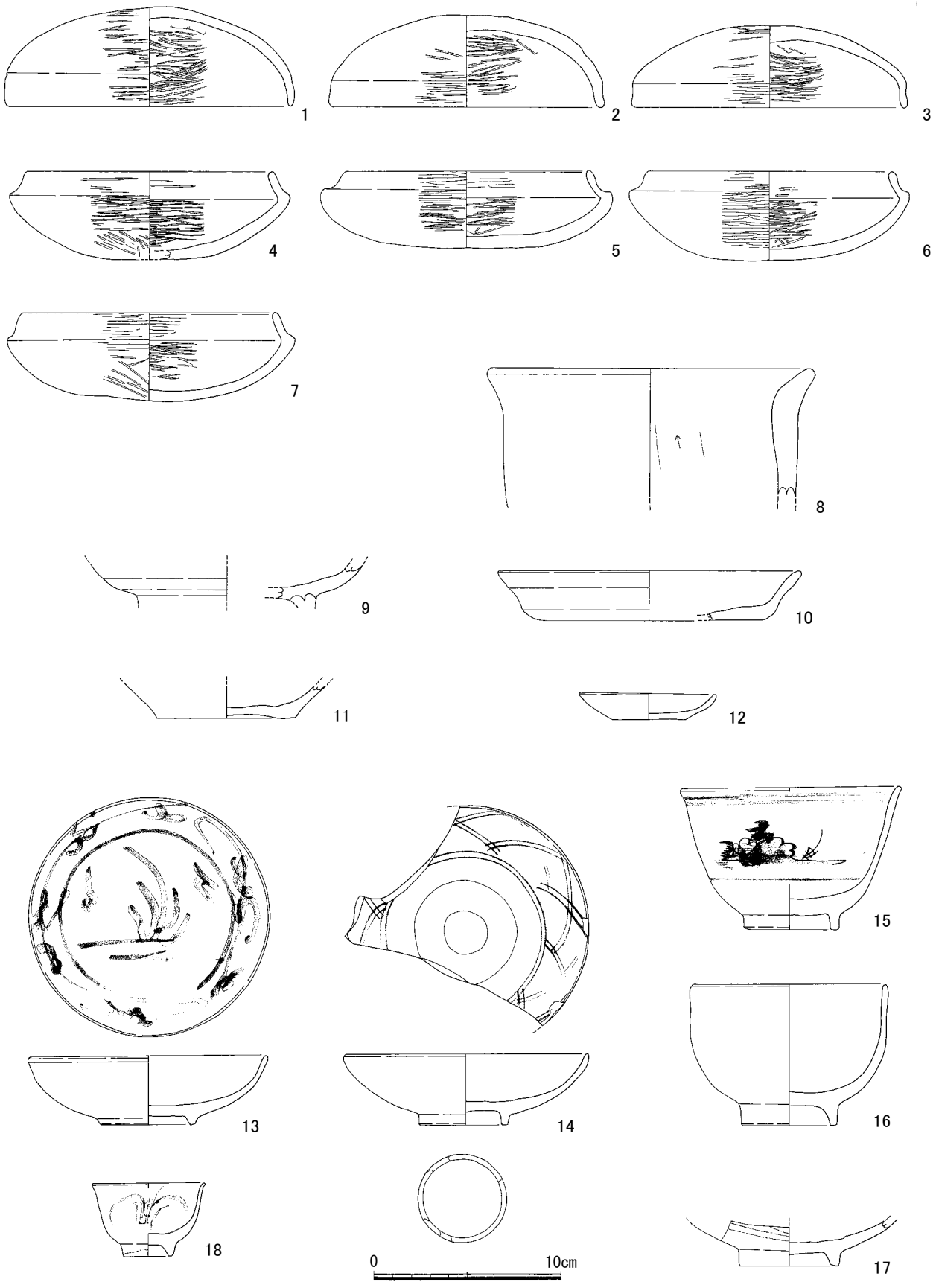


図153　13区包含層他出土土器4（1/3）

底面および高台端部は露胎している。

図 154-1 は磁器の皿である。高台は貼り付けであり、外面、内面共に施釉を施す。

図 154-2 は染付の皿である。高台は貼り付けであり、外面、内面共に施釉を施す。高台端部は露胎している。

図 154-3 は陶器の擂鉢である。外面、内面共に口縁端部付近に施釉を施す。内面は擂目が巡らされており、底部は糸切り離しである。4 は陶器の甕であり、口縁部～胴部にかけての破片である。外面、内面共に施釉を施すが、一部露胎している。また、内面に同心円文状のタタキが確認できる。

２，鉄製品、鍛冶関連遺物

集落出土鉄製品および古墳周溝出土鉄製品の内、弥生時代のものである可能性が高かったため未報告となっていたものについては、未製品も含め、全点実測図を掲載する。事実記載にあたっては鉄器の特徴について説明し、寸法等の各種計測値については表で提示する。主な遺構の時期については『中原遺跡Ⅶ』に示したものを用いる。

鉄製品製作に伴う副次的な生成物である鉄片類については、出土量が膨大であるため、出土遺構内の出土比率を反映する形で抽出を行い、実測図を掲載する。寸法については鉄製品同様に表で提示する。

なお、SX という種別にした性格不明の土坑状ないし竪穴状の遺構で、鉄片が集中して出土するものがある。土器をほとんど伴わず時期の判断が難しいものもあるが、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の廃棄坑と考え、その出土鉄器と鉄片類も合わせてここに掲載する。古墳時代前期前半の遺構を壊したことで、古墳周溝等からも同様の鉄器、鉄片が出土しており、こちらも合わせて報告する。図示する鉄製品および裁断片は 968 点であり、総数 4073 点の 23.67％である。これに鉄滓や羽口など鍛冶関連遺物 94 点を加えた 1062 点について本節では報告する。

（１）鉄製品

計 235 点を図化した。種類は鉄鏃、鉇、刀子、利器、船底状鉄器、穿孔具、鑿状工具、鉄斧、摘鎌、小型工具が出土している。

鉄鏃

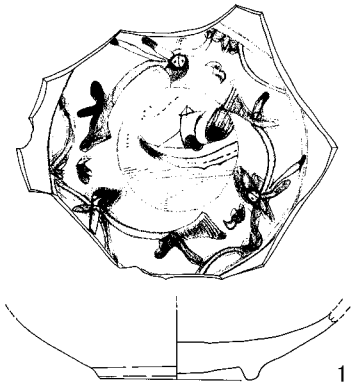
中原遺跡出土の弥生時代後期後半～古墳時代前期の鉄鏃は 68 点出土し、有茎鏃と無茎鏃に大別される。有茎鏃が 52 点であり、比率では有茎鏃の占める割合が高い。有茎鏃の中では圭頭式鉄鏃の出土量が多く、11 区から製品 7 点、未製品 3 点、12 区から製品 23 点、未製品 10 点が出土した。有茎鏃、無茎鏃の順に図を提示する。なお、それぞれ 11 区出土品と 12 区出土品とを分けて、量的に弥生時代後半の資料の中心となる 12 区出土品をまず掲載し、11 区出土品を次に掲載する。

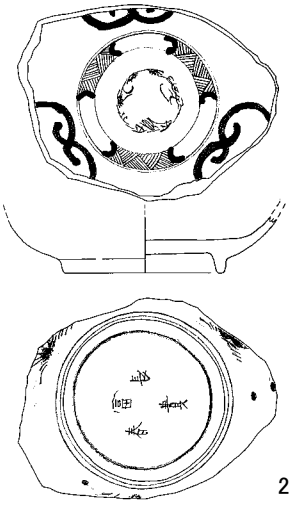
a. 有茎鏃

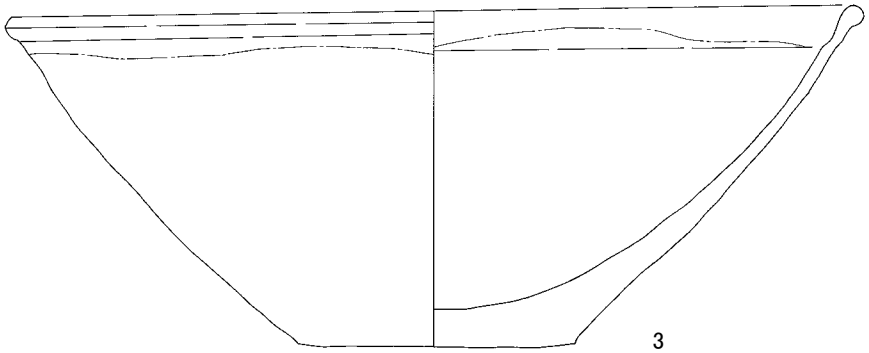
圭頭式と柳葉式、鑿頭式に大別される。刃部欠損のため、ST12032 古墳周溝出土の図 155-26、SX12012 周溝墓出土図 155-27、SH11231 竪穴住居跡出土図 156-24、ST11002 古墳周溝出土図 156-25 は種類を確定し難い。

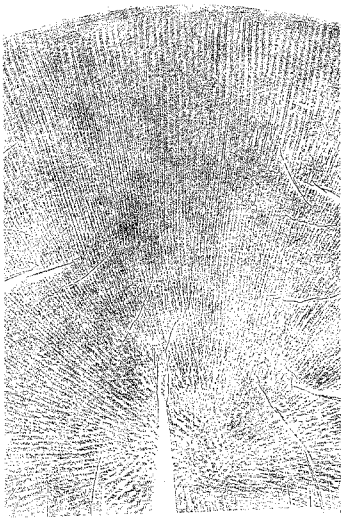
１２区出土有茎鏃

鉄鏃は竪穴住居跡を中心として出土した。竪穴住居跡を切る形で築かれた前期古墳周溝内からも一定量が出土している。その特徴から古墳に伴う副葬品と考えられるものもあるが、大半の鉄鏃およびその未製品は竪穴住居跡出土品と特徴が共通するため、本来は竪穴住居跡などの弥生時代後期後半の集落に伴うものと判断される。









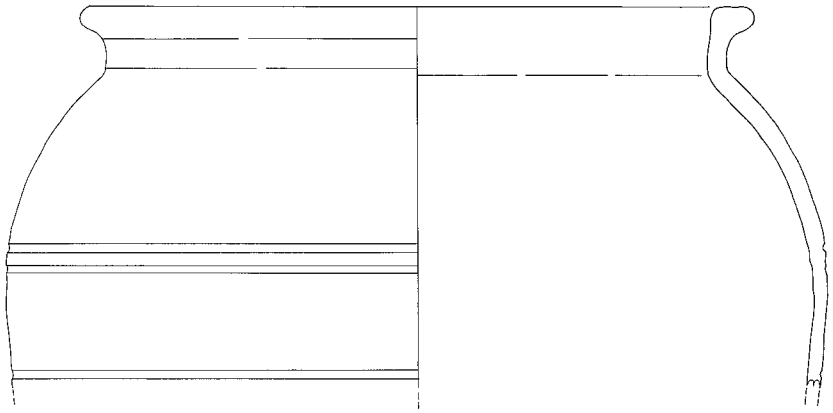






図154　13区包含層他出土土器5（1/3）

柳葉式

図 155-1 は古墳時代前期の ST12032 古墳周溝出土の大型品で、明瞭な鏑はなく、平面形は左右対称形を志向しているが、歪みが生じ、完全な対称形には仕上げられていない。断面形は鏃身部レンズ状、茎部方形を呈する。厚みは茎部から鏃身関部にかけて徐々に薄くなる。層状剥離が起きているため、鍛造品と考えられる。形態的特徴からは柳葉式とは分けておくほうが良いかもしれない。また、前期古墳の副葬品として出土する傾向をもつ形態の鏃であるため、主体部から流出した副葬品の可能性が高い。

図 155-7 は P-41 グリッド包含層出土で、錆に覆われているため、鏑の有無は不明である。ソフトエックス線透過写真で確認する限りでは明確な鏃身関部は作られていないが、平面形は左右対称に整っている。断面形は刃部ではレンズ状、茎部で円形を呈する。厚みは刃部先端ほど薄く仕上げられている。錆瘤や表面の剥離の状況からは鍛造品と考えられる。茎部は木質に覆われており、矢柄が部分的に残っている。

図 155-8 は弥生時代後期後半新の SH12028 竪穴住居跡出土で、鏑はなく、平面形は左右対称形に整っている。断面形は刃部先端付近でレンズ状、茎部で方形を呈する。厚みは茎では一定の厚みで、鏃身部で薄くなり、刃部ほど薄い。刃部先端は鋭利で、鍛打による整形後、鏨切りし、研磨により仕上げられているのだろう。錆瘤や表面の剥離の状況からは鍛造品と考えられる。

図 155-19 は弥生時代後期後半古の SH12041 竪穴住居跡出土で、2 点の鏃が錆着している。1 点は刃部より先を欠損しているため、小型の有茎鏃であることしか分らない。1 点は茎を作り出す途中で放棄された未製品である。扁平な長方形鉄板に鏃の刃部整形後、茎部に相当する部分を折り曲げている。有茎鏃の製作工程を示す資料である。

圭頭式

12 区出土圭頭式鉄鏃は図 155-2 ～ 6、9 ～ 18、20 ～ 25、図 156-1、2 が製品、図 156-3 ～ 12 は未製品である。

弥生時代後期後半古の SH12027 からは図 155-21、弥生時代後期後半新の SH12028 竪穴住居跡からは図 155-5、弥生時代後期後半の SH12035 竪穴住居跡からは図 155-4、14 ～ 17、22、図 156-2、弥生時代後期後半の SH12036 竪穴住居跡からは図 156-5、弥生時代後期後半の SH12043 竪穴住居跡からは図 155-9、18、SK12018 土坑からは図 155-24、SK12044 土坑からは図 156-3、SK12073 土坑からは図 156-1、古墳時代前期の SX12012 周溝墓からは図 156-10、12、SX12045 からは図 155-20、SX12082 からは図 156-7、SX12085 からは図 156-9 、古墳時代前期の ST12032 古墳周溝より図 155-2、3、6、10 ～ 13、23、25、26、図 156-4、6、8、が出土した。

いずれも茎部が厚く、刃部先端が薄くなる、鍛打により整形された鍛造品である。刃部は刃先から最大幅部分までに形成されている。図 155-5 では鏃身と茎部の厚みの違いが顕著である。茎部は断面方形で、鏃身半ばまでは断面長方形を呈する。刃部先端の断面形はレンズ状を呈する。厚みの個体差は僅かである。平面形や大きさは多様で、刃部がやや長いものや鏃身から茎部へ幅が絞られるもの、緩やかに茎部が形成されているもの、茎の短いもの、長いもの、幅の広いものや狭いものなどがあり、規格性は低い。

熊本県小野原遺跡群の報告書における村上 2010 の圭頭鏃分類案には、身幅が茎幅より僅かに広がる細身タイプ、身幅が茎幅の 2 倍以上ある幅広タイプがあり、幅広タイプは鏃身から茎への変化が大きいものと鏃身から茎にかけて内湾気味になるものに細分される。

12区出土

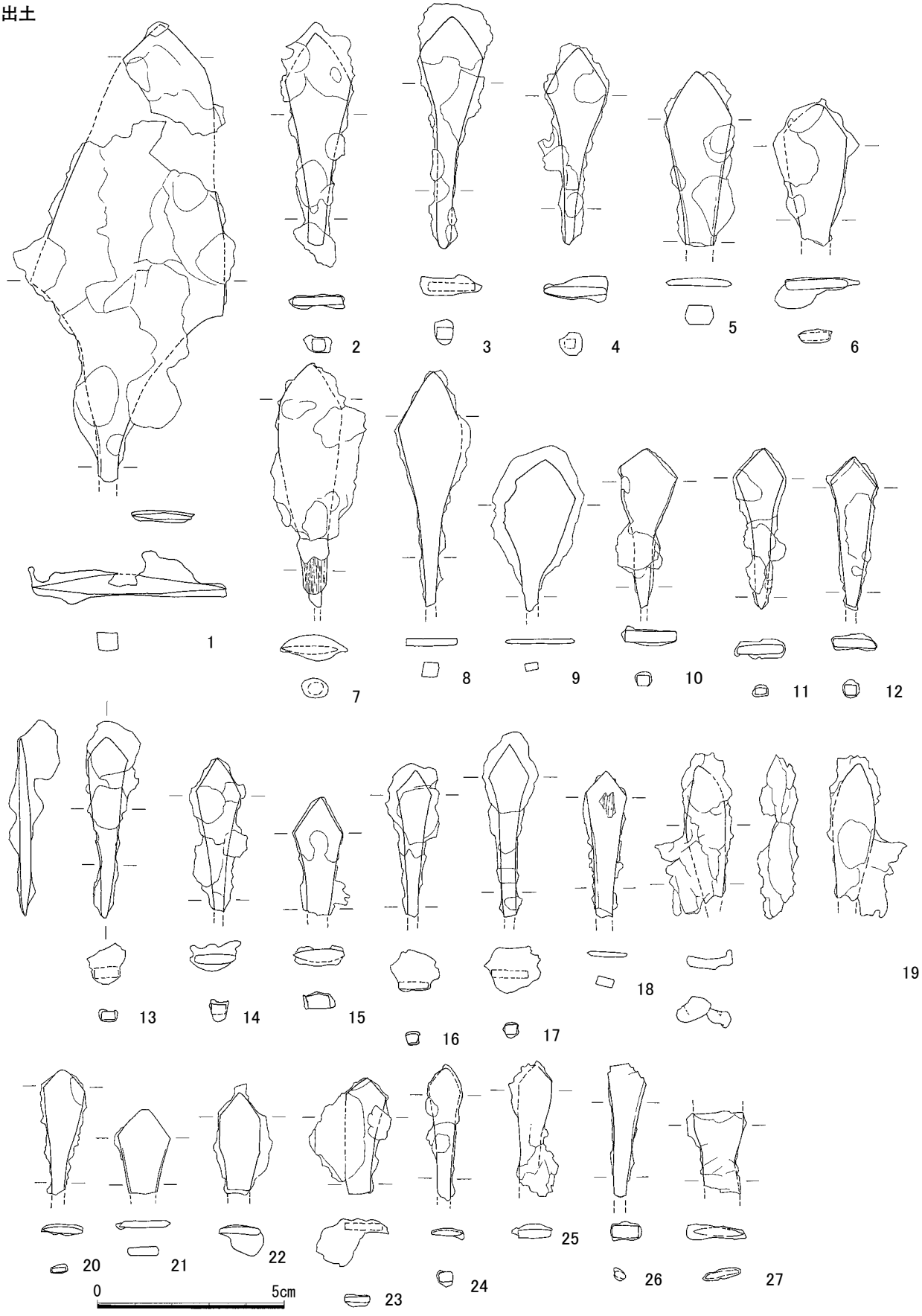


図155　12区出土鉄製品（2/3）

12 区出土圭頭鏃では、村上 2010 の分類に従って分類すると、茎幅 0.3 ～ 0.5cm で身幅 1.8cm 前後の幅広タイプの変化が大きいものは図 155-2 ～ 4、9、10、未製品の図 156-4、7 が該当する。茎幅 0.7cm 前後で身幅 1.8cm 前後幅広タイプの内湾するものは図 155-5、6、21 未製品の図 156-3、5、6 が該当する。茎幅 0.3 ～ 0.5cm で身幅 0.9cm 前後の細身タイプは製品では図 155-13、16 ～ 18、22 ～ 25、図 156-2、未製品では図 156-9 が該当する。細身タイプは左右対称形となる傾向にある。中原遺跡出土圭頭鏃は、茎幅 0.3cm で身幅 1.3cm の図 155-21 のように村上分類の幅広タイプと細身タイプの中間の大きさのものが認められ、明確に分化していないと言える。また、細身タイプのものは小野原遺跡群出土品よりも全長が短く小さい傾向にある。

未製品では製作工程を示す痕跡が認められる。図 156-3 ～ 6 の未製品は、刃部を鏨切りで形成する前に、素材を鍛打し、鏃身下半から茎部にかけての形を作っている。図 156-9 や 10 の未製品は刃部先端も断面長方形で、鉄板に対して垂直方向からの鏨切りをしたのみで、仕上げの研磨がなされていない。製品と見られる図 155-12 には刃部に鏨切りによる切断痕が残っており、鏨切の角度によっては研磨を最低限で済ませたものとみられる。図 156-7 では刃部を鏨切りではなく、鉄板の折り曲げによって作り出している。

１１区出土有茎鏃

11 区では圭頭式鉄鏃と鑿頭式鉄鏃が出土した。柳葉式鉄鏃は出土していない。後期後半の竪穴住居跡を切る中期古墳周溝からも鉄鏃が出土しているが、弥生時代後期と古墳時代中期の鉄器様相とは大きな違いがあるため、11 区古墳周溝出土鉄製品のほとんどについて、その特徴から本来は弥生時代後期後半のものと判断される。

圭頭式

11 区出土圭頭式鉄鏃は図 156-13 ～ 19 が製品、図 156-20、22 ～ 23 は未製品である。弥生時代後期後半の SH11231 竪穴住居跡からは図 156-17、SK11148 土坑からは図 156-19、古墳時代中期の ST11002 古墳周溝からは図 156-23、古墳時代中期の ST11067 古墳周溝からは図 156-13 ～ 16、18、20、22 が出土した。切り合い関係からは弥生時代後期後半に製作されたものが多いとみられる。
幅広タイプの変化が大きいものは図 156-13、幅広タイプで内湾するものは図 156-14、15、未製品の図 156-22、細身タイプで変化が大きいものは図 156-16、細身タイプで内湾するものは図 156-18 ～ 20、未製品の 23 である。

12 区出土品同様に製品は茎部が厚く、刃部先端が薄くなる、鍛打により整形された鍛造品である。茎部は断面方形で、鏃身半ばまでは断面長方形を呈する。形態も多様である。未製品は茎部が形成されている。

鑿頭式

古墳時代中期の ST11141 古墳周溝から図 156-21 が出土した。鏃身部は断面方形、茎部は断面円形を呈する鍛造品である。刃部は両刃に作られている。古墳に伴う可能性が高い。

b. 無茎鏃

無茎鏃は三角形鏃が 15 点出土している。12 区からの出土が 13 点と大半を占める。無茎鏃は刃部両側縁が曲線となるふくらみの度合いや基部の抉りの形態によって細分される。

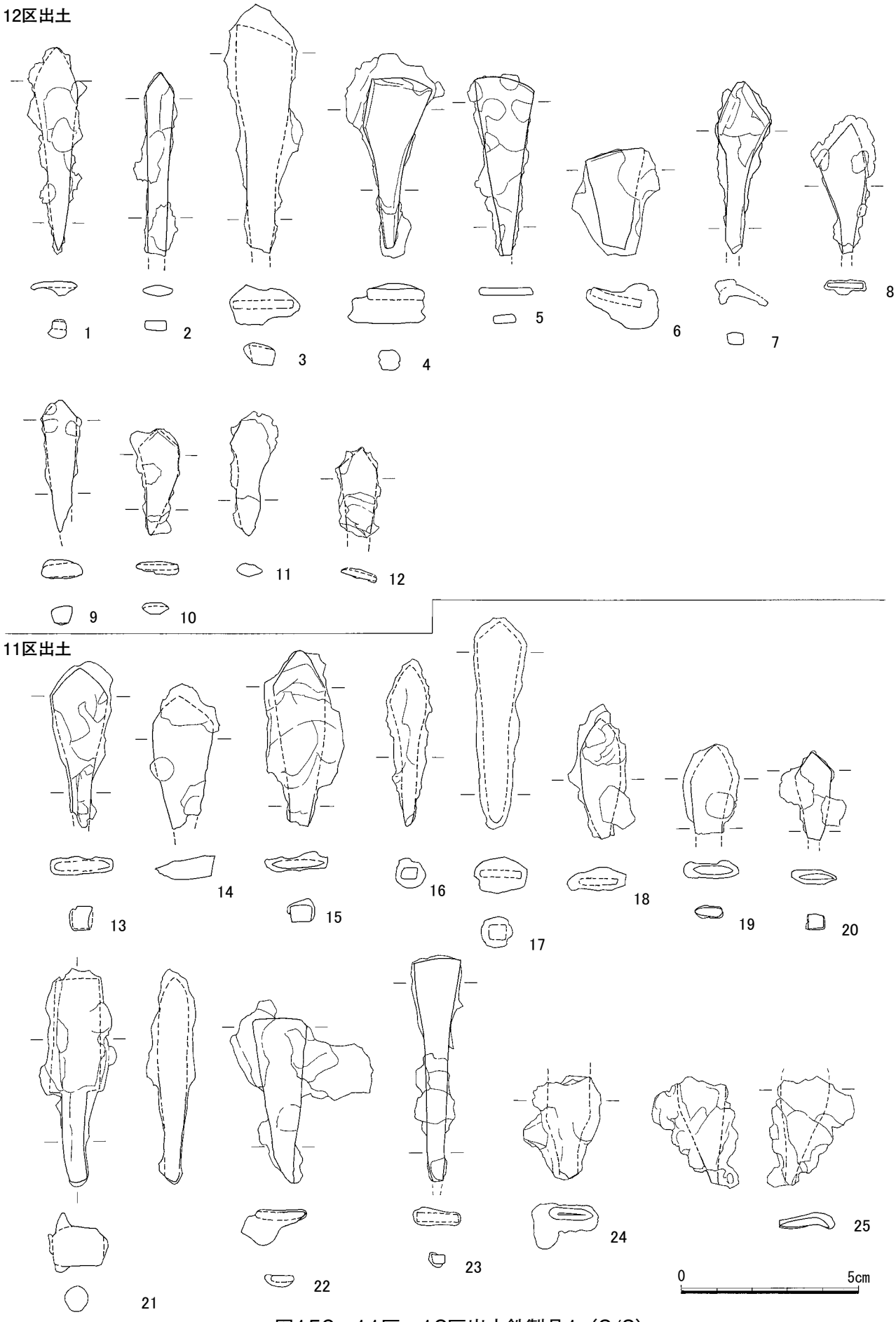


図156　11区・12区出土鉄製品1（2/3）

１２区出土無茎鏃

数種類の無茎三角形鏃が出土している。弥生時代後期後半の SH12035 竪穴住居跡から図 157-3、弥生時代後期後半の SH12036 から図 157-9、弥生時代後期後半古の SH12041 竪穴住居跡から図 157-6、弥生時代後期後半の SH12043 竪穴住居跡から図 157-1、4、古墳時代前期の SX12012 周溝墓から図 157-5、7、8、10、11、古墳時代前期の ST12032 古墳周溝から図 157-2、12、13 が出土した。古墳周溝出土品は有茎鏃同様に竪穴住居跡などの弥生時代後期後半の集落に伴うものと判断される。

図 157-12 は根挟みとみられる木質の付着がある。このことから、丸みの多いものも鏃として製作されたものとみられ、同様の形態である図 157-10、11、13 も無茎鉄鏃とした。

ふくらみのない図 157-7、刃部の丸みが少ない図 157-4、6、ふくらみのつく図 157-1 ～ 3、5、8、9、丸みの多い図 157-10 ～ 13 がある。基部については、図 157-5、9 は欠損しているため不明である。

図 157-10 ～ 13 は基部が直線となる平基で、他は凹基である。平面形は図 157-1 ～ 3、8、10 ～ 13 は左右対称である。

図 157-1、2 は細身で柳葉状を呈し、凹基の抉入部の形状は台形になる。基部から刃部先端付近までの厚みはほぼ同じである。

図 157-3 は凹基の抉入部は弧状で深い。

図 157-4 は凹基の抉入部は弧状で浅い。

図 157-6 は凹基の抉入部は弧状で、基部付近に二箇所の穿孔が認められる。

図 157-7 は凹基の抉入部は弧状で深い。全長は幅より短い。

図 157-8 は凹基の抉入部は三角形状で深い。

１１区出土無茎鏃

図 157-14 は丸みが多く、凹基の抉入部は弧状で浅い。ST11067 出土である。

図 157-15 はふくらみがつき、凹基の抉入部は弧状となる。SX11228 出土である。

鉇

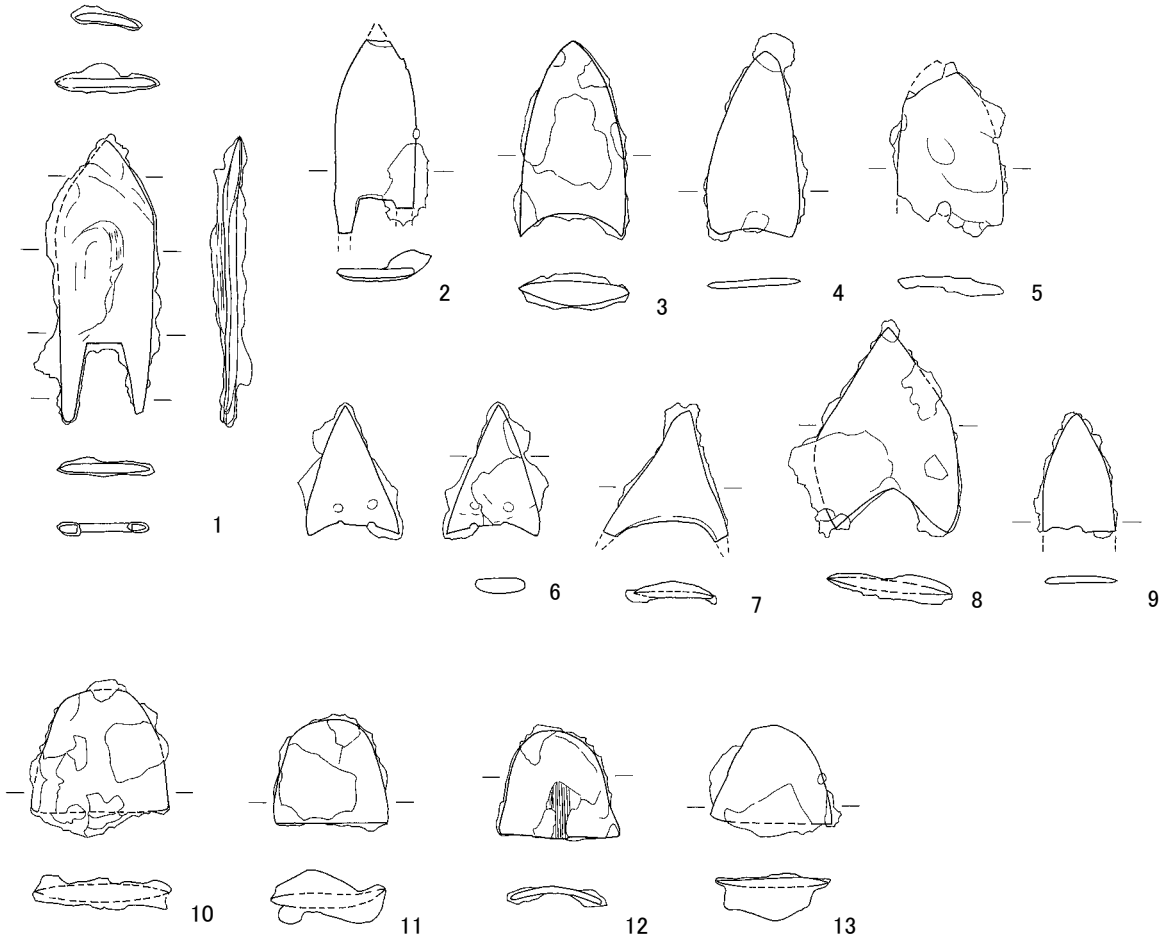
29 点あり、12 区で 14 点、11 区で 15 点出土した。すべて鍛造品である。鉇は大きくは全体的に断面⌒状を呈するものと、身が断面長方形の板状または棒状で刃先のみ断面⌒状を呈するものがあり、細部の形は多様である。断面が⌒状となる仕上げは「裏すき」と呼ばれる。全体に裏すきをもつものは九州の伝統的な鉇と言え、裏すきが刃先だけにあるという特徴をもつ鉇は弥生時代後期後半以降に瀬戸内地域から各地に広がるものである。

鉇は田中謙氏により平面形・断面形、反りが分類されており、分布および多様化が論じられている。ここで報告する弥生時代後期後半以降は平面形・断面形の形態差に拘らず刃部が多様化すると指摘されており、手工業生産の特徴によって異なる可能性が示されている（田中 2008）。各鉇の記述にその分類を（平面形と断面形・反り）として併記しておく。

１２区出土鉇

弥生時代後期後半古の SH12027 竪穴住居跡から図 158-14（Ⅲ）、弥生時代後期後半新の SH12028 竪穴住居跡から図 158-11（Ⅰ b）、弥生時代後期後半の SH12043 竪穴住居跡から図 158-1（Ⅰ a・A）、SK12050 土坑から図 158-8（Ⅲ・C1）、古墳時代前期の SX12065 周溝墓から図 158-9（Ⅲ・A）、古墳時代前期の ST12032 古墳周溝から図 158-3（Ⅱ a･A）、4（Ⅱ c･A）、5（Ⅱ･C1）、6（Ⅲ･A）、7（Ⅰ b･A）、10（Ⅰ）、12（Ⅲ）、13（Ⅲ）、攪乱中から図 158-2（Ⅰ a・A）が出土した。いずれも弥生時代後期後半の遺物と考えられる。

12区出土



11区出土

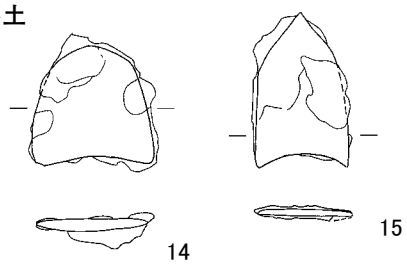




図157　11区・12区出土鉄製品2（2/3）

全体形のわかるものは図 158-3、4 のみで、3 が全長 4.3cm、身幅 1.1cm、4 が全長 4.6cm、身幅 1.0cm である。身幅は最大で 2.0cm、最小で 0.8cm と個体差があることが指摘できる。身幅の平均値は 1.1cm であるが、幅 1.5cm 前後の資料が 4 点、幅 1.0cm 前後の資料が 8 点となり、幅広のものと細身のものに分けることができる。裏すきについては、図 158-1、2、7、9、10、11 は全面に及ぶ。図 158-3、4、8 は刃部のみ裏すきが認められる。図 158-6 は、裏すきはないものとみられる。

幅広のものでは図 158-2 で先端の表面に稜が認められる。図 158-5 は先端が反る。

細身のものでは図 158-3、4、8 で先端の表面に稜が認められる。図 158-8 は先端が反り、縁が薄くなっている。

１１区出土鉇

弥生時代後期後半の SH11166 竪穴住居跡から図 159-11（Ⅲ）、古墳時代前期前半の SH11279 竪穴住居跡から図 158-15（Ⅰ a･A）、16（Ⅰ a･A）が出土した。その他、SH11176 から図 159-10（Ⅰ b･B）、古墳時代中期の ST11002 古墳周溝から図 159-4（Ⅲ・A）、9（Ⅲ・A）、古墳時代中期の ST11067 古墳周溝から図 159- 1（Ⅰ b・A）、2（Ⅲ・A）、3（Ⅱ b・B）、6（Ⅳ・A）、7（Ⅱ b・A）、8（Ⅱ b・B）、12（Ⅰ b）、13（Ⅰ a）、古墳時代中期の ST11141 古墳周溝から図 159-5（Ⅳ・B）が出土した。古墳周溝等出土品については、本来は弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の資料とみられる。

完形品は図 158-15、16、図 159-1、2、7 がある。幅広のものは図 158-15、16 のみで他は細身のものである。裏すきが身まで認められるものは図 158-15、16、図 159-1、11 ～ 13 である。11 区では身が板状を呈するものが目立ち、図 159-4 ～ 8 は先端のみに裏すきがあり、身は板状を呈する。図 159-5、6 は身が板状で細長く、刃部で鏝状に幅広となる村上Ⅳ式であり、西部瀬戸内系の鉇であろう。図 159-5 は使用により刃先が摩耗している。右半が特に形状の変形が著しい。先端が反るものは図 159-5、8、10 がある。

刀子

21 点出土した。弥生時代後期後半の資料は SH12027 竪穴住居跡出土図 160-10、SH12028 竪穴住居跡出土図 160-12、SH12035 竪穴住居跡出土図 160-2、11、SH12036 竪穴住居跡出土図 160-5、6、SH11149 竪穴住居跡出土図 160-9 が出土している。その他は、時期が判別しがたいが、図 160-4 が SX12009、図 161-5、6 が古墳時代前期の ST12032 古墳周溝、図 160-8 が SX12033、図 161-3 が SK12044 土坑、図 160-13 が古墳時代前期の SX12081 周溝墓、図 161-1 が ST11067 古墳周溝、図 160-7 が SB11089 掘立柱建物跡、図 160-1、3、図 161-2 が ST11141 古墳周溝、図 161-4 が SH11228 竪穴住居跡から出土している。

図 160-2、4 は錆と剥離の状況から、鋳造品とみられる。他は鍛造品である。

形態は数種類あり、川越 1993 に示されている分類でみてみると、直角関をもつものが図 160-7、なで肩関をもつものが図 160-9 ～ 11、13、図 161-7 斜め関をもつものが図 160-1、両関をもつものが図 160-8、無関が図 160-6、図 161-2 になる。

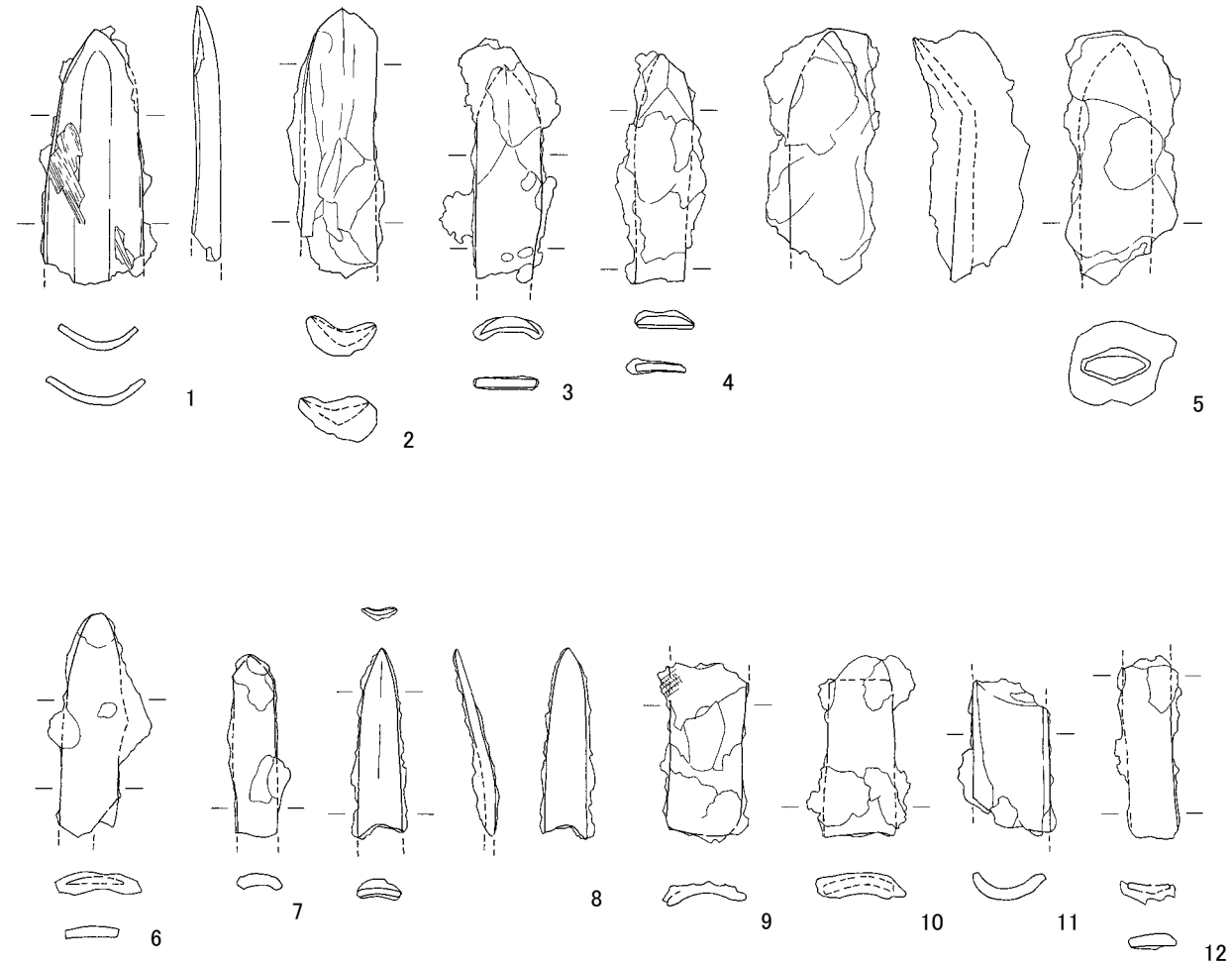
図 160-1 は切先から茎部まで残存する。断面楔状を呈する。図 160-2 ～ 5 は刀の可能性もある。刀と幅広の刀子または小刀との違いは長さであり、現状では判別し難い。

図 161-2 は刃部が研ぎ減りのためか短くなっている。図 161-3 ～ 8 は断面楔状を呈する利器破片で刀子片とみられる。

鉄製利器

7 点出土した。弥生時代後期後半の SH12035 竪穴住居跡から図 161-15 が出土した。その他は古墳

12区出土



11区出土

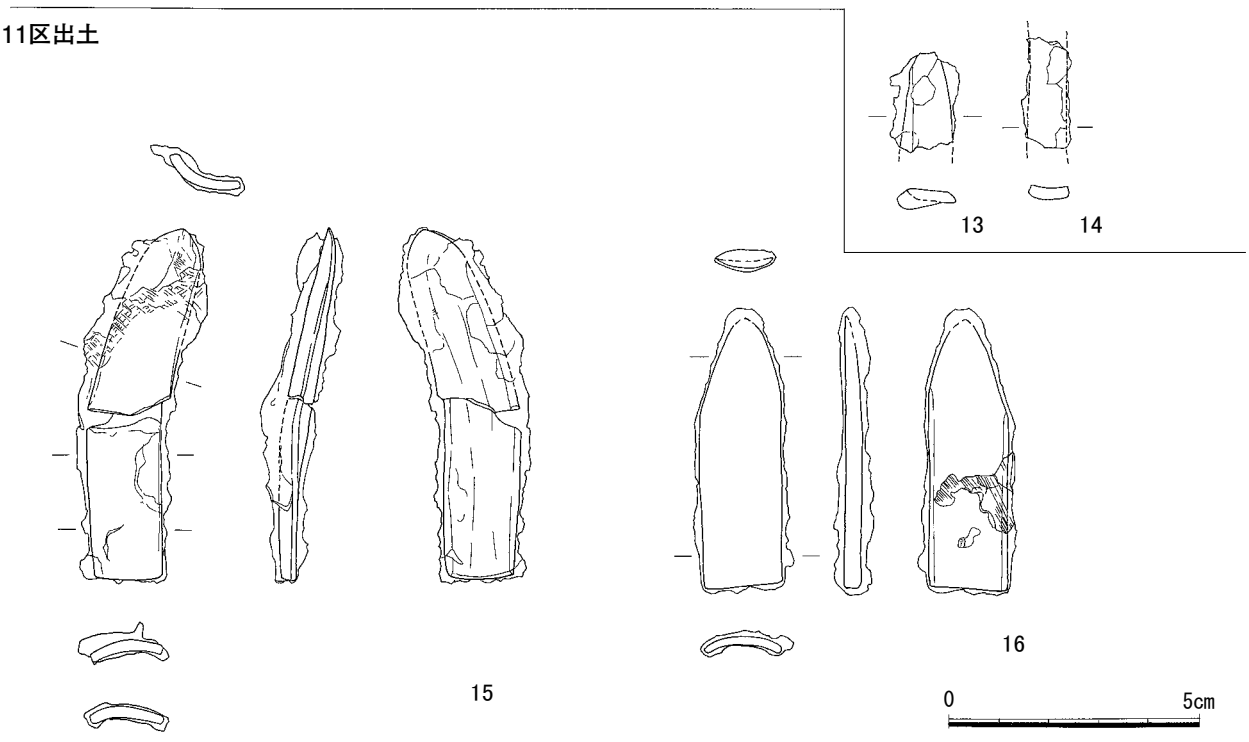


図158　11区・12区出土鉄製品3（2/3）

11区出土

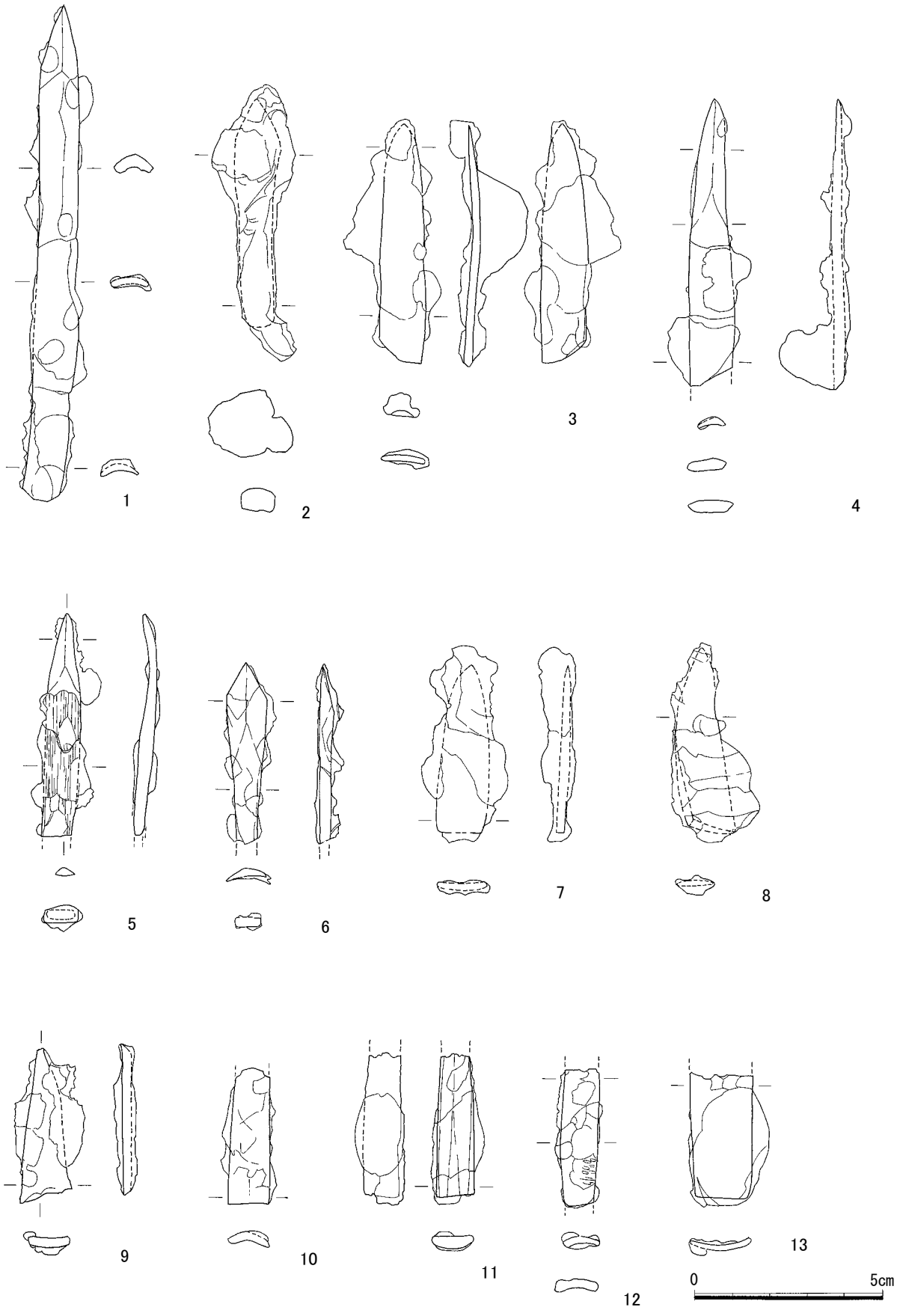


図159　11区出土鉄製品（2/3）

時代中期の ST11002 古墳周溝から図 161-9、古墳時代中期の ST11067 古墳周溝から図 161-10、11、古墳時代前期の SX12012 周溝墓から図 161-13、14、古墳時代前期の ST12032 古墳周溝から図 161-12 が出土しており、他の遺構との切り合い関係から、弥生時代後期後半の資料である可能性が高い。

図 161-9 は図上の右辺に刃が付けられている。図 161-10 は図上左辺に刃が付けられ、右辺は折り返して厚みをもたせている。船底状鉄器に類する小型工具とみられる。図 161-11 は図上左辺に刃が付けられている。図 161-12 は図上右辺に刃が付けられている。左辺は図 161-10 同様に折り返しにより厚く作られている。図 161-13 は図上左辺に刃が付けられている。三角形鉄片を再利用したものだろうか。図 161-14 は鉄製利器の先端破片である。図 161-15 は短剣あるいは両関の刀子などといった鉄製利器の未製品とみられる。

船底状鉄器

村上 2005 で提示された略長条形鉄板の一辺に刃部を有し、対面する辺の縁がやや折り曲げられて製作される鉄製品で船底状鉄器と仮称されている。中原遺跡では 6 点出土した。

弥生時代後期後半の SH12027 竪穴住居跡から図 161-19 が出土した。

他は古墳時代前期の SX12012 周溝墓から図 161-21、SX12046 から図 161-17、古墳時代中期の ST11002 古墳周溝から図 161-18、古墳時代中期の ST11067 古墳周溝から図 161-16、20 が出土し、大半は墳墓造営に際して壊した住居跡に伴う弥生時代後期後半の資料と考えられる。

図 161-16 は錆により分りづらいが、図上右辺に刃が付けられている。図 161-17 は図上左辺に刃が付けられている。図 161-18 は図上左辺に刃が付けられている。図 161-19 は図上左辺が立ち上がる。刃部は不明瞭である。図 161-20 は図上右辺に刃が付けられている。図 161-21 は折り返し部を上面にしたとき右辺に刃が付けられている。

穿孔具

50 点出土した。弥生時代後期後半の遺構では、SH12027 竪穴住居跡から図 162-10、22、27、28、33、SH12028 竪穴住居跡から図 162-19、SH12035 竪穴住居跡から図 162-4、12、SH12036 竪穴住居跡から図 162-5、SH12041 竪穴住居跡から図 162-20、図 163-14 ～ 16 が出土した。

その他の遺構出土品も弥生時代後期～古墳時代前期前半の資料とみられ、ST12002 から図 162-11、古墳時代前期の SX12012 周溝墓から図 162-2、3、14 ～ 18、24、図 163-6、13、SH12027 から図 162-6、古墳時代前期の ST12032 古墳周溝から図 162-7、9、23、25、31、図 163-4、9、12、図 163-1、SK12044 土坑から図 162-21、古墳時代前期の SX12081 周溝墓から図 162-29、30、32、34、図 163-3、5、7、10、11、SX12085 から図 162-8、ST11002 古墳周溝から図 162-1、図 163-2、8、ST11067 古墳周溝から図 162-13、SK11214 土坑から図 162-26 が出土した。

これらは村上 2002 において穿孔具として評価された小型尖端工具および棒状工具である。尖端が角張る未使用もしくは使用回数の少ないものもあるが、多くは基部で角のある断面形、尖端で断面円～楕円形となる。有機質はほとんど付着していない。基部が幅広い図 162-1 ～ 16 は鉄器製作時の副生成物である三角形鉄板などの端切れを再利用したものとみられ、形態に規格性が乏しい。図 162-11 は切断痕が観察できる。鉄片を再利用して製作される小型工具はあまり認識されていないが、中原遺跡では散見されるものである。

図 162-25、図 163-1、2、4 ～ 6、9 ～ 16 のように非常に細く針と評価できるものがある。

鑿

7 点出土したが、完全な形のものは出土しなかった。弥生時代後期後半の遺構では、SH12027 から

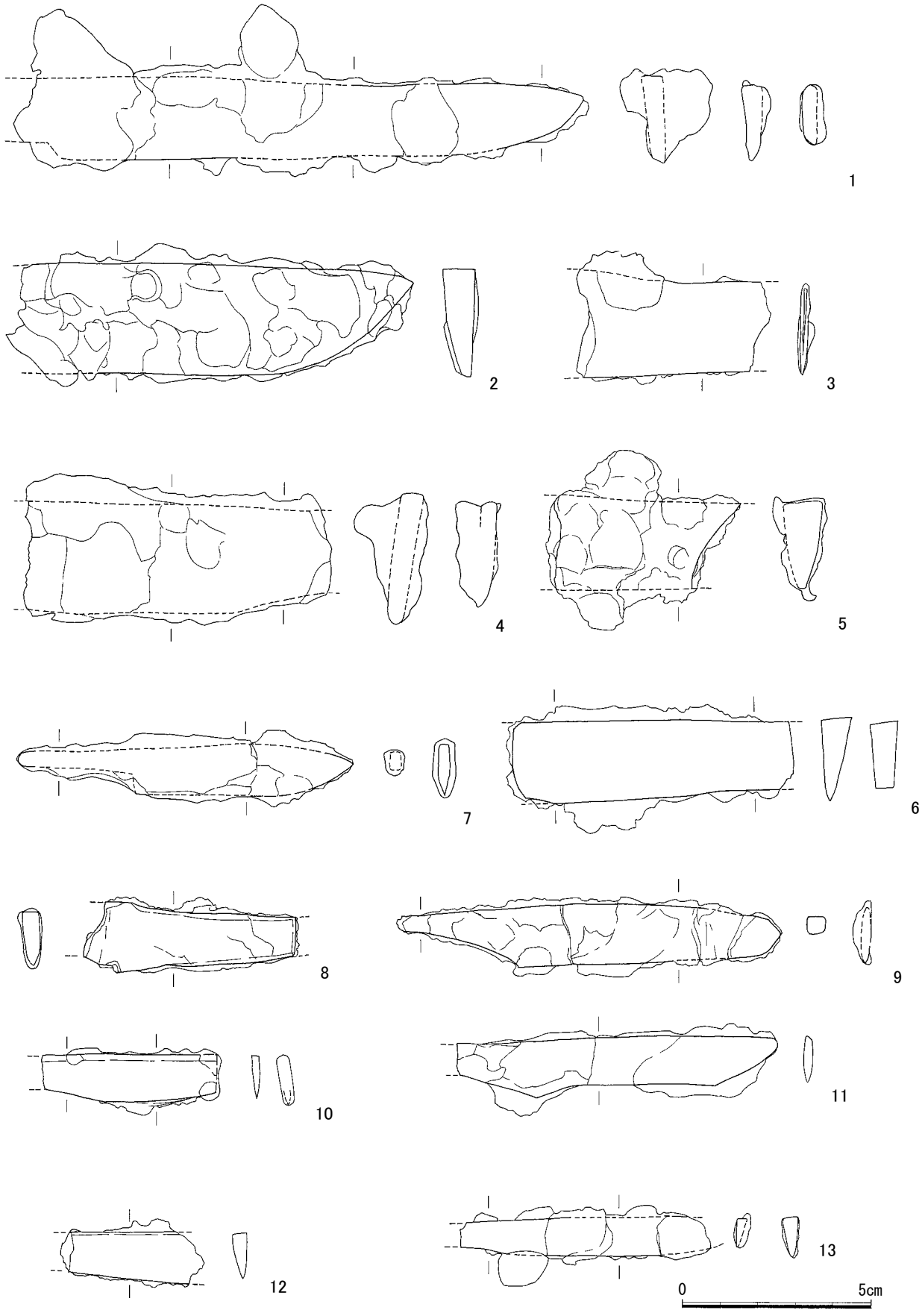


図160　11区・12区出土鉄製品1（2/3）

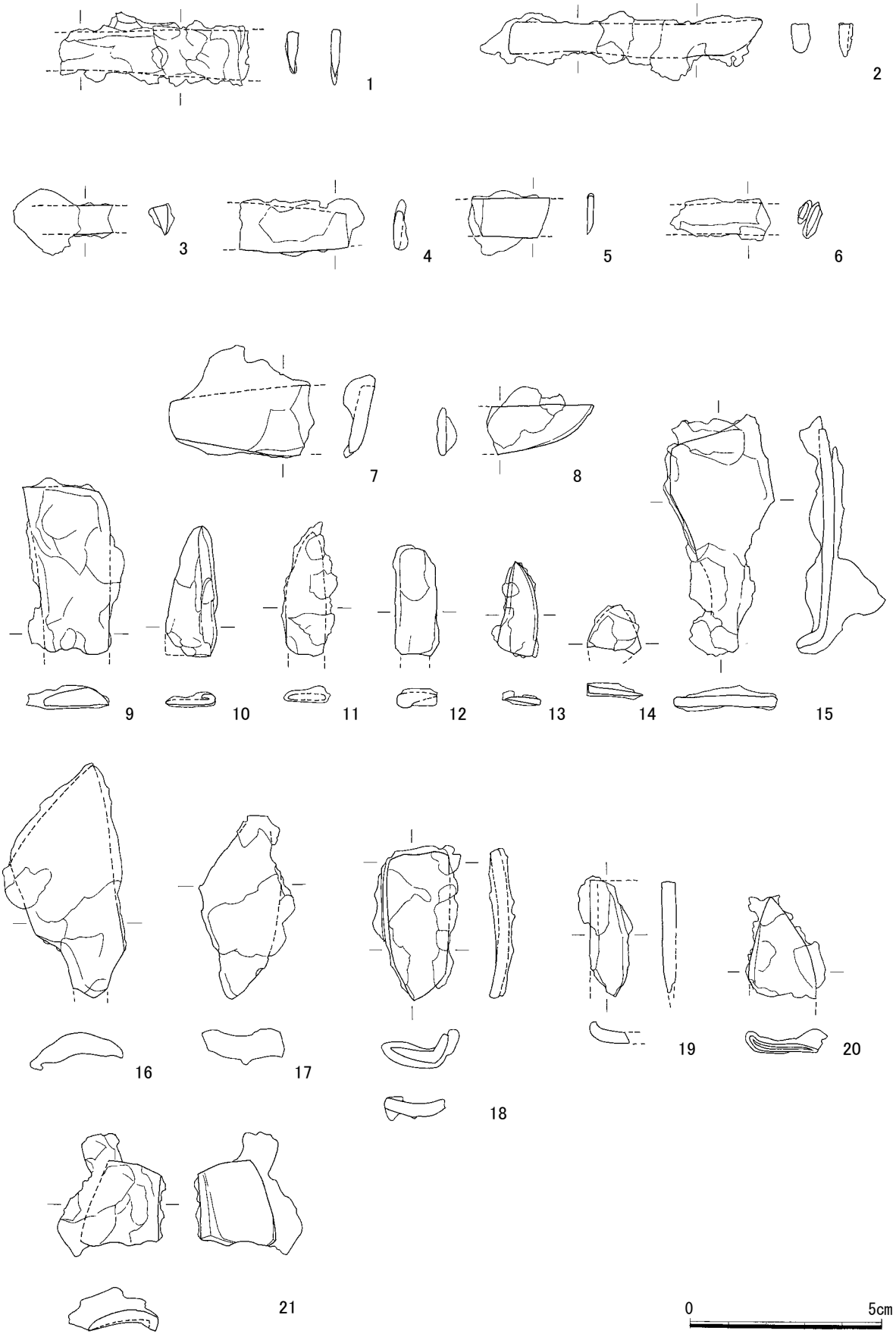


図161　11区・12区出土鉄製品2（2/3）

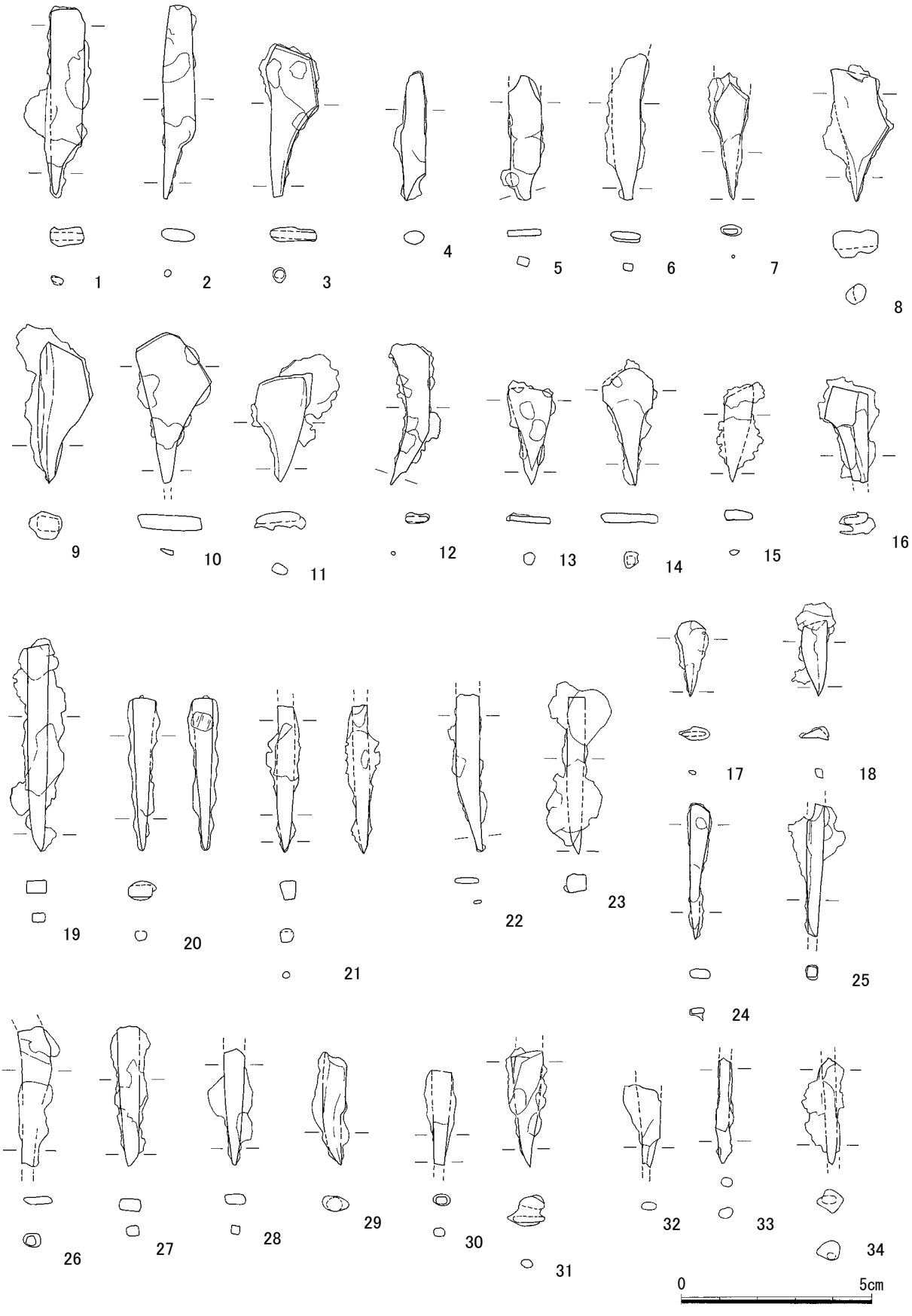


図162　11区・12区出土鉄製品3（2/3）

図 163-20 の袋状鑿、SH12028 竪穴住居跡から図 163-18 の袋状鑿の袋部、SH12036 竪穴住居跡から図 163-17 の袋状鑿未製品が出土した。

その他には、SK12018 土坑から図 163-21 の鑿、古墳時代前期の ST12032 古墳周溝から図 163-19、古墳時代中期の ST11002 古墳周溝から図 163-23 が出土している。図 163-23 は三角形鉄片が付着している。

図 163-20 ～ 23 は全長の短い小型の鑿で、図 163-20 は極小型袋状鑿（村上 2007）に分類される。

鏨

古墳時代前期の ST12032 古墳周溝から図 163-24 の鏨状の鉄器が 1 点出土している。鑿と比べ全体的に分厚い。

斧

鉄斧は板状鉄斧 3 点、袋状鉄斧 4 点、鋳造鉄斧 2 点が出土した。図 164-1 ～ 3 が板状鉄斧、図 164-4、図 165-1 ～ 3 が袋状鉄斧、図 165-4、5 が鋳造鉄斧である。

図 164-1、3、4、図 165-1、2、4 は包含層出土、図 164-2 は SX12010 出土、図 165-3 は古墳時代前期の ST12032 古墳周溝最下層出土、図 165-5 は弥生時代後期後半の SH12036 竪穴住居跡から出土した。

図 164-1 は両刃で刃部直前が最も厚みがある。図 164-2 は扁平で刃部が形成されておらず未製品と言え、図 164-3 は片刃で厚みは均一である。図 164-4 は両刃で袋部が終わる部分が最も厚い。袋部の形状はやや丸みを帯びている。図 165-1 は両刃で袋部は薄く、刃部付近は厚いという違いはあるが、刃部付近は板状で厚みの変化に乏しく、重厚さはない。図 165-2 は両刃で、袋部の終わる部分が最も厚く、刃部へ向けて薄くなる。図 165-3 は両刃で身の厚みの変化が少ない。図 165-4 は鋳造鉄斧の破片である。図 165-5 は両刃の鋳造鉄斧の刃先だけ残ったものである。

摘鎌

3 点出土した。弥生時代後期後半の SH12035 竪穴住居跡から図 166-1、3 が出土した。図 166-2 は古墳時代中期の ST11002 古墳周溝出土である。図 166-1、3 は刃部があり、折り返し部は刃部側が身に接しており、地獄止めに類する柄へ密着させるための変形が加えられている。ST12032 出土の図 155-1 ～ 3 のような薄く一定の幅のある鉄板から製作されたものとみられる。

鎌

2 点出土している。弥生時代後期後半の SH12035 竪穴住居跡出土の図 166-4 は鋳造の鎌である。笹田朋孝氏より漢代の県治址である中国遼寧省牧羊城出土鋳造鎌の類品であるとの教示があった。牧羊城出土資料は東京大学が所蔵しているという。

弥生時代後期後半古の SH12027 竪穴住居跡出土の図 166-5 は鍛造の鎌とみられる破片である。いずれも弥生時代後期後半の資料である。

小型工具

穿孔具以外の棒状小型工具が 4 点出土した。図 166-6、7 は古墳時代前期の SX12081 周溝墓出土、図 166-8 は SX12033、図 166-9 は SK11057 出土である。図 166-6、8 は村上 2005 で提示された耳かき状鉄器と仮称されている小型工具の尖端で、木製容器の内面調整などに用いられたとみられる。図 166-8 には棒状鉄器片が付着している。図 166-7、9 も小型工具の破片とみられ、図 166-9 には木質が残り、着柄の状況が窺える。

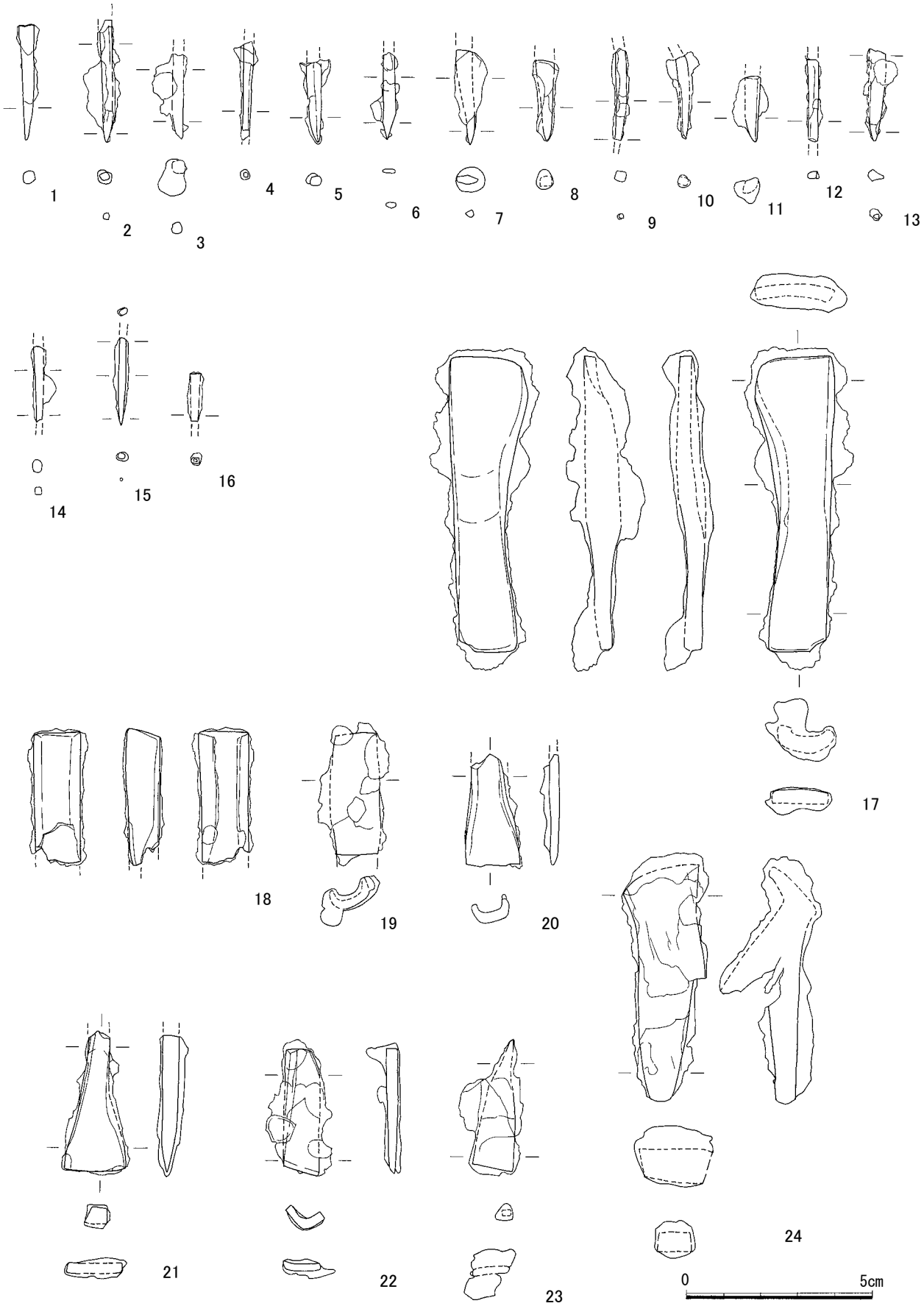


図163　11区・12区出土鉄製品4（2/3）



図164　11区・12区出土鉄製品5（2/3）

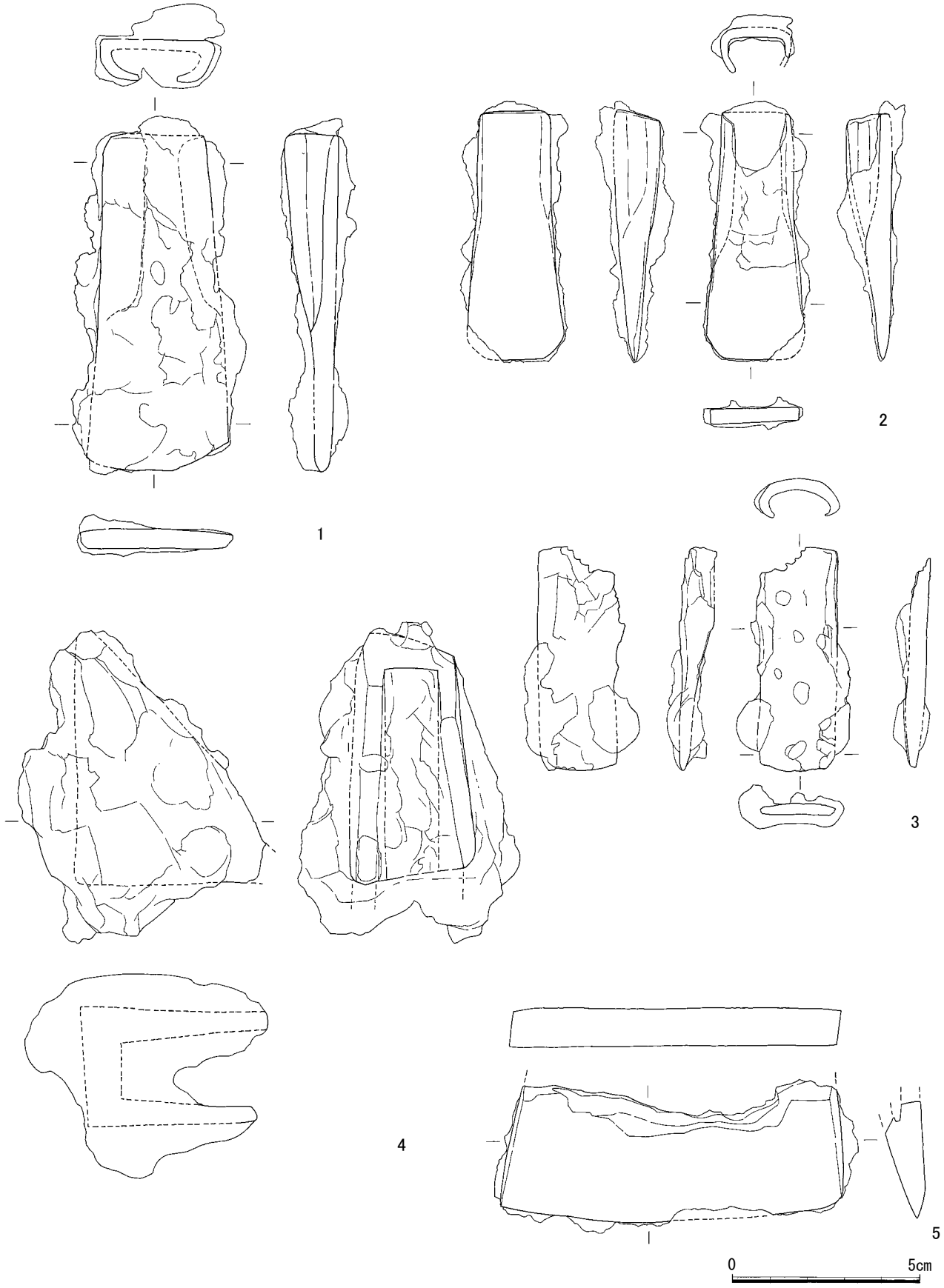


図165　11区・12区出土鉄製品6（2/3）

小札

SK11174 出土の図 166-10 は小札甲に用いられる小札の破片とみられる。端部に 3 箇所穿孔されている。弥生時代後期後半の資料とみられ、類例は中国で出土しているものがあると村上恭通氏より教示があった。

釘状鉄製品

頭部が L 字状を呈する鉄器が 4 点出土している。SK12034 出土の図 166-11 と古墳時代中期の ST11141 出土図 166-12 は釘とみられる。ST11141 出土図 166-13 と SD12049 出土図 166-14 は幅があり、鎹や楔など釘ではない可能性もある。図 166-13 には木質の付着が認められる。

鉄素材

刃部などが認められず、鉄器としての機能を想定し難いため鉄素材とみられる鉄塊・鉄板が 24 点出土している。板状を呈するものが多く、その多くは鍛造品とみられる錆びが観察できるものの、一部鋳造品同様の錆や劣化状態を呈するものがある。鋳造品は鋳鉄脱炭鋼の可能性もあるが、肉眼観察では確定できない。鉄器製作技術の水準から、これらを素材としうるかは検討を要する。製品に比べ、錆膨れが著しいものが多い。

弥生時代後期後半の遺構では、SH12027 竪穴住居跡から図 167-3、7、10、図 168-5、SH12028 竪穴住居跡から図 167-8、11、SH12036 竪穴住居跡から図 167-2、4 ～ 6、SH12035 竪穴住居跡から図 168-9、11、SH12041 竪穴住居跡から図 168-12 が出土した。

他は古墳時代中期末～後期初頭の ST12002 古墳周溝から図 168-1、8、SD12003 溝跡から図 168-7、古墳時代前期の SX12012 から図 168-6、SK12014 土坑から図 168-3、11 区包含層から図 167-1、SX11053 から図 168-13 、SK11057 から図 168-2、10、古墳時代中期の ST11067 古墳周溝から図 168-4、SK11174 から図 167-9 が出土した。本来は弥生時代後期後半から古墳時代前期前半の遺構に伴うものとみられる。

鋳造品同様の劣化状態を呈しているのは図 167-3 ～ 5、図 168-1、3、11、12 である。図 168-1 が棒状、図 168-11、12 が塊状である他は板状である。いずれも厚さ 0.5cm 以上あり、鍛造品とみられる板状品よりも厚みがある傾向にある。鋳造品は弥生時代後期後半の住居跡から一定数出土している。

鍛造品は厚さ 1 ～ 0.2cm まで幅があり、平面の面積からその多くは鍛接などしなければ小型鉄器用の素材に用途が限定されるため、薄いものほど鉄製品に近いものと考えられる。

（2）鉄片

中原遺跡では器種を限定できない棒状品や鉄器製作時の副産物である三角形鉄片などの裁断片が多量に出土しており、それは未実測鉄片を含めて合計 3615 点になる。裁断片は製品とは認定できず、素材にも再利用されず鉄屑として廃棄されたものが大半であり、形態・大きさともに規格性がない。鉄器製作の残滓であり、多量に出土した 12 区の竪穴住居跡では鉄器製作が行われた可能性が極めて高い。膨大な数であったため、すべてを図示することはできず、出土遺構内の出土比率を反映する形で抽出を行ったので、12 区竪穴住居跡出土品は遺構ごとにまとめて提示する。12 区住居跡出土品は 229 点を実測した。

住居跡以外のものでは、代表的なものや特徴的なもの、形状が良く残るもの、X 線写真撮影をおこない形状が把握できたものを抽出しており、その他の遺構や包含層出土品は 372 点を実測した。11 区は 129 点を実測した。全体の傾向は把握できるよう配慮をしており、大半は 12 区出土品と言える。裁断

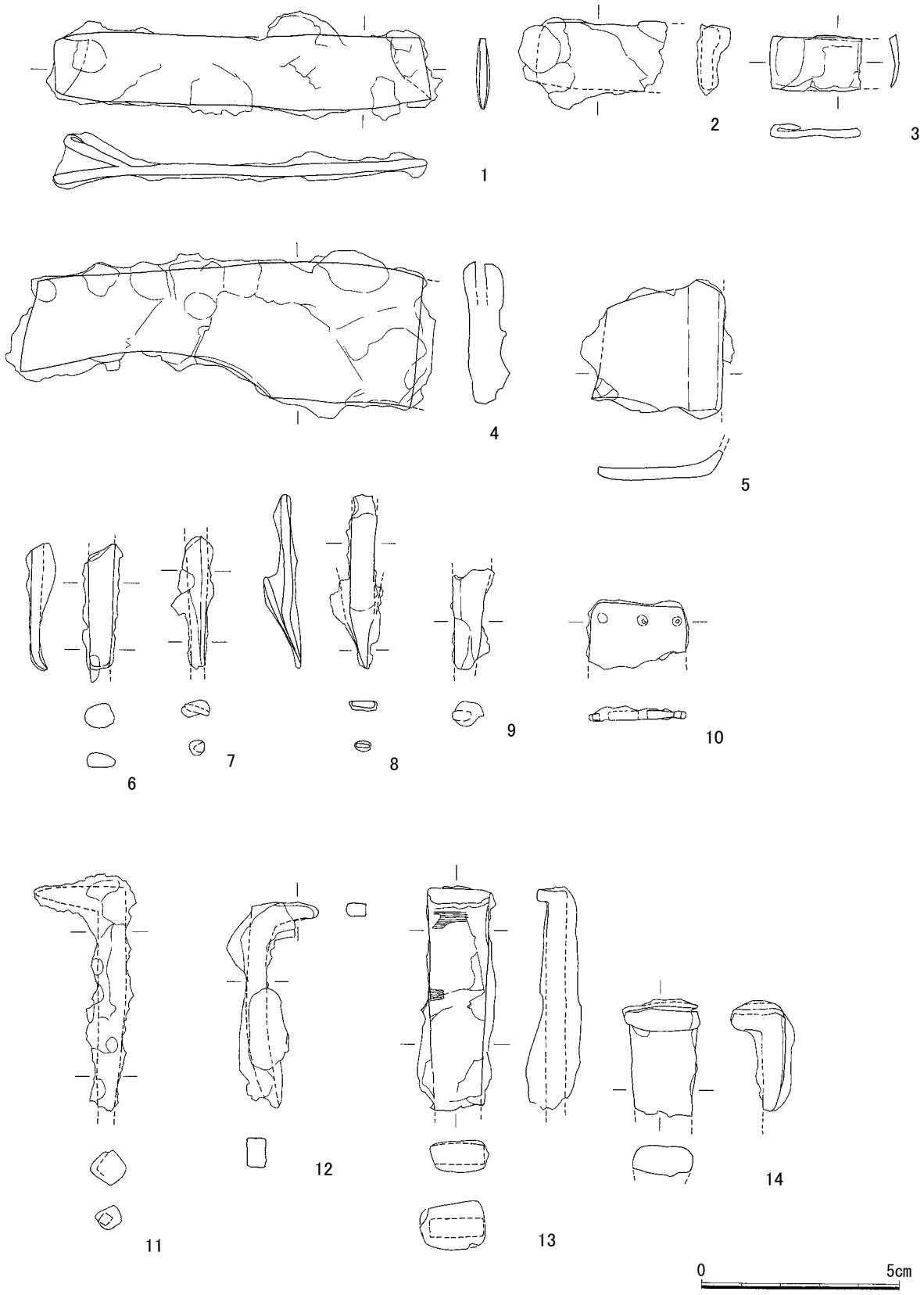


図166　11区・12区出土鉄製品7（2/3）

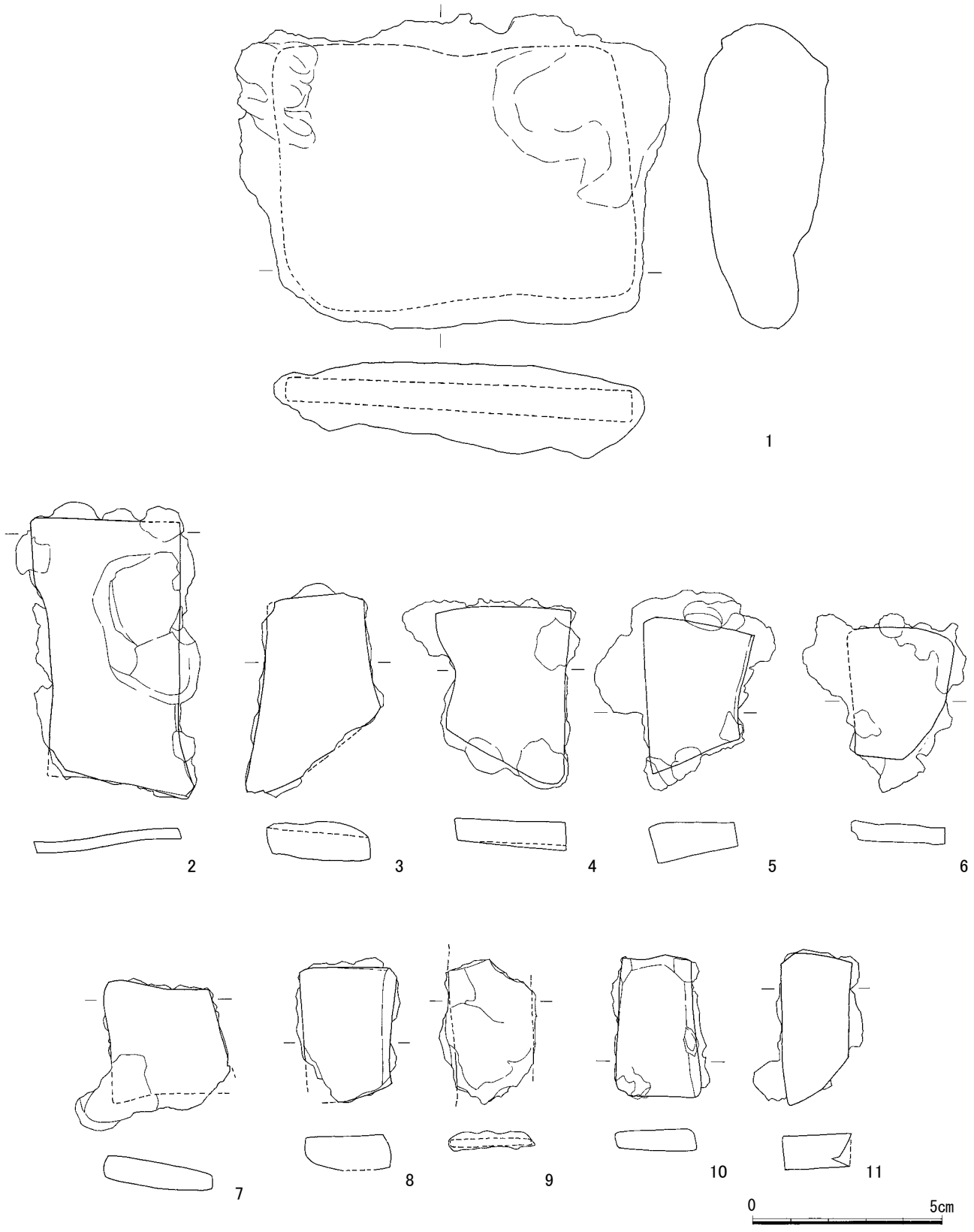


図167　11区・12区出土鉄製品8（2/3）

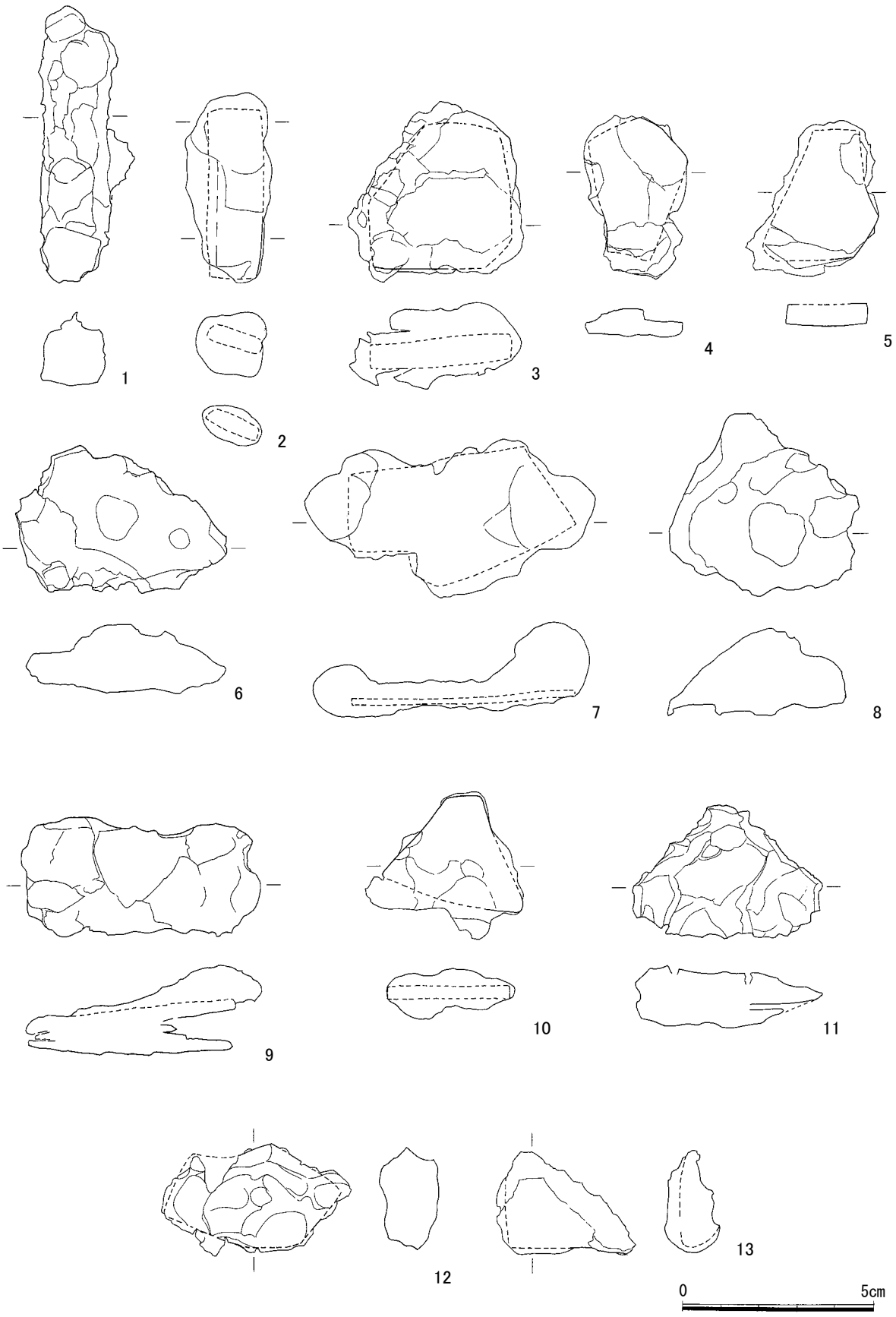


図168　11区・12区出土鉄製品9（2/3）

片の出る鉄器製作は 12 区を中心に行われたことを示す可能性が高い。11 区における裁断片の少ない竪穴住居跡からは椀形滓が出土していることから、工程や製作器種の違いがあると推測される。

①１２区竪穴住居出土鉄片

12 区出土鉄片は住居跡出土品が多いことを特徴とする。製作器種も多岐にわたったものとみられ、平面形は大きなものから小さなものまであり、明確に大中小という分類はできない。

ＳＨ１２０２７竪穴住居跡（弥生時代後期後半古）

図 169-1 ～ 24、図 170-1 ～ 12 の棒状品 36 点と図 170-13 ～ 19 の板状品 7 点、図 170-20 ～ 27 の三角形鉄片 8 点、図 171-1、2 の叉状鉄片 2 点、図 171-3 の弧状を呈する鉄片 1 点、図 171-4 の台形を呈する鉄片 1 点を図化した。

棒状品が多く、工具や鉄鏃を中心に製作していたものとみられる。長条形とも言える図 169-1、2 は摘鎌の素材の候補となる。図 170-7 ～ 12 は太さ 0.3cm 前後と細い。鏃刃部などの微調整のために出る裁断片である可能性があり、ここから穿孔具や針を製作しうる。図 169-15、図 170-14 の切断痕を残す鉄片や図 169-18、21 のように捩じれるような歪みが生じているものがある。図 170-19、21 は鋳造品特有の錆と劣化状態を呈している。図 170-21 は裁断片ではない可能性が高い。三角形鉄片は高さ 4.3 ～ 1.7cm までのものがある。高さのあるものは幅広の鏃や鉇、刀子の刃先や袋状鑿の袋部に大きさが近い。高さの低いものは幅の狭い鏃の刃部に大きさが近い。叉状鉄片は左右比対称形で刃部も形成されることは無く、切断痕が散見される鉄片である。

ＳＨ１２０２８竪穴住居跡（弥生時代後期後半新）

図 171-5 ～ 12 の棒状品 8 点、図 171-13 の板状品 1 点、図 171-14 ～ 20 の三角形鉄片 7 点、図 171-21 の弧状を呈する鉄片 1 点、図 171-22 の台形の鉄片 1 点、図 171-23 の叉状鉄片 1 点、図 171-24 の不整形の鉄片 1 点を実測した。

SH12027 に比べると棒状品は少ない。微小な鉄片も少ない。三角形鉄片の大きさは高さ 4.7 ～ 1.6cm である。中型～小型の鉄器を製作した残滓とみられる。図 171-13 は引きちぎったような切断痕が図上左辺に認められる。図 171-14、21 は一部が折り返されている。

ＳＨ１２０３５竪穴住居跡（弥生時代後期後半）

図 172-1 ～ 26 の棒状品 26 点､図 173-1 ～ 11 の板状品 11 点､図 173-12 ～ 22 の三角形鉄片 11 点、図 174-1 の叉状鉄片 1 点、図 174-2、3 の弧状の鉄片 2 点、図 174-4、5 の台形の鉄片 2 点、図 174-6、7 の不整形な微小鉄片 2 点を実測した。

図 172-1 は長条形とも言え、図上左辺が薄く、摘鎌の破片もしくは未製品の可能性が高い。図 172-2、図 173-4、は鋳造品的劣化状態である。図 172-12 は二点の棒状品が錆で固着したものである。板状品は小型の鉄器が製作できる大きさのものが出土している。三角形鉄片は高さ 4.1 ～ 0.8cm のものが出土しており、中型～小型の鉄器に対応している。図 173-12 のように折り曲げられたものがある。図 173-12 には錆膨れ部分に鉄片がもう 1 点固着しているが、錆のため、ほとんど形がわからない。図 173-22 は極めて小さな三角形鉄片であり、摘鎌の折り返し部の大きさに対応している。図 172-1 の長条形棒状品とともに SH12035 竪穴住居跡における摘鎌の生産を示す遺物である。

ＳＨ１２０３６竪穴住居跡（弥生時代後期後半）

図 174-8 ～ 18 の棒状品 18 点、図 174-19 ～ 24 の板状品 6 点、図 175-1 の三角形鉄片 1 点、図 175-2、3 の叉状鉄片 2 点、図 175-4 の弧状の鉄片 1 点、図 175-5、6 の台形の鉄片 2 点、図 175-7 の不整形鉄片 1 点を実測した。

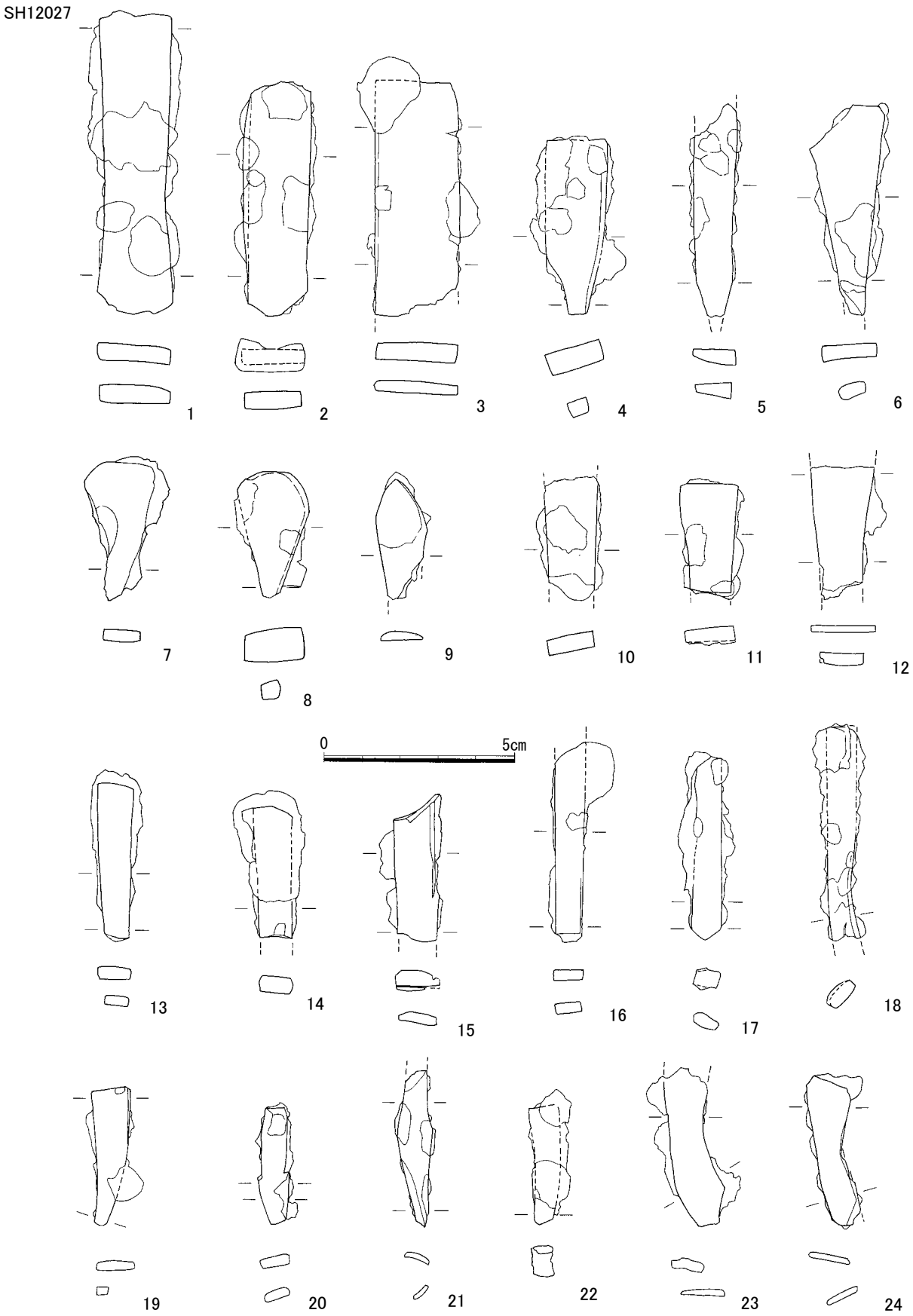


図169　12区竪穴住居跡出土鉄片1（2/3）

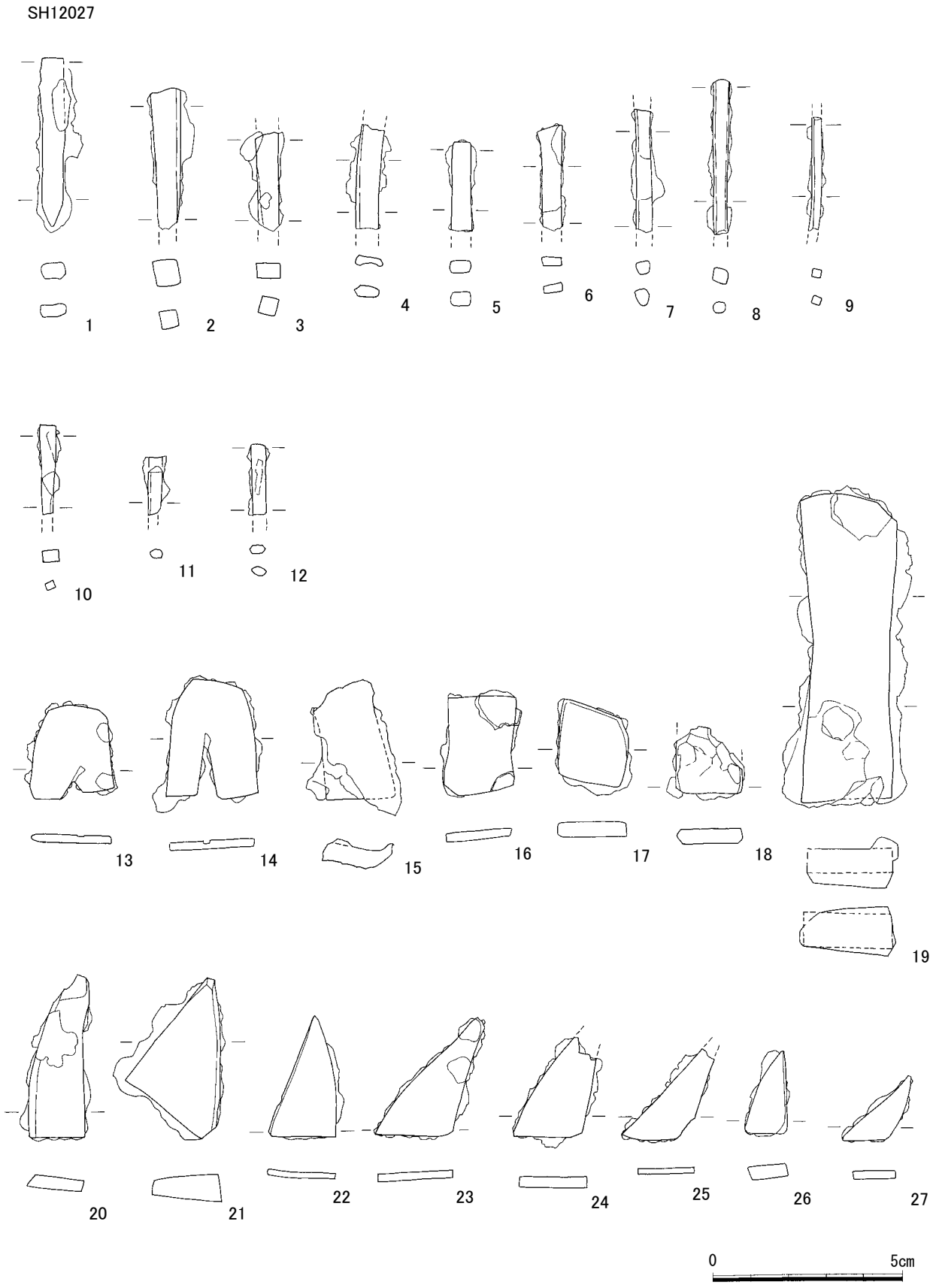


図170　12区竪穴住居跡出土鉄片2（2/3）

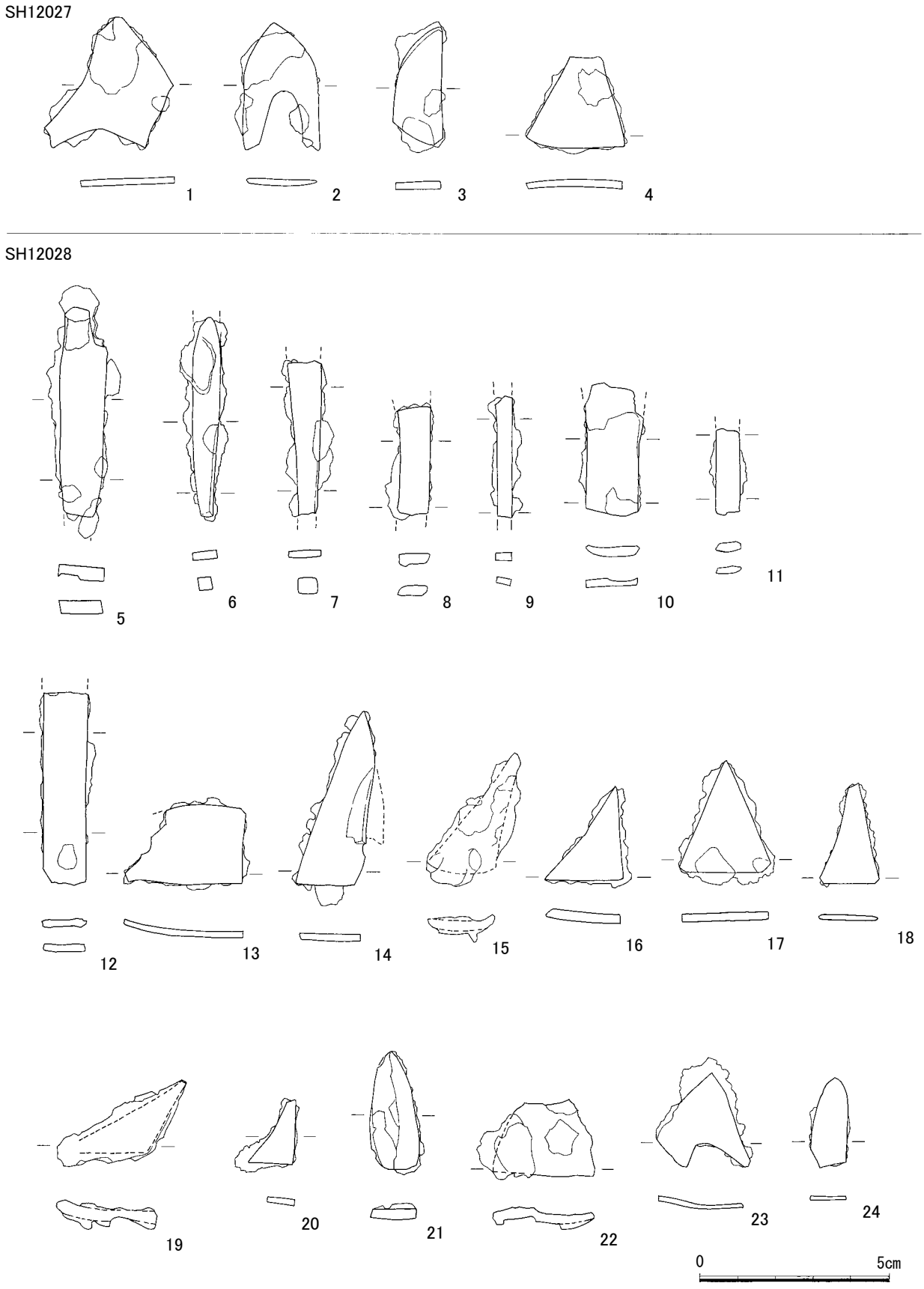


図171　12区竪穴住居跡出土鉄片3（2/3）

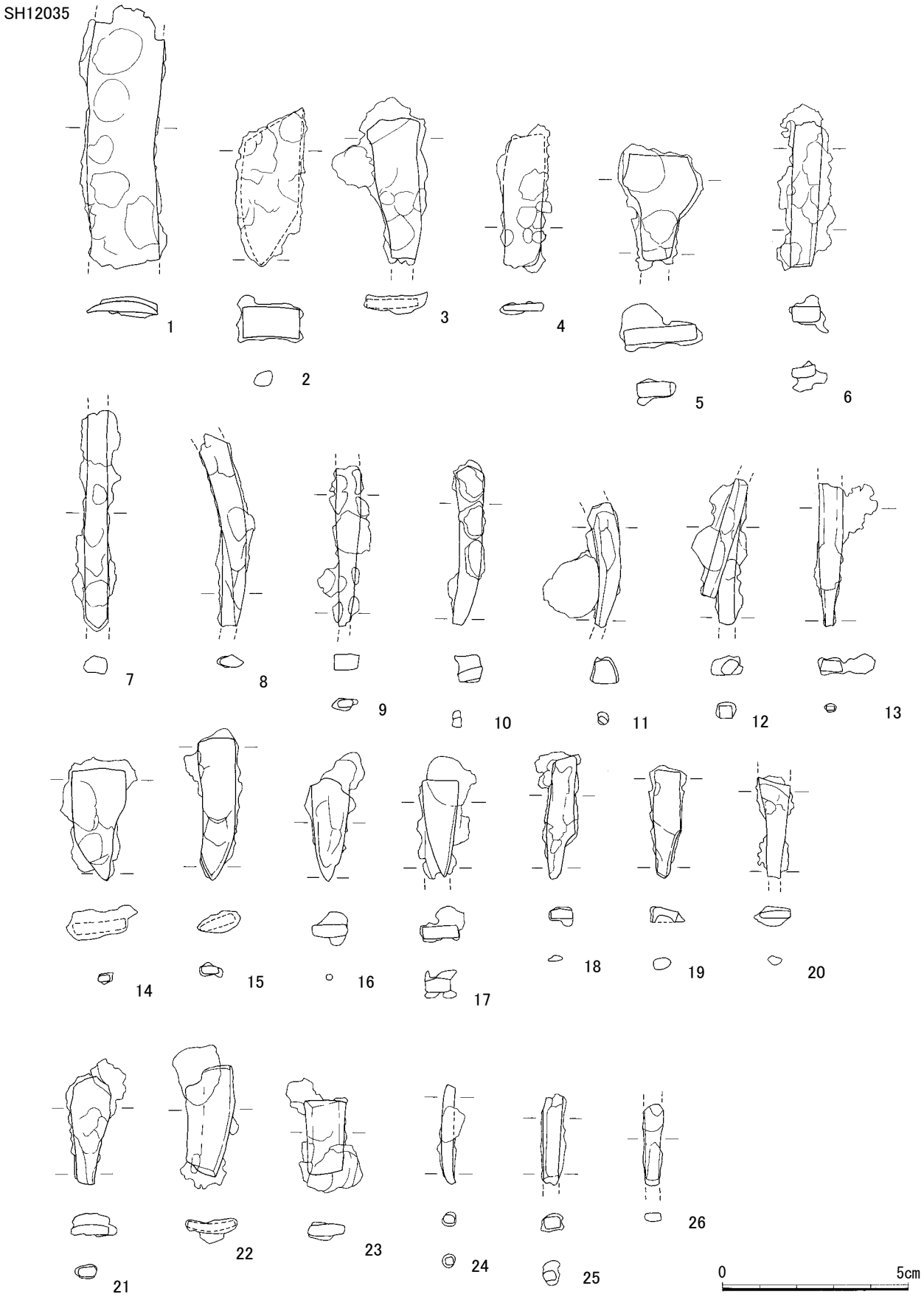


図172　12区竪穴住居跡出土鉄片4（2/3）

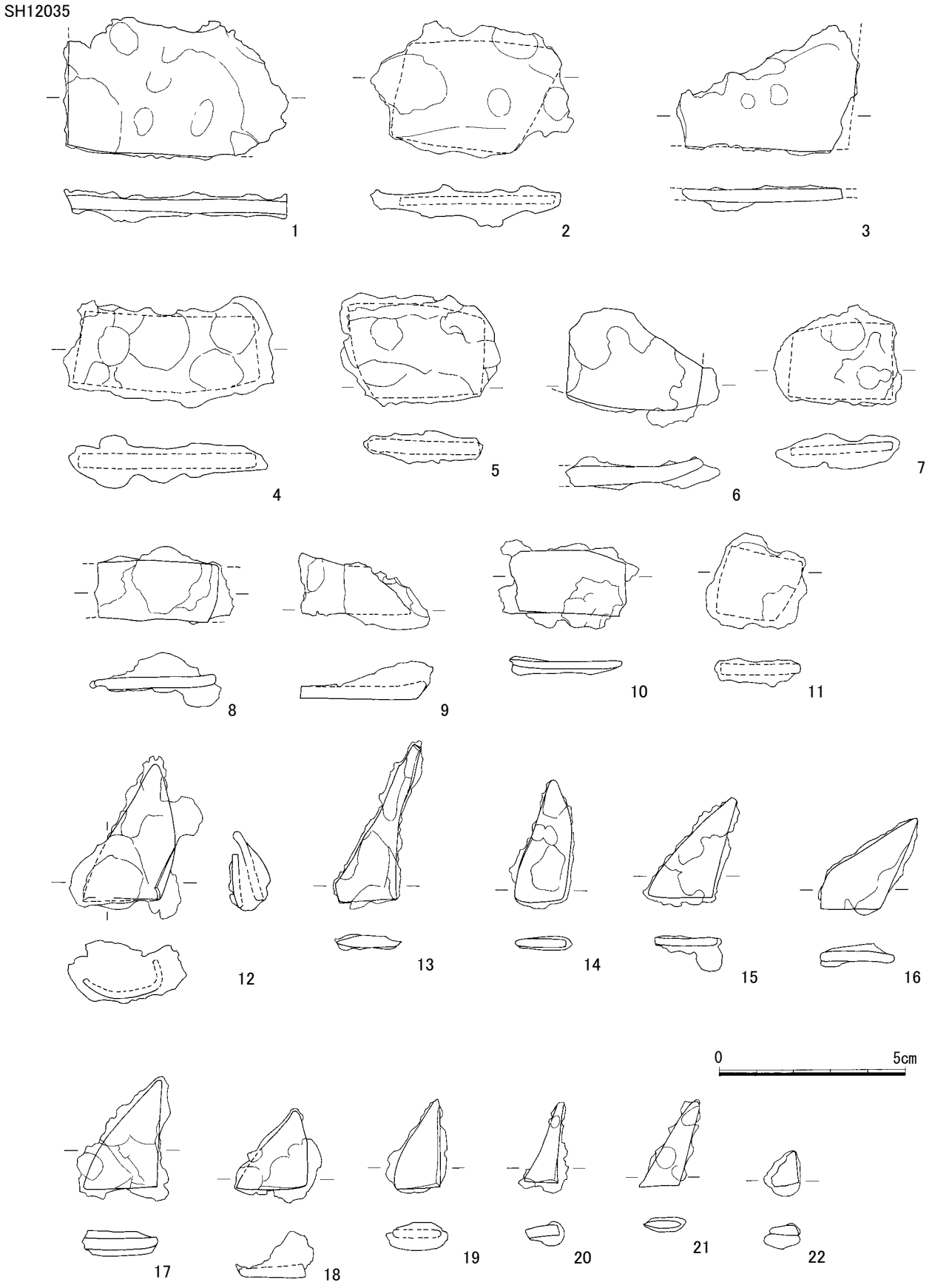


図173　12区竪穴住居跡出土鉄片5（2/3）

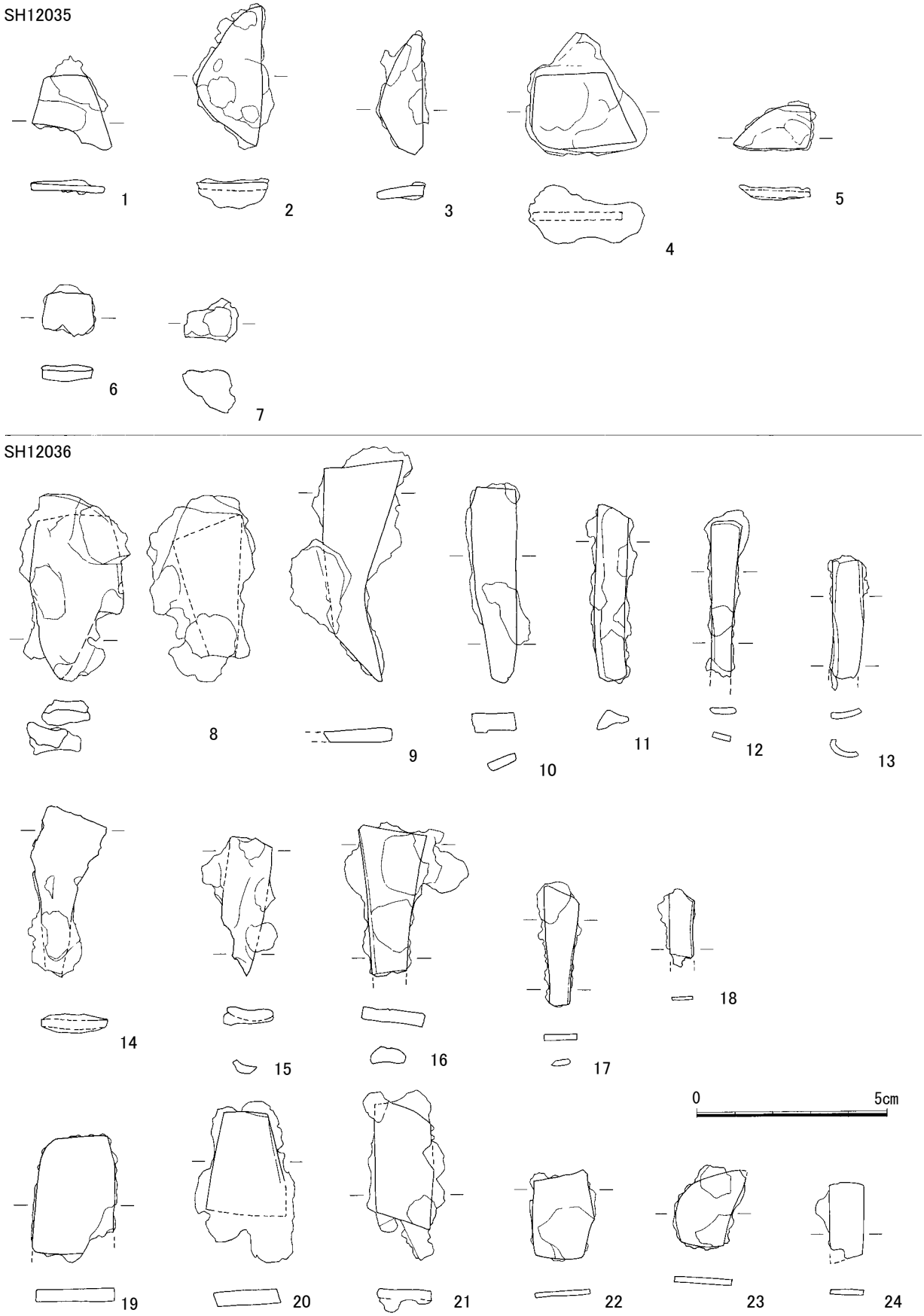


図174　12区竪穴住居跡出土鉄片6（2/3）

SH12036 竪穴住居跡は三角形鉄片の比率が低い。図 174-8 は棒状品が二点固着したものである。各種鉄片の大きさは鉄鏃や穿孔具といった小型鉄器に対応している。

ＳＨ１２０４１竪穴住居跡（弥生時代後期後半古）

図 175-8 ～ 20 の棒状品 13 点、図 175-21 ～ 23、図 176-1 ～ 5 の板状品 8 点、図 176-6 ～ 13 の三角形鉄片 8 点、図 176-14 の弧状の鉄片 1 点を実測した。

棒状品の内、図 175-8 は厚みがあり、叩き延ばすことで鉇や摘鎌などを製作可能な大きさである。図 175-9 ～ 15 は製作可能な器種が鏃や穿孔具といった小型品に限られる。図 175-16 ～ 20 は穿孔具や針などの鉄器が製作可能である。図 175-16 は三角形鉄片の両側縁を折り返したもので、棒状品の未製品である。

板状品は小型品製作が可能な大きさで不整形であるものの、直線的な辺が数カ所あり、より大きな鉄板を裁断した痕を残しているものとみられる。中型品の製作可能な鉄板が存在したものと推測される。図 176-1 の板状品は図上右辺に切断痕があり、鏨を入れた後、折り曲げを繰り返すことで切断されている。三角形鉄片は高さ 2 ～ 1.5cm のものが出土している。

ＳＨ１２０４３竪穴住居跡（弥生時代後期後半）

図 176-15 ～ 21、図 177-1 ～ 9 の棒状品 16 点、図 177-10 ～ 20 の板状品 11 点、図 177-21 ～ 24 の三角形鉄片 4 点､図 177-25 ～ 28 の叉状鉄片 4 点､図 177-29 ～ 31 の台形の鉄片 3 点を実測した。

図 176-15 は長条形の棒状品で鉇や摘鎌、刀子など中型の鉄器を製作可能な大きさである。図 176-20 の棒状品は穿孔具の可能性もある。図 177-10 の板状品は両側縁が折り曲げられている。図 177-12 の板状品には木質が付着している。図 177-17 の板状品には切断痕が残る。三角形鉄片は高さ 2.9 ～ 1.5cm である。図 177-27 の叉状鉄片は図上左辺に切断痕が残る。図 177-31 の台形の鉄片は図上左辺が曲げられている。

ＳＨ１２０５２竪穴住居跡

図 178-1 の三角形鉄片 1 点を実測した。折り曲げられている。

ＳＨ１２０６７竪穴住居跡（弥生時代後期後半）

図 178-2 ～ 5 の棒状品 4 点、図 178-6 の板状品 1 点、図 178-7 の三角形鉄片 1 点を実測した。

図 178-2 の棒状品は図上の下にあたる尖端は薄く、小型工具の未製品とみられる。

②１２区竪穴住居以外出土鉄片

図179-1～14、図180-1～15、図181-1～22、図182-1～24、図183-1～30、図184-1～35、図185-1～40の棒状品180点、図186-1～6、図187-1～12、図188-1～19、図189-1～28、図190-1～13の板状品78点、図190-14～28、図191-1～39、図192-1～7の三角形鉄片61点、図192-8～24の叉状鉄片17点、図192-25～31、図193-1、2の弧状の鉄片9点、図193-3～5の台形の鉄片3点、図193-6～19の小鉄片14点、図193-20～29のその他不定形な鉄片10点を実測した。

以上の 372 点中、弥生時代終末期～古墳前期前半の SX12012 周溝墓出土品が 110 点であり、近接する弥生時代後期後半の SH12028 竪穴住居跡や SH12041 竪穴住居跡、SH12043 竪穴住居跡に本来は帰属する資料が多いものとみられ、鉄器が多く製作されたものと推測される。後述するように、SX12012 周溝墓からは椀形滓も出土しており、高温鍛冶がいずれかの住居跡でおこなわれていたものとみられる。

以下では種類ごとの特徴的なものについて記述する。

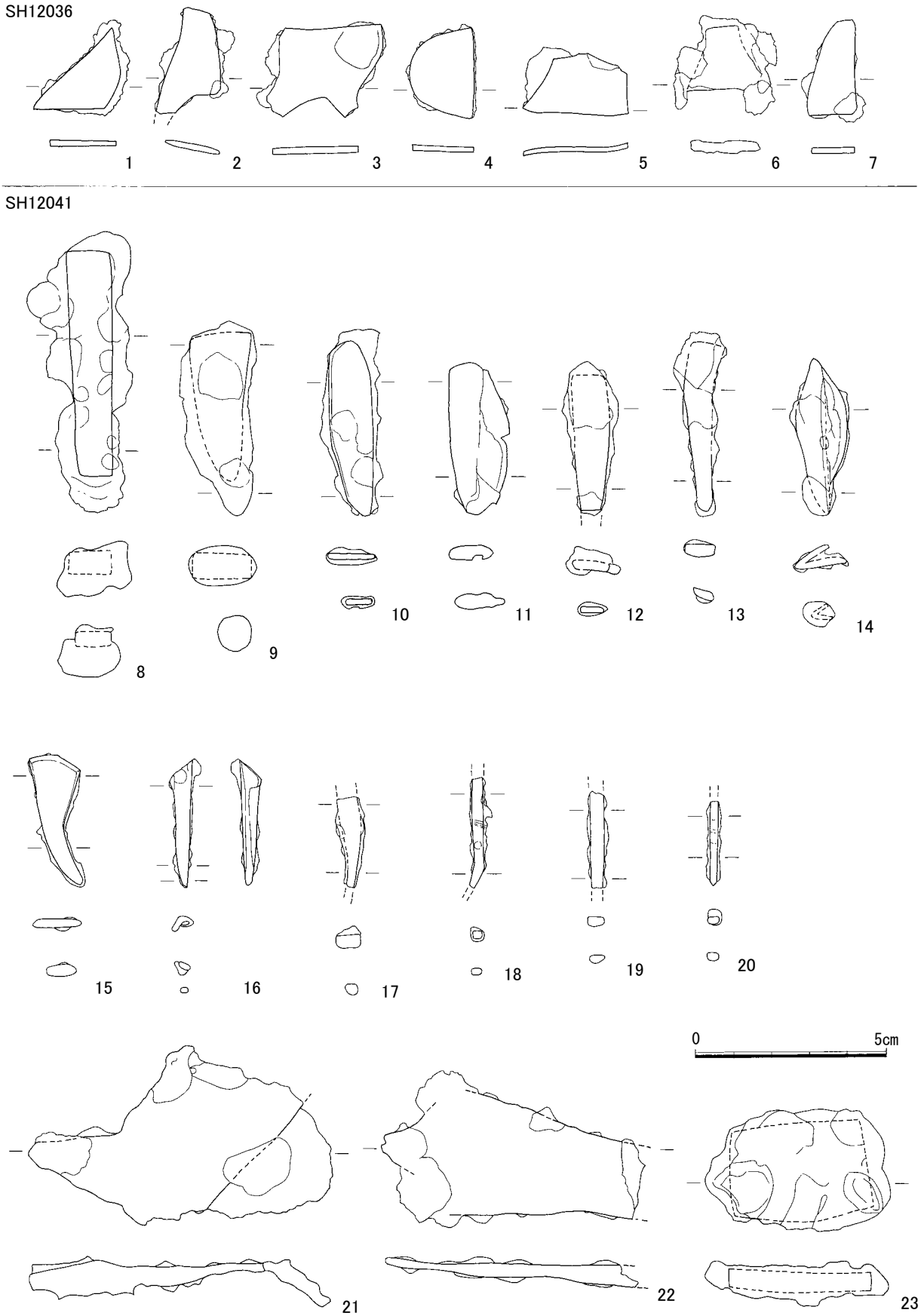


図175　12区竪穴住居跡出土鉄片7（2/3）

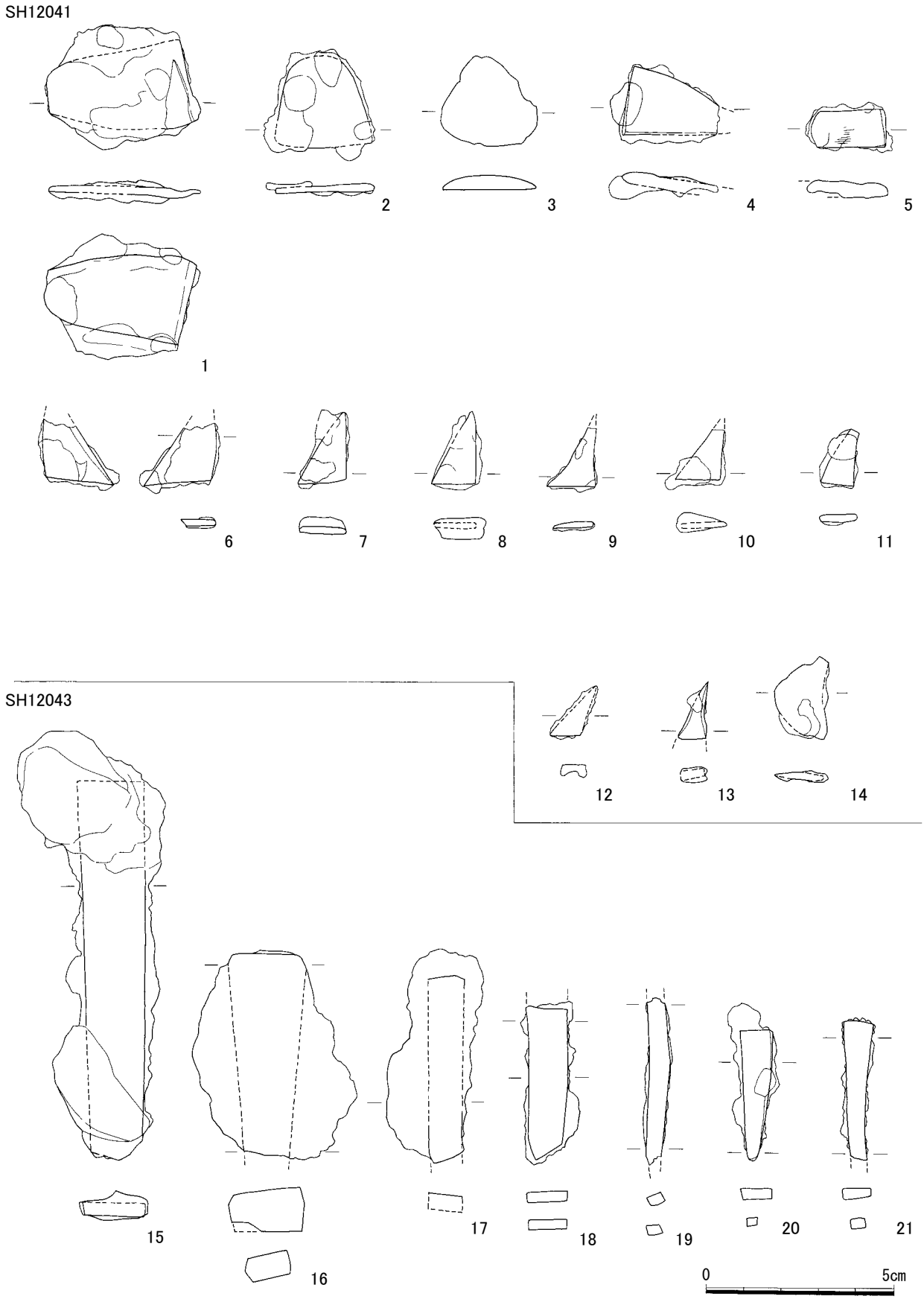


図176　12区竪穴住居跡出土鉄片8（2/3）

SH12043

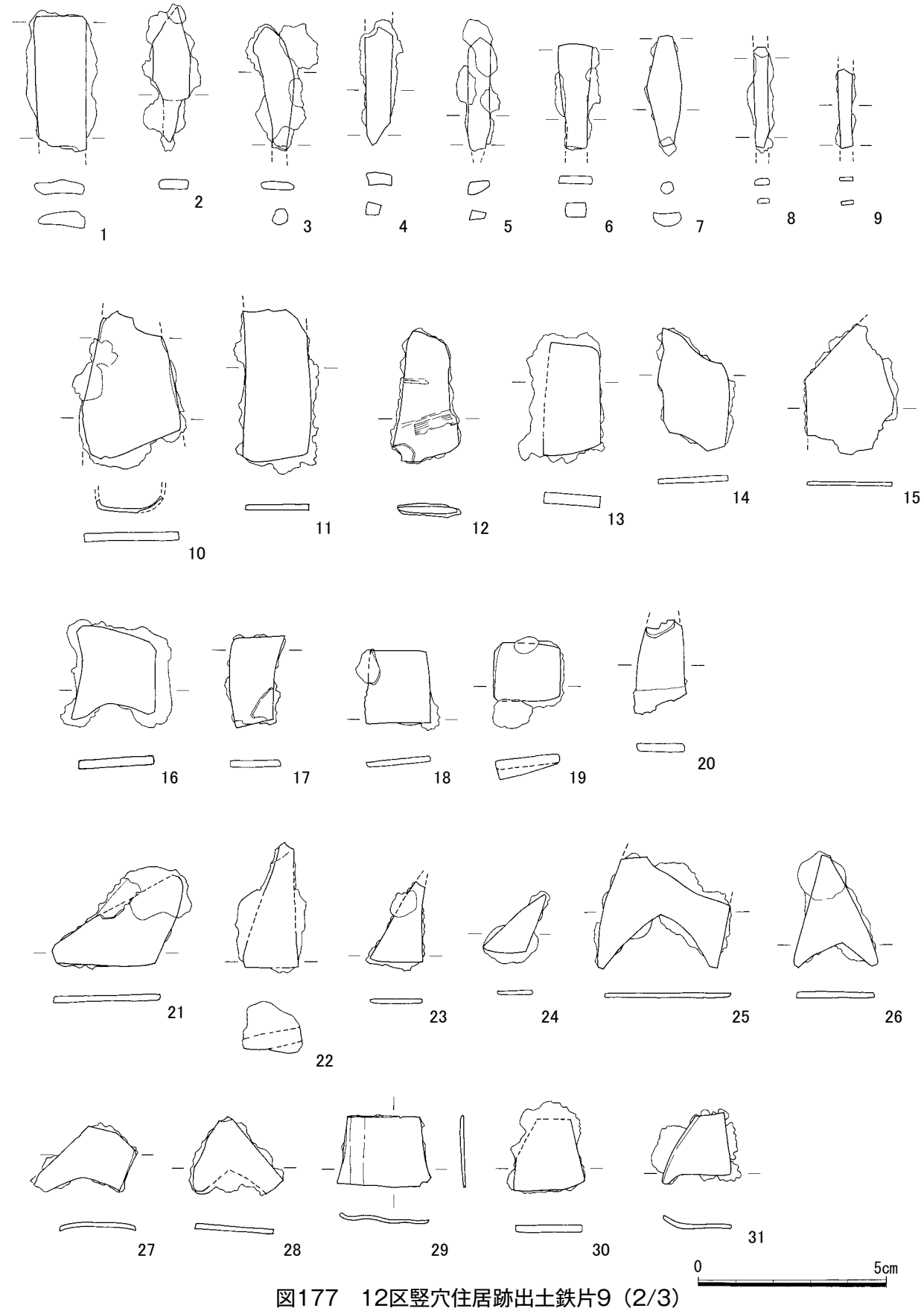
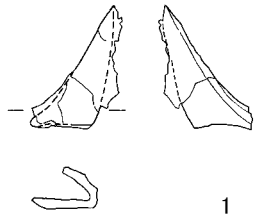


図177　12区竪穴住居跡出土鉄片9（2/3）

SH12052



SH12067

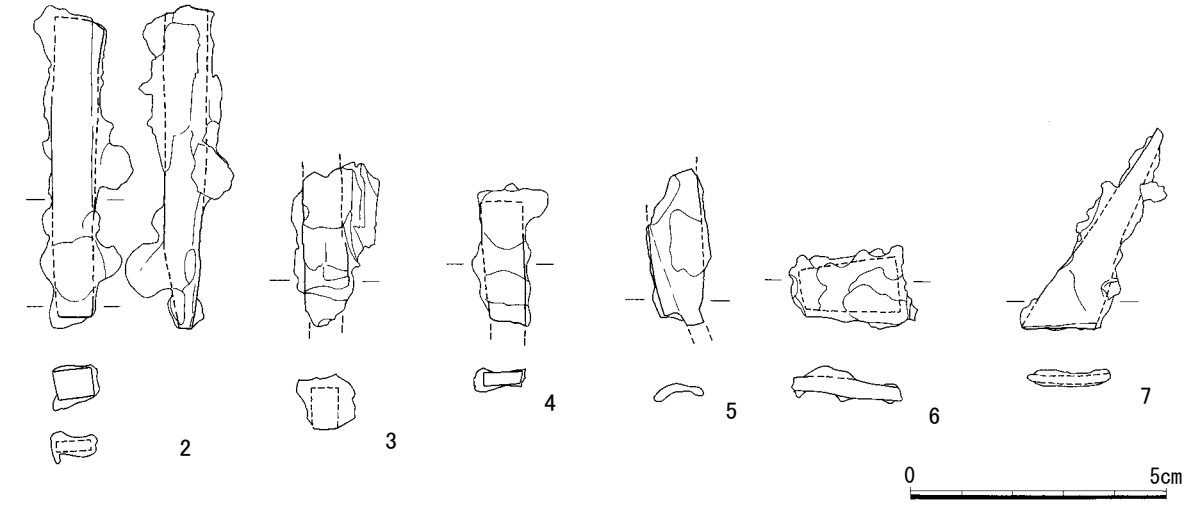


図178　12区竪穴住居跡出土鉄片10（2/3）

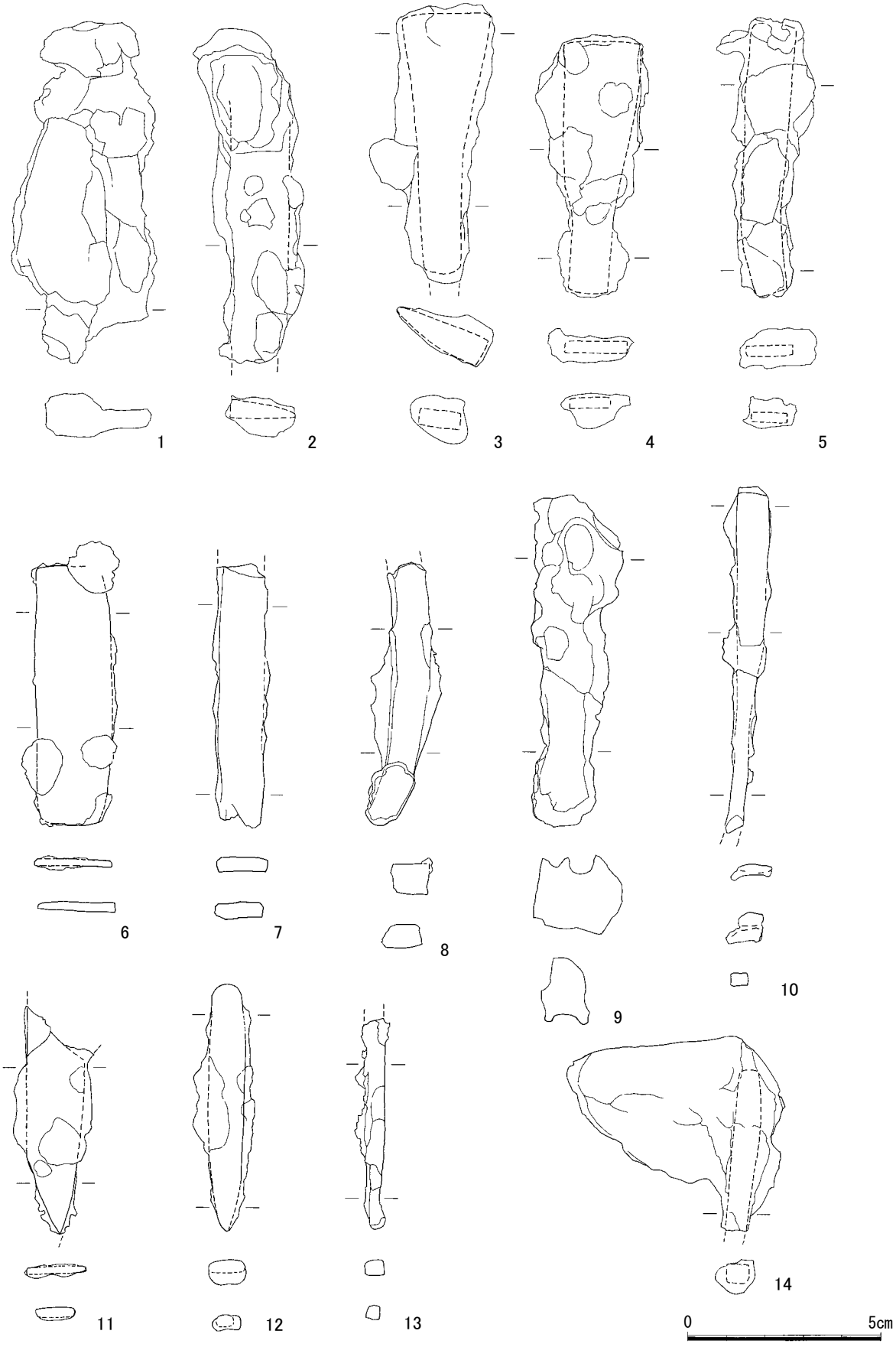


図179　12区SH以外の遺構出土鉄片1（2/3）

棒状品

図 180-14 は若干の折り曲げが観察される。図 181-2 は鎚などの工具の可能性もある。図 182-24 は図上の下端部は折り返され丸められており、より細い棒状品の製作途中の工程を残しているものとみられる。図 185-1 は折り返されている。図 185-4 は棒状品の製作工程を示す未製品であり、類例が岡山県夏栗遺跡で報告されている。叩き分けてあり、薄い部分を鏨切りなどで落とす直前の段階のものである。図 185-5 は L 字状の棒状品で小型工具の可能性もある。

板状品

図 187-1 は鋳造品的劣化状態である。図 189-24 は円環となりうる破片である。図 189-25 は図上の下辺が薄くなり、刃部が形成されている可能性がある。図 190-10 は折り曲げられている。図 190-12、13 は切断痕が残る。図 190-12 は中央に縦方向の切断痕がある。

三角形鉄片

図 191-2 は図上左辺に切断痕が残る。熱した状態で切られているとみられる。

叉状鉄片

図 192-16 は錆の影響が少なく、叩いた痕が観察できる。

微小鉄片

図 193-6 は図上左辺が肥厚しており、棒状品製作の途中で放棄された可能性がある。図 193-13 は複数の棒状品が熔着しており、鉄片を半溶融状態に加熱し、より大きな塊の鉄素材とする再加工工程を示すものとみられる。SH12043 竪穴住居跡を壊す形で構築される弥生時代終末期～古墳時代初頭の SX12081 周溝墓出土であり、本来は弥生時代後期後半の SH12043 竪穴住居跡に伴うものであろう。

③１１区出土鉄片

図 194-1 ～ 27、図 195-1 ～ 5 の棒状品 32 点、図 195-6 ～ 18、図 196-1 ～ 23 の板状品 36 点、図 197-1 ～ 29、図 198-1 ～ 10 の三角形鉄片 39 点、図 198-11 ～ 15 の叉状鉄片 5 点、図 198-16 ～ 21 の弧状の鉄片 6 点、図 198-22 の台形の鉄片 1 点を実測した。

住居跡出土品は以下の通りである。

古墳時代後期後半の SH11112 竪穴住居跡出土品は図 194-5 棒状品を実測した。

古墳時代中期の SH11130 竪穴住居跡出土品は図 194-11、16 の棒状品、図 197-17 三角形鉄片を実測した。図 194-11 は図上下端が折れ曲がり、木工具である可能性がある。

弥生時代終末期～古墳時代前期前半の SH11138 竪穴住居跡出土品は図 194-8、15 の棒状品、図 196-20 板状品を実測した。

弥生時代後期後半の SH11144 竪穴住居跡出土品は図 195-12 板状品を実測した。

弥生時代終末期～古墳時代前期前半の SH11147 竪穴住居跡出土品は図 194-10 棒状品を実測した。この棒状品は数点の棒状品が錆で固着したものである。

弥生時代後期後半の SH11149 竪穴住居跡出土品は図 196-10 板状品、図 198-4 三角形鉄片を実測した。

弥生時代終末期～古墳時代前期前半の SH11150 竪穴住居跡出土品は図 196-15 板状品を実測した。

SH11176 出土品は図 198-8 三角形鉄片を実測した。この三角形鉄片は鋳造品的劣化状態にある。

弥生時代終末期～古墳時代前期前半の SH11190 竪穴住居跡出土品は図 195-4 棒状品を実測した。

弥生時代後期後半の SH11204 竪穴住居跡出土品は図 196-21 板状品を実測した。

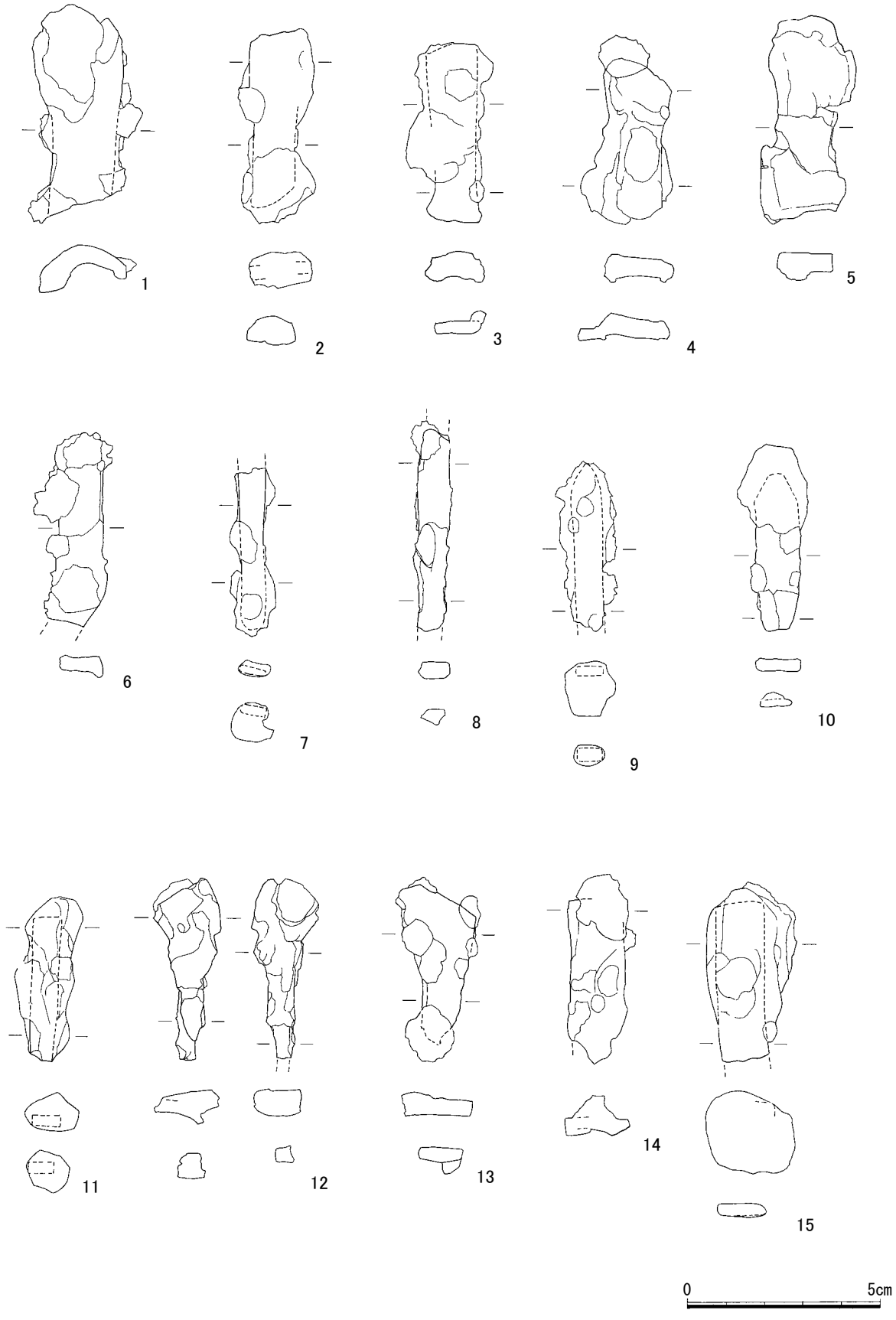


図180　12区SH以外の遺構出土鉄片2（2/3）

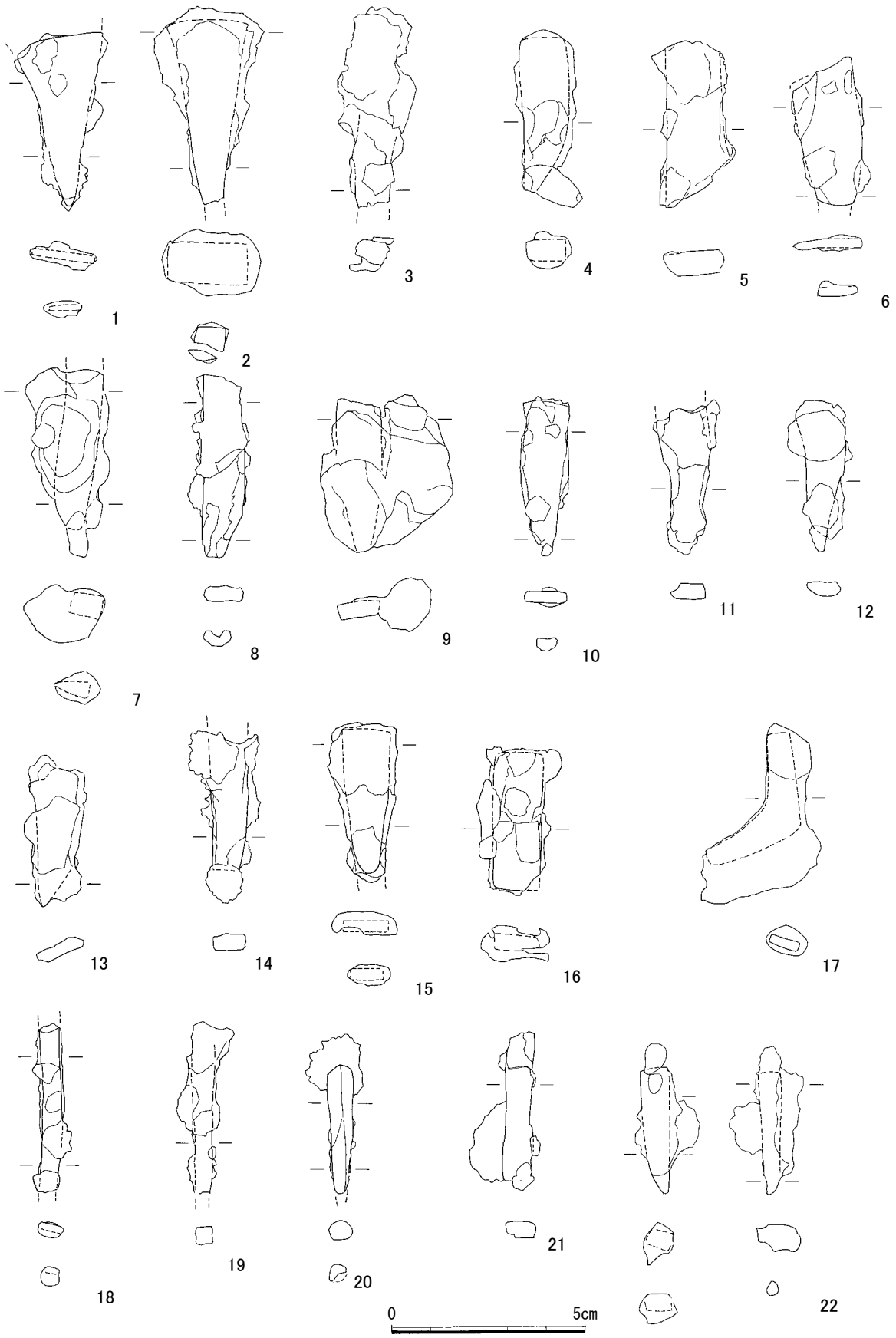


図181　12区SH以外の遺構出土鉄片3（2/3）

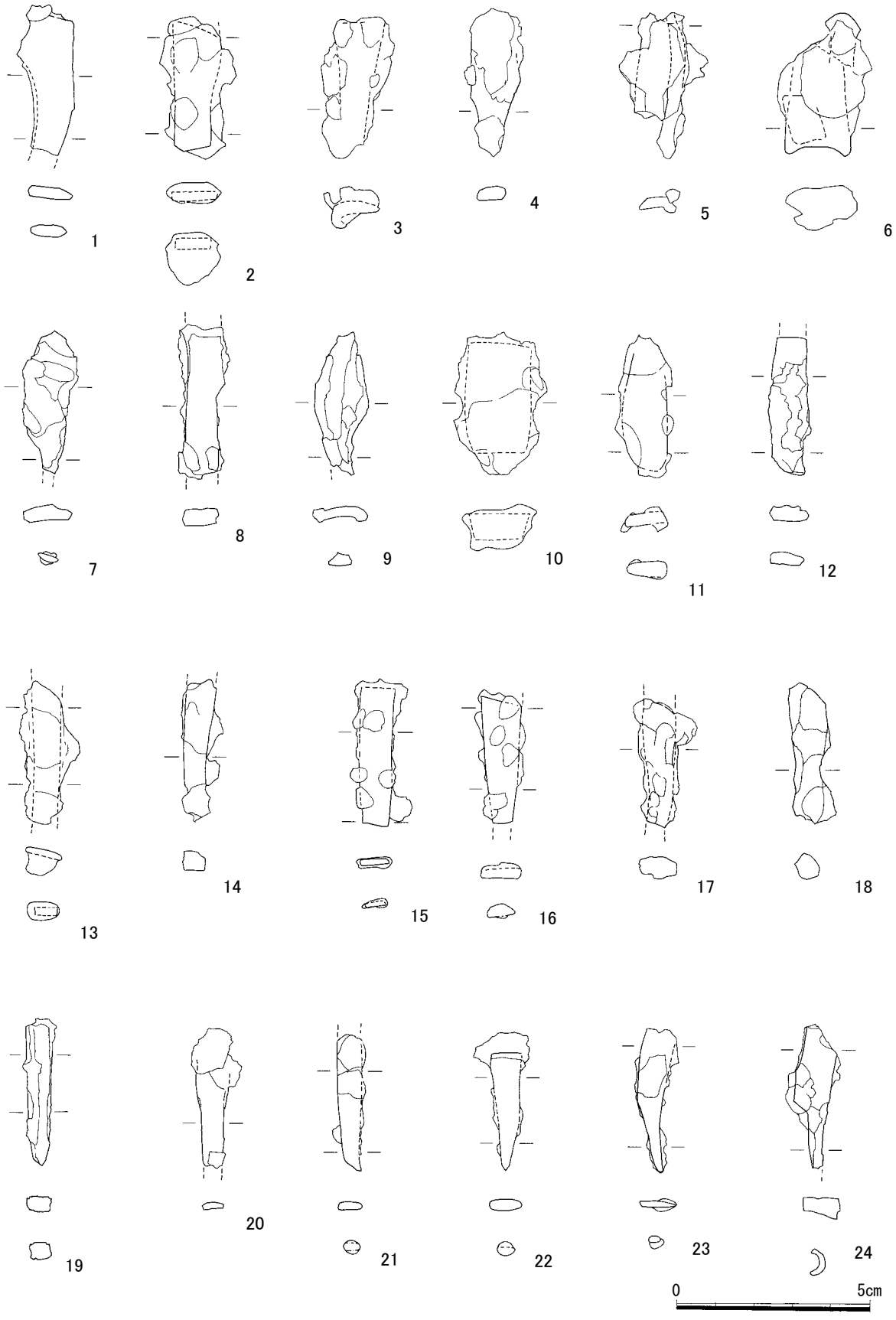


図182　12区SH以外の遺構出土鉄片4（2/3）

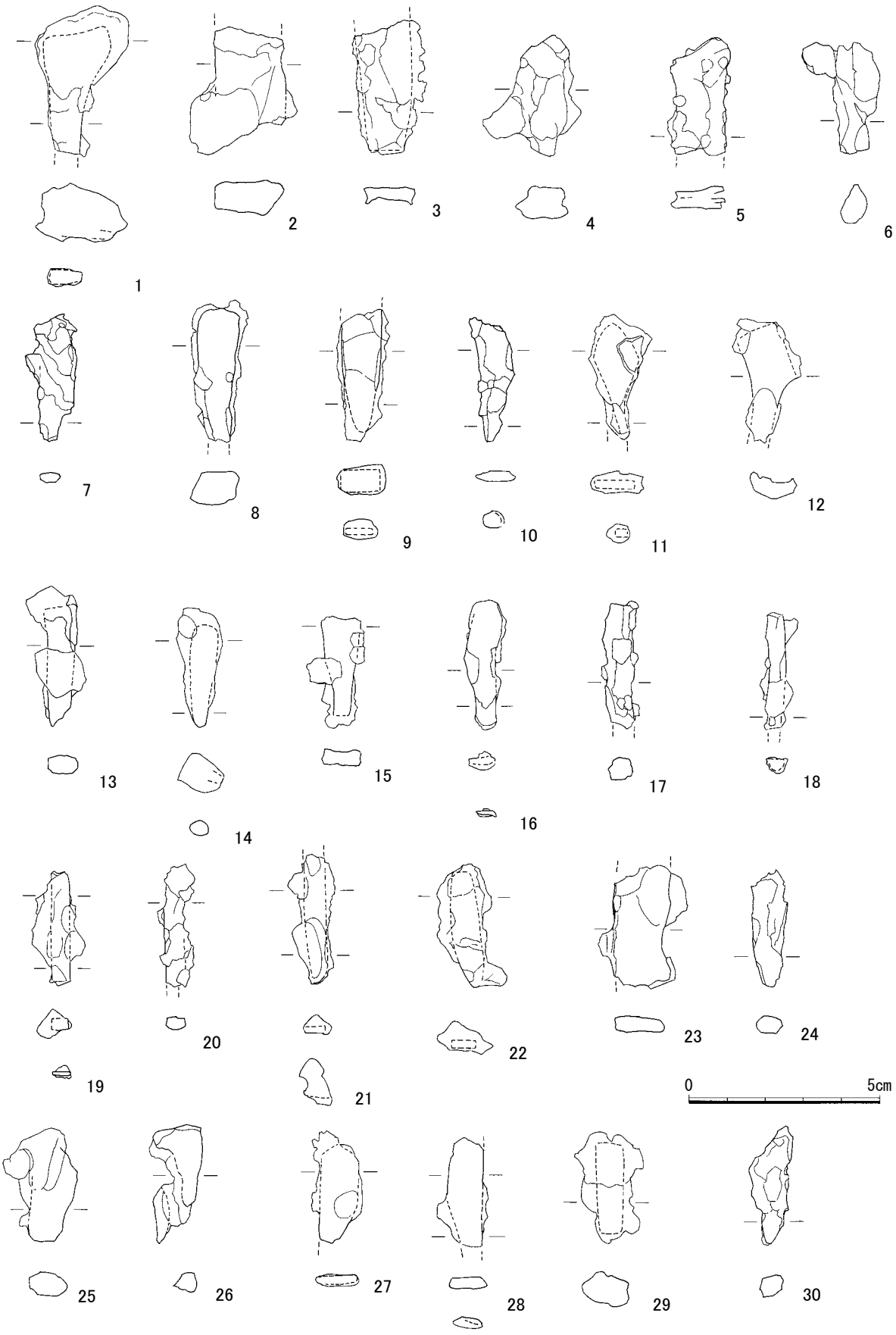


図183　12区SH以外の遺構出土鉄片5（2/3）

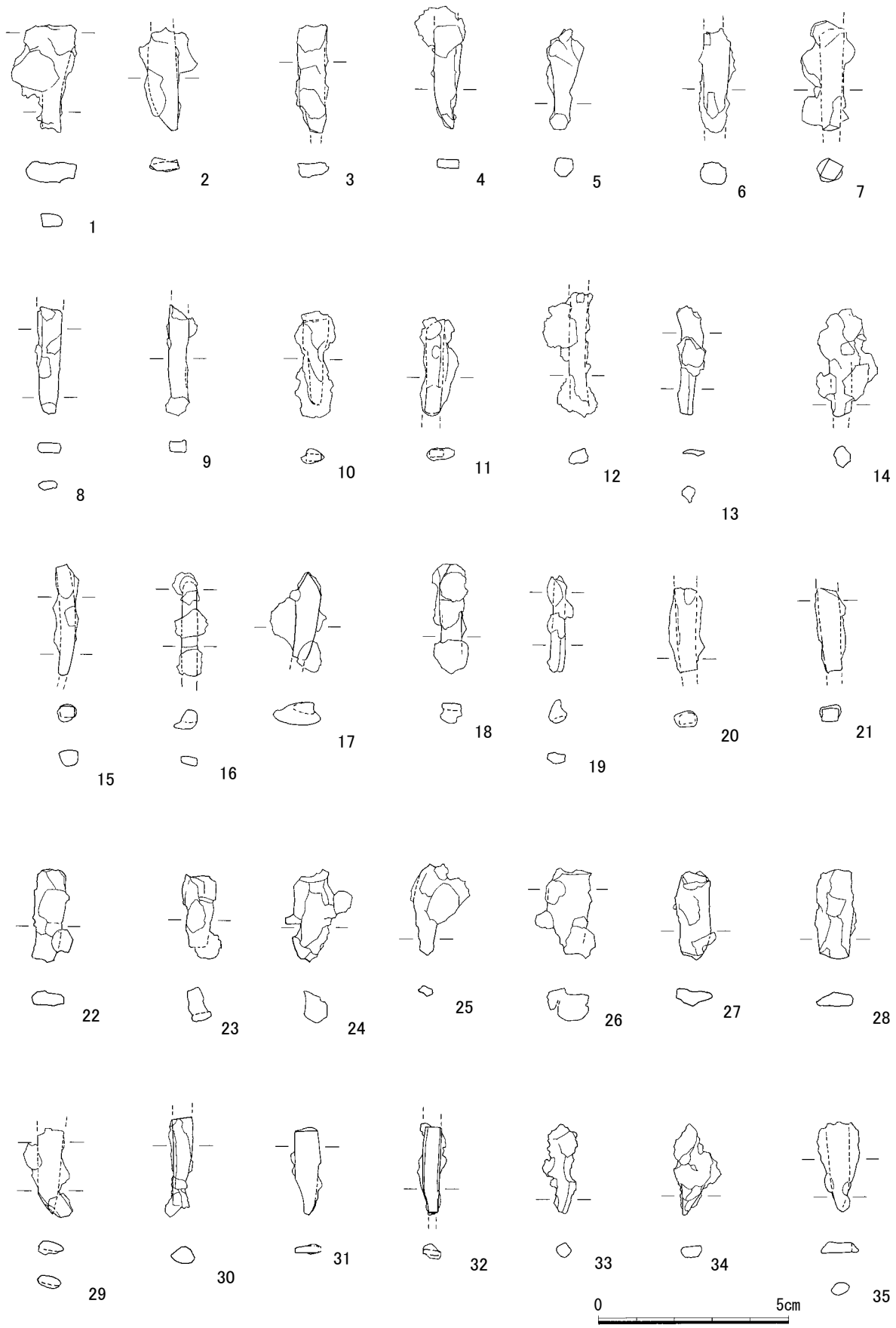


図184　12区SH以外の遺構出土鉄片6（2/3）

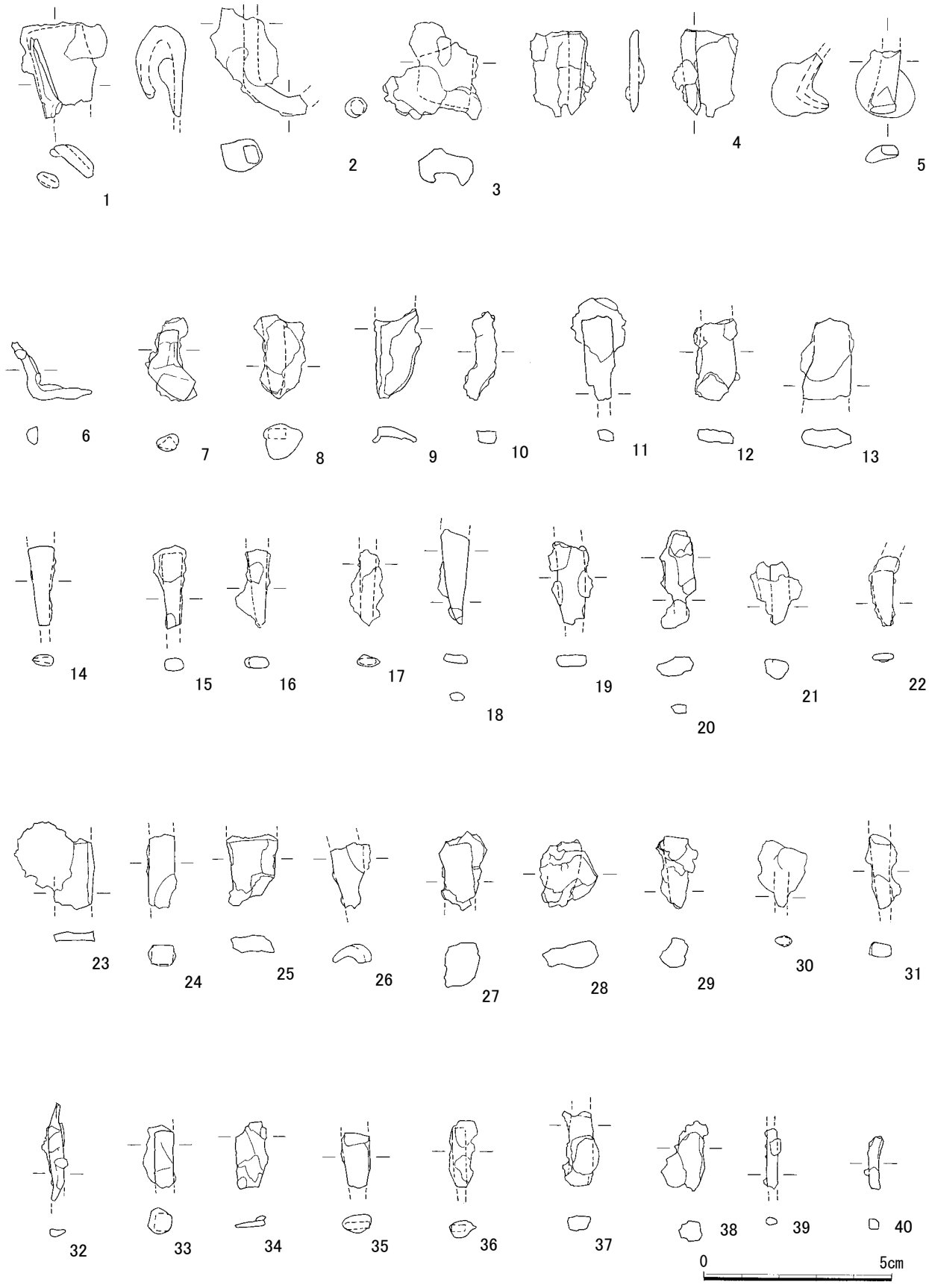


図185　12区SH以外の遺構出土鉄片7（2/3）

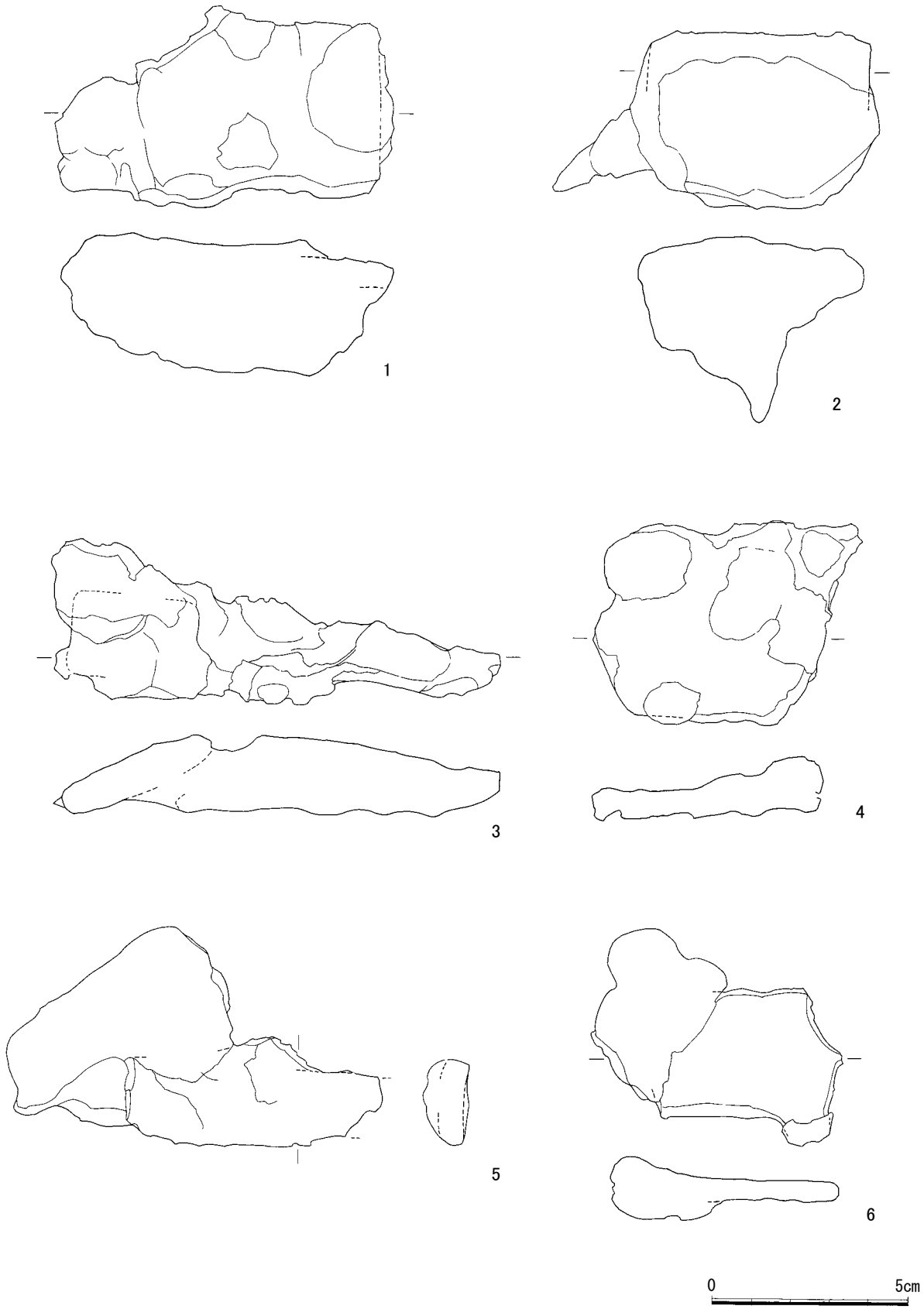


図186　12区SH以外の遺構出土鉄片8（2/3）

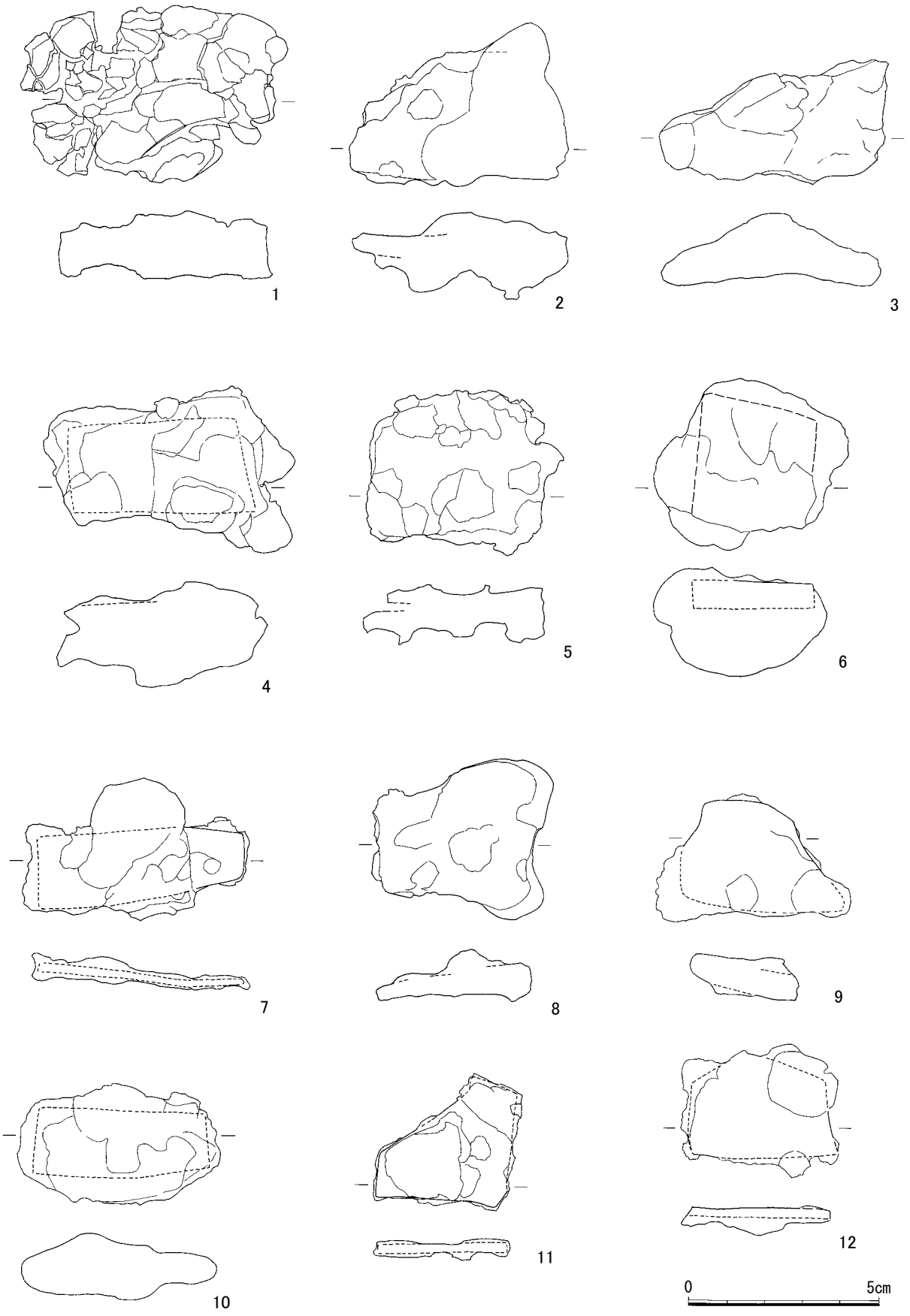


図187　12区SH以外の遺構出土鉄片9（2/3）

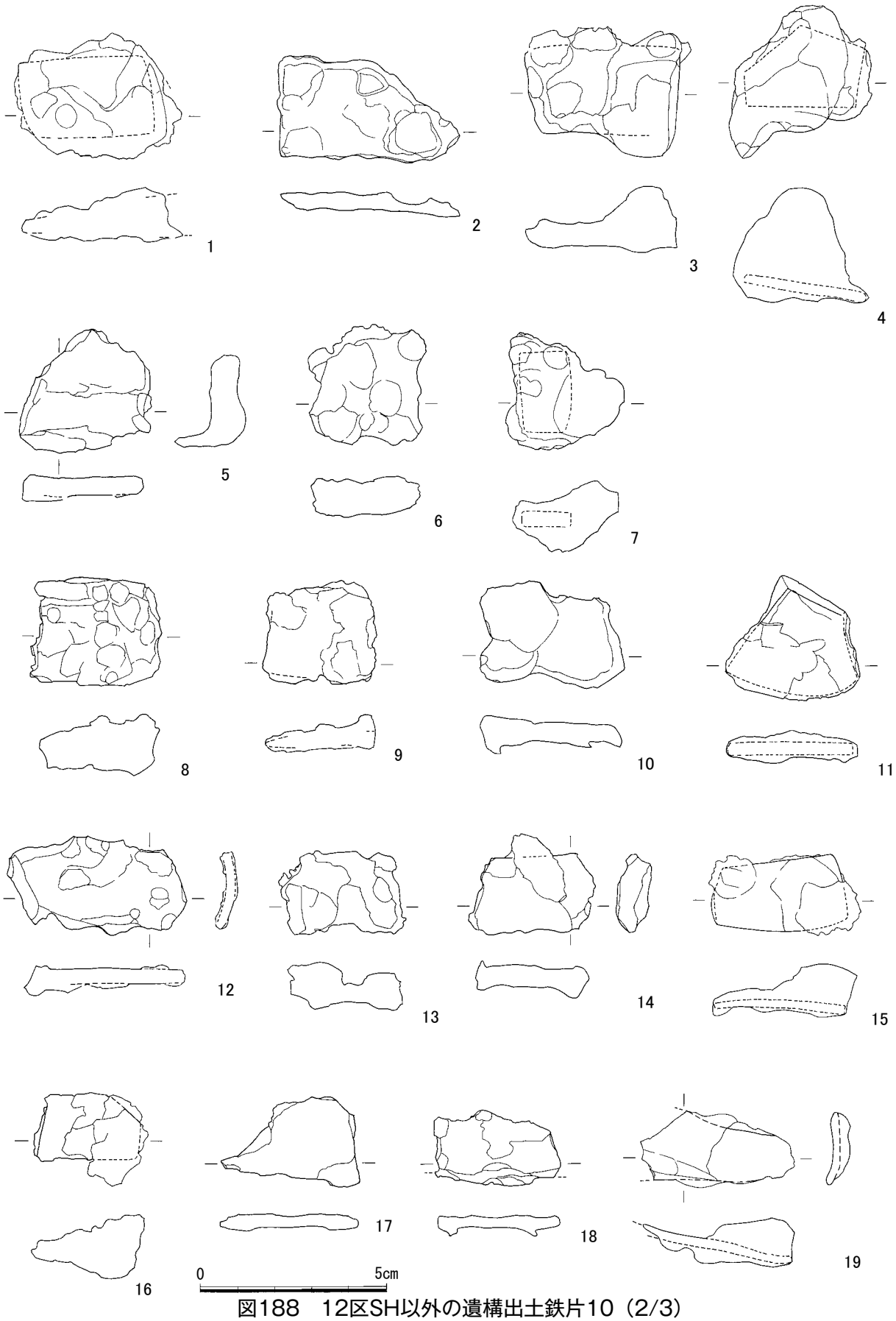


図188　12区SH以外の遺構出土鉄片10（2/3）

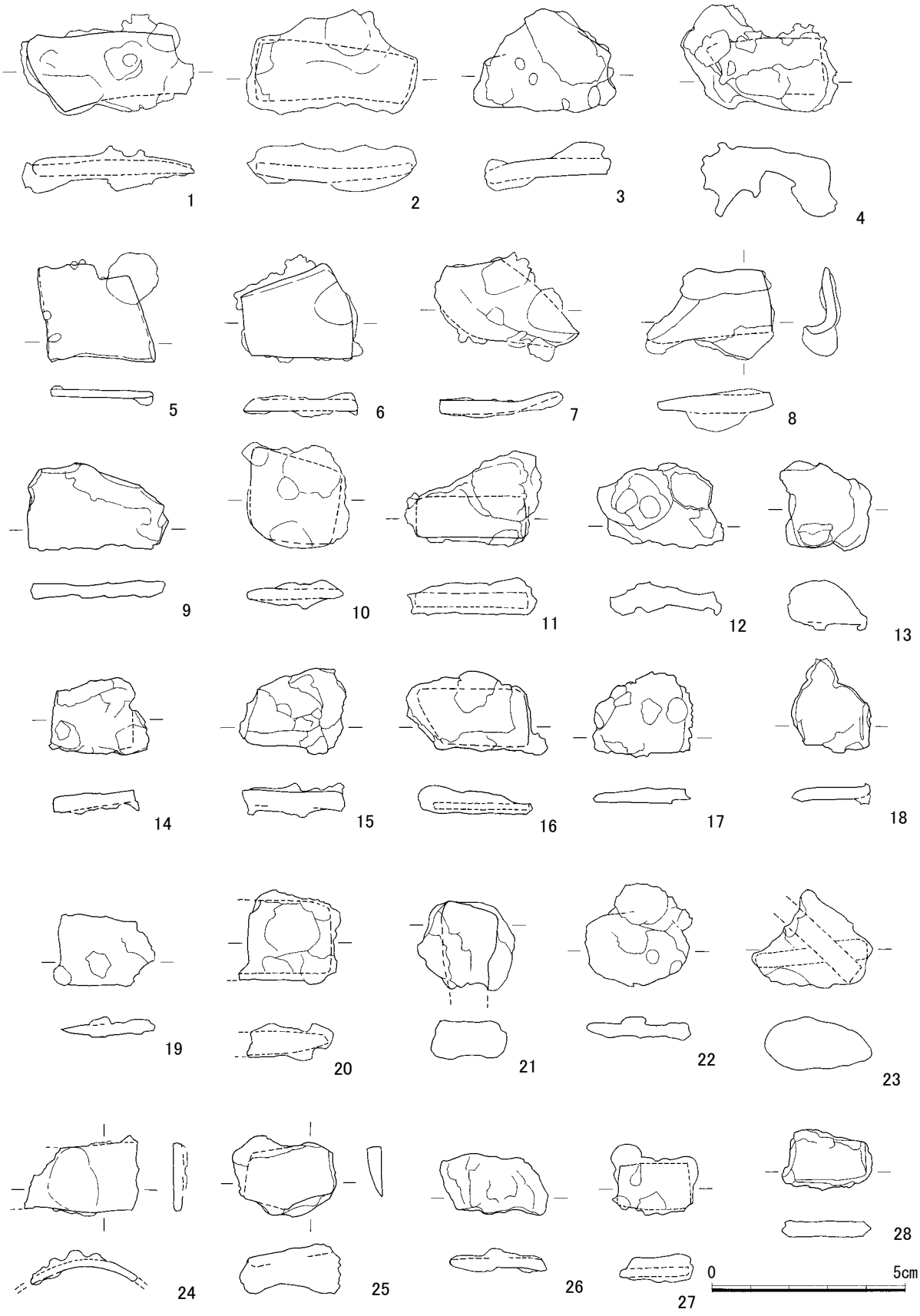


図189　12区SH以外の遺構出土鉄片11（2/3）

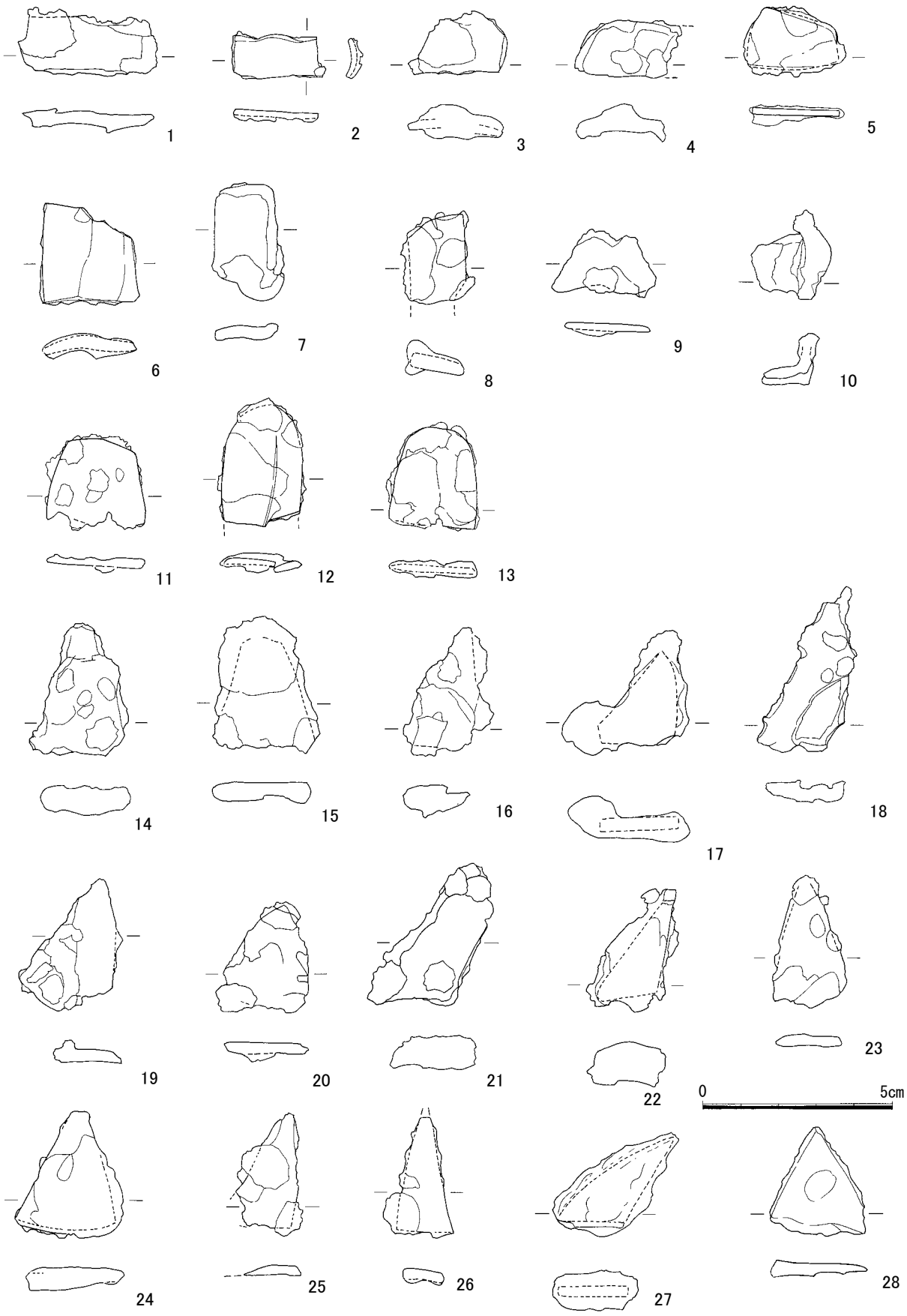


図190　12区SH以外の遺構出土鉄片12（2/3）

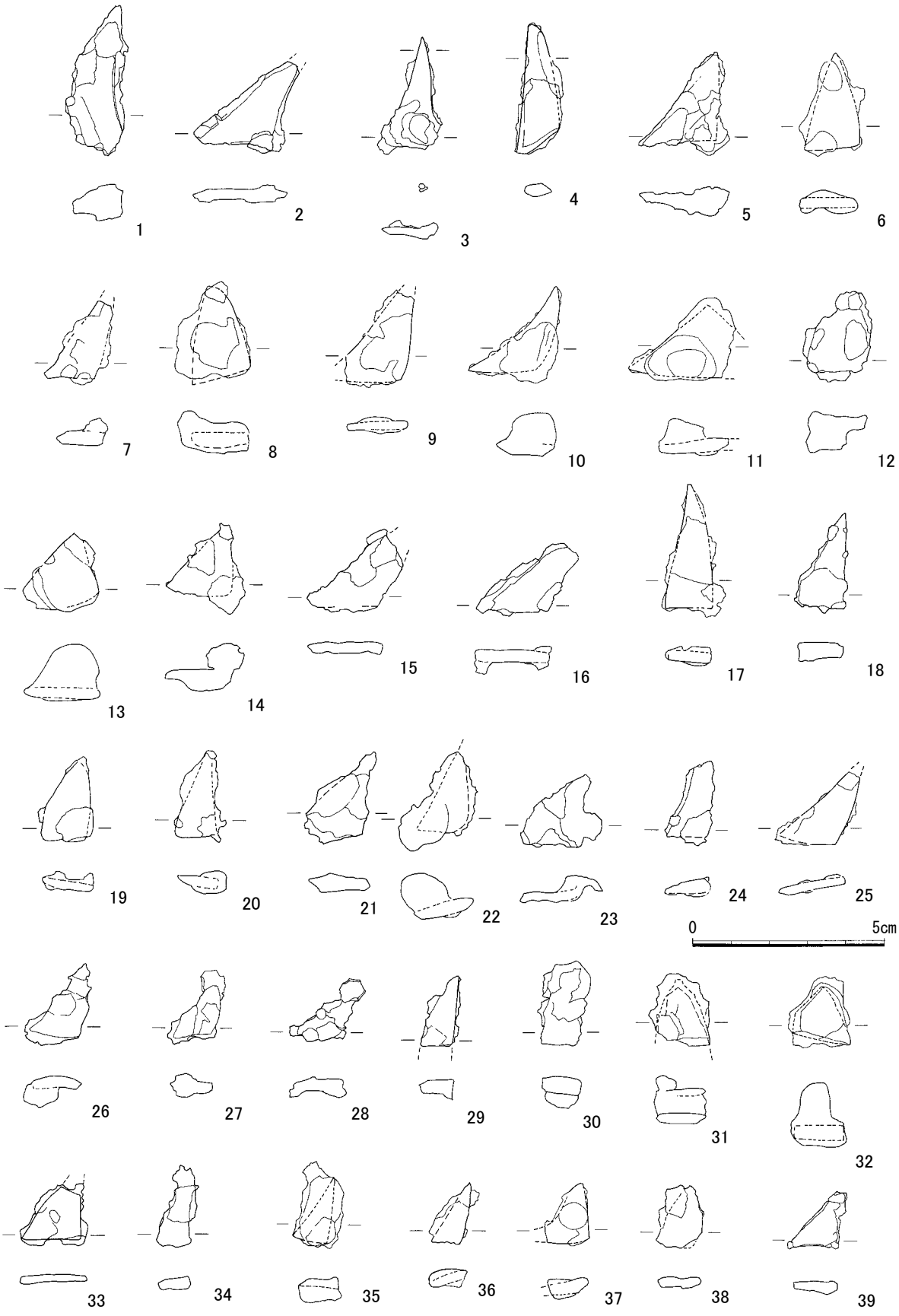


図191　12区SH以外の遺構出土鉄片13（2/3）

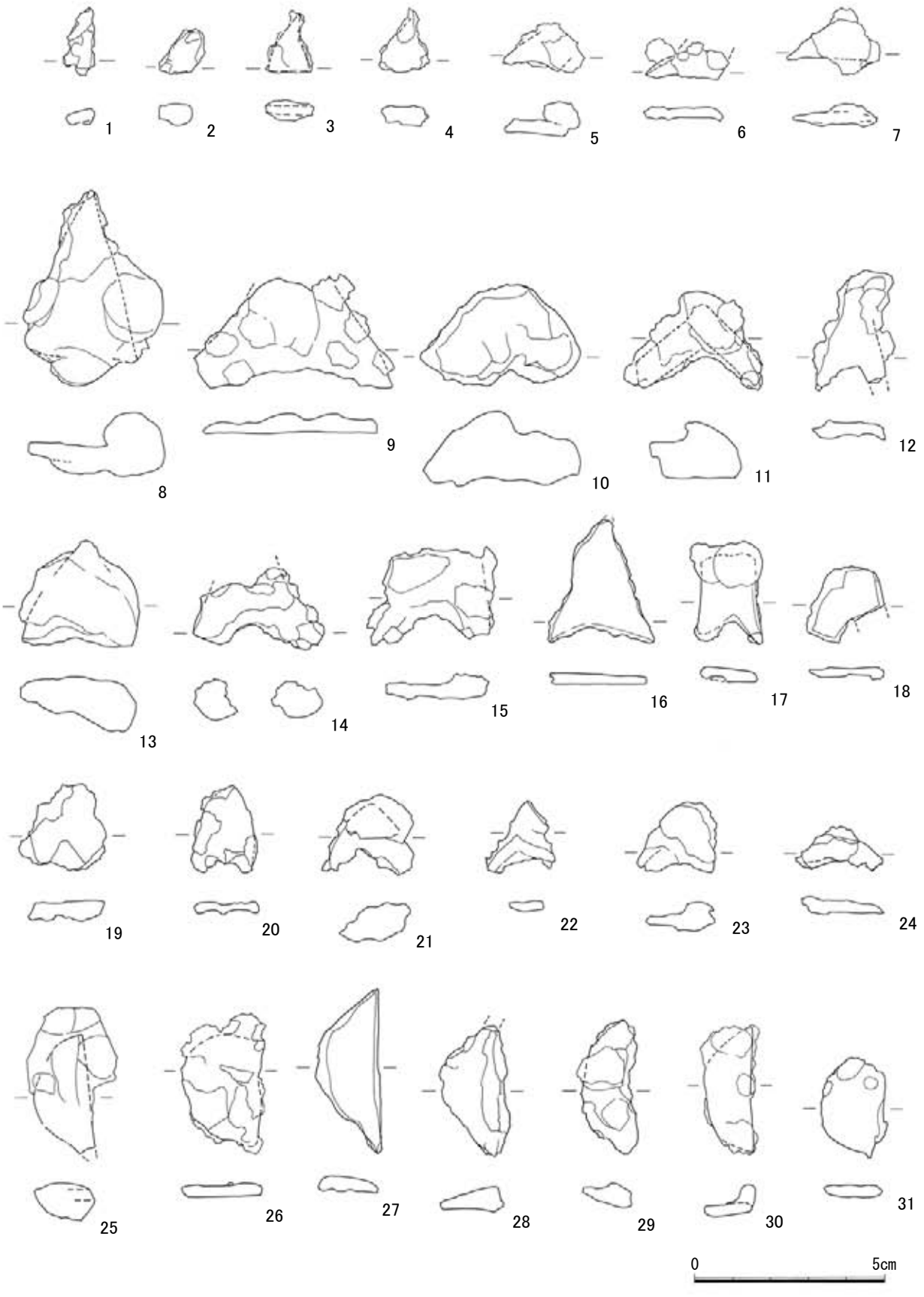


図192　12区SH以外の遺構出土鉄片14（2/3）

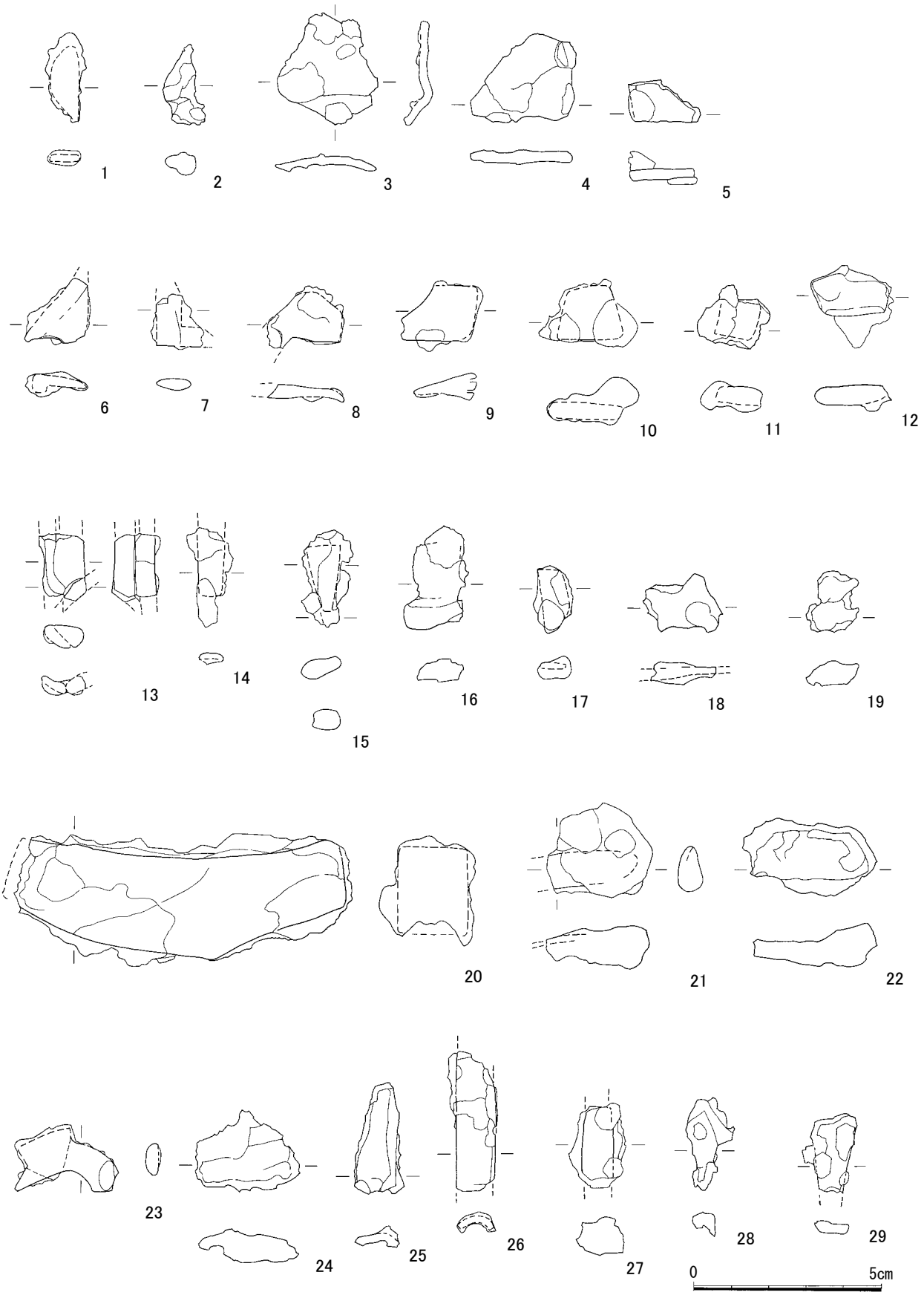


図193　12区SH以外の遺構出土鉄片15（2/3）

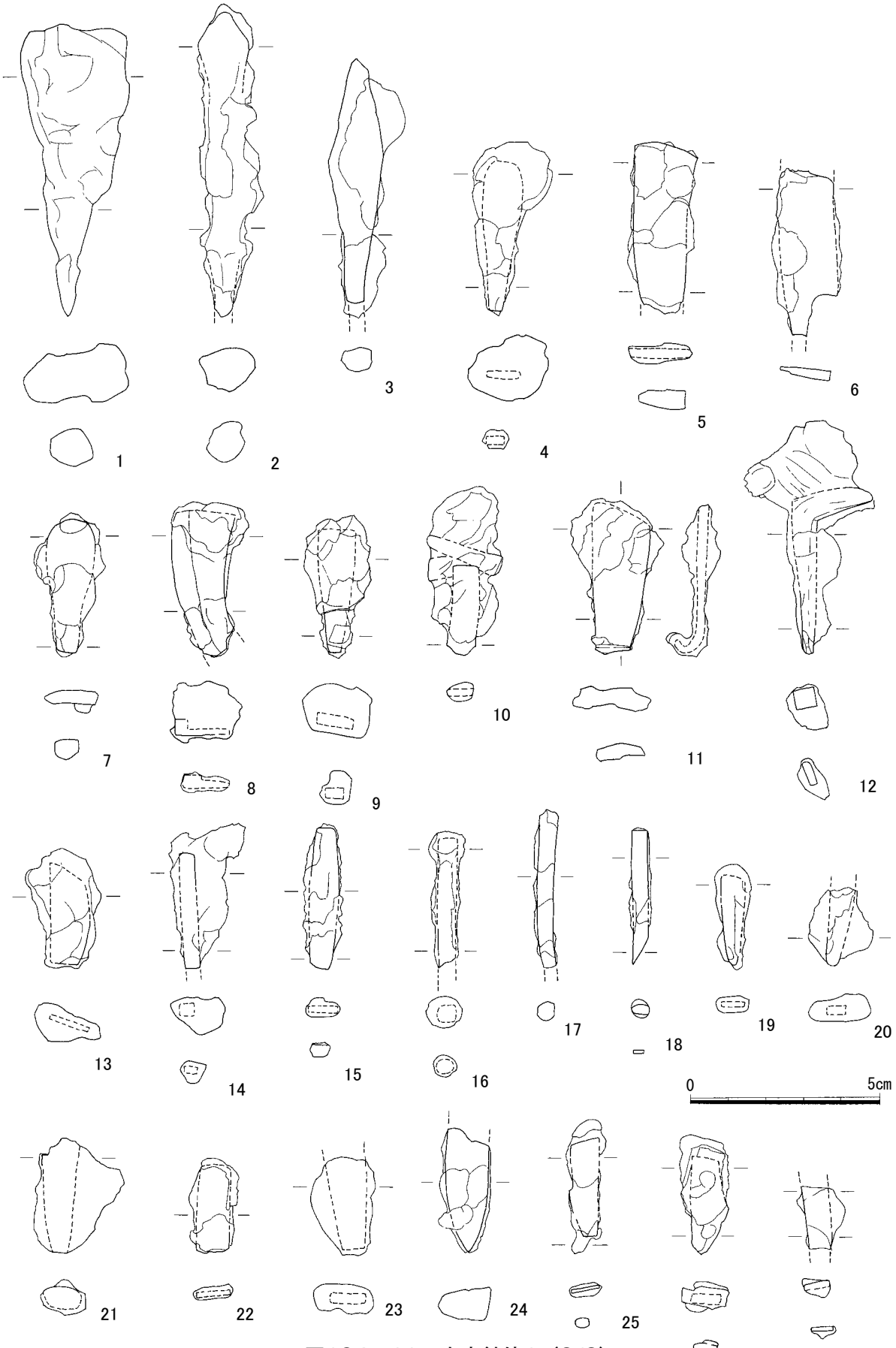


図194　11区出土鉄片1（2/3）

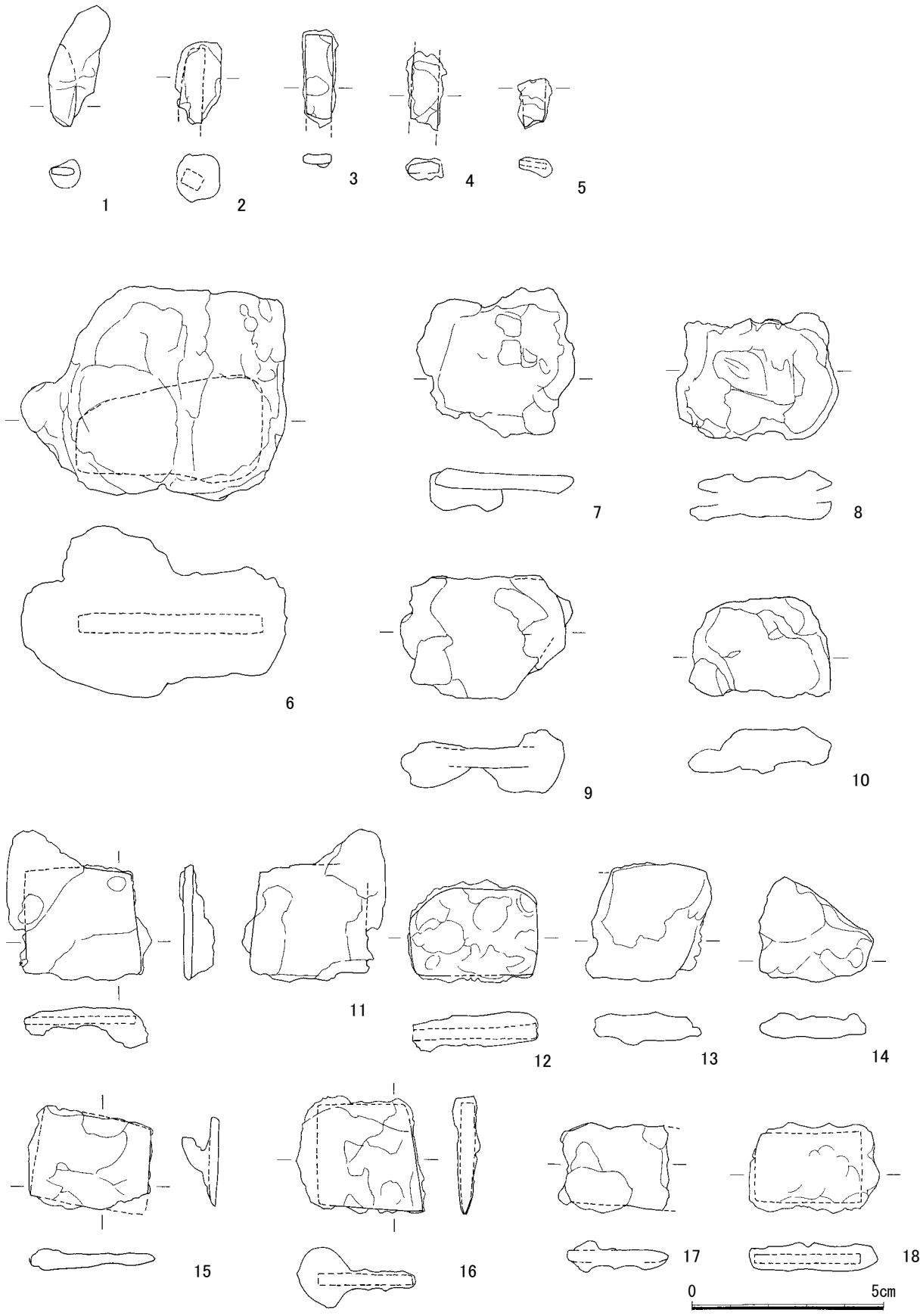


図195　11区出土鉄片2（2/3）

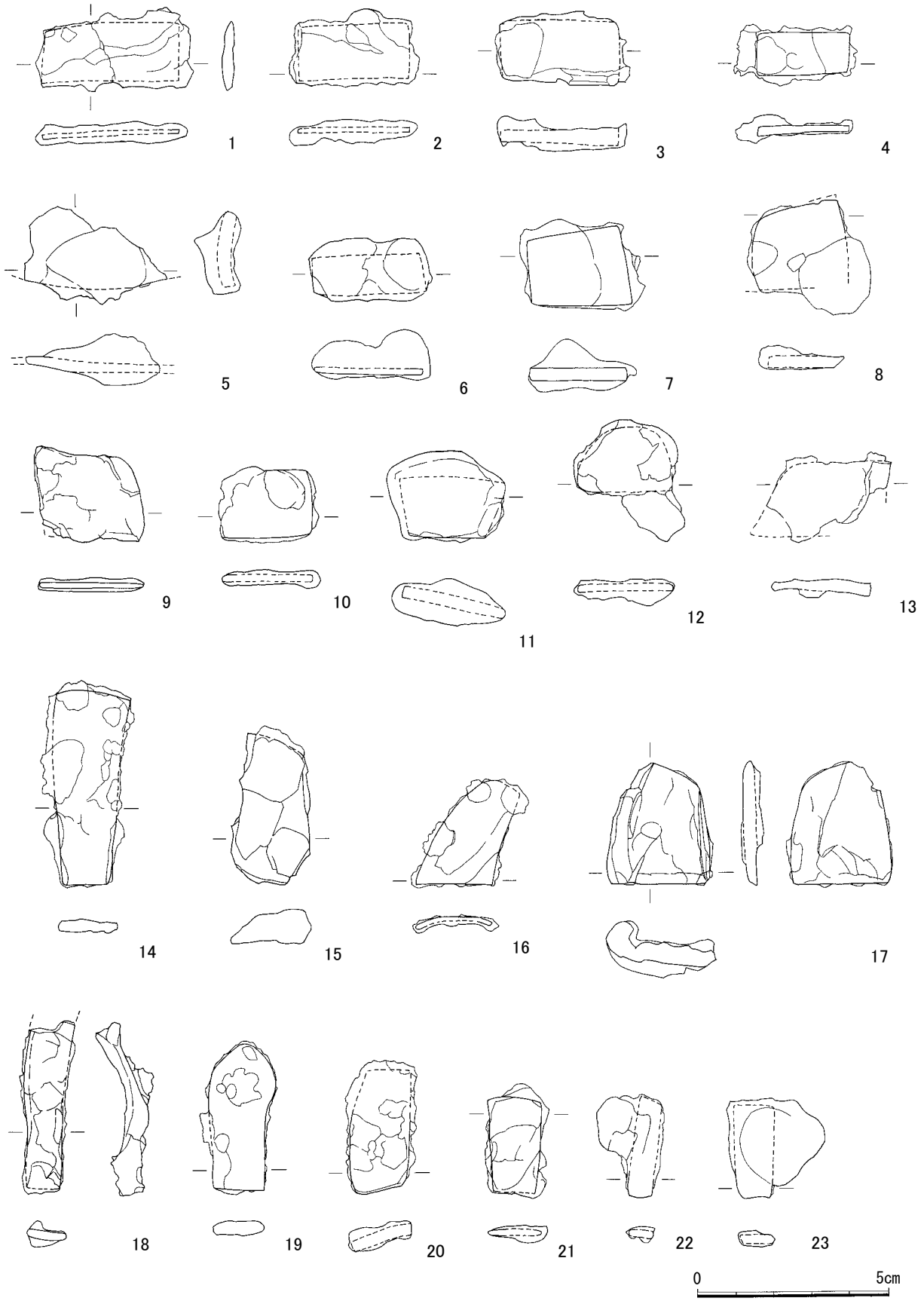


図196　11区出土鉄片3（2/3）

弥生時代後期後半の SH11205 竪穴住居跡出土品は図 196-6 板状品を実測した。
弥生時代後期後半古の SH11207 竪穴住居跡出土品は図 194-22 板状品を実測した。
弥生時代後期後半古の SH11212 竪穴住居跡出土品は図 197-22 三角形鉄片を実測した。
弥生時代後期後半の SH11217 竪穴住居跡出土品は図 198-7 三角形鉄片を実測した。
弥生時代終末期～古墳時代前期前半の SH11230 竪穴住居跡出土品は図 195-2 棒状品を実測した。
弥生時代後期後半の SH11231 竪穴住居跡出土品は図 194-13、19、26、図 195-3、5 の棒状品、図 197-25 三角形鉄片を実測した。
弥生時代後期後半の SH11253 竪穴住居跡出土品は図 194-4、14、21 の棒状品、図 196-18 板状品、図 199-1、5、7 不明鉄片を実測した。
弥生時代終末期～古墳時代前期前半の SH11258 竪穴住居跡出土品は図 194-20、24 の棒状品、図 198-5 三角形鉄片を実測した。
その他の鉄片で特徴的なものについて記述しておく。図 194-1 は石突き未製品とみられる。図 194-2、3 は鏃の可能性もあるが、錆膨れが著しく確定できない。図 194-27 は断面長方形で小型工具の破片である可能性がある。図 195-15、16 の板状品は図上の下辺に刃部が形成されており、小型利器であると考えられる。図 196-17 は図上左辺が肥厚し、板部との間に凹みが認められ、棒状品製作途中のものとみられる。図 196-23 は三角形鉄片 2 と板状品 1 が錆で固着している。図 197-2、27 の三角形鉄片は図上左辺に刃部が形成されており、小型利器として加工されている。図 197-8、28 の三角形鉄片は丸みを帯びた切断痕が残り、これは加熱状態での切断痕である。図 197-11 の三角形鉄片は厚みが図上の上ほど薄く、その方向へ鍛延されたものであるとみられ、小型鉄器製作の工程を示すものとみられる。図 198-14 叉状鉄片は折り返されている。図 198-22 の台形の鉄片は図上右辺が肥厚している。小型利器の未製品か棒状品の未製品とみられる。図 199-2 不明鉄片は切断痕が残る。図 199-6 は鉈などの破片である可能性もある。図 199-8 は図上の下辺に二箇所の突起がある。図上の上辺が欠損しており、裁断のためなのか、意図された形であるのか、判別し難い。図 199-9 は図上の右辺と下辺が肥厚している。叩き分けによるものとみられる。

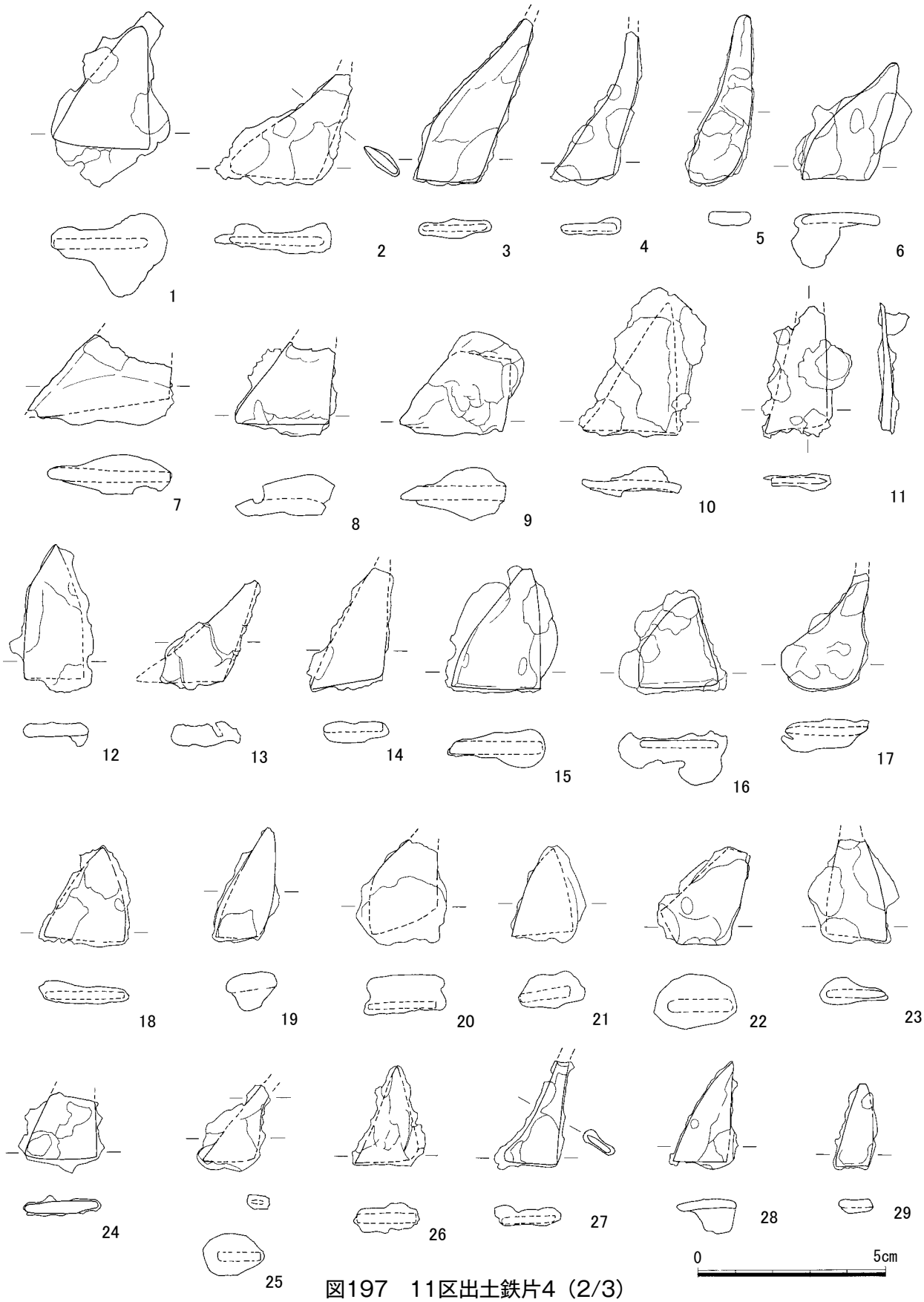


図197　11区出土鉄片4（2/3）

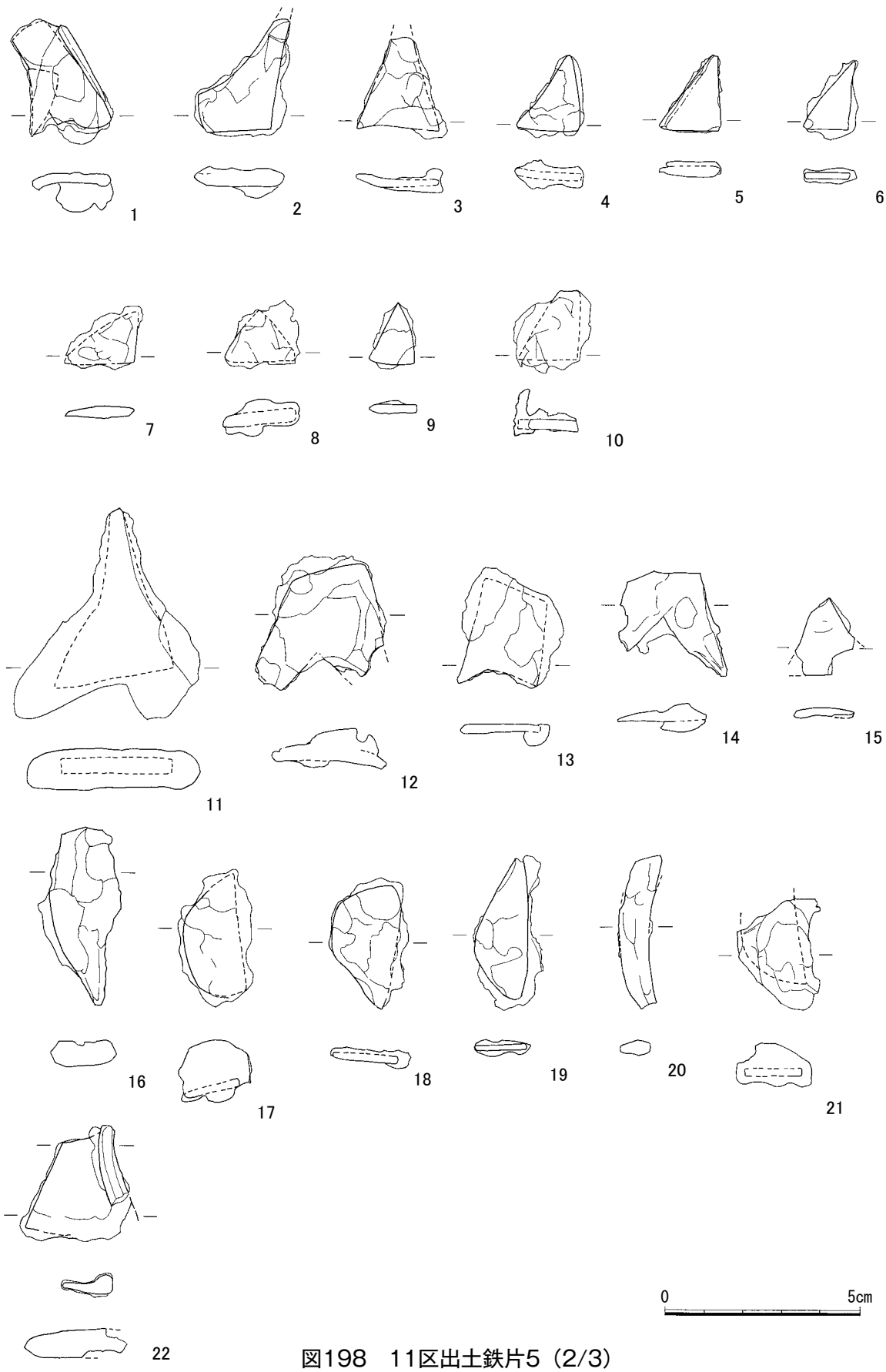


図198　11区出土鉄片5（2/3）

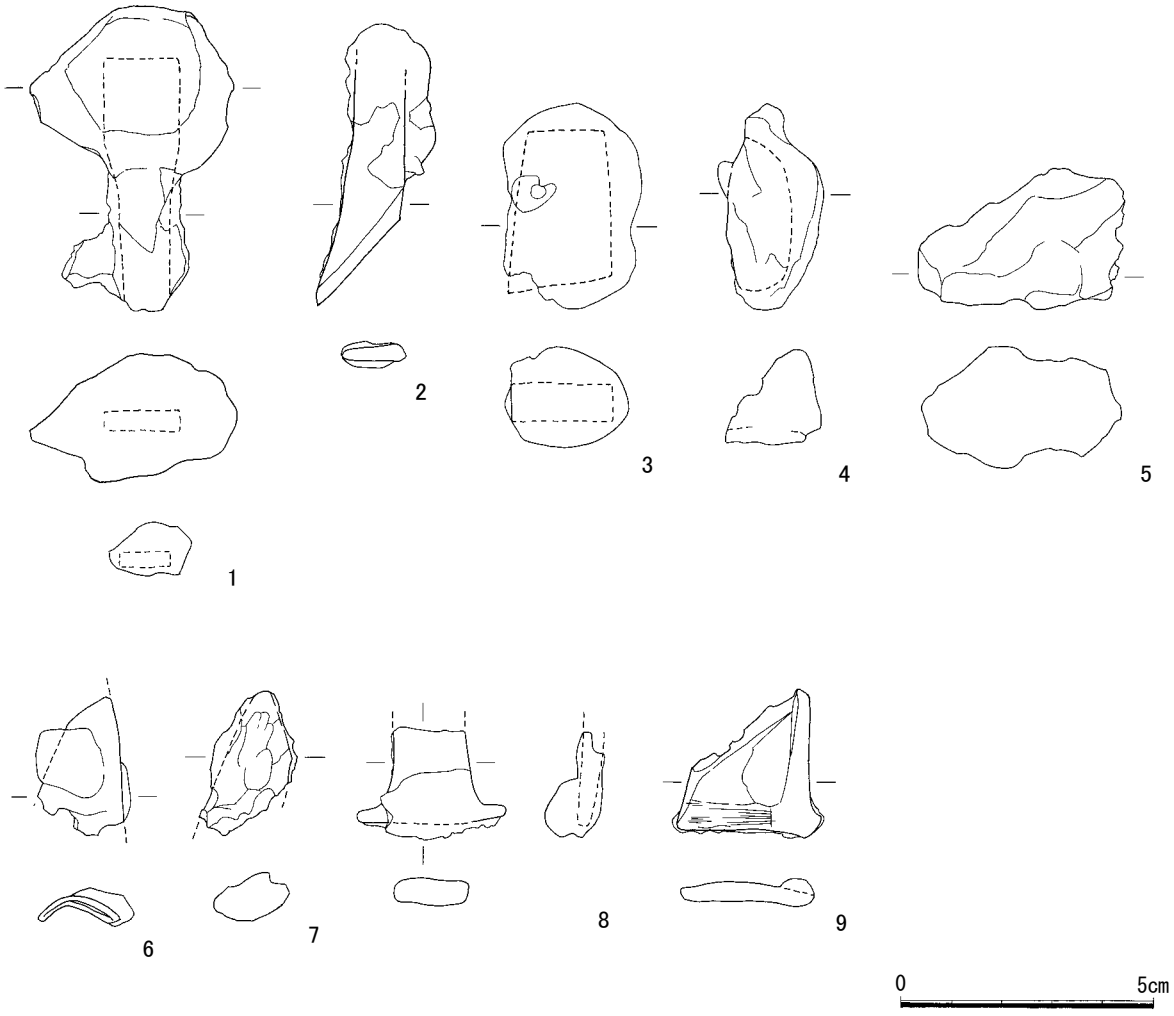


図199　11区出土鉄片6（2/3）

参考文献

岡村秀典 1985「鉄製工具」『弥生文化の研究』5、道具と技術Ⅰ、雄山閣
川越哲志 1993『弥生時代の鉄器文化』雄山閣出版
田中　謙 2008「弥生時代における鉇の機能分化とその意義」『地域・文化の考古学—下條信行先生退任記念論文集—』下條信行先生退任記念事業会
村上恭通 1998「鉄器普及の諸段階」『日本における石器から鉄器への転換形態の研究』平成 7 年度～平成 9 年度科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書、研究代表者下條信行
村上恭通 2005「弥生時代鉄製工具における新器種とその分布」『考古論集—川越哲志先生退官記念論文集—』川越哲志先生退官記念事業会編
村上恭通 2007『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店
村上恭通 2010「下扇原遺跡出土の鉄製品」『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告第 257 集、熊本県教育委員会

（3）鉄滓

鍛冶関連遺構は検出できず、鉄滓は 11 区と 12 区に立地する古墳の周溝出土が大半である。以下、12 区及び 11 区の調査区ごとに記す。出土遺構などは表 108 ～ 110 を参照されたい。鉄滓の中には大形磁石に磁着するものもみられ、本文中に磁着するとの表記をする。

①　12 区出土鉄滓

図 200-1 ～ 3 は椀形滓である。1 は平面不整方形で、上面は平坦気味で気孔はみられない。裏面は凹凸がありながらも椀形で、部分的に茶褐色の砂土が固着する。2 は側面の一部が破面である。上面は端部に気孔が散在する。裏面は浅い椀形で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が固着する。3 は側面の 1/2 が破面である。上面は細かい気孔が散在する。裏面は浅い椀形で、青灰色の鍛冶炉の炉床土が固着する。

図 200-4 ～ 8 は鉄滓（鍛冶滓）である。4 は大きく湾曲し、上面は気孔が散在する。小礫を含む。5 は上面が窪み、気孔が散在する。6 は上面が窪み、気孔が散在する。裏面は椀形である。7 は径 5mm ～ 10mm の小礫が付着し表面の一部がガラス質になる。8 は全面に気孔がみられる。

図 201-1 ～ 18 は鉄滓（鍛冶滓）である。1 は径 5mm ～ 10mm の小礫が付着する。2 は平面不整方形で扁平である。裏面に砂粒が固着する。3 は径 10mm の小礫が付着する。わずかに磁着する。4 は径 5mm ～ 10mm の小礫が付着し表面の一部がガラス質になる。炉壁？付着。5 は八面体の塊状、気孔あり。6 は側面全面が破面になる。7 は六面体の塊状、気孔あり。8 は三角錐状、表面に砂礫が付着。9 は平面不整四角形で粗い気孔あり。10 は小塊状、極小の気孔あり。11 は小塊状、表面は黒色のガラス質状になる。12 は平面円形で扁平、細かい気孔が散在する。13 は不整な小塊である。14 は平面五角形の扁平形、表面に直線的な溝が二条みられる。15 は平面三角形の扁平形、片面は黒色である。16 は四面体の塊状である。17 は不整な小塊である。18 は不整な小塊である。

②　11 区出土鉄滓

図202-1～4は椀形滓である。1は平面不整な長方形で、上面は平坦気味で粗い気孔が数ヶ所みられ、径約10mmの砂粒を含む。側面の一部が破面である。裏面は凹凸がありながらも椀形で、部分的に炉床土が固着する。 2は平面不整な楕円形で、上面は平坦気味である。側面の一部が破面である。裏面は椀形で、炉床土が固着する。 3は平面不整な楕円形で、上面は浅く窪む。裏面は椀形で炉床土が固着する。4は平面不整な楕円形で、上面は部分的に浅く窪む。側面は破面である。裏面は椀形で炉床土が固着する。

図203-1～6は椀形滓である。1は平面不整な楕円形で、上面は浅く窪み、細かい～粗い気孔が散在する。裏面は椀形で、全面に炉床土が固着する。2は平面不整形で、上面は小さな凹凸がありながらも平坦気味で、上面及び下面に気孔がみられる。側面の一部が破面である。裏面は凹凸がありながらも浅い椀形である。裏面に磁着する箇所がみられる。鉄を含む滓とした方がいいのかも知れない。3は平面不整形で、上面は大きく窪み、滑らかな黒色部分がみられる。側面の1/2が破面である。裏面は椀形、表面は滑らかで、炉床土は固着しない。4は平面不整な台形で、上面は凹凸と細かい～粗い気孔がみられる。端部には炉壁と思われる灰色の砂粒混入土が固着する。裏面は浅い椀形で、全面に炉床土が固着する。5は平面不整な楕円形で、上面は平坦である。側面の1/2が破面である。裏面は椀形で、砂粒が固着する。

図 204-1 ～ 9 は椀形滓である。 1 は平面三角形で、上面にガラス質部分がみられる。側面全面は破面である。裏面は浅い椀形で、全面に炉床土が固着する。2 は平面不整円形で、上面に細かい～粗い気

孔がみられる。側面全面は破面である。裏面は浅い椀形で、全面に炉床土が固着する。3 は平面不整形で、上面は平坦気味である。側面全面は破面か。裏面は浅い椀形で、全面に炉床土が固着する。上面は磁着する。4 は平面不整形で、上面は平坦気味である。側面の大半は破面である。裏面は浅い椀形で、全面に炉床土が固着する。5 は平面不整三角形で、上面は径約 5mm の砂粒を少量含む。裏面は平坦で、全面に炉床土が固着する。6 は平面不整な四角形で、上面表面は滑らかな黒色の部分がみられる。側面の大半は破面である。裏面は椀形である。7 は平面不整な長方形で、上面表面は滑らかな黒色の部分がみられる。側面の全面は破面である。裏面は浅い椀形で極小の砂粒が固着する。8 は平面不整な三角形で、上面表面は滑らかな黒色の部分がみられる。側面の全面は破面である。裏面は湾曲しており極小の砂粒が固着する。7 と類似する。9 は平面不整な三角形で、上面細かな気孔がみられる。側面の全面は破面である。裏面は平坦で炉床土が固着する。

図 204-10 ～ 14 は鉄滓である。10 は平面不整な三角形で扁平である。両面ともに細かな気孔がみられる。11 は流動状の滓である。側面の一部は破面である。上面には粗い気孔がある。全体的に弱く磁着する。12 は平面不整な四角形で、側面の一部は破面である。両面には細かい～粗い気孔がある。滓の表面に藁を押しあてたような溝が一条みられる。13 は不整形な板状品 2 枚が重なり、さらに錆びで覆われている。14 は平面不整な三角形で扁平である。図は裏面を図化している。上面表面は滑らかな黒色の部分と粗い気孔がみられる。

図 205-1 ～ 14 は鉄滓である。1 は平面不整形で扁平である。両面ともに粗い気孔がみられる。側面の一部は破面である。磁着する。2 は不整な塊状である。3 は平面半円形で扁平気味である。4 は平面不整形で扁平である。径 10mm の砂粒を含む。側面の 3/4 は破面である。磁着する。5 は流動状の滓である。側面の一部は破面である。弱く磁着する。6 は平面三角形で扁平である。側面の 1/3 は破面である。7 は平面不整形で扁平である。片面に粗い気孔がみられる。8 は平面叉状で側面の一部は破面である。裏面は極小の砂粒が付着し炉底か。9 は流動状の滓である。側面の一部は破面である。裏面は極小の砂粒が付着する。10 は平面不整円形で扁平である。11 は塊状で側面の一部は破面である。12 は表面が凹凸で側面の一部は破面である。粗い気孔がみられる。13 は流動状で塊状の滓である。裏面は平坦で、砂粒が固着する。14 は不整な塊状で、裏面に極小の砂粒が固着する。

図 206-1 ～ 24 は鉄滓である。炉壁？も含む。1 は流動状の滓で、側面の一部は破面である。2 は不整な塊状である。細かい～粗い気孔がある。3、4 は塊状で、細かい～粗い気孔がある。1/2 は破面である。5 は炉壁？に鉄滓小片が固着する。6 は不整形な小片、細かな気孔が散在する。7 は炉壁？に滓が固着する。8 は C 字形に湾曲する。9 は平面長方形で扁平である。裏面は平坦で、全面青灰色である。炉底か？ 10 は表面が凹凸である。11、12 は小塊で全面青灰色、気孔が散在する。炉壁か？ 13 は小塊で破面あり。14 は流動状の小塊、気孔が散在する。15 は小塊で全面青灰色、気孔が散在する。炉壁か？ 16 は小塊で全面青灰色、砂粒を混入。炉壁か？ 17 は小塊で細かな気孔あり。18、19 は小塊で全面青灰色、気孔が散在する。炉壁か？ 20 は表面がガラス質、粗い気孔あり。21 は小塊、流動状の一部か？ 22 は小塊で全面青灰色。炉壁か？ 23 は小塊で全面青灰色、表面は部分的に滑らかである。炉壁か？ 24 は塊状、全面青灰色、炉壁か？

図 206-25 ～ 27 は粘土塊である。色調は 3 点とも橙色～茶褐色である。25 は径約 5mm の白色砂粒を多量に含む。26、27 は塊状で、スサ入りである。炉壁か？

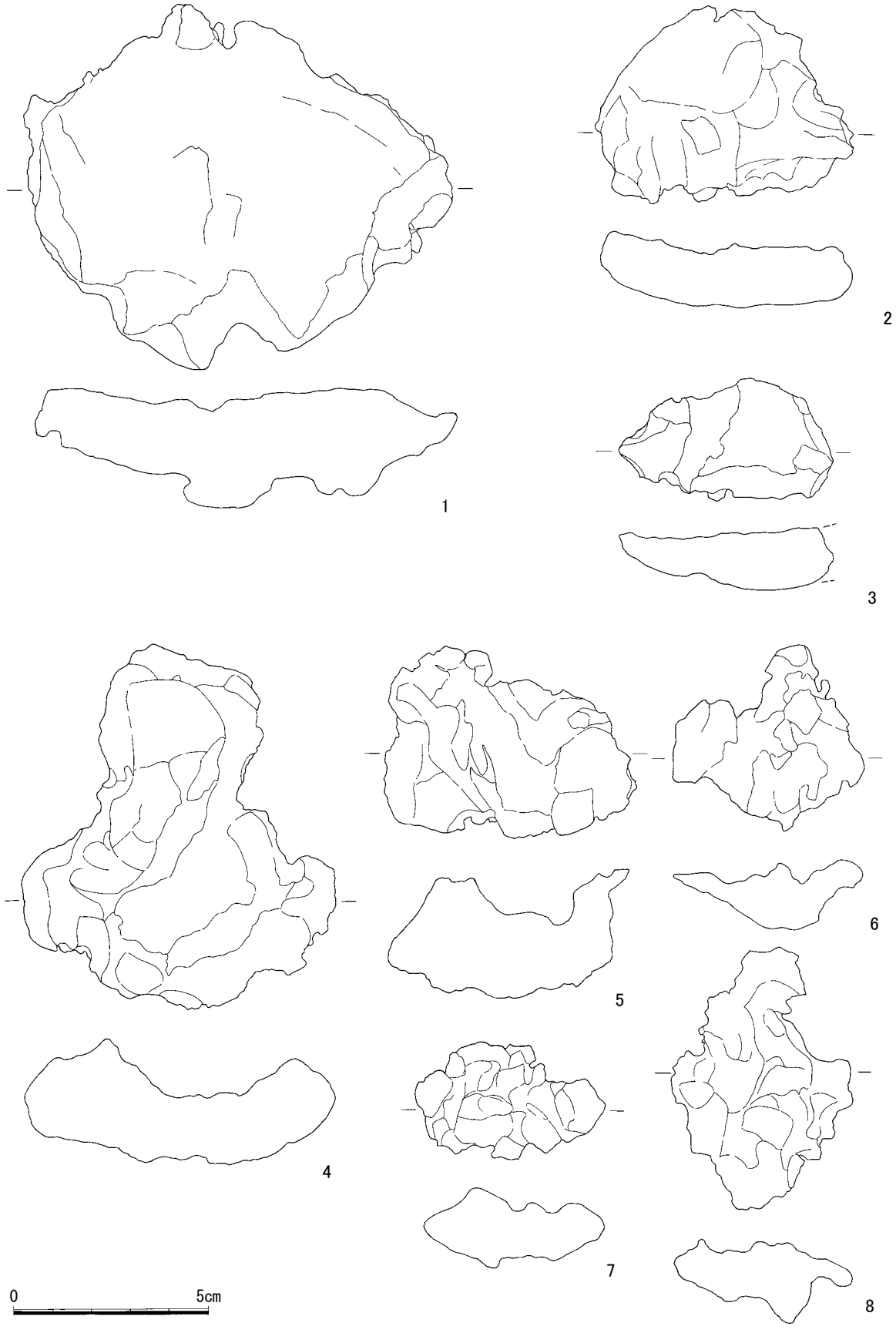


図200　12区出土鉄滓1（2/3）

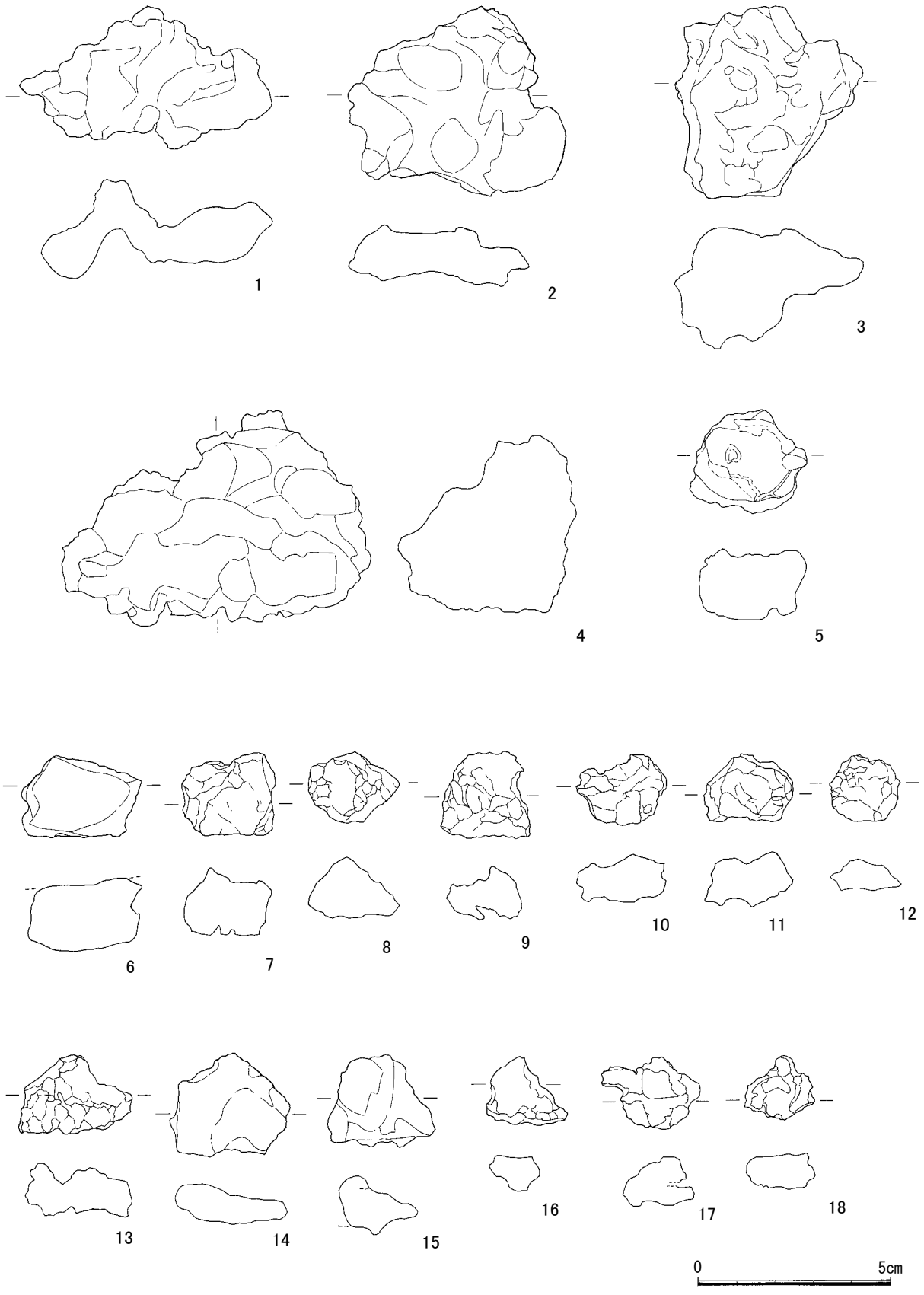


図201　12区出土鉄滓2（2/3）

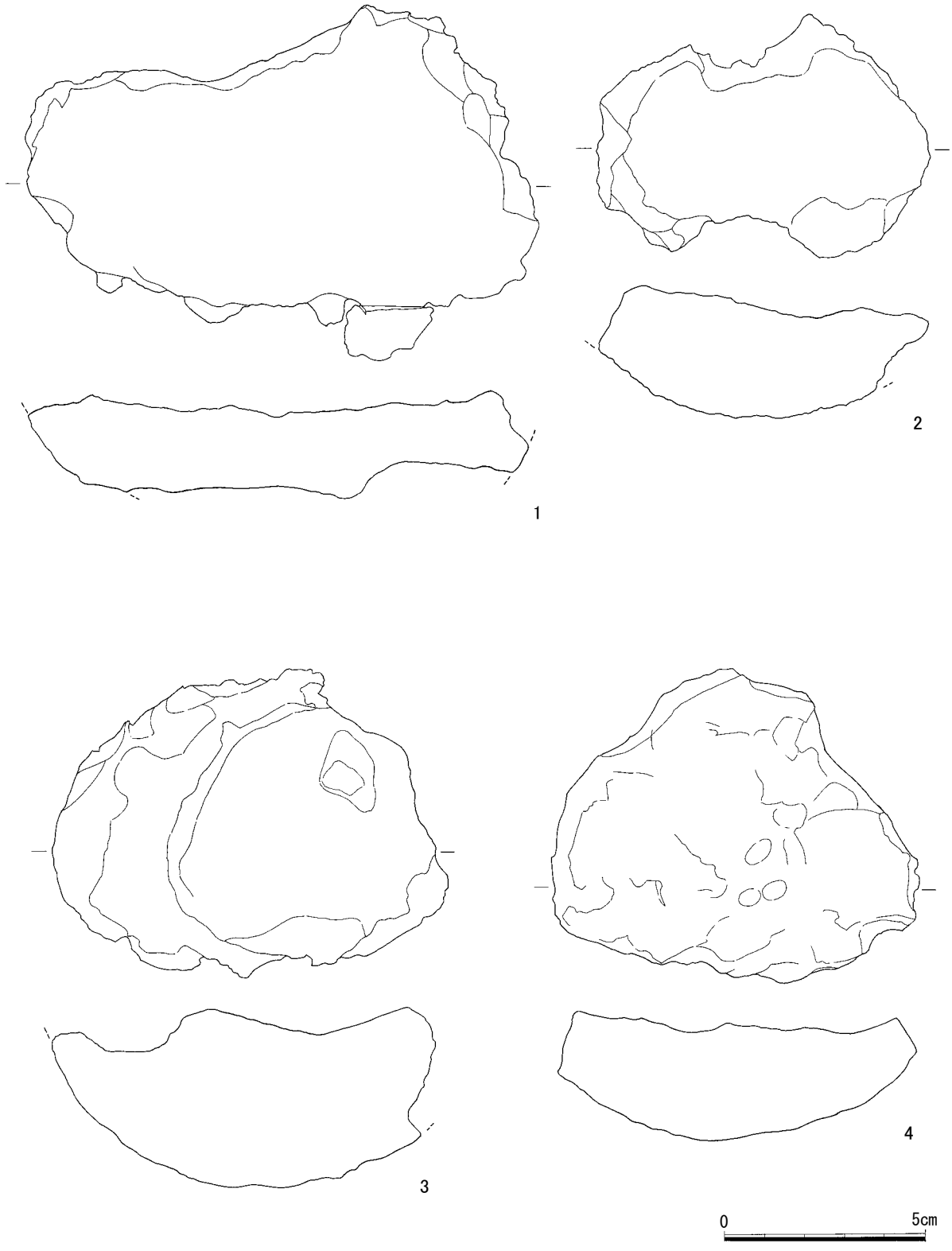


図202　11区出土鉄滓1（2/3）

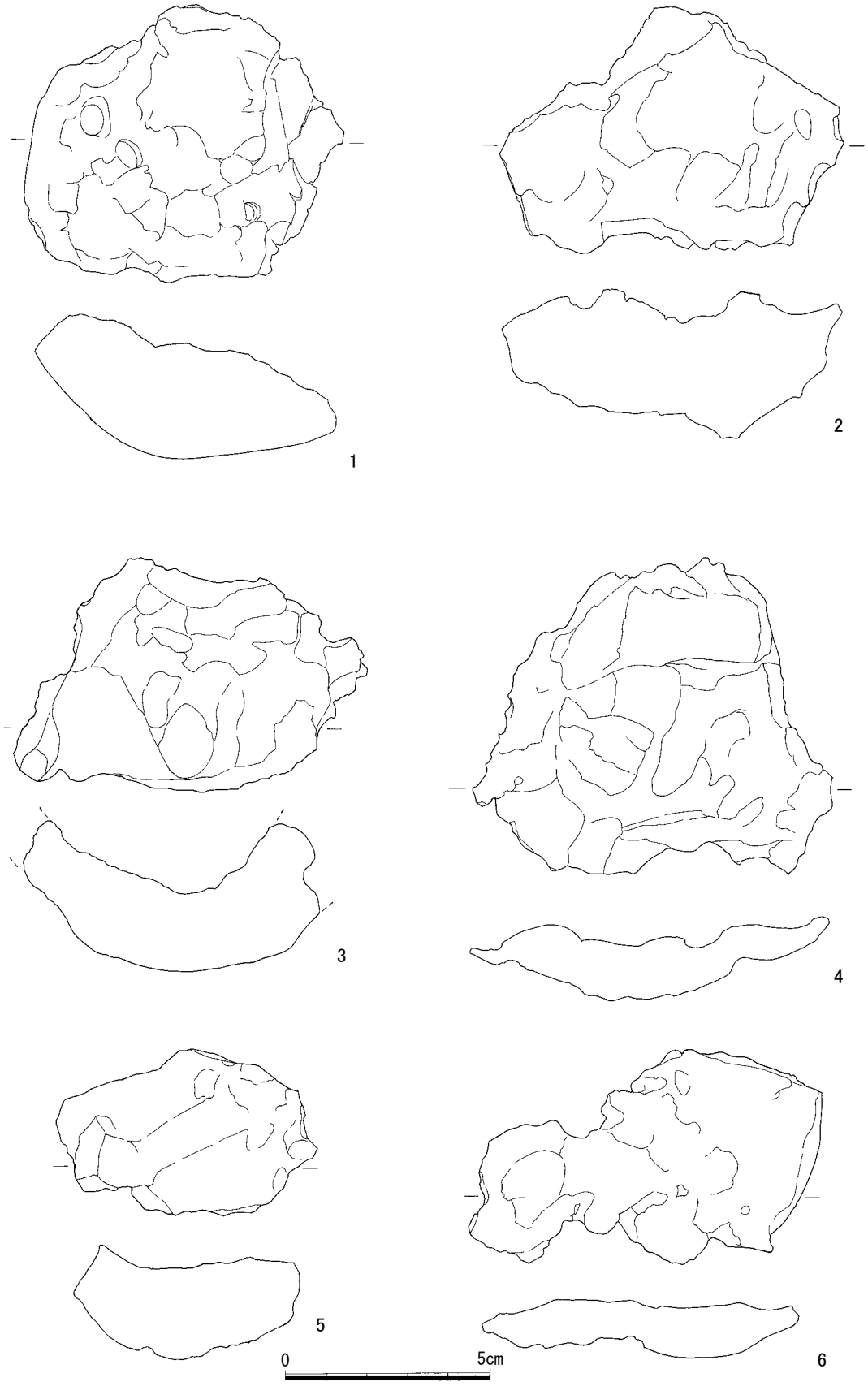


図203　11区出土鉄滓2（2/3）

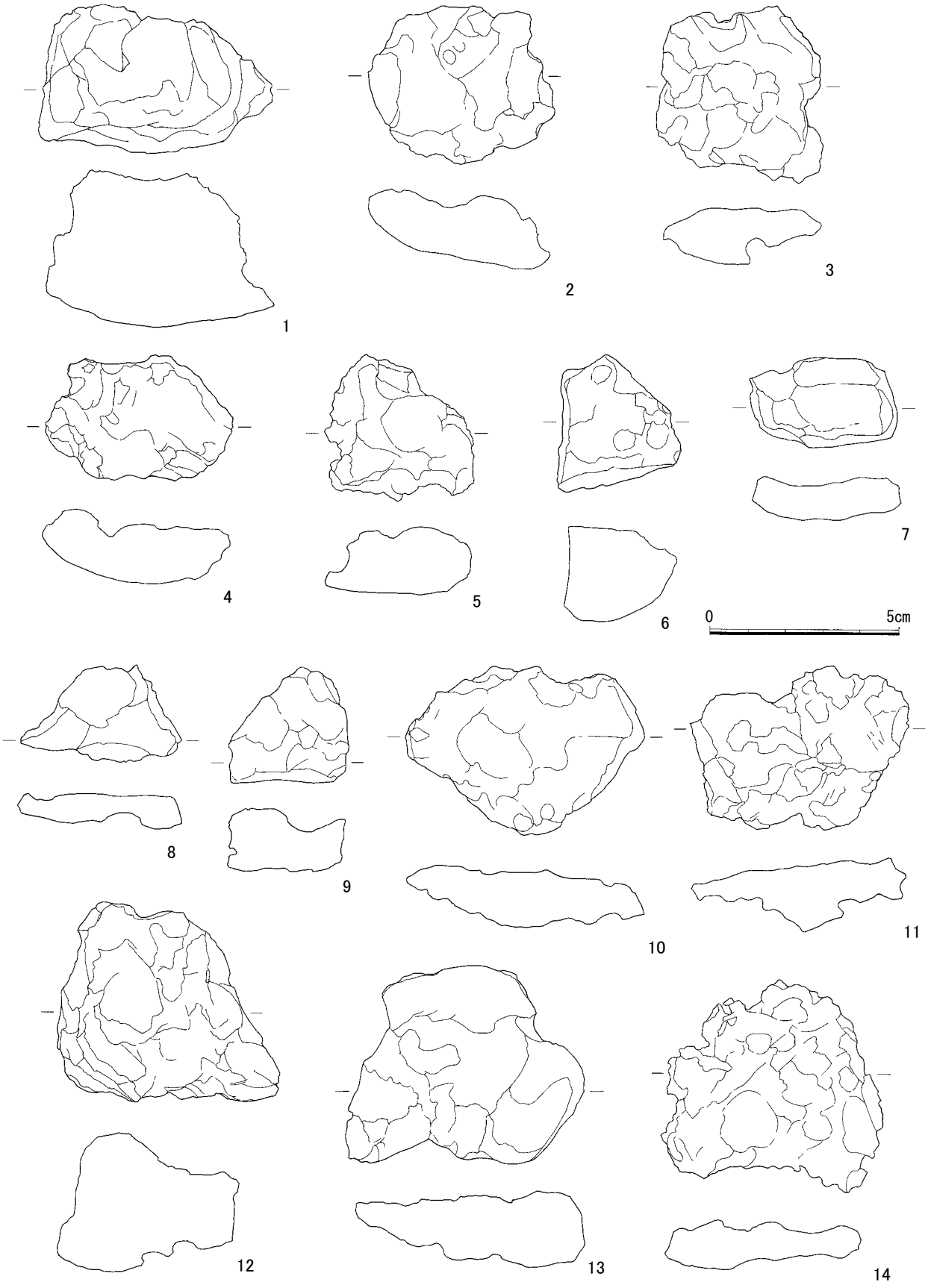


図204　11区出土鉄滓3（2/3）

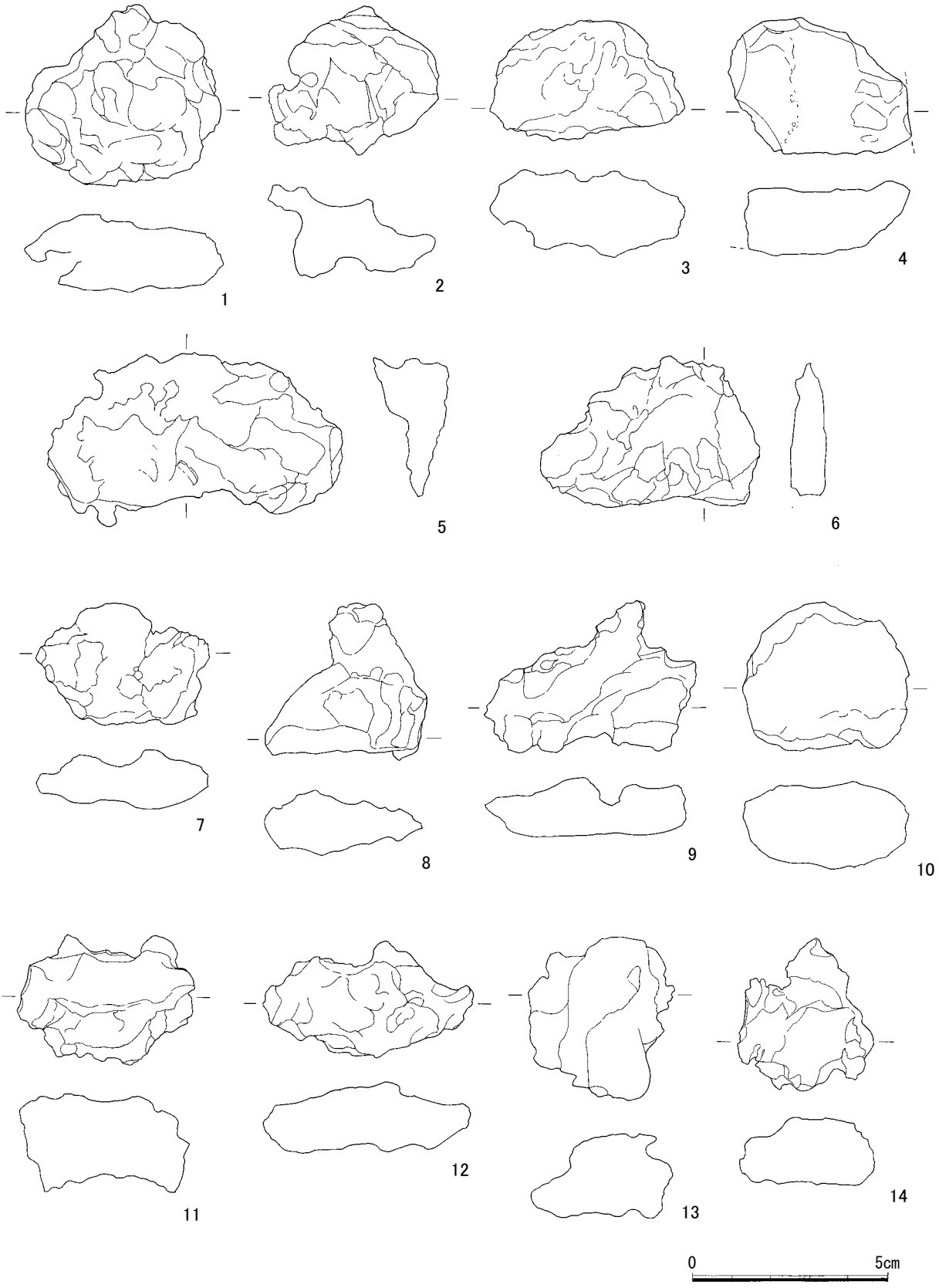


図205　11区出土鉄滓4（2/3）

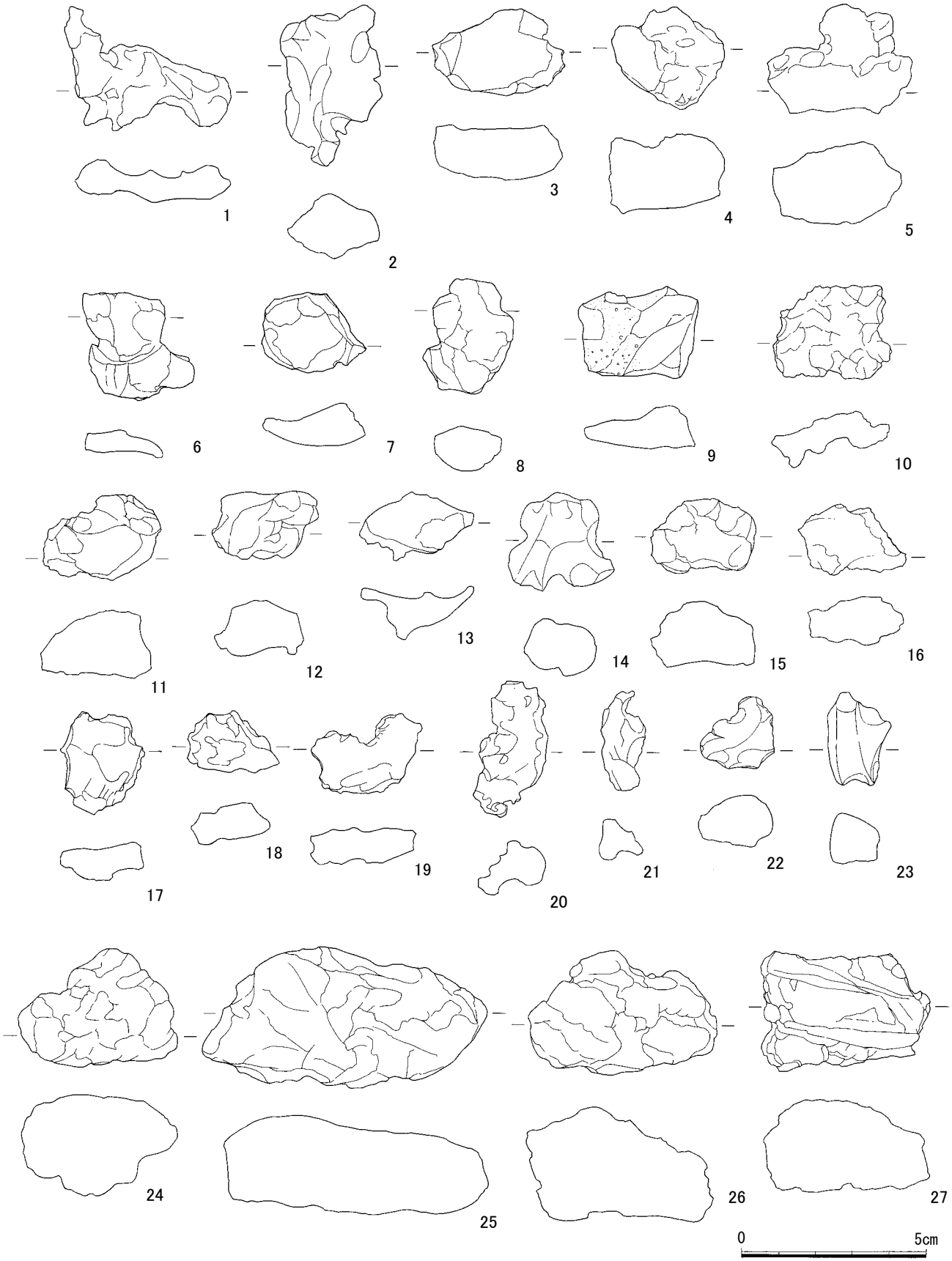


図206　11区出土鉄滓5（2/3）

（4）羽口

図 207-1 ～ 4 は羽口である。1 は羽口先端である。約 2/3 遺存。11 区 ST11067、P-37・38 出土。先端部は青灰色である。胎土は白色砂粒を多く含む。2 は羽口先端部である。約 1/3 遺存。11 区 ST11158、Y-42・43 出土。孔径は大きい。胎土は緻密である。3 は羽口先端部片である。SH11190 出土。4 は羽口先端～胴部片である。13 区 W-46 攪乱出土。胴部に幅 18mm の断面弧状の溝を 3 条施す。胎土は白色砂粒を多く含む。

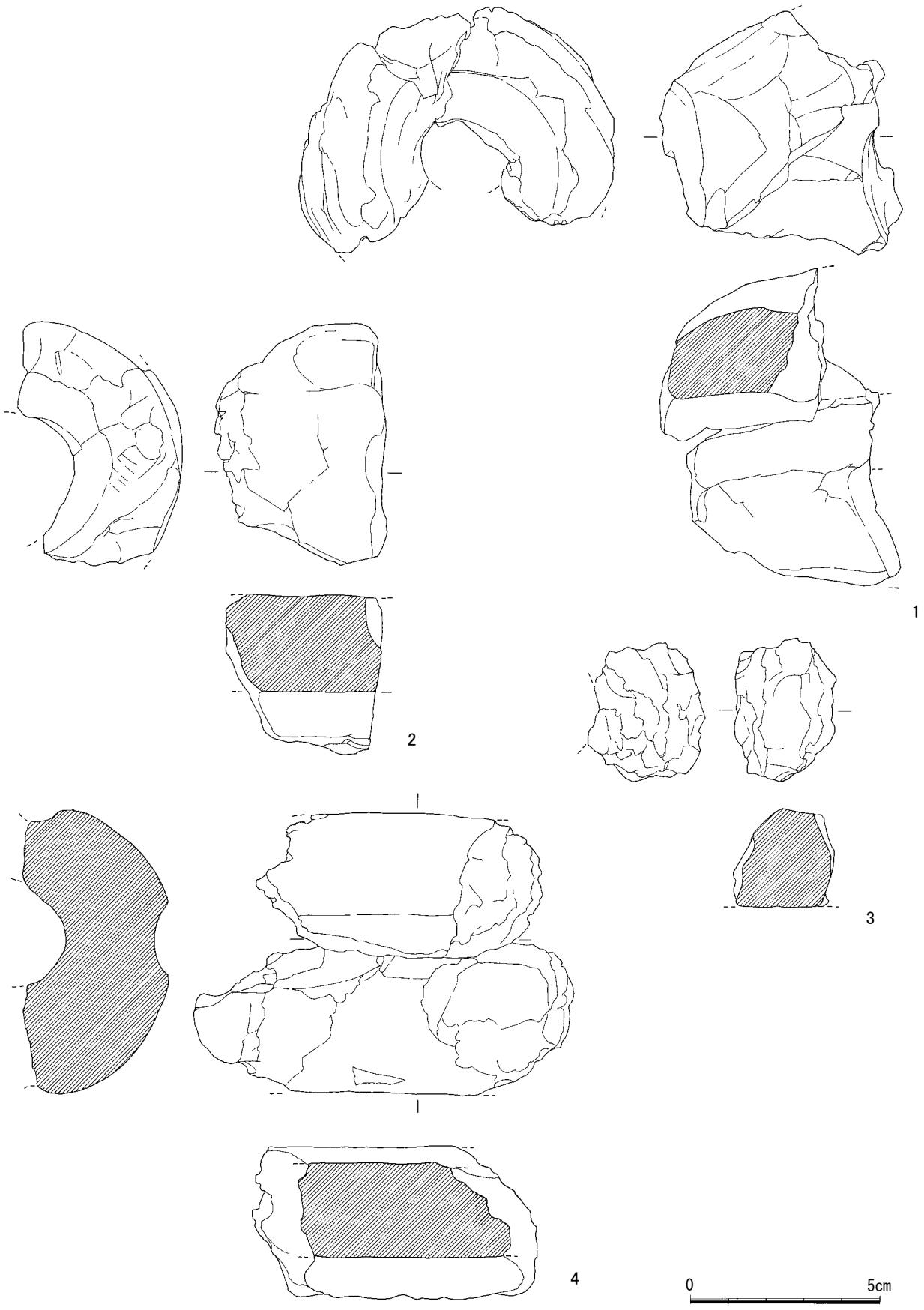


図207　11区出土羽口（2/3）

表61　11区包含層他出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図125-1		W-42 検出時	弥生土器	甕	(29.0)	15.0	橙色(7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001644
図125-2		W-42 検出時	弥生土器	甕	(30.8)	13.2	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001645
図125-3		W-42 検出時	弥生土器	甕	(26.0)	6.2	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001647
図125-4		W-42 検出時	弥生土器	甕	(26.0)	14.0	橙色（7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001646
図125-5		R-36	弥生土器	甕	(29.0)	10.5	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001641
図126-1		T-38	弥生土器	甕	(33.0)	27.4	橙色(5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭圧痕	08001638
図126-2		W-42 遺構検出	弥生土器	甕	18.7	17.0	橙色（5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001697
図126-3		W-41・42 遺構検出時	弥生土器	甕	16.0	10.5	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色 (7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001698
図126-4		T-39	弥生土器	甕	—	15.0	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：明黄褐色 (10YR6/6)	外面：ハケ 内面：ナデ 突帯端部：ハケ	08001694
図127-1		S-38	弥生土器	甕 （底部）	—	6.9	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：橙色 (7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ、指頭圧痕	08001816
図127-2		S-39	弥生土器	甕 （底部）	—	12.3	橙色(7.5YR6/6)	外面：粗いハケ 内面：工具ナデ	08001814
図127-3		S-39	弥生土器	甕 （底部）	—	12.6	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001815
図127-4		S-39	弥生土器	甕 （底部）	—	12.4	外：橙色 (2.5YR6/6) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：ハケ 内面：工具ナデ	08001819
図127-5		T-39	弥生土器	甕 （底部）	—	16.5	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001817
図127-6		S-39	弥生土器	甕 （底部）	—	14.0	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001818
図127-7		T-38	弥生土器	甕 （底部）	—	19.2	明黄褐色 (10YR7/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001693
図128-1		S-39	弥生土器	甕	(24.0)	11.9	外：にぶい赤褐色 (5YR5/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：粗いハケ 内面：ナデ	08001643

表62　11区包含層他出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図128-2		S-39	弥生土器	甕	26.8	11.6	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001642
図128-3		O-39	弥生土器	甕	(22.2)	14.5	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：橙色 (2.5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001619
図128-4		O-36	弥生土器	甕	(24.7)	18.0	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい赤褐色 (5YR5/4)	外面：上半 ハケ、 下半 工具ナデ 内面：ハケ	08001616
図129-1		O-36	弥生土器	甕	(23.4)	14.5	外：褐灰色 (5YR4/1) 内：黒褐色 (7.5YR3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001617
図129-2		T-36	弥生土器	甕	(19.0)	9.5	明赤褐色(5YR5/6)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001727
図129-3		Q-36 R-37 遺構検出時	弥生土器	甕	(22.2)	30.7	外：にぶい橙色 (7.5YR7/3) 内：にぶい橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001723
図129-4		Q-34 黒褐色 砂質土	弥生土器	甕	23.3	23.0	橙色(5YR7/8)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001639
図129-5		U-38・39 検出面	弥生土器	甕	19.2	28.0	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色 (7.5YR7/6)	外面：上半 ハケ、 下半 カキケズリ 内面：ハケ	08001722
図130-1		U-38	弥生土器	甕	(27.4)	10.9	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 口縁外：タタキ後 ナデ 内面：ハケ	08001621
図130-2		O-39	弥生土器	甕棺	(60.8)	65.4	橙色(7.5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001728
図130-3		T-35	土師器	甕	(14.9)	4.6	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ	08001613
図130-4		U-41	土師器	甕	(15.7)	6.1	外：灰黄色 (2.5Y6/2) 内：褐灰色 (10YR6/1)	外面：ハケ後ナデ 内面：ヘラケズリ	08001611
図130-5		P-38 掘り下げ	土師器	甕	(16.2)	4.2	浅黄橙色 (10YR8/4)	外面：ハケ後ヨコ ナデ 内面：ヘラケズリ 後ナデ	08001719
図130-6		T-38	土師器	甕	(19.2)	21.9	外：にぶい黄橙色 (10YR7/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001721
図131-1		T-36 (南西 1/4) 遺構検出面	土師器	甕	(14.4)	20.6	明赤褐色 (5YR5/6)	外面：タタキ 底部付近：ナデ 内面：ハケ	08001657

表63　11区包含層他出土土器一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図131-2		P-36 掘り下げ	土師器	甕	14.7	21.4	橙色(5YR6/6)	外面：粗いハケ 内面：ハケ	08001661
図131-3		T-40	土師器	甕 （底部）	—	3.5	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：タタキ 内面：ナデ	08001659
図131-4		T-36	土師器	甕	12.0	11.2	橙色(2.5YR6/6)	外面：タタキ後ハケ 内面：ハケ	08001658
図131-5		U-41	土師器	甕	—	13.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：タタキ 内面：工具ナデ	08001614
図131-6		Q-38 遺構面撹乱 一括	土師器	甕	—	8.8	灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：タタキ 内面：上半 ヘラケズリ、下半 ナデ	08001612
図131-7		V-41	土師器	甕	(16.5)	23.4	明黄褐色 (10YR7/6)	外面：粗いハケ後ハケ 内面：ヘラケズリ	08001783
図131-8		T-36 遺構検出面	土師器	甕	(17.0)	13.5	外：橙色 (7.5YR6/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：不明瞭 内面：ヘラケズリ	08001822
図132-1		T-36 遺構検出面	土師器	甕	(16.2)	15.6	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ハケ	08001823
図132-2		T-35	土師器	甕	(14.8)	13.5	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ハケ、工具ナデ 内面：ヘラケズリ後工具ナデ、ハケ	08001821
図132-3		R-38 玉出土横 ピット	土師器	甕	18.0	7.8	赤褐色(5YR4/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ヘラケズリ	08001780
図132-4	SX13010	検出	土師器	壺	(7.8)	7.2	外：にぶい橙色 （7.5YR6/4） 内：にぶい褐色 （7.5YR5/4）	外面：ナデ 内面：ナデ	08003788
図132-5		W-42	土師器	甕	(16.2)	12.5	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ、ハケ	08001784
図132-6		U-40-(4) 検出時	土師器	甕	(15.9)	19.9	橙色(5YR6/6)	外面：ハケ、工具ナデ 内面：ナデ	08001779
図132-7		V-37 遺構検出	土師器	甕	(17.0)	12.3	外：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：肩部 ハケ後ナデ、胴部 ハケ 内面：ヘラケズリ	08001716
図132-8		T-38	土師器	甕	(16.2)	7.7	外：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ後ナデ 内面：ヘラケズリ後ナデ	08001717

表64　11区包含層他出土土器一覧表（４）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図133-1		W-37 検出時	土師器	甕	―	17.7	橙色(7.5YR7/6)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ハケ	08001828
図133-2		U-39 検出時	土師器	甕	(13.9)	17.2	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：タタキ、ナデ 内面：工具ナデ、ヘラケズリ	08001820
図133-3		W-42 検出時	土師器	甕	(17.0)	13.6	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001786
図133-4		W-42 検出時	土師器	甕	(18.0)	19.3	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001781
図133-5		W-42 検出時	土師器	甕	(17.1)	10.0	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001782
図133-6		U-36 遺構検出	土師器	甕	(17.1)	4.3	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ、ハケ後ナデ 内面：ヘラケズリ	08001718
図133-7		S-34	土師器	甕	(21.3)	18.0	外：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ハケ、ハケ後ナデ 内面：ヘラケズリ	08001826
図133-8		T-38	土師器	甕	15.0	6.6	橙色(7.5YR6/6)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	08001824
図134-1		U-36	土師器	甕	(16.2)	22.8	浅黄色(2.5Y7/3)	外面：ハケ後一部ナデ 内面：ヘラケズリ後一部ナデ	08001720
図134-2		V-36・37 検出時	土師器	甕	15.2	20.1	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001610
図134-3		V-37 遺構検出	土師器	甕	(16.4)	11.8	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：タタキ後ハケ 内面：ヘラケズリ後ナデ	08001715
図134-4		W-42 検出時	土師器	甕	(16.7)	12.5	橙色(7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001785
図134-5		P-36 掘り下げ	土師器	甕	17.4	25.3	にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001663
図134-6		P-36 掘り下げ	土師器	甕	15.1	23.4	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外面：ハケ 底部：ナデ 内面：ヘラケズリ	08001662
図135-1		T-38	土師器	甕	(16.9)	11.9	灰白色(2.5Y8/2)	外面：ヨコナデ 内面：ヘラケズリ	08001858
図135-2		P-36 掘り下げ	土師器	甕	15.7	19.0	外：灰白色 (10YR8/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	外面：ハケ 内面：上半 ヘラケズリ、下半 ヘラケズリ後ナデ	08001609
図135-3		P-36 掘り下げ	土師器	甕	14.8	5.8	外：浅黄橙色 (10YR8/4) 内：淡黄色 (2.5Y8/3)	外面：ナデ 口縁：ヨコナデ 内面：ヘラケズリ	08001859

表65　11区包含層他出土土器一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図135-4	SD11065	W・X-36 溝5層	土師器	甕	—	10.0	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：褐灰色 (10YR5/1)	外面：ナデ、ハケ、 矢羽状文 内面：ナデ、ヘラ ケズリ	08003774
図135-5		R-34 №15 遺構検出時 T-36・37	粘土帯 土器	小型壺	8.05	12.4	外：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 黒褐色(10YR3/1) 内：灰褐色 (10YR4/1) 黄灰色(2.5Y5/1)	外面：ナデ、ハケ 後ナデ 内面：ナデ、ハケ、 ハケ後ミガキ	03001378
図135-6		V・W-36 遺構検出	弥生土器	壺	19.8	6.5	橙色(5YR6/6)	外面：ヨコナデ後 暗文 内面：ナデ	08001649
図135-7		W-42 検出時	弥生土器	壺	(20.0)	5.5	橙色(5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	08001652
図135-8		P-36 掘り下げ	弥生土器	壺	(24.2)	6.0	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ後ナデ	08001651
図135-9		P-36 掘り下げ	弥生土器	壺	(24.3)	8.0	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	08001650
図135-10		R-38 撹乱一括	弥生土器	壺	—	3.7	橙色(5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ハケ後ナデ	08001653
図136-1	SD11065	X・Y-38	弥生土器	壺	(15.3)	2.4	橙色（5YR7/6）	外面：ナデ、ハケ 後に刻目の突帯 内面：ナデ	04000038
図136-2		X・Y-37 溝清掃時	弥生土器	壺	—	2.1	外：橙色 （5YR7/6） 内：明赤褐色 （5YR5/6）	外面：ナデ、ハケ 後に刻目の突帯 内面：ナデ	04000035
図136-3		V-41 撹乱	土師器	壺	(23.4)	3.4	外：橙色(5YR7/6) 内：にぶい褐色、 一部黒褐色 (7.5YR6/3、 7.5YR3/1)	外面：ナデ、櫛描 波状文 内面：ナデ、櫛描 波状文	04000042
図136-4	SH11065	X-37・38 Y-38	土師器	壺	—	4.5	外：突帯上 にぶい 黄褐色(10YR5/4) 突帯下 赤褐色 (5YR4/8) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ナデ、円形 浮文 内面：ナデ	08003777
図136-5	ST11141	遺構検出時	土師器	壺	—	4.6	外：浅黄橙色 (10YR8/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ナデ、円形 浮文 内面：ナデ	08003778
図136-6	SD11065	X-37・38 Y-39	弥生土器	壺	—	3.3	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ナデ、円形 沈文 内面：ナデ	08003779
図136-7	ST11141	T-40・41	土師器	壺	18.9	7.2	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ後ヨコ ナデ 内面：ヨコナデ	08001857

表66　11区包含層他出土土器一覧表（6）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図136-8		W-42 検出時	土師器	壺	—	10.2	外：橙色(5YR6/4) 内：褐灰色 (10YR4/1)	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	08001622
図136-9		U-38	土師器	壺	—	3.3	外：にぶい黄橙色 （10YR7/3） 内：橙色 （5YR7/6）	外面：工具ナデ、 タタキ、ハケ 内面：ナデ	08003782
図136-10	SH11147 覆土		弥生土器	壺	—	5.2	外：明赤褐色 （5YR5/8） 内：にぶい褐色 （7.5YR5/3）	外面：ナデ、櫛描 波状文 内面：ナデ	08003786
図136-11		V-41 撹乱	弥生土器	壺	—	4.6	外：橙色 （5YR6/8） 内：黄褐色 （10YR5/8）	外面：ナデ、櫛描 波状文、平行条線 内面：ナデ	08003785
図136-12		T-38	弥生土器	壺	—	3.7	外：浅黄色 （5YR6/8） 内：黄褐色 （10YR5/6）	外面：ナデ、櫛描 波状文、刺突文、 平行条線 内面：ナデ	08003783
図136-13	SD11065	X-37・38	弥生土器	壺	—	2.4	外：灰褐色 (7.5YR5/2) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：ヨコナデ、 口縁外にハケ後に 円形浮文 内面：ヨコナデ	08003780
図136-14	SD11065	Y-38	土師器	壺	—	2.5	外：にぶい黄褐色 (10YR5/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ミガキ、刻 目の突帯 内面：ミガキ	08003776
図136-15	ST11002 周溝覆土		土師器	壺	—	3.0	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ミガキ後に 矢羽浮文 内面：ナデ	08003775
図136-16	SD11065	X-37・38 Y-38	土師器	壺	—	5.0	橙色（7.5YR7/6）	外面：ナデ、矢羽 状文後に円形浮文 内面：ナデ、波状 文、刺突文	04000040
図136-17	SD11065	Y-37	土師器	壺	—	5.0	にぶい橙色 （7.5YR6/4）	外面：ナデ、矢羽 状文後に円形浮文 内面：ナデ、ヘラ ミガキ	04000037
図136-18		T-40 遺構検出時	土師器	壺	—	4.2	外：明褐色 （7.5YR6/4） 内：黄褐色 （10YR5/6）	外面：ナデ、矢羽 状文 内面：ナデ	08003784
図136-19	ST11158	W-41 上層	土師器	高杯?	—	3.7	外：明褐色～褐灰 色（7.5YR5/6、 7.5YR4/1） 内：にぶい黄褐色 （10YR6/3）	外面：ハケ 内面：ハケ	08003781

表67　11区包含層他出土土器一覧表（7）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図137-1		T-38	土師器	壺	—	20.8	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい黄橙色(10YR6/3)	外面：ハケ、ヘラミガキ、ナデ、山形文の刻みの浮文 内面：ナデ、ハケ	08001827
図137-2		W・X-37	土師器	壺	—	32.4	外：橙色(5YR6/8)(7.5YR7/6)暗赤褐色(5YR3/6) 内：暗赤褐色(5YR3/6)にぶい黄橙色(10YR6/4)	外面：ハケ、ヘラミガキ、櫛描波状文 内面：ハケ、ハケ後ナデ 底部：ナデ	04000061
図138-1		T-39	弥生土器	壺	(18.3)	30.0	橙色(5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001830
図138-2		V-41	弥生土器	壺	(15.5)	23.4	にぶい褐色(7.5YR5/4)	外面：上半 ハケ、下半 カキケズリ 内面：ハケ	08001640
図138-3		W-42	弥生土器	壺	16.9	33.2	外：橙色(5YR6/8) 内：浅黄橙色(10YR8/4)	外面：工具ナデ 内面：ヘラケズリ	08001829
図138-4		U-41	弥生土器	壺	(13.8)	11.5	外：にぶい赤褐色(5YR5/3) 内：橙色(5YR6/6)	外面：タタキ、一部ナデ 内面：ヘラケズリ	08001607
図138-5		T-38	弥生土器	壺	17.8	12.0	外：にぶい黄橙色(10YR6/3) 内：黒褐色(10YR3/1)	外面：ハケ後ミガキ 内面：指ナデ	08001757
図139-1		V-40 検出時	弥生土器	壺	12.8	残存 19.7	外：橙色(7.5YR6/6) 内：橙色(5YR6/6)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	08001608
図139-2		P-36	弥生土器	壺	12.7	16.2	橙色(5YR6/6)	外面：タタキ後ハケ 内面：ハケ	08001660
図139-3		V-41 №8	弥生土器	壺	(20.0)	31.35	にぶい黄橙色(10YR7/4)	外面：ハケ後一部ナデ 内面：ハケ 底部：ナデ	04000062
図139-4		T-41	弥生土器	壺	15.9	15.6	にぶい黄橙色(10YR7/4)	外面：ハケ、波状文 内面：ヘラケズリ	08001758
図139-5		P-36 掘り下げ	弥生土器	壺	10.6	9.6	外：黄灰色(2.5Y4/1) 内：灰黄褐色(10YR5/2)	外面：ハケ後ナデ 内面：工具ナデ	08001603
図139-6		P-36	弥生土器	壺	12.9	12.8	外：にぶい橙色(7.5YR6/4) 内：にぶい橙色(7.5YR7/3)	外面：上半 ハケ、下半 工具ナデ 内面：上半 ハケ、下半 工具ナデ	08001602

表68　11区包含層他出土土器一覧表（8）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図139-7		O-39	弥生土器	壺	(12.2)	10.3	橙色(5YR6/8)	外面：ハケ 内面：頸部 ハケ、胴部 ハケ後ナデ	08001618
図140-1		T-36	弥生土器	短頸壺	(13.7)	17.0	明赤褐色(5YR5/6)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	08001825
図140-2		V-40 検出時	土師器	小型 広口壺	(16.9)	15.5	外：にぶい橙色 (7.5YR7/3) 内：明赤褐色 (5YR5/6)	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	08001605
図140-3		V-40 P1104	土師器	小型 丸底壺	8.6	13.6	外：黄灰色 (2.5Y6/1) 内：灰黄褐色 (10YR6/2)	外面：上半 ハケ、下半 ナデ 内面：ナデ	08001606
図140-4		S-39	土師器	小型 広口壺	12.8	13.7	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ハケ一部ナデ	08001601
図140-5		T-39	土師器	小型 広口壺	12.4	13.3	外：にぶい赤褐色 (5YR5/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ハケ、工具ナデ 内面：ハケ、ナデ	08001600
図140-6		V-40 検出時	土師器	小型 広口壺	12.6	9.2	外：橙色(5YR7/6) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	08001604
図140-7		U-40 遺構検出時 №40	土師器	小型 広口壺	(12.05)	13.2	橙色(5YR6/6)	外面：ハケ、ハケ後ナデ 内面：ハケ、工具ナデ	03000251
図140-8		T・U-38 遺構検出 №21	土師器	小型 広口壺	(12.2)	11.8	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：工具ナデ、一部ハケ 内面：ナデ	03000232
図140-9		V-40 検出面 №26	土師器	小型 広口壺	(12.1)	13.1	外：にぶい赤褐色 (5YR5/4) 内：橙色(5YR6/4)	外面：ハケ後ヘラミガキ、ハケ後工具ナデ 内面：ハケ後一部ナデ	03000237
図140-10		T-39 №41	土師器	小型 広口壺	(13.8)	12.4	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ハケ後工具ナデ	03000252
図140-11		V-40 検出面 №27	土師器	小型 広口壺	(13.0)	12.9	外：橙色 (2.5YR7/8) にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：橙色 (2.5YR6/8)	外面：ハケ後ヘラミガキ、ヘラケズリ後ヘラミガキ 内面：ナデ	03000238
図140-12		W-39 遺構検出面 №13	土師器	小型 広口壺	—	12.7	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	03000225

表69　11区包含層他出土土器一覧表（9）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図141-1		T-37 №32	土師器	壺	8.85	12.7	外：浅黄橙色 (10YR8/4) 内：浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外面：ハケ 内面：ナデ	03000243
図141-2		T-38 №19	弥生土器	小型 丸底鉢	9.9	9.9	外：橙色(5YR7/6) 内：にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ナデ	03000230
図141-3		T-39	土師器	小型 丸底鉢	(11.7)	8.1	明赤褐色(5YR5/6)	外面：カキケズリ、指押え 内面：指押え	08001699
図141-4		U-40 遺構検出時 №39	土師器	小型 丸底鉢	—	残存 8.25	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	03000250
図141-5		P-36 掘り下げ №22	土師器	小型 丸底鉢	(11.2)	6.5	外：にぶい橙色 (5YR6/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：工具ナデ、タタキ後ナデ 内面：ナデ	03000233
図141-6		T-39	土師器	小型 丸底鉢	(10.8)	5.9	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ナデ、指頭圧痕 内面：ナデ、指頭圧痕	08001707
図141-7		遺構検出面 №28	土師器	小型 丸底鉢	(10.8)	6.7	外：にぶい橙色 (5YR7/4) 内：にぶい橙色 (5YR6/4)	外面：ハケ後ヘラミガキ、工具ナデ後ヘラミガキ 内面：ナデ	03000239
図141-8		T-39 遺構検出	土師器	小型 丸底鉢	(12.8)	5.9	橙色(5YR7/6)	外面：ミガキ 内面：ナデ	08001704
図141-9		P11014 P11012	土師器	小型 丸底鉢	(9.2)	5.7	外：暗灰黄色 (2.5Y5/1) 内：暗灰黄色 (2.5Y5/2)	外面：ナデ 底部：ヘラケズリ 内面：ナデ	08001702
図141-10		S-38	土師器	小型 丸底鉢	12.2	10.0	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：橙色(5YR6/8)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001700
図141-11		X-40 検出面	土師器	小型 丸底鉢	11.2	8.3	外：橙色(5YR6/8) 内：橙色(5YR7/6)	外面：ミガキ 内面：ナデ	08001701
図141-12		V-40-1 検出面 №46	土師器	小型 丸底鉢	(11.0)	7.9	橙色(5YR6/6)	外面：ヘラミガキ 口縁内：ハケ 内面：ナデ	03000257
図141-13		T-38	土師器	小型 丸底鉢	(13.4)	7.4	明赤褐色(5YR5/6)	外面：ハケ後に工具ナデ 内面：ハケ、ナデ	08001705
図141-14		V-40 検出時	土師器	浅鉢	(16.4)	4.5	橙色(7.5YR7/6)	外面：ハケ後ミガキ 底部：ヘラケズリ 内面：ミガキ	08001703

表70　11区包含層他出土土器一覧表（10）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図141-15		T-39	土師器	小型 丸底鉢	―	4.8	橙色(7.5YR7/6)	外面：ミガキ 内面：ハケ後ナデ	08001708
図141-16		T-38	土師器	小型 広口壺	(11.4)	9.7	橙色(5YR6/8)	外面：ハケ後ミガキ 内面：ナデ	08001706
図142-1		S-35	弥生土器	浅鉢	12.5	6.4	外：黒褐色(10YR3/1) 内：にぶい黄褐色(10YR5/3)	外面：工具によるナデ 内面：ハケ後ナデ	08001844
図142-2		T-38 V-41	弥生土器	浅鉢	(8.3)	8.2	にぶい黄橙色(10YR6/4)	外面：ハケ後ヘラミガキ 内面：工具ナデ	08001835
図142-3		T-39	弥生土器	浅鉢	(10.8)	7.8	外：にぶい褐色(7.5YR5/4) 黒褐色(10YR3/1) 内：にぶい褐色(7.5YR5/4)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	08001838
図142-4		V-40	弥生土器	浅鉢	10.35	6.6	にぶい橙色(7.5YR7/4)	外面：工具によるケズリ後ナデ 内面：ナデ	03000255
図142-5		W-42	弥生土器	浅鉢	8.4	5.6	明褐色(7.5YR5/6)	外面：ハケ 内面：工具ナデ	08001837
図142-6		T-39	弥生土器	浅鉢	(13.3)	5.3	にぶい黄橙色(10YR6/4)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	08001840
図142-7		S-39	弥生土器	浅鉢	(14.2)	6.0	にぶい黄褐色(10YR4/3)	外面：工具ナデ 内面：ハケ	08001834
図142-8		T-38	土師器	浅鉢	15.4	5.8	橙色(7.5YR6/6)	外面：ケズリ 内面：ハケ	08001709
図142-9		S-39	弥生土器	浅鉢	13.2	5.2	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい黄橙色(10YR7/4)	外面：ハケ後ナデ 内面：工具ナデ	08001833
図142-10		T-38	弥生土器	浅鉢	10.5	4.5	外：にぶい黄橙色(10YR7/4) 内：にぶい黄橙色(10YR7/3)	外面：ケズリ 内面：ハケ後ナデ	08001841
図142-11		S-40 撹乱	弥生土器	浅鉢	(9.0)	4.9	にぶい黄橙色(10YR6/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001847
図142-12		W-42	弥生土器	浅鉢	10.4	5.5	外：にぶい橙色(5YR6/4) 内：にぶい橙色(5YR6/6)	外面：工具ナデ 内面：ナデ	08001836
図142-13		V-43 検出時	弥生土器	浅鉢	(9.1)	4.7	橙色(5YR6/6)	外面：ナデ 内面：指ナデ	08001846
図142-14		S-34 黒褐色 砂質 土上面	弥生土器	浅鉢	11.5	3.3	外：黒褐色(2.5Y3/1) にぶい橙色(7.5YR7/3) 内：黒褐色(2.5Y3/1)	外面：工具によるナデ 内面：工具によるナデ	08001843

表71　11区包含層他出土土器一覧表（11）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図142-15		W-42	弥生土器	浅鉢	9.7	4.8	黒褐色(7.5YR3/1)	外面：指ナデ後工具ナデ 内面：工具ナデ	08001839
図142-16	SD11053	№35	弥生土器	浅鉢	9.7	4.9	外：浅黄橙色(7.5YR8/6) 内：橙色(7.5YR7/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	03000246
図142-17		T-38	弥生土器	浅鉢	10.0	3.8	橙色(7.5YR7/6)	外面：工具ナデ 内面：ナデ	08001842
図142-18		Q-39 撹乱？	弥生土器	浅鉢	(8.6)	3.9	外：橙色(7.5YR6/6) 黒褐色(2.5Y3/1) 内：橙色(7.5YR6/6)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	08001845
図142-19		R-35 南北暗渠排水	弥生土器	浅鉢	8.8	5.6	外：橙色(5YR7/6) 内：橙色(7.5YR7/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001711
図142-20		T-34	土師器	鉢(脚付)	16.3	8.3	橙色(7.5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001831
図142-21		T-36	土師器	鉢(脚付)	(11.5)	6.9	橙色(5YR6/6)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	08001832
図142-22		V-41 №34	土師器	小型鉢	5.1	2.5	外：にぶい黄橙色(10YR6/4) 内：にぶい橙色(7.5YR6/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	03000245
図142-23		T-39	土師器	小型鉢	3.6	2.9	外：にぶい黄橙色(10YR6/4) 内：にぶい黄褐色(10YR5/3)	外面：指押え、ナデ 内面：指押え	08001714
図142-24		U-38 №4	土師器	小型鉢	5.8	3.6	外：にぶい褐色(7.5YR6/3) 内：にぶい橙色(7.5YR6/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	03000216
図142-25		T-40 遺構検出時２	土師器	小型鉢	5.0	4.0	外：黄褐色(2.5Y5/4) 内：灰色(5Y4/1)	外面：指ナデ 内面：ナデ	08001713
図143-1		U-38	弥生土器	高杯	24.9	8.9	外：にぶい黄橙色(10YR7/4) 内：にぶい黄橙色(10YR6/3)	外面：ハケ後暗文 内面：ナデ後暗文	08001848
図143-2		V-41 検出時	弥生土器	高杯	20.7	5.8	明赤褐色(5YR5/8)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ハケ（不明瞭）	08001851
図143-3		S-39	弥生土器	高杯	(18.8)	12.1	橙色(5YR6/6)	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ後ヘラミガキ	08001853
図143-4		U-41	弥生土器	高杯	(23.0)	5.1	橙色(5YR6/4)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ハケ後工具ナデ、ヘラミガキ	08001774

表72　11区包含層他出土土器一覧表（12）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図143-5		T・W-37～40 撹乱	弥生土器	高杯	(14.8)	8.7	明赤褐色 (2.5YR5/6)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラケズリ	08001854
図143-6		W・X-37 検出面	土師器	高杯	21.0	6.5	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：工具ナデ 内面：ハケ後ナデ	08001850
図143-7		W-39 X-37 検出時	土師器	高杯	—	4.0	黄橙色(7.5YR7/8)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	08001778
図143-8		V-36・37 遺構検出	土師器	高杯	17.4	5.9	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	08001852
図143-9		T-38	土師器	高杯	21.5	7.1	黄橙色(7.5YR7/6)	外面：ハケ後ナデ (不明瞭) 内面：ハケ後ナデ (不明瞭)	08001849
図143-10		W-37 検出時	土師器	高杯	(21.0)	7.4	橙色(2.5YR6/8)	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ後ナデ	08001776
図143-11		U-41 検出時	土師器	高杯	17.2	5.0	橙色(5YR6/6)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	08001773
図143-12		U-41 検出時	土師器	高杯	—	4.2	赤褐色(5YR4/6)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ	08001775
図143-13		T-39	土師器	高杯	15.8	9.35	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4) にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ヨコナデ後 ヘラミガキ 内面：工具ナデ	03000217
図143-14		V-40 遺構検出時	土師器	高杯	16.8	6.1	暗褐灰色 (7.5YR7/1)	外面：ハケ後工具 ナデ、工具ナデ 内面：ナデ	03000224
図143-15		U・V・W-40・41 検出時	弥生土器	高杯	—	11.6	橙色(7.5YR6/6)	脚～裾外面：ヘラ ミガキ 杯内：ナデ 裾内：ナデ	07001846
図143-16	SX13010	検出	土師器	高杯	—	8.8	外：橙色 （7.5YR7/6） 内：にぶい黄橙色 （10YR7/4）	外面：ヨコナデ 内面：ヨコナデ	08003787
図144-1		U-38 遺構検出 №18	弥生土器	器台	(11.0)	15.2	外：浅黄橙色 (7.5YR8/4) 内：浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外面：ハケ、ハケ 後ナデ 内面：ハケ、ナデ、 ハケ後ナデ	03000229
図144-2		V-37 遺構検出面	弥生土器	器台	—	13.5	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ後ナデ 内面：ナデ	08001864
図144-3		U-38 遺構検出 №11	弥生土器	器台	—	残存 12.65	外：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 橙色 (5YR7/7) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ハケ後ナデ、 ハケ 内面：ハケ、ナデ	03000223

表73　11区包含層他出土土器一覧表（13）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図144-4		S-39	弥生土器	器台	—	15.5	にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ 内面：工具ナデ	08001861
図144-5		周溝覆土 T-34	弥生土器	器台	—	14.5	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	03000215
図144-6		O-39	弥生土器	器台	—	10.7	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ後一部ナデ 内面：指ナデ	08001863
図144-7		T-36	弥生土器	器台	—	10.6	にぶい橙色 (7.5YR7/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001862
図144-8		S-39	弥生土器	支脚	—	10.7	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001865
図144-9		W-42 検出時	弥生土器	支脚	—	13.6	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ナデ 底部：ハケ	08001866
図144-10		S-36	弥生土器	支脚	—	13.9	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ナデ	08001867
図144-11		南北ベルト	弥生土器	支脚	—	12.7	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ナデ	08001869
図144-12		T-37	弥生土器	支脚	—	11.5	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：指ナデ 内面：指ナデ	08001870
図144-13		V-36・37 遺構検出時 №49	弥生土器	支脚	—	10.9	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	03000260
図144-14		W-42 検出時	弥生土器	支脚	—	7.8	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ナデ	08001868
図145-1		P-36 掘り下げ №31	弥生土器	支脚	—	9.2	にぶい橙色 (7.5YR7/4) (2.5YR6/4)	外面：ナデ 内面：ナデ	03000242
図145-2	ST11002 周溝覆土	S-39	弥生土器	器台	—	10.2	外：にぶい橙色 （7.5YR7/5） 内：橙色 （5YR7/6）	外面：ハケ、沈線 内面：ハケ後ナデ	09001287
図145-3	ST11067 周溝覆土	O-37	弥生土器	器台	—	9.6	外：橙色 （5YR7/6） 内：橙色～にぶい橙色（5YR7/6、5YR7/4）	外面：ハケ、沈線 内面：ハケ後ナデ	09001285
図145-4		U-38	土師器	器台	—	11.0	橙色 (5YR6/6)	外面：回転ナデ 内面：上半 工具ナデ、下半 ヘラケズリ	08001856
図145-5		P-36 掘り下げ	土師器	器台	—	11.0	浅黄橙色 (10YR8/3)	外面：ハケ後回転ナデ 内面：上半 不明瞭、下半 ヘラケズリ	08001855
図145-6		T-41	土師器	器台	(9.0)	4.3	外：浅黄橙色 (10YR8/3) 内：浅黄橙色 (10YR8/4)	外面：ヨコナデ 内面：不明瞭	08001860

表74　11区包含層他出土土器一覧表（14）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図145-7			土師器	器台	(10.4)	7.2	橙色(5YR6/6)	外面：ヘラミガキ 内面：ハケ後ナデ	08001777
図145-8	ST1114	T-40 №6	土師器	器台	9.8	9.7	外：橙色(5YR6/6) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ後工具ナデ、工具ナデ、ナデ 内面：ハケ後ナデ	03000218
図145-9		P・Q-36 遺構面撹乱	土師器	蓋	(10.3)	2.7	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001654
図146-1		T-36	土師器	甕	(17.4)	20.0	外：灰褐色 (5YR4/2) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：ハケ、工具ナデ 内面：ハケ後ナデ	08001726
図146-2		T-36	土師器	広口壺	(15.3)	6.5	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001724
図146-3		T-38	土師器	広口壺	(9.6)	10.4	外：黒褐色 (10YR3/1) 内：黒褐色 (2.5YR3/2)	外面：ハケ 内面：ケズリ	08001725
図146-4		R-34 掘り下げ	土師器	甑	19.0	22.0	橙色(2.5YR6/6)	外面：粗いハケ 内面：ケズリ	08001656
図146-5		Q・R-39 掘り下げ	土師器	甑	(18.8)	18.0	橙色(5YR6/6)	外面：粗いハケ 内面：ケズリ	08001655
図146-6		P11014	土師器	椀	(21.9)	7.7	橙色(7.5YR7/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001761
図146-7		T-39	瓦器	椀	(16.6)	6.1	外：にぶい黄色 (2.5Y6/4) 内：黒褐色 (10YR3/1)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	08001769
図146-8		S-33 堀り下げ-1	瓦器	椀	(14.8)	6.2	外：黒褐色 (7.5YR3/1) 内：褐灰色 (10YR6/1)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	08001771
図146-9	ST11158 周溝	W-41	白磁	椀	—	2.2	胎土：灰白色 (2.5Y8/1) 釉調：灰白色 (5Y7/2)	外面：施釉 内面：施釉	08001672
図147-1		Q-34 掘り下げ-1	瓦器	杯	(14.8)	5.4	浅黄色(2.5Y7/3)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	08001770
図147-2		S-39 №9	土師器	杯	15.4	3.3	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	03000221
図147-3	SD11192 覆土	№8	土師器	杯	10.15	3.1	外：にぶい橙色 (7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：回転ナデ 内面：ヨコナデ	03000220
図147-4		U-37	土師器	小皿	(10.3)	1.6	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	08001766
図147-5		S-39	土師器	小皿	(10.1)	2.0	明黄褐色 (10YR7/6)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	08001763

表75　11区包含層他出土土器一覧表（15）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図147-6		S-39	土師器	小皿	(9.2)	1.5	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ハケ後回転ナデ 内面：ナデ	08001764
図147-7		T-37	土師器	小皿	9.2	1.6	橙色(7.5YR7/6)	外面：回転ナデ 内面：ナデ	08001765
図147-8		S-39	土師器	小皿	9.5	1.1	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：ハケ後回転ナデ 内面：ナデ	08001762
図147-9		S-38	土師器	小皿	(6.3)	2.0	橙色(7.5YR7/6)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	08001767
図147-10		S-38	土師器	小皿	—	残存 1.6	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	08001768
図147-11	SD11163	S・T-39	瓦質土器	鍋	(25.3)	11.7	外：黒色(7.5YR2/1) 内：にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ 内面：ハケ	08001772
図147-12		T-38・39 遺構検出時	瓦質土器	鍋	(34.0)	16.0	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ	08001760
図147-13		Q-38・39 撹乱	染付	皿	(13.3)	2.7	胎土：灰白色 (5Y7/1) 釉調：灰白色 (5Y7/1)	外面：施釉 内面：施釉、蛇の目釉剥ぎ、コンニャク印判	08001674
図147-14	SX11001		青磁	皿	—	4.0	胎土：灰黄色 (2.5Y7/2) 釉調：黄褐色 (2.5Y5/3)	外面：施釉 内面：施釉、目跡有り	08001667
図147-15		Q-38・39 撹乱	染付	椀	(9.1)	4.8	胎土：灰白色 (5Y7/1) 釉調：灰白色 (5Y7/1)	外面：施釉 内面：施釉	08001675
図147-16	SX11232	X-42	染付	椀	—	3.9	胎土：灰白色 (2.5Y7/1) 釉調：灰白色 (2.5Y7/1)	外面：施釉 内面：施釉	08001666
図147-17	SX11232	X-42	染付	椀	—	3.3	胎土：灰白色 (5Y7/1) 釉調：灰白色(N8/)	外面：施釉 内面：施釉	08001668
図147-18	SX11232	X-42	染付	椀	—	2.1	胎土：灰白色 (7.5Y8/1) 釉調：灰白色 (10Y7/1)	外面：施釉 内面：施釉、蛇の目釉剥ぎ	08001670
図147-19	SX11232	X-42	磁器	椀	—	3.0	浅黄橙色 (2.5Y7/3)	外面：施釉 内面：施釉	08001665
図147-20	ST11002 周溝	R-37 撹乱	磁器	椀	—	2.3	胎土：浅黄橙色 (10YR8/3) 釉調：浅黄色 (2.5Y7/4)	外面：施釉 内面：施釉	08001671
図147-21	ST11002 周溝	R-37 撹乱	染付	仏飯器	—	5.4	胎土：灰白色(5Y8/1) 釉調：灰白色(2.5GY8/1)	外面：施釉 内面：施釉	08001673
図147-22	SX11232	X-42	青磁	椀	(7.3)	4.6	浅黄色(2.5Y7/3)	外面：施釉 内面：施釉	08001669

表76　12区包含層他出土土器一覧表（１）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図148-1	SD12008	N-41	弥生土器	甕	(27.0)	残存 14.0	外：にぶい橙色 (7.5YR6/４) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/４)	外面：胴上半ハケ 後ナデ、胴下半 ハケ 内面：ナデ	07003169
図148-2		西側拡張部 (北)	弥生土器	甕	(15.2)	残存 7.1	外：黄褐色 (10YR5/6) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/4)	外面：ナデ 内面：ヘラケズリ	07003206
図148-3		西側拡張部 (北)	弥生土器	甕	17.2	残存 21.8	外：にぶい橙色 (7.5YR6/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ	07003205
図148-4		S-43 撹乱	弥生土器	甕	(15.9)	残存 4.1	外：橙色 (5YR6/6) 内：橙色 (5YR6/6)	外面：タタキ 内面：工具ナデ	07003174
図148-5		R･S-40･41 撹乱	弥生土器	甕	—	残存 4.8	外：明赤褐色 (5YR5/6) 内：明赤褐色 (5YR5/6)	外面：タタキ 内面：工具ナデ	07003175
図148-6		O-42 撹乱	弥生土器	甕	—	残存 6.8	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/4)	外面：ハケ 内面：ハケ	07003178
図148-7		R･S-44 撹乱	弥生土器	甕 (底部)	—	残存 2.5	外：にぶい赤褐色 (5YR5/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ナデ 内面：ハケ	07003177
図148-8		撹乱	弥生土器	甕棺	(55.6)	残存 26.0	外：橙色 (7.5YR6/6) 内：橙色 (7.5YR6/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	07003292
図149-1		N-41 撹乱	弥生土器	壺	—	残存 6.8	外：明褐色 (7.5YR5/6) 内：明赤褐色 (5YR5/6)～にぶい 黄橙色(10YR6/3)	外面：ハケ、ナデ 内面：ミガキ	08003772
図149-2		R-42 撹乱	土師器	甕	—	残存 14.7	黄橙色 (10YR8/6)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	07003172
図149-3	SD12008	N-41	弥生土器	器台	—	残存 7.0	橙色 (7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：工具ナデ	07003170
図149-4	SD12026	O-41 上層	弥生土器	器台	—	19.8	橙色 (7.5YR7/6)	外面：工具ナデ 内面：工具ナデ、ナデ	07003293
図149-5		O-41 №2 検出面	弥生土器	支脚	—	8.0	橙色 (5YR6/6)	外面：工具ナデ 内面：ナデ	07003176
図149-6		R･S-40･41 撹乱	土師器	鉢	(11.3)	残存 9.5	にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：ハケ 内面：胴上半ケズ リ、胴下半ハケ後 ナデ	07003173

表77　12区包含層他出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図149-7		M-42 落込み	弥生土器	台付甕	—	残存 4.0	にぶい黄橙色 (10YR7/3)	脚外：ハケ後ヨコナデ後ミガキ 内面：工具ナデ	07003171
図149-8	ST12032	N-41・42 最下層	弥生土器	鉢	—	残存 3.2	黒色(N1.5/0)	外面：鋸歯文 内面：ミガキ	08003764
図149-9		P-35	土師器	皿	(6.0)	残存 1.0	黄橙色(7.5YR7/8)	外面：不明瞭 内面：不明瞭	07003208
図149-10		P-35	土師器	皿	(6.7)	1.9	黄橙色(10YR6/4)	外面：回転ナデ 底部：回転糸切り 内面：回転ナデ	07003207
図149-11		P-35	土師器	皿	—	残存 1.3	にぶい黄橙色 (10YR6/4)	外面：回転ナデ 底部：回転糸切り 内面：回転ナデ	07003209

表78　13区包含層他出土土器一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図150-1		J-48 撹乱	弥生土器	甕	—	残存 18.8	橙色(7.5YR7/6)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001563
図150-2		U・V-45 撹乱	弥生土器	壺	8.8	15.6	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：黒褐色 (10YR3/1)	外面：ハケ後工具ナデ 内面：ナデ、ケズリ	08001560
図150-3		V-46	弥生土器	壺	—	残存 13.8	外：橙色 (7.5YR7/6) 内：浅黄色 (2.5Y7/3)	外面：工具ナデ 内面：ナデ	08001018
図150-4	SJ13310	土坑中	弥生土器	壺	(10.3)	残存 10.6	外：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 内：黄褐色 (2.5Y5/3)	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	08001564
図150-5		V-44	弥生土器	壺	(17.7)	24.8	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	外面：工具ナデ、暗文、ナデ 内面：ナデ	08001559
図151-1		V-46	弥生土器	壺	22.3	残存 24.0	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ヘラミガキ、暗文 内面：ナデ、ミガキ 口：ヨコナデ後暗文	08001019
図151-2		V-45・46	弥生土器	壺	26.8	29.8	橙色(5YR6/6)	外面：暗文、ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ、ナデ	08001017
図152-1		S-44 撹乱 遺構検出	弥生土器	甕	(16.1)	残存 8.8	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	外面：タタキ 内面：ハケ	08001567
図152-2		X-47 撹乱	土師器	甕	(16.9)	残存 12.1	褐色(7.5YR4/3)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001565

表79　13区包含層他出土土器一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図152-3		W-42 遺構	土師器	甕	(14.2)	残存 16.5	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ハケ 内面：ヘラケズリ	08001561
図152-4		Z-44	土師器	甕	—	残存 3.8	外：灰黄褐色 (10YR6/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：タタキ 内面：ヘラケズリ	08001615
図152-5		X-46	弥生土器	鉢	(8.5)	残存 6.1	にぶい黄橙色 (10YR6/4) 黄灰色(2.5Y4/1)	外面：ハケ 内面：ナデ	08001568
図152-6		W-48 遺構検出	土師器	ミニチュア壺	(6.0)	6.7	外：にぶい黄橙色 (10YR6/4) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	08000816
図152-7		S-45 撹乱	弥生土器	鉢	17.8	7.0	外：黒褐色 (5YR2/1) 明赤褐色 (5YR5/6) 内：明褐色 (7.5YR5/6)	外面：ミガキ後ナデ 内面：ミガキ	08003762
図152-8		S-45 撹乱	弥生土器	鉢	—	5.0	外：黒褐色 (5Y3/1)～ 明赤褐色(5YR5/6) 内：黒褐色 (5YR3/1)～ 橙色(7.5YR6/6)	外面：沈線、貝殻文 内面：ミガキ	08003763
図152-9		V-43 遺構検出	弥生土器	鉢	12.3	8.4	外：橙色(5YR6/6) 内：黒褐色 (2.5Y3/1)	外面：ハケ 内面：ハケ	08001562
図152-10		U-47	土師器	ミニチュア鉢	3.3	4.3	明赤褐色(5YR5/6)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001575
図152-11		Z-43 遺構検出	土師器	台付鉢		残存 3.0	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	外面：ナデ 内面：ナデ	08001573
図152-12		U-49 撹乱	弥生土器	高杯	32.7	残存 7.7	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ヘラミガキ 内面：ヘラミガキ	08000815
図152-13		T・U-44 遺構検出	弥生土器	高杯	14.5	残存 3.6	明赤褐色(5YR5/8)	外面：ミガキ 内面：工具ナデ	08001569
図152-14		U-47	土師器	把手か	残存 2.1	残存 3.3	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	ハケ後ナデ	08001576
図153-1		西側 落ちがけ 2層	土師器	蓋	15.3	5.3	外：にぶい黄橙色 (10YR6/3) 内：灰黄褐色 (10YR4/2)	外面：ヘラミガキ、工具ナデ 内面：ヘラミガキ	08001553
図153-2		西側 落ちがけ S-48	土師器	蓋	14.6	4.9	外：灰黄褐色 (10YR4/2) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：工具によるミガキ 内面：ヘラミガキ	08001554

表80　13区包含層他出土土器一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図153-3		S-48	土師器	蓋	(14.6)	4.3	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい黄褐色 (10YR5/3)	外面：工具ナデ、 ヘラミガキ 内面：工具ナデ、 ヘラミガキ	08001552
図153-4		西側 落ちがけ S-48	土師器	杯	(14.1)	4.7	外：にぶい褐色 (7.5YR5/4) 内：にぶい褐色 (7.5YR5/3)	外面：工具ナデ、 ヘラミガキ 内面：工具ナデ、 ヘラミガキ	08001558
図153-5		西側 落ちがけ 2層	土師器	杯	12.8	4.1	外：褐色 (7.5YR4/4) 内：黒褐色 (10YR2/2)	外面：工具ナデ、 ヘラミガキ 内面：工具ナデ、 ヘラミガキ	08001556
図153-6		西側 落ちがけ S-48 表土	土師器	杯	12.8	4.8	外：灰黄褐色 (10YR6/2) 内：にぶい黄橙色 (10YR6/3)	外面：工具ナデ、 ヘラミガキ 内面：工具ナデ、 ヘラミガキ	08001557
図153-7		西側 落ちがけ 2層	土師器	杯	13.3	4.7	外：にぶい黄橙色 (10YR4/4) 内：褐色 (7.5Y R7/3)	外面：工具ナデ、 ヘラミガキ 内面：工具ナデ、 ヘラミガキ	08001555
図153-8		T・U-44 遺構検出	土師器	甕	(17.3)	残存 6.8	外：明赤褐色 (5YR5/6) 内：黒褐色 (5YR2/1)	外面：ナデ (不明瞭) 内面：ヘラケズリ	08001566
図153-9		V-46	黒色土器	椀	(14.4)	残存 1.8	暗灰色 (N3/0)	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ	08001572
図153-10		X-46 撹乱	土師器	皿	(16.0)	2.7	灰白色 (2.5Y8/2)	外面：回転ナデ、 ナデ 内面：回転ナデ、 ナデ	08001574
図153-11		X-46 撹乱	土師器	皿	(12.6)	残存 1.7	外：にぶい黄橙色 (10YR7/3) 内：にぶい黄橙色 (10YR7/4)	外面：ヨコナデ、 底部糸切り離し 内面：ヨコナデ	08001570
図153-12		X-42 撹乱	土師器	小皿	7.2	1.5	外：橙色(5YR6/8) 内：橙色(5YR7/8)	外面：ヨコナデ、 底部糸切り離し 内面：ヨコナデ	08001571
図153-13	SK13117 埋土中	№1	陶磁器	皿	12.7	3.6	胎土：橙色 (5YR6/6) 釉調：灰白色 (5Y7/1) 染付：灰色 (10Y5/1)	外面：施釉(貫入) 内面：施釉 底部貼り付け高台	09000523
図153-14		T-42 撹乱	染付	皿	13.0	3.8	胎土：灰白色 (5GY8/1) 釉調：明オリーブ 灰色(5GY7/1) 染付：青灰色 (10BG6/1)	外面：施釉 内面：施釉、施釉 かき取り 底部貼り付け高台	08001075

表81　13区包含層他出土土器一覧表（４）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別	器種	法量(cm)		色　　調	調整方法	登録番号
					口外径	器高			
図153-15		T-42 撹乱	染付	椀	11.6	7.6	胎土：灰白色 (10YR8/2) 釉調：灰白色 (5Y7/2) 染付：明緑灰色 (10GY3/1)	外面：施釉 内面：施釉 底部貼り付け高台	08001081
図153-16		V-47 撹乱	陶器	椀	(10.2)	7.5	胎土：淡黄色 (2.5Y8/3) 釉調：淡黄色 (2.5Y8/3)	外面：施釉 内面：施釉 底部貼り付け高台	08001076
図153-17		V-47 撹乱	陶器	皿	(10.4)	2.3	露胎：灰白色 (10YR8/2) 釉調：暗緑灰色 (5G4/1)	外面：ナデ 内面：施釉、施釉かき取り 底部貼り付け	08001078
図153-18		T-42 撹乱	染付	椀	6.0	3.9	胎土：灰黄色 (2.5Y7/2) 釉調：明緑灰色 (7.5GY8/1) 染付：青灰色 (10GY6/1)	外面：施釉、底部露胎 内面：施釉 底部貼り付け高台	08001079
図154-1		R-45 撹乱	磁器	皿	(12.6)	2.8	胎土：にぶい黄橙色(10YR7/2) 釉調外面：灰白色 (10YR8/2) 内面：にぶい黄橙色(10YR7/2) 染付：黒色 (10YR2/1)	外面：施釉 内面：施釉 底部貼り付け高台	08001077
図154-2		U-44 撹乱	染付	皿	(10.5)	2.1	胎土：灰白色 (2.5Y8/1) 釉調外面・内面： 灰白色(7.5Y8/1) 染付：暗青灰色 (10BG3/1)	外面：施釉 内面：施釉 底部貼り付け高台	08000849
図154-3		V-47 撹乱	陶器	擂鉢	33.6	13.5	露胎：にぶい赤褐色(2.5YR5/4) 釉調：暗赤灰色 (2.5YR3/1)	外面：施釉 内面：擂目	08001080
図154-4		V-46 遺構検出	陶器	甕	(23.6)	15.0	釉調：オリーブ黄色(5Y6/4) 露胎：にぶい褐色 (5YR5/3)	外面：施釉 内面：施釉	08000850

表82　11区・12区出土鉄製品一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図155-1	ST12032	O-40　土層3の中	鉄製品	有茎鏃	(9.1)	(5.3)	(0.5)	41.8		12000241
図155-2	ST12032	P-40　下層	鉄製品	有茎鏃	(5.6)	(1.7)	(0.4)	8.7		12000237
図155-3	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	有茎鏃	(6.2)	(1.8)	(0.5)	7.1		12000236
図155-4	SH12035	D3　1層下	鉄製品	有茎鏃	5.4	1.7	(0.5)	5.6		11000297
図155-5	SH12028	下層	鉄製品	有茎鏃	(4.7)	1.75	0.2	6.7		12001197
図155-6	ST12032	P-42　最下層	鉄製品	有茎鏃	(4.0)	(1.7)	(0.4)	5.1		12000239
図155-7	包含層	P-41包含層	鉄製品	有茎鏃	(6.55)	(2.55)	(0.75)	1.4		12000459
図155-8	SH12028	1層	鉄製品	有茎鏃	(6.3)	1.7	0.2	5.9	柳葉鏃	12001196
図155-9	SH12043	土層ベルト	鉄製品	有茎鏃	(4.05)	2.95	0.2	8.0	圭頭鏃	12001258
図155-10	ST12032	P-42　最下層	鉄製品	有茎鏃	(4.3)	(1.5)	(0.4)	5.3		12000235
図155-11	ST12032	O-41・42 最下層	鉄製品	有茎鏃	(4.3)	(1.4)	(0.3)	3.4		12000234
図155-12	ST12032	P42	鉄製品	有茎鏃	(4.1)	(1.3)	(0.4)	3.1		12000233
図155-13	ST12032	O-42　最下層	鉄製品	有茎鏃	(4.8)	(1.0)	(0.3)	4.3		12000232
図155-14	SH12035	埋土　上層	鉄製品	有茎鏃	(4.1)	1.2	(0.4)	4.2		11000298
図155-15	SH12035	E6　2層	鉄製品	有茎鏃	(3.2)	1.3	(0.4)	2.7		11000300
図155-16	SH12035	C4　1層下	鉄製品	有茎鏃	(3.9)	1.0	(0.4)	3.4		11000302
図155-17	SH12035	A4　1層下	鉄製品	有茎鏃	(4.1)	1.0	(0.4)	4.7		11000301
図155-18	SH12043	覆土　上層	鉄製品	有茎鏃	(3.9)	1.1	0.25	1.9	木質痕	12001257
図155-19	SH12041	上層	鉄製品	有茎鏃	(4.3)	(2.0)	(1.0)	5.6		11002009
図155-20	SX12045	2層	鉄製品	有茎鏃	(3.3)	(1.2)	0.2	2.3		12000396
図155-21	SH12027	1層	鉄製品	有茎鏃	(2.2)	1.4	0.3	1.88		12000563
図155-22	SH12035	埋土　上層	鉄製品	有茎鏃	(2.6)	1.1	(0.2)	3.5		11000303
図155-23	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	有茎鏃	(3.1)	(1.3)	(0.3)	4.7		12000238
図155-24	SK12018	上層	鉄製品	有茎鏃	(3.6)	(0.9)	0.35	1.8		12000537
図155-25	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	有茎鏃	(3.6)	(1.2)	(0.4)	3.8		12000231
図155-26	ST12032	O-40	鉄製品	有茎鏃	(3.6)	(1.0)	(0.5)	2.3		12000230
図155-27	SX12012	包含層	鉄製品	有茎鏃	(2.1)	(1.5)	(0.4)	2.0		12000102
図156-1	SK12073	南側埋土黒	鉄製品	有茎鏃	(5.8)	(1.65)	(0.55)	5.6		12000484
図156-2	SH12035	B3　2層	鉄製品	有茎鏃	(5.1) (2.4)	0.8　0.3	0.3　0.3	3.5　1.0		11000299
図156-3	SK12044	1層	鉄製品	有茎鏃	(7.0)	(2.2)	(1.15)	12.5		12000468
図156-4	ST12032	O-41　最下層	鉄製品	鏃未製品	(3.9)	(1.9)	(0.4)	10.6		12000247
図156-5	SH12036	上層	鉄製品	鏃未製品	(5.0)	1.7	0.24	5.7	圭頭鏃	12001226
図156-6	ST12032	O-42　最下層	鉄製品	鏃未製品	(3.0)	(2.4)	(1.3)	7.7		12000246
図156-7	SX12082	上層	鉄製品	鏃未製品	(4.9)	(1.6)	(0.35)	5.1		12000403
図156-8	ST12032	O-42　最下層	鉄製品	鏃未製品	(3.9)	(1.3)	(0.2)	4.4		12000245
図156-9	SX12085	P-39包含層	鉄製品	鏃未製品	(3.75)	(1.2)	(0.55)	2.6		12000093
図156-10	SX12012	2層	鉄製品	鏃未製品	(3.0)	(1.2)	(0.3)	2.1		12000099
図156-11	SX12038	2層	鉄製品	鏃未製品	(3.5)	(1.4)	(0.35)	2.4		12000345
図156-12	SX12012	1層　№23	鉄製品	鏃未製品	(2.4)	(1.1)	(0.2)	2.4		12000098
図156-13	ST11067	O-37周溝覆土	鉄製品	有茎鏃	(4.7)	(1.8)	(0.7)	7.4		11002221
図156-14	ST11067	O-37周溝覆土	鉄製品	有茎鏃	(4.1)	1.7	(0.6)	7.1		11002219
図156-15	ST11067	O-37　P-38周溝覆土	鉄製品	鏃未製品	(5.0)	(2.2)	(0.5)	11.3		11002224
図156-16	ST11067	周溝北土層上層	鉄製品	有茎鏃	(4.7)	(1.2)	(0.8)	3.4		11002299
図156-17	SH11231	覆土	鉄製品	有茎鏃？	(6.0)	(1.5)	(0.1)	8.9		11001990
図156-18	ST11067	P-37周溝覆土	鉄製品	有茎鏃	(3.8)	(1.4)	(0.6)	5.4		11002220
図156-19	SK11148	覆土	鉄製品	有茎鏃	(2.55)	(1.55)	(0.5)	2.7		11002213

表83　11区・12区出土鉄製品一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図156-20	ST11067	O-37周溝覆土	鉄製品	鏃未製品	(2.5)	(1.1)	(0.5)	3.2		11002223
図156-21	ST11141	U-40包含層	鉄製品	有茎鏃	(6.1)	(2.15)	(1.7)	18.3		11002321
図156-22	ST11067	周溝北土層上層	鉄製品	鏃未製品	(4.5)	(4.1)	(0.3)	15.0		11002226
図156-23	ST11002	S-37　周溝	鉄製品	鏃未製品	(6.3)	1.4	(0.4)	6.8	圭頭鏃	11002343
図156-24	SH11231	覆土	鉄製品	有茎鏃	(3.0)	(1.9)	(0.3)	7.8		11001988
図156-25	ST11002	周溝	鉄製品	有茎鏃？	(3.1)	(1.6)	(0.4)	5.5		11002342
図157-1	SH12043	上層	鉄製品	無茎鉄鏃	5.7	2.0	0.2～0.15	7.9		04000025
図157-2	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	無茎鉄鏃	(3.8)	(1.6)	(0.3)	3.5		12000240
図157-3	SH12035	1層下№35	鉄製品	無茎鉄鏃	3.9	2.0	(0.5)	6.4		11000296
図157-4	SH12043	覆土　上層	鉄製品	無茎鉄鏃	3.7	1.9	0.13	4.8		12001256
図157-5	SX12012	3層	鉄製品	無茎鉄鏃？	(3.5)	(2.2)	(0.2)	4.0		12000104
図157-6	SH12041	2層	鉄製品	無茎鉄鏃？	(2.7)	(2.1)	(0.3)	2.6	三角鉄片の再利用片か？	11002008
図157-7	SX12012	1層	鉄製品	無茎鉄鏃	(3.7)	(2.5)	(0.3)	2.2		12000101
図157-8	SX12012	下層	鉄製品	無茎鉄鏃	(4.2)	(2.9)	(0.5)	7.8		12000103
図157-9	SH12036	埋土	鉄製品	無茎鉄鏃	(2.35)	1.45	0.1	2.1		12001225
図157-10	SX12012	2層	鉄製品	鏃未製品	(3.2)	(2.8)	(0.6)	7.2		12000097
図157-11	SX12012	3層　№21	鉄製品	鏃未製品	(2.2)	(2.3)	(0.8)	4.9		12000100
図157-12	ST12032	O・P-42　3層	鉄製品	鏃未製品	(2.3)	(2.0)	(0.3)	3.3	木質残る	12000242
図157-13	ST12032	O-42　最下層	鉄製品	鏃未製品	(2.2)	(2.4)	(0.2)	4.7		12000243
図157-14	ST11067	O-37 周溝覆土	鉄製品	無茎鉄鏃	(2.6)	(2.5)	(0.2)	4.8		11002222
図157-15	SH11228	上包含層	鉄製品	無茎鉄鏃	3.05	2.0	(0.65)	4.1		11002193
図158-1	SH12043	土層ベルト	鉄製品	鉇・船底形鉄器	(5.15)	2.0	0.15	－		12001259
図158-2		O-43 カクラン	鉄製品	鉇	(5.45)	(2.0)	(0.95)	8.8		12000458
図158-3	ST12032	O-41・42最下層	鉄製品	鉇	(4.7)	(1.5)	0.3	6.0		12000253
図158-4	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	鉇	(4.6)	(1.1)	(0.3)	5.8		12000248
図158-5	ST12032	O-41・42最下層	鉄製品	鉇	(5.2)	(1.4)	(0.7)	18.2		12000254
図158-6	ST12032	周溝最下層	鉄製品	鉇未成品	(4.5)	(1.1)	(0.2)	4.8		12000249
図158-7	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	鉇	(3.7)	0.8	0.3	3.1		12000252
図158-8	SK12050	埋土	鉄製品	鉇	3.7	0.8	0.2	8.4		04000026
図158-9	SX12065	O-43	鉄製品	鉇	(3.4)	(1.7)	(0.2)	4.5		12000363
図158-10	ST12032	最下層	鉄製品	鉇	(3.7)	(1.3)	(0.5)	5.6		12000250
図158-11	SH12028	下層	鉄製品	鉇	(3.1)	1.55	0.27	4.4		12001198
図158-12	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	鉇	(3.6)	(1.0)	(0.2)	0.9	未製品か？先端が弧状となるため鉇の身部の可能性がある	12000258
図158-13	ST12032	最下層	鉄製品	鉇	(1.9)	(1.0)	(0.2)	1.3		12000251
図158-14	SH12027	埋土	鉄製品	鉇茎	(2.2)	0.9	0.3	1.3		12000564
図158-15	SH11279	№3	鉄製品	鉇	7.1	1.5	0.2	14.0		04000029
図158-16	SH11279		鉄製品	鉇	5.4	1.6	0.15	11.6		04000030
図159-1	ST11067	O-37　周溝覆土	鉄製品	鉇	(13.3)	(1.3)	(0.3)	15.5		11002303
図159-2	ST11067	O-38	鉄製品	鉇	(7.4)	(2.2)	(1.7)	19.3		11002240

表84　11区・12区出土鉄製品一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図159-3	ST11067	P-38　P-37周溝覆土	鉄製品	鉇	(6.5)	(1.4)	(0.3)	15.6		11002236
図159-4	ST11002	Q-39　周溝	鉄製品	鉇	(7.6)	1.1	(0.3)	13.4		11002341
図159-5	ST11141	T-40　包含層	鉄製品	鉇	(6.0)	(1.85)	(0.7)	5.3		11002319
図159-6	ST11067	O-37	鉄製品	鉇	(4.8)	(1.2)	(0.4)	3.4	弥生終末瀬戸内系	11002237
図159-7	ST11067	№38周溝覆土	鉄製品	鉇	(5.3)	(2.2)	(0.3)	8.6	未製品か？刃部表裏なし	11002235
図159-8	ST11067	O-38周溝覆土	鉄製品	鉇	(5.3)	(2.3)	(0.6)	12.6		11002239
図159-9	ST11002	Q-38　墳丘墓包含層	鉄製品	鉇	(4.0)	1.1	(0.3)	5.4		11002340
図159-10	SH11176	埋土	鉄製品	鉇	(3.7)	1.1	(0.35)	3.8		11001976
図159-11	SH11166	覆土	鉄製品	鉇	(4.1)	1.0	(0.4)	5.0		11001974
図159-12	ST11067	P-38周溝覆土	鉄製品	鉇	(3.7)	(1.1)	(0.3)	3.5		11002238
図159-13	ST11067	P-38周溝覆土	鉄製品	鉇	(3.5)	(1.7)	(0.2)	9.9		11002234
図160-1	ST11141	T-41周溝覆土	鉄製品	小刀	(4.8)	(15.4)	(2.5)	78.0		11002317
図160-2	SH12035	土坑3№60	鉄製品	刀	(10.8)	2.9	(0.9)	91.9	鋳造	11000309
図160-3	ST11141	U-39周溝覆土	鉄製品	刀？刀子？	(3.55)	(5.15)	(0.45)	12.2		11002323
図160-4	SX12009	1層	鉄製品	刀	(4.05)	(8.2)	(1.95)	103.0	鋳造	12000026
図160-5	SH12036	上層№4	鉄製品	刀	2.5	4.9	1.0	－		04000022
図160-6	SH12036	上層	鉄製品	刀子	(7.5)	2.2	0.8	－		12001223
図160-7	SB11089	覆土	鉄製品	刀子	1.2	(9.0)	0.35	14.2		11002210
図160-8	SX12033	埋土	鉄製品	刀子	(5.7)	(2.0)	(0.6)	11.4		12000394
図160-9	SH11149		鉄製品	刀子未製品	(2.0)	(10.25)	(0.5)	19.5	刃がないので未製品	11001968
図160-10	SH12027	1層	鉄製品	刀子	(4.7)	1.65	0.35	5.1		12001172
図160-11	SH12035	1層下№35	鉄製品	刀子	1.5	(8.5)	(0.9)	12.0		11000304
図160-12	SH12028	上層	鉄製品	刀子	(3.8)	(1.35)	0.4	4.2		12001199
図160-13	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄製品	刀子	1.1	(6.6)	(0.45)	7.0		12000029
図161-1	ST11067	O-39周溝覆土	鉄製品	刀子	(1.2)	(4.6)	(0.25)	8.5		11002218
図161-2	ST11141	石室中央付近	鉄製品	刀子？	(7.25)	0.9	(1.1)	8.5	刀子か？	11002322
図161-3	SK12044	覆土	鉄製品	刀子？	(1.75)	(2.7)	(0.6)	3.2		12000467
図161-4	SH11228		鉄製品	刃物、刀子？	1.3	(3.25)	(0.4)	3.0		11002195
図161-5	ST12032	P-42　最下層	鉄製品	刀子	(2.0)	1.0	0.2	4.0		12000256
図161-6	ST12032	O-40ベルト31層	鉄製品	刀子	(2.6)	(0.8)	(0.5)	2.2		12000255
図161-7	SH11228	覆土	鉄製品	刀子茎か？	(3.2)	(4.15)	(0.8)	20.9		11002194
図161-8	ST11067	P-39周溝覆土	鉄製品	刀子？	(1.3)	(2.7)	(0.3)	3.4		11002230
図161-9	ST11002	周溝	鉄製品	刃物	(4.7)	(1.7)	(0.5)	13.8		11002344
図161-10	ST11067	O-37	鉄製品	刃物	(3.4)	(1.2)	(0.3)	2.7	棒状？	11002232
図161-11	ST11067	O-37	鉄製品	刃物	(3.5)	(1.2)	(0.3)	2.8		11002231
図161-12	ST12032	N-41・42ベルト北側	鉄製品	刃物	(2.9)	(1.1)	(0.5)	3.8		12000257
図161-13	SX12012	2層	鉄製品	刃物	(2.6)	(1.0)	(0.3)	1.6	三角鉄片再利用品	12000105
図161-14	SX12012	1層	鉄製品	刃物	(1.3)	(1.4)	(0.3)	1.3	三角鉄片再利用品	12000106
図161-15	SH12035	F2　1層下	鉄製品	刀未製品	(4.8)	(2.6)	(0.3)	13.7	短剣などの未製品	11000306

表85　11区・12区出土鉄製品一覧表（4）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図161-16	ST11067	P-38周溝覆土	鉄製品	舟底状刃物	(6.2)	(3.1)	(0.5)	34.0	舟底状	11002229
図161-17	SX12046	埋土	鉄製品	舟底状鉄器	(4.8)	(2.5)	(0.9)	11.5	舟底状	12000390
図161-18	ST11002	Q-38	鉄製品	舟底状鉄器	(4.0)	2.0	(0.3)	6.7	舟底状	11002339
図161-19	SH12027	1層	鉄製品	舟底状鉄器	(3.05)	(1.1)	0.35	2.6	舟底状鉄器先端に向かって細くなる。刃部か？	12000594
図161-20	ST11067	O-37周溝覆土	鉄製品	舟底状鉄器	(2.6)	(1.8)	(0.3)	2.8	舟底状	11002233
図161-21	SX12012	1、2層 №16	鉄製品	舟底状鉄器	(3.3)	(2.8)	(1.2)	7.1	舟底状	12000118
図162-1	ST11002	R-38　墳丘墓包含層	鉄製品	穿孔具	(5.1)	0.9	(0.4)	5.2		11002336
図162-2	SX12012	2層　№23	鉄製品	穿孔具	(5.1)	(0.9)	(0.3)	2.8		12000115
図162-3	SX12012	2層　№23	鉄製品	穿孔具	(4.1)	(1.3)	(0.4)	3.7		12000111
図162-4	SH12035	B4　1層下	鉄製品	穿孔具	(3.3)	0.6	(0.4)	2.0		11000307
図162-5	SH12036	上層	鉄製品	穿孔具	(3.3)	0.85	0.22	2.0		12001235
図162-6	SH12027	埋土	鉄製品	穿孔具	(3.85)	0.9	0.25	2.2		12000595
図162-7	ST12032	P-41　最下層	鉄製品	穿孔具	(3.3)	1.1	0.3	1.2		12000267
図162-8	SX12085	埋土	鉄製品	穿孔具	(3.6)	(1.85)	(0.75)	4.2		12000094
図162-9	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	穿孔具	(4.2)	(2.0)	(0.8)	7.3		12000270
図162-10	SH12027	1層	鉄製品	穿孔具	(4.0)	1.8	0.4	4.6	先端若干ねじれる	12000578
図162-11	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄製品	穿孔具	(2.8)	(1.5)	(0.3)	3.6	切断痕	12000326
図162-12	SH12035	埋土　上層	鉄製品	穿孔具	(1.7)	(1.6)	(0.3)	1.5	穿孔具か？	11000318
図162-13	ST11067	O-37周溝覆土	鉄製品	穿孔具	(2.7)	(1.2)	(0.3)	1.9		11002227
図162-14	SX12012	下層	鉄製品	穿孔具	(3.3)	(1.4)	(0.2)	1.9		12000114
図162-15	SX12012	3層　№1	鉄製品	穿孔具	(2.0)	(0.7)	(0.3)	1.4		12000112
図162-16	SX12012	2層	鉄製品	穿孔具未製品	(2.8)	(1.6)	(0.6)	38.8		12000117
図162-17	SX12012	O-39・40 2層	鉄製品	穿孔具	(2.1)	(0.9)	(0.3～0.1)	0.5		12000110
図162-18	SX12012		鉄製品	穿孔具	(2.4)	(0.7)	(0.2)	1.4		12000109
図162-19	SH12028	上層	鉄製品	穿孔具	(5.6)	0.55	0.35	4.9		12001205
図162-20	SH12041	1層	鉄製品	穿孔具	(4.2)	0.6	0.3	2.0	木質付着	11002023
図162-21	SK12044		鉄製品	穿孔具	(3.95)	(0.9)	(0.5)	2.1		12000469
図162-22	SH12027	焼土	鉄製品	穿孔具？	4.1	0.6	0.15	1.6		12000587
図162-23	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	穿孔具	(4.5)	0.5	0.4	5.2		12000269
図162-24	SX12012	3層　№22	鉄製品	穿孔具	(3.6)	(0.5)	(0.3)	0.9		12000108
図162-25	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	穿孔具	(3.5)	0.3	0.4	2.3		12000266
図162-26	SK11214	覆土	鉄製品	穿孔具か？	(3.7)	0.7	0.25	1.9	繊維状の付着物があり着柄状況を示す可能性あり	11002216
図162-27	SH12027	埋土	鉄製品	穿孔具	(3.7)	0.6	0.32	2.3		12000593
図162-28	SH12027	埋土	鉄製品	穿孔具	(3.05)	0.55	0.3	1.2		12001166
図162-29	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄製品	穿孔具	(3.0)	(1.0)	(0.4)	1.9		12000044
図162-30	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄製品	穿孔具	(2.5)	(0.85)	(0.3)	1.2		12000030

表86　11区・12区出土鉄製品一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図162-31	ST12032	O-42　最下層	鉄製品	穿孔具	(3.1)	(1.0)	(0.4)	2.2	三角形鉄片の再利用品	12000268
図162-32	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄製品	穿孔具	(2.2)	0.5	(0.2)	0.9		12000068
図162-33	SH12027	1層	鉄製品	穿孔具	(2.8)	0.35	0.25	0.6		12000579
図162-34	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄製品	穿孔具	(2.8)	(1.2)	(0.7)	1.9		12000041
図163-1	ST11067	周溝北土層上層	鉄製品	穿孔具	(3.1)	(0.4)	(0.3)	1.0		11002228
図163-2	ST11002	Q-37周溝覆土	鉄製品	穿孔具	(3.3)	0.3	(0.3)	1.1		11002338
図163-3	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄製品	穿孔具	(2.3)	(0.95)	(1.0)	1.2		12000060
図163-4	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	穿孔具	(2.6)	0.3	0.2	0.5		12000264
図163-5	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄製品	穿孔具	(2.3)	(0.8)	(0.35)	0.7		12000049
図163-6	SX12012	3層　№1	鉄製品	穿孔具	(2.4)	(0.3)	(0.2)	0.4		12000107
図163-7	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄製品	穿孔具	(2.5)	(0.9)	(0.7)	1.2		12000059
図163-8	ST11002	Q-37周溝覆土	鉄製品	穿孔具	(2.2)	0.7	(0.5)	1.1		11002337
図163-9	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	穿孔具	(2.5)	0.4	0.3	0.4		12000265
図163-10	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄製品	穿孔具	(2.35)	(0.9)	(0.3)	0.7		12000050
図163-11	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄製品	穿孔具	(1.8)	(0.95)	(0.7)	1.0		12000065
図163-12	ST12032	O-42　最下層	鉄製品	穿孔具	(2.2)	0.3	0.2	0.4		12000271
図163-13	SX12012		鉄製品	穿孔具	(2.5)	(0.5)	(0.3)	0.9		12000113
図163-14	SH12041	SK埋土	鉄製品	針	(2.05)	0.3	0.25	0.2		11002012
図163-15	SH12041	SK埋土	鉄製品	針	(2.3)	0.4	(0.25)	0.3		11002011
図163-16	SH12041	SK埋土	鉄製品	針	(1.35)	0.3	0.25	0.2		11002013
図163-17	SH12036	上層№3	鉄製品	袋状鑿未製品？	8.0	2.15～1.5	0.4～0.5	33.3		04000023
図163-18	SH12028	上層	鉄製品	袋状鑿の袋部	3.5	1.2	0.2	5.0		04000027
図163-19	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	袋状鑿	(3.9)	(1.4)	0.4	9.5		12000260
図163-20	SH12027	埋土	鉄製品	袋状鑿形品	(3.0)	1.4	0.3	2.4	欠損するが本来は袋状を呈す	12000565
図163-21	SK12018	1層	鉄製品	鑿	(3.9)	(1.8)	0.6	6.7		12000536
図163-22	SX11158	北包含層	鉄製品	鑿	(3.75)	(1.95)	0.7	5.5		11002187
図163-23	ST11002	Q-38周溝覆土	鉄製品	鑿	(3.6)	(1.2)	(0.5)	5.0		11002345
図163-24	ST12032	O-40　最下層	鉄製品	鏨	(6.7)	(2.1)	(1.6)	30.1		12000262
図164-1	包含層	U-36	鉄製品	板状鉄斧	11.5	3.6	—	168.7		10000777
図164-2	SX12010		鉄製品	板状鉄斧	7.7	2.5	0.5	—		04000028
図164-3	包含層		鉄製品	板状鉄斧	8.2	2.8	1.6	36.7		12001432
図164-4	包含層	U-36	鉄製品	袋状鉄斧	9.3	3.9	0.6～1.0	233.1		04000019
図165-1	包含層	U-37	鉄製品	袋状鉄斧	9.0	3.8	0.4	99.9		10000778
図165-2	包含層	U-36	鉄製品	袋状鉄斧	6.6	2.5	0.4	36.6		04000020
図165-3	ST12032	P-41・42最下層	鉄製品	袋状鉄斧	(6.0)	(2.3)	(0.3)	21.1		12000261
図165-4	包含層	S-34	鉄製品	鋳造鉄斧	6.8	5.0	—	181.7		12001431
図165-5	SH12036	№10	鉄製品	鋳造鉄斧	(3.8)	9.2	1.05	99.9		12001224
図166-1	SH12035	C3　1層下	鉄製品	摘鎌	(1.9)	(9.9)	(0.3)	17.7		11000346
図166-2	ST11002	R-38　墳丘墓包含層	鉄製品	摘鎌	1.9	(3.6)	0.5	11.2		11002346

表87　11区・12区出土鉄製品一覧表（6）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図166-3	SH12035	1層下№35	鉄製品	摘鎌	1.5	2.3	(0.2)	2.3		11000308
図166-4	SH12035	土坑3№61	鉄製品	鉄鎌	(10.9)	3.4	(1.0)	65.6	鋳造・楽浪城に類例	11000310
図166-5	SH12027	埋土	鉄製品	鎌？	(3.55)	(3.65)	0.3	11.2		12001174
図166-6	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄製品	耳かき状鉄器	(3.55)	(1.0)	(0.65)	2.5		12000034
図166-7	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄製品	工具	(3.35)	0.55	(0.4)	1.3	穿孔具か	12000036
図166-8	SX12033	埋土	鉄製品	耳かき状鉄器（木工具）	(4.4)	(0.7)	(0.3)	2.7		12000395
図166-9	SK11057	覆土	鉄製品	小型工具の柄	(2.7)	(1.15)	(0.65)	2.0	木質付着、穿孔具か	11002180
図166-10	SK11174	覆土	鉄製品	小札	(1.8)	2.55	(0.35)	2.6	小札甲の部品？	11002188
図166-11	SK12034	埋土	鉄製品	釘	(6.05)	(2.6)	(0.9)	7.9		12000463
図166-12	ST11141	U-40周溝覆土	鉄製品	釘？	(5.2)	(1.7)	(1.0)	11.8		11002318
図166-13	ST11141	T-41周溝覆土	鉄製品	釘or鎹	(5.75)	(1.95)	(1.25)	22.3		11002320
図166-14	SD12049	埋土	鉄製品	釘or楔	(3.0)	(2.0)	(1.65)	13.5		12000438
図167-1	包含層	R-36	素材	鉄素材	7.2	9.6	－	355.5		04000018
図167-2	SH12036	№13	素材	鉄素材	7.5	3.95	0.3	－		12001232
図167-3	SH12027	埋土	素材	鉄素材	5.3	3.2	0.7	34.5		12001175
図167-4	SH12036	上層	素材	鉄素材	4.7	3.6	0.6	55.7		12001230
図167-5	SH12036	上層	素材	鉄素材	4.2	2.9	1.0	53.9		12001231
図167-6	SH12036	上層	素材	鉄素材	3.5	2.95	0.5	19.9		12001229
図167-7	SH12027	包含層	素材	鉄素材	(3.35)	2.75	0.68	22.4		12001177
図167-8	SH12028	1層	素材	鉄素材	(3.55)	2.55	0.95	16.0		12001208
図167-9	SK11174	覆土	素材	鉄素材？	(3.85)	(2.6)	(0.55)	7.6		11002189
図167-10	SH12027	撹乱	素材	鉄素材	3.8	2.25	0.57	－		12001178
図167-11	SH12028	下層	素材	鉄素材か？	4.0	1.9	0.9	20.4		12001220
図168-1	ST12002	P-42ベルト3の下層　№9	素材	鉄塊	(7.2)	(2.4)	(1.9)	46.6		12000334
図168-2	SK11057	№28	素材	鉄素材	(5.0)	(2.2)	(1.7)	17.8		11002178
図168-3	SK12014	埋土	素材	鉄塊	4.75	4.6	2.3	51.0		12000556
図168-4	ST11067	O-39周溝覆土	素材	鉄素材	(4.3)	(2.7)	(0.4)	9.7		11002225
図168-5	SH12027	焼土（北）	素材	鉄素材	3.4	2.7	0.57	22.1		12001181
図168-6	SX12012	2層　№17	素材	鉄塊	(3.8)	(5.5)	(1.8)	2.8		12000116
図168-7	SD12003	埋土	素材	鉄塊	(4.2)	(7.6)	(2.45)	40.7		12000404
図168-8	ST12002	Q-43ベルト1の2層	素材	鉄塊	(4.8)	(4.7)	(2.3)	36.4		12000338
図168-9	SH12035	1層下№30	素材	鉄塊	3.1	5.8	－	40.7		11000312
図168-10	SK11057	№28	素材	鉄素材	(4.0)	(4.3)	(1.3)	15.7		11002183
図168-11	SH12035	土坑2№59	素材	鉄塊	5.0	3.5	1.6	44.9		11000311
図168-12	SH12041		素材	鉄塊	2.9	5.0	1.55	28.1	鋳造	11002015
図168-13	SX11053	覆土	素材	鉄素材？	2.6	3.95	1.4	12.7	鉄塊系の素材か？	11002176

表88　12区竪穴住居出土鉄片一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図169-1	SH12027	1層	鉄片	棒状	(8.05)	1.95	0.48	23.08	厚み？	12000566
図169-2	SH12027	土坑	鉄片	棒状	(6.2)	1.55	0.75	21.4		12000569
図169-3	SH12027		鉄片	棒状	(6.2)	2.2	0.51	14.9		12000570
図169-4	SH12027	埋土	鉄片	棒状	4.7	1.6	0.6	14.8	全体に錆化著しく激しく本来の形不明	12000586
図169-5	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(5.6)	1.1	0.44	6.7	錆化著しく全体的に錆で膨れる	12000573
図169-6	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(5.5)	(1.9)	0.41	9.08		12000567
図169-7	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(3.7)	1.9	0.35	8.4		12000577
図169-8	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.35	1.8	0.7	11.1	全体に錆化著しく激しく本来の形不明	12000585
図169-9	SH12027	1層	鉄片	棒状	(3.15)	1.35	2.9	2.9		12000596
図169-10	SH12027	1層	鉄片	棒状	(3.25)	0.9	0.45	5.3		12000588
図169-11	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.9	1.55	0.5	6.3		12000583
図169-12	SH12027	1層	鉄片	棒状	(3.5)	1.7	0.35	5.08		12000575
図169-13	SH12027	2層	鉄片	棒状	(4.35)	0.95	0.35	5.0		12000598
図169-14	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(3.45)	1.0	0.44	6.3		12001164
図169-15	SH12027	1層	鉄片	棒状	(3.9)	1.25	0.45	3.98	切断痕	12000571
図169-16	SH12027	1層	鉄片	棒状	(5.3)	0.8	0.3	5.0		12000584
図169-17	SH12027	埋土	鉄片	棒状	4.8	0.8	6.0	6.0		12000599
図169-18	SH12027	1層	鉄片	棒状	(5.7)	0.86	0.44	7.7		12001165
図169-19	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.7	1.05	0.27	3.7		12000572
図169-20	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.1	0.8	0.3	1.5		12001167
図169-21	SH12027	埋土　土坑	鉄片	棒状	(4.1)	0.9	0.18	2.2		12001173
図169-22	SH12027	1層	鉄片	棒状	(3.25)	0.7	0.7	5.3		12000590
図169-23	SH12027	焼土（南）	鉄片	棒状	(4.2)	1.3	0.3	3.4	刃部の可能性もあり。鉄製品か？	12001171
図169-24	SH12027	1層	鉄片	棒状	4.0	1.5	0.15	2.2		12001170
図170-1	SH12027	1層	鉄片	棒状	(4.65)	0.9	0.42	4.9		12000597
図170-2	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(3.75)	0.8	0.7	4.68		12000574
図170-3	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(2.6)	0.47	2.2	2.2		12001168
図170-4	SH12027	1層	鉄片	棒状	(2.8)	0.6	0.3	1.6		12000600
図170-5	SH12027	1層	鉄片	棒状	(2.4)	0.53	0.38	1.4		12001163
図170-6	SH12027	D群	鉄片	棒状	(2.75)	0.63	0.25	1.2	段差は錆によるもの	12000589
図170-7	SH12027	埋土	鉄片	棒状	(3.2)	0.45	0.45	1.5	断面丸み帯びる	12000576
図170-8	SH12027	埋土　土坑	鉄片	棒状	(4.1)	0.45	0.4	1.4	断面丸み帯びる	12000580
図170-9	SH12027	1層	鉄片	棒状	(3.0)	0.25	0.2	0.4		12000591
図170-10	SH12027	1層	鉄片	棒状	(2.4)	0.43	0.32	0.5		12000582
図170-11	SH12027	1層	鉄片	棒状	(1.35)	0.38	0.25	0.5		12000592
図170-12	SH12027	1層	鉄片	棒状	(1.9)	0.38	0.2	0.3	木質残る	12000581
図170-13	SH12027	埋土	鉄片	板状	2.5	2.2	0.2	3.0		12001176
図170-14	SH12027	埋土	鉄片	板状	3.1	2.45	0.2	5.0	切断痕あり	12001182
図170-15	SH12027	1層	鉄片	板状	(3.2)	(1.8)	0.25	7.1		12001183
図170-16	SH12027	埋土	鉄片	板状	2.65	1.85	0.23	3.7		12001179

表89　12区竪穴住居出土鉄片一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図170-17	SH12027	1層	鉄片	板状	2.55	1.9	0.4	5.4		12001180
図170-18	SH12027	1層	鉄片	板状	(1.8)	1.75	0.4	3.9		12001169
図170-19	SH12027	埋土	鉄片	板状	8.2	3.0	0.9	67.0		12001184
図170-20	SH12027	1層	鉄片	三角	(4.3)	1.50	0.3	6.5		12001186
図170-21	SH12027	1層	鉄片	三角	(4.3)	(2.5)	0.7	20.1	鋳造	12001189
図170-22	SH12027	1層	鉄片	三角	3.2	1.75	0.14	2.6		12001187
図170-23	SH12027	埋土	鉄片	三角	3.15	2.0	0.2	4.0	若干上にそる	12001191
図170-24	SH12027	埋土	鉄片	三角	(2.7)	1.85	0.3	4.0		12001185
図170-25	SH12027	1層	鉄片	三角	(2.4)	(1.6)	0.15	1.3		12001190
図170-26	SH12027		鉄片	三角	2.2	1.1	0.36	1.8		12001188
図170-27	SH12027	1層	鉄片	三角	1.7	1.3	0.22	1.1		12001194
図171-1	SH12027	2層	鉄片	叉状	3.5	2.9	0.18	6.8		12001192
図171-2	SH12027	D群	鉄片	叉状	3.35	(2.25)	0.18	2.6		12000562
図171-3	SH12027	1層	鉄片	弧状	3.2	1.3	0.2	3.8		12001193
図171-4	SH12027	1層	鉄片	台形	2.45	2.6	0.2	3.4	破面の可能性あり。木質痕残る	12001195
図171-5	SH12028	1層	鉄片	棒状	(6.1)	1.25	0.38	8.5		12001204
図171-6	SH12028	1層	鉄片	棒状	(5.3)	0.7	0.36	3.6		12001202
図171-7	SH12028	埋土	鉄片	棒状	(4.1)	0.9	0.18	3.8		12001200
図171-8	SH12028	上層	鉄片	棒状	(3.0)	0.95	0.3	2.8		12001206
図171-9	SH12028	1層	鉄片	棒状	(3.2)	0.5	0.2	1.4		12001201
図171-10	SH12028	上層	鉄片	棒状	(3.55)	(1.5)	0.28	3.5		12001203
図171-11	SH12028	埋土	鉄片	棒状	(2.3)	0.65	0.18	1.5		12001207
図171-12	SH12028	下層	鉄片	棒状	(5.1)	1.2	0.2	4.8	長条形	12001210
図171-13	SH12028	上層	鉄片	板状	(2.15)	(3.1)	0.15	4.8	引きちぎったような切断痕	12001209
図171-14	SH12028	1層	鉄片	三角	4.65	1.65推定(2.0)	0.18	5.8	上方へ折れ曲がる	12001214
図171-15	SH12028	上層	鉄片	三角	(1.75)	(3.2)	0.13	3.7	両端下方に曲がり縦断面が弧状を呈す	12001213
図171-16	SH12028	1層	鉄片	三角	2.45	2.05	0.25	4.1		12001215
図171-17	SH12028	1層	鉄片	三角	2.95	2.35	0.2	6.1		12001216
図171-18	SH12028	上層	鉄片	三角	2.7	1.6	0.13	1.5		12001212
図171-19	SH12028	1層	鉄片	三角	3.8	2.0	0.28	4.6		12001218
図171-20	SH12028	上層	鉄片	三角	1.7	1.2	0.16	1.1		12001211
図171-21	SH12028	埋土	鉄片	弧状	3.1	1.3	0.25	3.1	穿孔具か	12001217
図171-22	SH12028	1層	鉄片	台形	2.0	(2.7)	0.1	2.6		12001219
図171-23	SH12028	下層	鉄片	叉状	2.5	2.2	0.1	3.6		12001221
図171-24	SH12028	上層	鉄片	不整形	2.4	0.95	0.1	1.0	切断片	12001222
図172-1	SH12035	№55	鉄片	棒状	(7.1)	1.8	(0.3)	－		11000313
図172-2	SH12035	D4　1層下	鉄片	棒状	4.2	2.8	0.9	14.9	鋳鉄	11000336
図172-3	SH12035	1層	鉄片	棒状	(3.8)	(1.4)	(0.4)	8.8		11000335
図172-4	SH12035	B5	鉄片	棒状	(2.5)	(0.5)	(0.3)	1.4		11000321
図172-5	SH12035	1層下№45	鉄片	棒状	(2.9)	(2.0)	(0.5)	3.5		11000333
図172-6	SH12035	埋土（1層）	鉄片	棒状	3.9	0.7	0.4	4.8		11000339
図172-7	SH12035	埋土	鉄片	棒状	(6.2)	0.6	(0.5)	6.5		11000314
図172-8	SH12035	1層下№33	鉄片	棒状	(5.2)	0.6	(0.3)	3.4		11000315

表90　12区竪穴住居出土鉄片一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図172-9	SH12035	B3　1層下	鉄片	棒状	(4.4)	(0.7)	(0.4)	2.6		11000328
図172-10	SH12035	埋土（1層）	鉄片	棒状	4.2	0.6	0.3	3.7		11000337
図172-11	SH12035	A3	鉄片	棒状	(3.4)	(0.7)	(0.6)	6.4		11000331
図172-12	SH12035	A3　2層	鉄片	棒状	(4.0)	(0.7)	(0.35)	3.5	2点接合	11000327
図172-13	SH12035	D6　2層	鉄片	棒状	(3.8)	0.7	(0.4)	3.2		11000316
図172-14	SH12035	埋土（上層）	鉄片	棒状	(3.0)	(1.5)	(0.5)	6.7		11000334
図172-15	SH12035	埋土（1層）	鉄片	棒状	3.8	1.1	0.6	6.9		11000338
図172-16	SH12035	A4　2層	鉄片	棒状	(3.9)	(1.3)	(0.2)	3.2		11000322
図172-17	SH12035	埋土（1層）	鉄片	棒状	(2.6)	(1.1)	(0.35)	3.5		11000330
図172-18	SH12035	1層	鉄片	棒状	(3.3)	(0.7)	(0.3)	2.3		11000325
図172-19	SH12035	A3	鉄片	棒状	(3.0)	(0.8)	(0.5)	1.5		11000319
図172-20	SH12035	埋土（1層）	鉄片	棒状	(2.5)	(0.5)	(0.3)	1.5		11000320
図172-21	SH12035	B5	鉄片	棒状	(2.9)	(1.1)	(0.3)	3.3		11000326
図172-22	SH12035	№31	鉄片	棒状	(3.0)	1.3	(0.4)	5.9		11000317
図172-23	SH12035	A5	鉄片	棒状	(2.1)	(1.1)	(0.3)	3.3		11000332
図172-24	SH12035		鉄片	棒状	(2.7)	(0.3)	(0.4)	0.9		11000329
図172-25	SH12035	B3	鉄片	棒状	(2.5)	(0.6)	(0.4)	1.5		11000324
図172-26	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	(2.2)	(0.5)	(0.2)	0.8		11000323
図173-1	SH12035	№40	鉄片	板状	(3.8)	(6.0)	(0.4)	－		11000340
図173-2	SH12035	1層下№43	鉄片	板状	(3.6)	(5.2)	(0.4)	3.1		11000342
図173-3	SH12035	1層下№57	鉄片	板状	(3.5)	(4.9)	(0.4)	9.6		11000343
図173-4	SH12035	№44	鉄片	板状	(2.2)	(5.5)	(0.7)	26.0		11000345
図173-5	SH12035	1層下	鉄片	板状	(3.0)	(4.4)	(1.9)	22.5		11000349
図173-6	SH12035	土坑3	鉄片	板状	(2.6)	(3.6)	(0.4)	－		11000344
図173-7	SH12035	C5　2層下	鉄片	板状	(2.7)	(3.4)	(0.9)	13.8		11000350
図173-8	SH12035	A3　2層上	鉄片	板状	(1.6)	(3.2)	(0.2)	5.7		11000347
図173-9	SH12035	1層	鉄片	板状	1.4	(3.0)	(0.4)	5.7	切断片 鉄片	11000305
図173-10	SH12035	C5　2層上	鉄片	板状	(3.1)	(1.7)	(0.2)	6.1		11000348
図173-11	SH12035	1層下	鉄片	板状	(2.2)	(2.1)	(0.8)	8.0		11000341
図173-12	SH12035	埋土	鉄片	三角	(3.6)	(2.9)	(1.6)	13.6		11001936
図173-13	SH12035	D3　1層下	鉄片	三角	(4.2)	(2.4)	(0.3)	3.3		11001929
図173-14	SH12035	O-42　埋土	鉄片	三角	(3.3)	(1.6)	(0.35)	3.0		11001934
図173-15	SH12035	B3　1層下	鉄片	三角	(2.7)	(2.4)	(0.2)	4.6		11001926
図173-16	SH12035	A3　2層	鉄片	三角	(2.4)	(2.6)	(0.25)	3.5		11001927
図173-17	SH12035	C4　1層下	鉄片	三角	(2.1)	(3.0)	(0.3)	6.0		11001928
図173-18	SH12035	B5　1層下	鉄片	三角	(2.2)	(1.9)	(1.2)	2.9		11001932
図173-19	SH12035	D3　1層	鉄片	三角	(2.4)	(1.2)	(0.2)	2.5		11001931
図173-20	SH12035	B3　1層下	鉄片	三角	(2.2)	(1.1)	(0.3)	1.3		11001930
図173-21	SH12035	A3　2層	鉄片	三角	(2.2)	(1.5)	(0.2)	1.7		11001933
図173-22	SH12035	A4　1層下	鉄片	三角	(0.9)	(0.7)	(0.3)	0.7		11001935
図174-1	SH12035	D3　1層	鉄片	叉状	(2.4)	(2.1)	(0.2)	(2.0)		11001937
図174-2	SH12035	B5　1層下	鉄片	弧状	(3.9)	(2.0)	(0.8)	5.4		11001938
図174-3	SH12035	B3　1層下	鉄片	弧状	(3.2)	(1.3)	(0.3)	2.1		11001939
図174-4	SH12035	1層下	鉄片	台形	(3.2)	(3.1)	(0.5)	(16.5)		11001941
図174-5	SH12035	B4　1層下	鉄片	台形	(1.2)	(2.2)	(0.5)	1.3		11001940
図174-6	SH12035	A4　1層下	鉄片	小鉄片	(1.35)	(1.4)	(0.4)	1.0		11001942
図174-7	SH12035	B4　1層下	鉄片	小鉄片	(1.1)	(1.4)	(1.1)	1.4		11001943
図174-8	SH12036	上層	鉄片	棒状	(3.8)	2.05	0.45	24.6	2点接合	12001249

表91　12区竪穴住居出土鉄片一覧表（4）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図174-9	SH12036	上層№11	鉄片	棒状	(2.0)	(5.9)	0.35	12.9		12001242
図174-10	SH12036	上層	鉄片	棒状	5.15	1.25	0.5	11.0	鋳造工具状	12001228
図174-11	SH12036	上層	鉄片	棒状	(4.65)	0.8	0.45	4.3		12001240
図174-12	SH12036	上層	鉄片	棒状	(4.15)	0.8	0.15	2.5		12001239
図174-13	SH12036	上層	鉄片	棒状	(3.1)	0.85	0.15	2.5		12001238
図174-14	SH12036	上層	鉄片	棒状	4.3	1.8	0.15	6.3		12001227
図174-15	SH12036	上層	鉄片	棒状	3.6	1.25	0.13	3.1		12001236
図174-16	SH12036	上層	鉄片	棒状	(4.0)	2.0	0.45	14.6	鉄製品の未製品か？	12001241
図174-17	SH12036	埋土	鉄片	棒状	3.15	0.95	0.15	2.2		12001237
図174-18	SH12036	上層	鉄片	棒状	(3.35)	(2.15)	0.35	6.4		12001234
図174-19	SH12036	上層	鉄片	板状	(3.6)	1.1	0.1	0.7		12001247
図174-20	SH12036	上層	鉄片	板状	3.85	2.95	0.38	11.7		12001248
図174-21	SH12036	埋土	鉄片	板状	4.1	1.55	0.25	7.2		12001250
図174-22	SH12036	上層	鉄片	板状	2.35	1.65	0.12	3.2		12001245
図174-23	SH12036	上層	鉄片	板状	2.0	1.55	0.15	2.1		12001244
図174-24	SH12036	上層	鉄片	板状	(2.05)	0.9	0.13	1.1		12001243
図175-1	SH12036	上層	鉄片	三角	2.15	1.9	0.18	2.7		12001251
図175-2	SH12036	上層	鉄片	叉状	(2.8)	(1.75)	0.16	2.4		12001253
図175-3	SH12036	上層	鉄片	叉状	(2.45)	2.75	0.18	5.8		12001252
図175-4	SH12036	上層	鉄片	弧状	2.4	1.65	0.14	1.9		12001254
図175-5	SH12036	上層	鉄片	台形	1.6	2.8	0.12	2.5		12001246
図175-6	SH12036	上層	鉄片	台形	1.7	2.1	0.2	5.4		12001255
図175-7	SH12036	上層	鉄片	不整形	2.5	1.3	0.15	2.4	不整形（三角？）	12001233
図175-8	SH12041	№1黒褐色砂質土	鉄片	棒状	(7.45)	(2.8)	(1.45)	22.1		11002152
図175-9	SH12041	上層	鉄片	棒状	(5.1)	(2.1)	(1.05)	18.2		11002014
図175-10	SH12041	SK埋土	鉄片	棒状	(4.9)	(1.6)	(0.5)	4.8		11002020
図175-11	SH12041	1層	鉄片	棒状	(4.0)	1.6	0.45	4.4	未製品	11002016
図175-12	SH12041	1層	鉄片	棒状	(4.05)	(1.45)	0.75	3.1		11002017
図175-13	SH12041	1層	鉄片	棒状	(4.85)	0.7	0.35	0.7		11002024
図175-14	SH12041	上層	鉄片	棒状	(4.1)	1.5	(0.75)	3.9	折り返し、裁断片	11002025
図175-15	SH12041	上層	鉄片	棒状	(3.5)	1.4	0.35	1.9	裁断片	11002010
図175-16	SH12041	1層	鉄片	棒状	(3.4)	0.5	(0.45)	0.7	折り返し、穿孔具	11002151
図175-17	SH12041	SK埋土	鉄片	棒状	(2.45)	(0.75)	(0.6)	0.8		11002018
図175-18	SH12041	1層	鉄片	棒状	(2.9)	(0.6)	(0.35)	0.6		11002021
図175-19	SH12041	1層	鉄片	棒状	(2.55)	(0.55)	(0.25)	0.6		11002019
図175-20	SH12041	1層	鉄片	棒状	(2.2)	(0.45)	(0.4)	0.3		11002022
図175-21	SH12041	2層№2	鉄片	板状	(4.75)	(8.0)	(1.25)	—		11002153
図175-22	SH12041	上層	鉄片	板状	(4.2)	(6.9)	(0.8)	—		11002154
図175-23	SH12041	1層	鉄片	板状	(3.2)	(4.85)	(1.2)	26.2		11002156
図176-1	SH12041	1層	鉄片	板状	(3.35)	(4.15)	(0.5)	9.5	切断痕あり。鑿と折曲繰り返し併用	11002157
図176-2	SH12041	上層	鉄片	板状	(3.0)	(2.95)	(0.6)	4.1	裁断片	11002007
図176-3	SH12041		鉄片	板状	(2.4)	(2.6)	(0.4)	2.7		11002155
図176-4	SH12041	上層	鉄片	板状	(2.2)	(2.9)	(0.75)	4.4		11002158
図176-5	SH12041	1層	鉄片	板状	(1.3)	(2.3)	(0.5)	1.9	切断片	11002159

表92　12区竪穴住居出土鉄片一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図176-6	SH12041	1層	鉄片	三角	(1.9)	(2.15)	(0.6)	1.0		11002161
図176-7	SH12041	1層	鉄片	三角	(2.1)	(1.35)	(0.5)	1.0		11002162
図176-8	SH12041	3層	鉄片	三角	(2.1)	(1.45)	(0.55)	1.3		11002165
図176-9	SH12041	1層	鉄片	三角	(1.7)	(1.4)	(0.25)	0.6		11002167
図176-10	SH12041	下層	鉄片	三角	(1.6)	(1.55)	(0.55)	0.9		11002164
図176-11	SH12041	1層	鉄片	三角	(1.6)	(1.0)	(0..3)	0.8		11002163
図176-12	SH12041	1層	鉄片	三角	(1.7)	(1.0)	(0.55)	0.6		11002166
図176-13	SH12041	2層	鉄片	三角	(1.5)	(0.8)	(0.4)	0.4		11002160
図176-14	SH12041	1層	鉄片	弧状	(2.2)	(1.45)	(0.25)	1.2		11002168
図176-15	SH12043	埋土	鉄片	棒状	(8.7)	(1.8)	0.35	70.3		12001276
図176-16	SH12043	1層	鉄片	棒状	(5.4)	2.05	1.2	75.0		12001260
図176-17	SH12043	埋土	鉄片	棒状	(5.0)	(1.0)	0.45	25.5	推定幅1.1cm	12001275
図176-18	SH12043	上層	鉄片	棒状	(4.1)	1.1	0.25	5.4		12001270
図176-19	SH12043	1層	鉄片	棒状	(4.45)	0.55	0.3	2.3		12001273
図176-20	SH12043	1層	鉄片	棒状	3.5	0.9	0.3	4.2	穿孔具か？	12001272
図176-21	SH12043	1層	鉄片	棒状	(3.7)	0.8	0.3	2.7		12001269
図177-1	SH12043	埋土	鉄片	棒状	(3.6)	1.4	0.37	10.4		12001274
図177-2	SH12043	上層	鉄片	棒状	3.6	1.05	0.25	3.3		12001264
図177-3	SH12043	1層	鉄片	棒状	(3.3)	1.2	0.4	4.5		12001265
図177-4	SH12043	上層	鉄片	棒状	(3.1)	0.7	0.35	3.1		12001266
図177-5	SH12043	土層ベルト	鉄片	棒状	(3.05)	0.6	0.38	2.7		12001268
図177-6	SH12043	上層	鉄片	棒状	(2.8)	0.9	0.4	2.0		12001263
図177-7	SH12043	埋土	鉄片	棒状	2.95	0.95	0.37	2.1		12001267
図177-8	SH12043	1層	鉄片	棒状	(2.7)	0.4	0.17	0.8		12001262
図177-9	SH12043	土層ベルト	鉄片	棒状	(2.1)	0.4	0.1	0.6		12001261
図177-10	SH12043	下層	鉄片	板状	(4.1)	(2.65)	0.22	8.0		12001284
図177-11	SH12043	下層	鉄片	板状	(4.1)	1.8	0.12	7.7		12001283
図177-12	SH12043	上層	鉄片	板状	(3.5)	1.8	0.15	2.9	木質付着物	04000024
図177-13	SH12043	下層	鉄片	板状	3.0	1.55	0.3	9.2		12001288
図177-14	SH12043	1層	鉄片	板状	3.3	1.9	0.15	6.2		12001285
図177-15	SH12043	1層	鉄片	板状	(3.5)	(2.35)	0.06	3.8		12001287
図177-16	SH12043	下層	鉄片	板状	2.5	2.2	0.22	8.8		12001286
図177-17	SH12043	上層	鉄片	板状	2.45	1.35	0.15	2.1	切断痕	12001277
図177-18	SH12043	1層	鉄片	板状	1.95	1.8	0.13	2.2		12001281
図177-19	SH12043	上層	鉄片	板状	1.55	1.75	0.25	6.7		12001279
図177-20	SH12043	上層	鉄片	板状	(1.9)	1.3	0.2	2.1		12001282
図177-21	SH12043	1層	鉄片	三角	2.45	2.9	0.12	7.1		12001291
図177-22	SH12043	1層	鉄片	三角	3.5	1.55	0.22	8.3		12001271
図177-23	SH12043	土層ベルト	鉄片	三角	(2.2)	1.4	0.1	1.6		12001290
図177-24	SH12043	土層ベルト	鉄片	三角	1.7	1.2	0.1	1.4		12001289
図177-25	SH12043	1層	鉄片	叉状	3.0	3.35	0.1	8.9		12001293
図177-26	SH12043	土層ベルト	鉄片	叉状	3.0	2.25	0.15	5.3	無茎鉄鏃未製品の可能性	12001292
図177-27	SH12043	上層	鉄片	叉状	1.75	(2.4)	0.08	1.8	切断痕、折曲状、切断面あり	12001295
図177-28	SH12043	上層	鉄片	叉状	2.0	2.4	0.1	2.8		12001294
図177-29	SH12043	埋土	鉄片	台形	1.9	2.45	0.05	1.4		12001280
図177-30	SH12043	上層	鉄片	台形	(1.9)	1.85	0.15	5.2		12001278

表93　12区竪穴住居出土鉄片一覧表（6）

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図177-31	SH12043	埋土	鉄片	台形	1.9	1.8	0.1	3.0		12001296
図178-1	SH12052	3層東西ベルト	鉄片	三角	(2.7)	(1.55)	(0.3)	1.5		11002169
図178-2	SH12067	埋土北側	鉄片	棒状	(6.4)	(1.95)	(0.9)	1.49	小型工具の可能性あり	11002172
図178-3	SH12067	埋土	鉄片	棒状	(3.2)	(1.7)	(1.65)	9.3		11002173
図178-4	SH12067	埋土北側	鉄片	棒状	(2.8)	(1.45)	(0.55)	2.6		11002171
図178-5	SH12067	埋土北側	鉄片	棒状	(3.1)	(1.25)	(0.25)	1.7	折り返し	11002170
図178-6	SH12067	埋土北側	鉄片	板状	(1.65)	(2.5)	(0.75)	3.3		11002174
図178-7	SH12067	埋土	鉄片	三角	(4.7)	(1.7)	(0.45)	2.9		11002175

表94　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（1）

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図179-1	SX12010	1層	鉄片	棒状	(5.2)	(5.5)	(1.3)	67.3		12000384
図179-2	SK12018	2層	鉄片	棒状	(8.7)	(2.0)	(0.5)	35.2		12000535
図179-3	SX12009	1層	鉄片	棒状	(7.3)	(3.2)	(1.6)	47.8		12000027
図179-4	SX12065	埋土	鉄片	棒状	(6.8)	(3.0)	(0.9)	22.1		12000369
図179-5	SX12065	O-42 埋土上層№3	鉄片	棒状	(7.2)	(2.2)	1.0	20.5		12000370
図179-6	SK12018	№19　2層	鉄片	棒状	(7.5)	(2.5)	(0.3)	10.9		12000538
図179-7	SX12012		鉄片	棒状	(6.8)	(1.5)	(0.4)	12.7		12000161
図179-8	SX12012	2層 №23	鉄片	棒状	(6.9)	(1.0)	(0.8)	10.8		12000165
図179-9	ST12032	N-42 最下層	鉄片	棒状	(8.6)	(2.3)	(2.0)	47.1		12000290
図179-10	SK12018	1層	鉄片	棒状	(9.0)	(1.3)	(0.3)	7.2		12000539
図179-11	SK12089	1・2層	鉄片	棒状	(5.95)	(2.1)	(0.35)	24.9	切断片	12000492
図179-12	SD12026	埋土	鉄片	棒状	(6.45)	(1.6)	(0.65)	9.0		12000419
図179-13	SX12010	2層	鉄片	棒状	(5.5)	(0.8)	(0.4)	2.7		12000382
図179-14	SX12065		鉄片	棒状	(5.1)	(5.7)	(0.6)	53.2		12000371
図180-1	ST12032	O・P-42 下層	鉄片	棒状	(5.4)	(1.7)	(0.7)	14.8		12000285
図180-2	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(4.6)	(1.6)	(0.9)	13.4		12000287
図180-3	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(4.7)	(1.4)	(0.4)	8.9		12000277
図180-4	SX12012	3層	鉄片	棒状	(4.3)	(2.1)	(0.6)	8.9		12000158
図180-5	ST12032	O-42 最下層 №23	鉄片	棒状	(5.4)	(2.2)	(0.7)	14.3		12000288
図180-6	ST12032	O-42 最下層	鉄片	棒状	(5.1)	(1.1)	(0.4)	6.7		12000281
図180-7	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄片	棒状	(4.4)	(1.2)	(1.0)	3.4		12000031
図180-8	SX12012	3層	鉄片	棒状	(5.4)	(0.8)	(0.4)	5.0		12000155
図180-9	SK12083	N-44暗褐色砂質土	鉄片	棒状	(4.4)	(1.6)	(1.4)	6.4		12000489
図180-10	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(4.8)	(1.1)	(0.4)	6.5		12000275
図180-11	SK12014	埋土下部	鉄片	棒状	4.3	1.8	1.0	6.9		12000557
図180-12	SX12012	1層	鉄片	棒状	(4.7)	(1.7)	(?)	6.2		12000136
図180-13	SX12012		鉄片	棒状	(4.3)	(1.8)	(0.4)	7.6		12000119
図180-14	SX12010	1層	鉄片	棒状	(4.8)	(1.6)	(1.0)	8.0		12000381
図180-15	SK12091	南側	鉄片	棒状	(4.7)	(2.35)	(2.1)	19.6		12000446

表95　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図181-1	SX12065	埋土	鉄片	棒状	(4.6)	(2.3)	0.5	6.5		12000367
図181-2	SK12030	埋土	鉄片	棒状	(5.1)	(2.8)	(1.05)	24.9	工具か？鎚?	12000462
図181-3	ST12002	P-42ベルト3の下層	鉄片	棒状	(5.2)	(2.1)	(0.6)	9.2		12000333
図181-4	SX12081	埋土(下部・SK下)	鉄片	棒状	(4.6)	(1.6)	(1.0)	9.7		12000038
図181-5	SK12024	2層	鉄片	棒状	(4.3)	(2.15)	(0.7)	10.2		12000460
図181-6	SK12089	1・2層	鉄片	棒状	(3.9)	(2.05)	(0.45)	4.4		12000491
図181-7	SD12026		鉄片	棒状	(4.85)	(2.2)	(1.55)	14.9		12000418
図181-8	SX12012	3層	鉄片	棒状	(4.7)	(1.0)	(0.4)	4.7		12000152
図181-9	ST12032	O-41・42ベルト南周溝中～下層	鉄片	棒状	(4.0)	(3.4)	(0.5)	22.3		12000289
図181-10	SX12012	№17　2層	鉄片	棒状	(4.1)	(1.0)	(0.3)	4.0		12000131
図181-11	SX12012	3層	鉄片	棒状	(4.0)	(1.5)	(0.4)	5.0		12000153
図181-12	SX12012		鉄片	棒状	(4.0)	(1.0)	(0.4)	5.2		12000173
図181-13	SX12012		鉄片	棒状	(3.8)	(1.0)	(0.3)	5.7		12000172
図181-14	SX12038	1層	鉄片	棒状	(4.4)	(1.8)	0.4	5.9		12000349
図181-15	SK12091	南側	鉄片	棒状	(4.15)	(1.8)	(0.6)	5.3		12000447
図181-16	SX12065	埋土	鉄片	棒状	(3.8)	(2.3)	(1.0)	10.6		12000368
図181-17	SK12044	下層	鉄片	棒状	(4.6)	(3.15)	(0.75)	11.1		12000473
図181-18	SK12091	南側	鉄片	棒状	(4.35)	0.6	(0.5)	1.7		12000448
図181-19	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	棒状	(4.4)	(0.4)	(0.4)	3.7		12000331
図181-20	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(4.1)	0.6	(0.5)	1.9		12000035
図181-21	SX12038	1層	鉄片	棒状	(4.0)	0.6	(0.5)	3.9		12000351
図181-22	SK12073	SK埋土　黒	鉄片	棒状	(3.9)	(1.7)	(1.1)	3.8		12000487
図182-1	ST12032	O-40　最下層	鉄片	棒状	(3.9)	(1.4)	(0.3)	3.3		12000278
図182-2	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(3.75)	(2.0)	(1.4)	6.2		12000052
図182-3	SK12050	埋土	鉄片	棒状	(3.7)	(1.9)	(1.1)	5.3		12000530
図182-4	ST12032	O-42　最下層	鉄片	棒状	(3.8)	(1.3)	(0.4)	6.1		12000279
図182-5	ST12002	P-42ベルト3の下層	鉄片	棒状	(3.8)	(2.3)	(0.4)	6.4		12000332
図182-6	SK12050	埋土	鉄片	棒状+叉状	(3.7)	(2.4)	(1.1)	12.2		12000532
図182-7	SX12012	3層	鉄片	棒状	(3.6)	(1.4)	(0.4)	4.8		12000130
図182-8	SX12012	1層	鉄片	棒状	(3.7)	(0.9)	(0.8)	4.7		12000154
図182-9	SX12012	3層	鉄片	棒状	(3.7)	(1.4)	(0.3)	1.8		12000134
図182-10	SD12026		鉄片	棒状	(3.75)	(2.4)	(1.2)	15.7	茎状	12000416
図182-11	SK12044	1層	鉄片	棒状	(3.65)	(1.45)	(0.7)	3.3		12000475
図182-12	SX12012	3層	鉄片	棒状	(3.6)	(1.1)	(0.4)	3.2		12000141
図182-13	SX12081	土層2の1層	鉄片	棒状	(3.7)	(1.55)	(0.45)	3.9		12000040
図182-14	SX12012	2層№17	鉄片	棒状	(3.7)	(0.7)	(0.5)	3.5		12000171
図182-15	SX12065	埋土	鉄片	棒状	(3.8)	(1.0)	(0.2)	3.0		12000365
図182-16	SD12006	埋土	鉄片	棒状	(3.5)	(1.3)	(4.0)	2.2	切断片	12000406
図182-17	SK12050	埋土	鉄片	棒状	(3.3)	(1.55)	(0.6)	3.7		12000529
図182-18	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.6)	(0.6)	(0.7)	3.8		12000160
図182-19	SX12012	N-39	鉄片	棒状	(3.8)	(0.7)	(0.5)	2.8		12000140
図182-20	SX12012	3層	鉄片	棒状	(3.6)	(0.55)	(0.2)	1.4		12000133

表96　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図182-21	SK12091	南側	鉄片	棒状	(3.55)	0.6	(0.3)	1.3		12000449
図182-22	SK12091	北側カクラン	鉄片	棒状	(3.65)	(1.6)	(0.4)	1.8		12000445
図182-23	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄片	棒状	(3.7)	(1.15)	(0.35)	1.4		12000032
図182-24	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.6)	(1.1)	(0.3)	2.3		12000120
図183-1	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(3.4)	(1.8)	(0.5)	7.5		12000286
図183-2	ST12032	P-40 下層	鉄片	棒状	(2.5)	(2.8)	(0.9)	11.1		12000283
図183-3	SX12065	O-42 埋土下部	鉄片	棒状	(3.5)	(1.9)	0.3	5.5		12000364
図183-4	SX12012	3層	鉄片	棒状	(3.2)	(1.4)	(0.7)	5.5		12000162
図183-5	SX12012	N-39　1層	鉄片	棒状	(3.1)	(1.5)	(0.4)	2.6		12000125
図183-6	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.0)	(0.7)	(1.0)	4.5		12000159
図183-7	SX12012	2層　№23	鉄片	棒状	(3.4)	(1.2)	(0.3)	2.5		12000138
図183-8	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.5)	(1.1)	(0.9)	5.9		12000168
図183-9	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(3.5)	(1.4)	(0.85)	4.4		12000051
図183-10	SX12012	2層　№23	鉄片	棒状	(3.3)	(0.9)	(0.4)	1.3		12000164
図183-11	SX12065	埋土	鉄片	棒状	(3.3)	(1.6)	(0.6)	3.8		12000366
図183-12	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(3.2)	(1.2)	(0.5)	2.7		12000280
図183-13	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(3.2)	(0.7)	(0.5)	4.9		12000282
図183-14	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	棒状	(3.1)	(1.25)	(1.0)	2.9		12000042
図183-15	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(3.0)	(1.0)	(0.5)	2.5		12000273
図183-16	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(3.3)	(1.0)	(0.2)	2.1		12000274
図183-17	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.3)	(0.7)	(0.6)	3.0		12000135
図183-18	SX12012	P-39・40 2層	鉄片	棒状	(3.0)	(0.4)	(0.5)	2.1		12000124
図183-19	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(3.1)	(1.4)	(0.75)	2.6		12000045
図183-20	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.2)	(0.5)	(0.3)	2.1		12000128
図183-21	SK12040	1層	鉄片	棒状	(3.4)	(1.25)	(1.2)	3.3		12000464
図183-22	SD12008	2層	鉄片	棒状	3.25	1.85	0.8	3.9		12000555
図183-23	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(3.2)	(1.1)	(0.5)	5.0		12000276
図183-24	SX12012	1層	鉄片	棒状	(3.1)	(0.9)	(0.5)	2.6		12000145
図183-25	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.0)	(1.1)	(0.6)	5.5		12000167
図183-26	SK12050	埋土	鉄片	棒状	(3.1)	(1.4)	(0.5)	3.8		12000531
図183-27	SK12091	南側	鉄片	棒状	(2.95)	(1.35)	(0.35)	1.7		12000451
図183-28	SX12081	O-39　3-5層(ベルト1)	鉄片	棒状	(2.8)	1.0	(0.35)	1.9		12000043
図183-29	SD12026	埋土	鉄片	棒状	(2.95)	(1.8)	(0.95)	6.2		12000415
図183-30	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.1)	(1.1)	(0.6)	2.4		12000148
図184-1	SX12012	2層　№17	鉄片	棒状	(2.8)	(1.3)	(0.5)	3.3		12000170
図184-2	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(2.7)	0.9	0.2	1.8		12000046
図184-3	SX12012	1層	鉄片	棒状	(2.8)	(0.8)	(0.3)	1.7		12000122
図184-4	SX12012	3層	鉄片	棒状	(3.3)	(0.6)	(0.3)	1.7		12000146
図184-5	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.7)	(0.8)	(0.5)	3.2		12000169
図184-6	ST12002	P-43　2層	鉄片	棒状	(2.7)	(0.7)	(0.6)	2.2		12000328
図184-7	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄片	棒状	(2.9)	(1.55)	(0.6)	2.5		12000039
図184-8	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.8)	(0.6)	(0.3)	1.1		12000129

表97　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（４）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図184-9	ST12032	O-40　最下層	鉄片	棒状	(2.9)	(0.6)	(0.3)	1.2		12000272
図184-10	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.9)	(1.1)	(0.45)	1.4		12000053
図184-11	SD12066	埋土	鉄片	棒状	(2.6)	(1.0)	(0.35)	1.2		12000439
図184-12	SX12061	R-44　2層	鉄片	棒状	(3.3)	(0.4)	(0.4)	2.2		12000400
図184-13	SX12012	1層	鉄片	棒状	(2.7)	(0.5)	(0.4)	0.9		12000142
図184-14	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	棒状	(2.8)	(1.7)	(0.6)	2.9		12000329
図184-15	SK12073	埋土	鉄片	棒状	(2.95)	(0.7)	(0.45)	0.7		12000485
図184-16	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.7)	0.4	(0.5)	0.8		12000037
図184-17	SD12066	埋土	鉄片	棒状	(2.7)	(1.45)	(0.6)	1.6		12000440
図184-18	SX12038	2層	鉄片	棒状	(2.9)	(0.7)	0.5	2.1		12000350
図184-19	SX12012	2層	鉄片	棒状	(3.5)	(0.3)	(0.2)	0.9		12000132
図184-20	SK12044	1層	鉄片	棒状	(2.2)	(0.9)	(0.4)	1.2		12000474
図184-21	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.2)	(0.8)	0.4	2.1		12000069
図184-22	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.4)	(0.8)	(0.3)	2.0		12000166
図184-23	SX12038	2層	鉄片	棒状	(2.2)	(0.7)	(0.9)	1.4		12000353
図184-24	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	棒状	(2.4)	(1.7)	(0.9)	2.4		12000174
図184-25	SX12038	2層	鉄片	棒状	(2.4)	(1.6)	0.3	1.2		12000347
図184-26	SX12038	2層	鉄片	棒状	(2.3)	(1.6)	(0.9)	2.5		12000348
図184-27	SX12012		鉄片	棒状	(2.3)	(0.9)	(0.3)	1.2		12000143
図184-28	SX12012	3層　№6	鉄片	棒状	(2.3)	(0.9)	(0.4)	1.8		12000163
図184-29	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(2.4)	0.6	(0.4)	1.2		12000047
図184-30	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.3)	(0.6)	(0.5)	1.2		12000127
図184-31	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.3)	(0.85)	(0.3)	0.9		12000054
図184-32	SX12057	S-41　3層	鉄片	棒状	(2.5)	(0.5)	(0.4)	0.8		12000397
図184-33	SX12038	2層	鉄片	棒状	(2.4)	(0.7)	(0.4)	0.3		12000354
図184-34	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	棒状	(2.4)	(1.2)	(0.3)	1.3		12000137
図184-35	SD12066	埋土	鉄片	棒状	(2.4)	(1.1)	(0.35)	1.1		12000441
図185-1	SK12091	北側	鉄片	棒状	(2.6)	(2.3)	(1.3)	4.3		12000452
図185-2	SK12044	埋土	鉄片	棒状	(2.9)	(2.55)	(0.6)	4.8		12000470
図185-3	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.7)	(1.6)	(0.9)	5.2		12000547
図185-4	SK12044	覆土	鉄片	棒状 未製品	(1.8)	(2.3)	(0.3)	1.4	（穿孔具）夏栗遺跡類例あり	12000477
図185-5	SD12022	下層	鉄片	棒状	(1.55)	(1.85)	(1.55)	3.8	切断片	12000413
図185-6	ST12032	O-40　最下層	鉄片	棒状	—	—	—	0.8		12000291
図185-7	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.3)	(1.4)	(0.5)	1.5		12000070
図185-8	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(2.2)	(1.45)	(0.95)	2.7		12000061
図185-9	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	棒状	(1.3)	(1.3)	(0.3)	1.3		12000330

表98　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（5）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図185-10	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.4)	(0.5)	(0.3)	1.1		12000139
図185-11	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	棒状	(2.2)	(0.7)	(0.3)	2.5		12000147
図185-12	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.2)	(1.0)	(0.3)	1.9		12000150
図185-13	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.2)	(1.2)	(0.5)	4.2		12000149
図185-14	SK12073	埋土	鉄片	棒状	(2.15)	(0.75)	(0.3)	1.0		12000486
図185-15	SK12091	南側	鉄片	棒状	(2.2)	0.6	(0.35)	1.0		12000450
図185-16	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(2.1)	0.65	0.3	0.8		12000072
図185-17	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(2.05)	(0.95)	(0.35)	0.6		12000063
図185-18	SX12012	下層	鉄片	棒状	(1.6)	(0.6)	(0.2)	0.9		12000151
図185-19	SD12031	埋土	鉄片	棒状	(2.25)	(1.2)	(0.3)	1.0		12000435
図185-20	SX12012	2層	鉄片	棒状	(2.0)	(0.9)	(0.4)	1.3		12000121
図185-21	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(1.7)	(1.35)	(0.55)	1.4		12000067
図185-22	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(1.9)	(0.8)	(0.25)	0.5		12000064
図185-23	ST12032	O-40 最下層	鉄片	棒状	(1.8)	(1.1)	(0.2)	2.7		12000284
図185-24	SK12044	覆土	鉄片	棒状	(2.0)	(0.8)	(0.6)	1.1		12000472
図185-25	SX12012	2層	鉄片	棒状	(1.8)	(1.1)	(0.4)	1.4		12000144
図185-26	SK12044	覆土	鉄片	棒状	(1.75)	(1.1)	(0.55)	0.4		12000471
図185-27	SX12038	N-42　1層	鉄片	棒状	(2.1)	(1.2)	(1.1)	2.2		12000355
図185-28	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	棒状	(1.8)	(1.5)	(0.7)	2.1		12000157
図185-29	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	棒状	(1.9)	(0.7)	(0.8)	1.3		12000156
図185-30	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	棒状	(1.8)	(0.3)	(0.3)	1.3		12000071
図185-31	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	棒状	(1.95)	(0.95)	(0.4)	1.2		12000058
図185-32	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(2.65)	(0.7)	(0.25)	0.5	穿孔具？	12000033
図185-33	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	棒状	(1.7)	(0.9)	(0.7)	1.0		12000057
図185-34	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	棒状	(1.7)	(0.8)	(0.2)	0.6		12000123
図185-35	SX12081	ベルト2の3層	鉄片	棒状	(1.5)	(0.8)	(0.5)	0.7		12000055
図185-36	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	棒状	(1.8)	(0.85)	(0.45)	0.8		12000062
図185-37	SX12038	2層	鉄片	棒状	(2.0)	(0.7)	(0.4)	1.8		12000352
図185-38	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	棒状	(1.5)	(0.6)	(0.6)	1.3		12000327
図185-39	SX12038	1層	鉄片	棒状	(1.6)	0.3	0.2	0.3		12000346
図185-40	SX12012	2層	鉄片	棒状	(1.4)	(0.3)	(0.3)	0.3		12000126
図186-1	ST12032	O-40 最下層	鉄片	板状	－	－	－	155.2	方形	12000308
図186-2	ST12032	O-41 最下層	鉄片	板状	－	－	－	154.5	方形	12000307
図186-3	SK12018	下層⑦	鉄片	板状	(4.2)	(11.4)	(2.1)	63.7		12000543
図186-4	SX12010	2層	鉄片	板状	(8.9)	(3.7)	(1.1)	69.6	方形	12000383
図186-5	ST12032	O-41 最下層	鉄片	板状	(2.8)	(6.5)	(1.2)	154.5	方形	12000306
図186-6	ST12032	O-41・42 8層	鉄片	板状	(5.6)	(6.4)	(1.6)	33.3	方形	12000292
図187-1	SX12046	埋土	鉄片	板状	(4.6)	(6.6)	(1.7)	59.2		12000393
図187-2	ST12032	P-41　下層	鉄片	板状または鉄塊	(4.1)	(5.8)	(2.3)	41.6		12000302
図187-3	SX12012	2層　№17	鉄片	板状	(3.3)	(6.0)	(1.7)	2.5	方形	12000186

表99　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（6）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図187-4	SK12091	南側	鉄片	板状	(4.45)	(6.65)	(2.8)	69.8		12000453
図187-5	SX12046	埋土	鉄片	板状	(4.3)	(5.1)	(1.1)	47.8		12000392
図187-6	SX12009	埋土	鉄片	板状	(4.5)	(5.1)	(2.8)	66.7		12000028
図187-7	SX12065	埋土	鉄片	板状	(3.8)	(5.9)	(0.7)	17.8		12000376
図187-8	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	板状	(4.3)	(4.7)	(1.2)	25.5		12000185
図187-9	SD12026	埋土	鉄片	板状	(3.45)	(5.1)	(1.25)	25.1	鋳鉄	12000421
図187-10	SD12026	埋土	鉄片	板状	(3.25)	(5.35)	(1.75)	33.0		12000422
図187-11	SX12065	埋土	鉄片	板状	(3.4)	(3.9)	(0.4)	6.8		12000375
図187-12	SK12083	N-44暗褐色砂質土	鉄片	板状	(3.55)	(4.2)	(0.75)	11.9		12000490
図188-1	SD12031	埋土	鉄片	板状	(3.4)	(4.5)	(1.5)	19.0		12000436
図188-2	SX12012	1層	鉄片	板状	(2.8)	(4.8)	(0.5)	10.7		12000187
図188-3	SK12050	埋土	鉄片	板状	(3.4)	(4.5)	(1.7)	22.3		12000533
図188-4	SK12014	埋土下部	鉄片	板状	4.1	3.8	3.1	37.6		12000558
図188-5	ST12032	O-40 最下層	鉄片	板状	(3.2)	(3.6)	(1.0)	10.9	方形	12000297
図188-6	ST12002	P-42　3層	鉄片	板状	(3.2)	(3.1)	(1.0)	20.0		12000336
図188-7	SX12065	埋土	鉄片	板状	(3.2)	(3.2)	(1.9)	13.5		12000377
図188-8	SX12046	埋土	鉄片	板状	(2.9)	(3.5)	(1.6)	23.8		12000391
図188-9	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	板状	(2.8)	(3.1)	(0.6)	7.5	方形	12000180
図188-10	ST12032	O-40 最下層	鉄片	板状	(2.9)	(3.8)	(1.0)	16.8	方形	12000295
図188-11	SX12061	Q-43　2層	鉄片	板状	(3.3)	(3.6)	(0.7)	10.9	鋳造	12000401
図188-12	ST12032	O-40 最下層	鉄片	板状	(2.5)	(4.8)	(4.0)	10.3	方形	12000298
図188-13	SX12038	1層	鉄片	板状	(2.2)	(3.4)	(1.2)	8.1		12000358
図188-14	ST12032	O-40 ベルト3　4層	鉄片	板状	(1.6)	(2.9)	(0.8)	9.7	方形	12000305
図188-15	SK12091	北側	鉄片	板状	(2.2)	(4.05)	(1.4)	7.9		12000454
図188-16	SX12038		鉄片	板状	(2.5)	(3.1)	(1.7)	6.4		12000359
図188-17	ST12032	P-41・42最下層	鉄片	板状	(2.3)	(3.7)	(0.5)	6.1	方形	12000296
図188-18	ST12032	P-40　最下層	鉄片	板状	(2.1)	(3.4)	(0.3)	4.8	方形	12000294
図188-19	SX12085	埋土	鉄片	板状	(2.05)	(4.15)	(1.35)	7.4	船底状鉄器？	12000095
図189-1	SX12065	O-42 埋土№1	鉄片	板状	(2.6)	(4.3)	(1.2)	13.1		12000374
図189-2	SK12044	1層	鉄片	板状	(2.75)	(4.4)	(0.8)	15.6	方形	12000476
図189-3	ST12032	P-40	鉄片	板状	(2.7)	(3.7)	(0.8)	11.4	方形	12000304
図189-4	ST12032	O-42　下層	鉄片	板状	(2.8)	(4.1)	(1.9)	12.5	方形	12000303
図189-5	ST12032	N-41　下層	鉄片	板状	(2.5)	(3.0)	(0.2)	5.8	方形	12000300
図189-6	SD12026		鉄片	板状	(2.8)	(3.3)	(0.65)	4.7	方形	12000420
図189-7	SK12091	南側	鉄片	板状	(2.8)	(3.75)	(0.7)	4.1		12000455
図189-8	ST12032	P-40 最下層	鉄片	板状	(2.4)	(3.3)	(1.0)	8.4	方形	12000299
図189-9	SK12018	2層	鉄片	板状	(2.2)	(3.7)	(0.4)	5.8		12000542
図189-10	SK12084	2層	鉄片	板状	(2.75)	(2.75)	(0.75)	6.4		12000443
図189-11	SX12065	O-42	鉄片	板状	(2.5)	(3.5)	(0.8)	7.6		12000373
図189-12	SX12012	1層	鉄片	板状	(2.1)	(3.2)	(0.4)	7.6		12000184
図189-13	SX12012	1層	鉄片	板状	(2.3)	(2.4)	(1.3)	6.3		12000183
図189-14	SX12012	2層	鉄片	板状	(2.0)	(2.5)	(0.4)	3.9		12000178
図189-15	SX12012	1層	鉄片	板状	(2.2)	(2.7)	(0.6)	6.1	方形	12000177
図189-16	SX12065		鉄片	板状	(2.1)	(3.6)	(0.7)	6.5		12000378
図189-17	SX12012	N-39　1層	鉄片	板状	(2.2)	(2.6)	(0.4)	4.2	方形	12000181
図189-18	SX12012	1層№23	鉄片	板状	(2.3)	(2.0)	(0.3)	3.2	方形	12000176

表100　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（7）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図189-19	SX12012	№9	鉄片	板状	(1.8)	(2.4)	(0.3)	2.7	方形	12000179
図189-20	SD12008	埋土	鉄片	板状	(2.45)	(2.6)	(0.95)	6.4		12000407
図189-21	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	板状	(2.3)	(2.5)	(0.9)	7.7		12000335
図189-22	ST12002	Q-43　1層上	鉄片	板状	(1.9)	(2.6)	(0.3)	4.6		12000337
図189-23	SX12081	ベルト2の3層	鉄片	板状	(2.5)	(3.1)	(1.4)	6.9		12000079
図189-24	SD12022	4層	鉄片	板状	(2.1)	(2.9)	(0.25)	3.1	切断片	12000410
図189-25	SK12018	2層	鉄片	板状	(3.1)	(2.7)	(1.2)	6.7		12000540
図189-26	SX12012	2層	鉄片	板状	(1.4)	(2.7)	(0.4)	2.9		12000188
図189-27	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	板状	(1.8)	(2.25)	(0.7)	2.6		12000078
図189-28	SX12012	3層	鉄片	板状	(1.5)	(2.3)	(0.4)	3.2	方形	12000175
図190-1	SK12018	上層	鉄片	板状	(1.8)	(3.7)	(0.6)	4.3	方形	12000541
図190-2	ST12032	N-41・42中層	鉄片	板状	(1.1)	(2.2)	(0.2)	1.9		12000301
図190-3	SX12038	2層	鉄片	板状	(1.7)	(1.7)	(0.9)	3.8		12000357
図190-4	ST12032	O-41・42中層	鉄片	板状	(1.5)	(2.8)	(0.8)	3.7	方形	12000293
図190-5	SX12065	埋土	鉄片	板状	(1.8)	(2.6)	(0.2)	3.2		12000372
図190-6	SK12044		鉄片	板状	(2.7)	(2.65)	(0.7)	5.7	方形	12000478
図190-7	ST12032	P-42 最下層	鉄片	板状	(3.1)	(1.7)	(0.5)	10.5		12000309
図190-8	SD12026		鉄片	板状	(2.45)	(2.0)	(0.9)	3.8	切断片	12000417
図190-9	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	板状	(1.8)	(2.8)	(0.4)	1.9	切断片	12000074
図190-10	SX12012	2層	鉄片	板状	(2.3)	(2.1)	(0.3)	4.0		12000182
図190-11	ST12032	O-42 最下層	鉄片	板状	(2.5)	(2.6)	(0.2)	3.2	板状品	12000244
図190-12	ST12032	P-42 最下層	鉄片	板状	(3.3)	2.1	(0.5)	4.2		12000263
図190-13	SX12012	2層	鉄片	板状	(2.8)	(2.4)	(0.5)	6.7	未製品	12000096
図190-14	SX12010	1層	鉄片	三角	(3.5)	(2.6)	(0.7)	8.0		12000385
図190-15	ST12032	O40	鉄片	三角	(3.5)	(2.8)	(0.5)	10.5		12000310
図190-16	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	三角	(3.3)	(2.0)	(0.4)	4.7		12000214
図190-17	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄片	三角	(3.3)	(3.35)	(1.2)	5.7		12000081
図190-18	SX12012	2層	鉄片	三角	(4.1)	(2.3)	(0.3)	7.4		12000211
図190-19	SX12012	1層	鉄片	三角	(3.1)	(2.4)	(0.3)	7.0		12000210
図190-20	SX12012	3層	鉄片	三角	(2.9)	(2.4)	(0.3)	4.1		12000194
図190-21	ST12002	P-43　1層	鉄片	三角	(3.7)	(3.3)	(1.0)	11.4		12000340
図190-22	SX12038	N-41　№1 1層	鉄片	三角	(3.2)	(2.4)	(1.1)	4.6		12000362
図190-23	ST12032	O-40 最下層	鉄片	三角	(3.5)	(1.9)	(0.3)	3.1		12000312
図190-24	SK12091	南側	鉄片	三角	(3.4)	(2.85)	(0.65)	4.4		12000456
図190-25	SK12018	2層	鉄片	三角	(3.3)	(1.8)	(0.3)	4.9		12000544
図190-26	SX12081	埋土下部・SK下	鉄片	三角	(3.2)	(1.85)	(0.5)	2.9		12000088
図190-27	SX12065	O-42	鉄片	三角	(2.5)	(3.6)	(0.9)	7.3		12000380
図190-28	ST12032	P-40 最下層	鉄片	三角	2.8	2.5	(0.5)	3.4		12000311
図191-1	SX12012	3層	鉄片	三角	(3.9)	(1.6)	(1.0)	4.9		12000201
図191-2	SX12012	2層	鉄片	三角	(2.4)	(2.4)	(0.3)	3.0		12000205
図191-3	SX12012	№17　2層	鉄片	三角	(2.9)	(1.3)	(0.2)	1.6		12000206
図191-4	SX12082	上層	鉄片	三角	(3.4)	(1.1)	(0.4)	3.9		12000402
図191-5	SX12012	2層	鉄片	三角	(2.4)	(2.1)	(0.3)	2.4		12000212

表101　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（8）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図191-6	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	三角	(2.7)	(1.7)	(0.6)	2.2		12000087
図191-7	SX12012	№12	鉄片	三角	(2.0)	(1.8)	(0.3)	1.9		12000191
図191-8	SK12084	2層	鉄片	三角	(2.55)	(1.95)	(1.15)	4.5		12000444
図191-9	SK12044	2層	鉄片	三角	(2.5)	(1.85)	(0.5)	1.6		12000480
図191-10	SK12091	北側カクラン	鉄片	三角	(2.05)	(2.4)	(1.1)	2.6		12000457
図191-11	SK12040	1層	鉄片	三角	(2.2)	(2.8)	(0.95)	3.9		12000466
図191-12	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	三角	(2.1)	(1.5)	(1.0)	2.8		12000208
図191-13	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	三角	(2.05)	(2.0)	(1.55)	4.2		12000083
図191-14	SX12012	2層	鉄片	三角	(1.8)	(1.8)	(0.2)	2.8		12000213
図191-15	SX12012	№12	鉄片	三角	(2.1)	(2.4)	(0.3)	1.7		12000204
図191-16	SX12012	2層	鉄片	三角	(1.8)	(2.7)	(0.3)	2.2		12000195
図191-17	SK12044	覆土	鉄片	三角	(3.5)	(1.65)	(0.5)	2.2		12000479
図191-18	SX12012	3層	鉄片	三角	(2.5)	(1.2)	(0.4)	1.4		12000196
図191-19	SX12012	2層	鉄片	三角	(3.4)	(1.3)	(0.3)	2.4		12000192
図191-20	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	三角	(2.35)	(1.4)	(0.6)	1.4		12000084
図191-21	SX12012	3層　№24	鉄片	三角	(2.2)	(1.9)	(0.4)	2.5		12000197
図191-22	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	三角	(2.55)	(2.1)	(1.2)	2.7		12000086
図191-23	SX12012	N-39　1層	鉄片	三角	(1.9)	(2.1)	(0.3)	2.1		12000198
図191-24	SX12012	2層	鉄片	三角	(2.0)	(1.2)	(0.5)	0.9		12000189
図191-25	SK12044	下層	鉄片	三角	(1.9)	(2.2)	(0.55)	9.9		12000481
図191-26	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	三角	(2.0)	(1.6)	(0.3)	1.4		12000341
図191-27	SX12012	O-39・40 2層	鉄片	三角	(1.9)	(1.5)	(0.3)	1.1		12000199
図191-28	SX12012	2層	鉄片	三角	(1.7)	(2.0)	(0.3)	0.8		12000202
図191-29	SX12012	2層	鉄片	三角	(1.8)	(1.0)	(0.4)	1.1		12000193
図191-30	SX12012	2層	鉄片	三角	(2.1)	(1.0)	(0.5)	2.9		12000215
図191-31	SK12018	2層	鉄片	三角	(1.9)	(1.6)	(1.3)	2.3		12000545
図191-32	SX12081	O-39ベルト1の1層	鉄片	三角	(1.85)	(1.65)	(1.7)	4.3		12000082
図191-33	SX12065	O-42	鉄片	三角	(1.1)	(1.7)	(0.2)	1.1		12000379
図191-34	SX12012	O-39・40　2層	鉄片	三角	(2.1)	(1.0)	(0.4)	0.8		12000200
図191-35	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	三角	(2.3)	(1.35)	(0.65)	2.1		12000090
図191-36	ST12032	O-40 ベルト3の1層	鉄片	三角	(1.6)	(0.9)	1.1	0.9		12000313
図191-37	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	三角	(1.65)	(1.2)	(0.6)	1.2		12000089
図191-38	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	三角	(1.6)	(1.2)	(0.3)	0.9		12000339
図191-39	SX12012	3層	鉄片	三角	(1.4)	(1.5)	(0.2)	0.7		12000209
図192-1	SX12012	2層　№17	鉄片	三角	(1.7)	(0.8)	(0.4)	0.8		12000190
図192-2	SX12012	2層	鉄片	三角	(1.2)	(1.2)	(0.6)	1.0		12000207
図192-3	SD12031	埋土	鉄片	三角	(1.7)	(1.25)	(0.6)	1.5		12000437
図192-4	SX12012	2層	鉄片	三角	(1.7)	(1.3)	(0.5)	1.1		12000203
図192-5	SX12038	2層	鉄片	三角	(1.3)	(2.1)	(0.3)	1.6		12000361
図192-6	ST12032	O-40 最下層	鉄片	三角	(0.8)	(2.0)	(0.3)	0.7		12000314
図192-7	SX12038		鉄片	三角	(1.8)	(2.5)	(0.6)	1.5		12000360
図192-8	ST12032	ベルト1南側周溝中～下	鉄片	叉状	(5.2)	(3.7)	(1.7)	16.2		12000316

表102　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（9）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図192-9	ST12032	O-40　最下層	鉄片	叉状	(2.9)	(5.2)	(0.5)	9.3		12000318
図192-10	ST12032	O-41　最下層	鉄片	叉状	(2.6)	(4.2)	(1.7)	16.3		12000319
図192-11	SX12012	下層	鉄片	叉状	(2.6)	(3.7)	(1.5)	9.6		12000217
図192-12	ST12002	P-42　1層	鉄片	叉状	(3.2)	(2.2)	(0.5)	3.4		12000342
図192-13	SX12010	3層	鉄片	叉状	(2.8)	(3.2)	(1.3)	10.0		12000386
図192-14	ST12032	O-40　最下層	鉄片	叉状	(2.1)	(3.4)	1.1	5.2		12000315
図192-15	SX12012	2層	鉄片	叉状	(2.5)	(3.4)	(0.3)	5.7		12000223
図192-16	SX12012	3層　№9	鉄片	叉状	(3.2)	(2.7)	(0.3)	7.6		12000222
図192-17	SX12081	埋土下部･SK下	鉄片	叉状	(2.75)	1.5	(0.45)	3.6		12000091
図192-18	ST12032	O-40	鉄片	叉状	(1.7)	(2.1)	0.2	1.7		12000317
図192-19	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	叉状	(2.3)	(3.3)	(0.5)	3.9		12000343
図192-20	SX12012	3層	鉄片	叉状	(2.3)	(1.75)	(0.2)	2.0		12000216
図192-21	SX12012	2層	鉄片	叉状	(2.1)	(2.4)	(1.0)	4.2		12000218
図192-22	SX12012	2層	鉄片	叉状	(1.9)	(1.8)	(0.2)	1.5		12000220
図192-23	SX12012	O-39･40　2層	鉄片	叉状	(1.8)	(2.1)	(0.8)	2.3		12000219
図192-24	SX12012	2層No.17	鉄片	叉状	(1.1)	(2.3)	(0.4)	1.2		12000221
図192-25	SK12044	1層	鉄片	弧状	(3.9)	(2.35)	(1.0)	9.9		12000482
図192-26	SX12012	2層　№23	鉄片	弧状	(3.7)	(2.2)	(0.3)	5.8		12000225
図192-27	ST12032	P-40　最下層	鉄片	弧状	(4.4)	(1.6)	(0.4)	4.2		12000320
図192-28	SX12012	2層	鉄片	弧状	(3.4)	(1.8)	(0.7)	5.7		12000224
図192-29	SX12012	O-39･40　2層	鉄片	弧状	(3.6)	(1.4)	(0.6)	5.0		12000226
図192-30	SD12026	埋土	鉄片	弧状	(3.4)	(1.55)	(0.85)	3.6		12000423
図192-31	ST12032	最下層	鉄片	弧状	(2.7)	(1.7)	(0.3)	2.5		12000321
図193-1	SD12066	埋土	鉄片	弧状	(2.45)	(1.1)	(0.4)	1.2		12000442
図193-2	SX12012	2層	鉄片	弧状	(2.1)	(1.1)	(0.6)	1.4		12000227
図193-3	SK12050	埋土	鉄片	台形	(3.0)	(2.7)	(0.2)	3.0		12000534
図193-4	ST12032	P-40　最下層	鉄片	台形	(1.4)	(2.8)	(0.3)	3.6		12000322
図193-5	SX12010	1層	鉄片	台形	(1.1)	(1.5)	(0.3)	1.3		12000387
図193-6	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	小鉄片	(1.8)	(1.8)	(0.65)	1.7		12000085
図193-7	SK12073	埋土	鉄片	小鉄片	(1.5)	(1.4)	(0.3)	0.3		12000488
図193-8	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	小鉄片	(1.65)	(2.05)	(0.5)	1.7		12000092
図193-9	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	小鉄片	(1.9)	(2.15)	(0.7)	2.1	切断片	12000077
図193-10	SX12081	土層2の1層	鉄片	小鉄片	(1.8)	(2.65)	(1.3)	2.7	切断片	12000080
図193-11	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	小鉄片	(1.8)	(1.95)	(0.85)	2.2	切断片	12000076
図193-12	SX12081	O-39ベルト1の2層	鉄片	小鉄片	(2.2)	(2.2)	(0.7)	3.4	切断片	12000075
図193-13	SX12081	O-39　3-5層(ベルト1)	鉄片	小鉄片	(1.8)	(1.3)	(0.6)	2.0	切断片	12000056
図193-14	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	小鉄片	(2.7)	(1.25)	(0.3)	1.1		12000048
図193-15	SX12081	O-39埋土下層ベルト2	鉄片	小鉄片	(2.65)	(1.45)	(0.6)	2.2	切断片	12000073
図193-16	SX12038		鉄片	小鉄片	(2.5)	(1.6)	0.7	3.6		12000356
図193-17	SX12081	O-39埋土上層ベルト2	鉄片	小鉄片	(1.8)	(1.05)	(0.6)	1.3	切断片	12000066
図193-18	SK12044	覆土	鉄片	小鉄片	(1.6)	(2.1)	(0.6)	1.5		12000483
図193-19	ST12002	Q-43ベルト1の2層	鉄片	小鉄片	(1.7)	(1.4)	(0.6)	1.3		12000344

表103　12区竪穴住居以外出土鉄片一覧表（10）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図193-20	SD12003	埋土	鉄片	不明	(3.55)	(9.0)	(2.6)	114.1		12000405
図193-21	SD12022	下層	鉄片	不明	(2.5)	(2.85)	(1.15)	10.5		12000412
図193-22	ST12032	O-41 最下層	鉄片	不明	(2.1)	(3.6)	(1.2)	7.3		12000323
図193-23	SD12022	2･3層の境	鉄片	不明	(1.8)	(2.8)	(0.4)	2.5	切断片	12000411
図193-24	SK12025	1層	鉄片	不明	(2.2)	(2.8)	(0.9)	2.1		12000461
図193-25	SK12018	下層	鉄片	不明	(3.0)	(1.4)	(0.6)	1.7		12000546
図193-26	ST12032	O-40 最下層	鉄片	不明（半裁管状）	(3.7)	(1.1)	(0.2)	3.4		12000259
図193-27	SX12010	2層	鉄片	不明	(2.2)	(1.5)	(1.0)	3.2		12000388
図193-28	ST12032	O-42 下層	鉄片	不明	(2.4)	(1.3)	(0.6)	1.7		12000324
図193-29	SX12010	3層	鉄片	不明	(2.1)	(1.3)	(0.3)	1.6		12000389

表104　11区出土鉄片一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図194-1	ST11002	周溝	鉄片	棒状	(7.8)	(2.8)	(1.5)	26.8	石突き未製品か	12000003
図194-2	ST11002	R-36周溝覆土	鉄片	棒状	(8.2)	(1.5)	(1.1)	14.8		12000002
図194-3	ST11002	R-36周溝覆土	鉄片	棒状	(6.4)	(1.4)	(0.6)	17.6		12000001
図194-4	SH11253	覆土	鉄片	棒状	(4.6)	(2.1)	(1.75)	9.2		11001998
図194-5	SH11112	覆土	鉄片	棒状	(4.5)	1.6	0.5	8.7		11001950
図194-6	SD11218	覆土	鉄片	棒状	(4.45)	(1.85)	(0.8)	9.7	裁断片	11002192
図194-7	ST11067	O-38	鉄片	棒状	(3.7)	(1.9)	(0.5)	7.2		11002241
図194-8	SH11138		鉄片	棒状	(3.1)	(2.0)	(1.5)	8.8	棒状品未製品	11001955
図194-9	SH11253	覆土	鉄片	棒状	(3.8)	(1.8)	(1.4)	9.0		11001997
図194-10	SH11147	覆土	鉄片	棒状	(4.5)	(2.0)	(1.0)	9.8	鉄片の集合	11001965
図194-11	SH11130	R-35･36土層	鉄片	棒状	(4.1)	(2.1)	(0.6)	7.7		11001953
図194-12	SH11228	上包含層	鉄片	棒状	(6.25)	(3.2)	(1.05)	14.2		11002196
図194-13	SH11231	覆土	鉄片	棒状	(3.2)	(2.0)	(1.0)	6.2		11001992
図194-14	SH11253	覆土	鉄片	棒状	(3.9)	(1.6)	(1.0)	6.6		11001999
図194-15	SH11138		鉄片	棒状	(3.9)	(1.1)	(0.5)	3.4		11001956
図194-16	SH11130	R-35･36	鉄片	棒状	(3.5)	(1.0)	(0.8)	3.1		11001952
図194-17	ST11067	周溝北土層上層	鉄片	棒状	(4.1)	(0.5)	(0.5)	1.9		11002249
図194-18	ST11067	周溝北土層上層	鉄片	棒状	(3.6)	(0.5)	(0.5)	1.6		11002250
図194-19	SH11231	覆土	鉄片	棒状	(2.85)	(0.9)	(0.5)	1.8		11001991
図194-20	SH11258	覆土	鉄片	棒状	(2.1)	(1.7)	(0.7)	2.6		11002004
図194-21	SH11253	覆土	鉄片	棒状	(2.3)	(2.8)	(1.4)	7.8		11002002
図194-22	SH11207	覆土	鉄片	棒状	(2.6)	(1.3)	(0.3)	2.3		11001985
図194-23	SK11057	覆土	鉄片	棒状	(2.6)	(1.65)	(0.8)	3.6		11002185
図194-24	SH11258	覆土	鉄片	棒状	(2.3)	(1.1)	(0.9)	6.8		11002005
図194-25	SK11214	覆土	鉄片	棒状	(3.55)	(1.05)	(0.35)	2.4		11002215
図194-26	SH11231	覆土	鉄片	棒状	(3.2)	(1.2)	(0.6)	3.8		11001993
図194-27	SX11053	覆土	鉄片	棒状	(1.7)	(1.2)	(0.6)	1.5	小型工具片か？	11002177

表105　11区出土鉄片一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図195-1	SK11057	№28	鉄片	棒状	(3.6)	(1.55)	(1.5)	0.8		11002179
図195-2	SH11230	覆土	鉄片	棒状	(2.2)	(1.2)	(1.2)	3.0		11001987
図195-3	SH11231	覆土	鉄片	棒状	(2.6)	(0.9)	(0.3)	2.2		11001994
図195-4	SH11190		鉄片	棒状	(3.1)	(1.9)	(0.4)	1.8		11001981
図195-5	SH11231	覆土	鉄片	棒状	(1.3)	(0.9)	(0.5)	0.7		11001989
図195-6	ST11067	P-38周溝覆土	鉄片	板状	(5.6)	(7.0)	(4.5)	155.3		11002265
図195-7	ST11002	Q-37周溝	鉄片	板状	(2.6)	(3.7)	(0.4)	26.9		12000009
図195-8	ST11002	Q-38	鉄片	板状	(3.2)	(4.3)	(1.2)	28.2		12000010
図195-9	ST11002	Q-39周溝覆土	鉄片	板状	(3.2)	(4.6)	(0.5)	18.3		12000004
図195-10	ST11002	R-36周溝	鉄片	板状	(2.7)	(3.7)	(1.2)	13.3		12000007
図195-11	ST11067	O-38　墳丘部	鉄片	板状	(2.8)	(3.1)	(0.4)	12.1		11002260
図195-12	SH11144		鉄片	板状	(2.7)	(3.5)	(0.8)	12.0	方形	11001964
図195-13	ST11002	Q-39周溝	鉄片	板状	(3.1)	(3.4)	(0.7)	17.6		12000008
図195-14	ST11002	R-36周溝	鉄片	板状	(2.6)	(3.0)	(1.3)	8.7		12000005
図195-15	ST11067	O-37	鉄片	板状	(2.7)	(3.2)	(0.2)	11.2	袋状	11002255
図195-16	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	板状	(3.1)	(3.3)	(0.5)	12.9	刃部形成	11002254
図195-17	ST11002	R-36周溝	鉄片	板状	(3.3)	(2.8)	(0.4)	9.4		12000006
図195-18	ST11067	O-37	鉄片	板状	(2.1)	(3.4)	(0.6)	7.9		11002256
図196-1	ST11067	O-38周溝覆土	鉄片	板状	(2.1)	(4.1)	(0.5)	5.1		11002253
図196-2	ST11067	O-38周溝覆土	鉄片	板状	(2.0)	(3.4)	(0.8)	3.8		11002252
図196-3	ST11141	U-40周溝覆土	鉄片	板状	(2.0)	(3.55)	(0.95)	9.6		11002324
図196-4	ST11067	周溝北土層上層	鉄片	板状	(1.6)	(3.2)	(0.6)	2.4		11002258
図196-5	ST11141	№8	鉄片	板状・折り曲げ	(2.6)	(3.75)	(1.35)	8.5	切断片	11002325
図196-6	SH11205		鉄片	板状	(1.6)	(3.2)	(1.3)	8.7		11001984
図196-7	SK11057	№4	鉄片	板状	(2.85)	(3.75)	(1.5)	15.9		11002181
図196-8	SD11197	覆土	鉄片	板状	(3.0)	(3.25)	(1.0)	10.3	切断片	11002208
図196-9	ST11067	O-38周溝覆土	鉄片	板状	(2.5)	(2.9)	(0.4)	4.9		11002251
図196-10	SH11149		鉄片	板状	(2.0)	(2.7)	(0.5)	5.7		11001969
図196-11	SK11057	覆土	鉄片	板状	(2.4)	(3.1)	(1.2)	6.8	素材？	11002182
図196-12	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	板状	(3.2)	(2.7)	(0.4)	7.6		11002259
図196-13	ST11067	O-38周溝覆土	鉄片	板状	(3.5)	(2.1)	(0.2)	2.9		11002281
図196-14	ST11067	P-38　墳丘部	鉄片	板状	(5.4)	(1.9)	(0.3)	8.1		11002263
図196-15	SH11150		鉄片	板状	(4.3)	(2.1)	(0.9)	15.4		11001972
図196-16	ST11067	周溝北土層上層	鉄片	板状	(2.9)	(2.7)	(0.2)	3.8		11002257
図196-17	ST11067	P-38周溝覆土	鉄片	板状	(3.1)	(2.6)	(0.4)	12.9	未製品か	11002261
図196-18	SH11253	覆土	鉄片	板状	(4.3)	(1.2)	(0.3)	6.2	板状切断片	11001996
図196-19	ST11067	P-38　墳丘部	鉄片	板状	(4.1)	(1.4)	(0.4)	5.5		11002262
図196-20	SH11138		鉄片	板状	3.6	2.9	(0.7)	9.1		11001957
図196-21	SH11204		鉄片	板状	(3.0)	(1.6)	(0.4)	4.2		11001983
図196-22	ST11067	P-38　墳丘部	鉄片	板状	(2.7)	(1.8)	(0.5)	4.2		11002264
図196-23	ST11067	O-37	鉄片	板状	(2.7)	(2.8)	(1.35)	8.3	三角形2板1接合	11002289
図197-1	ST11067	周溝覆土	鉄片	三角	(3.1)	(2.7)	(2.3)	17.9		11002284
図197-2	ST11067	O-38　墳丘部	鉄片	三角	(3.0)	(3.7)	(0.6)	6.4	利器への転用品。刃部あり	11002269
図197-3	ST11067	N・O-38周溝覆土	鉄片	三角	(4.4)	(3.1)	(0.5)	4.5		11002270
図197-4	ST11067	北包含層	鉄片	三角	(4.1)	(2.3)	(0.3)	2.9		11002275

表106　11区出土鉄片一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図197-5	ST11067	北包含層	鉄片	三角	(4.6)	(1.9)	(0.3)	5.5		11002276
図197-6	ST11067	P-38　P-37 墳丘部	鉄片	三角	(3.2)	(2.9)	(1.5)	7.0		11002274
図197-7	SD11197	覆土	鉄片	三角	(2.45)	(3.8)	(1.05)	6.5		11002209
図197-8	ST11067	P-37周溝覆土	鉄片	三角	(2.2)	(2.6)	(1.1)	7.0	加熱切断時、切断面に丸み	11002286
図197-9	SH11027	覆土	鉄片	三角	(2.6)	2.9	1.4	13.7		11001945
図197-10	SK11089	覆土	鉄片	三角	(2.65)	(1.8)	(1.0)	11.4		11002211
図197-11	ST11067	O-38周溝覆土	鉄片	三角	(3.6)	(2.8)	(0.3)	3.4	鍛延か？上方にいくにつれて薄い	11002282
図197-12	SK11174	遺構検出面	鉄片	三角	(4.0)	(2.25)	(0.65)	7.0	裁断片	11002190
図197-13	SK11174	覆土	鉄片	三角	(3.4)	(1.85)	(0.7)	4.2		11002191
図197-14	SH11228		鉄片	三角	(3.35)	1.6	(0.55)	3.4		11002197
図197-15	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	三角	(3.3)	(2.9)	(1.0)	12.6		11002272
図197-16	ST11067	P-37周溝覆土	鉄片	三角	(2.7)	(2.9)	(1.4)	8.2		11002285
図197-17	SH11130	北西ベルト	鉄片	三角	(3.1)	(2.3)	(1.8)	5.6		11001954
図197-18	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	三角	(2.7)	(2.4)	(0.5)	4.2		11002267
図197-19	SK11089	覆土	鉄片	三角	(3.1)	(1.8)	(1.0)	4.5		11002212
図197-20	SD11007	Q-36	鉄片	三角	(2.85)	(2.4)	(1.1)	5.9	裁断片	11002201
図197-21	SK11214	覆土	鉄片	三角	(2.6)	(1.95)	(1.0)	4.6		11002217
図197-22	SH11212	覆土	鉄片	三角	(2.6)	(2.5)	(1.4)	7.0		11001986
図197-23	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	三角	(2.8)	(1.9)	(0.7)	4.9		11002279
図197-24	ST11067	O-38周溝覆土	鉄片	三角	(1.9)	(2.1)	(0.5)	2.8		11002280
図197-25	SH11231	覆土	鉄片	三角	(2.3)	(1.8)	(1.1)	3.7		11001995
図197-26	ST11067	O-39周溝覆土	鉄片	三角	(2.7)	(1.9)	(0.7)	5.2		11002283
図197-27	ST11067	N・O-38周溝覆土	鉄片	三角	(2.8)	(2.1)	(0.4)	3.2	利器転用	11002273
図197-28	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	三角	(2.9)	(1.8)	(0.2)	3.3	切断面に丸み。加熱切断痕	11002271
図197-29	SH11228	上包含層	鉄片	三角	(2.25)	1.0	(0.45)	1.4		11002198
図198-1	ST11067	周溝北土層上層	鉄片	三角	(2.9)	(2.1)	(0.3)	7.7		11002292
図198-2	ST11067	O-38　墳丘部	鉄片	三角	(3.0)	(2.4)	(0.5)	6.1		11002266
図198-3	ST11067	O-37	鉄片	三角	(2.6)	(2.3)	(0.3)	3.4		11002268
図198-4	SH11149		鉄片	三角	2.15	1.8	0.7	2.3		11001970
図198-5	SH11258	覆土	鉄片	三角	(2.0)	(1.6)	(0.4)	2.2	切断片	11002006
図198-6	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	三角	(1.7)	(1.3)	(0.4)	1.6		11002278
図198-7	SH11217	覆土	鉄片	三角	(1.6)	(1.8)	(0.3)	1.1		12000025
図198-8	SH11176	埋土	鉄片	三角	(1.8)	(2.1)	(0.9)	4.2	鋳造鉄器片	11001975
図198-9	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	三角	(1.6)	(1.2)	(0.2)	1.2		11002277
図198-10	ST11067	P-38周溝覆土	鉄片	三角	1.7	(1.9)	(1.3)	4.3		11002287
図198-11	SH11228		鉄片	叉状	(5.4)	(4.75)	(1.15)	21.9		11002199
図198-12	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	叉状	(3.4)	(3.3)	(0.4)	10.5		11002290
図198-13	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	叉状	(3.0)	(2.8)	(0.2)	7.2		11002291
図198-14	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	叉状	(2.7)	(3.2)	(1.1)	5.8	折り返し鍛造片	11002288
図198-15	ST11067	P-38周溝覆土	鉄片	叉状	(2.1)	(1.5)	(0.3)	1.2		11002293
図198-16	ST11002		鉄片	弧状	(4.5)	(1.9)	(0.7)	9.6		12000011
図198-17	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	弧状	(3.5)	(4.8)	(1.6)	9.4		11002294
図198-18	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	弧状	(3.2)	(2.0)	(0.3)	6.0		11002295

表107　11区出土鉄片一覧表（4）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
					長	幅	厚	重量		
図198-19	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	弧状	(3.6)	(1.8)	(0.4)	4.2		11002297
図198-20	ST11067	P-38周溝覆土	鉄片	弧状	(3.9)	(1.0)	(0.4)	3.1		11002298
図198-21	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	弧状	(2.9)	(2.0)	(1.1)	6.3		11002296
図198-22	SH11228		鉄片	台形	(3.1)	(2.9)	(0.8)	7.8	裁断片、穿孔具	11002200
図199-1	SH11253	覆土	鉄片	不明	(6.1)	(4.1)	(2.5)	37.2		11002003
図199-2	ST11067	P-38周溝覆土	鉄片	不明	(1.2)	(5.5)	(0.3)	14.0	鑿切痕跡あり	11002302
図199-3	SK11057	遺構検出面	鉄片	不明	(4.1)	(2.75)	(2.0)	22.9		11002184
図199-4	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	不明	(4.1)	(2.5)	(1.6)	13.1		11002301
図199-5	SH11253	覆土	鉄片	不明	(2.8)	(3.5)	(2.4)	26.9		11002001
図199-6	ST11067	O-37周溝覆土	鉄片	不明	(2.8)	(1.8)	(0.3)	3.9	鉈片か？	11002300
図199-7	SH11253	覆土	鉄片	不明	(2.9)	(1.6)	(1.0)	3.7		11002000
図199-8	ST11141	U-39周溝覆土	鉄片	不明	(2.3)	(2.9)	(1.2)	5.4		11002331
図199-9	ST11002	Q-38周溝	鉄片	不明	(2.9)	(2.6)	(0.6)	6.3	大陸系舶載品？棒状品の製作途中か？	11002347

表108　11・12・13区出土鍛冶関連遺物一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別 器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
				長	幅	厚	重量		
図200-1	ST12032	O-41　№20	椀形滓	(9.5)	(11.0)	(3.1)	284.1		12000325
図200-2	SD12026	P-41下層	椀形滓	5.1	6.6	1.95	71.3		12000430
図200-3	SX12012	2層	椀形滓	(3.2)	(5.5)	(1.5)	20.1		12000229
図200-4	SD12026	P-41下層	鉄滓	8.1	9.4	3.2	178.6		12000426
図200-5	SD12026	P-41下層	鉄滓	5.0	6.5	3.3	66.4		12000427
図200-6	SD12026	P-41下層	鉄滓	4.8	4.95	1.8	23.7		12000432
図200-7	SD12026	P-41下層	鉄滓	3.05	4.9	2.05	21.9		12000433
図200-8	SD12026	P-41下層	鉄滓	4.65	6.75	2.15	38.7		12000428
図201-1	SD12026	P-41下層	鉄滓	3.75	6.55	2.55	34.7		12000429
図201-2	SD12026	P-41下層	鉄滓	4.95	5.65	1.6	34.6		12000431
図201-3	SX12012	2層	鉄滓	(5.0)	(4.9)	(3.2)	81.0	磁着する	12000228
図201-4	SD12026	埋土	鉄滓	5.7	8.0	4.65	146.1	炉壁？付着	12000425
図201-5	SD12008	埋土	鉄滓	2.7	3.0	1.85	20.3		12000409
図201-6	SD12008	埋土	鉄滓	2.1	3.15	1.9	21.5		12000408
図201-7	SD12008		鉄滓	2.15	2.4	1.75	12.9		12000548
図201-8	SD12008	2層	鉄滓	1.85	2.35	1.6	4.9		12000549
図201-9	SD12008	埋土	鉄滓	2.25	2.3	1.35	6.0		12000554
図201-10	SD12008	2層	鉄滓	1.85	2.3	1.25	7.1		12000550
図201-11	SD12008	埋土	鉄滓	1.8	2.3	1.45	5.3		12000552
図201-12	SD12008	埋土	鉄滓	1.75	1.85	0.8	3.6		12000551
図201-13	SD12008	埋土	鉄滓	2.05	3.0	1.4	8.5		12000553
図201-14	SD12026	P-41埋土	鉄滓	2.7	3.1	1.05	7.1		12000434
図201-15	SD12026		鉄滓	(2.45)	(2.75)	(1.5)	5.3		12000424
図201-16	SH12035	A3　2層	鉄滓	(2.7)	(2.1)	(0.85)	5.1		11001944
図201-17	SX12057	埋土	鉄滓	(1.8)	(2.5)	(1.2)	3.5		12000399
図201-18	SX12057	埋土	鉄滓	(1.8)	(1.8)	(0.8)	1.9		12000398

表109　11・12・13区出土鍛冶関連遺物一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別 器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
				長	幅	厚	重量		
図202-1	ST11141	U-40周溝覆土	椀形滓	8.85	12.7	2.7	352.7		11002330
図202-2	ST11141	U-40周溝覆土	椀形滓	6.1	8.3	3.3	162.7		11002329
図202-3	ST11141	U-39周溝覆土	椀形滓	7.7	9.9	4.5	461.8		11002328
図202-4	ST11002	R-36周溝埋土	椀形滓	7.2	8.8	2.9	248.4		12000024
図203-1	ST11002	R-36周溝	椀形滓	(6.8)	(7.7)	2.8	119.5		11002348
図203-2	ST11002	R-36周溝埋土	椀形滓	5.9	8.4	3.5	185.1	磁着する	12000023
図203-3	ST11141	U-39周溝覆土	椀形滓	5.7	8.6	3.7	119.6		11002327
図203-4	ST11067	P-38墳丘部	椀形滓	7.7	8.8	1.5	163.3		11002310
図203-5	ST11158	畦より東側	椀形滓	4.1	6.3	2.75	86.0		11002335
図203-6	ST11002	P-38墳丘部	椀形滓	4.5	5.0	1.9	62.5	流動状に固結	12000014
図204-1	ST11002	R-36	椀形滓	(6.3)	(4.3)	(3.6)	87.5		11002350
図204-2	ST11067	O-38周溝覆土	椀形滓	4.1	5.9	1.8	21.8	炉底	11002304
図204-3	SH11027	P11027	椀形滓	4.7	4.4	1.5	45.5	上面､磁着する	11001946
図204-4	SH11142	覆土	椀形滓	3.4	4.9	1.6	25.2		11001963
図204-5	SH11154		椀形滓	3.8	3.9	1.7	19.6		11001973
図204-6	SD11163	T-38	椀形滓	2.6	3.7	2.65	41.1		11002206
図204-7	ST11067	P-37墳丘部	椀形滓	2.3	3.9	1.0	15.5	炉底	11002315
図204-8	ST11067	P-38墳丘部	椀形滓	2.5	4.3	0.9	12.9		11002311
図204-9	SH11139		椀形滓	3.1	3.1	1.2	18.7		11001959
図204-10	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	4.5	6.3	1.5	32.8		12000016
図204-11	SH11142		鉄滓	4.4	5.7	1.8	46.4	全体的に磁着する	11001962
図204-12	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	5.2	5.7	3.7	106.9		12000022
図204-13	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	5.1	6.3	2.0	70.7		12000017
図204-14	SH11190		鉄滓	5.7	5.9	1.3	53.5	磁着する	11001982
図205-1	ST11067	P-36周溝覆土	鉄滓	5.3	8.6	1.3	80.2	磁着する	11002314
図205-2	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	2.9	4.4	2.3	31.2		12000015
図205-3	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	3.1	4.9	2.1	27.5		12000019
図205-4	ST11158	北包含層	鉄滓	3.5	4.7	1.9	56.1	磁着する	11002333
図205-5	SK11075	遺構検出面	鉄滓	(4.4)	(7.6)	(1.8)	70.2	弱く磁着する	11002186
図205-6	ST11141	T-40周溝覆土	鉄滓	3.85	5.6	1.7	45.7		11002326
図205-7	SH11139		鉄滓	3.1	4.4	1.5	18.4		11001960
図205-8	ST11067	P-38墳丘部	鉄滓	4.1	4.2	1.7	26.2	鍛冶滓(炉底)	11002313
図205-9	ST11067	P-38墳丘部	鉄滓	3.7	5.3	1.3	21.8		11002312
図205-10	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	3.8	4.3	2.3	33.9		12000020
図205-11	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	3.3	4.5	2.4	43.8		12000021
図205-12	SH11147	覆土	鉄滓	3.0	5.4	1.8	25.9		11001966
図205-13	ST11158	北包含層	鉄滓	4.2	3.7	2.1	40.7		11002334
図205-14	SH11149		鉄滓	4.0	3.5	1.7	15.0		11001971
図206-1	ST11067	P-38墳丘部	鉄滓	3.2	4.6	0.9	12.3	流動滓	11002305
図206-2	SD11132	覆土	鉄滓	2.75	4.4	1.8	25.2		11002205
図206-3	SH11139		鉄滓	1.4	3.4	1.5	14.1		11001961
図206-4	SH11112	覆土	鉄滓	2.9	2.5	2.1	18.9		11001951
図206-5	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	2.8	3.9	2.2	21.6		12000018
図206-6	ST11067	O-38	鉄滓	2.9	2.8	0.6	5.7		11002316
図206-7	ST11067	P-38墳丘部	鉄滓	2.2	2.6	1.3	5.4	炉底	11002309
図206-8	ST11067	O-38周溝および内側	鉄滓	2.8	3.4	1.8	14.2		11002307

表110　11・12・13区出土鍛冶関連遺物一覧表（3）

＊法量の（ ）は復元値

挿図番号	出土遺構	出土地点	種別 器種	法量（cm・g）				備　考	登録番号
				長	幅	厚	重量		
図206-9	SD11040	覆土	鉄滓	2.55	3.2	1.2	7.3		11002202
図206-10	SH11147	覆土	鉄滓	2.5	3.3	1.0	13.2		11001967
図206-11	ST11002	R-36周溝覆土	鉄滓	2.3	3.2	1.7	12.7		12000013
図206-12	ST11067	P-38墳丘部	鉄滓	1.8	2.9	1.5	7.9	炉底	11002308
図206-13	ST11067	O-38周溝および内側	鉄滓	1.7	3.1	1.1	5.2		11002306
図206-14	SD11132	覆土	鉄滓	2.7	2.8	1.55	8.3		11002204
図206-15	SH11176	清掃中	鉄滓	2.0	2.9	1.7	7.6		11001977
図206-16	ST11067	P-37周溝覆土	鉄滓	(1.9)	(2.9)	(1.3)	7.8		11002248
図206-17	SD11197	覆土	鉄滓	2.2	2.75	0.8	9.3		11002207
図206-18	SH11061	覆土	鉄滓	1.7	2.5	0.9	2.8		11001947
図206-19	SH11061	覆土	鉄滓	2.2	2.9	0.9	6.9		11001948
図206-20	SH11081	覆土	鉄滓	3.1	2.0	1.1	5.0		11001949
図206-21	SH11139		鉄滓	2.7	1.2	1.2	4.3		11001958
図206-22	SH11176	清掃中	鉄滓	1.9	1.9	1.4	4.1	炉融片	11001978
図206-23	SD11040	覆土	鉄滓	1.75	2.5	1.35	5.5	羽口または炉底の炉融片	11002203
図206-24	SH11176		鉄滓	3.3	4.3	2.7	23.0	炉融片	11001979
図206-25	ST11002	R-36周溝覆土	粘土塊	(3.8)	(7.7)	(2.6)	53.7		12000012
図206-26	ST11067	P-37周溝覆土	粘土塊	(3.3)	(5.1)	(3.0)	29.4		11002247
図206-27	ST11002	R-36	粘土塊	(3.3)	(4.5)	(2.5)	29.6		11002349
図207-1	ST11067	P-38　P-37 墳丘部	土製品 羽口	6.5	8.3	6.4	139.3	胎土に径2ミリの砂粒を多く含む	11002245 11002246
図207-2	ST11158	下層Y-42・43	土製品 羽口	(4.4)	(6.5)	4.5	79.6	胎土に砂粒を含まない	11002332
図207-3	SH11190		土製品 羽口	3.1	3.7	3.6	21.9	胎土に砂粒を含まない	11001980
図207-4	13区包含層	W-46攪乱	土製品 羽口	10.2	7.6	3.0	236.0	胴部に断面弧状の溝あり	08000817

表111　12区出土未実測鉄片一覧表（1）

＊法量の（　）は復元値

番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考
					長	幅	厚	重量	
1	SH12027	埋土(下)	鉄片	棒状	4.1	0.8	0.2	1.8	
2	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.7	0.7	0.4	1.8	
3	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.6	0.9	0.7	4.2	
4	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.5	0.5	0.5	1.8	
5	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.4	1.0	0.5	4.1	
6	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.4	0.9	0.5	5.0	
7	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.3	1.1	0.9	6.7	
8	SH12027	埋土	鉄片	棒状	3.3	0.9	0.3	2.0	
9	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.3	1.6	0.5	2.1	
10	SH12027	埋土	鉄片	棒状	3.2	0.9	1.0	4.7	
11	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.0	1.5	0.6	4.4	
12	SH12027	1層	鉄片	棒状	3.0	0.6	0.5	1.8	
13	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.9	0.8	0.4	1.2	
14	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.9	1.0	0.5	1.7	
15	SH12027	埋土№11	鉄片	棒状	2.9	0.7	0.3	0.9	
16	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.8	1.0	0.5	4.4	
17	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.8	0.4	0.4	1.5	
18	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.7	0.4	0.5	1.0	
19	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.7	0.9	0.4	2.5	
20	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.6	0.6	0.4	0.9	
21	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.6	1.3	0.5	2.8	
22	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.5	0.6	0.3	1.2	
23	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.4	0.6	0.3	1.4	
24	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.3	1.1	1.1	6.5	
25	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.2	0.9	0.4	2.3	
26	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.2	0.6	0.6	1.8	
27	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.1	0.9	0.3	1.3	
28	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.1	0.5	0.3	0.9	
29	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.1	0.7	0.4	2.4	
30	SH12027	埋土	鉄片	棒状	2.1	0.7	0.3	0.9	
31	SH12027	1層	鉄片	棒状	2.0	1.7	1.1	4.7	
32	SH12027	焼土(北)	鉄片	棒状	2.0	0.3	0.3	0.4	
33	SH12027	1層	鉄片	棒状	1.1	1.0	0.4	1.9	
34	SH12027	1層	鉄片	棒状	0.5	1.0	0.7	4.1	
35	SH12027	1層	鉄片	板状	3.1	1.4	0.4	4.1	
36	SH12027	1層	鉄片	板状	2.9	2.3	0.3	3.8	
37	SH12027	埋土	鉄片	板状	2.9	1.8	0.7	7.5	
38	SH12027	埋土	鉄片	板状	2.9	1.3	0.5	6.0	
39	SH12027	埋土	鉄片	板状	2.8	1.6	0.7	6.1	
40	SH12027	1層	鉄片	板状	2.5	1.7	0.3	4.3	
41	SH12027	1層	鉄片	板状	2.0	1.0	0.6	1.7	小鉄片
42	SH12027	埋土	鉄片	板状	1.8	1.4	0.3	1.6	小鉄片
43	SH12027	1層	鉄片	三角	3.8	2.1	0.4	5.8	
44	SH12027	埋土	鉄片	三角	2.6	1.7	1.2	10.1	
45	SH12027	1層	鉄片	三角	2.6	1.7	0.5	3.9	
46	SH12027	1層	鉄片	弧状	3.5	1.7	1.1	6.2	円形
47	SH12027	1層	鉄片	台形	2.3	1.4	0.5	2.5	小鉄片
48	SH12028	1層	鉄片	棒状	4.3	1.7	0.5	7.1	
49	SH12028	上層	鉄片	棒状	4.2	1.3	0.7	5.5	

表112　12区出土未実測鉄片一覧表（2）

＊法量の（　）は復元値

番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考
					長	幅	厚	重量	
50	SH12028	1層	鉄片	棒状	3.6	0.6	0.5	2.4	
51	SH12028	上層	鉄片	棒状	3.6	0.7	0.4	1.9	
52	SH12028	上層	鉄片	棒状	3.1	0.9	0.5	2.3	
53	SH12028	下層	鉄片	棒状	3.0	1.1	0.9	4.1	茎状
54	SH12028	上層	鉄片	棒状	2.7	0.8	0.4	1.9	
55	SH12028	1層	鉄片	棒状	2.4	0.7	0.5	1.9	
56	SH12028	埋土	鉄片	棒状	2.4	0.5	0.2	0.5	
57	SH12028	下層	鉄片	棒状	2.3	0.9	0.4	1.7	
58	SH12028	1層	鉄片	棒状	1.5	0.7	0.7	1.2	
59	SH12028	上層	鉄片	板状	3.2	1.9	1.1	7.8	方形
60	SH12028	上層	鉄片	板状	2.6	2.6	1.1	10.9	方形
61	SH12028	上層	鉄片	板状	2.6	1.2	0.6	5.0	方形
62	SH12028	上層	鉄片	三角	3.2	2.3	0.5	4.1	
63	SH12028		鉄片	三角	2.9	2.1	0.5	5.2	
64	SH12028	包含層	鉄片	三角	2.9	1.5	1.1	7.4	
65	SH12028	上層	鉄片	不明	3.8	1.2	1.2	15.9	
66	SH12028	1層	鉄片	不明	3.4	1.4	0.7	3.8	
67	SH12028	上層	鉄片	不明	2.3	1.6	1.0	4.2	
68	SH12028	上層	鉄片	不明	2.1	1.8	1.0	5.1	
69	SH12028	1層	鉄片	不明	2.0	0.9	0.6	3.4	
70	SH12028	上層	鉄片	不明	1.6	0.9	0.7	7.6	
71	SH12035	1層下№36	鉄片	棒状	4.1	1.0	0.3	2.6	
72	SH12035	D4　1層下	鉄片	棒状	3.7	1.4	0.6	4.3	
73	SH12035	B5　1層下	鉄片	棒状	3.6	0.6	0.5	3.5	
74	SH12035	A4　1層下	鉄片	棒状	3.5	1.0	0.5	3.3	
75	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	3.2	1.0	0.4	2.5	
76	SH12035	A4　2層	鉄片	棒状	3.2	0.7	0.5	6.5	
77	SH12035	B3　2層上	鉄片	棒状	3.0	1.3	0.8	8.4	
78	SH12035	D3　1層	鉄片	棒状	2.9	1.7	0.4	3.1	
79	SH12035	B5　1層下	鉄片	棒状	2.9	0.8	0.4	2.9	
80	SH12035	1層	鉄片	棒状	2.8	0.7	0.3	1.4	
81	SH12035	埋土(上層)	鉄片	棒状	2.8	1.1	0.5	2.7	
82	SH12035	B5　1層下	鉄片	棒状	2.8	0.6	0.6	0.9	
83	SH12035	B5　1層下	鉄片	棒状	2.7	0.6	0.5	2.1	
84	SH12035	埋土(上層)	鉄片	棒状	2.7	0.8	0.6	4.0	
85	SH12035	A3　2層	鉄片	棒状	2.6	0.9	0.5	2.5	
86	SH12035	1層下№37	鉄片	棒状	2.4	0.5	0.3	0.9	
87	SH12035	A4　2層	鉄片	棒状	2.3	1.1	0.6	2.2	
88	SH12035	A5　1層下	鉄片	棒状	2.2	0.7	0.3	1.3	
89	SH12035	C4　1層下	鉄片	棒状	2.2	1.0	0.4	2.1	
90	SH12035	1層	鉄片	棒状	2.1	1.2	0.4	3.4	
91	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	2.1	0.7	0.6	1.4	
92	SH12035	C4　1層下	鉄片	棒状	1.9	0.9	0.3	1.5	
93	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.9	0.6	0.3	1.8	
94	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.9	0.6	0.4	0.6	
95	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.9	0.7	0.4	1.3	
96	SH12035	B2　2層上	鉄片	棒状	1.9	0.5	0.3	1.8	
97	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.8	0.5	0.6	4.2	
98	SH12035	A3　2層上	鉄片	棒状	1.8	0.8	0.6	1.5	

表113　12区出土未実測鉄片一覧表（3）

＊法量の（　）は復元値

番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考
					長	幅	厚	重量	
99	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.7	0.6	0.3	0.2	
100	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.4	0.8	0.3	0.9	
101	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.3	0.5	0.3	0.5	
102	SH12035	B4　1層下	鉄片	棒状	1.3	1.0	0.3	0.9	
103	SH12035	C5　2層上	鉄片	棒状	1.3	1.3	1.2	2.3	
104	SH12035	C4　1層下	鉄片	板状	2.8	0.6	1.5	5.4	
105	SH12035	A4　1層下	鉄片	板状	2.6	1.9	0.7	6.6	
106	SH12035	1層	鉄片	板状	2.5	0.6	0.4	4.4	半円
107	SH12035	C5　2層上	鉄片	板状	1.9	1.7	0.2	3.3	
108	SH12035	C4　1層下	鉄片	板状	1.6	1.2	0.4	2.7	小鉄片
109	SH12035	土坑3№62	鉄片	棒状	4.1	1.4	0.6	5.1	
110	SH12035	2層	鉄片	小鉄片	1.2	0.8	0.3	0.6	
111	SH12035	1層下	鉄片	小鉄片	1.1	0.4	0.3	0.4	
112	SH12035	1層下№48	鉄片	不明	3.6	0.9	0.8	6.6	
113	SH12036	上層	鉄片	棒状	2.5	1.1	0.3	1.8	
114	SH12036	SK埋土	鉄片	棒状	2.4	1.3	0.3	2.3	
115	SH12036	上層	鉄片	棒状	2.2	0.8	0.4	2.3	
116	SH12036	上層	鉄片	棒状	1.8	0.9	0.3	1.1	
117	SH12036	上層	鉄片	板状	2.4	1.5	0.7	3.3	小鉄片
118	SH12036	上層	鉄片	板状	2.2	1.4	0.3	1.7	
119	SH12036	上層	鉄片	板状	1.8	1.9	1.8	8.0	
120	SH12036	上層	鉄片	三角	1.9	0.9	0.2	1.6	
121	SH12036	上層	鉄片	三角	1.8	1.7	0.5	4.1	
122	SH12036	上層	鉄片	叉状	1.8	1.9	0.6	2.6	
123	SH12041	1層	鉄片	棒状	3.9	1.0	0.4	2.9	
124	SH12041	1層	鉄片	棒状	3.4	0.6	0.5	2.6	
125	SH12041	1層	鉄片	棒状	3.3	0.8	0.5	2.2	
126	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.9	0.5	0.2	0.7	
127	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.9	0.7	0.3	1.7	
128	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.4	0.3	0.1	0.7	
129	SH12041	2層	鉄片	棒状	2.4	0.4	0.2	0.6	
130	SH12041	SK埋土	鉄片	棒状	2.4	1.2	0.4	1.2	
131	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.4	0.4	0.3	0.7	
132	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.2	0.7	0.4	1.0	
133	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.1	0.6	0.2	1.0	
134	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.1	0.4	0.3	0.5	
135	SH12041	1層	鉄片	棒状	2.0	0.6	0.1	0.5	
136	SH12041	3層	鉄片	棒状	1.9	0.4	0.2	0.4	
137	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.8	0.6	0.3	0.7	
138	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.8	0.4	0.3	0.4	
139	SH12041	2層	鉄片	棒状	1.7	0.4	0.3	0.8	
140	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.7	0.6	0.2	0.5	
141	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.5	0.5	0.5	0.3	
142	SH12041	3層	鉄片	棒状	1.4	0.3	0.3	0.3	
143	SH12041	2層	鉄片	棒状	1.4	0.7	0.3	0.8	
144	SH12041	2層	鉄片	棒状	1.4	0.7	0.2	0.6	
145	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.4	0.6	0.5	0.9	
146	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.4	0.6	0.3	0.5	
147	SH12041	2層	鉄片	棒状	1.3	0.6	0.3	0.5	

表114　12区出土未実測鉄片一覧表（4）

＊法量の（　）は復元値

番号	出土遺構	出土地点	種別（鉄製品、素材、鉄片）	器種	法量（cm・g）				備　考
					長	幅	厚	重量	
148	SH12041	1層	鉄片	棒状	1.3	0.7	0.2	0.5	
149	SH12041	2層	鉄片	棒状	1.2	0.6	0.5	0.5	
150	SH12041	3層	鉄片	棒状	1.1	0.4	0.2	0.3	
151	SH12041	上層	鉄片	棒状	2.8	1.1	0.2	2.0	
152	SH12041	1層	鉄片	板状	2.4	1.7	0.4	2.5	方形
153	SH12041	2層	鉄片	板状	2.2	1.7	0.3	2.1	方形
154	SH12041	2層	鉄片	板状	2.0	1.0	0.3	1.4	方形
155	SH12041	1層	鉄片	板状	1.3	1.0	0.2	0.5	方形
156	SH12041	2層	鉄片	三角	2.8	1.5	0.9	3.6	
157	SH12041	下層	鉄片	三角	2.2	1.3	0.4	1.4	
158	SH12041	1層	鉄片	三角	1.9	1.2	0.3	1.0	
159	SH12041	2層	鉄片	三角	1.9	1.4	0.4	1.9	
160	SH12041	2層	鉄片	三角	1.8	0.9	0.5	0.8	
161	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	2.0	1.0	0.4	1.7	
162	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.9	1.1	0.3	0.9	
163	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.8	1.3	0.3	0.9	
164	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.7	1.2	0.2	1.4	
165	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.6	1.3	0.3	1.1	
166	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.6	1.3	0.3	1.0	
167	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.5	1.1	0.4	0.7	
168	SH12041	1層	鉄片	小鉄片	1.5	0.6	0.3	0.7	
169	SH12043	1層	鉄片	棒状	3.1	1.2	0.3	1.7	
170	SH12043	1層	鉄片	棒状	2.7	0.8	0.5	2.3	
171	SH12043	埋土	鉄片	棒状	2.2	0.9	0.5	3.7	茎状
172	SH12043	土層ベルト内	鉄片	棒状	2.1	0.6	0.5	1.2	
173	SH12043	1層	鉄片	棒状	2.0	1.1	0.4	1.7	
174	SH12043	上層	鉄片	棒状	1.9	0.9	0.3	1.6	茎状
175	SH12043	土層ベルト内	鉄片	棒状	1.5	0.4	0.3	0.4	
176	SH12043	1層	鉄片	板状	4.7	1.6	0.8	26.4	方形
177	SH12043	1層	鉄片	板状	3.5	3.5	0.8	20.6	方形
178	SH12043	1層	鉄片	板状	3.1	3.1	1.0	13.9	方形
179	SH12043	1層	鉄片	板状	2.6	1.7	0.7	4.8	方形
180	SH12043	1層	鉄片	板状	2.3	1.5	0.4	3.5	方形
181	SH12043	1層	鉄片	板状	2.2	1.8	0.4	3.5	方形
182	SH12043	下層	鉄片	板状	2.0	1.9	0.4	2.4	
183	SH12043	1層	鉄片	板状	1.8	1.7	0.3	1.7	方形
184	SH12043	1層	鉄片	三角	4.0	1.7	0.6	6.1	
185	SH12043	覆土（上層・北西側）	鉄片	三角	3.9	1.4	0.5	3.2	
186	SH12043	1層	鉄片	三角	2.7	1.3	0.3	2.1	
187	SH12043	埋土	鉄製品	鉄塊	7.2	2.1	1.4	82.2	
188	SH12043	1層	鉄片	不明	2.2	1.6	0.3	2.5	
189	SH12043	1層	鉄片	不明	2.0	1.6	0.5	2.8	
190	SH12043	1層	鉄片	不明	1.3	1.2	0.6	3.1	

Ⅷ. 総括

1，中原遺跡の弥生時代後期後半～古墳時代前期の集落と墳墓

小松　譲

（1）はじめに　時期と出土状況

本遺跡では弥生時代中期から奈良時代～平安時代前期までの長期間にわたる集落と墳墓跡を検出した。

なかでも弥生時代中期、後期後半～終末、古墳時代初頭の墳墓群は副葬品が出土した厚葬墓を多く検出しており当該期の社会構造を考える上でも貴重な事例になった。弥生時代中期の甕棺墓群は『中原遺跡Ⅳ』2010 年刊、弥生時代後期後半～終末、古墳時代初頭の墳墓群は『中原遺跡Ⅵ』2012 年刊で既報告である。さらに『中原遺跡Ⅶ』2013 年で弥生～古墳時代の集落を報告し、同時期の集落構造の変遷について述べた。

本項では本書に掲載した 9-2 区の掘立柱建物群の時期や変遷などを整理した上で、集落と厚葬墓が確認できた弥生時代終末から古墳時代前期の集落や墳墓についてまとめ、今後の研究資料として寄与したい。

（2）９- ２区の掘立柱建物群について

9-2 区では 21 棟の掘立柱建物を検出した。桁行×梁行、1 間× 1 間が 17 棟であり、桁行 3 間が 4 棟である。床面積は 1 間× 1 間が約 4㎡～約 11.5㎡で、桁行 3 間が約 18㎡～約 20㎡と明瞭な差が認められる。以下、掘立柱建物の時期及び群構成について考察する。

①　柱穴出土土器からみた建物群の時期

掘立柱建物跡柱穴出土土器については本書 78 頁に記す。土器小片が大半であるため図化していない。同一建物でも柱穴出土土器は新旧の時期が混じって出土しているのが現状であり、これは柱抜き取り後の流れ込みや柱穴埋土に建築時期より古い時期の土器が混入するなどの理由が考えられる。そのため、柱穴出土土器は最新時期の土器を時期決定に用いることにする。以下が柱穴から土器が出土した掘立柱建物である。

SB9029 は布留甕胴部小片や土師器小片の出土から建物の時期は古墳前期である。

SB9049 は全ての柱穴で柱根が遺存し、埋土中から土師器胴部小片 2 点が出土している。柱穴埋土に流れ込みは考えにくいため、建物の時期は古墳前期である。

SB9050 は柱根が遺存する柱穴から弥生土器胴部片 1 点が出土している。

SB9051 は 2 基の柱穴から弥生後期の土器片計 6 点が出土している。建物の時期は弥生後期と考えられる。

SB9057 は 2 基の柱穴から土師器片が出土している。建物の時期は古墳前期と考えられる。

SB9058 は柱根が遺存する 3 基の柱穴から土師器片が出土している。建物の時期は古墳前期である。

SB9062 は柱根が遺存する柱穴から弥生後期の胴部片 2 点が出土している。建物の時期は弥生後期である。

SB9063 は柱根が遺存する 2 基の柱穴から弥生後期の土器片 3 点が出土している。建物の時期は弥生後期である。

SB9065 は 2 基の柱穴から土師器片 2 点が出土している。建物の時期は古墳前期と考えられる。

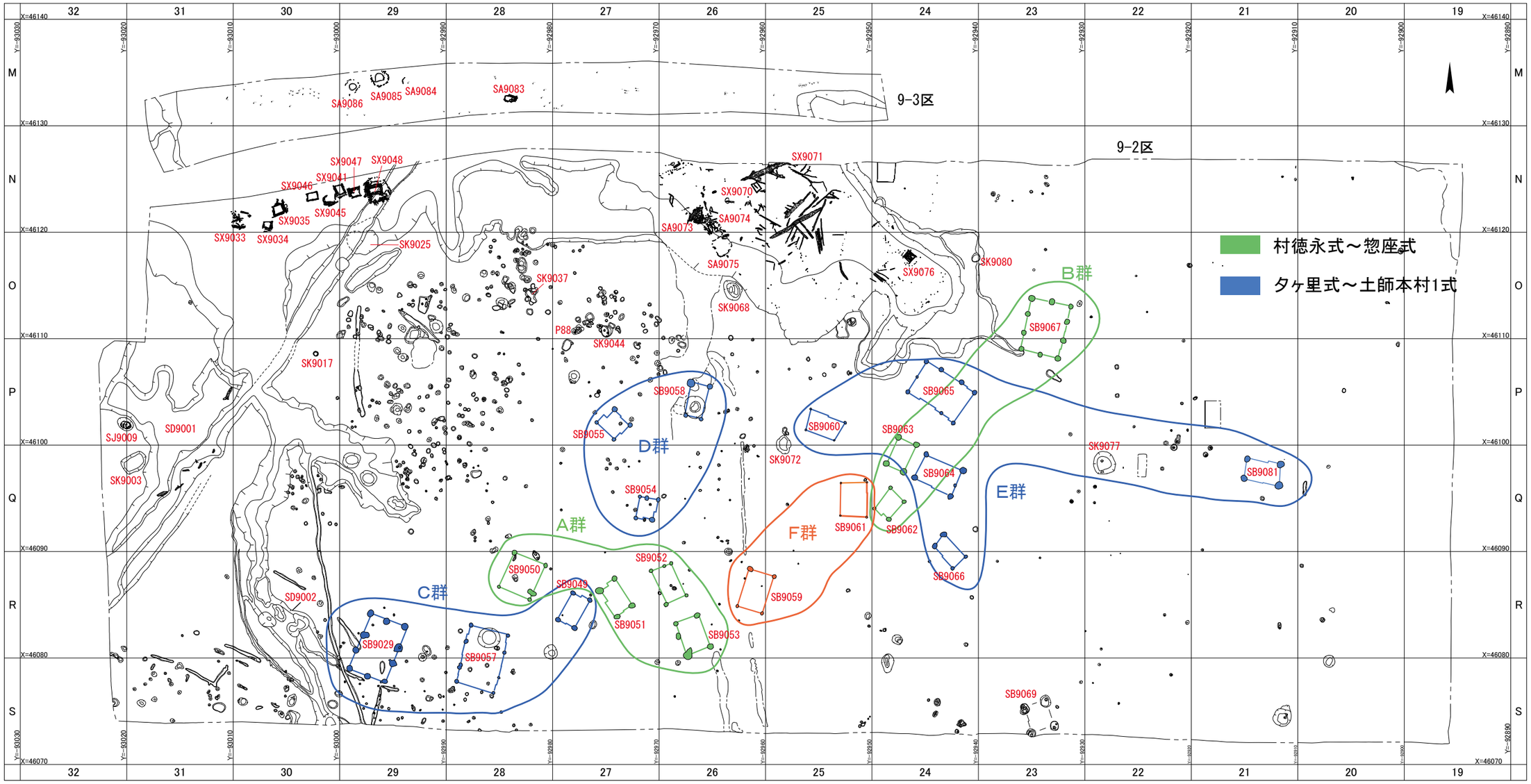


図208　９区掘立柱建物群構成（1/400）

SB9067 は柱穴から弥生後期の土器片 1 点が出土している。建物の時期は弥生後期と考えられる。

SB9081 は柱根が遺存する 1 基の柱穴から土師器片 1 点が出土している。建物の時期は古墳前期である。

柱穴出土土器はその多くが小片で細かな時期決定が困難であるが、本遺跡の集落形成や 9-2 区の谷部から、ねずみ返しなどの建築部材とともに弥生時代後期後半～古墳時代前期の遺物が出土しているため、建物群の時期はこの中に収まると考えられる。土器編年では村徳永式新段階から土師本村 1 式にあたる。

柱穴出土土器から建物の時期を決定するにあたり、時期比定がほぼ確実な建物とそうでないものがある。そこで、建物主軸、配置を加味して建物の群構成を考えていく。

②　建物主軸、配置による建物群構成

図 208 の遺構配置図をみてもわかるように、建物群の主軸は桁行方向が東にふれる一群と西にふれる一群がある。主軸が同一方向で、かつ近接する建物群は同時期の可能性が高いと思われる。柱穴出土土器による建物の時期と建物主軸により群構成を推定することができる。その結果、3 棟から 5 棟を 1 つの群とする建物群として A 群～ F 群の 6 群が抽出できた（図 208 参照）。

A 群は SB9050、SB9051、SB9052、SB9053 の 4 棟からなる。SB9051 は弥生後期であり、主軸を同じくする SB9052、SB9053 が並ぶ。SB9050 は C 群と主軸を同じにするが C 群は古墳前期であり、柱穴出土土器による時期決定を優先し A 群とした。

B 群は SB9062、SB9063、SB9067 の 3 棟からなる。SB9062、SB9063 は弥生後期であり、主軸を同じくする SB9067 がやや離れて並ぶ。SB9063 と SB9067 の間に主軸の異なる古墳時代前期の SB9055 がある。

C 群は SB9029、SB9049、SB9057 の 3 棟からなる。これら 3 棟は古墳前期である。

D 群は SB9054、SB9055、SB9058 の 3 棟からなる。SB9058 は古墳前期であるが、SB9054、SB9055 は柱穴出土土器がない。SB9055 は主軸が異なるが、隣接して立てられるため同群とした。

E 群は SB9060、SB9064、SB9065、SB9066、SB9081 の 5 棟からなる。SB9065、SB9081 は古墳前期であり、主軸を同じくする SB9060、SB9064、SB9066 が並列して立てられる。

F 群は SB9061、SB9059 の 2 棟からなる。A 群と B 群の間に挟まれる。柱穴出土土器がなく、主軸を南北方向にとるなど、他の建物群の主軸と異なる。時期は不明である。

以上のことから、弥生時代後期後半～終末に A 群 4 棟、B 群 3 棟が、古墳時代前期に C 群 3 棟、D 群 3 棟、E 群 5 棟の建物群があったことが判る。但し、これ以上の各群の細かな時期や前後関係などは不明である。

③　柱根からみる建物形態・高床倉庫と側柱建物

本建物群では柱穴出土柱根の遺存状態が良好であった。SB9062、SB9063、SB9064、SB9081 の柱根を PL11 ～ 13、PL16 に、それぞれ掲載する。直径は約 20cm ～ 22cm で表面には加工痕が残る。以上の 4 棟はすべて 1 間× 1 間である。この他の建物で径約 15cm ～約 20cm の柱根が遺存しているのはすべて 1 間× 1 間である。1 間× 1 間という建物規模に対して柱根の太さを考えると高床建物であると考えられる。

同じ調査地区から建築部材であるねずみ返し 3 点が出土している。平面隅丸方形の板材中央に一辺 8cm ～ 9cm の方形の孔を穿つ。1 間× 1 間の建物の床面積は約 4㎡～約 11.5㎡である。竪穴住居の床

面積と比べると約半分にも満たない。床面積から考えても高床住居ではなく、ねずみ返しの出土も加味すると高床倉庫と考えられる。

桁行３間は４棟みられ、梁間は１間と２間がある。SB9057 は梁間１間であるが、梁行が 3.6 ｍと長い。床面積は約 18㎡～約 20㎡で１間×１間の建物群と明瞭な差がある。SB9057、SB9065 は柱穴が小さく、遺存する柱根は径 10cm 前後と１間×１間の建物群に比べると小さい。

筆者は弥生時代の掘立柱建物について論じたことがある（小松 2000）。掘立柱建物を主とする集落は主に低地に立地し、標高 10m 以下、平均 5.8m である。梁行１間の建物が大半を占め、これらは高床倉庫群と考えた。本調査区も標高約 3.5 ｍの低地部であり、掘立柱建物群のみで構成される。砂丘微高地上に竪穴住居からなる居住区を、低地部に高床倉庫群を形成したと考える。桁行３間以上の建物は側柱建物であり、作業施設や工房など居住以外の施設と考える。

桁行３間以上の側柱建物の性格を同地区出土石器から考察する。図 77 ～ 80 に 9-2、9-3 区出土石器を掲載する。石器群の組成をみると敲石、砥石の比率が多いことが明瞭に判る。本遺跡では鍛冶関連遺物が出土しているため、敲石は鍛冶の使用痕の有無について観察したが、鉄片が敲打部に貫入するなどの使用痕は確認できなかった。従って、9-2、9-3 区出土の敲石は堅果類などを粉状するために用いたことが推定できる。敲石は図 77-7 ～ 9、図 78-1 ～ 5 がある。敲石とセットになる台石が図 78-6 であり、基底部は舟形状に加工する。基底側面の色調が黒褐色になり地面に据え付けた痕跡が残る。

砥石も多く出土している。図 79-1 ～ 7、80-1 ～ 3 である。使用痕として鉄器を研いだ痕跡を見出すことはできなかったが、本遺跡は弥生後期後半に鍛冶を行い、鉄製農工具の保有率が高いことは本書で記述したとおりである。砥石も鉄製農工具に用いたことが推察できる。

9-2 区の北側および 13 区南側の低地部には木組遺構や環状杭列がある。これらの施設は堅果類のアク抜きや木製品の素材や建築部材の素材などの水漬けのためのものと思われる。堅果類を粉状に敲き潰すことに用いたのが敲石、台石であり、木製品を加工する鉄製工具や農作業や土木作業に用いた鉄製農工具を研ぐ為の砥石であろう。これらが 9-2、9-3 区から出土していることを考えるならば、側柱建物は以上のような作業を行う施設と考えられる。1 間×１間の高床倉庫に付随して側柱建物があることもそのことを物語る。

（３）砂丘微高地上の集落と低地の高床倉庫群

11 区～ 13 区 では弥生時代から古墳時代の竪穴住居跡 112 軒、掘立柱建物跡 22 棟を確認した。この調査結果は 2013 年刊『中原遺跡Ⅶ』に掲載し、「中原遺跡の弥生時代～古墳時代集落構造の変遷」について考察した。やや重複するが、以下、前稿を要約する。図 209 に集落変遷図を掲載する。

9-2 区の建物群と同時期の村徳永式～惣座式は竪穴住居跡 40 軒、掘立柱建物跡５棟である。但し村徳永式～千住式古段階の遺構は少なく、多くは千住式新段階～惣座式にかけての遺構である。A 群７軒は鍛冶関連の工房と推定した。この中の SH11231 は鉄片、鉄製品の出土量が他の６軒に比べて少なく、工房とするには無理があり B 群に入れた方がいいのかもしれない。B 群８軒、C 群竪穴住居９軒、掘立柱建物１棟、D 群竪穴住居 10 軒、掘立柱建物３棟である。空間地（広場）を環状に囲む８軒から 10 軒の竪穴住居群３群と鍛冶関連の工房群が砂丘微高地全域に形成される。

夕ヶ里式～土師本村１式は竪穴住居 23 軒、掘立柱建物１棟が砂丘微高地の東南部の約 40m ～ 55m の範囲に密集し、その他に砂丘微高地に散在して分布する。竪穴住居は２軒の切り合いが５組みられることや、設定した時期幅を考慮にいれるならば、この中で群構成と時期の変遷が認められるだろうが、

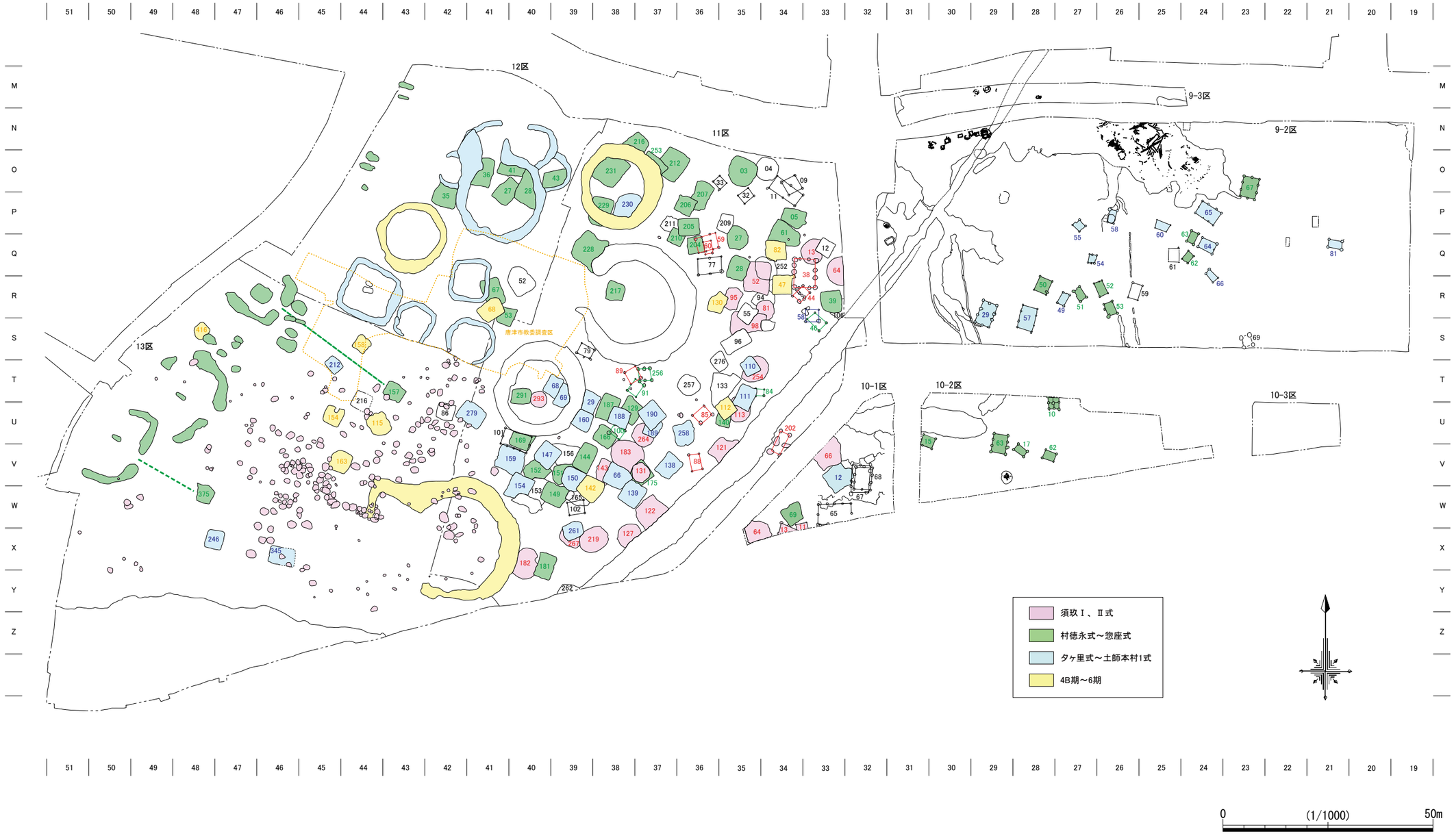


図209　集落変遷図（1/1,000）

土器編年の問題などもあってこれ以上の分析は避ける。

砂丘微高地上の竪穴住居群 A 群は鍛冶工房であり、B 群、C 群、D 群はそれぞれ婚入者を含む血縁集団であり居住集団と呼称する。本遺跡では 3 つの居住集団があり、この中に鍛冶工人集団が含まれる。鍛冶工人集団は他地域からの移住が推察され、中原集落は在地人からなる居住集団と鍛冶工人集団から成立したことが予想される。

鍛冶工房群は古墳時代前期の前方後円墳で壊される。このことは弥生時代後期後半～終末の鍛冶工房の消失と鍛冶工人の移動を意味する。古墳時代には前方後円墳という新たな墓制が到来し、国内の社会構造や組織変革がもたらされる。本遺跡でも古墳時代前期に居住集団の移動もしくは集落内部の再編が行われ、新たな鍛冶技術をもった工人集団が入植したと考えられる。

以上が砂丘微高地上に立地する居住域であり、同時期に低地部である 9-2 区に高床倉庫群や側柱建物からなる倉庫群が形成される。さらに 10-2 区にも桁行×梁行、3 間× 2 間の側柱建物 1 棟、1 間× 1 間の掘立柱建物 3 棟、2 間× 2 間の総柱建物 1 棟が群をなし、側柱建物 1 棟と高床倉庫 4 棟からなる建物群を形成する。その時期は弥生時代後期後半～終末であり、同時期の建物群が 9-2 区の A 群と B 群である。

居住域と倉庫群は約 30m ～ 100m 程離れるが、砂丘微高地という限られた空間地に複数の集団が居住域と各集団の首長墓を設けた結果、約 30m ～ 100m 程離れた低地部に高床倉庫群を設けたと思われる。

高床倉庫群の管理主体の問題は当該期の社会構造を考える上で重要な問題である。弥生時代後期後半～終末期の居住集団が鍛冶集団を含め 4 群あり､約 30m ～ 100m 程離れて高床倉庫群が 3 群みられる。居住集団としての竪穴住居群と高床倉庫群の時期と分布から考えれば、居住集団と高床倉庫群はそれぞれ対応すると考えられる。中原遺跡のそれぞれの居住集団は高床倉庫や作業施設としての側柱建物を有する優位な集団であったと考えられる。

（4）墳丘墓と竪穴建物（図 210）

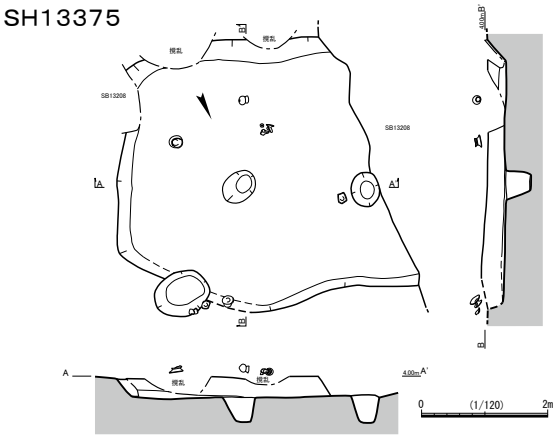
弥生時代後期後半～終末期の墳丘墓 3 基は『中原遺跡Ⅵ』2012 年刊で報告した。3 基の墳丘墓は砂丘微高地の西縁辺に並ぶ平面方形の区画墓で、墳丘東辺のほぼ中央に陸橋部をもつ。これらの時期については、ST13398 墳丘墓は千住 2 式新段階～惣座 0 式、ST13414 墳丘墓は惣座 0 式、ST13415 墳丘墓は惣座 1 式であり連続して築造される。

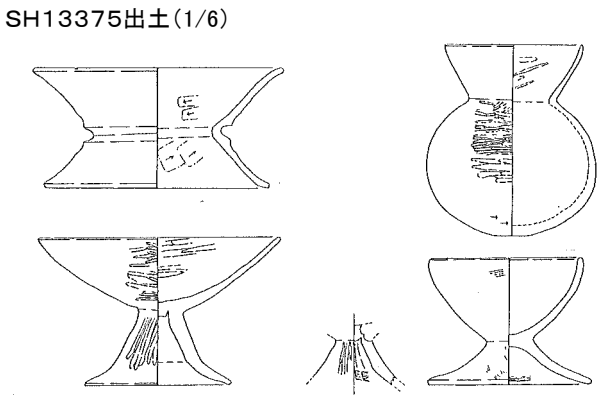
本遺跡の集落の分析作業中に他の竪穴住居群から孤立して立地する竪穴住居（以下竪穴建物と呼称する）SH13157、SH13375 の 2 軒に注目した。SH13375 竪穴建物は平面長方形の二本主柱穴であり、建物西側は近世の掘立柱建物で切られる。ST13398 墳丘墓主体部と主軸を同じにし、直線で約 22 m 離れる。また、SH13157 竪穴建物は平面長方形で主柱穴は不明瞭で規模は 4.70m × 4.08m である。ST13415 墳丘墓主体部と同主軸で、直線で約 34 m離れる。

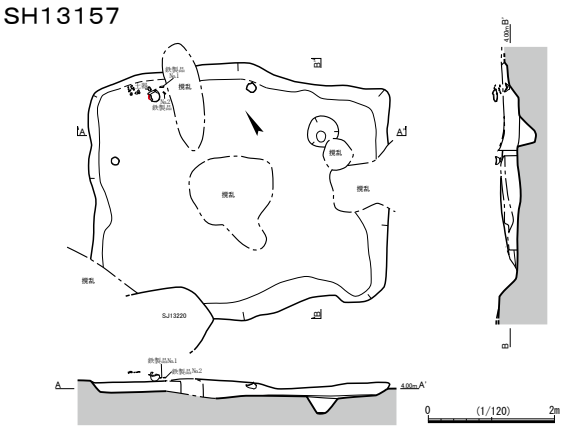
遺構の立地からみても両竪穴建物はそれぞれの墳丘墓に不随した遺構であり、竪穴建物と両墳丘墓の陸橋部を通過し主体部を結ぶ主軸は通路と推察される。SH13157、SH13375 竪穴建物はそれぞれの墳丘墓に不随して計画的につくられた施設と思われる。

ST13415 墳丘墓の陸橋部を塞ぐように SP13230 木棺墓、SP13231 木棺墓、SK13251 土壙墓、SK13252 土壙墓、SK13265 土壙墓からなる木棺墓、土壙墓群が造られ、A 群として報告した。ST13415 墳丘墓主体部から陸橋部を通過し SH13157 竪穴建物へのびる通路を想定すると、SP13231









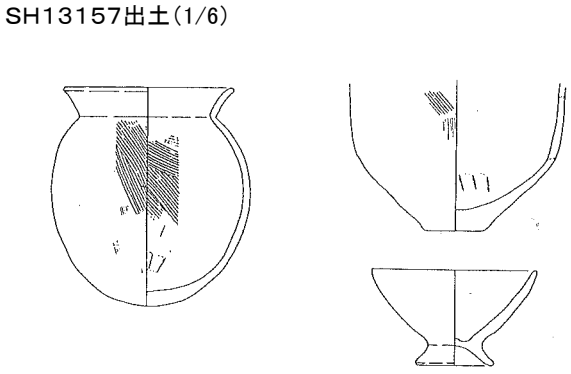


図210　墳丘墓と竪穴建物

木棺墓と SK13265 土壙墓はその通路の両側に同主軸で造られている。その後、SK13251 土壙墓と SK13252 土壙墓が通路上に造られたと考えられる。以上のように墳丘墓から陸橋部を通過し竪穴建物へのびる通路を復元することによって木棺墓、土壙墓群の形成過程が明確になった。

これら墳丘墓や木棺墓、土壙墓群は溝口孝司氏の説く区画墓Ⅲにあたり、被葬者が家族的な単位であるとともに、あらかじめそこに葬られることを前提として区画・墓地構造がデザインされているようにみえる。上位者層のなかのリーダーの存在が墳丘墓の中心主体部の明瞭化として顕在化しており（溝口 2001）、墳墓群の構造から社会組織構造が伺える。

① 墳丘墓に付随する竪穴建物類例（図２１１）

本遺跡の墳丘墓に不随する竪穴建物は陸橋部の延長上に立地する点など、前方後方墳の出現にも関わる問題として興味深い。同様の事例は管見にはないが、墳丘墓に不随する竪穴建物の事例があるため紹介し、竪穴建物で執行された儀礼について推定したい。

会下和宏氏（2013）は墳丘墓に関連する遺構の事例として墳丘上の柱穴群・建物跡・土坑や墳丘周囲の竪穴建物跡・土坑・柱穴などの事例を整理した。京都府与謝野町日吉ヶ丘墳丘墓では SZ01 と SZ02 の 2 基の墳丘墓の墳丘上にそれぞれ円形の竪穴建物や 2 × 3 間の総柱建物跡がある。これらの建物は墳丘盛土によって埋められた可能性があり、墳丘の完成に先行するものである。

島根県安来市宮山Ⅳ号墓では南西突出部に隣接して竪穴建物が検出されている。平面隅丸方形で規模は 5.4 m× 5.6 mである。被熱した板石や焼土、鼓形器台 1 点が出土した。建物が使用された期間と墳丘墓主体部墓壙埋め戻しの前後関係は不明で、建物で執行された儀礼の復元も困難である。

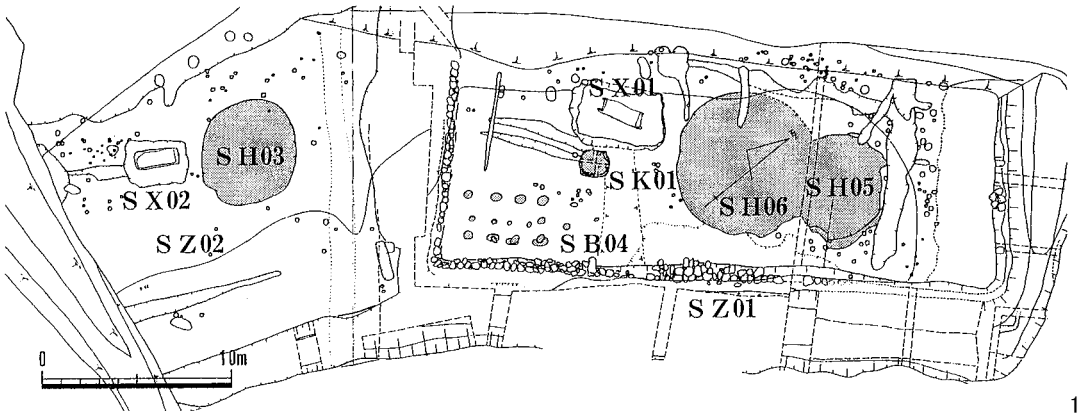
本遺跡の竪穴建物は出土土器からともに惣座式として報告した。この見解が正しいなら墳丘墓の築造時期と同時期と考えられるが、SH13375 出土土器群を久住Ⅱ C 期とする意見もあり、ST13398 墳丘墓築造後も SH13375 竪穴建物は祭祀儀礼の施設として機能していたことになる。日吉ヶ丘墳丘墓や宮山Ⅳ号墓のように墳丘上や隣接した建物と本例では竪穴建物内で執行された祭祀行為が異なることが推察され、前方後円墳や前方後方墳にみられるような古墳時代により近い祭祀儀礼だったと考えたい。

佐賀県唐津市双水柴山 2 号墳（唐津市教育委員会 1987）は古墳時代初頭の前方後円墳であり、本遺跡から約 2.5km 離れる。くびれ部裾で 3 棟の掘立柱建物が検出された。報告書は建物群を 3 期に分け、葬送儀礼に伴う建物群と考えている。当地において墳墓の祭祀儀礼が普遍化していたことを示す資料である。

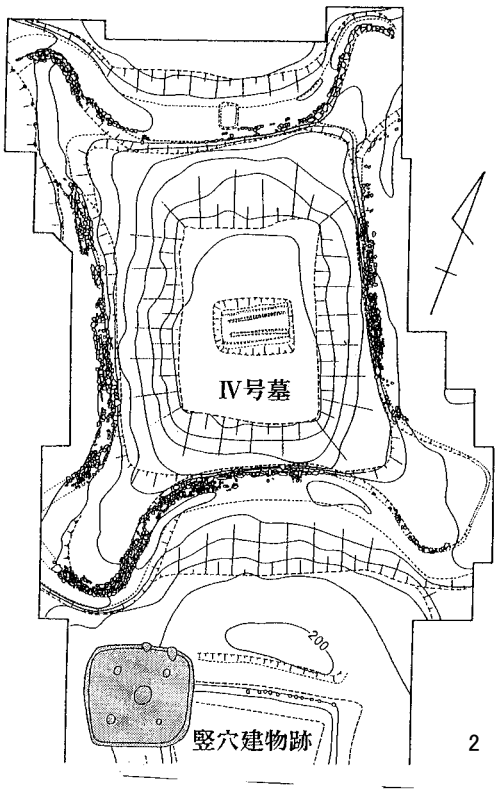
（5）墳丘墓祭祀の主体者

本遺跡の墳丘墓の被葬者像や祭祀行為の主体者についてふれたい（図 212 参照）。3 基の墳丘墓は平面方形の区画墓で、墳丘東辺のほぼ中央に陸橋部をもち、墳裾に貼石を巡らす。平面形態や規模が最も類似するのは福岡県糸島市平原 1 号墓（前原市教育委員会 2000）である。周溝の東南隅が幅 3.8 m切れて陸橋部を形成する。墳丘平面は隅丸長方形で周溝内径は 13.5m × 9m である。周溝内には部分的ながら径 10 ～ 40cm 大の自然石が流入しており、墳丘上に貼石や葺石が想定される。

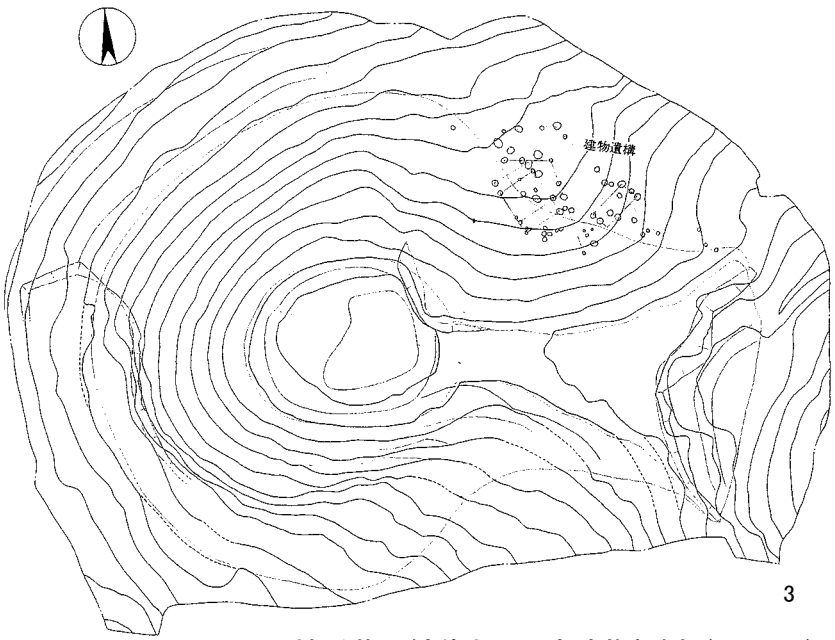
弥生時代中期後半では同県同市の三雲南小路遺跡や井原塚廻遺跡（前原市教育委員会 1992）で甕棺墓を中心主体部にした区画墓がみられる。規模は異なるものの平面方形で南西隅が切れて陸橋部を形成する。以上の類例から北部九州の玄界灘沿岸地域では平面方形を基調とする区画墓が弥生時代中期後半から出現していることが判る。本遺跡の 3 基の墳丘墓もこの系譜上にあたり、中心主体部と陸橋部の位置が定形化したものと考えられる。



1



2



3

1. 京都府与謝野町日吉ヶ丘墳丘墓
2. 島根県安来市宮山Ⅳ号墓
3. 佐賀県唐津市双水柴山２号墳

会下和宏（2013）、唐津市教育委員会（1987）より転載

図211　墳丘墓に付随する竪穴建物類例（1/400）

ST13415 墳丘墓の陸橋部南側の周溝内から高杯などの土器約 20 点が出土している。これらの高杯群はほぼ完形に復元でき、一括して周溝内に廃棄された出土状況であった。これら高杯群について『中原遺跡Ⅵ』で分析した（小松 2012）が、杯上半部形態、外面暗文、円形透かしの数などで極めて規格化された２つの型式が抽出できた。

福岡県糸島市三雲寺口地区Ⅱ -17（福岡県教育委員会 1983）はＬ字状にめぐる溝により区画された石棺墓、甕棺墓と祭祀土坑が調査された。祭祀土坑から高杯が複数個体出土しているが、赤色顔料が塗付された高杯群である。福岡市宮の前 1 号墳丘墓の周溝や墳裾からも高杯群が出土しており、弥生時代後期の玄界灘沿岸地域の厚葬墓から高杯の出土例が目立つがいずれも在地系の高杯群である。墳墓への供え物などを供献するため高杯が用いられたことが伺えるが、祭祀行為や墳墓の類似はそれを執り行う集団間の関係を示す。本遺跡墳丘墓の墳丘形態や在地の高杯を用い祭祀のあり方などは糸島市、福岡市などでも見られることから当該期の北部九州において普遍的なあり方であろう。従って祭祀行為の主体者や被葬者は在地の人々であったと思われる。

（６）墳丘墓及び出土遺物からみた山陰地方の影響

前述の墳丘墓に不随する竪穴建物類例は山陰地域でみられた。これ以外にも本遺跡の墳丘墓や出土遺物において山陰地域との関係があるものが看取でき参考のため以下列挙しておく。

①　鼓形器台

ST13398 墳丘墓に不随する SH13375 竪穴建物から山陰系の土器である鼓形器台（図 210）が出土している。島根県安来市宮山Ⅳ号墓の竪穴建物でも鼓形器台 1 点が出土しており、竪穴建物内において鼓形器台を用いた祭祀が執り行われたと考えられる。

②　墳丘墓の貼石、葺石

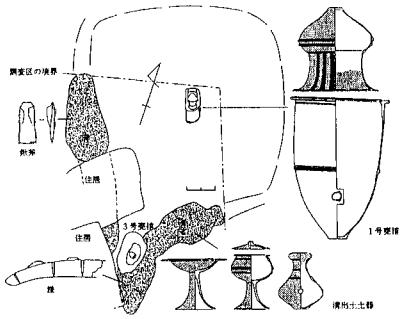
3 基の墳丘墓の周溝から人頭大の石材が出土している。これらは周溝上層からの出土であり、墳丘側から落石したような出土状況であり、3 基とも貼石か葺石を巡らしていた可能性が高い。ST13415 墳丘墓の陸橋部南側の墳裾部には配石された石材も見られる。国内の墳丘墓を概観すると、墳裾に貼石を巡らす墳丘墓は四隅突出墓など山陰地方に多くみられる。

③　鞆形勾玉（環状勾玉）（図 214 － 1 ～ 4）

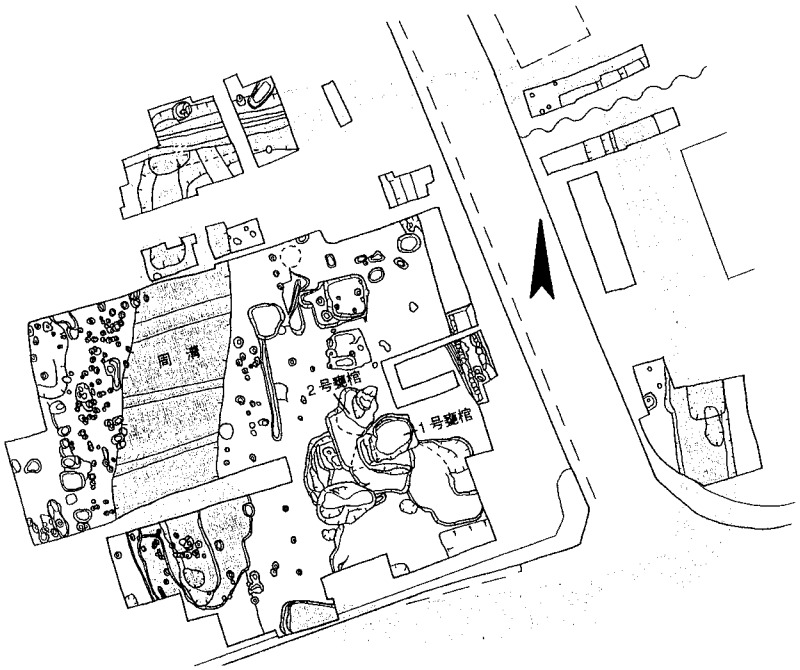
ST13415 墳丘墓の中心主体部から翡翠製の鞆形勾玉（環状勾玉）が出土している。同様の翡翠製の鞆形勾玉類例は弥生時代では福岡県汐井掛遺跡 115 号土壙墓出土例（福岡県教育委員会 1979）がある。形態的には島根県西谷 3 号墓出土例 2 点のガラス製鞆形勾玉に類似する。鞆形勾玉の形態の祖形は未だ不明であるが西谷 3 号墓出土例（田中編 1992）が現段階では最古と思われる。

④　碧玉製勾玉未製品、碧玉片（図 214 － 5、6）

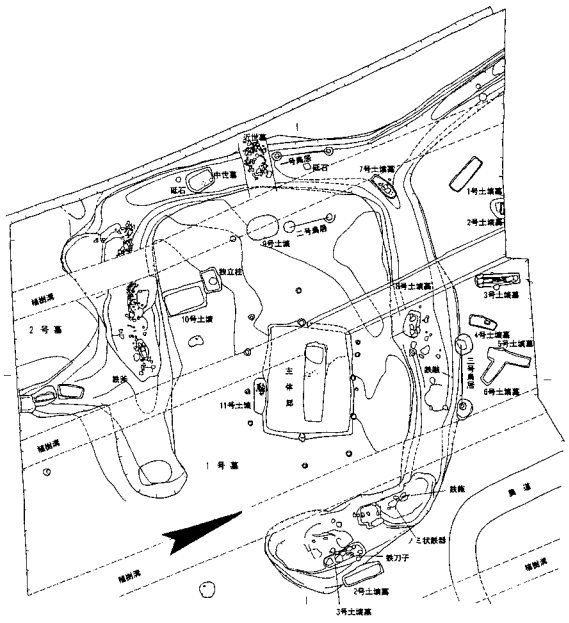
本遺跡の 9-2 区包含層から碧玉製勾玉未製品が、12 区 SH12028 竪穴住居下層から碧玉片が出土している。SH12028 竪穴住居は鍛冶工房である。2 点の碧玉の原産地は自然科学分析の結果、島根県花仙山産であった。本遺跡で花仙山産碧玉を用いて玉造りを行っていたことが判る資料である。近年、福岡県糸島市潤地頭給遺跡・北九州市城野遺跡から花仙山産碧玉を用いた管玉製作跡が確認されており、福岡平野から早良平野の玄界灘沿岸の遺跡から碧玉片が出土している。弥生時代後期後半～終末に山陰



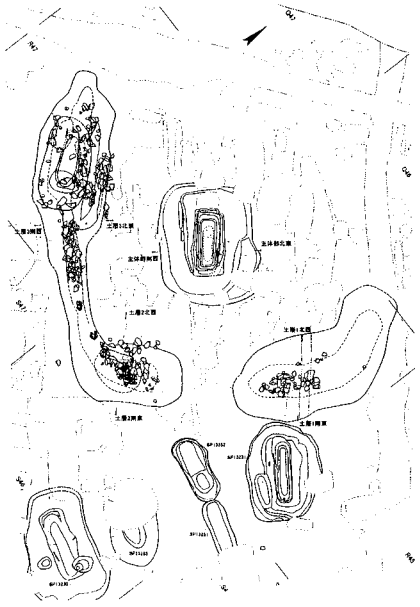
1. 井原塚廻遺跡



2. 三雲南小路厚葬墓



3. 平原遺跡1号墓



4. 中原遺跡 ST13415 墳丘墓

図212　区画墓類例

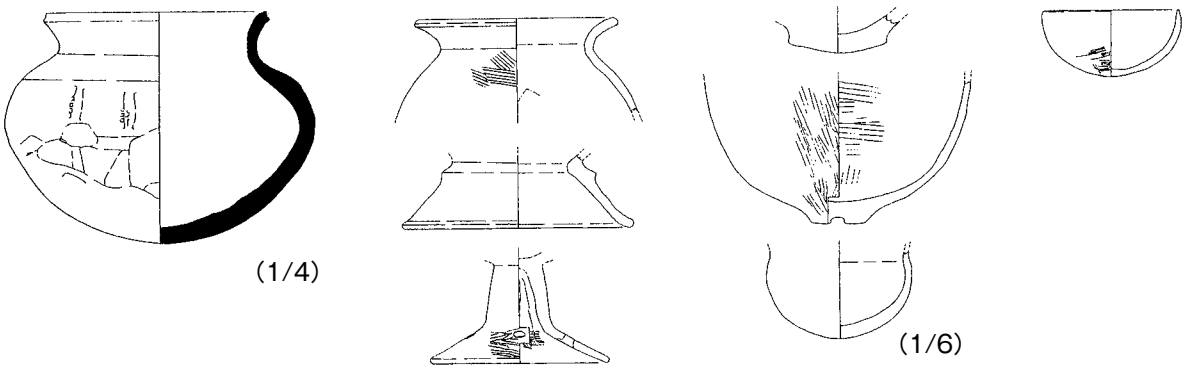


図213　中原遺跡ＳＫ13196出土古式陶質土器と共伴土器

地域から玉造りの影響があったことが判ってきた。

⑤　小型鉄製加工具（図 214 - 7 ～ 11）

小型鉄製加工具として小型袋状鑿 3 点、耳かき状鉄器 2 点が出土している。図 214-7 ～ 9 は小型袋状鑿である。袋部幅が約 15mm と小型である。図 214-7 は SH12028、図 214-9 は SH12027 出土で鍛冶工房出土である。図 214-10、11 は耳かき状鉄器である。細長い棒状の端部は薄く反らせる。小型袋状鑿や耳かき状鉄器は山陰地方でもとくに青谷上寺地遺跡に集中して出土している（村上 2007）。小型鉄製加工具は木器生産の道具であり、木器生産工人の新しい道具に対する要求によるという解釈もある。

（7）まとめ

本遺跡の弥生時代後期後半～古墳時代前期の集落と墳墓について分析してきた。弥生時代後期後半～終末期に鍛冶工房群と B 群、C 群、D 群の 3 つの居住集団が抽出でき、それぞれの集団は高床倉庫や作業施設としての側柱建物を保有していた。居住集団のリーダーは墳丘墓に葬られ、リーダーの周辺の人々（家族）は墳丘墓の周辺に埋葬された。墳丘墓には祭祀を執行する竪穴建物も不随しており、集落、墳墓構造とも弥生時代では最も成層化された社会構造をもつ。

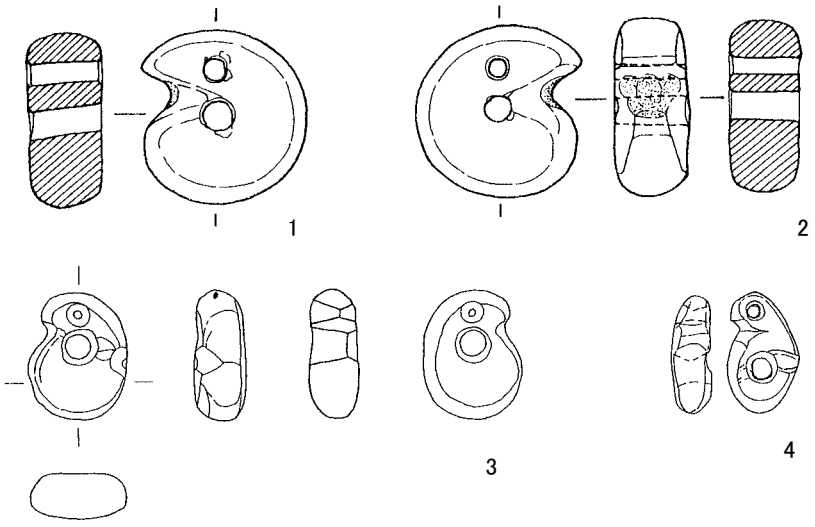
弥生時代後期後半～終末期の鍛冶工人の系譜については鍛冶炉が検出できなかったことや鍛冶関連遺物の分析では現段階では不明である。小型鉄製加工具などから山陰地方との関係も興味深い。鍛冶工房群出土の花仙山産碧玉片や勾玉未製品も山陰との関わりが見られる。本遺跡は弥生時代中期の甕棺墓から翡翠製勾玉が多量に出土しており、玉作りの可能性も考えられる（小松 2011）。同時期の碧玉製勾玉は山陰地域での出土が極めて少ないことからも勾玉未製品は在地人によるものであろう。また ST13415 墳丘墓主体部出土の翡翠製鞆形勾玉は島根県西谷 3 号墓出土例に類似しており、形態を模倣して翡翠で製作された可能性がある。北陸産の碧玉製管玉や翡翠製勾玉の多量出土は弥生時代中期以降、北陸地域との交易の中で日本海沿岸の中間地点としての山陰地域の役割が想定できる。墳丘墓に不随する SH13375 竪穴建物からの山陰系の土器である鼓形器台の出土や墳丘墓の貼石、葺石は山陰地方の影響の可能性もある。

また、肥後系土器（小松 2013）や肥後系の鉄製品の出土などから、肥後地方への鉄素材の供給なども考えられ他地域との活発な経済活動が推察され、その経済力により集団の優位性が保たれたと考えるが、他地域との交易など詳細は今後の課題である。

弥生時代後期後半～終末期の鍛冶工房は古墳時代初頭の ST12032 前方後円墳により壊される。古墳時代初頭～前期の鍛冶は肉厚円筒形の羽口を伴った新たな技術によるものである。国内の出土例から考えても羽口の系譜は韓半島に求められると考える。このことについては韓半島の鍛冶関連遺物の検討の上で論じていきたい。韓半島との交易地の資料として本遺跡の SK13196 出土の小型短頸壺がある。『中原遺跡Ⅶ』2013 年刊で報告済、図 213 参照。韓国金海大成洞 29 号墳、釜山老圃洞 33 号墳に類例がみられる伽耶系の古式陶質土器である。

弥生時代後期後半～古墳時代前期の成層化された集落に鍛冶工人が入植するが、弥生時代後期後半～終末と古墳時代前期では鍛冶工人の系譜が異なる点が興味深い。墓制も墳丘墓から前方後円墳へと変化しており、集落の再編も看取できる。これは倭国内の社会構造の変化の波及であろう。

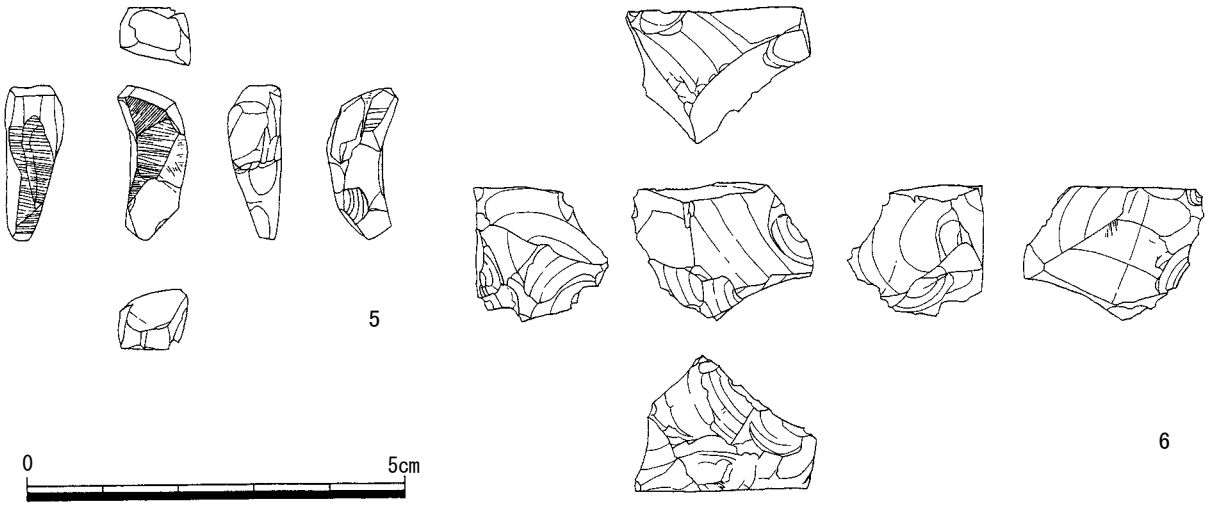
鞆形勾玉（1/1）



1・2 島根県西谷３号墓
3 中原遺跡 ST13415
4 福岡県汐井掛遺跡

碧玉製勾玉未製品（1/1）

碧玉片（2/3）



小型鉄製加工具（2/3）

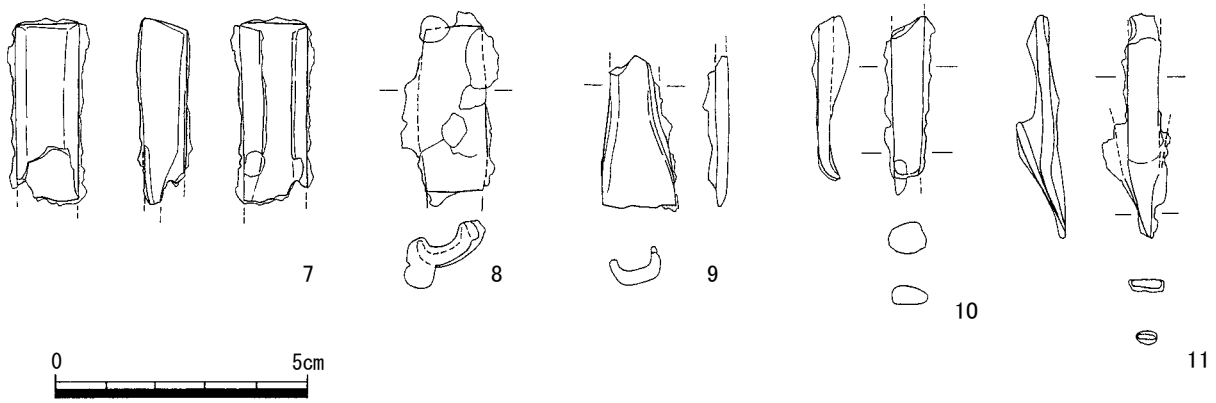


図214　山陰地方の影響がみられる遺物

参考文献

福岡県教育委員会 1979『九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書ＸＸⅧ』
福岡県教育委員会 1983『三雲遺跡Ⅳ』福岡県文化財調査報告書第 65 集
唐津市教育委員会 1987『双水柴山遺跡』唐津市文化財調査報告書第 20 集
田中義和編 1992「西谷 3 号墓の調査」『山陰地方における弥生墳丘墓の研究』島根大学法文学部考古学研究室
前原市教育委員会 1992『井原塚廻遺跡』
小松譲 2000「弥生時代の掘立柱建物を主とする集落について」『堂の前・井ゲタ遺跡』佐賀県文化財調査報告書第 144 集
前原市教育委員会 2000『平原遺跡』前原市文化財調査報告書第 70 集
溝口孝司 2001「弥生時代の社会」『現代の考古学』6　朝倉書店
村上恭通 2007『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店　70 頁～ 78 頁
佐賀県教育委員会編 2010『中原遺跡Ⅳ』佐賀県文化財調査報告書第 179 集
小松譲 2011「唐津地域の弥生時代石製装身具－弥生時代中期・後期の玉作りの可能性－『第 9 回日本玉文化研究会北部九州地方大会資料集』
小松譲 2012「中原遺跡古墳時代初頭前後の墳墓群の編年的位置づけ」『中原遺跡Ⅵ』佐賀県教育委員会
佐賀県教育委員会編 2012『中原遺跡Ⅵ』佐賀県文化財調査報告書第 193 集
佐賀県教育委員会編 2013『中原遺跡Ⅶ』佐賀県文化財調査報告書第 199 集
小松譲 2013「唐津地域出土の肥後系・島原半島系土器群」『中原遺跡Ⅶ』佐賀県教育委員会
会下和宏 2013「弥生墳丘墓に不随する様々な遺構」『弥生研究の群像』大和弥生文化の会

２，中原遺跡出土の弥生時代終末～古墳時代前期の鍛冶関連遺物

小松　譲

（１）はじめに

本遺跡の調査では弥生時代終末～古墳時代前期と古代の鍛冶関連遺物が出土した。鍛冶炉は検出できなかったが、椀形滓や羽口、敲石（石槌）や台石、砥石、多量の鉄片の出土から、本遺跡で鍛冶が行われていたことは確実である。本書では鍛冶関連遺物が出土した９区、10 区を調査区ごとに掲載した。また、11 区、12 区でも鍛冶関連遺物が出土しており第Ⅶ章に掲載した。

九州において弥生時代終末の鍛冶関連の調査事例は散見されるものの、本遺跡のそれは遺物量に富む。古墳時代前期の鍛冶関連の調査事例は国内においても稀少であり本遺跡の遺物群は羽口を伴うなど貴重な資料となった。本項では弥生時代終末～古墳時代前期の鍛冶関連遺物の出土状況とその時期や羽口、鉄滓、石製品について概観し、工房群ごとの鍛冶関連遺物や鉄製品及び鉄片などの組成に関する資料を提示する。

（２）鍛冶関連遺物の種別・出土状況と時期

鍛冶関連遺物には鉄製品、鉄片、鉄滓、羽口、石器などがある。本書では調査区ごとに、鉄製品、鉄片、鉄滓、羽口について掲載している。このうち遺構出土の石器は『中原遺跡Ⅶ』2013 年刊行で既報告である。

鍛冶関連遺物出土地点は①９区の包含層、② 10 区の SK1014 土坑、③ 12 区の竪穴住居、④ 12 区 SD12008・SD12026 溝（近世溝）、⑤ 11 区の弥生時代～古墳時代の竪穴住居、土坑、溝のほか包含層や古墳時代前期、中期～後期の古墳周溝である。10 区の SK1014 土坑は奈良時代であり、その他は弥生時代終末～古墳時代前期である。本項では弥生時代終末～古墳時代前期の鍛冶関連遺物を対象にする。

図 215 に鍛冶関連遺物出土状況を掲載する。９区の包含層出土鍛冶関連遺物には羽口、鉄滓がある。本書で掲載した遺物以外にも羽口片や椀形滓などの鉄滓がコンテナ２箱出土した。但し、鉄製品、鉄片が皆無である点は他の出土地点との違いである。おもに、P・Q・R-30・Q-29 区画包含層や SD9001、SD9002 から出土している。その範囲は約 30 m× 20m である。包含層出土の土器は村徳永式～土師本村式であり、羽口、鉄滓もその時期にあたる。SD9001 は奈良時代の溝であり、SD9002 は 9-2 区北側の落ち込みに向って流れる自然流路であるが、SD9001、SD9002 溝出土羽口、鉄滓は包含層出土のものが流れ込んだと考えられる。

12 区の竪穴住居のうち鉄片が 10 点以上出土した竪穴住居に SH12027、SH12028、SH12035、SH12036、SH12041、SH12043 の６軒がある。この竪穴住居群は砂丘微高地の北側に隣接して分布する。鉄片出土量は他の住居に比べ際立って多く、鉄製品の出土量も多く、台石や砥石も出土している。但し、羽口は出土しておらず、鉄滓は SH12035 の１点のみの出土である。遺構内から鍛冶炉は確認できなかったが、鍛冶の工房群と考えられる。（『中原遺跡Ⅶ』に掲載した竪穴住居跡一覧表の備考の鉄片数は本書と異なる。本書に訂正する。）

これらの竪穴住居群の時期は村徳永３式～惣座式の弥生時代後期後半～終末におさまる。住居出土土器の時期はもっと精緻な検討が必要であろうが、夕ヶ里式（久住Ⅱ A 期）は見当たらず、ST12032 前方後円墳が竪穴住居６軒の後に築造されている。ST12032 は夕ヶ里式（久住Ⅱ B 期）であり、下限を確実におさえられ、竪穴住居６軒は惣座２式（久住Ⅰ B 期）までにおさまるのは確実である。

竪穴住居群の隣接地である P-41 区画を南北に走る SD12026 溝や O・N-41 区画を同方向に走る



SH12035出土鉄片　弥生後期後半～終末



SH11230
古墳初頭

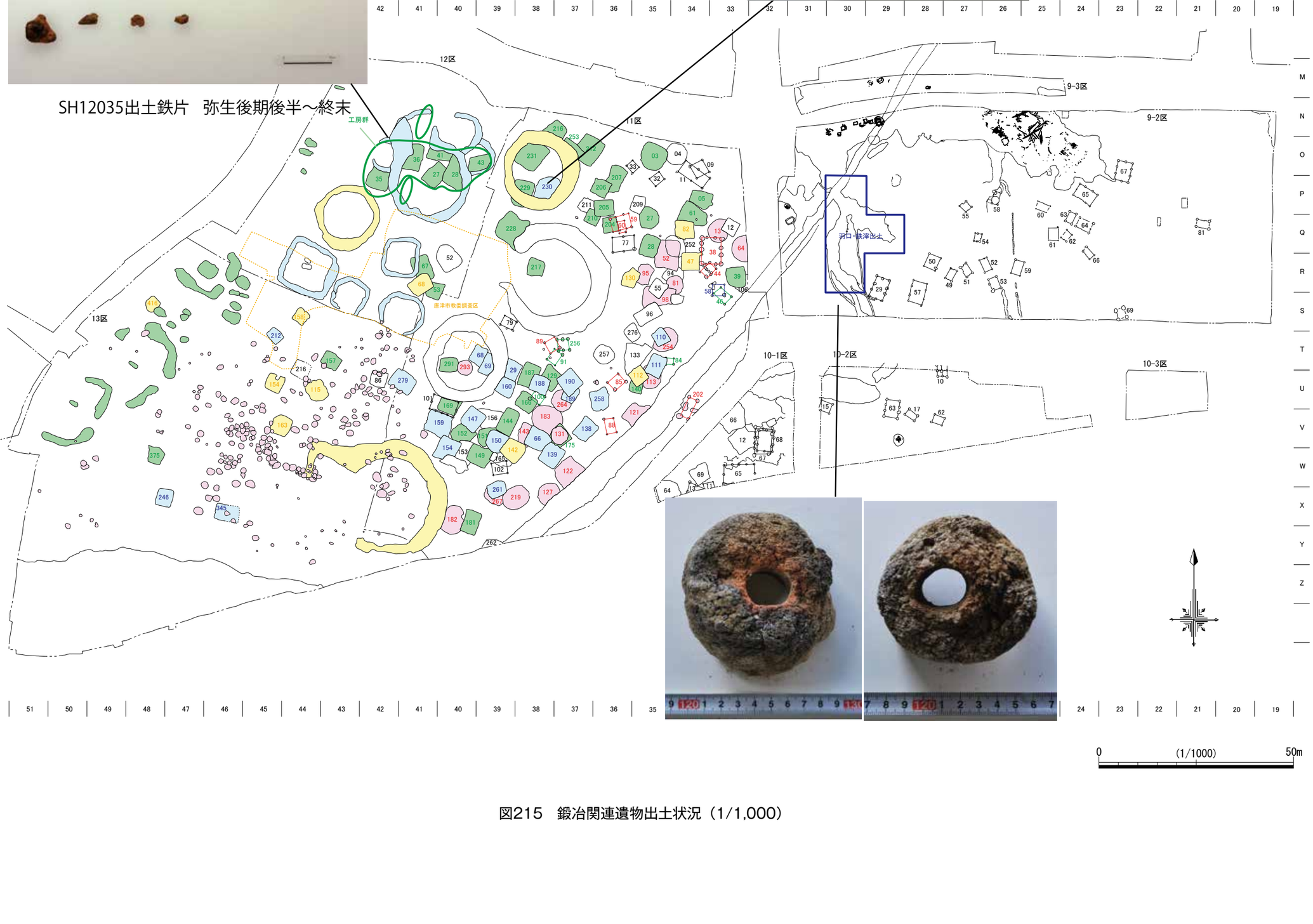


図215　鍛冶関連遺物出土状況（1/1,000）

SD12008 から椀形滓、鉄滓が出土している。両溝は近世の溝で道路側溝である。鉄滓は近世道路側溝に攪乱されたと考えられる。この２つの出土地点は前述の鍛冶関連遺物を多量に出土した竪穴住居群のそれぞれ南と北に分かれ、SD12026 溝出土鉄滓群が南側、SD12008 溝出土鉄滓群が北側に位置する。

SD12026溝出土は図200-2、4、5、6、7、8、図201-1、2、14、15で図200-2は椀形滓である。SD12008溝出土は図201-5、6、7、8、9、10、11、12、13である。SD12026出土鉄滓とSD12008出土鉄滓を比較すると明瞭に形態差があることが判る。SD12026出土鉄滓群は形態が大きく、椀形滓を含む。それに対してSD12008出土鉄滓群は鉄滓が全て小さく対照的である。SD12026溝出土の図201-4はガラス質に融解した非金属物質を含むがこのような鉄滓は中・近世以降とのご教示を大澤正己氏から得ている。但し、出土地点はST12032前方後円墳の墳丘内であることを考えれば、SD12026溝及びSD12008溝出土鉄滓群の時期は古墳時代以前であり、鍛冶関連遺物を多量に出土した竪穴住居群の鍛冶関連遺物と同時期の可能性が高いものの、出土遺構が近世道路側溝であることも考えれば断定することはできない。

11 区の弥生時代～古墳時代の竪穴住居、土坑、溝のほか包含層や古墳時代前期、中期～後期の古墳周溝などから鍛冶関連遺物が出土した。但し、鍛冶関連遺物が集中して出土した遺構はない。最も多く出土した遺構に ST11067 周溝があり、鉄片約 50 点、鉄滓約 10 点、羽口 1 点などが出土している。ST11067 は TK47 型式期の古墳であり、隣接して西側には鍛冶関連遺物を多量に出土した竪穴住居群があり、周溝も鍛冶関連遺物を出土した住居を切っていることから、周溝出土の鍛冶関連遺物はこれらの遺構に帰属するものと考えられる。その他の遺構の鍛冶関連遺物の出土量は少量である。

羽口２点が竪穴住居から出土している。SH11230から図93-1が、SH11190から図207-3が出土した。両住居跡からともに布留甕が出土しており古墳時代前期であることは確実である。SH11230 は夕ヶ里式として報告したが久住ⅡＣ期、土師本村 1 式に下る可能性もある。羽口は 9-2 区包含層及び 11 区から出土しているが形態、胎土が類似した羽口群の時期は古墳時代前期であると考えられる。11 区の羽口は R-37、38 区画（ST11067 墳丘内）（図 207-1）、Y-42、43 区画（ST11158 墳丘内）（図 207-2）から出土している。

11 区の古墳時代前期竪穴住居から数点ではあるものの鉄片、鉄滓が出土した遺構として、SH11138、SH11139、SH11147、SH11150、SH11154、SH11190、SH11230、SH11258、SH11279 があり古墳時代前期においても鍛冶がおこなわれていたことが判る。

（3）羽口について

①　国内の羽口出土例（弥生時代～古墳時代前期）

弥生時代において青銅器鋳造用の羽口は出土しているもの、鍛冶のための羽口の出土例は極めて少数で不確実な例である。古墳時代前期になると羽口の出土例は少ないながらも確実に認められる。2012 年 10 月の日本考古学協会福岡大会で「弥生時代後半期の鉄器生産と流通」をテーマにシンポジウムが開催され、長崎県壱岐市カラカミ遺跡で弥生時代後期（高三潴式～下大隈式）の羽口を備えた鍛冶炉が報告された（宮本 2012）。また、その資料集には弥生時代の西日本の鍛冶関係遺構と遺物集成が掲載されている。その資料集によると弥生時代の羽口出土例には、長崎県壱岐市カラカミ遺跡（高三潴式～下大隈式）、同県南有馬町北岡金毘羅祀遺跡（弥生中期）、島根県安来市柳遺跡（弥生後期後葉～末？）、愛媛県伊予郡古泉遺跡（弥生終末期）、徳島県徳島市庄遺跡（終末期）、京都府京丹後市奈具岡遺跡（弥生中期後葉）の 6 例がある。北部九州では弥生時代中期後半以降、鍛冶炉や鍛冶関連遺物が確認され

ているが羽口の出土例は知られていなかった（長屋 2002）。

図 216、217 に古墳時代初頭～前期の国内出土の羽口を掲載する。古墳時代初頭～前期前半（久住ⅡA～ⅢA）の博多遺跡群 59 次調査、65 次調査、147 次調査などで多量の鍛冶関連遺物が出土しており、断面蒲鉾形をした羽口には椀形滓が溶着しており高温操業であることが判る（比佐 2010）。博多遺跡群の鍛冶関連遺構、遺物の出土により、鍛冶の技術体系は弥生時代を通じて基本的に変化しないが、古墳時代初頭に鍛冶遺構から出土する鉄滓に大きな変化がみられるようになり鍛冶技術上の画期があるという認識がでてくる（村上 1994）。

奈良県橿原市纏向遺跡でも同様の断面蒲鉾形をした羽口が出土し、博多遺跡群と連動した様相ととらえられている。石川県小松市一針 B 遺跡から古墳時代初頭の大溝や河道から羽口数点が出土しているが、断面円形の羽口と底面が平坦面になる蒲鉾形の羽口がある。島根県出雲市古志本郷遺跡でも同時期の蒲鉾形羽口が出土し、北部九州から日本海沿岸地域への技術伝播が考えられた。太平洋沿岸地域では神奈川県小田原市千代南原遺跡と同県同市千代吉添遺跡から羽口片が出土している。古墳前期中葉では大分県竹田市都野原田遺跡から断面楕円形の羽口片が滋賀県栗東市鉢屋遺跡から蒲鉾形羽口が出土している。このような出土状況から村上恭通氏は蒲鉾形羽口を使用する鍛冶が古墳時代開始期において急速に拡散した状況を想定した（村上 2007）。

②　中原遺跡出土の肉厚円筒形羽口

前述のとおり、古墳時代前期の羽口の出土例は少ないものの、古墳時代初頭の博多遺跡群や纏向遺跡出土の断面蒲鉾形の羽口が急速に拡散したと考えられた。本遺跡出土の羽口は古墳時代初頭～前期古段階であり、博多遺跡群と同じ玄界灘沿岸地域に立地する唐津市中原遺跡出土の羽口 11 点すべて肉厚の円筒形の羽口であった。図 218 に本遺跡出土の古墳時代初頭～前期古段階の羽口をまとめて掲載する。以下羽口の時期については前述したが再度記し、羽口についてまとめとしたい。

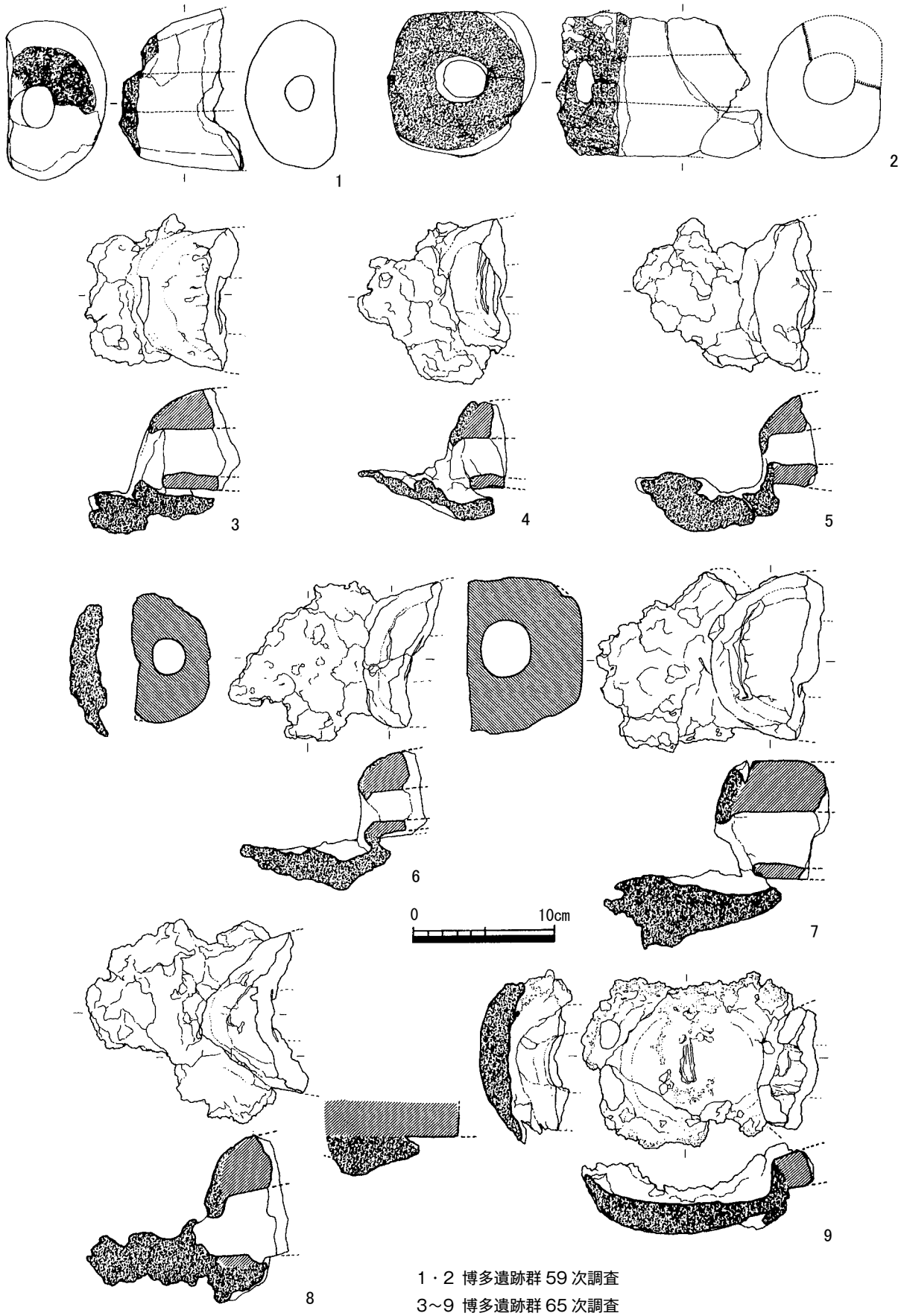
図 93-1 は SH11230 竪穴住居、図 207-3 は SH11190 竪穴住居出土であり出土時期が特定できる資料である。SH11230 は夕ヶ里式として報告したが久住ⅡC 期、土師本村 1 式に下る可能性もある。最も遺存状態がよい羽口である。SH11190 は布留甕や精製小型器台が出土し四本主柱穴の住居であることから古墳時代前期古段階である。

図 93-2 ～ 4、図 94-1 ～ 4 は P・Q・R-30・Q-29 区画包含層や SD9002、SD9001 溝出土である。第Ⅳ章第 2 節 (6) で記したとおり、鍛冶関連遺物が出土した包含層の土器群の検討から、その時期は村徳永式～土師本村式の弥生時代後期後半～古墳時代前期である。但し、図 93-5 は他の羽口群と胎土が異なり硬質で径もやや小さいなど、10 区 SK1014 出土羽口群と類似することから奈良時代と思われる。

図 207-1、2 は 11 区の古墳時代中期、後期の古墳周溝出土であり、図 207-4 は 13 区 W-46 区画攪乱出土である。いずれも混入であり時期決定はできない。このうち図 207-4 は胴部に幅 18mm の断面弧状の溝を 3 条施す特異な形態であり、類例は管見にはない。出土地点が離れることから、弥生～古墳前期以外の所産である可能性もある。

羽口の形態的特徴を以下にまとめる。古墳時代前期と思われる羽口の特徴は肉厚で、芯棒に粘土を巻き付けて成形したあと後端部内面を削ることである。胎土中には藁や籾殻などの植物片が混和されており、砂粒を多く含む砂質で軟質の羽口が多い。その中で図 93-1 は硬質である。

形態的には次の 2 つに分類できる。Ⅰ類は羽口先端より後端の径が大きいもの。羽口縦断面の器壁は先端から胴部にかけて厚くなる。先端径は約 8cm、先端部の厚さ約 3cm である。図 93-1、2、図



1・2 博多遺跡群 59 次調査
3～9 博多遺跡群 65 次調査

図216　国内出土の古墳時代初頭～前期の羽口１（1/4）

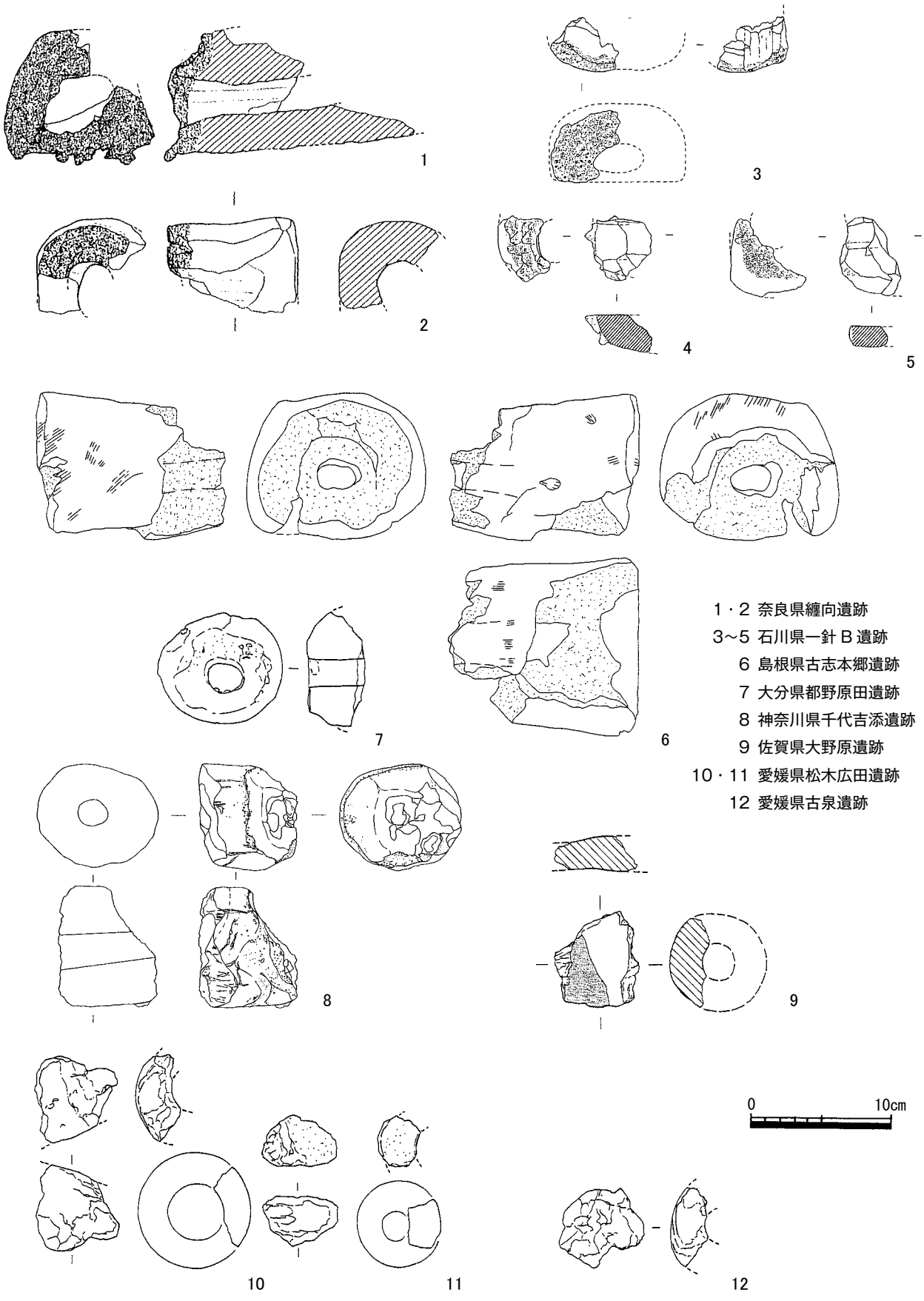
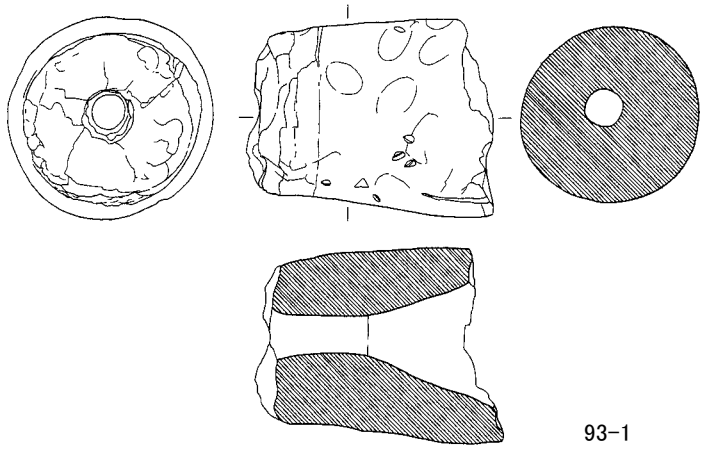


図217　国内出土の古墳時代初頭～前期の羽口２（1/4）

11区 竪穴住居出土



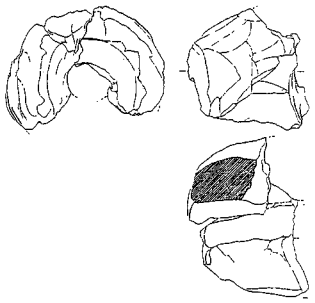
93-1



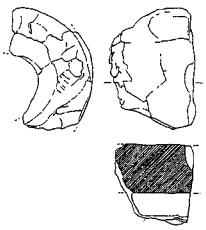
207-3

0 10cm

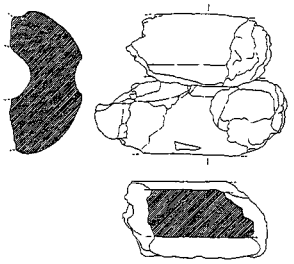
11区 出土



207-1

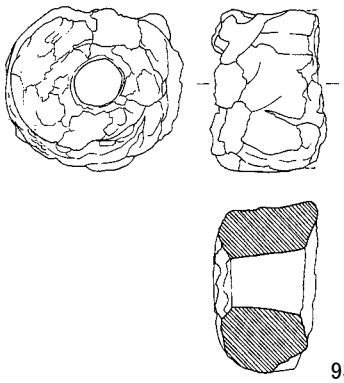


207-2

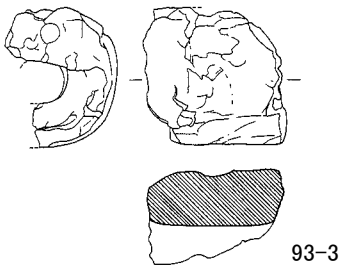


207-4

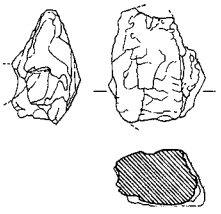
9-2区 出土



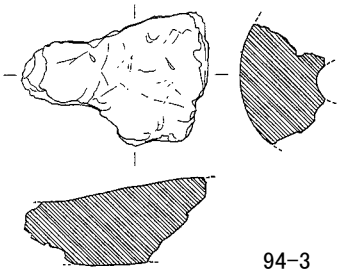
93-2



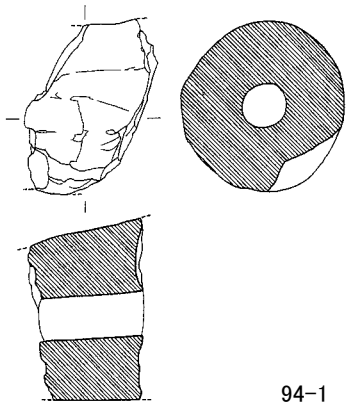
93-3



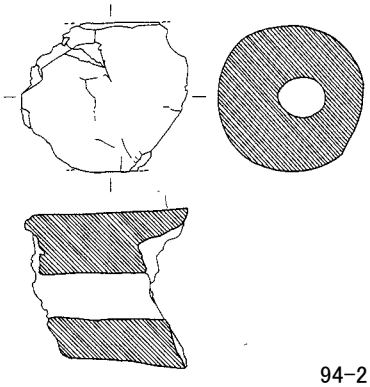
93-4



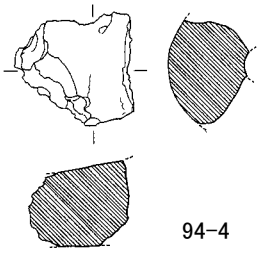
94-3



94-1



94-2



94-4

図218 羽口（1/4）

94-1、3、4、図 207-1 がある。Ⅱ類は羽口から胴部にかけて径が同じのもので、羽口縦断面の器壁は先端から胴部にかけて同じである。図 93-3、図 207-2 がある。2 点とも遺存率が悪く、後端部の内面削りの有無は確認できない。先端径は約 7cm、先端部の厚さ約 2.5cm であり、Ⅰ類よりやや小型であり、器壁もやや薄い。

国内出土の古墳時代前期の羽口のうち円筒形の羽口は遺存率が悪く、羽口の分類ができる資料ではないが、前述した器壁の厚さや胴部形態で分類できる可能性をもち、今後の検討課題としたい。

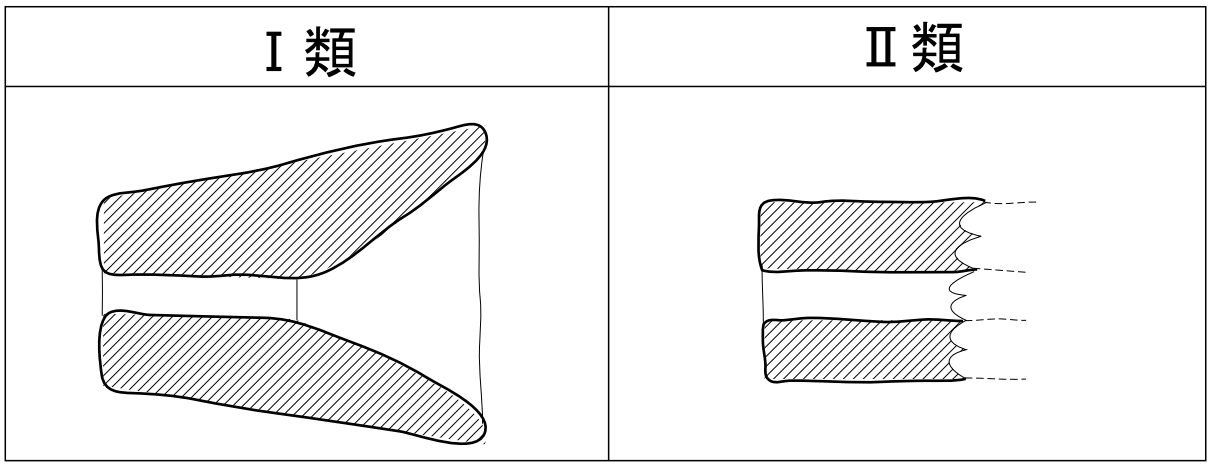


図219 羽口分類

（4）鉄滓について

11 区、12 区の時期が特定できる竪穴住居出土鉄滓のうち弥生時代終末の鉄滓は図 201-16（SH12035 出土）、図 204-3（SH11027 出土）、図 205-14（SH11149 出土）が、古墳時代初頭～前期は図 204-9（SH11139 出土）、図 204-14（SH11190 出土）、図 205-7（SH11139 出土）、図 205-12（SH11147 出土）、図 206-3（SH11139 出土）、図 206-10（SH11147 出土）、図 206-21（SH11139 出土）がある。このうち、図 204-3、204-14 は磁着し、メタルチェッカーにも反応する。

また、前述のとおり、弥生時代後期後半～終末の工房群と思われる竪穴住居群のそれぞれ南北にはしる SD12026 溝及び SD12008 溝出土鉄滓群は弥生時代後期後半～終末の可能性がある。弥生時代の鍛冶は鉄滓の出土量が極めて少量であると考えられており、本遺跡の弥生時代後期後半～終末と思われる鉄滓の所属時期には検討が必要である。

（5）石器について

鍛冶関連の工房群とした 6 軒の竪穴住居から出土した石器は『中原遺跡Ⅶ』2013 年刊で報告した。既報告ではあるが、鍛冶関連の石器と考えられるものを図 222 ～ 229 の組成図に入れた。鍛冶関連の石器は SH12036、SH12041、SH12043 から敲石（石槌）1 点、台石 1 点、砥石 5 点の計 7 点が出土した。

図 229（215-1『中原遺跡Ⅶ』以下『同』と記す）の敲石（石槌）は半分に割れた定形砥石を転用している。両隅部を敲打面として用いており、敲打面には錆が付着し、被熱痕もみられる。さらに微細鉄片も貫入している。砥面の両面を窪ませる。写真 2 参照

図 226（215-4『同』）は台石か。平面不整方形の扁平石である。片面は滑らかな砥面で、片面は敲打による窪みがみられる。表面に錆の粒子がみられる。

図 227（215-6、217-9『同』）、図 229（217-10、218-1、218-6『同』）は砥石である。図 227（215-6『同』）は両面及び両側面の 4 面が砥面となる。表面に微小な黒色の斑点と錆粒子が付着する。他の 4 点は不整形な小型の砥石及び砥石片である。

図 218-1 は表面に黒色のタール状の付着物が部分的に残る。同様の痕跡をもつ砥石が 11 区、13 区の竪穴住居から出土している。写真 1 参照。図 217-4 は片面のほぼ全面に、図 217-6 は部分的ではあるが黒色のタール状の付着物が付く。図 216-4 は全面が黒色化している。図 217-3 は側片部が被熱により赤化している。以上のような砥石にみられる黒色のタール状の付着物や被熱による赤化は鍛冶との関わりが想定できる。本遺跡出土石器の中で砥石の出土量が多いのは鉄製品の普及や鍛冶と関連するのであろう。



写真１　黒色タール状付着物、被熱痕のある砥石

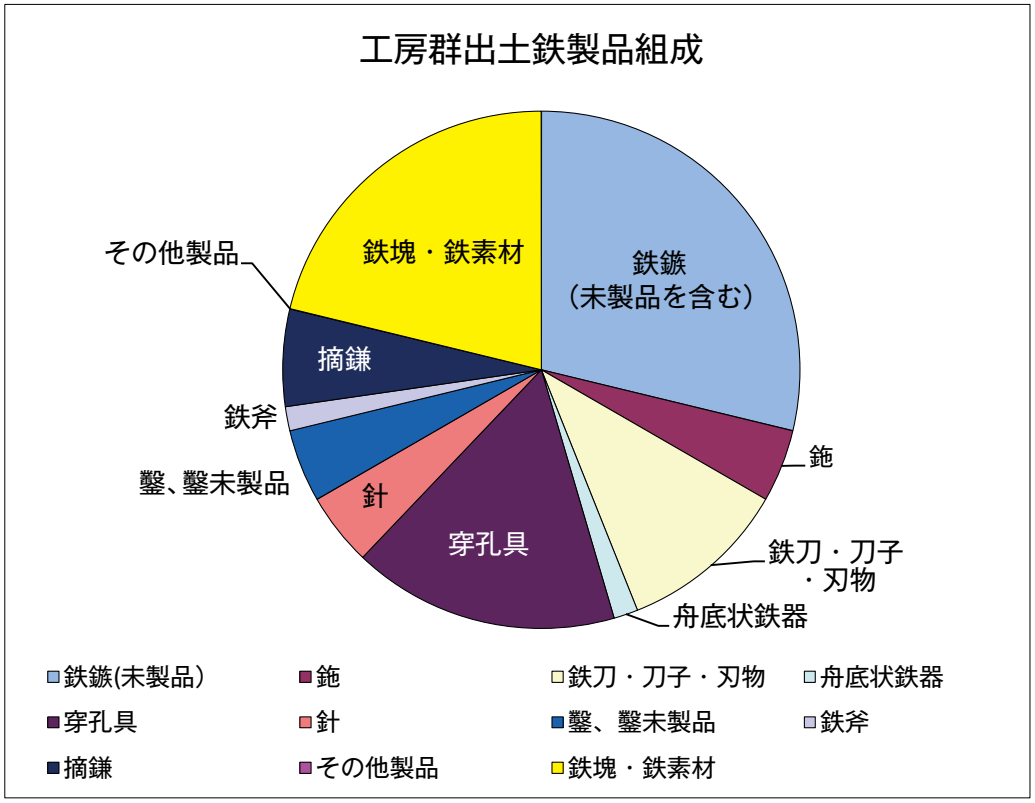


写真２　鉄片の貫入した敲石

（7）鍛冶工房の鍛冶関連遺物組成

表 115 は鍛冶関連の工房群とした 6 軒の竪穴住居から出土した鍛冶関連遺物の一覧表である。本報告書掲載の鉄製品や鉄片などの鍛冶関連遺物と未実測の鉄片も集計した。未実測鉄片の個別一覧表は表 111 ～ 114 に掲載する。図 220 は工房群出土鉄製品及び鉄片の組成円グラフである。6 軒の竪穴住居出土の鉄製品、鉄片を対象にした。鉄片は未実測分も含めている。図 221 は工房群である個々の遺構出土の鉄片の組成円グラフである。図 222 ～ 229 は各遺構ごとの鍛冶関連遺物組成図である。

鉄製品では鉄鏃が全体の 1/4 以上を占める。有茎鏃が大半で、そのほとんどが圭頭鏃である。三角形鉄片の出土から圭頭鏃の生産が考えられ、北部九州での圭頭鏃の出現時期としては初現期に当たると思われる。鉄片及び鉄製品についてのまとめは次項に記す。



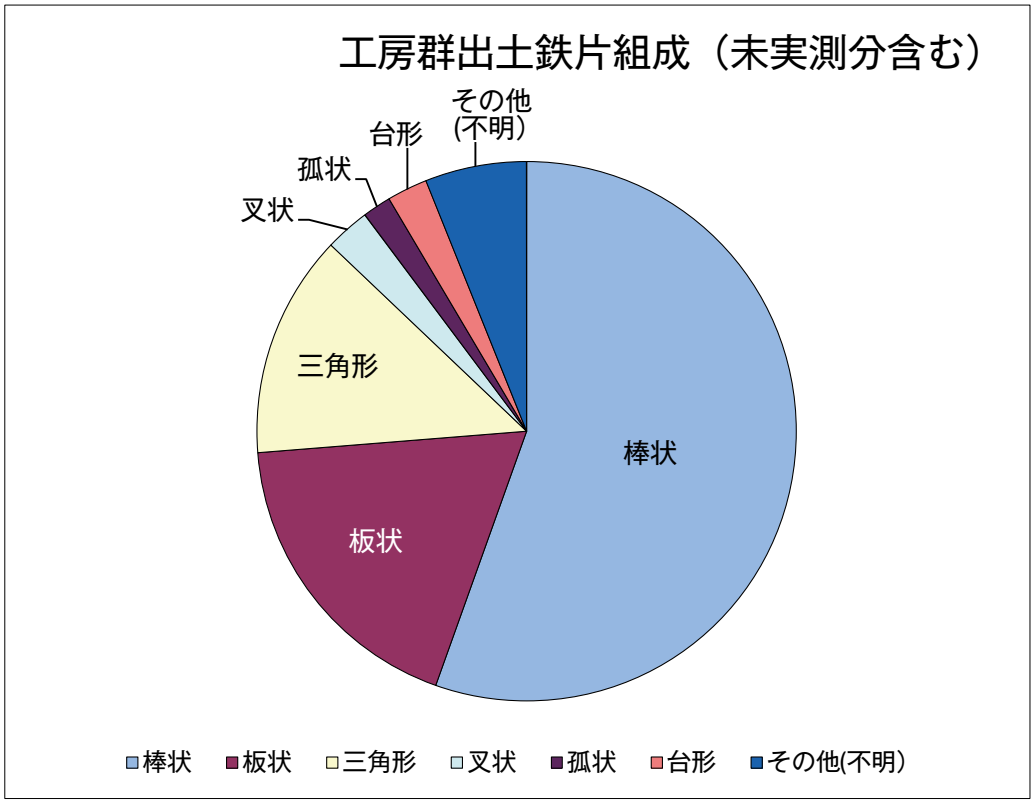


図220　工房群出土鉄製品・鉄片組成

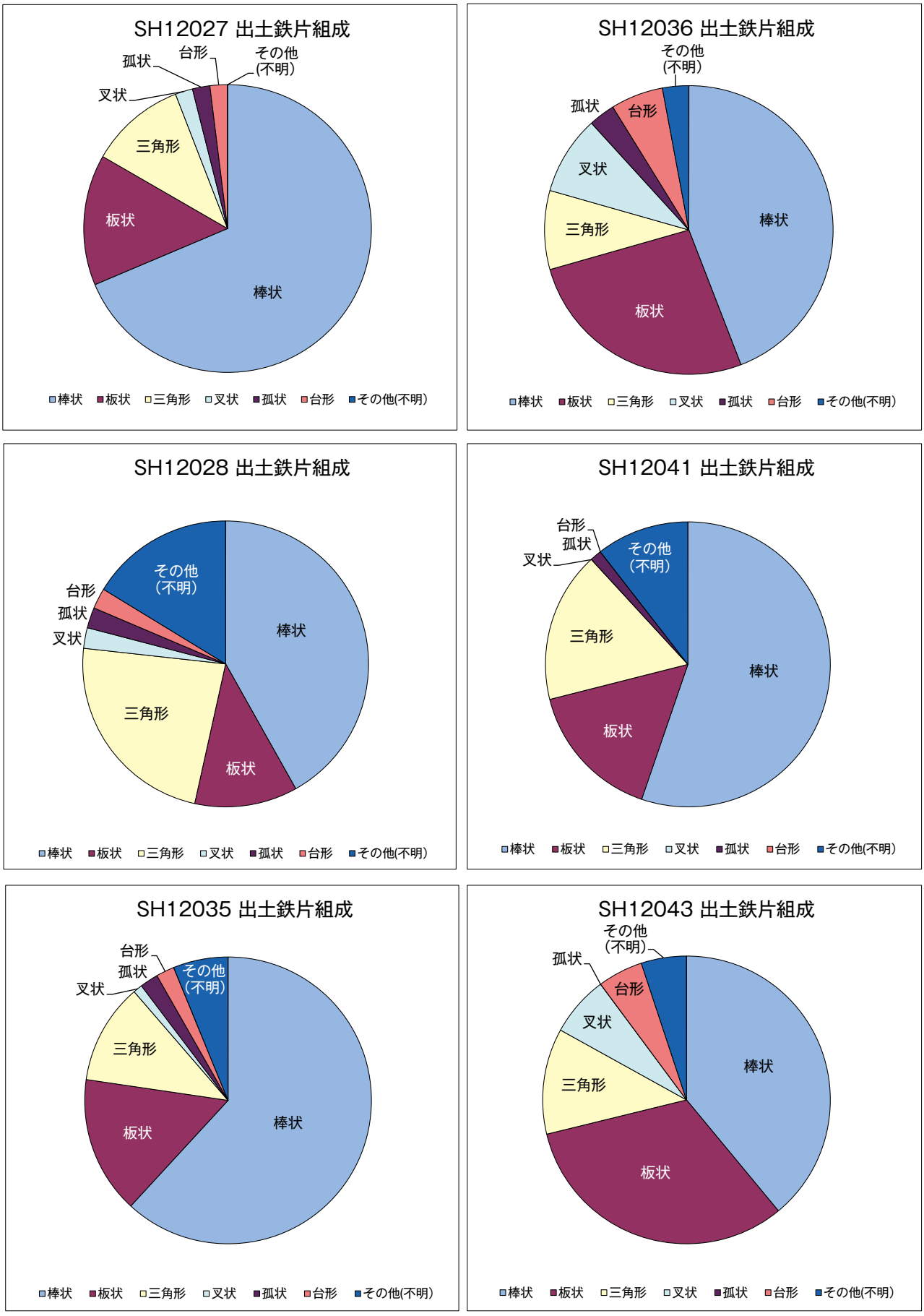


図221　工房個別の鉄片組成

SH12027

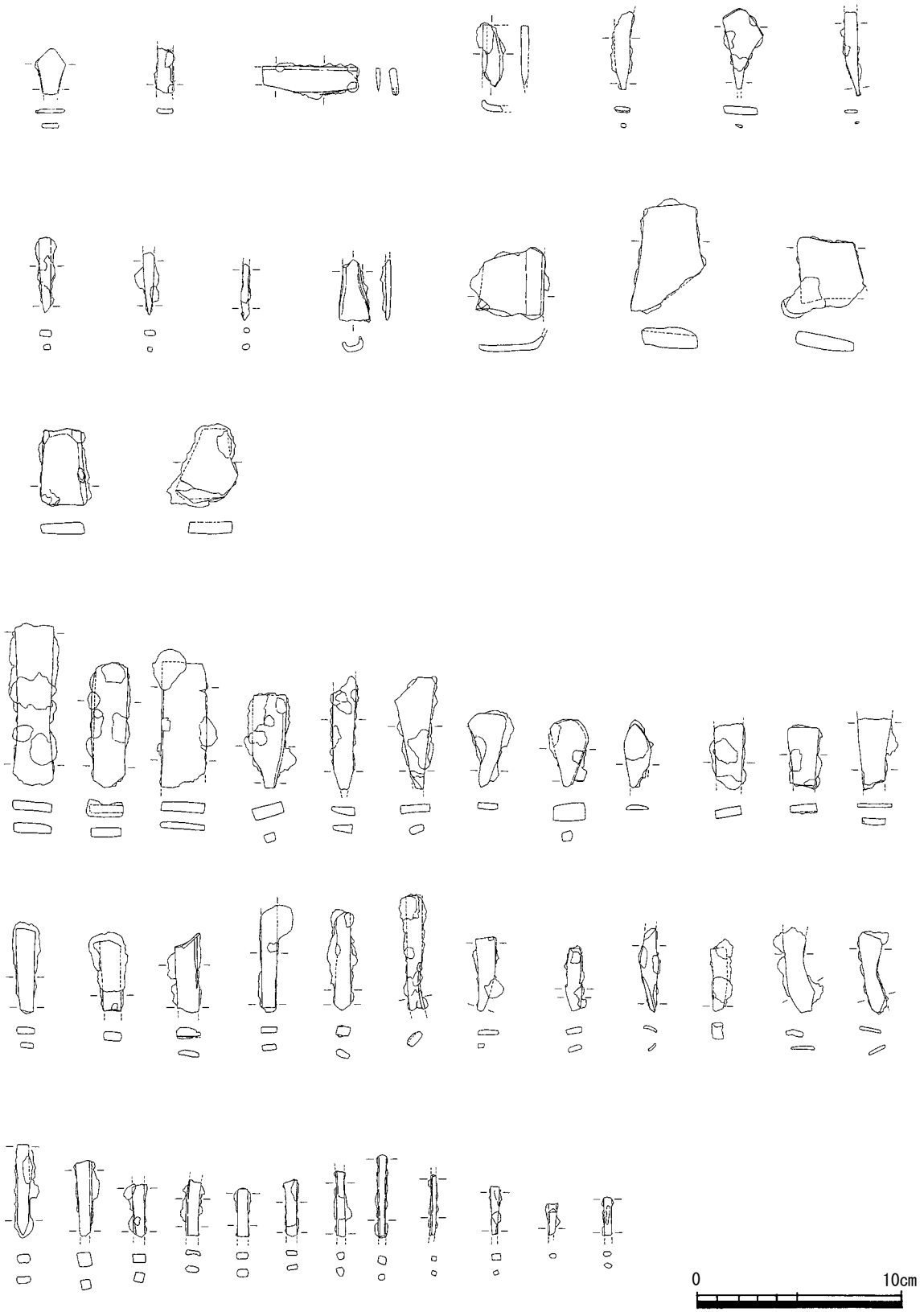
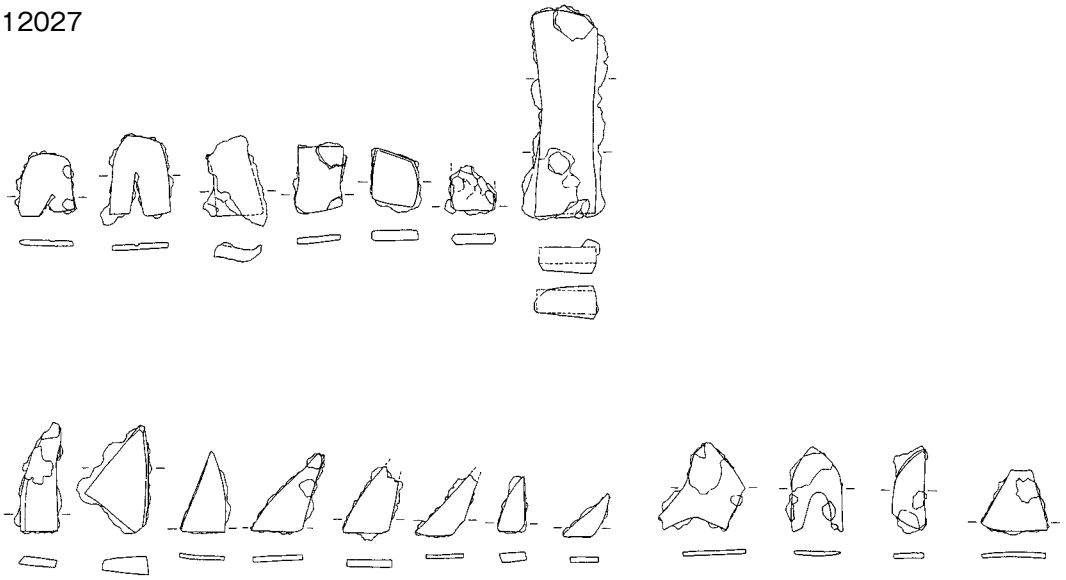


図222　鍛冶関連遺物組成図１（1/3）

SH12027



SH12028

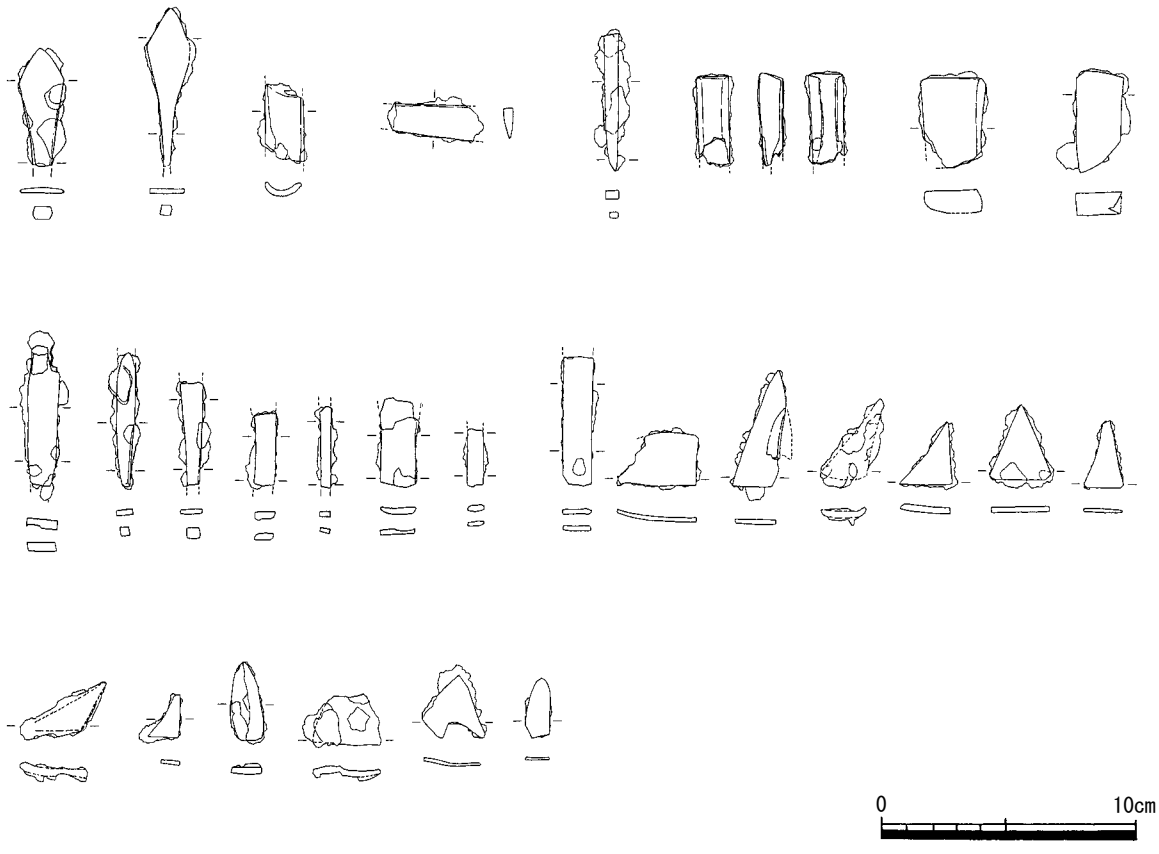


図223　鍛冶関連遺物組成図２（1/3）

SH12035

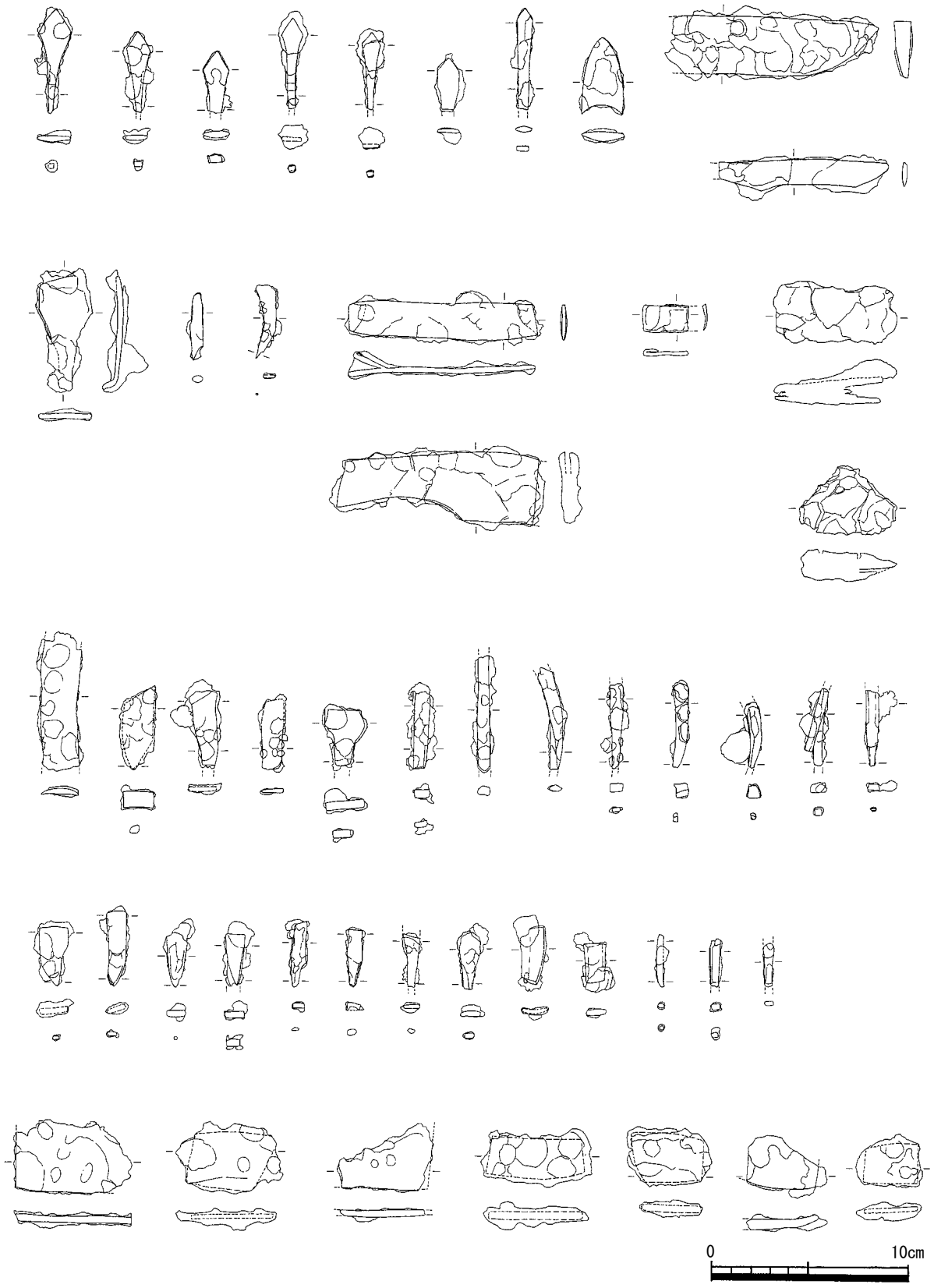
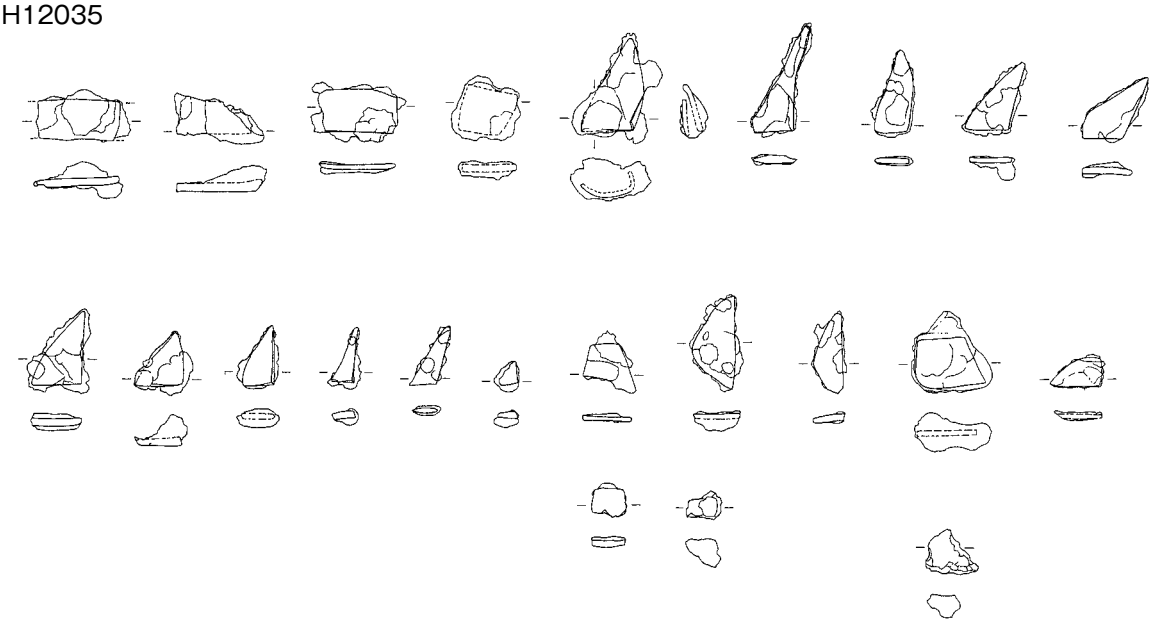


図224　鍛冶関連遺物組成図３（1/3）

SH12035



SH12036

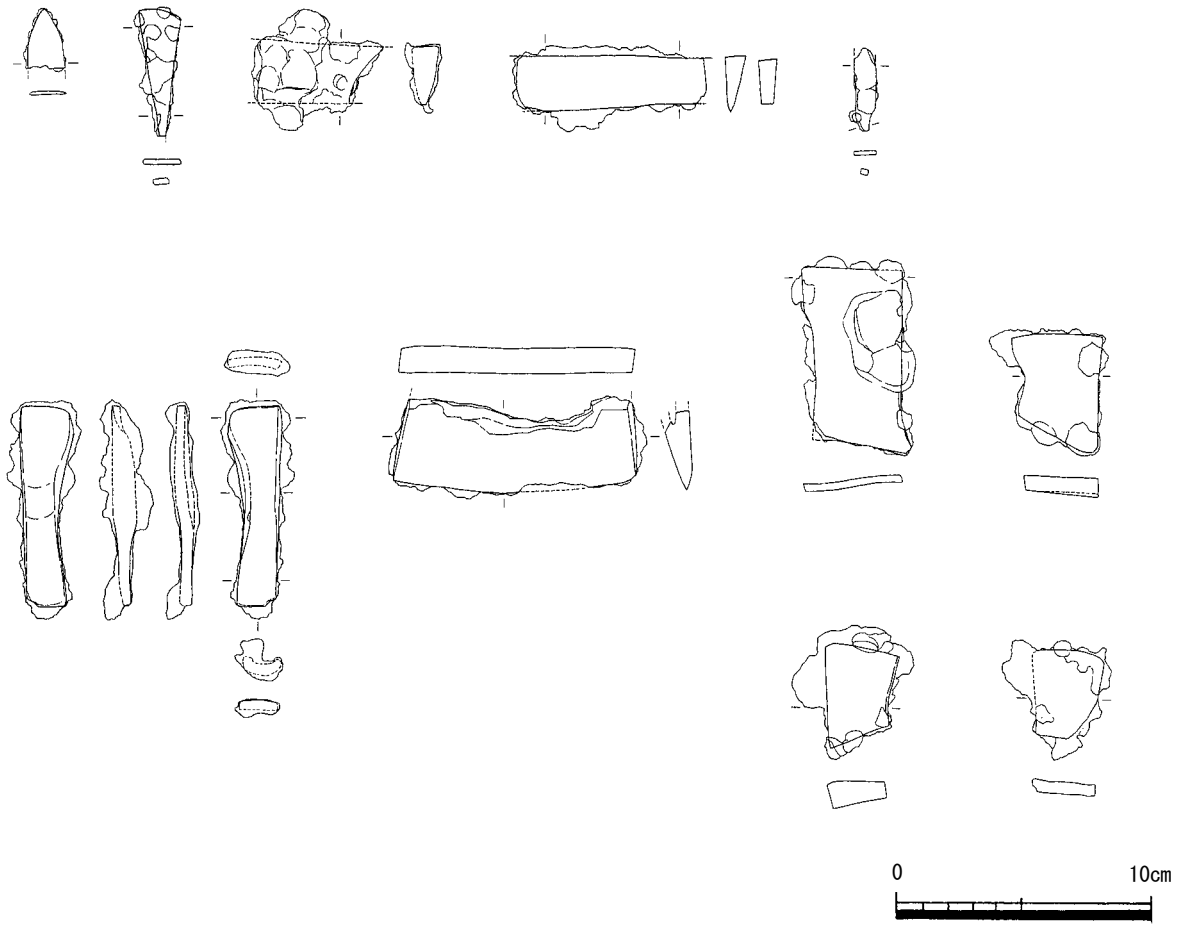
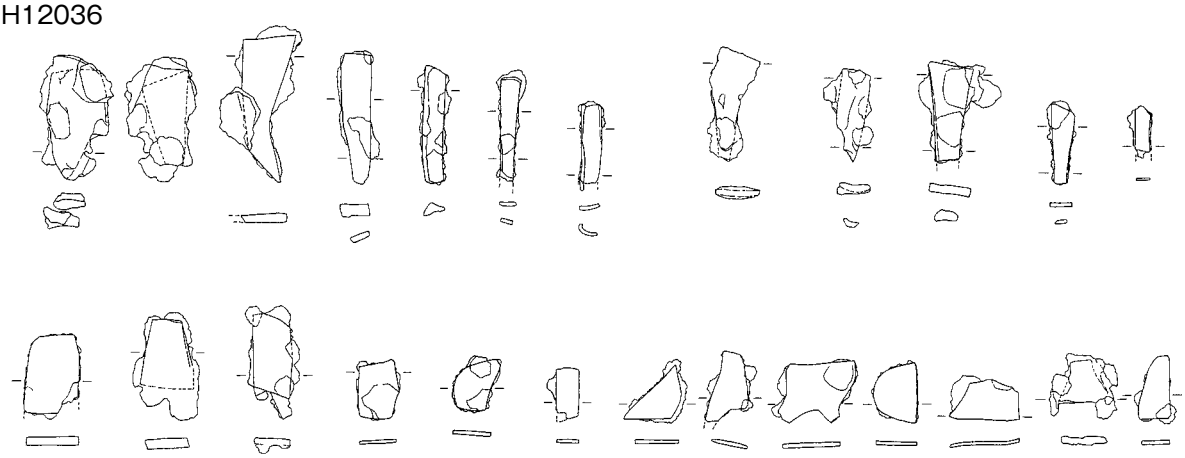
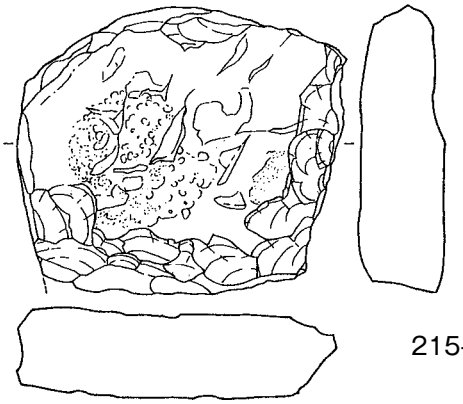


図225　鍛冶関連遺物組成図４（1/3）

SH12036





215-4『中原遺跡Ⅶ』

SH12041

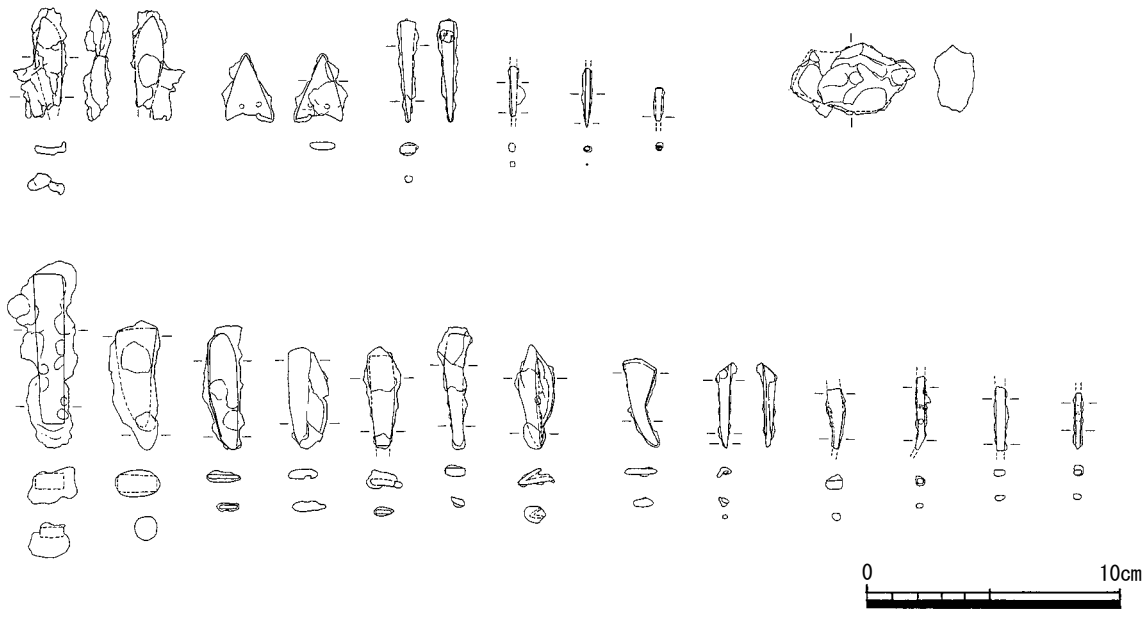
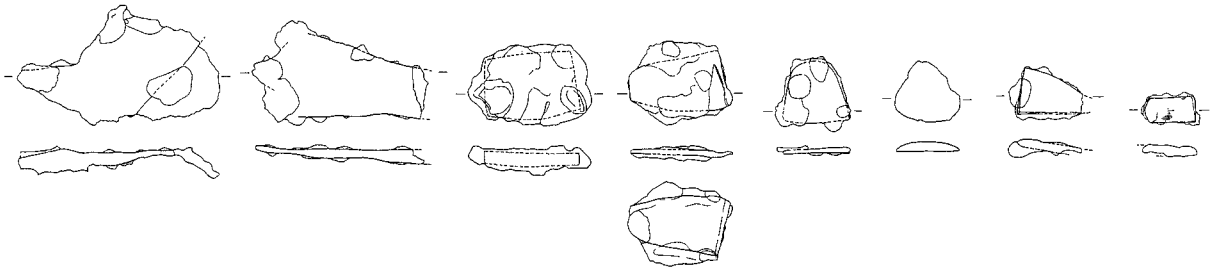
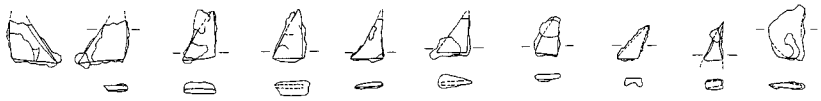
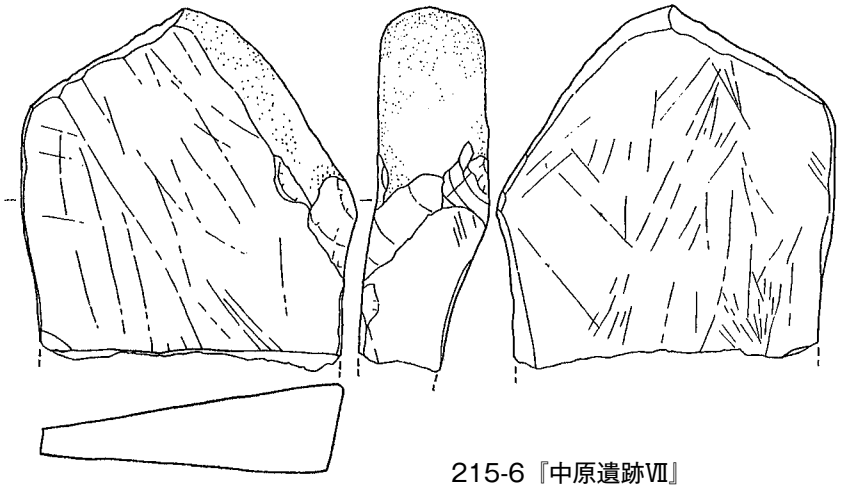


図226　鍛冶関連遺物組成図５（1/3）

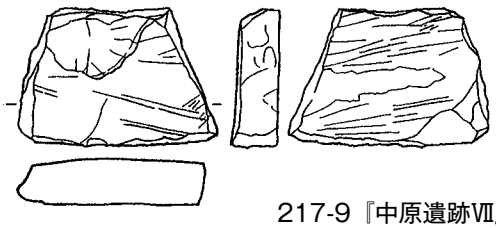
SH12041







215-6『中原遺跡Ⅶ』



217-9『中原遺跡Ⅶ』



図227　鍛冶関連遺物組成図６（1/3）

SH12043

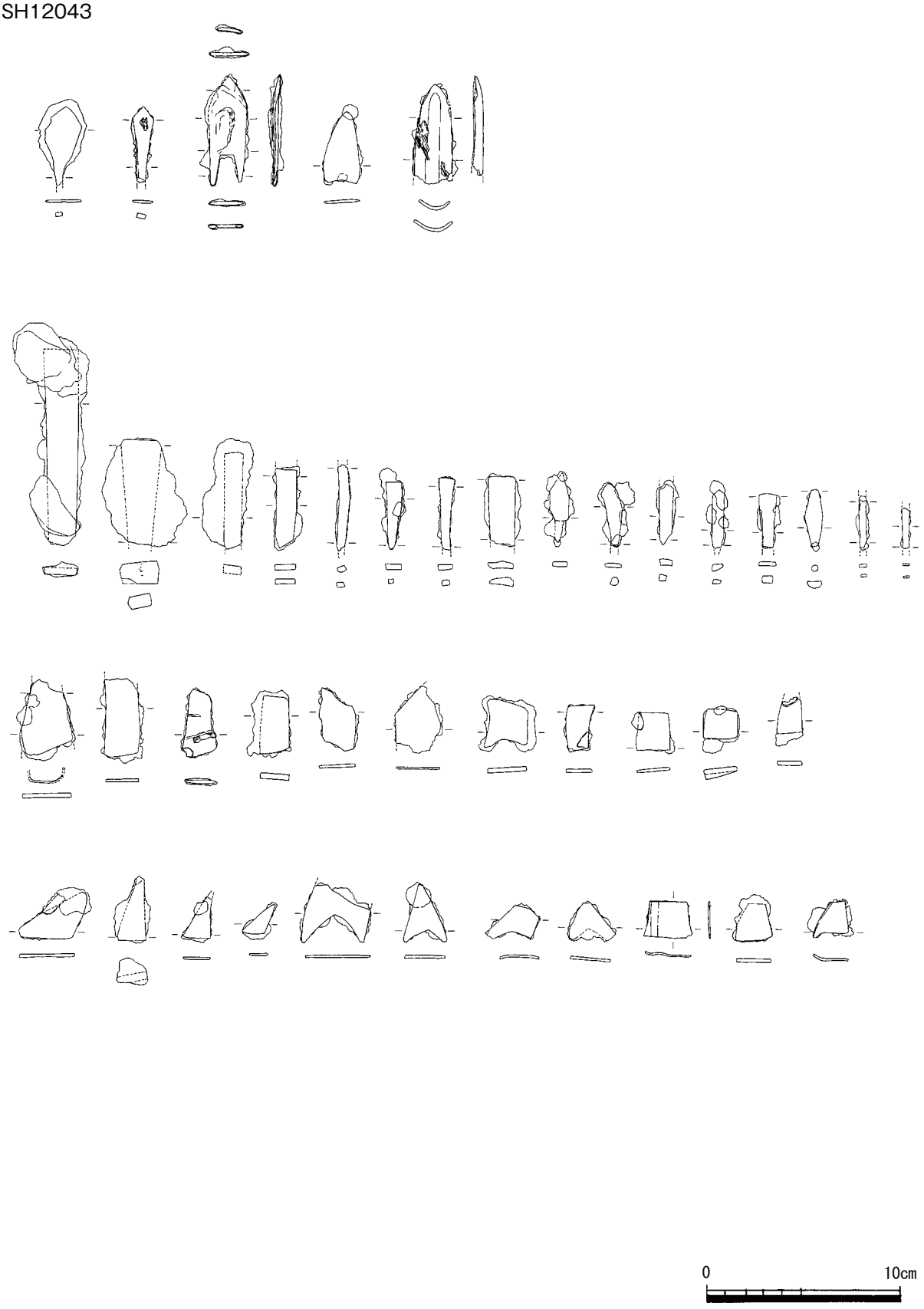
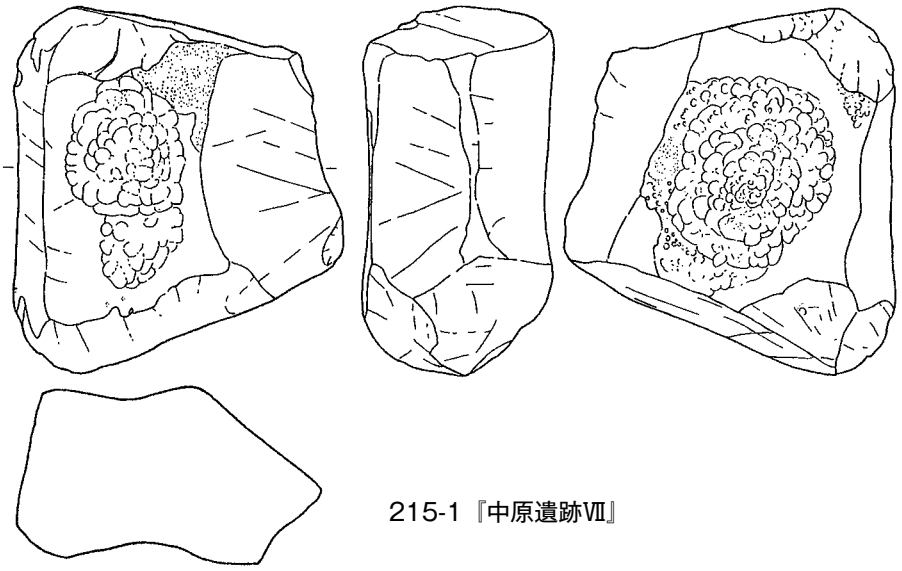
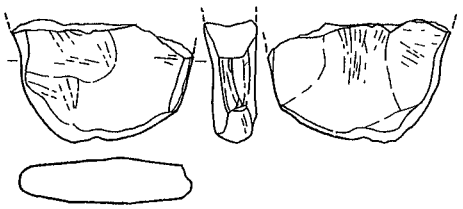


図228　鍛冶関連遺物組成図７（1/3）

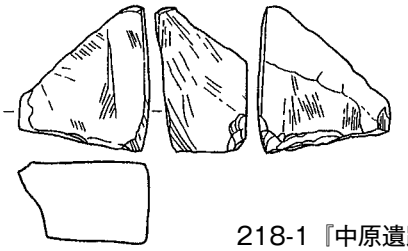
SH12043



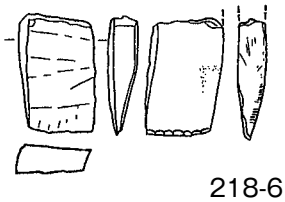
215-1『中原遺跡Ⅶ』



217-10『中原遺跡Ⅶ』



218-1『中原遺跡Ⅶ』



218-6『中原遺跡Ⅶ』

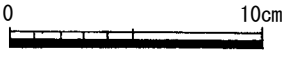


図229　鍛冶関連遺物組成図８（1/3）

表115　工房群（竪穴住居）出土鍛冶関連遺物組成表

遺構名	時期	実測図の有無	鉄製品											鉄片								鉄滓		石器			
			鉄鏃（未製品）	鉇	鉄刀・刀子・刃物	舟底状鉄器	穿孔具	針	鑿、鑿未製品	鉄斧	摘鎌	その他製品	鉄塊・鉄素材	棒状	板状	三角形	叉状	孤状	台形	その他（不明）	羽口	椀形滓	鉄滓	敲石（石槌）	台石	砥石	その他
SH12027	村徳永3式～千住2式	実測図有	1	1	1	1	6		1		1		4	36	7	8	2	1	1								
		実測図無												34	8	3		1	1								
		小計	1	1	1	1	6	0	1	0	1	0	4	70	15	11	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
SH12028	千住式～惣座式	実測図有	2	1	1		1		1				2	7	2	7	1	1	1	1							
		実測図無												11	3	3				6							
		小計	2	1	1	0	1	0	1	0	0	0	2	18	5	10	1	1	1	7	0	0	0	0	0	0	0
SH12035	惣座0式	実測図有	8		3		2				3		2	26	10	11	1	2	2	3			1				
		実測図無												34	5					3							
		小計	8	0	3	0	2	0	0	0	3	0	2	60	15	11	1	2	2	6	0	0	1	0	0	0	0
SH12036	惣座0式	実測図有	2		2		1		1	1			4	11	6	1	2	1	2	1					1		
		実測図無												4	3	2	1										
		小計	2	0	2	0	1	0	1	1	0	0	4	15	9	3	3	1	2	1	0	0	0	0	1	0	0
SH12041	惣座式	実測図有	2				1	3					1	13	8	8		1								2	
		実測図無												29	4	5				8							
		小計	2	0	0	0	1	3	0	0	0	0	1	42	12	13	0	1	0	8	0	0	0	0	0	2	0
SH12043	村徳永新段階～千住式古段階	実測図有	4	1										16	11	4	4		3					1	0	3	
		実測図無											1	7	8	3				3							
		小計	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23	19	7	4	0	3	3	0	0	0	1	0	3	0
計			19	3	7	1	11	3	3	1	4	0	14	228	75	55	11	7	10	25	0	0	1	1	1	5	0

参考文献

村上恭通 1993「古墳時代の鉄器生産」考古学ジャーナル 366
佐賀市教育委員会 1993『大野原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第 48 集
福岡市教育委員会 1993『博多 36　59 次調査』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 328 集
福岡市教育委員会 1993『博多 37　65 次調査』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 329 集
村上恭通 1994「弥生時代における鍛冶遺構の研究」考古学研究 41-3
長屋　伸 2002「弥生時代の鍛冶技術について」九州考古学会・嶺南考古学会第 5 回大会資料集　細形銅剣文化の諸問題
石川県教育委員会 2002『一針 B 遺跡・一針 C 遺跡』
島根県埋蔵文化財調査センター 2003『古志本郷遺跡Ⅵ　K 区の調査』
福岡市教育委員会 2006『博多 106　147 次調査』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 892 集
村上恭通 2007『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店
鍛冶関係遺構・遺物集成 2012『日本考古学協会 2012 年度福岡大会研究発表資料集』
比佐陽一郎 2010「北部九州における古墳時代前期の鍛冶関連資料」『韓鍛冶と倭鍛冶』鍛冶研究会シンポジウム資料集
宮本一夫 2012「北部九州の鉄器生産と流通」『日本考古学協会 2012 年度福岡大会研究発表資料集』

3，中原遺跡出土鉄製品・鉄片に関するまとめ

土屋了介

（1）はじめに

本書で報告した、図示できたものだけで 1,000 点を超える弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の鉄製品や鉄片、鉄滓などの資料は、これまで不明瞭であった当該期の鉄器普及の実態を示すもので、唐津地域の鉄器生産技術と鉄製品の地域性を明らかとし、鉄器製作技術や地域間の関係、社会の様相などについて、新たな所見を得ることができる。また、各種手工業生産の発展を窺わせる資料でもある。弥生時代から古墳時代へと移り行く中で、変化を遂げつつあった社会の構造が鉄器の様相にも反映されている可能性は高い。素材流通や技術系譜について新たな問題を投げかける資料群でもあり、その資料的価値は極めて高い。

ここでは、鉄器関連遺物の資料的価値を引き出すための手引きとなるよう、まとめを行い、資料活用の道を大きなものとしておきたい。

（2）弥生時代鉄器研究の到達点

まず、弥生時代の鉄器研究の到達点を確認しておくことで、中原遺跡出土資料の位置づけは、より明確になると思われる。ただし、弥生時代の鉄器製作に関連するものだけでも平積みで 1m を越す文量の研究が提示されているように、現在までに厚い研究の蓄積がなされており、ここですべてを紹介し、吟味することはできない。このため、鉄器の普及と生産に関わる最新の研究成果を概観し、必要に応じて遡ることで弥生時代鉄器研究の現状を効率良く把握することとしたい。本書で報告した中原遺跡出土鉄器製作関連遺物は弥生時代後期後半以降の資料であるが、中原遺跡では弥生時代中期後半には、副葬品として鉄器の出土が認められ、唐津市内の他遺跡からも弥生時代中期以降の鉄製品が出土しているため、利便性を考慮し、各時期の様相を見ておく。

日本列島出土の各種鉄器を精力的に調査・研究し、加えて、その理解のために東アジアの資料の検討も行うことで研究を体系的に進めている村上恭通氏は、鉄器について、「巨視的にみた鉄器の普及は、日常的な鉄器の流通や生産の蓄積であり、物流ルートが集落と集落とをつないで、そのルート上を鉄器や鉄素材が移動して実現される」（村上 2013、52 頁）とした上で、弥生時代鉄器の普及と生産とに項目を分け、以下のように説明している。

鉄器の普及

鉄器普及の様相は、鉄器生産開始前夜の様相と鉄器生産開始以降の鉄器の様相とに分けられる（村上 2011b・2013）。

①鉄器生産開始前：弥生時代前期の稲作農耕社会出現に関わる物流ルートが形成される。この段階ではすべての鉄器が舶載品であり、流通量にも限界がある。普及には次の二つの様相がある。

ａ．鋳造鉄器片・再加工品にみられる鉄器導入が動因になった地域（鉄器の機能性から鉄器獲得の意識が高まることで普及）

ｂ．祭祀を含む墓制の伝達と鉄器普及が軌を一とし、奢侈品生産のための流通へ関与することで鉄器が普及した地域（鉄器の機能への十分な理解とは関係なく普及）

さて、この段階における鉄器普及の様相については、次のようにまとめられている。

Ⅰ期．前期末葉～中期初頭：完形品が少なく、復元しうるのは鋳造袋状鉄斧、板状鉄斧、鉄鎌などに限られる。中でも鋳造鉄斧が卓越し、破片で出土することが多く、打割や研磨といった石器製作技術の応

用によって再加工され、斧ではない、他の機能を有する鉄器への再加工品も認められる（野島 1992、村上 1992a・1994a）。また、この時期の鉄器は利器の中心的存在である石器をわずかに補足するものであり（潮見 1982）、生産現場への影響は限定的である（川越 1993）。

弥生時代に再加工された鋳造鉄器は中国東北部から朝鮮半島西北部にかけての地域で生産されたとみられ、この地域では楽浪土城に顕著なように次第に鍛造鉄器が卓越するようになるため（村上 2011b）、鋳造鉄器の流通は前漢代以降、減少していくものと考えられる。

この時期、朝鮮半島東海岸地域では小規模な鉄器生産が開始されており、慶尚南道勒島遺跡や釜山市萊城遺跡では大量の北部九州系土器が出土していることから、北部九州の弥生人が新たな生産技術である鍛冶技術を獲得しようとしたとみられる。しかし、日本列島では鋳造品が卓越し、鉄器生産や日本列島産鍛造鉄器の普及はかなり限定的に考える必要があり、需要を満たしたのは斧を主体とする舶載鋳造鉄器とその破片の再加工品であった（村上 2011b）。

②鉄器生産開始以後：九州での鍛冶による鉄器生産が確実に認められるのは中期末葉である。鋳造鉄器再加工品は地域によっては残存するものの、鍛造鉄器が急増する（村上 2011b）。

また、地域に即した鉄器研究の進展とともに、地域区分も過去の研究で提示されたものから見直しがなされており、村上氏は、川越哲志氏が提示した鉄器普及の状況の図（川越 1984）における「北九州」、「南九州・南島」、「瀬戸内」、「山陰」、「近畿」、「東海・北陸」、「関東」、「東北」の内、「南九州・南島」は南九州から中九州（熊本）を切り離し、さらに南九州は東西に分け、「東海･北陸」も長野、山梨といった内陸地域を設定し北陸と東海を分離させる必要があり、「近畿」も北と南を分け、「瀬戸内」も山陰と四国北岸地域とを分ける必要性があることを指摘している。妻木晩田遺跡と青谷上寺地遺跡で多量の鉄器の出土があった「山陰」も内容や評価の変更が必要で、北部九州、中九州に準ずる鉄器の有り様により、多様な研究の進展が促された（村上 2013）。中原遺跡の鉄器および鉄器製作関連遺物に関係する北部九州、中九州、日本海沿岸、瀬戸内の諸地域の様相は時期別に以下のようにまとめられる。

Ⅱ期．中期末葉～後期前葉：「袋状斧や鑿に代表される舶載鋳造鉄器やその破片あるいは板状斧に代表される舶載鍛造鉄器は、地域によって多寡こそあるものの、各地に受容されている」（村上 2013、55 頁）。各地の鉄器製作技術の水準を示す指標となりうる袋状鉄斧は、後期中葉以降のものと比較しても大型で、巧妙に鍛打や折り曲げ等が施され、地域によってはⅢ期よりも製作技術は高い（村上 2011b）。

a．北部九州地域：収穫具の摘鎌を除き、ほぼすべての器種が中期末葉にはそろっている。武器として短剣、戈、武器／狩猟具として鉄鏃、工具として袋状斧、板状斧、Ⅰ式鉇、刀子、鑿、農具として方形板鋤先、鎌などが挙げられる（村上 2013）。袋状鉄斧などの工具は大きさ・機能ともに分化が認められる。穂摘み具である摘鎌を欠いているのみで、それ以外の器種は古墳時代中期まで基本的に維持される鉄器組成となっている（村上 1998、2011b）。

b．中九州地域：朝鮮半島系板状鉄斧、北部九州系袋状鉄斧、舶載鋳造鉄器再加工品が認められ、北部九州では残存的現象である鋳造鉄器再加工が顕著にみられる（村上 2007）。

c．日本海沿岸地域：多様な形態の袋状鉄斧が散見されるが、主な斧は板状鉄斧である（村上 2007）。板状鉄斧は大型品が目立ち、朝鮮半島産のものもある。鉇は裏すきが刃部のみに認められるものがあり、九州系のⅠ式鉇とは異なるⅡ式鉇が出現している。主な鉄鏃は無茎三角形式であり、有茎鉄鏃は極僅かである（池淵 2008）。器種は無茎鉄鏃、鋳

造鉄斧、袋状鉄斧、板状鉄斧、Ⅱ式鉇、刀子、鑿、鑿、板鋤先、鎌、穿孔具などが挙げられる。

d．瀬戸内地域:九州とは異なるⅡａ式鉇が創出され、各地での個性的な鉄器生産の様相が窺われる。九州に近い様相の地域と異なる地域とが入り混じる。東部ほど技術的制約もあり、平板な鉄器を生産する指向性がある（村上 2013）。

周防灘沿岸：鉄鏃、袋状鉄斧・鑿、板状鉄斧、Ⅱａ式鉇、鎌などが挙げられる。

愛媛県平野部：鉄鏃、袋状鉄斧、Ⅰ式鉇など（大型武器・工具以外）が挙げられる。

香川・徳島県域：愛媛県同様であるが、裏すきの退行した鉇に変化する。

播磨灘～大阪湾沿岸：国産板状鉄斧、極少量の袋状鉄斧などが挙げられる。

Ⅲ期．後期中葉から終末期：鉄鏃や鉇といった小型の鉄器は、生産も容易であるため、個性的な製品が各地で生産されたが、素材量を多く必要とする斧などの工具類や農具のあり方は問題であり、東であるほど袋状ではなく板状の鉄斧に依存し、開墾具・耕起具としての方形板鋤先や収穫用農具の鉄鎌などの普及も緩慢になる。地域によっては、前時期よりもひとつの製品への鉄材投入量の低下や鍛打の巧妙さの低下が認められる。広島湾沿岸では後期中葉の小型器種を中心とした個性的な鉄製品の生産の後、終末期の板状鉄斧や袋状鉄斧、鎌などの重厚な作りの鉄製品が製作された（村上 2013）。

a．北部九州地域：前段階に加え、摘鎌が出現する。古墳時代中期まで維持される基本的な鉄器組成が完成し、鉄製釣針も各地に分布するようになり、漁撈具も鉄器が用いられる。鉄戈は姿を消し、短剣も減少し、素環頭刀・大刀や鉄矛といった舶載武器の副葬が増加する（村上 2011b）。

b．中九州地域：鉄器量が急増し、熊本県域では弥生時代で鉄器出土集落が最も密集する地域も形成される。武器、狩猟具、農工具のあらゆる器種が鉄器化する。舶載板状鉄斧、規格・刃部形態が多様な袋状鉄斧が存在し、有帯袋状鉄斧が卓越し、刀子が多い。華奢な作りから在地生産品と判断される素環頭刀子も一定量存在するほか、摘鎌は北部九州を凌駕する量が出土しており（村上 2007）、北部九州とは器種組成が若干異なる（村上 1992b）。穿孔具や船底状鉄器、耳かき状鉄器といった小型工具も卓越する。袋状斧も小型・細型が多く、手斧や鑿としての機能をもつものが卓越していた（村上 2010）。

器種を挙げると、短剣、無茎鏃、有茎鏃、大型鏃、Ⅰ式鉇、刀子、袋状鉄斧、穿孔具、摘鎌、鎌、小型尖端工具、小型片刃工具、板状工具、船底状鉄器、鋳造鉄器片などとなる。

c．日本海沿岸地域：袋状鉄斧が卓越し、有帯袋状鉄斧や袋状鉄鑿など、九州産と考えられる鉄製品が含まれ、方形板鋤先も鉄器組成に安定して入っている。朝鮮半島嶺南地方産鋳造鉄器である鑵や鍛造鉄器のタビが散見され、舶載の大刀や長剣が墓の副葬品として出現する。素環頭大刀から切り離された素環頭も青谷上寺地遺跡では出土しており、大刀は本来素環頭を有していたものとみられる。短剣の副葬も多く、在地生産品や舶載品、列島内他地域産といったように鉄器を獲得する手段が豊富であったと考えられる。また、鉄針などの玉作用工具のように、農耕生産用鉄器とは異なる目的の鉄器も認められる（村上 2007）。

器種は大刀、長剣、短剣、無茎鏃、有茎鏃、Ⅱａ式あるいはⅣｂ式の鉇、袋状鉄斧、袋状鑿、鑿、耳かき状工具や船底状工具といった小型工具類、非定形的な工具類、素環

頭刀子、方形板鋤先、鎌、舶載鋳造鉄器、攻玉具としての鑿・針、漁撈具としてのヤス・銛・刺突具・釣針などが挙げられる。玉作りや木器製作、漁撈を目的とした鉄器組成が特徴的である。

d．瀬戸内地域：短剣形鉄器の長短セットが点在し、西部瀬戸内地域では素環頭刀子や摘鎌が出土し、北部九州的組成を志向するものの、鋳造鉄器片再加工品も存続する。板状の身部と鏝状の刃部をもつⅣａ式鉇が創出され、袋状鉄斧も個性的なものがある。有茎鏃、刀子、方形板鋤先、鎌、釣針も鉄器組成に入っている。

中部～東部瀬戸内地域は鏃、鉇といった小型器種は増加するものの、組成は前段階を維持し、収穫具も稀である（村上 2011b）。

鉄器生産

鉄器生産の様相については、中期末葉に確実に鍛冶工房が存在する北部九州だけではなく、日本海側と瀬戸内側でも鉄器生産が行われており、四国では徳島県の徳島市名東遺跡 SB2004 や矢野遺跡 SB2037 において、北部九州との関わりの中でもたらされた技術による I 類鍛冶炉が検出されている。村上氏は香川県や愛媛県、広島県、山口県における弥生時代後期の鍛冶遺構の検出例も挙げ、加えて、終末期には強い地域性が鉄器製作において看取される地域もあることを確認している（村上 2013）。

そこでは弥生時代の鉄器とその背景とに関する検討が地域に即して進められていることが示され、地勢や航路を中心とした物流ルートを重視しながら、時代性や地域性が論じられている。村上氏は同じ海域に面している瀬戸内の各地域であっても、古墳時代へ向けての道程は、必ずしも同じではなく、それが弥生時代社会の限界であると結論している（村上 2013）。

それらを踏まえて、川越哲志氏が述べた、弥生時代における日本列島内の農工具鉄器化という現象が一律に進んだものではなく、器種・地域ごとに時間差が認められ、石器減少＝鉄器普及という見解とは必ずしも結びつかず、鉄器生産や価格、流通組織を含めた弥生社会の動向と密接にからみあう（川越 1984）という指摘が正確であり、現在も妥当であることを指摘している（村上 2013）。

中原遺跡出土鉄器製作関連遺物も北部九州の様相を良好に示しうる資料群である。そこで、次にこれまでに出土鉄器の検討から復元された鉄器製作技術を確認しておきたい。

①鉄器製作技術

鍛冶には不純物を含む鉄素材を精製する精錬鍛冶と鉄素材から製品を作る鍛錬鍛冶とがある。村上氏は精錬鍛冶を A 工程、小型鉄塊・素材を熔着・鍛接し大型素材を作る高温鍛錬鍛冶を B 工程、準備した鉄素材から製品を作る低温鍛錬鍛冶を C 工程、古鉄や未製品などを再利用し素材とする工程を R 工程とする。C 工程と R 工程はさらに細分され、C1 工程は鍛打により鉄板の厚みを調整し、折り返しなどの技法により立体的な鉄器を製造する。C2 工程では素材を叩き延ばし、難易度の低い折り返しや鏨切りを加えるなどして、薄く扁平な鉄器を製造する。R1 工程は回収した鉄材を高温で溶融・鍛接し、より大きな素材を生成し、新たな鉄製品を製造する。R2 工程は溶融・鍛接せず、回収鉄材をそのまま再利用して新たな鉄製品を製造する。このため、R2 工程では素材となる回収鉄材よりも小さな器種が製作される（村上 2000a）。R 工程は古墳時代前期以降に徹底されるものとみられるが、古鉄の再利用が増加するほど、集落内の出土鉄製品は少なくなる傾向にある（村上 1998、真鍋 2003、池淵 2004、林 2005、阪口 2012）。また、R1 工程から想定されがちな、薄い鉄板から棒状素材や塊状素材を製作する行為が本来的には極めて非効率であることも指摘されている（村上 2012）。

各工程の可能・不可能、成熟度には地域差が認められる。この点については、生活の必需物資として

のみの意味で、副葬品に代表されるようないわゆる威信材としての役割が無い場合、利器としての機能を果たせば良く、技術向上を必要としないとする意見（禰宜田 2013）もある。玉作りや精巧な木器生産といった威信材の専業的な製作にみあった鉄器の生産が、各種器財の生産技術向上に寄与したとする意見（野島 2008）もあり、需要に応じた鉄器製作がおこなわれ、その中で地域によって部分的な技術向上も起こっていったものと想定される。また、加工可能な鉄素材の供給が十分であることが鉄器生産遺跡の立地条件と言える（孫 2008）。

以上の諸工程は、鍛冶遺構のある集落すべてで可能であったわけではなく、鍛冶炉の性能に応じて可能な工程は限定される。この鉄器製作技術の制約は各地の鉄製品の質や機能に反映されており（村上 2000a）、弥生時代の鉄器の観察・実測作業を通じて、日本列島での鉄器製作技術として五種類が指摘されている（村上 2007）。

a 裁断：鉄素材を鏨で裁断する技術である。無茎式鉄鏃や扁平な有茎式鉄鏃の薄い鉄板からの切り出しや各種利器の刃部の成形時に鏨切りが施される（村上 1994b・2007、上栫 2005）。このとき、三角形鉄片や叉状鉄片などの裁断片が副産物として生成される。冷間作業における鏨切りの痕跡は鋭く、明瞭な稜線や段差が生じる。弥生時代後期後半の熊本県二子塚遺跡出土の三角形鉄片ではこの明瞭な稜線や段差は認められなかったことから、熱した状態での鏨切りでは表面張力により、稜線や段差が不明瞭となったものと推測された（村上 1992c）。鏨切りを多用する鏃については、二子塚遺跡例において大澤正己氏により、金属学的分析がおこなわれており、塊錬鉄由来の炭素分 0.1％以下の極軟鋼を素材としたことが提示されている。裁断片である三角形鉄片等も同様である（大澤 1992）。焼き入れによる硬化が望めない軟質材であっても、小型利器としては問題なく、製作の容易さから鉄鏃生産量の増加を促したものとみられる。

b 鍛延成形：適温に加熱し、鉄素材を叩き延ばす技術である。長大な器種ほど、巧妙な鍛延技術を必要とする。鉄戈や長剣、短剣、造形に多様性が認められる大型無型式鉄鏃、鉇、袋状鉄斧、袋状鉄鑿、鋤鍬先、摘鎌など多くの器種の製作に必要な技術である。夏栗遺跡の事例のように、小さな鉄板を部分的に叩き延ばし、厚みのある部分と薄い部分とを作り、鏨切りによって切り離すことで穿孔具を作る事例も報告されている。なお、螺旋状鉄釧は針金製作に類する鉄素材の引き延ばしを施した上で、同じ幅と厚みで 1m 以上にまで鍛延され、日本列島産の鉄器にはみられない特異な技法によって製作されていると指摘されている（村上 2007）。この指摘から均一な鍛延ほど難易度が高く、鉄器の形態から製作者の熟練度を窺うことができると言えよう。

c 鍛打成形：適温で素材を叩き、厚みや形を調整する技術である。例えば、鏃の茎の成形では表裏面、両側面への鍛打の有無が茎の断面形に反映され、丁寧に鍛打されたものは断面正方形で丈夫な鏃となる。大型無型式鉄鏃や身と茎を交互に鍛打し厚みを調整することで製作される有茎式鉄鏃、鉇の裏すきや身部などの成形時に施される（村上 2007）。

d 折り曲げ成形：素材を折り曲げて成形する技術である。鍛延により厚みを調節した後に施される。袋状鉄斧や袋状鉄鑿、鋤鍬先、摘鎌などの着柄部や釣針、素環頭刀子の環頭部、鉄鎌の「地獄止め」のほか、有茎式鉄鏃の内で板状素材を内側に折り曲げ、側縁からたたむように鍛打し頑丈な茎部を成形する際にも施される。立体的な鉄製品製作時に用いられる技術であり、作業台である鉄床石の上で叩く場合と柄張りに巻き付けるように折り曲げる場合がある。着柄部の強化を目的として、袋部端部を折り返した鍛造有帯鉄斧も折り曲げ技法が駆使され製作されている（村上 2007）。

e 鍛接：素材間の接合部分を融点近くまで加熱して強く鍛打することで、圧力をかけ、融着させる方法である。「沸かし付け」と呼ばれる技法である。北部九州や中九州地域では融着した三角形鉄片や表面張力で膨張した鉄板が認められ、半溶融状態での鍛接が可能であったことを示す。長大な鉄戈や剣などの製作時には鍛延の前に素材を鍛接し、大型素材を製作することが必要となる（村上 2007）。

②鍛冶炉

鉄器製作技術のうち、鍛延や鍛接は炉の規模や性能によっては実行できないことが多い。中原遺跡では炉の検出が無かったものの、鉄器製作技術から炉の性能を推し量ることができる可能性はある。弥生時代の鍛冶炉は次のⅠ～Ⅳ類に分けられている（村上 1994b・1998・2000a・2011a）。

Ⅰ類：掘り方が大きく、掘り方の内壁・底をよく焼き締めた後、木炭や土を交互に重ねながら充填することで防湿施設（地下構造）を作る。内壁に粘土が貼られる場合がある。地下構造の上に木炭の床であるカーボン・ベッドが敷かれ、その上に燃料用木炭が積み上げられる。

Ⅱ類：掘り方は浅く、内壁がわずかに焼けている。地下構造は無く、掘り方直上にカーボン・ベッドが敷かれる。カーボン・ベッド上で燃料が燃えるため、掘り方表面の焼け方は非常に弱い。新しいものほど掘り方の比熱が弱く、炉内温度が低いものと推測される。

Ⅲ類：掘り方はほとんどない。床面をそのまま炉とするか、若干の粘土を敷く。わずかにカーボン・ベッドをもつ。カーボン・ベッドが薄いため、炉底の焼け方はⅡ類よりも強い。

Ⅳ類：掘り方はない。床面をそのまま炉底とする。全体としては操業温度が低く、焼け方も弱いものの、局所的に高温となり、中心は炉底がガラス化するほど被熱しており、同心円状の被熱痕となる。

Ⅰ類は弥生時代中期末に北部九州に登場し、徳島県矢野遺跡を東限とする。時期が新しいものほど小型化していき、九州では後期終末期まで残存する（村上 1998）。大型のものは鉄戈のような長大な武器生産に対応し、鉄戈製作で培われた特別高度な技術は、独自の長剣・短剣の生産も可能とした（村上 2011b）。

Ⅱ類は弥生時代中期末に北部九州に登場し、九州と西部瀬戸内地域を中心として分布する。後期の鍛冶炉は主にⅡ類鍛冶炉である（村上 1998）。十分な径、あるいは長さの炉であれば、大型の鉄器製作に対応できたと考えられる（村上 2011b）。木炭床の表面は皿状であるため、送風管からの風が流れると、鉄素材が全体的に被熱し、鉄素材から反射する熱風が対流し、高温空間が広くなる（村上 2011a）機能性の高い炉である。

Ⅲ類は中期末以降、関西以東に主に分布する（村上 2007）。機能性はⅡ類よりもⅣ類に近いものとみられる。

Ⅳ類は中期末に登場し、後期以降、山陰～北陸にかけての日本海沿岸地域に多数認められる。一つの工房内に複数基併存する例が知られる（村上 2007）。炉底が平坦であるため、送風管からの風は直進し、鉄素材は送風管先端との近接点のみが局所的に被熱し、不必要な鉄素材の目減りが生じるなど、Ⅱ類鍛冶炉と比べ、加工可能な鉄素材の大きさや厚み等に関する制約があったと想定される（村上 2011a）機能性の低い炉である。

また、日本列島では以上の床を掘り込んだ火窪型の炉が一般的であるが、中国における漢民族の城址や生活址や原三国時代、三国時代の朝鮮半島南部では鍛造剥片や鍛冶滓などの鍛冶関連遺物が出土するにも関わらず、鍛冶炉の検出例は極めて少なく、地上式の炉が主流であったとみられる。朝鮮半島の鉄生産、鋳造鉄器生産は中国戦国時代の燕国に起源をもち、鍛冶による鉄器生産も燕国の伝統を引き継い

でいるものと推測される。中国では後漢代の画像石に立った姿勢での鍛冶作業が描かれており、鍛錬鍛冶は立位が一般的であったと考えられるが、朝鮮半島に関連する吉林省の絵画資料では鍛冶神が椅子に腰をかけて作業をする様子が描かれている。これは床に直接座って作業をする平座位であったとみられる弥生時代の日本列島とは異なり、鍛冶炉の構造や炉床の高さは工人の姿勢や座位との対応関係があると言える（村上 2010b、2012）。

近接する朝鮮半島南部の鉄器生産状況も簡単にみておくと、弥生時代中期～後期に並行するとみられる原三国時代には、勒島遺跡や隍洞遺跡などの状況では、鉄素材から斧状の鍛冶素材や鍛造鉄器を生産しており、大規模集落の中で生産域と居住域が明確に分かれ、この状況は金想民氏によって鉄器生産が専門化される傾向がやや強くなったと評価されている。輸入流通構造の検討は資料的制約から難しいとされるものの、鉄器生産集落が周辺集落に二次素材である斧状鉄器や鍛造鉄製品を供給する段階とされる。勒島遺跡などでは弥生土器や楽浪土器が出土し、遠距離交流が想定される。また、対馬のカラカミ遺跡と勒島遺跡との鍛冶炉や鍛冶関連遺物の比較から、技術交流ではなく、素材流通を介した交流とされている（金想民 2010）。なお、勒島遺跡の鍛冶炉の検討では A 工程である精錬鍛冶がおこなわれた可能性が高いと判断され（金想民・禹・金銀珠 2012）、カラカミ遺跡においても精錬鍛冶がおこなわれた可能性を考え、炉構造とともに勒島遺跡との共通性が指摘されており（宮本 2012）、今後の検討が期待される。

朝鮮半島南部で発達する鍛造鉄器文化の技術的伝統は楽浪の鉄器文化に求めることができ、紀元 2 世紀前半には鉄鉱石の墳墓副葬や製錬された銑鉄塊が住居跡から出土するなど、鉄生産を積極的に想定しうる資料が出土している。それらの現象からは、戦国時代後期の伝統から脱し、漢代鉄器文化が本格化するなど、楽浪地域からの継続的素材供給や鉄鉱山開発や鉄製錬が想定される。製錬により生産された鉄塊は、不純物を取り除くなどする精錬工程を経ることで初めて鉄素材として用いることができ、出土遺物の状況からは製錬から精錬鍛冶を経て鍛錬鍛冶がおこなわれる一貫した工程であったことがわかる（孫 2008）。

3 世紀頃の華城旗安里遺跡では周溝付工房跡が 15 軒以上検出され、その出土土器の 60% が楽浪系土器であり、水晶玉や瓦の製作技法の状況も考慮し、楽浪系工人集団が移住して、製鉄や鉄器製作などの生産を担ったと推定されている。この時期には、生活域と生産域とが分離している状況にある（金武重 2012）。旗安里遺跡の炉は類炒鋼炉に分類される（真鍋 2013）。楽浪郡を介した製鉄・鍛冶技術の朝鮮半島への伝播が資料から立論されていると言えよう。真鍋成史氏によれば、この伝播は、楽浪郡が朝鮮半島南部から鉄の供給を受けるため､燕国系製鉄技術を工人とともに移転させたためと推定される。楽浪系土器の広がりから、楽浪郡と、204 年に楽浪郡を割く形で置かれた帯方郡の影響は朝鮮半島南部から日本列島にも及び、本格的な鍛冶技術が北部九州へ伝えられることとなったと推測される（真鍋 2013）。

なお、百済地域の鉄器生産は次のように鍛冶遺構の立地と生産製品による類型化がなされている（孫 2008）。

立地

Ⅰ型：生産集団内に造営される

Ⅰａ型：鉄生産専門集団

Ⅰｂ型：一般的生産集団

Ⅱ型：集落内に鍛冶遺構が造成される

Ⅱ a 型：生産された銑鉄を受給
Ⅱ b 型：鉄鋌のような鉄器中間製作素材を受給
Ⅱ c 型：廃品の収拾と需給

生産製品
A 型：鉄素材を製作する
Aa 型：銑鉄や精錬過程を経た素材で鉄器製作素材を製作する
Ab 型：廃品などを集め鉄器製作素材を製作する
B 型：鉄製品を製作する
Ba 型：馬具・短甲・大刀などの製品製作。最上級
Bb 型：一般の武具類や工具類の製作。中級
Bc 型：簡単な道具の修理・製作・再使用。下級

以上の要素の組み合わせにより、さらに鍛造遺構の類型化がおこなわれる。

1 類型（Ⅰ a+Aa+Ba）：鉄専門生産集団内の鍛冶遺構。多くが鉄生産遺跡に併存し、生産された鉄が供給される国家経営水準のシステム内に位置する。

2 類型（Ⅰ b+Aa+Ba）：生産専門集団内における鉄器生産集団の鍛冶遺構。鉄器製作素材の供給を受けて、上級の鉄器製作をおこなう。消費集団へ直接供給するための大量生産をおこなう専門製作集団。

3 類型（Ⅱ b+Bb、Bc）：集落集団内の鍛冶工房跡。鉄器製作素材の供給を受けて、自家消費のための鉄器を製作し、近隣の小規模集団へも鉄器を提供する。

4 類型（Ⅱ c+Ab+Bc）：集落集団内の鍛冶工房跡。鉄器製作素材の供給が不十分で、古鉄や他集団からの受給品を再溶融して鉄器製作素材を作り、中級以下の鉄器を製作する。鉄器製作素材の流通が円滑でない時期ないし集団にみられる一形態。

5 類型（Ⅱ c+Bc）：小規模集落内で簡単な鉄器製作、修理、再処理程度の作業をおこなう。鉄器の初期流入の一形態であり、鉄器供給が円滑でない段階の現象と言える。

弥生時代から古墳時代への鉄文化の展開

資料的制約から北部九州での鉄器生産における分業は不明な点が多いものの、中九州地域の状況からは集落間分業や鉄器生産部門内分業の進展が弥生時代後期中葉以降、進展しており、北部九州では部門内分業が徹底していたものとみられる。精錬鍛冶や高温鍛錬鍛冶、低温鍛錬鍛冶および古鉄再利用鍛冶をおこなう鍛冶工房が有機的関連をもっていたものと推測されている。北部九州における弥生社会の成熟度や階層分化が、鉄器の生産・流通に反映されており、農耕社会としての完成度の高さや進展を示していると言えよう（村上 2000b）。鉄器が階層化や社会の成熟を促したというよりは、社会の成熟度や他地域との良好な交易・交流が鉄器生産・使用ひいては文化的水準を押し上げていたものとみられる。

他方で、弥生時代の日本列島では鉄器普及、鉄器製作技術における地域差があり、ほとんどの鉄素材は海外からのもので、自立的な鉄器生産はできなかった。鍛冶技術者の数や技術レベルにも限界があった。鉄器生産技術は日本列島各地に伝播する過程で技術変容や低下が生じ、素材の備蓄も多くの地域においては古鉄の溶融・再利用ができない不自由さがあった。しかし、その限界性ゆえに量や種類の地域差のみではなく、形態、使用法、副葬法などが地域性をもち、多様な展開をみせた（村上 2011b）。

古墳時代前期初頭に鍛冶技術に革新が起こり、弥生時代にはない速度で北部九州から各地に伝播し、

それは関東にまで及ぶ（村上 1993）。鍛冶で製品化された鉄素材は舶載品であり、大量の鍛冶滓の出土から明らかなように、精製する必要のある不純物混じりの素材も多く含まれていた。その鉄素材精製は大規模に福岡市博多遺跡でおこなわれ、その自己消費量をはるかに超える素材生産により精製素材が各地へ流通し、消費されていた。この鉄素材精製は時期が新しくなるにつれ、可能な地域が増えていく。そして、列島全体の需要を満たすものではないものの、鉄鉱石・砂鉄からの鉄生産が古墳時代後期後半には確実に行われた（村上 2009）。古墳時代を通じて、鋲留技法などといった大陸・朝鮮半島からの新たな金工技術導入による飛躍的な鉄器製作技術の向上も起こり（村上 2006、阪口 2012 など）、未成熟で不安定な弥生時代鉄器文化は、古墳時代以降、本格的な鉄器普及と鍛冶技術の広がりが起こり、より完成度の高い鉄器文化へ向かって動き出す（村上 2005）。

（3）中原遺跡出土資料

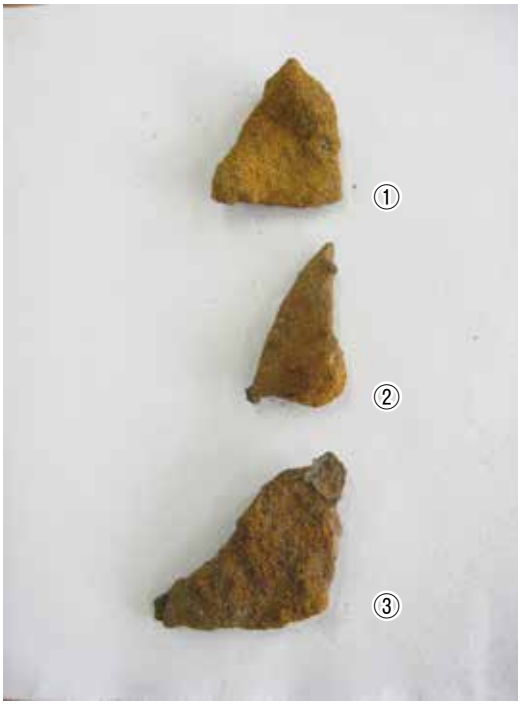
中原遺跡出土資料には、これまで資料的制約から不明な点の多かった北部九州における、弥生時代後期後半～古墳時代前期前半の鉄器使用・鉄器製作技術の水準および変遷を検討する上で重要なものが多数含まれている。ここでは特に注目される資料について概観しておきたい。

三角形鉄片

薄く成形された板状素材を鏨切りし、鉄器を製作する際の副産物である三角形鉄片は、大きくはその形態を３種類に分類することができる。写真１に示すように①３辺ともに直線的、②２辺が直線的、③２辺が直線的で１辺は内側方向へカーブする。①と②は鉄器製作時の鏨切りの回数の多寡を示している。②は板状素材の縁辺部を切り落としたものが多く含まれるとみられる。写真に示した③は断面が観察できる状態になっているため、湾曲した辺の断面形が鋭く薄くなっていることを明瞭に確認することができる。切断痕とは形態的特徴が異なり、湾曲は刃物として用いたため磨り減った結果である可能性が高い。



穿孔具への転用品



三種類の三角形鉄片





刃物への転用品



三角形鉄片③の破面

写真１　三角形鉄片

複数の個体が確認でき、鉄片再利用は単発的な行動ではない。

再利用は刃物としてだけではない。三角形鉄片の中には先端部断面形が円形を呈するものがある。こ



常温の切断痕　　熱した状態の切断痕

写真２　三角形鉄片に残る切断痕



写真３　圭頭鏃製作工程の復元



写真４　SH12035 における摘鎌製作工程の復元

の形態的特徴については、穿孔具の使用済みのものと未使用のものの観察所見を参照すると、穿孔具として利用されたため、断面形が丸く変化したものと類似している。

製作残滓である鉄片を再利用し、刃物や穿孔具として再利用している資料も含まれている。鉄片の再利用は熊本県に類例があるという。再利用品は現状では存在するという認識が共有されていない資料群であり、今後、類例の調査研究・報告が必要と考えられる。

鉄器製作技術に関連する資料として、三角形鉄片の中には切断の痕跡を良好に残すものが挙げられる。写真２に示したように、明瞭な切断痕をもつものと表面張力が働いたため丸みを帯びるようになった

ものとが観察できた。先行研究で指摘されている通り、明瞭な切断痕のものは常温で切断され、切断面が丸みを帯びているものについては鉄板を熱してから鏨で切断したものと判断される。

村上恭通氏の教示によると、弥生時代の鉄板切断方法は、必ずしも鏨の硬度が鉄板より高いと限らないため、基本的に熱してからの鏨切りであり、鏨の硬度を調整できる古墳時代中期以降は常温での鉄板切断が主になるという。中原遺跡では、弥生時代後期後半の竪穴建物址を壊す形になっている古墳時代前期前半の前方後円墳 ST12032 出土の資料に、写真で示した常温での切断痕をもつ三角形鉄片が含まれていた。常温切断が中原遺跡では弥生時代後期後半に遡る可能性があると言え、全体の技術水準の吟味が重要である。写真の提示はしていないが、少しだけ熱して切断した中間的な切断痕跡をもつ資料も確認できる。

製作時に三角形鉄片が生成される弥生時代の鉄器はいくつか想定できるが、中原遺跡では加工途中で放棄されたとみられる未製品も出土しており、摘鎌と圭頭鏃は出土資料から製作工程を復元することができる。素材となる板状品や鉄片の形態、大きさの検討から、製品の多様性について検討するための手がかりを得ることができると考えられる資料状況である。

圭頭鏃製作過程は中原遺跡では板状素材を鍛延・鍛打成形し、先端を鏨切りすることで製作されたとみられる。成形時の切れ端は三角形鉄片となる。中原遺跡の圭頭鏃は茎部が厚く、鏃身部で薄くなり、

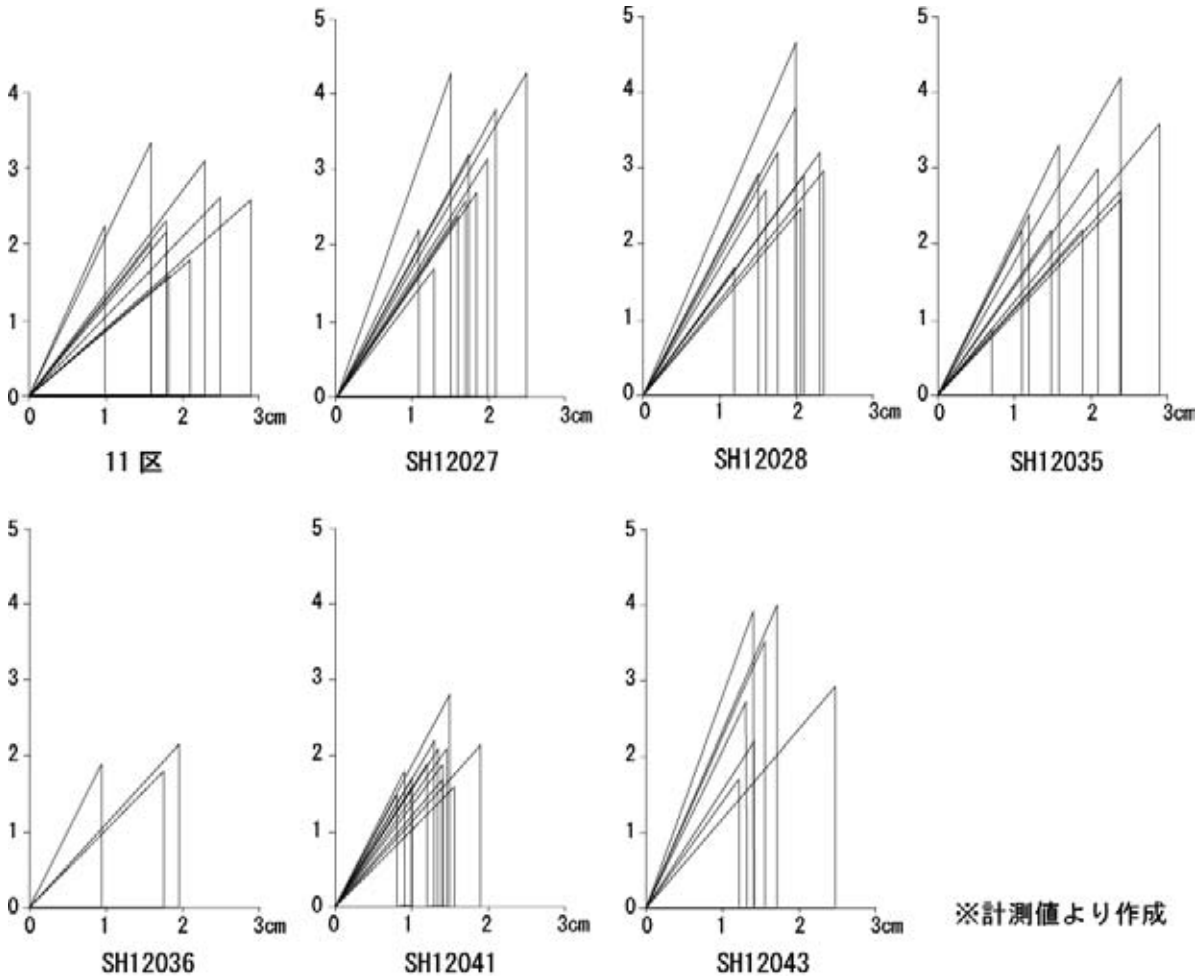


図230　竪穴住居跡出土三角形鉄片の寸法の比較

さらに刃部先端へ向かって、徐々に厚みを減じるものがほとんどであり、技法的にも、鏃としての機能性についても安定していると評価されうる。C2 工程もしくは R2 工程が想定される。

摘鎌が SH12035 から出土しており、また摘鎌と同様の幅・厚みの長条形板状品が SH12035、SH12043、SK12018 から出土している。このような板状品を材料に摘鎌は製作されたと考えられる。摘鎌製作時には折り返し部を成形する際に微小な三角形鉄片が副産物として生成される。12 区において、微小な三角形鉄片が出土する背景には摘鎌の生産があるのだろう。写真 4 に示すように、板状品や微小な三角形鉄片といった摘鎌の製作工程を示す資料が、SH12035 においてまとまって出土しており、これに SK12018 出土の未成品を加えることでその工程を復元することができる。また、鉄素材の鍛延もおこなっていたと考えられ、鉄滓を伴っている。この滓は大きさが小さいことから、精製された素材を用いたものとみられるとともに、鉄が半溶融状態になる高温へと達する状況であったものとみられる。断面観察のできる資料からは回数は少ないものの折り返し鍛錬も実施しているとみられ、層状剥離が起きうる、組織に方向性がある状態にあるものとみられる。供給鉄素材とは性質が異なる状態で製品化されているとみられ、鉄器製作工程は B・C 工程が想定される。

12 区出土三角形鉄片に微小なものが含まれている要因として摘鎌の製作が考えられるように、三角形鉄片の大きさには、ある程度製作された鉄器の種類が反映されているものとみられる。器種の検討は今後の研究に委ねたいが、基礎データとして、三角形鉄片の寸法を模式的に示し、比較するため図 230 をして示しておく。

鏃

写真 5 に示す SX12082 出土圭頭鏃未成品（図 156-7）は刃部の左右両側を折り曲げた特異なものである。鏃の刃部の成形技法は切り落としのみではなく、複数であったと言え、鉄器製作における自由度の高さが窺える。折り曲げ成形するのは刃部のみではなく、茎部にその痕跡を残す資料もある。棒状の製品を作る際の選択肢の一つであったのだろう。C1・C2 工程、R2 工程が想定される。

また、鏃には地域色を有するとみられるものもあり、SH12032 出土の無茎鉄鏃で基部 U 字形刳りこみをもつものは肥後地域に類例がみられる。



写真５　圭頭鏃における刃部折り曲げ成形



写真６　船底状鉄器

船底状鉄器

日本海沿岸と熊本のみで確認されていた船底状鉄器（村上 2007）とみられる資料には図 161-19

（SH12027 出土）、図 188-19（SX12085 出土）が該当する。これまでの分布の空白を埋める資料である。「船底状鉄器」は一辺が折り返された小形の刃物である。この器種もあまり知られておらず、貴重な出土例と言えよう。

板状利器

板状の鉄片の辺の一つを鋭く研ぎ、刃部を成形することで製作された利器である。非定形的な鉄器の一つであり、意図された用途の特定は難しい。身は直線的で、刃部は両刃となる。刃が対象に接する角度は船底状鉄器とは異なったと想定され、持ち方や手の動きも異なっていただろう。



写真７　板状利器

C2 工程や R2 工程が想定される。

穿孔具

穿孔具は定型化したものがある。熊本県に類例があるものの、存在の認識の共有が不十分な器種である。穿孔具はその製作の当初から穿孔具を作ることを意図したものと、粗製品としての棒状品を製作しておいて、必要に応じて各種鉄器に仕上げる中で、結果的に穿孔具として仕上げられたものがある。棒状品の製作過程とみられる資料も出土しており、中原遺跡では棒状品の製作方法が 4 パターン確認できている。



写真８　棒状品の製作技法②



写真９　棒状品の製作技法③

①鉄鏃などの刃部調整時に生成される細長い鉄片を利用する。図 185-32（SX12081 出土）。R2 工程と言えよう。

②岡山県夏栗遺跡と同様の方法で、棒状とする部分以外を叩き延ばして薄くし、不要箇所を鏨切により切断・除去する（上栫 2005）。図 185-4（SK12044 出土）、図 198-22（SH11228 出土）。この切断前の棒状部分は図 171-21（SH12028 出土）のような折り返しにより成形される場合もあるとみられる。他の製品とし難い、極めて小型の棒状品は穿孔具を製作するために意図的に製作されたものと判断される。C2 工程もしくは R2 工程と言えよう。

③三角形鉄片などの一部を巻き込み気味に折り曲げて、先端が細くなるように加工する図 175-16（SH12041 出土）、図 166-7（SX12081 出土）。摘鎌の成形技法と同様の技術で可能な折り曲げ技法と

みられる。平板な素材を巻き込むように折り曲げる技法から、C1 工程と言えよう。R2 工程中にも製作されうる。

④鉄片の一部を鏨切し、研磨することで穿孔具とする図 162-8（SX12085 出土）。元の鉄片の形を残しており、形態にばらつきがある。C2・R2 工程と言えよう

中原遺跡では着柄状況を示す資料が出土している図 166-9（SX11057 出土）。一部に木質が付着するものに図 162-20（SH12041 出土）がある。また、繊維状の付着物が認められる図 162-26（SK11214 出土）も着柄状況を示す資料と思われる。

融着した鉄片

SX12081 出土鉄片（図 193-13）は棒状品 2 点の鍛接途中の資料である。村上 2000 における R1 工程によるものとみられる。鉄材の再利用にあたり、高温鍛冶により鉄片を熔接し、より大きな素材として成形している工程の途中で放棄された資料である。表面張力により、鉄片表面が膨張しており、丸みを帯びていることからも、半溶融状態になるまで加熱されていたことがわかる。B 工程も可能な鍛冶技術の水準にあるとみられ、可能な鍛冶の工程の組み合わせが変わると、製作可能な鉄器の種類も変わるため、重要な資料といえよう。

鍛造剥片

11 区出土の鉄片集合体には鍛造剥片が付着していた。調査において回収することはできなかったものの、鍛接による鉄片の鉄塊化や素材形態の大きな変化を伴う成形においては、鍛造剥片が生じていたものとみられる。

鉄片の出土や鍛冶の痕跡が検出された場合には、今後は鍛造剥片を回収できるようにしていきたい。

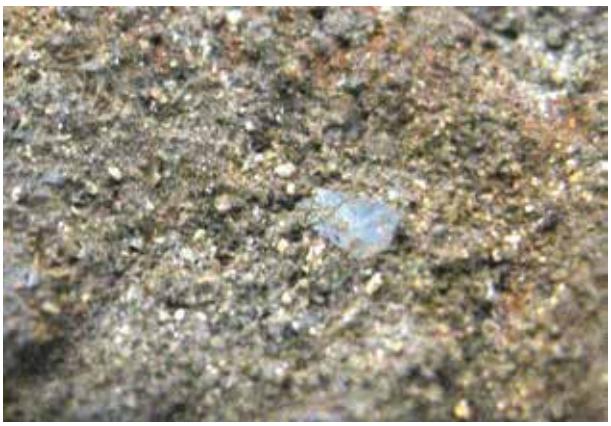


写真 10　鉄片に付着した鍛造剥片

（4）小結

鉄片の検討からは、中原遺跡では弥生時代後期後半に B 工程、C1・2 工程、R1・2 工程が可能であったものと考えられる。技法的には裁断、鍛延成形、鍛打成形、折り曲げ成形、鍛接といった、先行研究で指摘されていた鉄器製作技法が一通り揃っている。鍛冶炉自体は検出されていないものの、鉄器や鉄片、技法上の特徴からは、Ⅱ類相当の機能をもつ鍛冶炉とⅣ類相当の機能をもつ鍛冶炉が必要に応じて構築され、使用されていたものと想定される。孫明助による類型では 3 類型に相当し、一時的に 4 類型となることもあったと考えられる。鉄器や鉄片の生成状況からは鉄器製作技術は一定水準以上であることを保っており、弥生時代後期後半の中での経年的技術劣化は認められなかった。古墳時代前期に入ると様相が変化し、三角形鉄片の出土量が減少傾向を示し、鉄滓の出土量も増加する。様相の変化が追える点に加えて、各鉄器生産のおこなわれた時期を絞り込むことができる点において、資料的価値が極めて高い資料群と言って差し支えないだろう。

鉄器組成としては不明な所も多い中原遺跡ではあるものの、可能な工程と鉄器生産類型および摘鎌の鉄器化と生産が達成されている点などを踏まえると、九州の村上Ⅲ期の様相を呈している。鉄器の機能性に起因した鉄器獲得および生産が志向されている段階にあるとみられ、北部九州的な様相が想定され、今後、唐津市内における発掘調査によって地域的鉄器組成が明らかにされていくものと考えられる。

鉄片等が出土し、鍛冶炉が検出されない状況は、中国や朝鮮半島と同様の状況であり、地上式の炉の

想定が妥当であると思われる。中原遺跡の出土資料によっても、北部九州の鉄器製作技術は中国や朝鮮半島との関係性が強いものであったと想定されよう。

膨大な鉄片からは安定的な鉄素材供給があったと考えられる。鉄器製作にあたって、鉄滓の生成量が極めて少なく、精製度の高い鉄素材を使用していたとみられるほか、製錬の痕跡は認められないため、中国大陸や朝鮮半島からの鉄素材供給に依存していたものと考えられる。また、可能な鉄器製作工程の豊富さから、一定量の鉄が齎された後は、古鉄の回収・素材化による鉄素材の準備によっても、必要量の鉄を確保することができるため、一時的に中国や朝鮮半島から鉄素材供給が停止したとしても問題は生じにくかったものと考えられる。素材供給の不安定な状況の中においても安定的な鉄器生産を可能とする技術的成熟は、鉄器使用の目的を果たす上で、戦術的にも戦略的にも寄与する所が多かったものとみられ、成形された素材が供給される状況下において本来的には非効率極まりない古鉄再利用が発達する要因ともなろう。

鉄片の出土量からは中原遺跡周辺の集落で消費される量を大きく越え、鉄製品が大量生産されていたものとみられる。自家消費量を遥かに越えるとみられる鉄器生産が、質を保ちながら継続的におこなわれている現象をどのように評価するべきかについては今後の検討に委ねたいが、中原遺跡は、古墳時代に至る前に集中的な鉄器生産・素材生産が可能な集落が形成されていたことを明らかにしうる、極めて重要な遺跡であると認識される。

参考・引用文献

池淵俊一 2004「鉄器生産」『考古資料大観』10、弥生・古墳時代　遺跡・遺構、小学館

池淵俊一 2008「出雲・石見・隠岐の鉄器」『山陰における弥生時代の鉄器と玉』第 36 回山陰考古学研究集会、第 36 回山陰考古学研究集会事務局

上栫　武 2005「弥生時代の鉄器生産」『夏栗遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 194、岡山県文化護協会

大澤正己 1992「二子塚遺跡出土鉄器及び鍛冶関連遺物の金属学的調査」『二子塚』熊本県文化財調査報告書第 117 集、熊本県教育委員会

川越哲志 1984「弥生時代農工具鉄器化の諸問題」『たたら研究』第 26 号、たたら研究会

川越哲志 1993『弥生時代の鉄器文化』雄山閣

金想民 2010「韓半島における鉄生産研究の動向――初期鉄器時代から三国時代までを中心として――」『季刊考古学』第 113 号、雄山閣

金想民・禹・金銀珠 2012「韓半島南部地域における鉄器文化の成立と発展」『みずほ』第 43 号、大和弥生文化の会

金武重 2012「原三国～百済漢城期鉄器および鉄生産集落の動向」『日韓集落の研究―弥生・古墳時代および無文土器～三国時代―』日韓集落研究会

阪口英毅 2012 鉄製品「鉄と鉄製品」『古墳時代　下』講座日本の考古学 8、青木書店

潮見　浩 1982『東アジアの初期鉄器文化』吉川弘文館

孫　明助 2008『百済の鉄器文化』周留城出版社（日本語訳 2012、孫明助先生追悼記念事業会）

禰冝田佳男 2013「近畿地方における『石器から鉄器へ』の再検討」『平成 25 年度瀬戸内考古学研究会第 3 回公開大会　予稿集』瀬戸内考古学研究会

野島　永 1992「破砕した鋳造鉄斧」『たたら研究』32・33、たたら研究会

野島　永 2008「弥生時代日本海沿岸諸地域におけるクラフト・スペシャリゼーションと鉄器文化」『山陰における弥生時代の鉄器と玉』第 36 回山陰考古学研究集会、第 36 回山陰考古学研究集会事務局
野島　永 2012「弥生時代後半期の鉄器文化（近畿・瀬戸内地域）」『一般社団法人日本考古学協会 2012 年度福岡大会研究発表資料集』日本考古学協会 2012 年度福岡大会実行委員会
林　大智 2005「日本海沿岸域の『鉄』が北陸にもたらした変革」『北陸の玉と鉄　弥生王権の光と影』平成 17 年秋期特別展、大阪府立弥生文化博物館
真鍋成史 2003「鍛冶関連遺物」『考古資料大観』7、弥生・古墳時代　鉄・金銅製品、小学館
真鍋成史 2013「古墳時代中期における渡来系鍛冶技術の導入過程について――特に朝鮮半島西北部と畿内地域との関連を視野に入れて――」
宮本一夫 2012「北部九州の鉄器生産と流通」『一般社団法人日本考古学協会 2012 年度福岡大会研究発表資料集』日本考古学協会 2012 年度福岡大会実行委員会
村上恭通 1992a「吉野ヶ里遺跡における弥生時代の鉄製品」『吉野ヶ里』佐賀県文化財調査報告書第 113 集、佐賀県教育委員会
村上恭通 1992b「中九州における弥生時代鉄器の地域性」『考古学雑誌』第 77 巻第 3 号、日本考古学会
村上恭通 1992c「弥生鉄器の諸問題」『二子塚』熊本県文化財調査報告書第 117 集、熊本県教育委員会
村上恭通 1993「古墳時代の鉄器生産」『考古学ジャーナル』366、ニューサイエンス社
村上恭通 1994a「弥生時代中期以前の鋳造鉄斧」『先史学・考古学論究』龍田考古学会
村上恭通 1994b「弥生時代における鍛冶遺構の研究」『考古学研究』第 41 巻第 3 号、考古学研究会
村上恭通 1998『倭人と鉄の考古学』シリーズ日本史の中の考古学、青木書店
村上恭通 2000「鉄と社会変革をめぐる諸問題」『古墳時代像を見なおす―成立過程と社会変革』青木書店
村上恭通 2000b「古墳時代の開始と社会変革」『古墳時代像を見なおす―成立過程と社会変革』青木書店
村上恭通 2005「古墳時代の鉄器とその生産」『日本の考古学　下』ドイツ展記念概説､学生社（2007『日本の考古学　下』ドイツ展記念概説〈普及版〉、学生社
村上恭通 2007『古代国家成立過程と鉄器生産』青木書店
村上恭通 2009「塩鉄生産と地域社会――中･西部瀬戸内を中心として――」『季刊　考古学』第 106 号、古墳時代とは何か、雄山閣
村上恭通 2010「下扇原遺跡出土の鉄製品」『小野原遺跡群』熊本県文化財調査報告書第 257 集、熊本県教育委員会
村上恭通 2010b「鍛冶炉と作業姿勢―東アジアの鍛冶系譜に関する一考察―」『韓鍛冶と倭鍛冶―古墳時代における鍛冶工の系譜―』鍛冶研究会シンポジウム 2010、鍛冶研究会
村上恭通 2011a「弥生時代鍛冶遺構の諸問題～鍛冶炉構造を中心に～」『五斗長垣内遺跡発掘調査報告』淡路市埋蔵文化財調査報告書第 8 集、淡路市教育委員会
村上恭通 2011b「弥生時代の鉄文化」『弥生時代（上）』講座日本の考古学 5、青木書店
村上恭通 2012「⑥鉄鍛冶」『時代を支えた生産と技術』、古墳時代の考古学 5、同成社
村上恭通 2013「瀬戸内における弥生時代の鉄問題と鉄史観」『平成 25 年度瀬戸内考古学研究会　第 3 回公開大会　予稿集』瀬戸内考古学研究会

４，中原遺跡出土の鉄製品・鉄素材・鉄塊について

愛媛大学　村上恭通

（１）概要

中原遺跡より出土した鉄製品のうち、機能や性格が不明な鉄製品 13 点について調査の依頼を受け、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センターにおいて軟 X 線撮影、クリーニングを実施し、精査を行った（これらは本文Ⅶ章２の遺物と一部重複する。表 116 参照）。調査の結果、鋳造鉄斧、鉇を含む３点を除くと９点が長条形、不整形の鉄板、１点が大型鉄塊であることが判明した。９点の鉄板はいわゆる利器、刃器ではなく、鉄素材や鉄器生産中に生じた裁断片である。また大型の鉄塊は多量の鉄片が集積して形成されたものであることもわかった。

（２）調査成果

①工具（図２３１ - １～３）

１は鋳造鉄斧の刃部片である。両刃を呈し、破面には袋部の先端部が確認される。幅 7.5cm、残長 2.2cm、厚み 1.1cm である。２は鉇であり、刃部のある先端部を欠く。浅い裏すきが認められる。先端が裏すき側に反っており、反りを有する通例の鉇とは異なっている。残長 4.1cm、幅 1.5cm を測る。３は一見、鉇に類似するが、左右非対称形であること、横断面形の湾曲が深いことなどから鉇ではない。中九州・熊本で多く出土する船底形鉄器[(1)] に近い。全長 5.1cm、幅 2.0cm である。

②板状製品（図２３１ - ４～１０）

略長方形を呈する長条形鉄板６点（４～６、８、９ほか）と不整形の鉄板３点（７、10 ほか）とに大別できる。

長条形鉄板　小型品（４～６）と大型品（８、９）とに分けられる。小型品のうち４は両端の幅が異なるものの、左右対称形の整えられた鉄板である。全長 7.8cm、上端幅 1.9cm、下端幅 1.7cm を測る。５はほぼ長方形を呈する。全長 6.0cm、幅 2.2cm である。６は幅が一様ではなく、ねじれが認められ、一方の側縁部に折り曲げの痕跡が認められる。上端部の形状も直線的ではなく、下端部は湾曲している。全長 7.0cm、幅 1.9cm である。なお SH12027 より出土した全長約 3.0cm、幅約 2.0cm の長条形鉄板は崩壊が著しく、図、写真ともに掲載していない。

表116　鉄器一覧表

図	写真	器種	調査次数	遺構名	層位	時　　期	挿図番号
1	1	鋳造鉄斧	NAK-12	SH12036	上層	弥生終末（惣座０式）	160-6
2	2	鉇	NAK-12	SH12027	埋土	弥生後期後半（村徳永３式～千住２式）	－
3	3	船底形鉄器	NAK-12	SH12043	土層ベルト内	弥生後期前半新相（村徳永新～千住古）	158-1
4	4	長条形鉄板	NAK-12	SH12027	１層	弥生後期後半（村徳永３式～千住２式）	169-1
5	5	長条形鉄板	NAK-12	SH12027	－	弥生後期後半（村徳永３式～千住２式）	169-3
6	6	長条形鉄板	NAK-12	SH12035	１層下	弥生終末（惣座０式）	172-1
7	7	不整形鉄板	NAK-12	SH12035	土坑３	弥生終末（惣座０式）	173-6
8	10	長条形鉄板	NAK-12	SH12036	－	弥生終末（惣座０式）	167-2
9	11	長条形鉄板	NAK-12	SH12041	上層	弥生終末（惣座０式）	175-22
10	9	不整形鉄板	NAK-12	SH12035	１層下	弥生終末（惣座０式）	173-1
11	12	鉄塊	NAK-11	SH11204	上層	弥生後期後半～終末（千住式～惣座式）	－
－	8	不整形鉄板	NAK-12	SH12041	２層	弥生終末（惣座０式）	－
－	－	長条形鉄板	NAK-12	SH12027	－	弥生後期後半（村徳永３式～千住２式）	－

大型品はいずれも折損している。8 は残長 7.7cm、幅 4.3cm を測る。わずかに反りがあり、左右非対称である。左側側縁は上端部付近で、鍛打によるものと推測される膨らみが認められる。9 は上端部が広く、下端部が狭い。厚みは上端部に向けて薄くなっており、わずかな反りもある。残長 6.0cm、幅 3.4cm である。

不整形鉄板　7 は五角形を呈する。すべての側縁部に切断痕は認められない。全長 3.7cm、幅 2.4cm である。10 も略五角形であるが、わずかに湾曲する側縁が多い。左側縁がやや薄くなっている。全長 5.8cm、幅 3.4cm。このほか略五角形を呈する鉄板（写真 -8）がある。三辺は破面であり、旧状の復元は困難である。

③鉄塊（図２３１ - １１）

全長 22.5cm、幅 12.0cm、厚さ 3.3cm を測る板状の鉄塊である。表側は凹凸が著しく、裏面は小さなくぼみが認められるものの、表側に比較すると平坦である。表側の表面には、多様な形状、大きさの板状や棒状鉄製品が付着している様子を観察でき、鉄製品の破面も所々に確認できる（写真 -13 ～ 15）。多くの鉄製品が堆積して錆着し、それぞれの輪郭が錆の中に埋もれつつある過程を呈している。

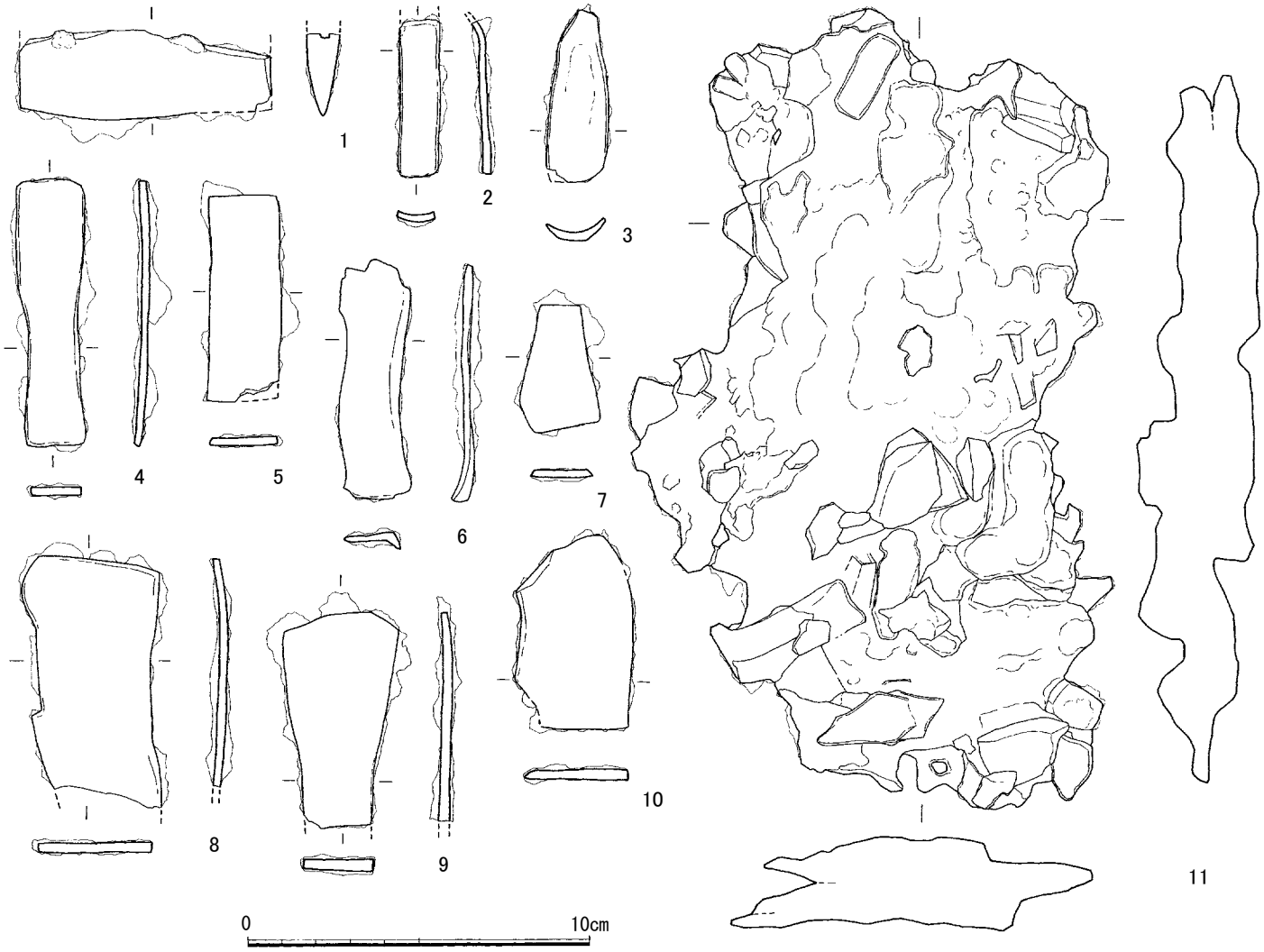


図231　中原遺跡出土鉄製品（1/2）

表側は錆膨れが顕著で、いわゆる赤錆の色を呈しているのに対し、裏側は錆膨れがなく、色調も光沢ある黒色を呈する部分も広い。この裏面の光沢・色調は水分に起因すると判断される。このような鉄片の錆着は水の中あるいは水際で起こることが多い。焼き入れなどの表面処理を含め、鉄器生産では水を使用する工程がある。鍛冶工房中に設置された底の平坦な水槽、土坑（砂丘遺跡なので粘土貼りか）中で、表面を上面に向けて堆積してできた鉄塊である可能性が想定される。

（3）まとめ

以上報告した鉄製品のうち、長条形鉄板は整形された鉄素材であると判断され、また不整形鉄板も素材かあるいは鉄器製作の過程で生じたものであろう。鉄塊は多様な鉄片が錆着してできたものである。これは弥生時代の例としては初めての発見であり、同時代の鉄器生産関連資料の中で最大である。その大きさはこの中原遺跡で行われた鉄器生産の潤沢さを裏付けるものであろう。本文中で報告された膨大な数量の鉄製品と合わせて注目に値する資料である。

【註】

1．村上恭通 2005「弥生時代鉄製工具における新器種とその分布」『考古論集　川越哲志　先生退官記念論文集』

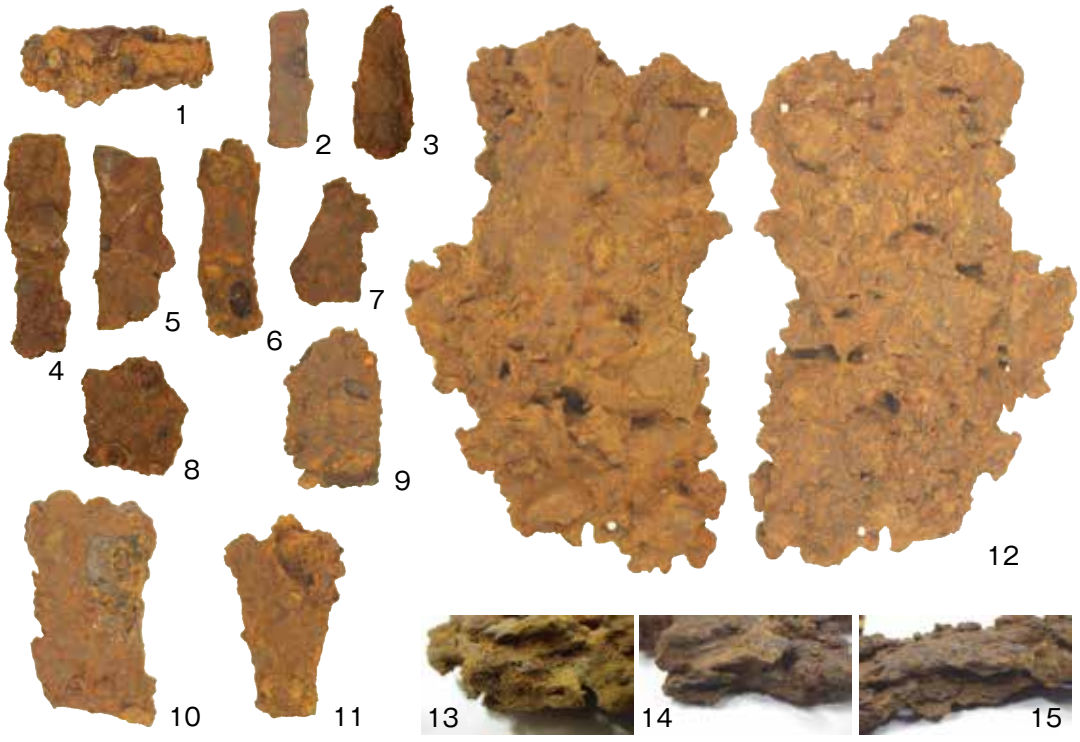


写真　中原遺跡出土鉄製品（13～15は12の部分写真）

報告書抄録

ふりがな	なかばる
書　　名	中原遺跡Ⅷ　9区・10区の調査と鍛冶関連遺物
副 書 名	西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書
巻　　次	15
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第203集
編著者名	小松譲・立石和也・服部瑞輝・吉野進一・伊達惇一朗・土屋了介・村上恭通
編集機関	佐賀県教育委員会
所 在 地	〒840-8570　佐賀市城内1丁目1番59号　TEL（0952）25-7232
発行年月日	西暦2014年3月20日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
中原（なかばる）遺跡	唐津（からつ）市 原字溜（はるためのうち）ノ内 ・西ノ畑（にしのはた）	412023	2146	33°24′57″ 36164	129°59′59″ 3893	平成13年 5月28日～ 平成17年 9月30日	25,860㎡ （本書掲載分）	西九州自動車道建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中原遺跡9区・10区・11区・12区・13区	集落	弥生 古墳 奈良	竪穴住居 掘立柱建物 土坑 溝 木組遺構 環状杭列 甕棺墓	弥生土器 土師器 須恵器 石器 石製品（碧玉製勾玉未製品・碧玉片） 青銅製品（鏡片・青銅製鋤先） 鍛冶関連遺物（鉄製品・鉄片・鉄滓・羽口）	・弥生時代後期後半～古墳時代前期の鍛冶関連遺物が多量に出土。鉄鏃・摘鎌などを生産、古墳時代は羽口を使用。 ・碧玉製勾玉未製品、碧玉片は花仙山産。

佐賀県文化財調査報告書第203集

中原遺跡Ⅷ

（第1分冊）

9区・10区の調査と鍛冶関連遺物

―西九州自動車道建設に係る文化財調査報告書（15）―

平成 26（2014）年 3 月 20 日

発行　佐賀県教育委員会

〒840-0041　佐賀県佐賀市城内1丁目1番59号

印刷　松浦印刷株式会社

〒849-1312　佐賀県鹿島市大字納富分2907-1

